Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-②　有形文化財の収集等

1-(1)-②-1　収蔵品一覧表　　（単位：件）　平成31年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		130,211	135	994	119,064	89	644	8,075	29	196	1,908	13	113	1,164	4	41
絵画		13,716	35	214	11,187	21	103	2,095	9	58	305	4	43	129	1	10
書跡		3,523	37	174	1,885	14	60	1,374	17	78	150	5	29	114	1	7
彫刻		1,436	1	49	1,112	0	24	149	0	3	150	1	16	25	0	6
建築		78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工		17,402	3	60	16,422	1	17	592	2	30	164	0	11	224	0	2
刀剣		3,489	21	57	3,463	19	57				16	0	0	10	2	0
陶磁		4,486	0	21	2,960	0	13	1,344	0	3	81	0	0	101	0	5
漆工		4,753	6	31	3,951	4	19	528	0	3	106	2	5	168	0	4
染織		4,863	2	28	3,772	0	20	952	1	7	94	1	1	45	0	0
考古		30,310	5	76	28,618	5	55	696	0	11	736	0	8	260	0	2
民族資料		1,375	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0
歴史資料		6,616	0	10	6,248	0	4	296	0	2	0	0	0	72	0	4
和書		17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		1,503	0	2	1,500	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	705	4	31	705	4	31									
	書跡	1,714	10	13	1,714	10	13									
	彫刻	808	0	20	808	0	20									
	金工	1,040	0	0	1,040	0	0									
	陶磁	3,056	0	11	3,056	0	11									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	609	0	1	609	0	1									
	考古	5,947	0	2	5,947	0	2									
	民族	3,554	0	0	3,554	0	0									
法隆寺献納宝物		323	11	184	323	11	184									
黒田記念館収蔵品		816	0	2	816	0	2									
準歴史資料(含和書)		0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-1（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成31年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森蘊資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3,184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,083箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35,479箱
平城宮・京出土瓦類	1,004,263箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
[都城発掘調査部(飛鳥･藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約36,614点
丸瓦・平瓦　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　整理箱	約39,995箱
土器　整理箱	約16,733箱
土製品	約15,056点
木器・木製品	約34,234点
木簡	約35,323点
建築部材	約2,990点
金属製品	約19,921点
石器・石製品	約14,454点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鐶座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鐶付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鰐淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財圀勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-② -2(参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5か年)

(単位:件) 平成31年3月31日現在

		平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	137,610	325	2,162	138,897	333	2,380	139,582	327	2,172	140,448	330	2,193	142,680	332	2,180
	東京国立博物館	119,332	143	890	120,004	142	892	120,267	143	894	120,569	144	903	122,194	144	897
	京都国立博物館	13,110	113	803	13,644	119	1,003	13,983	114	818	14,212	115	822	14,509	116	812
	奈良国立博物館	3,861	66	435	3,839	67	439	3,844	65	411	3,855	66	417	3,882	66	418
	九州国立博物館	1,307	3	34	1,410	5	46	1,488	5	49	1,812	5	51	2,095	6	53
収蔵品	国立博物館 計	125,766	130	954	126,872	131	963	127,455	132	983	128,208	134	997	130,211	135	994
	東京国立博物館	116,268	87	634	116,932	87	634	117,192	88	636	117,460	89	643	119,064	89	644
	京都国立博物館	7,109	27	180	7,532	28	183	7,794	28	198	7,977	29	202	8,075	29	196
	奈良国立博物館	1,877	13	111	1,883	13	112	1,886	13	112	1,893	13	113	1,908	13	113
	九州国立博物館	512	3	29	525	3	34	583	3	37	878	3	39	1,164	4	41
寄託品	国立博物館 計	11,844	195	1,208	12,025	202	1,417	12,127	195	1,189	12,240	196	1,196	12,469	197	1,186
	東京国立博物館	3,064	56	256	3,072	55	258	3,075	55	258	3,109	55	260	3,130	55	253
	京都国立博物館	6,001	86	623	6,112	91	820	6,189	86	620	6,235	86	620	6,434	87	616
	奈良国立博物館	1,984	53	324	1,956	54	327	1,958	52	299	1,962	53	304	1,974	53	305
	九州国立博物館	795	0	5	885	2	12	905	2	12	934	2	12	931	2	12

1-(1)-②-3 平成30年度新収品一覧表

（単位：件）　平成31年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	2,005			1,606			98			15			286		
計	154	348	1,503	31	72	1,503	12	86	0	6	9	0	105	181	0
絵画	8	22	0	1	11	0	3	8	0	2	2	0	2	1	0
書跡	3	50	0	1	9	0	0	5	0	1	2	0	1	34	0
彫刻	2	3	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	3	21	0	0	1	0	1	20	0	1	0	0	1	0	0
刀剣	1	0	0	0	0	0			0	0	0	0	1	0	0
陶磁	15	44	0	0	3	0	0	18	0	0	0	0	15	23	0
漆工	4	23	0	0	0	0	2	16	0	1	3	0	1	4	0
染織	30	21	0	23	3	0	1	16	0	0	1	0	6	1	0
考古	81	120	2	3	0	2	5	1	0	1	1	0	72	118	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	6	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1,500	0	0	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	15	0	0	15	0									
東洋 書跡	0	18	0	0	18	0									
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0									
東洋 金工	0	6	0	0	6	0									
東洋 陶磁	1	0	0	1	0	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	1	0	0	1	0									
東洋 考古	0	3	0	0	3	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	1									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,037			1,106			525			754			2,005		
小計	47	484	506	43	563	500	63	318	144	64	518	172	154	348	1,503
絵画	13	52	0	14	10	0	13	36	0	18	17	5	8	22	0
書跡	3	28	0	5	29	0	7	42	0	8	47	2	3	50	0
彫刻	3	1	0	0	2	0	1	3	0	5	2	0	2	3	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	5	71	0	5	48	0	1	32	0	3	253	8	3	21	0
刀剣	0	0	0	0	11	0	0	2	0	0	0	10	1	0	0
陶磁	0	86	0	5	211	0	6	143	0	10	123	5	15	44	0
漆工	8	162	0	3	135	0	2	7	0	2	12	93	4	23	0
染織	4	7	0	2	4	0	4	8	0	1	7	47	30	21	0
考古	5	12	0	0	11	0	4	6	4	11	18	2	81	120	2
民族資料	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	2	0	506	0	16	500	17	8	134	4	2	0	6	1	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,500
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	15	0
東洋 書跡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	18	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 金工	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
東洋 陶磁	0	0	0	0	5	0	1	0	0	2	2	0	1	0	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	4	0	0	8	2	0	6	0	0	0	0	0	0	1	0
東洋 考古	0	62	0	0	48	0	0	0	5	0	11	0	0	3	0
東洋 民族	0	1	0	0	22	0	0	27	0	0	21	0	0	0	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(1)-②-4 平成30年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計1,606件)

（１）購入（31件）

＜絵画＞（1件）

1 名称	山水図押絵貼屏風（さんすいずおしえばりびょうぶ）	品　質	絹本墨画淡彩
作者等	久隅守景（生没年不詳）筆	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	本紙　各縦100.3cm　横41.9cm　／総寸　各隻　縦161.0cm　横364.0cm
作品概要	紙本金地押絵貼、絹本墨画淡彩。屏風装。各扇に1図ずつ山水図を配した押絵貼屏風である。 各図は対角線を意識した構図を取り、画面上部三分の一ほどを余白として残す。その画風は夏珪あるいはそれを学習した雪舟、狩野元信などの室町水墨画の表現を継承しており、元信印山水図押絵貼屏風（フリア美術館蔵）などの作例が本図の前提にあったと考えられる。 本作の類例として、もともと屏風に貼られていた紙本の山水図（東京国立博物館、メトロポリタン美術館他分蔵）があるが、本屏風は12図全てがまとまって伝来しており、重要である。大画面形式の障壁画を除き、小画面の作例に絞って守景の山水図を見ると、本屏風は守景山水図の代表作として高く評価される。		

＜書跡＞（1件）

2 名称	和歌屏風（わかびょうぶ）	品　質	彩箋墨書
作者等		員　数	6曲1隻
時　代	安土桃山～江戸時代・16～17世紀	寸法等	縦146.7cm 横340.7cm
作品概要	屏風装。六曲一隻。金泥で雲が描かれた料紙に、藤原家隆作の和歌25首が散らし書きされている。筆者の伝称はないものの、近衛信尹が揮毫した可能性が高いものである。 万葉仮名（漢字）部分は、定家流を学んだとされる近衛信尹の書の特徴をとくによく表している。（万葉仮名を使うのも信尹の書の特徴の一つでもある）。仮名部分は「あ」「は」「み」「む」など近衛流（三藐院流）の特徴が顕著な文字もあるものの、全体としては近衛流の形成途中の時期を示している。「な」の最終画を横長の楕円形で書くことが、近衛流が確立して以降の特徴のひとつとして考えられるが、本屏風の「な」にはその特徴がみられない。年号の明らかな信尹の筆跡で確認すると、本屏風は、信尹が薩摩配流を許されて帰洛した慶長元年以降（信尹30代＊信尹が定家流の書風となったのも帰洛の頃）より信尹40代前半までに制作されたものと推測する。さらに言うならば、本屏風にみられる、少し右肩上がりで篇平な、左にはらう肉太の線と右にはらう細い筆線のバランスは、慶長3年（1598年、信輔34歳）頃制作の「総目録」（B-2865「調度手本」のうち）に近似している。 本屏風には、藤原家隆が詠んだ「為家卿家百首」より「恋二十五」の部の25首すべてが書写されている。「為家卿家百首」は、藤原（九条）基家が編纂した藤原家隆の家集『壬二集（みにしゅう）（または玉吟集）』（巻中）に収められている。近衛信尹の自筆日記『三藐院記』慶長四年分（一冊）の表紙の信尹自身による加筆により、『壬二集』を、信尹が所蔵していたことが確認できた。 近衛流（三藐院流）を継承するのは、養嗣子である信尋（後陽成天皇第四皇子、1599～1649）をはじめ、和久半左衛門（1578～1638）から鷹司教平（1609～68）まで約20名の名前があげられている（「本朝古今名公古筆書流」『万宝全書』元禄7年［1694］）。とくに信尋の書は、信尹の書と見分けがつかないともいわれるが、信尋真筆の書と比較したところ、とくに漢字部分が、信尹の漢字よりも洗練されていた。本屏風は、漢字部分に信尹の書の特徴がよく表れている上に、近衛流が未開花の状態にもかかわらず様式化していない良さがあることから、真似や模写ではなしえないものである。		

＜彫刻＞(1件)

3 名称	能面　増女（のうめん　ぞうおんな）	品　質	木造、彩色
作者等		員　数	1面
時　代	室町～安土桃山時代・16世紀	寸法等	縦21.1cm 幅13.2cm 奥行6.8cm 重さ154ｇ
作品概要	若い女の面。やや冷たい表情で品位の高さを感じさせる。天女や女神の役に用いられる。 髪際のおくれ毛が、中央から高眉辺まで２本、つぎに斜めに３本、その下は内側に太い毛１本、外側に細い毛２本をあらわす。 広葉樹材でやや重い。面裏は鑿の稜線を少し磨いてから茶色の透漆を塗る。		

＜染織＞(23件)

4 名称	上衣・括袴萌黄地向獅子丸龍卍蜀江文模様錦 （じょうい・くくりばかまもえぎじむかいじしがんりゅうまんじしょっこうもんもようにしき）	品　質	絹、表地：錦，裏地：白練緯
作者等		員　数	1具
時　代	江戸時代・17～18世紀	寸法等	上衣：丈103.0cm，肩幅66.4cm，袖幅47.5cm/括袴：丈90.0cm，前腰幅36.0cm，後腰幅31.2cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。本品は、中国風の蜀江文の様式をとりながら、沢瀉、蜻蛉など尚武を願う武家好みの模様、蜂須賀家の家紋である卍を織り出した和製の錦である。一見、鎧直垂に見えるが、腰紐が共裂である他、袴の形式が通常と異なるため、鎧直垂ではない。両肩・両袖に肩上げのための雷文金具が付く。袖括に紫丸組紐を一条通すほか、細手の紫丸組紐による上刺し、紺白橙の綏に組んだ細紐を袖口周囲にとめる。また、袖・袴・裾は紫地金糸経浮織で縁取られる。袴の腰紐前部分に「叶」升目、晴明紋、後部分に「大」の文字が白撚糸で縫われる。上衣に「操山様」「ち印／二ツノ内」、袴に「綱矩様」「ち印／二ツノ内」の紙縒り札が付く。第5代藩主蜂須賀綱矩（1661～1730）所用と伝わった装束である。		

5 名称	袖無革羽織白地薬玉模様 （そでなしかわばおりしろじくすだまもよう）	品　質	染革、描絵
作者等		員　数	1領
時　代	江戸時代・18～19世紀	寸法等	丈99.0cm，肩幅57.0cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。単仕立の袖無の革羽織である。一方を白くさらし、もう一方を紅色に染めたなめし革の白い方に端午の節供にちなんだ薬玉模様を描絵で表わす。衿には青緑地唐花唐草模様繻珍の掛衿が付く。胸の部分に羅紗で牡丹をかたどった留め具がつく。背切り込み、袖繰の部分に白地石畳文錦の縁取りが付く。「う印」の紙縒り札が付く。		

6 名称	袖無革羽織紅地竹雀図 （そでなしかわばおりべにじたけにすずめず）	品　質	染革、描絵
作者等		員　数	1領
時　代	江戸時代・18～19世紀	寸法等	丈98.2cm，肩幅56.2cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。単仕立の袖無の革羽織である。一方を白くさらし、もう一方を紅色に染めたなめし革の紅色の方に竹雀図を描く。衿には白地牡丹唐草模様繻珍の掛衿が付く。胸の部分に羅紗に丸に卍紋の入った釦が付いた留め具が付く。背切り込み、袖繰の部分に紅地石畳文錦の縁取りが付く。		

7　名称	革羽織白地牡丹孔雀図 （かわばおりしろじぼたんくじゃくず）	品　　質	革、描絵
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈97.0cm，肩幅62.2cm，袖幅30.8cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。袷仕立の革羽織である。白くさらしたなめし革に雌雄の孔雀と牡丹の図を描く。衿には黒ビロード地の掛衿が付く。袖口、背切り込み、裾周りに黒地石畳文錦の縁取りが付く。		

8　名称	肩当紅地葵破花菱亀甲模様 （かたあてべにじあおいやぶれはなびしきっこうもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：紅縮緬，縁：縮緬
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈14.6cm，総幅129.3cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。水浅葱・白・紅・黄・紫の五段の襞飾りをつけた華やかな肩当。腕先下部は割れ、紫丸打紐のツガリでつなぐ。胸前を留める釦には丸に卍紋が入る。「ゆ印」の紙縒り札が付く。		

9　名称	弓籠手紺地雲龍模様（ゆごてこんじうんりゅうもよう）	品　　質	絹、表地：錦，裏地：萌黄平絹
作 者 等		員　　数	1対
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈26.6cm，総幅77.0cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。弓籠手とは、弓矢を射る際に両腕あるいは弓手に着ける籠手である。四爪の龍と五彩の雲を織り出した中国製の錦で馬蹄袖に仕立てた弓籠手。萌黄平絹の裏地がつく。紫丸組紐の懸緒、袖口に手首の緒がつけられ、手首の緒には象牙の留め具がつく。筒の口には紺地経浮織の縁取りがある。「於印」の紙縒り札が付く。		

10　名称	弓籠手金地雲牡丹山茶花瑞鳥模様 （ゆごてきんじくもぼたんさざんかずいちょうもよう）	品　　質	絹、表地：綴織，裏地：萌黄平絹
作 者 等		員　　数	1具
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈52.5cm　総幅69.0cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。弓籠手とは、弓矢を射る際に両腕あるいは弓手に着ける籠手である。地の部分の緯糸に撚金糸を全面に織入れ、色彩鮮やかな色糸で、鳳凰、鶴、雉、牡丹、山茶花、霊芝、宝珠、福山壽濤文といった中国の吉祥模様を尽くした綴織で仕立てる。綴織の一部に孔雀羽が織り入れられていることや模様の特徴などから、中国産の緯絲であろう。裏地は萌黄平絹である。袖と胴をつなぐ部分には緑・白・紅・浅葱・紫の五色の撚糸で飾る。また、袖口、胴部の縁取りは、紺の経浮織による。手の甲にあたる部分に紺革の台に紫紐で中指懸の緒をつける。「く印」「五拾参」の紙縒り札がつく。		

11　名称	弓籠手黒天鵞絨地稲丸花丸模様 （ゆごてくろびろーどじいねのまるはなのまるもよう）	品　　質	絹、表地：紋天鵞絨，裏地：紅繻子
作 者 等		員　　数	1具
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈53.2cm，総幅67.4cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。弓籠手とは、弓矢を射る際に両腕あるいは弓手に着ける籠手である。撚金糸で花の丸模様と蜂須賀家の替紋である稲穂丸紋と撫子丸を組み合わせた模様を織り出した天鵞絨で仕立てられる。裏地は紅繻子である。花の丸模様には芭蕉・桔梗・躑躅・朝顔などがみられる。袖口、胴部の縁取りは、白地石畳模様錦による。手の甲にあたる部分に紺革の台に紫紐で中指懸の緒をつける。「さ印」の紙縒り札がつく。		

12　名称	弓籠手紅地桜折枝模様 （ゆごてべにじさくらおりえだもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：焦茶平絹
作 者 等		員　　数	1具
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈51.7cm，総幅66.0cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。弓籠手とは、弓矢を射る際に両腕あるいは弓手に着ける籠手である。桜折枝模様を織り出した繻珍を仕立てる。裏地は焦茶平絹である。袖口、胴部の縁取りは、焦茶経糸浮織による。手の甲にあたる部分に紺革の台に紫紐で中指懸の緒をつける。胸の懸緒には爪形菖蒲革が用いられる。		

13　名称	胴着黄色地鳥蝶模様（どうぎきいろじとりちょうもよう）	品　　質	表地：染革、描絵，裏地：青緑平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈100.0cm，肩幅64.7cm，袖幅31.2cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。繧繝色を用いて、蝶と笹に見立てた鳥を組み合わせた模様を描絵で表わす。壺袖に衽付きの垂領仕立。裏地には青緑平絹を用いる。「む印」の紙縒り札が付く。		

14　名称	胴着紫地松鳶図（どうぎむらさきじまつつたず）	品　　質	表地：染革、描絵，裏地：青緑平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈100.3cm，肩幅64.2cm，袖幅33.5cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。紫に染めたなめし革に鳶が垂れかかる老松の図を描く。青緑平絹の裏地がつく。壺袖に衽がついた垂領仕立。「ね印」「五拾」の紙縒り札が付く。		

15　名称	胴着白地扇面散図（どうぎしろじせんめんず）	品　　質	表地：革、描絵，裏地：青緑平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈96.0cm，肩幅68.5cm，袖幅29.8cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。前面に朝顔、獅子、菖蒲に百合、群鳥、美女図、墨竹図を描いた扇面、背面に沢瀉に雀、菊、秋草、波に入日を描いた扇面を散らした図が描かれる。裏地には青緑平絹を用いる。壺袖に衽がついた垂領仕立。「ら印」の紙縒り札が付く。		

16　名称	胴着紅地雲龍模様（どうぎべにじうんりゅうもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：青緑平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈102.5cm，肩幅60.7cm，袖幅31.5cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。平金糸、撚金糸を織り交ぜた雲龍模様の繻珍を用いて仕立てる。裏地は青緑平絹を用いる。壺袖に衽がついた垂領仕立。「ま印」の紙縒り札が付く。		

17　名称	胴着紅地芙蓉法相華唐草模様 （どうぎべにじふようほうそうげからくさもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：青緑平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈103.0cm，肩幅63.0cm，袖幅32.3cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。花唐草模様の繻珍を用いて仕立てる。裏地には青緑平絹を用いる。壺袖に衽がついた垂領仕立。「や印」「五拾一」の紙縒り札が付く。		

18　名称	胴着紅地円窓団扇地紙羽根模様 （どうぎべにじえんそううちわじがみはねもよう）	品　　質	絹、表地：錦，裏地：青緑平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈102.0cm，肩幅63.0cm，袖幅32.0cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。繻子地に円窓、団扇、地紙の模様と、羽子板の羽根の模様を散らした模様を金銀糸を通しで織り出した錦で仕立てる。裏地は青緑平絹を用いる。壺袖に衽がついた垂領仕立。「け印」の紙縒り札が付く。		

19　名称	裁着袴縹地橘樹垣図 （たっつけばかまはなだじきつじゅかきず）	品　　質	染革、描絵
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈112.0cm，腰幅前25.0cm，袴腰幅23.0cm，袴腰高7.5cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。裁着袴とは、膝から下の部分を細く仕立てて、活動しやすいようにした袴である。江戸時代中期頃より着用されるようになり、武士の旅装や武士道の訓練、奉公人の作業着や行商人の衣服として用いられた。表を縹色に裏を紅色に染めた革に橘の立木を片足ずつ、前面、背面に計４本描く。立木の根元から下には籠目状に垣を描く。また、袴腰には橘の折枝を描く。脚絆のふくらはぎ部分には切り込みがあり、紺地牡丹唐草文様金襴で縁取り、紫染革の紐が上下に１本づつ付く。また、切り込み部分には、象牙に黒漆塗りの釦を各３つづつとめる。腰紐も共革である。腰紐に「の印」「五十五」と書かれた紙縒り札がつく。		

20　名称	裁着袴白地槍梅図（たっつけばかましろじやりうめず）	品　　質	染革、描絵
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈105.7cm，腰幅前26.3cm，袴腰幅23.5cm，袴腰高8.3cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。裁着袴とは、膝から下の部分を細く仕立てて、活動しやすいようにした袴である。江戸時代中期頃より着用されるようになり、武士の旅装や武士道の訓練、奉公人の作業着や行商人の衣服として用いられた。裏を紅色に染めた革に梅の枝を足元から直立させた槍梅図を描く。脚絆部分は縹色に染めた革に紅と紺の縞で山道模様を描き、その間に唐草模様を描く。ひざ下に黄染革の紐を上刺しする。ふくらはぎ部分には切り込みがあり、萌黄地綾金襴で縁取る。また、象牙に黒漆塗りの釦をつける。腰紐も袴と共革である。腰紐に「ゐ印」と書かれた紙縒り札がつく。		

21　名称	平袴紅地胡蝶模様（ひらばかまべにじこちょうもよう）	品　　質	絹、精好地縫取織
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈97.0cm，腰幅前29.7cm，袴腰幅25.cm7，袴腰高8.6cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。平袴とは長袴に対し、裾が踝の上で切られている短い袴のことである。半袴、切袴、小袴とも称する。経糸が細く、緯糸が太い精好地に縫取織で蝶模様を表わした袴。腰紐は共裂である。腰紐に「こ印」の紙縒り札がつく。		

22　名称	野袴縹地流水桜模様 （のばかまはなだじりゅうすいさくらもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：繻子，裾：縮緬
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈96.5cm，腰幅前26.4cm，袴腰幅25.7cm，袴腰高8.2cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。野袴とは、武士が旅や乗馬の際に着用する切袴丈の袴である。経済力や身分に応じて、錦や緞子など華やかな織物で仕立てられ、裾にビロードや縮緬などで縁を付ける。縹繻子地に流水に桜模様を散らした繻珍で袴を仕立て、紅繻子の裏地が付く袷仕立である。裾には紫縮緬の縁がつく。袴腰の中央に白い糸で蜂須賀家の家紋である「丸卍紋」が織り出される。腰紐は共裂である。腰紐に「江印」と書かれた紙縒り札がつく。		

23　名称	野袴浅葱地流水桜模様 （のばかまあさぎじりゅうすいさくらもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：繻子，裾：縮緬
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈99.0cm，腰幅前27.2cm，袴腰幅25.8cm，袴腰高8.4cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。野袴とは、武士が旅や乗馬の際に着用する切袴丈の袴である。経済力や身分に応じて、錦や緞子など華やかな織物で仕立てられ、裾にビロードや縮緬などで縁を付ける。浅葱繻子地に流水に桜模様を散らした繻珍で袴を仕立、裏地に紅繻子を用いた袷仕立てである。裾には紫縮緬の縁がつく。袴腰の中央に白い糸で蜂須賀家の家紋である「丸卍紋」が織り出される。また、前腰の裏面中央に腰箆がつく。腰紐は共裂である。腰紐に「て印」と書かれた紙縒り札がつく。		

24　名称	野袴水浅葱地観世水紅葉模様 （のばかまみずあさぎじかんぜみずもみじもよう）	品　　質	絹、表地：綾地錦，裏地：繻子，裾：縮緬
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈94.3cm，前腰幅29.4cm，袴腰幅25.7cm，袴腰高8.7cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。野袴とは、武士が旅や乗馬の際に着用する切袴丈の袴である。経済力や身分に応じて、錦や緞子など華やかな織物で仕立てられ、裾にビロードや縮緬などで縁を付ける。綾地に観世水に紅葉が流れるいわゆる「龍田川」模様を表わした錦で袴を仕立て、裏地に紅繻子を用いた袷仕立である。裾には紫縮緬の縁がつく。腰紐は共裂である。腰紐に「を印」「四拾八」と書かれた紙縒り札がつく		

25　名称	野袴藤色地流水紅葉模様 （のばかまふじいろじりゅうすいもみじもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：繻子，裾：縮緬
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈100.0cm，腰幅前28.0cm，袴腰幅23.2cm，袴腰高8.5cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。野袴とは、武士が旅や乗馬の際に着用する切袴丈の袴である。経済力や身分に応じて、錦や緞子など華やかな織物で仕立てられ、裾にビロードや縮緬などで縁を付ける。藤色繻子地に流水に紅葉のいわゆる「龍田川」模様を散らした繻珍で袴を仕立て、裏地に紅繻子を用いた袷仕立である。裾には紫縮緬の縁がつく。袴腰の中央に白い糸で蜂須賀家の家紋である「丸卍紋」が織り出される。腰紐は共裂である。腰紐に「る印」と書かれた紙縒り札がつく。		

26　名称	野袴紅地笹立涌模様（のばかまべにじささたてわくもよう）	品　　質	絹、表地：繻珍，裏地：繻子，裾：縮緬
作 者 等		員　　数	1腰
時　　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	丈94.5cm，腰幅前30.6cm，袴腰幅27.7cm，袴腰幅9.1cm
作品概要	「阿州」「厩方」の朱書および卍紋の入った黒漆塗の長持の中に保管されていたことから、徳島藩蜂須賀家伝来であることが知られる。厩方で一括して23件の装束が保管されていたこと、また、稀に見る華やかな装束がそろっていることから、「犬追物」「流鏑馬」「打毬」「鷹狩」といった伝統行事のために特別に誂えられた可能性がある。野袴とは、武士が旅や乗馬の際に着用する切袴丈の袴である。経済力や身分に応じて、錦や緞子など華やかな織物で仕立てられ、裾にビロードや縮緬などで縁を付ける。紅繻子地に紺糸で立涌模様を、金糸で笹模様を織り出したいわゆる繻珍で袴を仕立て、裏地に萌黄繻子を用いた袷仕立である。裾には紫縮緬の縁がつく。袴腰の中央に金糸で蜂須賀家の替紋である「稲穂丸紋」が織り出される。腰紐は共裂である。腰紐に「あ印」「六拾」と書かれた紙縒り札がつく。		

＜考古＞（3件）

27　名称	石室寺経塚出土品（銅製経筒）（いしむろでらきょうづかしゅつどひん（どうせいきょうづつ））	品　　質	銅製
作 者 等	静岡県磐田市岩室廃寺出土	員　　数	1合
時　　代	平安時代・大治元年（1126）	寸 法 等	総高32.0cm 最大径19.0cm 底径16.5cm
作品概要	鋳造。宝珠形のつまみを有する被せ蓋と円筒状の筒身からなる。筒身にほぼ全周にわたり蹴彫による篭字で銘文が認められる。蓋の上面には本作品を覆っていたと考えられる甕の小破片が付着するほか、筒身下半および底部には経塚造営時に充填されたと考えられる木炭片が付着している。		

28　名称	石室寺経塚出土品（甕） （いしむろでらきょうづかしゅつどひん（かめ））	品　　質	陶製
作 者 等	静岡県磐田市岩室廃寺出土	員　　数	1口
時　　代	平安時代・大治元年（1126）	寸 法 等	高33.5cm 最大径34cm 底径18cm
作品概要	渥美窯産に比定。外に肥厚する口唇から短頸を経て胴上方で膨らむ。頸から胴部にかけて灰釉が斜めに流れ渥美窯に特徴的な白色粘土の器肌と相まって緑色の装飾を高めている。胴部には成形時に施された叩きによる格子目状の叩き痕が残されているほか、焼成時に付着した窯の壁体の一部が認められる。内面の底部付近には筋状に銅錆が認められるが、これは経筒を甕がさかさまの状態で覆っていたとされる発見時の状態を示していると考えられる。		

29　名称	石室寺経塚出土品（白磁合子） （いしむろでらきょうづかしゅつどひん（はくじごうす））	品　　質	白磁製
作 者 等	静岡県磐田市岩室廃寺出土	員　　数	1合
時　　代	平安時代・大治元年（1126）〔中国・北宋～南宋時代（12世紀）〕	寸 法 等	総高4.3cm 最大径7.6cm 底径6.2cm
作品概要	型抜きで作られた白磁製合子。蓋と身からなる。身には3本の蓮茎の間に小坏が付されている。		

＜歴史資料＞（1件）

30　名称	簠斎蔵封泥拓本冊（ほさいぞうふうでいたくほんさつ）	品　　質	紙本墨拓貼り込み冊
作 者 等		員　　数	6冊
時　　代	清時代～中華民国（19～20世紀）	寸 法 等	縦32.8cm　横22.0cm
作品概要	封泥1個の印面の拓本に「簠齋臧古封泥」の朱印を押した5～6cm四方の綿紙計358枚を、1冊あたり約60枚ずつ、計6冊の冊子に1葉に1枚ずつ貼り込んだもの。文字は書かれていない。拓本は『封泥攷略』の巻一、三～七、十掲載の「簠齋臧古封泥」に対応するものが355枚、巻一掲載の「雙虞壺齋封泥」に対応するものが1枚あり、2枚は『封泥攷略』未収品である。昭和10年(1935)に阿部房次郎氏により当館に寄贈された封泥と対比すると、当館所蔵封泥の拓本と認められるものが348枚あり、これには上記の『封泥攷略』に雙虞壺齋封泥とある1枚および『封泥攷略』未収の2枚が含まれる。 拓本の順序は、『封泥攷略』の順序と対応する部分もあるが、全体としては雑然としてしている。また成冊以降若干の冊が失われた可能性も考えらえる。		

＜東洋陶磁＞（1件）

31　名称	青花人物図面盆（せいかじんぶつずめんぼん）	品　　質	磁製
作 者 等	景徳鎮窯「大明万暦年製」銘	員　　数	1口
時　　代	明時代・万暦年間(1573～1620)	寸 法 等	高8.4cm　径37.4cm
作品概要	硬質白磁胎。稜花形の折れ縁の盤で、平底とする。素地は分厚く、表面の透明釉がところどころ剥がれていわゆる「虫喰い」を生じている。コバルトで底を除く内外に文様を表す。見込み中央に配された高士と侍者の図が主文様であり、同様の高士と侍者の図が内壁や縁にも繰り返し配される。コバルトの発色はやや黒みを帯びている。底は中央を残して露胎、中央の施釉部分に二重円内を設けて「大明万暦年製」青花楷書銘を施す。		

（１）寄贈（72件）

＜絵画＞(11件)

1　名称	鶴図（つるず）	品　　質	絹本着色
作 者 等	伝伊藤若冲（1716～1800）筆	員　　数	2幅
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙　各縦111.8cm 横49.0cm
作品概要	掛幅装、牙軸。各幅に、墨竹を背景に後ろを振り返る鶴と、松樹の上に立つ鶴を描く。本図の鶴の姿形は、伊藤若冲の旭日松鶴図（摘水軒記念文化振興財団蔵）に描かれた二羽に近く、他にも若冲筆の着色、水墨の作例に、近似する鶴を表わした作例が散見される。 技法においては、裏彩色を用いない羽毛の描き方が鸚鵡図（和歌山・草堂禅寺蔵）に通じる。 掛幅装、牙軸。各幅に、墨竹を背景に後ろを振り返る鶴と、松樹の上に立つ鶴を描く。本図の鶴の姿形は、伊藤若冲の旭日松鶴図（摘水軒記念文化振興財団蔵）に描かれた二羽に近く、他にも若冲筆の着色、水墨の作例に、近似する鶴を表わした作例が散見される。 技法においては、裏彩色を用いない羽毛の描き方が鸚鵡図（和歌山・草堂禅寺蔵）に通じる。 落款においては「平」の二画目が一画目から離れており、ほとんど類例を見ないが、例外的に初期の作とされる紫陽花白鶏図（個人蔵）のそれと近い。		

2　名称	白衣観音・山水図（びゃくえかんのん　さんすいず）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	狩野探幽（1602～74）筆	員　　数	3幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙（中幅）縦101.8cm 横29.6cm、（右幅）縦101.9cm 横29.7cm、(左幅)縦101.6cm 横29.7cm
作品概要	掛幅装、木軸。中央に白衣観音、左右にそれぞれ山水を配した三幅対。左右の山水と中幅の白衣観音の岩場は玉澗様の素早い筆致で描かれ、白衣観音も簡略な筆致ながら形態はきちんと捉えられている。署名印章から、法眼に叙された寛永15年（1638）より後、万治4年（1661）落款に年齢を入れるようになる以前までの作と推定される。		

3　名称	花鳥図（かちょうず）	品　　質	紙本着色
作 者 等	筆者不詳	員　　数	4曲1隻
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙　縦154.7cm　横358.2cm
作品概要	画面右から松に柳、椿に錦鶏、竹に流水、葦に白鷺を描いた一隻の屏風。落款はなく筆者は不詳であるが、狩野探幽により創始された、余白を多く用いて画面を構成する江戸狩野派のスタイルを引き継ぎ描かれている。引手跡があることから、もとは襖であったと推定される。		

4　名称	西王母図（せいおうぼず）	品　　質	紙本着色
作 者 等	筆者不詳	員　　数	2曲1隻
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙　縦154.7cm　横178.0cm
作品概要	屏風装。宮殿とみられる一角で侍女から桃を受け取る西王母を描いた作品。西王母は中国古代の神女で、漢の武帝に不老長寿の仙桃を与えた伝説があることから桃とともに描かれることが多い。短い線を繋げて描く樹木の描写など拙い部分も見受けられるが、探幽からさほど離れない時期の作品かと推定される。引手跡があることから、もとは襖であったと思われる。		

5　名称	琴高仙人図（きんこうせんにんず）	品　　質	紙本着色
作 者 等	筆者不詳	員　　数	4曲1隻
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙　縦154.7cm　横357.6cm
作品概要	屏風装。琴高仙人が鯉に乗って飛び去るのを仙人たちが見送る様子を描いた作品。琴高仙人は中国周代の仙人であり、琴の名手で鯉を巧みに乗りこなしたことで知られる。見送る仙人たちの中で、一番右の大きな瓢箪を持つ人物は、瓢箪から驢馬を出すとされた張果老、その左の杖を持つ人物は、片足が悪いとされる李鉄拐とみられる。 顔や衣文線には一部補筆がみられるが、余白を多く用いて画面を構成する本作は江戸狩野派の流れをくむものと位置付けられる。引き手跡があることから、もとは襖であったと推定される。		

6　名称	四季花鳥・唐人物図屏風 （しきかちょう　とうじんぶつずびょうぶ）	品　　質	紙本着色
作 者 等	筆者不詳	員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙　各縦94.4cm　右横353.8cm　左横354.8cm
作品概要	屏風装。右隻は、画面右から大きく伸びる梅の枝、その先にいる高士と鶴、童子が中心に描かれる。高士は、梅と鶴を愛して過ごしたとされる北宋の詩人、林和靖とみられる。他にも画面には椿、水仙に雉、たんぽぽ、土筆、燕子花に白鷺といった花鳥がともに描かれている。 左隻は、松や菊とともに高士と童子2人が描かれる。高士は菊を愛した東晋の詩人、陶淵明とみられる。その他、画面には芙蓉や小禽、尾長鳥なども描かれる。松をついばむ小禽の図様は、狩野元信の大仙院障壁画以来受け継がれた型であるが、本作はその作風から、時代の下る17～18世紀の狩野派絵師による作品と推定される。		

7　名称	山水図（さんすいず）	品　　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	野呂介石（1747～1828）筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・寛政5年（1793）	寸 法 等	本紙　縦35.0cm　横49.0cm
作品概要	掛幅装、木軸。画面右手に大きく主峰を描き、樹木や東屋、そして渓流のある風景を描いた山水図。介石の初期作品の特徴の一つとして、同じ和歌山出身の画家で介石より一歳年上の桑山玉洲（1746～99）からの影響が大きいことが挙げられるが、本作にもその影響が顕著に認められる。落款より寛政5年（1793）47歳の時に描いたことが判明する、初期作の貴重な作例である。		

8　名称	竹林書屋図（ちくりんしょおくず）	品　　質	紙本着色
作 者 等	野呂介石（1747～1828）筆	員　　数	2曲1隻
時　　代	江戸時代・寛政5年（1793）	寸 法 等	本紙　縦108.0cm　横172.7cm
作品概要	屏風装。竹林の中の家屋と数人の人物が描かれた2曲1隻の屏風。全体に画面のいたみがあり、図様が見えにくく色彩も褪色しているが、人物の衣服にはわずかに緑青が残り、画面にアクセントを加えていたことがわかる。竹には、中国 元末四大家の一人である倪瓚風の細やかな描写がみられる。落款により、介石47歳の作品と判明する。介石はこの作品が描かれたまさに寛政5年（1793）の7月10日に紀伊藩士として取り立てられており、その後に描かれた基準作として貴重な作例である。		

9　名称	倣董北苑山水図（ほうとうほくえんさんすいず）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	野呂介石（1747～1828）筆	員　　数	2幅
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙　右縦45.3cm　横82.5cm、左縦43.3cm　横82.3cm
作品概要	掛幅装、牙軸。大きく聳える山々と、その山間の風景を描いた2幅対。同じ和歌山出身の画家で介石より1歳年上の桑山玉洲（1746～99）からの影響が顕著に認められることから、寛政年間（1789～1801）の初めに制作された介石の初期作品と推定される。落款に書かれた董北苑とは、中国・五代宋初を代表する山水画家 董源のこと。現存する董源の伝称作品とは画風の隔たりがあるが、介石の寛政年間における中国絵画学習の一端を知ることのできる貴重な作例である。引手跡があることから、もとは小襖だったと想定される。		

10　名称	青緑山水図（せいりょくさんすいず）	品　　質	紙本着色
作 者 等	野呂介石（1747～1828）筆	員　　数	1面
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙　縦44.5cm　横88.0cm
作品概要	額装。横長の画面に山々がそびえ、山間には東屋もみえる山水の景。欄間にかけられていたことから色彩の褪色が激しいが、山や岩にはわずかに緑青が確認できることから、当初は青緑山水として制作したものとみえる。筆者については、破損のため落款が「第」しか判読できないが、画風から「第五隆」と号した和歌山出身の文人画家 野呂介石と考えられる。また、画風には同じ和歌山出身の画家で介石より1歳年上の桑山玉洲（1746～99）からの影響が認められることから、寛政年間（1789～1801）の初めに制作された介石の初期作品と推定される。引手跡があることから、もとは小襖であったと思われる。		

11　名称	近衛家熙像（模本）（このえいえひろぞうもほん）	品　　質	紙本着色
作 者 等	筆者不詳	員　　数	1幅
時　　代	明治34年(1901)	寸 法 等	本紙　縦86.2cm 横33.6cm、総寸　縦174.3cm　横46.5cm、軸長52.5cm
作品概要	掛幅装。塗軸。本図は、重要文化財「近衛予楽院像」（京都・三時知恩寺所蔵）の模本である。画面上部には、近衛家熙（1667～1736）と親交の深かった黄檗僧・百拙元養（1668～1749）の賛および印章3顆が、三時知恩寺本に忠実に書き写されている。図像も原本に倣い、無地の背景に高麗縁上畳に座す朱地に近衛牡丹文の袈裟を付けた家熙を表わす。緑の衣や赤い扇のグラデーションは、原本よりも強調されている。三時知恩寺門跡であった娘の尊融が、家熙四十九日忌にあたって、父の形見の袍の袖を裂き、その絹に肖像を描かせたという原本をよく伝える模写本である。なお、家熙像としては、三時知恩寺本のほか、家熙八男の大覚寺門跡・寛深が模写した陽明文庫本、近衛家菩提寺で三回忌以降の家熙の法要を行なった西王寺本の3点が知られる。		

＜書跡＞(9件)

12　名称	詩歌屏風（しいかびょうぶ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	春深房道朝（?～1676）筆	員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	各扇（右隻）　縦128.7cm 横51.6cm、（左隻）　縦172.0cm 横63.6cm
作品概要	屏風装。表野家では「銀屏風」と呼ばれていた。6曲1双のうち右隻には漢語・漢詩を、左隻には和歌を書写する。筆者の春深は大師流の書で著名だが、仮名部分には近衛流（三藐院流）の影響もみえる。		

13　名称	額字「富禮」（がくじ　ふれい）	品　　質	紙本搨模
作 者 等	春深房道朝（?～1676）模	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦27.4cm 横50.8cm
作品概要	掛幅装。表野家に今でもかかっている額字の写し。		

14　名称	岳陽楼記（がくようろうのき）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	雲外筆	員　　数	12幅
時　　代	江戸～明治時代・19世紀	寸 法 等	本紙各 縦135.5cm 横54.4cm
作品概要	掛幅装。もとは6曲1双の屏風だった。「岳陽楼記」は『古文真宝』に収められており、江戸時代の儒者や文人が好んで揮毫している。		

15　名称	和歌詠草（わかえいそう）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	加藤枝直（1692～1785）筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙 縦33.0cm 横47.0cm
作品概要	折紙を半裁して仕立て直したものか。姉から送られた歌とそれに対する返歌１首に続けて、「静見花」「谷花」「馬上見花」「樹陰夏来」「故郷橘」「竹亭夏月」「江上蛍飛」「晩風如秋」「述懐」の９首を記す。枝直の姉は、名をマキと言い宝暦３年（1753）に死去している。		

16　名称	短冊及び書状　牧忠右衛門宛 （たんざくおよびしょじょう まきちゅうえもんあて）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	加藤枝直（1692～1785）筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・安永8年(1779)	寸 法 等	書状本紙 縦16.4cm 横44.4cm、短冊 縦17.9cm 横2.8cm
作品概要	和歌１首を記した藍打曇の短冊と牧忠右衛門宛の書状１通を合装する。和歌及び書状の両方に枝直が八十八歳である旨の記述があり、安永8年(1779)の作と知られる。		

17 名称	書状　牧忠右衛門宛（しょじょう まきちゅうえもんあて）	品　質	紙本墨書
作者等	加藤千蔭（1735～1808）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	本紙 縦13.9cm 横58.0cm
作品概要	牧忠右衛門清由に対し、千蔭が新春の挨拶を述べた正月十一日付の書状。本文中に「老父大病ニ御座候処」云々とあるので、天明５年以前の枝直在世中の発信と推定される。		

18 名称	書状　牧忠右衛門宛（しょじょうまきちゅうえもんあて）	品　質	紙本墨書
作者等	加藤千蔭（1735～1808）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	本紙 縦15.0cm 横40.5cm
作品概要	牧忠右衛門清由に宛てた正月二日付の挨拶状。本文中に「旧臘も不相替御用多キ相勤」云々とあることから、幕府の役職を辞する天明８年以前であることがわかる。		

19 名称	和歌詠草短冊（わかえいそうたんざく）	品　質	彩箋墨書
作者等	加藤枝直（1692～1785）、加藤千蔭（1735～1808）筆	員　数	1幅（3枚）
時　代	江戸時代・19世紀	寸法等	短冊1 縦34.5cm 横5.8cm、短冊2 縦35.8cm 横5.5cm、短冊3 縦35.9cm 横5.5cm
作品概要	和歌を記した短冊３枚（枝直２枚、千蔭１枚）を合装する。		

20 名称	桜図画賛（さくらずがさん）	品　質	絹本墨書、着色
作者等	加藤千蔭（1735～1808）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・18～19世紀	寸法等	本紙 縦89.3cm 横25.8cm
作品概要	咲きかけた桜の枝を描いた図の上部に、和歌一首を書く。		

＜彫刻＞(2件)

21 名称	阿弥陀如来立像（あみだにょらいりゅうぞう）	品　質	木造、漆箔、玉眼
作者等		員　数	1躯
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	像高52.5cm 髪際高48.5cm 総高89.0cm
作品概要	頭髪を螺髪とし、白毫相、三道相を表す。耳朶は環状とする。左肩から右脇にかけて袈裟をまとい、右肩に覆肩衣をつける。袈裟の初重と二重目および覆肩衣は一段折り返す。裙をつける。左手は垂下し、掌を仰いで第一、二指を捻じ、右手は屈臂して第一、二指を捻じ、来迎印を結ぶ。両足を揃えて蓮華座に直立する。ヒノキ材製の一木造で、頭体幹部を一材から彫り出し、内刳りを施さない。面部で割り矧ぎ、玉眼を嵌入するとみられる。両手首先および両足枘に別材を矧ぐ。		

22 名称	舞楽面 陵王（ぶがくめん りょうおう）	品　質	木造、彩色
作者等		員　数	1面
時　代	明治時代・19～20世紀	寸法等	面長28.0cm 面幅20.0cm 面厚14.3cm
作品概要	両目を見開き、開口する。髪を逆立て、頭上に龍をいただく。木造に彩色仕上げとし、面裏に朱彩を施す。別材製の両目を釘打ちして留める。顎は吊顎とする。全体に古色仕上げを施す。		

＜金工＞（1件）

23 名称	枡（ます）	品　質	杉材
作者等		員　数	1口
時　代	江戸時代・17～19世紀	寸法等	方17.3cm　方（内法）14.9cm　高8.6cm 深8.0cm　厚1.2cm
作品概要	江戸時代の一升枡（方四寸九分、深二寸七分）。両端を相欠にした杉板４材を方形に組み底板を当て釘で打って枡形に造る。口縁には別材を廻して釘で打つ。側面２箇所、底裏２箇所に宝珠形の焼印を押す。		

＜陶磁＞（3件）

24 名称	三耳壺（さんじこ）	品　質	陶製
作者等	備前	員　数	1口
時　代	室町時代・15～16世紀	寸法等	高30.1cm 口径11.9cm 胴径25.0cm 底径14.8cm
作品概要	鉄分を含む炻器質胎、粘土紐輪積み成形の壺。肩が張り、胴裾に向かって窄まり、平底である。短い頸部がやや外反して立ち上がり、口縁は玉縁状をなす。肩の三方に横耳が付く。底裏に「个」の窯印が刻まれている。		

25 名称	緋襷向付（ひだすきむこうづけ）	品　質	陶製
作者等	備前	員　数	5客
時　代	安土桃山～江戸時代・16～17世紀	寸法等	高4.2cm-4.6cm 最大径11.8cm-12.5cm 底径5.3cm-5.8cm
作品概要	鉄分を含んだ炻器質胎、擂鉢を象った向付。片口形で口縁はやや内傾し、平底である。内面に摺り目が刻まれている。窯詰めの際に製品同士の溶着を防ぐために間に入れた藁のアルカリ分土の成分が化学反応を起こし緋色に発色した、いわゆる緋襷が内外面に生じている。		

26 名称	染付龍涛文壺（そめつけりゅうとうもんつぼ）	品　質	磁製
作者等	初代宮川香山（1842～1916）作	員　数	1合
時　代	明治～大正時代・19～20世紀	寸法等	高60.5cm　口径15.7cm　高台径17.0cm
作品概要	硬質白磁胎。宝珠形の鈕がある蓋付きの壺。濃厚な発色のコバルトで、身には五爪の龍三頭を配し、肩に雲文、裾に波涛を描く。蓋の形状と同じ扁平の段が二つ、身の頸部に設けられ、蓋をすると合わせて三段、相輪を重ねたようにみえる。これらの側面には牡丹獅子文を配する。底に「真葛窯香山製」染付銘。		

＜染織＞（3件）

27　名称	花簪・びらびら簪（はなかんざし・びらびらかんざし）	品　質	鼈甲、ガラス
作 者 等		員　数	1式
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	花簪 長さ18.5cm ; びらびら簪（竹梅文） 長さ17.0cm ; びらびら簪（松梅文） 長さ15.5cm
作品概要	花簪1個、びらびら簪2組（各2本）で一式となる髪飾りである。花簪は髷を結った正面に立てるように刺す簪である。また、びらびら簪は、長い垂れ飾りを複数下げて、歩くとびらびらと揺れ動く特徴がある。この一式の簪は、すべて、鼈甲細工に珊瑚色の色ガラスで飾られている。花簪は老松に梅花をデザインし、細かい垂れ飾りがつく。びらびら簪は2種あり、1組は梅花と竹を提灯型にあしらい、梅花形の小さな飾りを連ねた長さ10cmほどのびらびら（垂れ飾り）をつける。もう1組は、扇の上に梅花を入れた花籠を載せ、棒状のびらびら（垂れ飾り）をつける。吉祥文をあしらった鼈甲製の簪の一式は、婚礼に用いられたものと考えられる。		

28　名称	櫛・笄　草花文螺鈿蒔絵 （くし・こうがい　くさばなもんらでんまきえ）	品　質	木地黒漆塗、螺鈿、蒔絵
作 者 等		員　数	1組
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	櫛 高5.5cm 幅9.5cm ; 笄 長15.5cm 幅1.3cm
作品概要	幕末における典型的な櫛と笄のセットである。武家あるいは裕福な婦女が髷を結う際に使用する櫛と笄である。木地に黒漆を塗り、蒔絵、螺鈿で草花文を装飾する。安政5年（1859）に亡くなった祖先のものという伝来とともに伝わった。		

29　名称	雛人形及び雛道具	品　質	雛人形：木・胡粉・絹ほか、雛道具：木・漆・金・銀ほか
作 者 等		員　数	1式（82点）
時　代	安政7年(1860)ほか	寸 法 等	
作品概要	雛道具収納の長持蓋裏に「安政七年庚申三月造立　雛諸道具」との墨書があり、江戸時代に江戸の地において制作された雛飾り一式として極めて貴重な作品である。なかでも、池之端に存在した高級玩具商「七澤屋」の雛道具一式がオリジナルの収納箱とともに伝来していることは特筆に値する。		

＜東洋絵画＞（15件）

30　名称	明賢集扇帖（めいけんしゅうせんじょう）	品　質	金箋墨書ほか
作 者 等	倪元璐（1593～1644）筆ほか	員　数	1冊（10面）
時　代	明～清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦16.5cm 横51.3cm　ほか
作品概要	冊頁装。詩文を書く書5面、山水、人物などを描く画5面の計10面から成る。①草書七言律詩扇面（倪元璐）②観泉図扇面（王建章）③蘭亭修禊図扇面（同前）④行書五言律詩二首扇面（黄道周）⑤山水図扇面（祁豸佳）⑥草書臨王羲之帖扇面（傅山）⑦山水図扇面（藍瑛）⑧行書七言律詩扇面（楊文聰）⑨草書七言律詩扇面（張瑞図）⑩墨蘭図扇面（王鐸）		

31　名称	牡丹図扇面（ぼたんずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	呉熙載（1799～1870）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦17.7cm 横51.8cm
作品概要	扇面台紙貼。輪郭線を用いない没骨画法で紅色の牡丹を描く。		

32　名称	書画合璧団扇（しょががっぺきだんせん）	品　質	絹本墨画淡彩、絹本墨書
作 者 等	陸薇鏡、楊峴（1819～96）、楊靖筆	員　数	2面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	各 縦26.3cm 横27.9cm
作品概要	団扇台紙貼。「石声大人」なる人物のために、楊峴と楊靖が書し、陸薇鏡が戴熙（1801～1860、諡・文節）に倣って山水図を描く。		

33　名称	遊魚図扇面（ゆうぎょずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	虚谷（1821～96）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦18.7cm 横51.8cm
作品概要	扇面台紙貼。柳の下を泳ぐ3匹の魚を描く。		

34　名称	秋山蕭寺図扇面（しゅうざんしょうじずせんめん）	品　質	金箋墨画
作 者 等	胡公寿（1823～86）筆	員　数	1面
時　代	清時代・同治4年（1865）	寸 法 等	縦20.0cm 横57.0cm
作品概要	扇面台紙貼。水気を多く含んだ粗放な筆致で山水を描く。		

35　名称	柘榴図扇面（ざくろずせんめん）	品　質	紙本着色
作 者 等	趙之謙（1829～84）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦18.6cm 横53.4cm
作品概要	扇面台紙貼。輪郭線を用いない没骨画法で柘榴の実と葉を描く。		

36　名称	人物図扇面（じんぶつずせんめん）	品　質	紙本着色
作 者 等	銭慧安（1833～1911）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦18.5cm 横53.7cm
作品概要	扇面台紙貼。輪郭線を用いない没骨画法で柘榴の実と葉を描く。		

37　名称	蘭亭修禊図扇面（らんていしゅうけいずせんめん）	品　質	絹本墨画淡彩
作 者 等	銭慧安（1833～1911）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒13年（1887）	寸 法 等	縦18.5cm 横52.0cm
作品概要	扇面台紙貼。王羲之の催した蘭亭の雅会に集った文人たちを精緻に描く。陳淳（1483～1544、号・白陽山人）に倣ったという。		

38 名称	山水図扇面（さんすいずせんめん）	品　質	金箋墨画
作 者 等	蒲華（1834～1911）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒25年（1899）	寸 法 等	縦18.0cm 横51.3cm
作品概要	扇面台紙貼。水気を多く含んだ粗放な筆致で山水を描く。		

39 名称	山水図扇面（さんすいずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	呉大澂（1835～1902）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒18年（1892）	寸 法 等	縦17.2cm 横51.7cm
作品概要	扇面台紙貼。清時代の正統文人画風で山水を描き、自題で董源・巨然・荊浩・関同ら五代の山水画家たちの絵画史的意義を論じる。		

40 名称	焚香誥天図扇面（ふんこうこうてんずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	任頤（1840～96）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒11年（1885）	寸 法 等	縦17.2cm 横52.0cm
作品概要	扇面台紙貼。香を焚いて天を祭る高士を描く。		

41 名称	山水人物図扇面（さんすいじんぶつずせんめん）	品　質	金箋墨画淡彩
作 者 等	任頤（1840～96）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒14年（1888）	寸 法 等	縦17.2cm 横50.9cm
作品概要	扇面台紙貼。舟遊する2人の高士と白髪の従者を描く。		

42 名称	神嬰図扇面（しんえいずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	任頤（1840～96）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦19.0cm 横51.6cm
作品概要	扇面台紙貼。姜石農なる人物の、聡明だという孫を、唐寅（1470～1520）の画風に倣って描く。蘇州博物館に同主題の掛軸作品がある。		

43 名称	草虫図扇面（そうちゅうずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	斉白石（1864～1957）筆	員　数	1面
時　代	中華民国・20世紀	寸 法 等	縦17.3cm 横51.4cm
作品概要	扇面台紙貼。精緻な筆遣いでバッタを描き、粗放な筆遣いによる朝顔を添える。		

44 名称	仕女図扇面（しじょずせんめん）	品　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	仲光勲（1883～1930）筆	員　数	1面
時　代	中華民国10年（1921）	寸 法 等	縦19.2cm 横52.2cm
作品概要	扇面台紙貼。春、桃花の咲く川辺で洗濯をする美人を、清時代末期に流行した優雅な筆致で描く。		

＜東洋書跡＞(18件)

45 名称	隷書老子一節扇面（れいしょろうしいっせつせんめん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	楊峴（1819～96）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦20.0cm 横57.3cm
作品概要	扇面台紙貼。『老子』第66章の一節を隷書で書く。		

46 名称	篆書法言一節扇面（てんしょほうげんいっせつせんめん）	品　質	金箋墨書
作 者 等	胡澍（1825～1872）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦19.3cm 横54.5cm
作品概要	扇面台紙貼。揚雄『法言』学行篇の一節を篆書で書く。		

47 名称	隷書八言聯（れいしょはちごんれん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	徐三庚（1826～90）筆	員　数	2幅
時　代	清時代・光緒6年（1880）	寸 法 等	各 縦127.4cm 横24.0cm
作品概要	対聯、軸装。延陵季子碑と武梁祠堂に関する八言の対句を隷書で書く。		

48 名称	楷書八言聯（かいしょはちごんれん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	趙之謙（1829～84）筆	員　数	2幅
時　代	清時代・同治4年（1865）	寸 法 等	各 縦188.0cm 横36.0cm
作品概要	対聯、軸装。王羲之『蘭亭序』より文字を集めた八言の対句を楷書で書く。		

49 名称	行書七言律詩扇面（ぎょうしょしちごんりっしせんめん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	趙之謙（1829～84）筆	員　数	1面
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	縦18.1cm 横51.2cm
作品概要	扇面台紙貼。春の情景を詠う七言律詩を行書で書く。		

50 名称	草書七言古詩扇面（そうしょしちごんこしせんめん）	品　質	金箋墨書
作 者 等	呉昌碩（1844～1927）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒12年（1886）	寸 法 等	縦18.0cm 横51.9cm
作品概要	扇面台紙貼。沈石友の梅の画のための七言古詩を書く。		

51　名称	臨石鼓文扇面（りんせっこぶんせんめん）	品　質	金箋墨書
作 者 等	呉昌碩（1844～1927）筆	員　数	1面
時　代	清時代・光緒26年（1900）	寸 法 等	縦16.4cm 横52.9cm
作品概要	扇面台紙貼。「石鼓文」第3鼓（田車）の一節を臨書する。		

52　名称	篆書集石鼓字聯（てんしょしゅうせっこじれん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	呉昌碩（1844～1927）筆	員　数	2幅
時　代	清時代～中華民国・19～20世紀	寸 法 等	各 縦130.0cm 横21.0cm
作品概要	対聯、軸装。「石鼓文」より集字して七言の対句を書く。		

53　名称	雲龍端渓石長方硯（うんりゅうたんけいせきちょうほうけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	明時代・16～17世紀	寸 法 等	縦22.4cm　横16.2cm　高3.0cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形を長方形に作り、矩形の硯面を設け、硯池に雲気および二頭の龍の顔貌を浅く彫り表わし、裏面全体に雲気を彫り表わす。表面に端渓石の特徴のひとつである虫蛀（ちゅうしゅ）という虫食がある。		

54　名称	雲龍端渓石硯（うんりゅうたんけいせきけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	明～清時代・17世紀	寸 法 等	縦23.0cm　横14.2cm　高7.4cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形を長方形に作り、矩形の硯面を設け、硯池に雲気および二頭の龍を彫刻し、縁に波涛文を線刻する。硯背に「宮中之宝」の碑文を背負った亀趺を彫刻する。		

55　名称	端渓石隋円硯（たんけいせきだえんけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	清時代・18世紀	寸 法 等	縦17.0cm　横11.0cm　高5.0cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形を楕円形に作り、同じく楕円形の硯面を設ける。底部に縁足をめぐらせる。		

56　名称	端渓石荷葉形硯（たんけいせきかようけいけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	清時代・18世紀	寸 法 等	縦21.5cm　横18.5cm　高3.5cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形を荷葉（蓮葉）の形に作り、裏面に葉脈を彫り表わす象形硯。表面には端渓石の特徴のひとつである虫蛀（ちゅうしゅ）という虫食がある。		

57　名称	鐘澄泥石長方硯（かねちょうでいせきちょうほうけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	清時代・18世紀	寸 法 等	縦17.2cm　横11.2cm　高2.7cm
作品概要	江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。器形を長方形に作り、鐘形の硯面を設け、底部に薄い縁足をめぐらせる。		

58　名称	結縄澄泥石長方硯 （けつじょうちょうでいせきちょうほうけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	清時代・18世紀	寸 法 等	縦14.5cm　横9.0cm　高1.5cm
作品概要	江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。器形を長方形に作り、矩形の硯面を設け、硯堂に結縄を彫り表わし、底部に薄い縁足をめぐらせる。		

59　名称	臥牛端渓石長方硯（がぎゅうたんけいせきちょうほうけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	清時代・19～20世紀	寸 法 等	縦18.0cm　横11.8cm　高3.0cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形を長方形に作り、矩形の硯面を設け、硯池には脚を折り畳んで臥せる牛を彫刻する。裏面に薄い縁足をめぐらせる。裏面には端渓石の特徴のひとつである胭脂火捺という石紋が出ている。		

60　名称	梧桐鳳凰澄泥石天然硯 （ごとうほうおうちょうでいせきてんねんけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	清時代・19～20世紀	寸 法 等	縦16.8cm　横22.0cm　高3.0cm
作品概要	江蘇省蘇州市の西方の霊岩山で採取される澄泥石を加工した硯。器形は石材の自然な形状を生かす天然硯と称される形式であり、硯額に鳳凰と梧桐を彫刻する。硯背に「神／島九／霄中来／儀萬古／同□□琴／瑟好擇／木只梧桐／乙酉秋仲／漁仙」の刻銘がある。		

61　名称	瓦形端渓石抄手硯（がけいたんけいせきしょうしゅけん）	品　質	石製
作 者 等		員　数	1面
時　代	清時代・19～20世紀	寸 法 等	縦16.6cm　横10.0cm　高8.0cm
作品概要	広東省西方の端渓で採取される端渓石を加工した硯。器形は丸瓦形に作り、硯背を刳り、左右硯側を壁状の墻足とする抄手硯と称される形式である。硯額に「其色湿潤／其製古朴／何以致之／石渠秘閣／永宜宝之／書香是求」の銘文を刻み、硯背に「宝蔵」印と「元符三年／仲秋佳製」銘を刻む（元符三年は北宋の1100年）。宋時代に漢の未央宮の瓦を硯に転用することがあり、その事例に因んだものと推察される。		

62　名称	桃形紅糸石硯（ももがたこうしせきけん）	品　　質	石製
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	中華民国時代・20世紀	寸 法 等	縦12.5cm　横15.0cm　高2.3cm
作品概要	山東省青州付近で採取される紅糸石を加工した硯。紅糸石の石質は、赤味をおびた黄色で、紅色の刷毛目状の文様が出る風合いをしており、古くから名石として名高い。器形を桃実の形に作り、上部に枝葉で囲まれた硯池を設ける。		

＜東洋金工＞(6件)

63　名称	ヘーヴァジュラ曼荼羅型（ヘーヴァジュラまんだらがた）	品　　質	青銅鋳造
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	アンコール時代・12～13世紀	寸 法 等	高18.2cm
作品概要	磚仏を製作するための押し型。型は祠堂の形をなす。祠堂の屋根に当たる部分の再上層の中央にナーガ上のブッダ、その左右に坐像2尊、その下に各種の尊像が3尊、5尊、7尊と続く。屋根の柱が2本立ち、その間にヘーヴァジュラ曼荼羅を配置する。ヘーヴァジュラ曼荼羅は円形の中央にヘーヴァジュラ（呼金剛あるいは喜金剛）を、その周囲に尊像8尊を表す。型の裏側にはS字状の把手を付ける。		

64　名称	仏三尊像型（ぶつさんぞんぞうがた）	品　　質	青銅鋳造
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	アンコール時代・12～13世紀	寸 法 等	高11.1cm
作品概要	磚仏を製作するための型。型は花弁の形をなし、中央にナーガ上のブッダ、右にプラジュニャーパーラミター（般若波羅蜜多菩薩）、左に四臂のロケシュヴァラ（観音菩薩）を配置する。12世紀末から13世紀初めのバイヨン様式に位置づけられる。		

65　名称	ガルダ形飾り金具（ガルダがたかざりかなぐ）	品　　質	青銅鋳造
作 者 等		員　　数	1組
時　　代	アンコール時代・12～13世紀	寸 法 等	各高15cm 幅9cm 奥行18cm
作品概要	輿の担ぎ棒の先端を装飾するために取り付けられた金具。金具の先がガルダ、握りがナーガであり、ナーガの口から吐き出されたガルダを表したものである。ガルダはインド神話に起源を持つ猛禽である。ガルダの図像は仏教やヒンドゥー教にも取り入れられ、インドのみならず東南アジアにも広く伝播した。		

66　名称	ナーガ形飾り金具（ナーガがたかざりかなぐ）	品　　質	青銅鋳造
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	アンコール時代・12～13世紀	寸 法 等	長25cm
作品概要	輿の担ぎ棒の先端や戦闘用二輪馬車などを装飾するために取り付けられた金具。ナーガはインド神話に起源を持つ、蛇の精霊あるいは蛇神である。ナーガの図像は仏教やヒンドゥー教にも取り入れられ、やがてインドのみならず東南アジアにも広く伝播した。		

67　名称	ナーガ形飾り金具（ナーガがたかざりかなぐ）	品　　質	青銅鋳造
作 者 等		員　　数	1組
時　　代	アンコール時代・12～13世紀	寸 法 等	高24.5cm 幅25cm
作品概要	輿の担ぎ棒の先端を装飾するために取り付けられた金具。ナーガはインド神話に起源を持つ、蛇の精霊あるいは蛇神である。ナーガの図像は仏教やヒンドゥー教にも取り入れられ、やがてインドのみならず東南アジアにも広く伝播した。12世紀末から13世紀初めのバイヨン様式に位置づけられる。		

68　名称	輿用飾り金具（こしようかざりかなぐ）	品　　質	青銅鋳造
作 者 等		員　　数	1組
時　　代	アンコール時代・12～13世紀	寸 法 等	握り 各長12.5cm 径6cm ； 吊り鉤 各高13cm 幅7cm 奥行8.5cm
作品概要	輿の担ぎ棒の左右の握りとナーガ形の吊り鉤からなる。コンピュータ断層撮影によって、吊り鉤の強度を高めるために芯材に鉄らしき金属を使用していたことが明らかになった。		

＜東洋染織＞(1件)

69　名称	双鳥円文木綿裂（そうちょうえんもんもめんぎれ）	品　　質	木綿
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	7～8世紀	寸 法 等	縦15.5cm 横13.5cm
作品概要	木綿による紋織物の方形に裁断された残欠。Ｓ撚りの経糸に、二本一組としたＺ撚りの緯糸を組み合わせ、緯複様平組織により文様を織り出している。大柄の双鳥円文を主文とし、唐草十字文を副文とした文様は、米国・クリーブランド美術館が所蔵するソグディアナ（現在のサマルカンド周辺）で制作されたと考えられる8世紀の錦に類似する。また双鳥円文の円文部分は周囲を波頭形としているが、同様の文様は中国新疆ウイグル自治区ホータン地区のサンブラ１号墓から出土した波頭花文臈纈綿布にも認められ、特に同じく木綿を素材としていることも注目される。中央アジアの出土品中に類似した文様の作品が認められ、かつ、木綿が紀元前からインドで栽培されていたことからすれば、およそ中央アジア地域の制作と見ることができるだろう。なお、法隆寺献納宝物の未整理品と染織の列品中に同種の作品が存在する。特に「I-331 古裂帖」に貼り付けられた残欠についてだが、この古裂帖は明治７年（1874）に制作されたもので、正倉院裂を含まない法隆寺裂の基準資料である。これによって本作は法隆寺に伝来した作品と確定することができる。		

＜東洋考古＞(3件)

70　名称	戈（か）	品　　質	青銅
作 者 等	推定 中国河北省出土	員　　数	1個
時　　代	殷時代・前13～前11世紀	寸 法 等	長22.1cm　幅7.7cm
作品概要	青銅鋳造の戈。「援（えん）」と呼ぶ刃部全体の平面形が二等辺三角形を基調とすることから、三角戈あるいは三角援戈として分類される。援は、上刃と下刃ともに先端部分で角度をかえて切っ先を作り出す。中軸線上の基部付近に小孔をあける。援の基部には長柄を受けるための「闌（らん）」を作り、上下に長方形の「穿」を設ける。長柄を装着するための方形の突出部「内（ない）」は闌のやや上寄りにとりつき、円形の穿を設け、また夔龍文（きりゅうもん）を鋳出す。援が比較的に幅広である点、闌が上下に突出しない点、また横向きの夔龍文などから殷時代晩期（前13～前11世紀）の制作と判断できる。類品は河南省を中心に、西は陝西省、東は河北省にかけて分布する。		

71　名称	管銎斧（かんきょうふ）	品　　質	青銅
作 者 等		員　　数	1個
時　　代	夏家店上層文化・前9～前7世紀	寸 法 等	縦11.7cm 横14.2cm
作品概要	青銅鋳造の斧。「銎」とよぶ柄を差し込むための穴が管状を呈するもので、管銎斧として分類される。斧身の条線は全面に及ぶ。管銎の形状は上部が狭く下部が広口となり、その上下に鋸歯文を施す。管銎の下部全面に目釘穴を穿つ。斧身と反対側にボタン状の突起を伴う。こうした形態的特徴は、春秋戦国時代に並行する時期の、内蒙古自治区東部を中心とする夏家店上層文化の管銎斧に顕著である。類例としては、内モンゴル自治区東部の寧城小黒石溝墓群出土品がある。		

72　名称	鐸（たく）	品　　質	青銅
作 者 等	推定 中国西南部出土	員　　数	1個
時　　代	前漢時代・前3～前1世紀	寸 法 等	長6.7cm 幅6.6cm
作品概要	青銅鋳造の鐸。下端は鋸歯状をなして開口し、また肩部には左右に突出した開口部がある。表面には貼付け風の文様がある。このうち、一面には中央に寄棟の家屋と円地とおぼしき造形を俯瞰であらわす。手前に二重の門を置き、左に鬣を首にからめた馬を2頭あらわし、上部には樹木のほか、列点文や四弁花文を配す。もう一面には中央に尾長鳥の宿る樹木が立ち、手前に動物、左右には蛇を配す。右上にみえるのは取水溝と水田にもみえる。出土例では棒状の舌をともなうことがあり、本品も鐸として使われたと判断する。類品は貴州省西部と雲南省東部で確認されているが、本品のような装飾性に富むものはいずれも貴州省西部の前漢時代の遺跡で確認されている。		

（３）編入(1503件)

＜考古＞(2件)

1　名称	台付甕（だいつきがめ）	品　　質	土製
作 者 等	茨城県筑西市中上野出土	員　　数	1個
時　　代	古墳時代・3～4世紀	寸 法 等	高26.4cm 口径16.8cm、胴部 最大径20.4cm、台部 径9.1cm
作品概要	ハケ調整の台付甕である。台部は逆円錐台状をなし、身を成形後に接合する。胴部は球状で最大径が中央に位置し、口縁部は緩く外傾して立ち上がり、端部をナデ調整で仕上げる。胴部最大径が口径を上回ること、またその位置が中央にあること、そして口縁部の端部下に刻み目を欠くことから古墳時代前期に位置づけられる。		

1　名称	埴輪・須恵器残片（はにわ・すえきざんへん）	品　　質	土製
作 者 等	東京都港区　芝丸山第8号墳出土	員　　数	一括
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	
作品概要	埴輪残欠は円筒埴輪と形象埴輪から構成され、前者の多くは残片からなり全形の判明するものはない。後者は人物埴輪と動物埴輪からなる。人物埴輪は2件以上確認でき、頭巾を被る男性と島田髷を結う女性の半身像で、いずれも頭部のみ残存する。動物埴輪は馬形埴輪が1件確認でき、鼻先やたてがみに相当する残片がある。須恵器残欠は1個で提瓶残欠である。埴輪は型式論的な特徴から、埼玉県鴻巣市生出塚埴輪窯跡で製作された埴輪が供給されたもので6世紀後半に位置づけられる。		

＜法隆寺献納宝物＞(1件)

1　名称	双鳥円文木綿裂（そうちょうえんもんもめんきれ）	品　　質	木綿
作 者 等		員　　数	一括
時　　代	飛鳥～奈良時代・7～8世紀	寸 法 等	40.0cm×47.0cm（最大片）
作品概要	木綿により双鳥円文を織り出した残欠。Ｓ撚りの経糸に、二本一組としたＺ撚りの緯糸を組み合わせ、緯錦の技法で文様を織り出している。木綿は紀元前からインドで栽培されていたこと、また文様はソグディアナ（現在のサマルカンド周辺）の錦に類似することからすれば、インドもしくは中央アジア地域で制作された可能性がある。なお、染織の列品である「I-331 古裂帖」に共裂が張り付けられている。この古裂帖は明治７年（1874）に制作されたもので、正倉院裂を含まない法隆寺裂の基準資料である。これによって本作は法隆寺献納宝物の一部であると確定できる。		

＜その他＞(1,500件)

1　名称	写真資料（しゃしんしりょう）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1500件
時　　代	江戸～明治時代・19世紀	寸 法 等	
作品概要	1500件の中には、横山松三郎撮影による壬申検査関係写真(重要文化財)のうち焼き付け写真がほぼ含まれる。また横山松三郎が壬申検査に先立って撮影した日光、寛永寺跡の写真もある。ほかに明治初年に東京、大阪、和歌山、静岡などで開催された初期博覧会の光景、出品資料の写真、さらに明治前期の東北地方の道路建設や富岡製糸場操業の様子など撮影した写真も含まれる。		

【京都国立博物館】(計98件)

（１）購入（12件）

＜絵画＞（3件）

1　名称	暮山図・澤瀉鶺鴒図扇面 （ぼざんず・おもだかせきれいずせんめん）	品　　質	絹本金地墨画
作 者 等	橋本雅邦	員　　数	2握
時　　代	明治38年（1905）	寸 法 等	暮山図＝16.5×53.9cm、澤瀉鶺鴒図＝15.5×50.5cm
作品概要	款記から、橋本雅邦が米国第26代大統領セオドア・ルーズベルトへの贈答品として制作したことが判明する稀有な作品。日露戦争終結時、ポーツマス条約締結に際しての米国への斡旋依頼については、岡倉天心が外交上大きな役割を果たしたことが近年明らかにされており、本作は岡倉が講和斡旋に向けルーズベルトと接触するなかで制作・贈呈された可能性が高い。雅邦は前年のセントルイス万博で最高賞を受賞した直後で、骨の蒔絵を手掛けた老舗和紙舗・榛原もウィーン万博以来欧米に知られた存在、さらに箱書によれば牙彫はパリ万博へも出品した彫金家・海野勝珉の手になるものという。文字どおり当時最高の作家たちの技を結集して制作された扇子は大統領への献上品としてまことに相応しい。		

2　名称	霊元天皇即位・後西天皇譲位図屏風（れいげんてんのうそくい・ごさいてんのうじょういずびょうぶ）	品　　質	紙本着色
作 者 等	狩野永納	員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	各90.6×270.8cm
作品概要	寛文3年（1663）4月に行われた霊元天皇の即位式を右隻に、これに先立つ同年1月に行われた後西天皇の譲位の儀式を左隻に描いた屏風。江戸時代に天皇の即位式を描いた屏風はネルソン・アトキンス美術館本などが知られるが、現存作例が少なく貴重であるのに加え、本作は画中の建物や人物の多くに付された貼札から主題が明確である点、また作者が明らかである点も重要である。右隻の即位図では、高御座に座す霊元天皇の姿が顔も含め明瞭に描かれており、他の作例にはない本作の大きな特色となっている。東京大学史料編纂所に所蔵される白描模本には九条家との関わりを示唆する墨書が見られ、今後本作の発注者や制作意図等を解明していくうえで注目される。		

3　名称	松石図（しょうせきず）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	葉文舟筆	員　　数	1幅
時　　代	中国・清時代　道光2年（1822）	寸 法 等	縦130.0cm　横65.6cm
作品概要	筆者の葉文舟（1741頃-1827）は福建海澄県の人で、乾隆51年（1786）の挙人。福建省の連江や晋江、台湾の嘉義で教諭を歴任した。指に墨をつけて描く指頭画に秀で、松柏をよく描いた。台湾には「松石図」（1819年、国立台湾美術館蔵）や「松図」（1825年、台湾・個人蔵）が残されている。本図も指で松樹と奇石を描いており、松の幹や石の皴に打たれた大きな墨点が指頭画の特徴を示す。中国では長らく逸名の画家であったが、戦後、米沢嘉圃氏が美術雑誌『國華』745号（1954年4月）にて本図を紹介してから、本図は指頭画の大成者、高其佩とは異なる地方様式の作例として知られるようになった。もとは京都の旧家の所蔵であり、近世・近代の日本で流行した指頭画の展開をうかがううえで、貴重な作例のひとつである。		

＜金工＞（1件）

4　名称	重要文化財　太刀　銘国吉（たち　めいくによし）	品　　質	鉄、鍛造
作 者 等	粟田口国吉	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	全長91.0cm　刃長72.5cm
作品概要	鎌倉時代の京都で繁栄した刀工集団粟田口派・国吉の手による太刀。同門の吉光の現存作例が短刀に偏重しているのに対し、国吉は本作を含めた太刀、打刀、短刀と当時の主要な器形全てに作例がある点が重要で、粟田口派と鎌倉時代の京都の刀工について研究する上で欠かせない工人である。この太刀は、国吉の太刀の作例として最も高名なもので、東京国立博物館所蔵の重要文化財「刀　銘左兵衛尉藤原国吉（号鳴狐）」と並ぶ長寸の代表作である。地鉄の精美さと、小乱刃に二重刃が頻りとかかる作行は国吉の典型と言え、同工の技術水準の高さをいかんなく発揮した名品である。		

＜漆工＞（2件）

5　名称	梨撫子蒔絵楊弓箱（なしなでしこまきえようきゅうばこ）	品　　質	木製、漆塗、蒔絵、象牙、絹、羽、銅、唐木、紙ほか
作 者 等	不明	員　　数	1具
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	縦36.4cm　横14.2cm　高10.6cm
作品概要	室内遊戯の一種、楊弓のための諸道具を収める箱。参加者のマークや順番を決める象牙製の籤、矢を引いた回数を記録する唐木製の板、刀装具のような高級な彫金を嵌めた組み立て式の弓、羽を美しく染めた矢、的を射たときの点数を記録する算盤、金更紗で表装された点数の早見表のみならず、賭け事として楽しめるように、掛け率を決める札、「宇」と呼ばれる金銀の紙に包まれた寛永通宝なども納める。外出のままならない高貴な人々が屋内遊戯に興じ、その道具を美しく飾って楽しんでいたことを如実に語る。内容品を納める小箱を含め、総梨地の豪華な蒔絵で飾られており、紀州徳川家旧蔵という伝承にかなうような稀に見る豪華さの楊弓箱である。		

6　名称	ドミティアヌス帝の模擬海戦場図蒔絵プラーク（どみてぃあぬすていのもぎかいせんずまきえぷらーく）	品　　質	銅製、漆焼付、蒔絵
作 者 等	推定笹屋製	員　　数	1枚
時　　代	江戸時代（1780～90年代）	寸 法 等	縦16.8cm（+金具2.2m ）　横25.5cm　高0.5cm
作品概要	銅板に黒漆を焼きつけ、西洋の銅版画の図を金蒔絵で写した壁飾り。18世紀末に、オランダ東インド会社の商館長や出島付きの医師らの注文によって輸出用商品として日本で制作されたシリーズの一枚。金と青金の平蒔絵や付描で、銅版画に特徴的なクロスハッチングと呼ばれる細かな線描もうまく模し、白黒の図を黒と金のモノトーンに置き換えることに成功している。背面には仏文で「ドミティアヌス帝の模擬海戦場、すなわち海戦の再現のためにテブレ川のほとりに掘られた池」とあり、図も題字も1750年から40年間に渡って重版された世界史の全集の挿図、それも1771年の第二版が原画であるとわかる。類品には、京都の漆器商、笹屋が請け負ったと記されたものもあり、オランダ商人と京の漆器商が協力して制作した商品として注目される。		

＜染織＞（1件）

7　名称	濃茶麻地花車杜若文様染繍帷子（こいちゃあさじはなぐるまかきつばたもんようそめぬいかたびら）	品　　質	麻（染・繍）
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代　十七～十八世紀	寸 法 等	丈164.0cm　裄57.5cm　袖丈43.5cm
作品概要	帷子とは盛夏に着用する小袖形式の麻地の衣服。江戸時代に黒紅地と呼ばれていたと考えられる濃茶色の地色を背景に、文様部分を糊防染によって防染し、白く残された部分に、黒と臙脂の型鹿の子（摺匹田）や紅・萌葱の刺繍糸と金糸によって文様を表現する。文様は上下に大きく二分されており、上半身には藤と橘を活けた花車を、下半身には流水に杜若を表現する。文様を大きく二分割する意匠構成は、帯幅が広くなる江戸時代十八世紀前半の小袖意匠の特徴とされている。		

＜考古＞（5件）

8　名称	龍虎獣帯鏡（りゅうこじゅうたいきょう）	品　　質	青銅
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	後漢　2世紀	寸 法 等	面径20.5cm
作品概要	中国後漢時代の銅鏡。つまみの周囲に四頭の龍虎の図。その外側に神像と従者・軽業師・龍・虎・獣などの鮮明な画像が施される。銘帯には「池氏作竟真大巧～」など22文字の銘文を入れている。漢代の神仙思想を反映した鏡。		
指　　定	重要美術品		

9　名称	流雲文方格神人霊獣画像鏡（りゅううんもんほうおうかくしんじんれいぎゅうがぞうきょう）	品　　質	青銅
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	後漢　2世紀	寸 法 等	面径19.4cm
附 属 品	桐箱		
作品概要	中国後漢時代の画像鏡。つまみの周囲に方形区画がある。脇侍を従えた西王母と東王父が対称の位置に表現される。また白虎と騎馬人物像も対称に配される。「西王母」「東王公女」「白虎」の銘がある。文様に立体感がある。		

10　名称	金銀平脱鸞鳳宝相華文方鏡（きんぎんへいだつらんほうおうほうそうげもんほうきょう）	品　　質	青銅　金・銀・漆
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	唐代　7－8世紀	寸 法 等	辺長11.8cm
附 属 品	木箱		
作品概要	中国唐代の方形の平脱鏡。銅鏡の背面のくぼみに切り抜いた金銀の文様を漆で塗り込めたのち、表面を研ぎ出して文様を浮き立たせたもの。花文や唐草文、蝶文などの細密な文様が見られる。平脱技法は盛唐期に見られる手法であり、製作技術は高い。		

11　名称	羽状地文四山鏡（うじょうじもんしざんきょう）	品　　質	青銅
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	戦国～秦時代	寸 法 等	面径15.9cm
作品概要	中国戦国～秦時代の銅鏡。文様は細密な羽状地文の上に大型の「山」字を四つ表現している。縁は匙面。黒緑色を呈して銅質は良好である。このような山字文鏡は現在の湖南省長沙付近での出土例が多いとされる。		

12　名称	夔鳳雷文鏡　洛陽金村出土 （きほうらいもんきょう　らくようきんそんしゅつど）	品　　質	青銅
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	戦国時代	寸 法 等	面径23.3cm
附 属 品	桐箱		
作品概要	中国戦国時代末の大型の銅鏡。つまみは橋状でその周囲の円圏の内側には三頭の小型の龍が表されている。幅の広い円圏を挟んでその外側には主要な文様帯がある。細密な渦巻の地文の上に抽象化された獣像や鳳凰文・雷文が表わされている。周縁は匙状である。		

（２）寄贈（86件）

＜絵画＞（8件）

1　名称	墨竹図（ぼくちくず）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	野呂介石	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	137.0×28.9cm
作品概要	墨の濃淡を変化させることであらわされた画面の奥行き、鋭い筆のタッチが特徴的な介石墨竹図の典型作。落款の書体から70歳頃の作と見られる。明時代の文人・徐渭による竹十首のうち其四にあたる七絶を記しており、その款記から75歳の時に求めに応じ改めてこの自賛を書したことがわかる。		

2　名称	蜆子和尚図（けんすおしょうず）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	海北友松	員　　数	1幅
時　　代	桃山時代（17世紀）	寸 法 等	106.5×50.7cm
作品概要	友松晩年期に通有の略筆禅機図。もとは押絵貼屏風の一図であった可能性が高い。賛者は、友松画に多くの賛を寄せる相国寺93世の有節瑞保である。		

3　名称	山水図（さんすいず）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	頼山陽	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	99.7×32.7cm
作品概要	清流の流れる山深い草庵に暮らす高士を描く作品。山陽が萩藩士・内藤昌盈の依頼を受けてつくった「十声詩」のうち「読書詩」を自賛する。		

4　名称	松図（まつず）	品　　質	絹本着色
作 者 等	慈光寺実仲	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	109.7×41.0cm
作品概要	公家の実仲は画を得意としたらしく、現在20点近くの作例のあることが報告されている。本作は款記に「正三位」とあることから、実仲がこの位にあった天保4年（1833）から弘化4年（1847）の間に制作されたことがわかる。「ふかみどり陰栄行今年より千世をともなふよはの松かえ」との和歌を自賛する。		

5　名称	芦雁図屏風（ろがんずびょうぶ）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	岸竹堂	員　　数	6曲1双
時　　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	各154.9×359.4cm
作品概要	画題・描法とも、江戸時代以来の岸派の伝統を受け継ぐオーソドックスな作品。竹堂の高い画技をうかがうことができる。		

6　名称	月下群鴨図屏風（げっかぐんけいずびょうぶ）	品　　質	絹本着色
作 者 等	岸竹堂	員　　数	8曲1双
時　　代	明治時代（19世紀）	寸 法 等	各131.3×442.4cm
作品概要	左右隻で遠近を対比させ強調された空間表現が印象的な作品で、西洋絵画を学んだ形跡が認められる。その表現は、明治9年（1876）のフィラデルフィア万博に出品された代表作「大津唐崎図屏風」に近しいところがある。		

7　名称	春山雨霽図（しゅんざんうせいず）	品　　質	絖本墨画
作 者 等	王冶梅筆	員　　数	1幅
時　　代	明治15年（光緒8年、1882年）	寸 法 等	縦138.8cm　横39.8cm
作品概要	明治期に来日した中国の文人である「来舶清人」の一人、王冶梅（1831～1891～?）が明治15年（光緒8年、1882年）に描いた山水図。王冶梅は名が寅で、江蘇江寧　（現南京）の人。詩書画に秀でた職業文人で、咸豊3年　（1853）　以降は太平天国による動乱のため、しばしば来日し、京阪神を拠点に日本各地を旅して雅会を開催した。本図は款記に「董思翁」、すなわち明代後期の文人画家の董其昌の筆法に倣うとあり、題名のとおり、春の山に降る雨が霽（は）れた湿潤な景観を七言詩と潤いのある水墨という詩と画で表現する。贈答によく用いる光沢のある絖に描かれており、箱書きも王本人の筆である。福岡県八女市の旧家に伝わることから、王冶梅が当地を訪れた折に揮毫したものと思われる。		

8　名称	阿弥陀八大菩薩図（あみだはちだいぼさつず）	品　　質	絹本著色
作 者 等	なし	員　　数	1幅
時　　代	朝鮮王朝時代（16世紀）	寸 法 等	縦148.2cm　横159.4cm
作品概要	朝鮮王朝時代中期の作と思われる仏画。中央上部に阿弥陀如来が坐し、阿弥陀の右側に立つ地蔵菩薩をはじめ、上段、下段にあわせて八菩薩や武人たちが控える。「阿弥陀八大菩薩図」は日本にもいくつか伝来しており、朝鮮王朝初期（15世紀）の作とされる絹本紺地金泥の「阿弥陀八大菩薩像」（福井・善妙寺蔵）や万暦19年（1591）の銘をもつ麻地著色の「阿弥陀八大菩薩像」（東京・大倉集古館蔵）が知られる。本図は後者に近いが、像容は面長の容貌に素朴な描写がみられるところがあり、さらに時代が下がる可能性が考えられる。もとは京都の旧家の所蔵であったが、請来や家蔵の経緯などについては全くわかっていない。今後の研究の進展が望まれよう。		

＜書跡＞（5件）

9　名称	和歌扇面（わかせんめん）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	孟涵九筆	員　　数	１幀
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	辺14.7cm　上弦41.7cm　下弦21.5cm
作品概要	「かな書き」の中国人として知られた孟涵九（?～1781～1806～?）が揮毫した和歌の扇面。孟涵九は名を世燾、号を蓀田といい、字の涵九で通行した。浙江平湖県乍浦の人。天明から文化年間に長崎に往来した商賈である。本紙中央部に「あけて／まつ／蟹のはさみや／初時雨」が行書体で書されている。佐賀大学（市場直次郎コレクション）にある文化元年（1804）に描かれた「蟹図」にも同じ歌が書写されており、孟涵九の書画の人気の高さがうかがえる。落款は「孟涵九」で橋本コレクションにある「人物図」と同じ筆跡で、印章は「涵九」（朱文方印）で、同コレクションの「山水図」と同印である。		

10　名称	古文書（三通）（こもんじょ（さんつう））	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	平安時代　承和14年（847）、天安元年（857）、貞観7年（865）	寸 法 等	第1通：縦28.8cm　横49.3cm、第2通：縦29.4cm　横45.0cm、第3通：縦28.2cm　横43.2cm
作品概要	承和14年9月3付の近江国八木郷墾田売券、天安元年3月8日付の近江国養父郷墾田売券、貞観7年10月15日付の僧高徳解の3通を成巻したもの。第1・2通目には、売主が文字を記さない女性であるため、「画指」という署名が用いられる。売買の対象となっている土地は、いずれも近江国愛知郡内にあり、これらに関係する史料より本来、東大寺に伝来した古文書の一部と考えられる。流出の経緯や時期は不明だが、古代における土地売買の実態、とりわけ当該地域に勢力を伸張した秦氏の活動をうかがい知ることが出来る。		

11　名称	東山天皇宸翰和歌懐紙（詠毎日有春和哥）（ひがしやまてんのうしんかんわかかいしひごとにはるあるをよむのわか）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	江戸時代　宝永3年（1706）	寸 法 等	縦45.7cm　横64.9cm
作品概要	東山天皇（1675～1709）が「毎日有春」を題として詠んだ和歌の懐紙。歌を三行と三字にまとめるという一首懐紙の正式な書法にのっとるため、公宴御会などで提出するために執筆したものである。『東山天皇御製』には、宝永3年正月24日の禁裏御所での御会始において詠じた歌としてみえる。32歳の筆跡で、その書風は上代様の影響を看守しうるとともに、手ほどきをうけた父・霊元天皇に似るところも多い。これとおなじ詠題と歌の記された懐紙は、もう三幅確認できるが、いずれも字句の使い方やくずし方に若干の異同がある。		

12　名称	東山天皇女房奉書（保生院御くすり）（ひがしやまてんのうにょうぼうほうしょ　ほうしょういんおんくすり）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（17～18世紀）	寸 法 等	縦40.3cm　横101.5cm
作品概要	天皇に近侍する女官が、その意をうけて執筆した「女房奉書」と呼ばれる文書。本文は、文章をいくつかのパーツに分割して紙面に配する「散らし書き」で記され、保生院、すなわち医師である浦野道英の調合した薬を東山天皇（1675～1709）が服用したところ、近ごろは容体が安定し、お喜びになっている旨を「右大将」に伝える。天皇の在位中、右大将をつとめたのは、元禄元年（1688）から同6年の三条実治、元禄6年から同12年の二条綱平など5名の該当者がいるが、このうちの誰に宛てたのか特定は出来ない。		

13　名称	某消息（道英まいり候ハゝ）（ぼうしょうそく　どうえいまいりそうらわば）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	縦31.0cm　横21.0cm
作品概要	浦野道英が禁裏に参上したならば、内侍所の御座のことを忘れずに申し聞かせるよう伝えた消息。差出は不明であるが、あわせて秀宮、おそらくは東山天皇の皇子である直仁親王（閑院宮家初代、1704～52）の容体についても触れるので、皇族に近い人物かと思われる。直仁の診察にあたったであろう道英は、『妙法院日次記』宝永2年（1705）10月2日条や『基長卿記』享保10年（1725）6月25日条などによれば、皇族の治療や投薬にあたっており、本消息によってもその一端が知られる。		

＜彫刻＞（1件）

14　名称	金銅如来立像（こんどうにょらいりゅうぞう）	品　　質	銅造鍍金
作 者 等		員　　数	1躯
時　　代	朝鮮・統一新羅時代　７～８世紀	寸 法 等	総高9.7センチ
作品概要	朝鮮半島で統一新羅時代に製作されたとみられる小金銅仏である。このような小さな金銅仏は個人の念持仏や、石塔への奉納仏としてつくられることが多い。統一新羅時代の金銅仏は、時代が下がるにつれて背面の「ハバキ」と呼ばれる中型土を抜くための孔が大きくなる傾向があるが、本像はそれを作らないので、統一新羅時代の金銅仏でも古様なものと考えられる。加納鉄哉による鑑定書が付属する。		

＜金工＞（20件）

15～34　名称	風景図鐔　銘是信作／おとき （ふうけいずつば　めいぜしんさく／おとき）　ほか	品　質	
作 者 等	是信	員　数	20件
時　代	江戸～昭和19～20世紀	寸 法 等	
作品概要	貝塚市の旧家・廣海家に伝来した金工作品。刀装具の鍔や、煎茶に用いられる金属製の鋺や托、建水など様々な用途・器形の一群で、近現代における豪商を取り囲んだ生活用具として非常に貴重。中でも銀・錫製の煎茶道具は千家十職の一つ中川浄益の手によるものが多く、当時の工人が様々な分野の製品を手掛けていたことの証左となり、茶道史を研究する上でも極めて重要な作品である。		

＜陶磁＞（18件）

35～51　名称	青花耳付人物図瓶（せいかみみつきじんぶつずへい）　ほか	品　質	磁器、陶器、ガラス等
作 者 等		員　数	17件
時　代	明時代、清時代、江戸時代、明治時代、大正時代（17～20世紀）	寸 法 等	
作品概要	大阪府貝塚市商家に伝わった文化財から、「青花耳付人物図瓶」、「青花詩文松竹菊文角水指」など、明時代から清時代にかけての日本からの注文品と考えられる調度品や茶道具、「黄釉龍文皿」をはじめとした注文雛道具、「東海道名所絵印籠　三浦乾也作」、「青磁夜学瓶掛　宇野仁松作」京焼をはじめとした作家の作品など、幕末から昭和にかけての商家の生活様式を把握できる陶磁器17件。		

52　名称	茶箱（ちゃばこ）	品　質	陶器、磁器等
作 者 等	飛来一閑、大西清右衛門、永樂善五郎、樂吉左衛門、中村宗哲など	員　数	1式
時　代	昭和時代	寸 法 等	
作品概要	表千家十三代即中斎（1901-1979）の好みによって仕立てられた茶箱。千家十職と呼ばれる茶道具を主体に製作を行う、職家の人たちによって作られた道具によって構成された茶箱で、茶碗は焼物を作る樂吉左衛門、永樂善五郎、建水は釜等を作る大西清右衛門、箱や茶筅筒は一閑張細工を行う飛来一閑などが作成している。		

＜漆工＞（16件）

53　名称	夕顔蒔絵象嵌料紙・硯箱　笠翁銘（ゆうがおまきえぞうがんりょうし　すずりばこ　りつおうめい）	品　質	木製、漆塗、蒔絵、象嵌
作 者 等	小川破笠作	員　数	1具
時　代	江戸時代(18世紀)	寸 法 等	［料紙箱］縦39.7cm 横31.5cm 高13.4cm　［硯箱］縦24.0cm 横22.2cm 高5.8cm
作品概要	杉の木目を活かした拭き漆の地に、鮮やかな蒔絵と象嵌で、籬に絡む夕顔とそこに集まった虫たちを精緻に表した料紙箱と硯箱。象嵌には、牙染め、鼈甲、陶片、堆黒片などを用いている。料紙箱の蓋裏に陶片の象嵌で「観」の印があるとおり、俳人にして蒔絵師である卯観子または笠翁こと小川破笠（1663-1747）が得意とした様式である。内面は梨地とし、外面と同じ材質で、料紙箱の蓋裏には敷板の上の花入れに活けられた牡丹と菖蒲、鋏などを描き、硯箱の蓋裏には、香合、香卓に乗せられた香炉、半分巻かれた掛け軸など、優美な嗜みの図を描き、硯箱の中に敷かれた板には、硯と、銅製の瓢形の容器に七宝で夕顔を表した水滴をはめている。小川破笠の真作である証拠があるわけではないが、優れた意匠から人気を集めてきた有名作品である。		

54　名称	黒漆蝶鳥象嵌料紙・硯箱（くろうるしちょうちょうぞうがんりょうし・すずりばこ）	品　質	木製、漆塗、蒔絵、象嵌
作 者 等	柳澤一抱作	員　数	1具
時　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	［料紙箱］縦41.cm 横33.0cm 高15.5cm　［硯箱］縦24.8cm 横21.2cm 高4.6cm
作品概要	黒漆塗の地に、裏から金箔を押した鼈甲、螺鈿、真鍮や錫製と思われる撚線などを象嵌し、孔雀石の色粉蒔絵、金平蒔絵などを駆使して、古代風の宝相華唐草と鳥や蝶を表した料紙箱と硯箱。料紙箱の口縁には、二重の銀撚線を象嵌している。内部は、朱漆の布目塗りに金研出蒔絵でインドの印金風に花唐草文様を表し、面取部には螺鈿で幾何学の連続文を、底裏には鉛と割貝で周縁に条線を巡らし、金平蒔絵で作者銘を記す。柳澤一抱（1934年没）は、白山松哉門下の東京の蒔絵師。硯箱には、蝶文様を蒔絵と螺鈿で表した楕円形の銀製水滴、硯、蓋付の筆、刀剣形の刀子、墨挿しが入っている。		

55～69　名称	右近橘蒔絵白粉箱 （うこんのたちばなまきえおしろいばこ）ほか	品　質	木製、漆塗、蒔絵ほか
作 者 等	不明	員　数	5件
時　代	室町時代（15世紀）ほか	寸 法 等	縦6.8cm　横6.8cm　高4.5cm
作品概要	大阪府貝塚市の旧商家が茶道具として伝えた品の一点。おそらくは、化粧道具や櫛などの一式をまとめて納める中世の手箱のなかに一対で備わっていた白粉を入れる小箱が、近世以降に茶道で用いる香合として離れたもので、単独で伝わる。精緻な蒔絵で柵で囲われた橘の木を描いている。同じ旧商家からは、先代より数年をかけて千件以上の作品をいただいており、今回の寄贈でも、千宗旦の花押の入った中棗、松平不昧の花押の入った雪吹、長野横笛の箱書きのある引盃、中国製の精緻な透かし彫りを施した竹筆と合わせて計5件の作品を漆工の分野にいただいた。		

60　名称	浮線綾螺鈿蒔絵手箱　模造 （ふせんりょうらでんまきえてばこ　もぞう）	品　質	木製、漆塗、蒔絵、螺鈿
作 者 等	不明	員　数	1合
時　代	明治～昭和時代（19～20世紀）	寸 法 等	縦36.9cm　横26.7cm　高23.3cm
作品概要	サントリー美術館が所蔵する鎌倉時代の蒔絵螺鈿の名品、国宝「浮線綾螺鈿蒔絵手箱」を忠実に写した近代の作品。明治13年（1880）に、当時の博物局の命により名工小川小民（1847-1891）が同じ手箱を写した例（東京国立博物館蔵）が知られるように、近代以降、伝統技術の継承や日本美術の海外アピールを目的として、一流の蒔絵師による古典作品の模造が行われており、その一環で制作されたものと思われる。残念ながら作者は不明だが、紐金具や蓋裏の文様までよく写されている。ただし、原品の螺鈿は文様を切り透かした上に蒔絵をしているのに対し、本品は平らな貝の上に蒔絵をしているのと、蓋裏の折枝文の一本をわかりやすく減らしている点が異なっている。		

61　名称	桐紋蒔絵飯器（きりもんまきえはんき）	品　質	木製　漆塗　蒔絵
作 者 等	不明	員　数	1合
時　代	江戸時代　18～19世紀	寸 法 等	直径28.8cm　高18.5cm
作品概要	挽物製の大型の飯器。蓋には食籠の蓋のような段差を設けているが、通常の飯器にあるような摘まみはない。高台が低い割に下に向かって広がっている姿も江戸時代後期以降の作と思わせる。全体に黒漆を塗り、金平蒔絵に絵梨地と針描を併用して桐紋を描いており、桃山時代以降、繰り返し作られてきたいわゆる「高台寺蒔絵」様式に則って装飾されている。桐紋は桃山時代の形式をよく写すが、文様の配置の仕方は後世のものであるなど、高台寺蒔絵の様式展開を考えるうえで興味深い作例といえるだろう。高台寺からの寄託品を含め、この様式の作品を数多く収蔵する当館において、比較展示などの活用も見込まれる。		

62　名称	桜螺鈿重箱入提弁当 （さくららでんじゅうばこいりさげべんとう）	品　　質	木製、墨画、漆塗、螺鈿
作 者 等	不明	員　　数	1基
時　　代	嘉永四年（1851）	寸 法 等	縦18.4cm　横18.8cm　高25.2cm
作品概要	底面がほぼ正方形の直方体の天板に提げ手があり、直方体の前半分が中央で二つに分かれて観音開きに開き、中に重箱、徳利の袴、銘々皿などを納める箪笥となっている弁当箱。外枠や銘々皿は水墨で松鶴を描いた後に春慶塗りとしている。重箱は、黒漆塗りに白い裏彩色を施した鮑の薄貝による螺鈿で、桜を表している。徳利が失われ、後補の銘々皿が入るなど、保存状態は良いとはいえないが、外箱に嘉永四年の年号や京都の住所が書かれており、螺鈿技法の基準作として歴史的な価値がある。		

63～68　名称	菊蒔絵硯箱（きくまきえすずりばこ）ほか	品　　質	木製、漆塗、蒔絵ほか
作 者 等	不明	員　　数	6件
時　　代	明治～大正時代　19～20世紀　ほか	寸 法 等	縦25.5cm　横23.5cm　高6.6cm　ほか
作品概要	高度な蒔絵で網代垣に菊などを描いた硯箱。置き平目を駆使した地文様や、金貝による菊の花の表現などが五十嵐派の特徴をみせる。文様の様式や蒔絵の技法は伝統的なものであるが、蓋裏や硯の下にもしっかりとした蒔絵が施されている点がいかにも近代の作らしい。おそらく裕福な女性のための婚礼調度の一部であったと推測される。同じ寄贈者からほかに江戸時代の婚礼調度であった香盆のかつて描かれていた家紋を蒔絵の文様で巧みに覆った品や、螺鈿や堆朱の軸盆や四方盆、汪中山作とされる墨などの唐物もいただいた。いずれも寄贈者の親世代が戦前から所持していた品とのことだが、それ以前の来歴は不明。		

＜染織＞（16件）

69　名称	衣裳人形　三国志（いしょうにんぎょう　さんごくし）	品　　質	木胎胡粉塗・絹
作 者 等		員　　数	3躯1組
時　　代	江戸時代　十九世紀	寸 法 等	劉備：高52.0cm　張飛：高52.0cm　関羽：高50.0cm
作品概要	『三国志』に登場する英雄に取材した衣裳人形で、端午の節句に飾られた五月人形である。品格ある面差しの劉備、怒りのために紅潮した顔の張飛、沈思黙考するかのように青ざめた顔色の関羽と、それぞれの顔貌表現が極めて優れており、衣裳にも上質の生地が用いられている。京都製と推察され、力量のある人形師への特注品であろう。佐渡島の金山周辺にて塩問屋を営んでいた旧家からの寄贈品であり、北前船による交易を通じてもたらされた品である。		

70　名称	婚礼衣裳（こんれいいしょう）	品　　質	絹（染・織）
作 者 等		員　　数	1組
時　　代	昭和時代　昭和26年頃	寸 法 等	黒縮緬地波に宝船飛鶴文様友禅染留袖：総丈144.0cm　総裄60.0cm 白地檜扇文様錦帯：長409.cm　幅30.8cm
作品概要	黒縮緬地の袷仕立ての留袖には、上半身に五三桐の染め抜きの五つ紋が置かれ、下半身には海原を進む宝船と周囲を舞い飛ぶ鶴が友禅染で表現されている。前身頃の衿下から裾を中心に文様を入れ、後身頃にはほとんど文様を置かない構成は、この頃の着物に見られる典型的な特徴である。裏地の八掛には表地と同じ文様を入れ、白縮緬地の重下着が附属する。白地の帯には檜扇が散らされ、扇面にはそれぞれ、松・菊・竹などの吉祥の植物が織りあらわされる。大阪の印刷材料会社を営む家に生まれた女性が、昭和二十六年の婚礼時に着用した衣装一式である。		

71　名称	濃鼠壁縮緬地王朝文様友禅染繍振袖（こいねずみかべちりめんじおうちょうもんようゆうぜんぞめぬいふりそで）	品　　質	絹（友禅染・刺繍）
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	明治時代　十九～二十世紀	寸 法 等	総丈102･5cm　総裄83.5cm
作品概要	裾に向かって地色を淡くしていく曙染と呼ばれる地染めで、背面には満開の桜の下に張られた幔幕のもとに、烏帽子や中啓が配されている。一方前面には、紅葉した楓の周囲に鳥兜や短冊が配され、『源氏物語』紅葉賀の帖を暗示する。このように王朝時代を想起させる文様は、各時代を通じて女子の祝着や婚礼衣裳に好んで用いられた。明治三十七年に生まれた女性が所持していた祝着であるが、暗い地色の裾周りに控えめな文様を施す様式は一般的には明治二十年代を中心に流行したと考えられており、三つ紋として入れられた五三桐丸紋が女性の家紋とは異なることからも、あるいは本人のために誂えられた祝着ではなく、製作年代は明治三十七年よりもやや遡るかもしれない。		

72～81　名称	赤綸子地竹格子折枝文様繍小袖（仮仕立て）（あかりんずじたけごうしおりえだもんようぬいこそで　かりじたて）ほか	品　　質	絹（染・繍・織）
作 者 等		員　　数	10件
時　　代	江戸～大正時代　十九～二十世紀	寸 法 等	赤綸子地竹格子折枝文様繍小袖（仮仕立て）　丈162.0cm 鼠縮緬地雨に松藤文様染繍小袖（仮仕立て）　丈144.0cm 鼠絽地御所解文様染繍単衣（仮仕立て）　丈165.0cm 鼠紗綾地笹小花裏文様友禅染長着　附 下着　総丈150.0cm　総裄61.0cm 紺地柳に小花文様繻珍丸帯　長388.0cm　幅33.0cm 金茶地小紋縞繻珍丸帯　長417.0cm　幅29.5cm 黒地藤の葉に蔦文様繻珍丸帯　長408.0cm　幅32.5cm 黒地菊桐文様繻珍丸帯　長390.0cm　幅30.6cm 海松茶地花入菊葉文様錦丸帯　長393.0cm　幅32.5cm 海松茶地蝶唐花文様錦丸帯　長411.0cm　幅33.0cm
作品概要	江戸時代から大正時代までの、女性の衣裳のコレクションで、京都で呉服販売を手がけてきた家が集めた品々である。このうち仮仕立ての小袖と単衣三領は、特徴的な文様付けと施工から、赤綸子地は公家の、鼠縮緬地･鼠絽地は武家において着用したと考えられる品である。一方、長着と帯はいずれも近代の作例で、江戸時代とは異なる新しい感覚を示し、時代の好みの変遷をうかがい知ることができる。残念ながら着用年代は明確ではないが、帯はいずれもジャカード織機によって製織された品とみえ、西陣の織物技術の展開の様相を示している。		

82　名称	善財童子刺繍裂（ぜんざいどうじししゅうぎれ）	品　　質	絹（刺繍）
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	中国・清時代　18～19世紀	寸 法 等	縦93.5cm　横106.5cm
作品概要	『華厳経』を出典とする善財童子の歴参図を、すべて刺繍であらわした裂。現在は観賞用に額装とされているが、本来の用途は明らかでない。小さな人物を多数表現する構図からは礼拝対象であったとは考えがたく、仏教寺院内を飾る装飾品として製作されたものであろうか。縦方向に罫線十九列を引き、その中に小ぶりの尊像や人物像が隙間なく繍いつめられ、文殊菩薩の導きにより善財童子が善知識を訪ね歩くさまが細やかに表現されている。刺繍は手馴れた職人によるもので、背景も刺繍で表現する総繍である。		

83　名称	大津祭釜掘山胴掛（写） （おおつまつりかまほりやまどうかけ　うつし）	品　　質	絹（刺繍）
作 者 等		員　　数	2枚
時　　代	明治時代　明治二十九年頃	寸 法 等	各縦181.0cm　各横269.0cm
作品概要	淡黄地の綴地を基体とし、肉を入れて立体的に表現した刺繍により、片面には鳳凰、山羊、唐獅子など、もう片面には狐、馬、唐獅子などの霊獣をあらわした祭礼幕である。江戸時代に円山応挙によって大津祭釜掘山の胴掛下絵として描かれたという図案に基づき、明治時代に製作された。久保翠桐が模写した応挙の下絵が附属しており、輸出刺繍商であった駒村喜助の指導のもと、繍師として知られる加藤辰之助が明治二十九年に製作したという。江戸時代の下絵に明治の職人が挑んだことが明らかにできる稀有な作例である。		

84　名称	刺繍裂類（ししゅうきれるい）	品　　質	絹（刺繍）
作 者 等		員　　数	1括（9枚）
時　　代	明治時代	寸 法 等	鬱金繻子地柳に鳥図刺繍裂：164.0cm　199.0cm 萌葱繻子地桜に雉雀図刺繍裂：150.0cm　60.0cm 黒繻子地鳩図刺繍裂：163.0cm　59.5cm 金茶繻子地猿猴図刺繍裂：145.5cm　62.0cm 金茶繻子地猿蟹図刺繍裂：144.0cm　62.0cm 金茶繻子地鹿図刺繍裂：158.5cm　62.0cm 黒繻子地楓に小鳥図刺繍裂：168.0cm　62.0cm 薄茶繻子地羅漢図刺繍裂：345.0cm　178.5cm 薄茶塩瀬地牡丹菊文様卓布：146.0cm　151.0cm
作品概要	明治期に欧米への輸出用として駒村商会の指導のもと製作された刺繍作品のうち、見本として手元に残された裂類。出来栄えの優れたものをとどめたようで、丁重に取り扱われており、保存状態がすこぶる良い。明治時代を通じて絵画的なモチーフを刺繍によって精密に表現した作品は欧米で人気が高く、かなりの量が輸出され相当の取引額があったことが当時の輸出品統計から知られている。その製作地の中心は京都であったが、駒村商会はアトリエを京都に置き、徳島に製造工房を有していたという。これらの裂は欧米では住宅の室内装飾品として用いられ、壁掛やテーブルクロス、屏風の一部として製作されたと考えられる。明治時代に入ると、万国博覧会などを機に日本の染織工芸への評価が高まり、かなりの量の染織品が海を渡った。		

＜考古＞（1件）

85　名称	石鏃　伝楽浪郡出土 （せきぞく　でんらくろうぐんしゅつど）	品　　質	
作 者 等		員　　数	3点
時　　代	新石器時代～漢代 紀元前3～紀元後3世紀	寸 法 等	
作品概要	廣海家からの寄贈品。封筒に「楽浪土城採集品」とあるので、朝鮮半島北部での採集品とみられる。二点は黒耀石の有茎式石鏃。もうひとつは断面が三角形の石鏃であり中国漢時代の三翼式銅鏃の影響を受けた石鏃か。		

＜歴史＞（1件）

86　名称	観古図説（かんこずせつ）	品　　質	紙本石版刷
作 者 等	蜷川式胤	員　　数	陶器之部1～5　5冊　附：仏文解説小冊子4冊　帙入
時　　代	明治9年（1876）～明治10年（1877）	寸 法 等	本誌各冊：縦27.0cm、横38.8cm 小冊子各冊：縦23.0cm　横16.5cm
作品概要	観古図説は蜷川式胤（にながわのりたね）が明治9年に作成した日本の土器・陶器を中心とした古器物の図録。蜷川は明治維新政府において文部省博物局御用さらに内務省博物館掛を経るなど日本の博物館・博覧会に深く関わった人物である。土器・陶器を蒐集し、明治9～10年にこの観古図説の1～5冊を製作した。当時最先端の石版刷彩色という技法で製作された。仏文の解説が付随することから海外に日本の古文化財を紹介することが目的であった。明治初期における土器・陶磁器類の研究水準を良く示すものとして貴重であり、保存状態も良好で展示にも活用できる作品とすることができる。		

【奈良国立博物館】　（計15件）

（１）購入（6件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	紙本墨画春日名号曼荼羅 （しほんぼくがかすがみょうごまんだら）	品　　質	紙本墨画　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	室町時代　16世紀	寸 法 等	縦90.6cm　　横37.0cm（表具：縦170.6cm　横48.7cm）
作品概要	藤が絡みつく松の大樹と白鹿の姿を墨画で描く。藤の蔓が「南無春日明神」の六文字を象っている。春日大明神号を表す春日曼荼羅は極めて例が少なく、紙本墨画による絵文字形式の曼荼羅は本品が現存唯一である。内箱蓋裏の墨書より、室町時代に奈良を中心に活躍した画家、山田道安の筆とあるが、画風は春日若宮神社付近に工房を構えた櫟屋による作品かとみられる。		

2　名称	絹本著色春日宮曼荼羅 （けんぽんちゃくしょくかすがみやまんだら）	品　　質	絹本著色　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	縦53.9cm　横25.9cm（表具：縦141.5cm　横41.4cm）
作品概要	春日大社の景観を俯瞰的視点で描く春日宮曼荼羅。下端中央に配されることの多い一の鳥居を、中央から外れた位置に配し、そこから右斜めに参道が延びる構図は、鎌倉時代に遡る古様を示している。社殿や樹木を精細に描く作風は、正安2年（1300）の作とされる湯木美術館本に近く、その時期の南都絵所の作かと推測される。内箱の銘文より、本品が慶長10年（1605）には金峯山寺の僧侶が結縁する春日講の本尊だったことがうかがえ、南都における春日宮曼荼羅の受容を示す貴重な資料とみなされる。		

＜書跡＞（1件）

3　名称	法華経　巻第四残欠（ほけきょう　まきだいよんざんけつ）	品　　質	彩牋墨書　巻子装
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	平安時代　12世紀	寸 法 等	縦25.9cm　長196.4cm（〔第1紙〕50.1cm、〔第2紙〕5.3cm、〔第3紙〕49.8cm、〔第4紙〕38.9cm、〔第5紙〕50.0cm、〔軸付紙〕2.3cm）
作品概要	法華経巻第四の断簡5紙を貼り継いだもの。銀箔・銀截金・銀泥で装飾された料紙を用い、界線には金截金が用いられる。本経と同じ経巻から取り出された断簡が写経手鑑「紫の水」（当館蔵）に含まれており、展示と調査研究の両面で本品の活用が期待される。		

＜工芸＞（2件）

4　名称	金銅装説相箱（こんどうそうせっそうばこ）	品　　質	檜材、金銅装仕上げ　内面と底裏に絹裂貼り
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	室町時代　延徳三年（1491）	寸 法 等	縦35.6cm　横25.4cm　高13.4cm
作品概要	蓋をもたない縦一尺余の箱で、側面の下半部に格狭間を表すことから、法会の際に法具などを入れる説相箱と考えられる。底板の墨書銘から、本品は延徳三年（1491）に丹後一宮の大聖院の僧侶、智海が願主となり、現世安穏後生善処を祈願したものと判明する。智海は京都の諸寺での活動より真言系修験僧であったことが知られ、本品はその足跡を示す貴重な遺品であると共に、説相箱の基準作例とも見なし得る点で高い歴史的価値をもつ。		

5　名称	金銅鬼面五鈷杵（こんどうきめんごこしょ）	品　　質	青銅製、鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代　13～14世紀	寸 法 等	全長18.1cm　鈷長各5.6cm　把長6.9cm　鈷張5.5cm　重476ｇ
作品概要	把部に鬼面を表す五鈷杵で、鬼面を2列表す珍しい品。京都・醍醐寺の伝来品に類例が知られるが、中国・元代の将来法具を受容して新たに製作された形式に属するとみられる。箱書より本品は奈良・西大寺の伝来とわかる。醍醐寺で学び、西大寺を中興した叡尊のもとで育まれた真言律宗に関わる遺品かとも推測される。		

＜考古＞（1件）

6　名称	盛装男子埴輪（せいそうだんしはにわ）	品　　質	埴製
作 者 等		員　　数	1軀
時　　代	古墳時代　6世紀	寸 法 等	総高137.5cm、最大幅（上衣裾）45cm、最大奥行（上衣裾）27cm
作品概要	全国的にも珍しい大型の人物埴輪。文様装飾のある上衣と袴を着し、頭に帽子、腰に大刀を帯びた、古墳時代（６世紀）の豪族男子の盛装姿を表す。出土場所や時期は不明であるが、顔や衣服の表現、および胎土の様子から群馬県産と判断される。類品はほぼすべて重要文化財指定品である。海外流出が懸念された作品で、これを国内に留めた得た意義も大きい。		

（２）寄贈（9件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	絹本著色山越阿弥陀図 （けんぽんちゃくしょくやまごしあみだず）	品　　質	絹本著色　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	室町時代　15～16世紀	寸 法 等	〔本紙〕縦98.2cm　横61.9cm、〔表装〕縦190.2cm　横84.8cm
作品概要	山の向こうに来迎の阿弥陀如来が現れる様を表す。本品は水色に白線を引く霞の表現や、截金風の金泥文様などから室町時代の作例とみなされるが、阿弥陀の面貌表現は仏画の伝統を身に付けた絵師による的確な描写が認められる秀作である。		

2　名称	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図（けんぽんちゃくしょくあみだにじゅうごぼさつらいごうず）	品　　質	絹本著色　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	室町～安土桃山時代　16世紀	寸 法 等	〔本紙〕縦107.9cm　横57.0cm、〔表装〕縦207.6cm　横75.5cm
作品概要	阿弥陀如来と二十五菩薩が、往生する者を迎えに来迎する様を描く。直線的な雲の形状や、菩薩衆の配置などから、滋賀・西教寺の「迅雲弥陀」と称される来迎図の系譜を引く作品と位置づけられる。仏菩薩はやや目がつり上がり、ふくよかで柔和な面貌をしており、室町時代の表現に通じる。やや時代は下るが、伝統的な描写を踏襲して丁寧に描かれた佳作と評価される。		

＜書跡＞（2件）

3　名称	般若心経（はんにゃしんぎょう）	品　　質	紙本墨書　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	奈良時代　8世紀	寸 法 等	〔本紙〕縦23.9cm　横38.0cm、〔装丁〕縦105.0cm　横50.0cm
作品概要	奈良時代に書写された「般若心経」で、世に「隅寺心経」の名で知られる一群の一つ。本品は海龍王寺に伝わる同経と共通点があり、正倉院文書に「年料多心経」と記される遺品にあたる可能性がある。奈良時代らしい謹直な字体は展示効果が高く、また研究資料としても活用が期待される品である。		

4　名称	大般若経　巻第三百十六（断簡）（だいはんにゃきょう　かんだいさんびゃくじゅうろく　だんかん）	品　　質	紙本墨書　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	奈良時代　8世紀	寸 法 等	〔本紙〕縦24.5cm　横31.0cm、〔装丁〕縦93.8cm　横45.0cm
作品概要	『大般若波羅密多経』（略して「大般若経」。唐玄奘訳）の巻第三百十六のうち、尾題を含む巻末部分のみの断簡。書風や料紙の状況から奈良時代の書写と判断され、虫損の具合は法隆寺伝来の神護景雲元年（767）の願文をもつ「大般若経」（通称、行信願経）の一部の可能性もある。		

＜工芸＞（4件）

5　名称	百万塔　附　無垢浄光経陀羅尼（ひゃくまんとう　つけたり　むくじょうこうきょうだらに）	品　　質	木製　麻紙
作 者 等		員　　数	1基
時　　代	奈良時代　8世紀	寸 法 等	総高21.3cm　塔身部径10.5cm　陀羅尼現存長38.6cm
作品概要	木製、轆轤挽きで作られる三重の円塔。称徳天皇（在位764～770）が、藤原仲麻呂の乱（天平宝字8年〔764〕）の後に、国家鎮護や滅罪を祈って発願し、造立させたという百万塔の一つ。本品は比較的状態が良く、無垢浄光陀羅尼を具備しており、高い展示効果が期待される。また、法隆寺発行の証書や譲与規定などが附属し、明治41年（1908）に頒布された中でも最高ランクの「第一種」品と分かり、法隆寺史や文化財学的にも資料的価値が認められる。		

6　名称	紅牙撥鏤撥　模造　村松親月　作　附　撥鏤参考資料（こうげばちるのばち　もぞう　むらまつしんげつ　さく　つけたり　ばちるさんこうしりょう）	品　　質	象牙製　染色　彩色
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	現代　平成30年（2018）	寸 法 等	長20.1cm　最大幅5.9cm　厚0.48cm（下端）
作品概要	正倉院宝物「紅牙撥鏤撥」（北倉28）の復元模造品。その制作過程に関係する参考資料が附属する。村松新月氏（1934～）は象牙彫刻作家で、正倉院宝物の撥鏤作品の復元模造に取り組んでいた。本品および附属品は、氏が研究に基づく撥鏤の染料素材と完成品である。		

7　名称	木内半古　七ヶ條ノ事 （きうちはんこ　しちかじょうのこと）	品　　質	紙本墨書　紙裏打ち
作 者 等		員　　数	1紙
時　　代	昭和時代（20世紀）	寸 法 等	総縦24.5cm　横33.7cm　〔本紙〕縦24.3cm　横33.3cm
作品概要	木内半古は、明治から昭和にかけて活躍した木工作家で、本品は子孫のために自ら筆を執って誌した人生訓である。長方形の半紙に、表題、落款を含め9行にわたって訓戒の辞が墨書される。半古の人となりを偲ぶ品として、また当時の東京の職人世界の一断面を示す資料として貴重である。		

8　名称	刺繍種子地蔵菩薩像（ししゅうしゅじじぞうぼさつぞう）	品　　質	絹本刺繍　著色　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	南北朝～室町時代（14～15世紀）	寸 法 等	〔本紙〕縦45.3cm　横34.0cm、〔表具〕縦141.9cm　横53.0cm（軸部）
作品概要	目の詰んだ画絹に髪繍で地蔵菩薩の種子「カ」を表した繍仏の一種。円相及び台座は彩色で表される。地蔵菩薩の種子を表す希有な繍仏作品であり、刺繍と彩絵を併用する技法の作例としても貴重である。		

＜考古＞（1件）

9　名称	古瓦（故原田良雄氏コレクション　第３回分）（こがわらこはらだよしおしこれくしょん　だいさんかいぶん）	品　　質	瓦製
作 者 等		員　　数	3点
時　　代	白鳳～平安時代（7～9世紀）	寸 法 等	最大径17.6～19.8cm
作品概要	関東地方の古代寺院の軒丸瓦。原田良雄氏は写真家であり古瓦の蒐集家として知られる。氏の蒐集した約600点の古瓦が、昭和49年と50年の2回にわたって奈良国立博物館に寄贈されており、本品は氏の家に残された最後の3点である。龍角寺（千葉県）、千代廃寺（神奈川県）、武蔵国分寺（東京）の創建期瓦ないし補修瓦で、いずれも比較的遺存状態が良好である。		

【九州国立博物館】（計286件）

（１）購入（105件）

＜絵画＞（2件）

1　名称	列祖図冊（れっそずさつ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	逸然性融筆	員　　数	1帖
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦54.2cm　横40.1 cm　表装：縦62.0 cm　横45.7 cm
作品概要	釈迦、文殊、普賢、観音、勢至のほか、インドおよび中国の禅宗の祖師33名を加えた計38名の姿を描く。黄檗宗の開祖・隠元隆琦の序文と、その弟子・木庵性瑫による題賛および跋文が備わる。本作は、隠元の来日に尽力し、長崎・興福寺住持も務めた中国出身の逸然性融が、京都・萬福寺に伝わる陳賢筆「列祖図冊」を忠実に模写したもの。隠元は、本作が描かれた翌年、70人の祖師の事績と肖像画を集成した『仏祖像賛』を刊行しており、そこに収載された祖師像は本作および陳賢本とほぼ同図様を示すなど、強い影響関係がうかがわれる。本作は、黄檗における列祖図の決定版ともいえる『仏祖像賛』成立にも大きく関わる意義深い作例である。		

2　名称	長崎港図（ながさきこうず）	品　　質	紙本著色
作 者 等	川原慶賀筆	員　　数	1面
時　　代	江戸時代・天保11年(1840)-天保13年(1842)	寸 法 等	縦53.5 cm　横76.0 cm
作品概要	安政2年(1855)に来日したリンデン伯爵ヨハン・マウリッツ(1807-64) が所持した。本図には落款がないが、画面構成と構図の特徴から、川原慶賀筆だと考えられる。本図中に描かれるオランダ船は、1840年に長崎に来航したコルネリア・エンリエッテ号である。船長のペトルス・ブルーニング(?-1855) の注文に応じて慶賀が本図を描いたのであろう。慶賀は天保13年(1842)に追放処分を受けたことから、本図は船が来航した1840年から、慶賀が追放処分を受けた1842年までの成立である。ブルーニングが本国に持ち帰ったのち、1856年3月に帰国したリンデン伯爵が本図を入手した。本図は長らくオランダに所在していた慶賀筆の「長崎港図」で、本図の構図と共通する作例が少なく希少である。		

＜書跡＞（1件）

3　名称	東大寺関係文書（とうだいじかんけいもんじょ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	11通
時　　代	平安時代-安土桃山時代・11世紀-16世紀	寸 法 等	(1) 東大寺政所返抄：縦25.9 cm　横22.7 cm　(2)東大寺牒案：縦28.5 cm　横45.0 cm　(3)官宣旨：縦30.3 cm　横42.0 cm　(4)尼蓮法敷地処分状：縦30.5 cm　横40.0 cm　(5)法印弁暁置文：縦32.6 cm　横54.0 cm　(6)観阿弥陀仏等家地配分状：縦29.7 cm　横45.6 cm　(7)威儀師実厳等寄進状：縦33.2 cm　横50.4 cm　(8)勝阿弥陀仏嫡男重光等水田処分状：縦28.3 cm　横43.1 cm　(9)円浄用途請取状：縦30.2 cm　横33.6 cm　(10)某書状：縦32.0 cm　横48.5 cm　(11)後陽成天皇綸旨：縦32.8 cm　横44.8 cm
作品概要	東大寺に関係する古文書11通。(1)～(4)は平安、(5)～(9)は鎌倉、(10)は南北朝、(11)は安土桃山時代。(1)～(3)は発給主体や受給が東大寺であり、他も関連文書や作成・受給者を「東大寺文書」や「東南院文書」に確認することができ、いずれも本来は東大寺に伝来した可能性が高い。全11通が新出あるいは原文書未確認の史料とみられる。内容は租税や土地に関するもののほか、(3)は東大寺宝蔵の黄金を開見せしむため、使の発遣を伝える。(5)は勝憲（勝賢）が醍醐寺に移出した観世音寺惣勘文6巻等の返納、紛失について、東大寺別当弁暁の置文。(7)は故寂蓮（橘正綱）子女が「摺写大般若経一部」と転読料を東大寺八幡宮に寄進する。(11)は穀屋祐乗上人御房に国家安全・宝祚長久の祈祷を命じる。		

＜彫刻＞（1件）

4　名称	如来坐像（にょらいざぞう）	品　　質	木造漆箔
作 者 等		員　　数	1軀
時　　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	像高137.0 cm　髪際高117.0 cm　膝張112.5 cm　膝奥89.0 cm
作品概要	半丈六の大きさをほこる如来坐像である。頭・体幹部は両耳後方を通る線で前後に矧ぐが、前面部は縦一材から彫成する。両手首先及び背面の大半は近代以降の後補となるが、前面部は当初部分をよく残す。また後頭部及び両脚部は同時期12世紀の別作例のものを矧ぎ付けるが、ほとんど違和感はない。大きくて丸い頭部、細長い目、短い鼻、小さな口で構成される穏やかな表情、充実した張りとボリュームを示す胸部の肉体表現、整然と流れる衣文表現など、平安時代後期木彫仏の特徴が顕著である。衣文の隆起はやや強く、自在に流れており、定朝様作品の浅く平行に整えられたものとは異なる作風がみられることから、制作時期は定朝様から展開した12世紀と考えられる。		

＜金工＞（1件）

5　名称	霰地真形釜欠風炉（あられじしんなりがまかけふろ）	品　　質	鉄製鋳造
作 者 等	芦屋	員　　数	1口
時　　代	室町時代・15世紀	寸 法 等	総高25.2 cm　羽径39.6 cm
作品概要	筑前芦屋（現 福岡県遠賀郡芦屋町）で制作された霰地真形釜を風炉に改作したもの。後代に釜底が破れて底が付け替えられた後、風炉として底部に如意頭形の脚を3つ設け、更に胴の上部を意図的に打ち欠いた欠風炉(ｶｹﾌﾛ)の姿をとる。胴の付け根から伸びる羽は鐶羽(ｼｺﾛﾊﾞ)で、羽先を玉縁状に仕上げる。太い真鍮鐶を通した左右の鐶付は大ぶりで、喉や顎先が厳つい鬼面をなし、大きく打ち返した鼻先や盛り上がった眉間や目と相まって、非常に雄勁である。鬼面の鐶付や胴部に巡らした羽からみて、制作当初は芦屋釜のなかで最も基本的な形である真形釜であったことは確実である。なお、肩あたりの割れ口で測る胴部断面の厚みは、最も薄い部分で2.3mmしかなく、大型の釜としては驚異的な薄さを誇る。		

＜刀＞（1件）

6　名称	刀　無銘則房（かたな　むめいのりふさ）	品　　質	鎬造、庵棟
作 者 等	則房	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	全長87.3 cm　刃長69.5 cm　茎長17.9 cm　鋒長3.3 cm　刀身反2.7 cm
作品概要	大摺上無銘ながらその傑出した作行から、備前国の福岡を拠点に作刀を行った一文字派の代表的刀工、則房の作と極められた刀。やや寸の詰まった猪首(ｲｸﾋﾞ)風の中鋒。茎(ﾅｶｺﾞ)は大きく摺上げ、姿は現状中程で反る。鍛は杢目に板目、肌立って地景入る。匂の上にごく微細な沸を振りまく。刃文は焼の高い逆足の入った重花丁子。物打付近には飛焼あり。鎬地あたりで乱映りが淡く立つ。帽子は乱れ込み、やや尖りごころに小丸に返る。刀身彫物は、表裏とも棟側にごく僅かな縁が残る片チリの棒樋を茎尻まで掻き通す。本品に添えた鎺は格調高い二重の金鎺であり、三つ葉葵を精緻に透彫していることから、徳川将軍家ゆかりの一口として伝世したことを想定しうる。		
指　　定	国宝		

＜陶磁＞（15件）

7　名称	染付丸文壺（そめつけまるもんつぼ）	品　　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀前半	寸 法 等	口径9.4 cm　高台径8.4 cm　高22.5 cm
作品概要	初期伊万里の壺。全体にとろみのある釉薬がややまだらにかかり、高台には砂が付着している点など、典型的な初期伊万里の特徴を示す。一方で安定した器形や発色の良い呉須から、創始時よりも技術がやや進展した頃の製品と考えられる。本作品と類似する丸みのある壺で、1630-40年代の製品とされる作品が佐賀県立九州陶磁文化館に所蔵されており、本作品は同時期に作られた可能性が高い。		

8　名称	染付瓢形大瓶（そめつけひさごがたたいへい）	品　　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀後半	寸 法 等	口径8.7 cm　高台径10.4 cm　高41.5 cm
作品概要	伊万里焼の染付の大瓶。染付磁器は草創期から江戸時代を通じて生産が続き、その間に様々な様式展開が見られた。特に、欧州輸出向けと国内市場向けと受容者の文化の違いに応じて、異なる様式展開がなされていった。本作品は、胴部にひまわりのような文様と頸部には芭蕉文が描かれ、非常にエキゾチックな印象を与える。高さも40cmを超える大型で、このような製品はヨーロッパ輸出向けとして、1660-70年代に製作されたもので、その中でも最上質の製品にあたる。		

9　名称	色絵花盆文大皿（いろえかぼんもんおおざら）	品　　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　　数	1枚
時　　代	江戸時代・18世紀後半	寸 法 等	口径42.8 cm　高7.4 cm
作品概要	伊万里・金襴手様式の大皿。赤・緑・紫・金の上絵具を用いて、丁寧に様々な文様を描き込む。見込の花盆文は17世紀末から18世紀にかけて、伊万里焼のみならず中国の五彩にもよく描かれた文様である。一方で、冊子や虫籠文など和風の文様を取り入れており、これらの文様は18世紀以降の製品によく見られる。1690-1730年代に、ヨーロッパ市場向けに作られた製品で、類品がヨーロッパの城館等に伝わる。金襴手様式を代表する作品として非常に貴重である。		

10　名称	青磁草花文水指（せいじそうかもんみずさし）	品　　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀前半	寸 法 等	口径11.0 cm　高台径10.4 cm　高17.5 cm
作品概要	初期伊万里の青磁水指。初期伊万里のうち、青磁製品は1630年代頃に生産が開始された。磁器の素地で成形したものに、白磁製品よりも釉薬中の鉄分含有量の多い釉薬をかけて青緑色に発色させたもので、薄い緑色を呈す特徴がある。水指は伊万里焼草創期より生産されていた器形で、当時、中国の古染付や祥瑞の水指が請来されていたため、その代替品としての需要があったと推察される。本作品は、1630-40年代に生産されたものと考えられる。		

11　名称	染付宝文皿（そめつけたからもんざら）	品　　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　　数	5枚
時　　代	江戸時代・17世紀前半	寸 法 等	（各）口径14.3 cm　高台径5.5 cm　高3.6 cm
作品概要	初期伊万里の同様の器形・意匠の5枚組の染付皿である。全体にとろみのある釉薬がまだらにかかり、高台には砂が付着している点など、典型的な初期伊万里の特徴を示す。一方で安定した器形や発色の良い呉須から、創始時よりも技術がやや進展した1630-40年代に生産されたものと考えられる。また、法螺貝文と帆立貝と思われる文様や蓮弁文は、明末頃の中国磁器に描かれた宝文に倣ったもので、初期伊万里が中国の青花磁器を目指していたことを示す貴重な作例といえる。初期伊万里の皿が5枚揃いで伝わった点も非常に貴重である。		

12　名称	染付山水文皿（そめつけさんすいもんざら）	品　　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　　数	5枚
時　　代	江戸時代・17世紀前半	寸 法 等	（各）口径13.5 cm　高台径4.5 cm　高2.7 cm
作品概要	初期伊万里の同様の器形・意匠の5枚組の染付皿である。全体にとろみのある釉薬がまだらにかかり、高台には砂が付着している点など、典型的な初期伊万里の特徴を示す。一方で安定した器形や発色の良い呉須から、創始時よりも技術がやや進展した1630年代-40年代に生産されたものと考えられる。また、山水文と如意頭文は中国の伝統的な文様で、明末清初の中国磁器にもよく描かれていたもので、初期伊万里が中国の青花磁器を目指していたことを示す貴重な作例といえる。		

13 名称	白磁花形皿（はくじはながたさら）	品　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　数	5枚
時　代	江戸時代・17世紀前半	寸 法 等	（各）口径36.0 cm　高台径23.4 cm　高7.2 cm
作品概要	型打成形で花形とした5枚組の皿である。やや青みのある素地の全体にとろみのある透明な釉薬がまだらにかかり、高台には砂が付着している点など、典型的な初期伊万里の特徴を示す。一方で型打成形による安定した器形から、創始時よりも技術がやや進展した1630年代-40年代に生産されたものと考えられる。見込には焼成時の灰と思われる降り物が見られる。初期伊万里の皿が5枚揃いで伝わった点も非常に貴重である。		

14 名称	瑠璃青磁捻花文瓶（るりせいじねじはなもんびん）	品　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　数	1口
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	口径3.4 cm　高台径9.2 cm　高24.0 cm
作品概要	初期伊万里のうち、青磁製品は1630年代頃に生産が開始された。磁器の素地で成形したものに、白磁製品よりも釉薬中の鉄分含有量の多い釉薬をかけて青緑色に発色させる。瑠璃釉は、透明な釉薬に呉須を混ぜて作った藍色の釉薬をかけた製品で、創始時より作られた。本作品は、作為的に、口縁から肩までに瑠璃釉を、肩の端部から底部まで青磁釉をかけ分けた瓶である。箆彫りの文様は、中国の祥瑞によく描かれた捻花文が崩れたものであろう。厚めにかけられた釉薬や、全体に見られる貫入、高台付着する砂など以上の特徴から、17世紀中期の1640-70年代に生産されたものと考えられる。		

15 名称	色絵草花文ケンディ（いろえそうかもんけんでぃ）	品　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　数	1口
時　代	江戸時代・17世紀後半	寸 法 等	口径5.0 cm　高台径9.8 cm　高22.0 cm
作品概要	ケンディは有田が輸出時代を迎えた頃に生産された水注で、kundicaというサンスクリット語で水差しを表す用語に由来し、元々はインドで用いられていたものが、マレーシアやインドネシア地方に伝わり、定着したと言われる。主に東南アジアで需要のあった製品である。持ち手がないのが特徴で、上部の口から液体を入れて、側面の注口から口に注いで使用するという。本作品は、初期の色絵に比べて、黄・緑・青を中心とする鮮やかな色調の上絵具が用いており、1670-90年代に作られた柿右衛門様式の前段階の色絵磁器にあたる。伊万里焼が東南アジアでも需要のあったことを示す貴重な作例である。		

16 名称	色絵紅葉鹿文鉢（いろえもみじしかもんはち）	品　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　数	1口
時　代	江戸時代・17世紀後半	寸 法 等	口径21.5 cm　高台径10.5 cm　高8.4 cm
作品概要	伊万里焼の色絵磁器。乳白色の素地に、見込に草花文・蝶文を、側面に紅葉文・鹿文を、黒と赤の線描に、赤・黄・緑・青の上絵具で描く。高台畳付は幅広で角が丸みを帯びており、高台内のハリ支えも小さく、柿右衛門窯製の特徴を示す。類品がヨーロッパの城館や美術館に所蔵されている。典型的な柿右衛門様式磁器として貴重な作品である。		

17 名称	白磁稜花小鉢（はくじりょうかこばち）	品　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　数	10口
時　代	江戸時代・17世紀後半	寸 法 等	（各）口径9.5×9.7 cm　高台径3.8 cm　高6.5 cm
作品概要	伊万里焼の白磁。先端が尖った8弁の稜花形の小鉢で、17世紀後半の製品と思われる。1650-60年代製とされる類品が佐賀県立九州陶磁文化館に所蔵されており、こちらの口縁は7弁である。共箱に墨書で「朝顔ちょく」とある。江戸時代に本作品のような器形が「朝顔」と呼ばれていたことが示唆され、貴重な資料である。		

18 名称	染付鳥牡丹唐草文大皿 （そめつけとりぼたんからくさもんおおざら）	品　質	磁器
作 者 等	伊万里（有田）	員　数	1枚
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	口径57.2 cm　高台径33.3 cm　高11.2 cm
作品概要	伊万里焼の染付磁器。染付の大皿はアジアやヨーロッパ輸出用に17世紀中葉を中心に大量に作られ、江戸後期になると、国内で料亭などが増えたことにより宴会における需要が高まり、大量に生産された。本作品も江戸後期の18世紀後半から19世紀前半頃の製品と考えられる。裏面に描かれている蛸唐草文は、幕末には手を抜いて簡素化されるが、本作品では丁寧に描き込まれている。この時代の染付大皿のなかでも、緻密で丁寧な絵付が施されているため、高級品であったと考えられる。牡丹唐草で地を埋めた類品が佐賀県立九州陶磁文化館に所蔵されるが、鳥文と牡丹唐草を組み合わせた意匠は珍しい。江戸後期に生産された染付大皿の優品として貴重である。		

19 名称	白釉緑褐彩壺（はくゆうりょくかっさいつぼ）	品　質	白釉緑褐彩陶
作 者 等	中国・四川省邛崍窯	員　数	1口
時　代	中国　唐-五代十国時代・9-10世紀	寸 法 等	最大径18.0 cm　高17.6 cm
作品概要	中国四川省の邛崍(ｷｮｳﾗｲ)窯址では、唐時代から五代十国時代にかけて透明釉の下に絵付けされた陶器が盛んに作られた。白い化粧土の上で緑・黄色・褐色に発色する絵付けが唐三彩を髣髴とさせることから、「邛崍三彩」とも呼ばれる。しかし、透明釉の下に絵付けを施す工芸技法は唐三彩より、むしろ長沙窯との類似が指摘されている。本作は日本で稀有な邛崍三彩の好例である。白化粧を二重にかけ、その上に草木の絵付けを施す。絵付け後に黄色味を帯びた透明釉をさらにかける。高温で焼成され、素地は硬い。釉裏に施された絵付け、実用に耐えうる素地の硬さは、大部分が墓への副葬という非実用的な目的で作られた唐三彩と異なり、新しい時代の様相をたたえる。		

20 名称	白磁龍耳瓶（はくじりゅうじへい）	品　質	白釉陶
作 者 等	中国・華北	員　数	1口
時　代	中国　唐時代・7世紀	寸 法 等	幅27.0 cm　高52.3 cm
作品概要	平底で卵形の胴部に細くくびれた頸部がつき、左右に龍頭形の把手をともなう。龍は頭を垂れ、盤状の口縁部を咬んでいる。頭頂部には耳・角・鬣が精緻に表現されている。龍頭形の大ぶりの把手は実用に不向きであり、本作は墓に副葬するための明器として作られた可能性が高い。硬い素地の表面に白化粧を施し、口縁部から胴部にかけて青味を帯びた透明釉をかけている。龍耳瓶の器形は西アジアのアンフォラ形のガラス器に影響を受けて成立したと考えられる。三彩の例も多く知られているが、出土例の年代と龍の形態を見る限り、白釉・白磁の龍耳瓶のほうが早く、その時期は初唐に集中している。西域との交流が盛んだった唐代の国際色豊かな文化を象徴する器種のひとつである。		

21 名称	加彩貼花獣面文壺（かさいちょうかじゅうめんもんこ）	品　質	加彩陶
作 者 等	中国	員　数	1口
時　代	中国　唐時代・7-8世紀	寸 法 等	幅25.0 cm　高37.2 cm
作品概要	肩部から胴部にかけて複雑な装飾をもつ壺である。突帯を縦横に貼りつけて肩部と胴部を各6面に区画し、それぞれの区画内に獅子のような動物の顔や連珠文を貼花で飾る。動物の下顎の左右には窪みがあり、そこに別作りの環をもともと嵌めていた可能性がある。突帯が交わる箇所には、球形の装飾とパルメットを象った立体装飾を交互に配する。表面全体に下地とその上に彩色を加えていたが、パルメット装飾の一部を除いて大部分が剥落している。全体の器形や貼花による装飾意匠が盛唐の出土品に類例があるため、同時期の製作と考えられる。余りに繁縟な装飾は本作が実用品ではなく、葬送儀礼などの非日常的な用途に供された特殊な壺であったことを示している。		

＜漆工＞（1件）

22　名称	牡丹螺鈿長方盆（ぼたんらでんちょうほうぼん）	品　質	木製漆塗
作 者 等		員　数	1枚
時　代	14-15世紀	寸 法 等	縦35.2 cm　横16.1 cm　高3.1 cm
作品概要	木製漆塗、長方形の盆で口縁と見込の周縁には、金属製の縁線をめぐらす。総体黒漆塗の地に鮑貝を用いた螺鈿の技法で、見込には大きな花を開かせた二輪の牡丹花を表わし、立ち上がりにはそれぞれ、両左右端を如意頭形とした窓枠を設けて、内部には牡丹、菊、梅などの花唐草文を配し、外部には六弁花入亀甲文を表わす。花弁や枝には発色を意識した貝の使い分けが認められ、花弁や枝にも細やかな毛彫りをほどこすなど細緻な表現を見せている。日本には、本品のような中国製の小形の盆が数多く伝来しており、形状、文様、技法ともにさまざまなバリエーションが認められるが、なかでも長方盆は、書院床で巻物を載せる盆として用いられた。		

＜染織＞（6件）

23　名称	白地立木文様更紗掛布 （しろじたちきもんようさらさかけぬの）	品　質	木綿単糸平織、媒染模様染め（木版）・蠟防染模様染め（手描き）、片面染め
作 者 等	インド・コロマンデル海岸	員　数	1枚
時　代	18世紀	寸 法 等	縦204.5 cm　横133.5 cm
作品概要	イスラーム文様を表わす大判の更紗。中心区画はイスラーム建築の壁龕様の枠を設け、内側には山形の土坡を魚鱗葺に重ねた大地と、先端の尖った立木を表わす。立木の周囲の空間にも鋸歯状の多弁花と花唐草を充填し、立木を中心に獅子、孔雀、尾長鶏、鸚鵡、栗鼠などを左右対称に描き、上方にはアラビア文字を記した題箋を表わす。中心区画を囲む枠取り部分には曲線を描く唐草と大輪の花を配し、上部帯枠内中心には半裁形の太陽と剃髪で顎髭をたくわえた男性の顔を表わす。		

24　名称	花束人物文様更紗縫合厨子掛 （はなたばじんぶつもんようさらさぬいあわせずしかけ）	品　質	木綿単糸平織、媒染模様染め・蠟防染模様染め（銅版）
作 者 等	ヨーロッパ、インド	員　数	1枚
時　代	18世紀	寸 法 等	縦77.5 cm　横120.5 cm
作品概要	表地に銅版の西洋更紗、裏地に茜地の鬼手更紗をあわせた掛物。表面の天板部分には大きな花束文様と、その両脇に小さな花束連続模様に青色の帯と紫色のレース飾り風の鋸歯文を添えた銅版更紗をあしらい、別裂で中国風の人物や風景を赤色で摺り出した更紗とを交互に配す。本作に見られる花束文様や、シノワズリ（中国趣味）文様は、どちらもヨーロッパで好まれたモティーフである。裏地に使用されている茜地木綿は、インド製の木綿で、表地と裏地を縫い合わせている縫い糸や襞飾りの縁取りに用いられている木綿も同様であることから、仕立てはインドで行われたと考えられる。		

25　名称	縹地火焔形花弁文様更紗 （はなだじかえんけいかきもんようさらさ）	品　質	木綿単糸平織、媒染模様染め・蠟防染模様染め（木版、手描き）、片面染め
作 者 等	インド・コロマンデル海岸	員　数	1枚
時　代	18世紀-19世紀	寸 法 等	縦398.0 cm　横226.0 cm
作品概要	薄手の木綿生地を2幅縫い合わせた大判の更紗。縹地に火焔形花弁文を主文とし、周りに4弁の花弁文を菱繋ぎに連ねる。中央部の天地には先端が糸目状に伸びた火焔形花弁文を配した区画を端から茜、茶、黄色地の3段に表わし、蠟防染で白抜きされた細線（白糸目ともいう）で細かな文様をあらわした典型的な「暹羅手(ｼｬﾑﾃﾞ)」の更紗である。		

26　名称	藍地花旭日文様更紗 （しろあいじはなきょくじつもんようさらさ）	品　質	木綿単糸平織、媒染模様染め・蠟防染模様染め（手描き）、両面染め
作 者 等	インド・コロマンデル海岸	員　数	1枚
時　代	18世紀(1760年代)	寸 法 等	縦203.2 cm　横265.0 cm
作品概要	木綿布2幅を縫い合わせた大判の布の中央に鮮やかな茜地の旭日文を染め抜き、その周辺は藍色の縄目模様を地模様に茜色の花模様を散らす。布の端一箇所に1760年代（一の位は判読不可）のVOCマークが捺印される。大型の布の中央に菱形や楕円形の無地や別文様の空間をつくる意匠構成は、ジャワ更紗の典型的様式のひとつでドドットと称される王侯貴族の婚礼用の腰布にみられるもので、本品はジャワやスマトラ向けに制作されたインド更紗であると考えられる。		

27　名称	白地メダイヨン花鳥唐草文様更紗敷布（しろじめだいよんかちょうからくさもんようさらさしきぬの）	品　質	木綿単糸平織、媒染模様染め・蠟防染模様染め（木版、手描き）。
作 者 等	インド・コロマンデル海岸	員　数	1枚
時　代	19世紀-20世紀	寸 法 等	縦138.0 cm　横96.0 cm
作品概要	表地は方形の区画を設け、万華鏡のように多角形を組合わせたメダイヨンを中心や四隅に配し、その間隙に小型の多角形や様式化の進んだ草花文様を充填した「ペルシャ向け更紗」。裏地には桃色の輪繋ぎと花葉模様を縞状に配した木版西洋更紗を縫い合わせ、縁には黄緑の房をつけたフリンジテープを縫いつけている。イスラーム圏で好まれた更紗の典型作であり、礼拝時の敷布としてその用途も明らかな好例といえる。		

28　名称	白地アラベスク壁龕立木文様更紗掛布（しろじあらべすくへきがんたちきもんようさらさかけぬの）	品　質	木綿単糸平織、媒染模様染め・蠟防染模様染め（木版、一部手描き）
作 者 等	インド	員　数	1枚
時　代	19世紀-20世紀	寸 法 等	縦132.0 cm　横106.0 cm
作品概要	表地は木版捺染でイスラーム建築の正面を表わす更紗。凸形の建築模様の中心には方形の区画に壁龕を表わし、その内側には花唐草を基調としたアラベスク模様を埋め尽くし、龕の頂には双頭の鳥を、その下方左右には孔雀を描く。建築の中心に描かれる壁龕は、イーワーンと呼ばれるイスラーム建築の正面に設けられる空間を表わしたものと考えられる。両脇のやや高い柱状の表現は、ミナレットを思わせる。糸杉ともペイズリー形ともいえる立木、鋸歯状の花弁や葉の花唐草文様、さらにアラビア文字をあしらった題箋など、イスラーム圏で好まれる模様を染め出した「ペルシャ向け更紗」の典型作で、日本では「聖殿文(ｾｲﾃﾞﾝﾓﾝ)更紗」として知られる。		

＜考古＞（72件）

29　名称	鉢形土器（はちがたどき）	品　質	土製
作 者 等	伝福岡県久留米市荒木町出土	員　数	1点
時　代	縄文時代・1万年前-6000年前	寸 法 等	直径14.0 cm　高12.0 cm
作品概要	押型文と呼ばれる彫刻した丸棒による回転押捺文を持つ小型の尖底土器。器壁は厚く、口縁部はやや外反する。押型文は粗大な楕円形で、外面全面と口縁部内面に施される。これらの特徴から、本品は縄文時代早期の押型文土器と考えられる。押型文土器は、この時期の日本列島全域で広域展開する特徴的な土器であり、特に出土が伝えられる地域が属する北部九州では遺跡が集中しており、中心地域の一つであったと思われる。小型ながら完形である点は希少である。		

30　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝青森県八戸市是川出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・6000年前-5000年前	寸 法 等	口縁部径33.0 cm　底部径16.5 cm　高50.0 cm
作品概要	底部から口縁部に向って直線的にやや開く円筒形の土器。上面観は楕円形。口縁部に縄文の押圧による大振りな三角文が6単位で施される。頸部以下全面には羽状縄文と呼ばれる矢羽状の縄文が8段ほど施されている。これらの特徴から、本品は縄文時代前期後半の東北北部に分布する円筒下層式土器と考えられる。特に羽状縄文が美しい。		

31　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝青森県三戸郡三戸町泉山出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	口縁部径45.0 cm　括れ部径38.0 cm　底部径20.0 cm　高55.0 cm
作品概要	胴部が口縁部に向って直線的に弱く開き、頸部付近で屈曲して外反する深鉢形の土器。上面観は楕円形。口縁部から胴部上半2分の1までを隆線を用いて三角形や長方形に区画し、区画内に縄文の押圧によるC字文を連続して施す。これ以下の胴部には結び目のある羽状縄文が7段ほど施されている。これらの特徴から、本品は縄文時代中期の東北北部に分布する円筒上層式土器と考えられる。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする頸部付近が大きく括れ、過剰に装飾された土器が各地で大流行した。本品の器形はその影響を受けたものとみられ、過剰装飾土器の地域性と広がりを考える上で貴重である。		

32　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝茨城県下妻市出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	最大径51.0 cm　括れ部径20.0 cm　底部径12.0 cm　高64.0 cm
作品概要	頸部付近が大きく括れ、口縁部に4つの箱形の大把手とその間に4つの小把手が均等に配された深鉢形土器。大把手は、沈線による縁取りのある円形の窓枠状の透かしを複数持ち、小把手には沈線による渦巻文が見られる。把手の下段には隆線による長方形・正方形区画を1段廻らせる。胴部は縄文を地文とし、沈線による懸垂文がみられる。これらの特徴から、本品は縄文時代中期の東関東に分布する加曽利Ｅ式土器と考えられる。この時期の日本列島では新潟の火焔型土器をはじめとする過剰装飾土器が各地で大流行したが、本品はその地域性を考える上で貴重である。		

33　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝茨城県行方郡旧潮来町出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	最大径54.0 cm　括れ部径28.0 cm　底部径17.0 cm　高68.0 cm
作品概要	頸部付近が大きく括れ、口縁部に4つの箱形の大把手が均等に配された深鉢形土器。大把手は、対面する1対は円形の窓枠状の透かしを複数持ち、もう1対は鶏冠状の頂部で土器内面側に横位の逆S字文を持つ。口縁部から頸部にかけて同心円状に広がる沈線文を、胴部には縄文を地文とする沈線による懸垂文がみられる。これらの特徴から、本品は縄文時代中期の栃木県北部を中心に分布する浄法寺タイプの土器と考えられる。このタイプの土器は、東関東の加曽利E式土器が新潟の火焔型土器の影響を受けて成立したと考えられており、両文化圏の交流を物語る。この時期の日本列島では過剰装飾土器が各地で大流行したが、本品はその地域性と交流を考える上で貴重である。		

34　名称	鉢形土器（はちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝茨城県旧真壁郡出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	口縁部径41.0 cm　括れ部径33.0 cm　胴部径37.0 cm　底部径8.5 cm　高29.0 cm
作品概要	頸部付近が大きく括れ、部分的に赤彩された鉢形土器。頸部には3本の平行沈線を廻らせ、胴部には撚糸文を地文とし、上半に2本の蛇行沈線を、中央に2本の平行沈線を廻らせる。口縁部の内面および外面、頸部および胴部の沈線間には赤彩が施される。これらの特徴から、本品は縄文時代中期の東関東に分布する加曽利Ｅ式土器と考えられる。この時期の日本列島では新潟の火焔型土器をはじめとする過剰装飾土器が各地で大流行したが、本品はその地域性や表現手法の多様性を考える上で貴重である。		

35　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	静岡県伊豆の国市仲道A遺跡出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	口縁部径41.0 cm　括れ部径33.0 cm　胴部径37.0 cm　底部径8.5 cm　高29.0 cm
作品概要	キャリパー形と呼ばれる頸部付近が大きく括れる形態の深鉢形土器で、胴部が1対の大きな蛇状の文様で装飾される。口縁部は内湾し、水平口縁で無文。頸部に4本の隆線を巡らせ、その上に4本の蛇行隆線を重ねる。胴部は縦方向の集合沈線を地文とし、隆線による直線、曲線、蛇行線、渦巻を組み合わせ、1対のU字形の蛇状文様を含む懸垂文を大きく描く。これらの特徴から、本品は縄文時代中期後半の山梨県とその周辺に分布する曽利式土器と考えられる。この時期の日本列島では新潟の火焔型土器をはじめとする過剰装飾土器が各地で大流行したが、本品はその地域性を考える上で貴重である。		

36　名称	注口土器（ちゅうこうどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝青森県八戸市是川遺跡出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	口縁部径7.8 cm　括れ部径10.5 cm　胴部径21.0 cm（注口部及び突起部除く）　底部径5.0 cm　高22.0 cm
作品概要	土瓶型の大型注口土器。丸く膨らんだ胴部に、内傾する口縁部を持つ。黒色磨研による表面仕上げ。縄文部と無文部とを沈線によって区分けする磨消縄文と呼ばれる手法を用い、外面全面に大振りな雲形の文様を施す。縄文は羽状縄文。胴部には注口部と同じ高さの位置に、先端に刻みのある突起を注口部の対面および左右の中央に計3個配す。これらの特徴から、本品は縄文時代後期後半の東北に分布する瘤付土器と考えられる。注口土器は、その形態から水や酒等の液体を用いた儀礼に使用されたと考えられる土器であり、縄文時代の儀礼を考える上で重要である。		

37　名称	皿形土器（さらがたどき）	品　　質	土製
作 者 等	伝青森県つがる市木造亀ケ岡出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	口縁部径26.0 cm　底部径15.5 cm　高4.0 cm
作品概要	口縁部に5単位のリボン状の突起を持つ皿形の土器。突起の間には、9個前後の短沈線が連続する。外面は口縁部に2本、底部との境界に3本の沈線を廻らせ、その間に縄文部と無文部を沈線によって区分けする磨消縄文と呼ばれる手法を用い、6単位で雲形文を施す。内面の立ち上がり部には、縄文のある1条の隆線が廻る。文様は精緻で、器面はよく研磨され光沢を持ち、内外面全面には点々と赤彩の痕跡が残る。これらの特徴から、本品は縄文時代晩期の東北に分布する亀ヶ岡式土器（大洞式土器）と考えられる。亀ヶ岡文化では、多様な形態を持つ精巧な作りの小形土器が多数製作されており、本品はこの文化の特徴をよく示す土器である。		

38　名称	広口壺（ひろくちつぼ）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	弥生時代・紀元前2世紀	寸 法 等	最大径34.0 cm　高45.0 cm
作品概要	弥生時代中期の近畿地方にみられる典型的な形態の広口壺である。頸部が伸長して大きく朝顔形に開く点が特徴である。この形態の広口壺が使われた時代の近畿地方は、奈良盆地や大阪平野で拠点的な環濠集落が発達し、集落間の物資流通が活発化した。近畿地方の弥生文化の最盛期に該当する。また、甕棺や丹塗で飾られた土器が盛行する九州と好対照を成している。弥生時代の土器や地域文化の多様性を語る上で、欠くことのできない資料である。		

39　名称	壺（つぼ）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	弥生時代・2世紀	寸 法 等	最大径60.0 cm　高53.0 cm
作品概要	弥生時代後期の大型の壺で、凸帯や櫛描による簡素な施文を特徴とする。出土地不詳だが、形態的特徴から東海地方東部の土器と考えられる。西日本では、弥生時代後期以降に土器は無文化、小型化するが、本例はそれとは逆行する。このような大型の壺は、小児や二次葬に用いられることが多く、壺棺であった可能性もある。弥生時代の埋葬法は、中期までは甕棺や木棺など多様な展開をみせ、後期に木棺へと収斂していくが、本例はそのような埋葬法の多様性を示す資料としても貴重である。弥生時代の土器の多様な展開を示す、重要な位置を占める資料である。		

40　名称	鞍橋金具（くらぼねかなぐ）	品　　質	鉄地金銅張
作 者 等		員　　数	1背
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	前輪：長29.5 cm　高16.5 cm　厚2.8 cm　中央高3.5 cm 後輪：長45.9 cm　高17.2 cm　厚8.2 cm　中央高1.4 cm
作品概要	鞍橋金具は鞍の両面を飾る金属製の装飾である。前輪と後輪だけがあり海金具の無い磯金具のみの型式である。後輪は遺存状態が悪く、磯金具が縁金具より脱落する。前輪には鞍金具が無い。金具を鞍に固定する鋲には頭に金銅板を被せる。本品の型式学的な特徴から6世紀後半に製作された推定される。当時の古墳被葬者が愛好した飾り馬のイメージをうかがい、日本列島内に乗馬の風習が広く普及していたことを示すうえで、欠くことのできないものであると同時に、対外交流を物語る考古資料としても非常に貴重なものである。		

41　名称	長方形鏡板付轡（ちょうほうけいかがみいたつきくつわ）	品　　質	鉄製（引手・銜）および金銅製（鏡板）
作 者 等		員　　数	1背
時　　代	古墳・飛鳥時代・6-7世紀	寸 法 等	長15.5 cm　幅10.3 cm　厚1.4cm　引手片長8.9 cm　幅3.8 cm 鏡板幅8.4 cm　幅3.9 cm　厚0.4 cm
作品概要	轡とは馬の口にはめて制御するための銜と、その銜がぶれないように馬の頬の両側に嵌めた鏡板から構成される馬具の一種である。鏡板は金銅製で幾何学文を毛彫りで表すが、文様の詳細は判然としない。引手は「く」の字引手で銜と鏡板の内側で連結する。銜は著しい錆のために断裂し、全形をうかがえない。飛鳥時代を特徴づける型式の轡と見られる。とくに毛彫り文様が表されたことは、馬具工人が当時広がりはじめた仏教工芸の影響を受けたものとみられ、古墳時代から飛鳥時代へ移行する金工技術の変遷をうかがううえで、非常に貴重な考古資料とみることができる。		

42　名称	鉄刀（てっとう）	品　　質	鉄製
作 者 等	伝茨城県桜川市岩瀬出土	員　　数	1振
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	全長50.8 cm　刀身長39.8 cm　茎長9.6cm　鍔幅4.1 cm　関幅3.8 cm
作品概要	刀身・鍔とも鉄製で柄は錆化のためわずかに木質をとどめる。鎺および柄元の金具が一部遺存する。刀身は切先に向かって身幅を減じ、ふくらを持つ両関のもので、茎の中央近くに目釘1ヶ所が残る。鍔は卵形に近い円形で無窓、鎺ならびに柄元金具は遺存が良好ではない。古墳時代の刀は弥生時代に比して長大で装飾性が増し、出土数も格段に増える。本品は朝鮮半島や中国からの影響が少ない、いわゆる倭装大刀で古墳時代後期に製作されたものである。出土地と伝えられる付近には数多くの古墳が現在も点在しており、本品は古墳時代後期の地域首長墓の副葬品として相応しい。		

43　名称	金環（きんかん）	品　　質	銅芯金貼
作 者 等	伝茨城県桜川市岩瀬出土	員　　数	2点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	1：長径4.5 cm　短径3.5 cm　厚0.8 cm　2：長径4.5 cm　短径4.0 cm　厚0.9 cm
作品概要	わずかに形状が異なるが、一対として作られた耳に装着するための装身具。金の遺存が良好なものと、破れて銅芯が露出したものがある。C字形に曲げた端部には金板を纏めた痕跡が見られる。日本列島の金属製耳飾による身体装飾の文化は、弥生時代に見られるが古墳時代前期には途絶する。古墳時代中期に再び登場したのち、後期には爆発的に盛行し人物埴輪の中に装着した事例もある。本品も6世紀後半に製作されたとみられ、同じ出土地の鉄刀と共伴したとみて差し支えない。		

44　名称	f字形鏡板付轡（えふじがたかがみいたつきくつわ）	品　　質	鉄地金銅張
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	左：長18.7 cm　幅7.7 cm　厚3.7 cm　右：長18.8 cm　幅8.9 cm　厚4.2 cm
作品概要	轡を構成するf字形鏡板のみの破片である。銜が失われて分離しているが、同一個体である。引手と銜は鏡板の内側で連結し、銜の端環は鏡板の外側に露出する。鉄地の上に飾り板を重ね、鍍金が施される。この型式の鏡板は5世紀後半に登場し、時期が下ると飾り鋲が密に打たれる。馬形埴輪の中にも同種の鏡板を表したものがあり、古墳時代中～後期に広く普及した装飾馬具である。日本列島における乗馬の風習の広がりや首長層が愛好した馬事文化の具体的なイメージを伝える上で貴重な考古資料である。		

45　名称	杏葉（ぎょうよう）	品　　質	鉄地金銅張
作 者 等		員　　数	3点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	楕円形：幅7.8 cm　高7.5 cm　厚1.6 cm　花形：高8.8 cm 幅8.7 cm　厚0.8 cm　鐘形：高10.9 cm　幅7.8 cm　厚1.4 cm 吊舌：長4.5 cm　幅1.7 cm　厚1.5 cm
作品概要	杏葉とは馬の胸や尻に革紐で垂下して飾る金具である。3点あり、楕円形杏葉、花形杏葉、鐘形杏葉である。楕円形杏葉は金銅装だが立聞を欠き周縁に沿って密に丸鋲を打つ。花形杏葉は中央に大振りの円、周囲に小さな円を7つ配列する。鐘形杏葉は中央に円を表し十字文を配したモチーフである。いずれも6世紀後半～7世紀に製作されたと推定される。古墳時代から飛鳥時代にかけての工芸意匠の変遷や金工技術の推移を見せる上で欠くことのできない考古資料である。		

46　名称	辻金具（つじかなぐ）	品　　質	鉄地金銅張
作 者 等		員　　数	3点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	1：長12.1 cm　幅9.0 cm　鉢径6.2 cm　高2.4 cm　2：長12.5 cm　幅12.7 cm　鉢径7.4 cm　高2.4 cm　3：径7.2 cm　鉢径4.9 cm　高3.4 cm
作品概要	辻金具は飾り馬を形作る際、装飾馬具を革で垂下する場合に欠かせない金具である。3点のうち2点はほぼ同一で1点は全く異なる。前者は有脚式の辻金具で、扁平で低い鉢の周囲には四脚が付き、基部に長方形で爪を持つ責金具で帯を掴む。脚は個別に鍍金された鉄鋲で固定される。後者は銀張りされた円形辻金具で鋳造された鉢には段が巡らされ、長方形孔に帯を結んで固定する。このような装飾性の高い辻金具は希少である。いずれも古墳時代の辻金具の最末期の型式と推定される。乗馬の風習の日本列島での普及を示すうえで重要なものであり、わが国における馬事文化の受容と展開をたどる上で貴重な考古資料とみられる。		

47　名称	雲珠（うず）	品　　質	鉄地金銅張
作 者 等	伝茨城県稲敷市幸田出土	員　　数	1点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	径13.2 cm　鉢径8.5 cm　鉢高3.7 cm　脚長1.9-2.2 cm
作品概要	古墳時代の馬装のうち、掛け渡した革帯の結節点を固定するための金具で6脚が遺存するが、本来は9脚の雲珠と推定される。鉢本体を鋳造して鍍金し、各脚は1鋲を打つ。鉢は基部に4条の凹線が巡る。頂部は金銅板が破れ、鉄地が露出する。脚裏面にはかすかに布圧痕を認める。本品は9脚と古墳時代雲珠の中でも大型に属し、鍍金の遺存も良好で有力な首長層の副葬品と目される。伝えられる出土地付近には現在も多くの古墳群が展開し、盟主的な位置を占める古墳から出土したものであろう。展示効果が高いだけでなく考古資料としても貴重なものである。		

48　名称	頭椎（かぶつち）	品　　質	金銅製
作 者 等	伝茨城県稲敷市幸田出土	員　　数	1頭
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	1：長10.3 cm　高7.4 cm　奥行3.9 cm　2：長9.9 cm　高7.3 cm　奥行4.7 cm
作品概要	頭椎とは古墳時代後期に登場する倭装大刀を構成する柄頭の装飾で、6世紀後半から7世紀にかけて盛行する。鋳造して成形した後に合わせ目部分が外れたものである。頭椎中央には1つの孔があり、管状の金具を貫通させていたが現在は破損している。鍍金が著しく剥落しており、銅の地金が見える部分が多い。金銅製頭椎の製作技法がよく分かる資料であると同時に展示効果も高い。古墳時代の武器の変化や刀の柄頭の展開を見せるうえで重要なものである。盟主層的位置を占める古墳から出土したとみられ、古墳文化の東方波及を考えるうえで貴重な資料である。		

49　名称	楕円形鏡板付轡（だえんけいかがみいたつきくつわ）	品　　質	鉄製（引手・銜）および鉄地金銅製（鏡板）
作 者 等	伝茨城県稲敷市幸田出土	員　　数	1点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	左：長21.4 cm　鏡板高9.8 cm　鏡板幅10.1 cm　引手長16.9 cm　右：長21.9 cm　鏡板高10.3 cm　鏡板幅10.4 cm　引手長17.4 cm
作品概要	鉄地金銅張の楕円形鏡板付轡で銜と立聞を欠損するが、轡の概形がうかがえる。鏡板は楕円形で斜格子文の透彫りの飾り板を重ねた後にメッキを施す。その後飾り板と地板とを鉄鋲で固定する。銜の端環は鏡板の外側に露出し、その部分を方形飾金具で覆う。銜と引手とは鏡板の内側で連結する。型式学的な特徴から6世紀後半に製作されたと推定される。本品は展示効果が高いだけでなく、同地出土と伝えられる雲珠とセット関係にある同一馬装を構成するもので、馬事文化の展開を示すうえで欠かせないものである。		

50　名称	頭椎大刀（かぶつちのたち）	品　　質	鉄製（刀身）および金銅製（金具）
作 者 等	伝群馬県藤岡市西平井出土	員　　数	1振
時　　代	古墳時代・7世紀	寸 法 等	全長117.0 cm　刀身長97.0 cm　茎長20.0 cm　鞘元幅3.8 cm　鍔幅9.8 cm　柄幅3.7 cm　身幅0.5 cm
作品概要	柄頭から鞘尻まですべて揃った頭椎大刀の全体像がうかがえるものとして貴重である。頭椎は銅鋳造した部品を合わせ鍍金する。柄は刻み目を施した金銅線を巻く。鍔は台形の窓6つを開け周縁は覆輪で加飾する。鎺は金銅製で鞘口は一文字。鞘中央には金銅板を巻いて加飾し、責金具を1つ付ける。頭椎大刀は6世紀後半に登場し7世紀に盛行する倭装大刀である。日本列島に広く普及し超大型の儀仗刀も作られた。本品は古墳時代から飛鳥時代にかけての頭椎大刀の全形が分かる貴重な考古資料であり、展示効果も非常に高い優れた作品である。伝えられる出土地は多くの古墳が知られ、当地域の盟主的位置にある古墳から出土したと推定される。		

51　名称	象嵌鉄刀　附　鞘（ぞうがんてっとう　つけたり　さや）	品　　質	鉄製（刀身）および銀象嵌
作 者 等	伝群馬県藤岡市西平井出土	員　　数	1振
時　　代	古墳時代・5-6世紀	寸 法 等	全長120.5 cm　刀身長88.6 cm　茎長23.3 cm　ふくら幅3.2 cm　関幅4.5 cm　茎幅2.3 cm　身厚0.7 cm　鞘最大幅7.8 cm
作品概要	銀象嵌文様を有する鉄刀身とその鞘と見られる木片が遺存する。鉄刀は大型過ぎて佩用には適さず、儀仗用である。保存修理が古く、切先が脱落する。象嵌は佩表2ヶ所と佩裏の関の目釘部分に各1ヶ所の計3ヶ所に見られる。刀身中央は切先に向かって左に魚、右にそれをついばむ鳥のような文様である。魚は鱗を表し鳥は尻尾をもった側面観である。関は目釘孔を中心に7個の突起を持つ星形文または双脚輪状文である。鞘木は外面を平滑に仕上げ、内面は刀身を受けるため段状に加工されている。本品は古墳時代中期後半～後期に製作され、銀象嵌を刀身に持つ点で非常に貴重な例である。王権の地方経営を示すものとして展示効果のみならず資料的価値も高い。		

52　名称	鉄刀身（てっとうしん）	品　　質	鉄製
作 者 等	伝茨城県土浦市出土	員　　数	1振
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	全長109.9 cm　刀身長89.3 cm　茎長20.6 cm　ふくら幅2.7 cm　関幅4.2 cm　茎端幅1.9 cm　関厚0.9 cm
作品概要	大振りの鉄刀身。刃は錆のため毀れるが切先から茎尻までが遺存する。刃の中ほどと関に近い部分が大きく欠損し、佩表の刀身は研ぎだされ、メタルが確認される。茎は身に比べて長く関と茎尻に近い部分に1孔づつ目釘孔が開けられる。柄は上縁に溝を彫り上から茎を落とし込む型式である。古墳時代の鉄刀の中には極端に長大で儀仗用の例がある。本例も栫は実用刀を踏襲するが物理的に佩用できない。出土が伝えられる付近は多くの古墳が集中することで知られ、本品も当地の盟主的な位置を占める古墳から出土したと推定される。古墳時代の鉄刀の変遷や機能を知る上で貴重な資料である。		

53　名称	鉄刀　附　鍔・鎺（てっとう　つけたり　つば　はばき）	品　　質	金銅製（金具類）および鉄製（刀身）
作 者 等	伝茨城県土浦市出土	員　　数	1振
時　　代	古墳時代・7世紀	寸 法 等	全長88.5 cm　刀身長79.7 cm　茎長8.8 cm　ふくら幅2.9 cm　関幅4.6 cm　茎端幅1.4 cm　関厚0.4cm
作品概要	金銅製の方形柄頭金具で飾られ、八窓鍔を持つ装飾付大刀である。柄木には金銅製の方頭金具が付く。この金具は列点による渦文装飾がある。鍔は薄く作られ約1/4を欠損する。鞘と鍔とは合口で組み合い、金銅製鎺金具を嵌める。鎺の切先側に足金物を1点、さらに切先との間に足金物1点を介し、責金具が付けられる。本品のような有窓の金銅製鍔を持つ装飾大刀は6世紀後半に登場し、7世紀には柄頭の形状が多様化する。足金物も腰ではなく体前に垂下させる飛鳥時代の佩刀方式への移行が見られる。これらから本品は7世紀に製作されたと推定される。古墳時代後期の刀の全形がうかがえ、律令時代の刀制へと移り変わる時期に当たる非常に重要な考古資料である。		

54　名称	圭頭柄頭付鉄刀（けいとうつかがしらつきてっとう）	品　　質	銀製（圭頭金具）および鉄製（刀身）
作 者 等	伝茨城県土浦市出土	員　　数	1振
時　　代	古墳時代・7世紀	寸 法 等	全長45.4 cm　刀身40.3 cm　柄5.1 cm　鞘幅2.9 cm　関部厚1.4 cm
作品概要	銀製の圭頭金具で飾られた大刀で切先を失う。圭頭金具は柄から外れ、柄には刻み目を持った銀線を巻く。食み出し鍔で一文字に終わる。鞘口金具にも銀板を被せていて、切先側は足金物と一体化する。柄頭、足金物と鞘尻金具は不規則な刻線で加飾されているが、何を表したか判然としない。方頭金具に銀装の栫を持った刀は6世紀末に登場し、7世紀に盛行する。本品は短刀で、副葬品に見られるのは飛鳥～平安時代である。飛鳥時代以降の装飾付大刀の全形がうかがえる資料として貴重であるだけでなく、様式の歴史的な推移を示すものとしても重要である。刻線による施文も類例が少なく注目される。		

55　名称	袋状斧形石製品（ふくろじょうおのがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	3点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	1：長5.3 cm　刃幅2.4 cm　肩幅2.4 cm　袋部径1.6 cm　厚0.8 cm／2：長7.9 cm　刃幅4.9 cm　肩幅1.9 cm　袋部径2.8 cm　厚2.9 cm／3：長9.7 cm　刃幅6.7 cm　肩幅6.8 cm　袋部径3.8 cm
作品概要	袋状斧とは、斧上部に柄を付けるための孔を開け縦斧として用いられる。本品は袋状鉄斧を、滑石を素材として模造し儀礼に用いた石製模造品である。3点あり大きさや素材に各差がある。小型の1点は袋部の表裏に懸垂のための小孔があり、側面は大きく欠損する。裏面には鉄板の合わせ目を表現し、袋部と刃部との境を段によって表現する。中型の1点はナデ肩で表面に1孔を設ける。刃部を表現し、先端は円弧を描く。大型の1点は強く肩が張り、作りも粗雑である。懸垂孔が無く、並置して使用されたと推定される。農工具形の模造品は古墳時代の石製祭器の中で最も早く登場し、古墳の儀礼の形式化を告げる象徴的な器物である。		

56　名称	短冊形斧形石製品（たんざくがたおのがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	2点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	1：長11.7 cm　頭部幅2.3 cm　刃幅4.3 cm　厚0.9 cm　2：長9.1 cm　頭部幅2.8 cm　刃幅3.1 cm　厚0.9cm
作品概要	横斧に用いられた板状鉄斧が古墳時代に大型化したものが短冊状鉄斧で、本品はこれを滑石で模造したものである。2点あり大小の別がある。大型品は灰緑色で白色の斑がある。穿孔に1度失敗し、再度隣接して穿たれている。小型品は大型品と同工だが、石質にスが多く入っているため、不整形な孔になっている。刃先は削ってていねいに仕上げる。本品は5世紀初頭に製作され、同一古墳から出土した可能性がある。石製模造品の品目には大小のペアとなる相似形態を持つものがあり、石製祭器の特徴が良く出ている。仮器を用いた儀礼を行った、古墳文化の観念に迫ることができる非常に貴重な資料である。		

57　名称	刀子形石製品（とうすがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	11点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	1類（3点）：長7.9-8.4 cm　幅1.9-2.1 cm　厚0.3 cm 2類（4点）：長3.9-4.7 cm　幅1.6-2.4 cm　厚0.2-0.4 cm 3類（1点）：長4.9 cm　幅1.9 cm　厚0.4 cm 4類（3点）：長4.3-7.2 cm　幅1.6-2.0 cm　厚0.5 cm
作品概要	11点ある刀子形石製品ですべて鞘入りの柄付の刀子を写したものである。形態的に4類に分けられる。刀子形石製品は古墳時代の石製模造品を代表し、石製模造品の中でも出土数も多く形態的なバリエーションに富む。刀子形石製品はアイヌのマキリのように刀子に聖性を認め発生したとみる見解や、多様性の背景には奉納の時期差や会葬集団の出自を表すと考えられた。本品は形態的には多彩だが、石質が共通し同一古墳の組み合わせとみて差し支えない。製作時期は5世紀前半に収まる。古墳時代の祭祀の本質をうかがう上で非常に貴重な資料で古墳文化の観念に迫れるもので、展示効果も高い。		

58　名称	剣形石製品（けんがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	2点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	1：長20.5 cm　茎長4.6 cm　ふくら幅3.9 cm　関部幅4.5 cm　茎幅2.1 cm　剣身厚11.5 cm　茎厚0.5 cm 2：長20.3 cm　茎長3.5 cm　ふくら幅2.8 cm　関部幅3.2 cm　茎幅1.9 cm　剣身厚0.6 cm　茎厚0.4 cm
作品概要	鉄剣を写した石製模造品で太身と細身の2点がある。太身の1点は、切先にふくらを持ち明確な鎬を形作る。呑口の剣を象り茎の中央やや下部には目釘孔が開けられている。やや細身の1点は茎に目釘孔が2孔開けられ、全体形状は柳葉形で切先ほど鎬がはっきりしているが関付近は不明瞭となる。このような剣形石製品は古墳時代中期に登場し、本品は原形の鉄剣の形状をよくとどめる精美なものである。あるいは槍の可能性もある。武威を志向した当時の古墳被葬者の観念を示すうえで欠くことのできないものであり、精良な仕上がりで展示効果が高い。		

59　名称	槽形石製品（そうがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	長14.6 cm　幅11.3 cm　高5.0cm　脚高0.9 cm
作品概要	木製の四脚槽をうつした石製品である。非常に重量感のある作りで、ていねいに磨いて仕上げられる。鋭利な工具で見込みを画した後、立ち上がりは横方向に磨き上げる。底部外面には四隅に長方形で外側に踏ん張る小脚が削り出され、側面と底部との間には明確な段を持つ。槽形石製品は木製品を原型とし、5世紀前半に登場する。儀礼のための祭器として盛行し、石製祭器が形式化していく流れの中で5世紀末には完全に消滅する。本品は石製模造品の多様な展開を示すために欠かせないもので、仕上げもていねいな完形品で展示効果も高い。当時の仮器を用いた儀礼を通じ、古墳時代の観念に迫る非常に貴重な資料である。		

60　名称	鑿形石製品（のみがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	全長15.4 cm　柄長7.2 cm　身長8.4 cm　身幅0.9 cm　柄幅1.3 cm　柄径1.3 cm　身厚0.7 cm
作品概要	細身の鉄鑿をうつした石製模造品で、たいへん写実的な作りである。鑿の身は刃も表現され、実用の鉄鑿を横に置いて忠実に模造したことがうかがえる。柄の端部近くには1孔があり、懸垂可能となっている。柄の元部は一文字になっており石質にスが走り乱れが生じている。工具形模造品のうち鑿形石製品は石製模造品の初期から登場するが、中期初頭には消滅する。ヤリガンナと共に存続期間の短い品目である。本品は刃の表現や形態的なバランスなど優れた作りの精良品である。考古学的に遺存することが少ない柄の形状や長さを知ることができ、工業技術史上もたいへん貴重なものと位置付けられる。		

61　名称	鏡形石製品（かがみがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	2点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	1：径11.5 cm　厚1.8 cm　鈕径3.4 cm　2：径4.2 cm　厚1.1 cm　鈕0.6×1.8 cm
作品概要	大小2点あり鏡をうつした石製模造品である。1点は鈕を表すが穿孔時に上部が破損したらしく改めて孔をあけ直している。背面は側縁を打ち割って成形するが剥離面がきれいに成型できず残っている。もう1点は中央が肥厚し側縁が尖って終わる凸面鏡をうつしたものである。鈕は長方形で、中央に両面穿孔で鈕孔を表現する。鏡形石製品は5世紀前半に鏡を忠実に模造したものが副葬品に登場し、古墳だけでなく祭祀遺跡での儀礼でも用いられる。その後、有孔円板のように鈕を省略した形式化が進んだものが登場し、古墳時代の祭祀儀礼で普遍的な祭器の品目になる。古墳文化の観念に迫ることのできる貴重な資料である。		

62　名称	勾玉形石製品（まがたまがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	2点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	1：長4.7 cm　幅4.5 cm　厚0.5 cm　2：長4.0 cm　幅2.3 cm　径0.5 cm
作品概要	扁平な素材を打ち割って研磨で成形した勾玉で、擦痕を全面にとどめる。大小2点がある。1点は側縁が尖った円板状とし片方を大きく打ち欠いて勾玉形とする。頭部に当たる部分に小孔が開けられているが、1度失敗し2度目の穿孔で貫通させている。もう1点も同工で側縁が尖って終わる扁平な円板の一方を欠き、片面は大きく窪んでいる。頭部に当たる位置に1孔が認められる。本品は古墳時代中期に一種の石製模造品として盛行する勾玉形石製品で服飾具の勾玉とは、材質・形状とも全く異なる。4世紀後半に副葬品に登場し、仮器を用いた儀礼が普及するにつれて祭器として古墳や祭祀遺跡で使用された。		

63　名称	盾形石製品（たてがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	長14.8 cm　頭部幅8.9 cm　底部幅8.5 cm　厚2.1 cm
作品概要	上半が強く反り、中央に取っ手を表した持ち盾の石製模造品である。取っ手には小孔が開けられ、懸垂することができる。大型で厚く、重量感のある作りであり、ていねいに研磨される。全形は長方形だが、上に向かってわずかに幅を広げ、上縁はわずかに肩を表して円弧を描く。取っ手のある裏側は成形時に一部破損する。取っ手の成形後に穿孔され、本体には溝状の成形痕をとどめる。古墳時代の盾の構造をうかがい知ることのできる精良品だが、副葬品としては少なく祭祀遺跡からの出土数が目立つ。朝鮮半島でも出土し、日韓の仮器を用いた祭祀の広がりを示すものとして非常に貴重な考古資料である。		

64　名称	石釧（いしくしろ）	品　　質	緑色凝灰岩製
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	古墳時代・4-5世紀	寸 法 等	径7.4 cm　環体幅0.9 cm　高1.8 cm
作品概要	石釧とは南海に生息するイモガイを輪切りにした貝輪を石でうつした腕輪形石製品である。頂部や底面に割れが見られるがおおむね完形である。斜面には櫛葉文を密に刻み、1条の沈線で垂直面と区画し垂直面には幅広の匙面を削り出している。内面は中央が肥厚しつつ立ち上がり、先端は尖って終わる。本品は緑色凝灰岩製石釧の中でも最も典型的で盛行する型式で、古墳時代前期中葉～後半に製作されたと推定される。弥生時代の九州の文化に系譜が求められる南海産の貝輪が、古墳文化の登場と共に近畿から周辺へと波及していくさまを示し、当時の地域間交流を示す考古資料としても貴重である。		

65　名称	管玉（くだたま）	品　　質	碧玉製
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	古墳時代・4-5世紀	寸 法 等	長8.5 cm　径1.4 cm　幅1.5 cm
作品概要	大型の管玉で硬質で全体がていねいに研磨されている。孔の周囲には穿孔開始に伴う軸ブレが認められる。両面穿孔で、管玉中央で穿孔が結合している。弥生時代に定型化した管玉は古墳時代になると大型化して、多彩な種類の器物に用いられる。本品も首飾りとしては大き過ぎ、孔に芯を通して指揮棒または杖のように用いられたと推定される。このような器物は玉杖と呼ばれ、古墳時代の倭王権の権威を象徴するものとされる。日本列島の玉加工技術の多彩な展開を示す貴重な考古資料である。		

66　名称	ハソウ形石製品（はそうがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	口径9.0 cm　頭径5.4 cm　胴径8.9 cm　底径5.5 cm　高8.3 cm　胴高5.3 cm
作品概要	複合口縁の壺で肩の上部に1孔を持つ器形は「ハソウ」と呼ばれる須恵器の器種の一つである。本品はハソウをうつしたもので、非常に重量感があり、かつていねいに作り出されている。胴部は中央に最大径を持ち、小さな平底を作り出す。体部は縦方向に工具で成形した後、横方向へ砥石で磨き上げている。頸部はラッパ状に開き縦方向に砥石で磨く。口縁部は頸部をいったん水平にした後さらに外側へ外反する。内面はていねいに刳り貫かれている。石製祭器は日本の古墳時代祭祀における伝統的な一面を表し、渡来系要素に乏しいとされてきたが、本品はその評価に一石を投じる貴重な考古資料である。		

67　名称	小壺形石製品（こつぼがたせきせいひん）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	古墳時代・5世紀	寸 法 等	口径6.6 cm　頭径4.1 cm　胴径7.1 cm　底径3.6 cm　全高7.6 cm　胴高3.9 cm
作品概要	軟質の素材を刳り貫いて作り出した壺形石製品。口縁部が大きく割れているがおおむね作りはていねいである。胴部は最大径を中央に持ち、縦方向に工具で成形した後、横方向に砥石で磨いて仕上げる。小平底である。頸部はゆるやかに立ち上がり、段をもって急に外反させる複合口縁壺である。内面は削り出しによって成形し、磨きによって仕上げる。本品は体部を深く刳り貫いた古墳時代中期以降に登場し、中期前半～中葉に製作されたと推定される。欠損はしているものの、ていねいな作りで古墳時代の石製祭器を用いた儀礼の展開を示す上で欠くことのできない貴重な考古資料である。		

68　名称	車輪石（しゃりんせき）	品　　質	緑色凝灰岩製
作 者 等	伝奈良県島の山古墳出土	員　　数	1点
時　　代	古墳時代・4世紀	寸 法 等	幅14.9 cm　高15.9 cm　高2.2 cm　孔径6.1 cm
作品概要	南海産のオオツタノハの貝輪を石にうつした腕輪形石製品を車輪石と呼ぶ。全体に大ぶりの作りでていねいに仕上げられている。肋条の一部が剥離しているが完形品である。中央には円孔があり、穿孔時の擦痕もとどめている。裏面もていねいに仕上げられ、側面もていねいに磨かれている。伝えられる出土地は古墳時代前期後半に築造された前方後円墳で、車輪石が多量に貼り付けられて出土した。本品もそれと比較しても型式学的に大きな隔たりはない。九州の弥生時代に展開する南海産貝輪の文化が受け継がれ、倭王権の伸張を物語る考古資料として貴重であるだけでなく、展示効果も高い。		

69　名称	子持勾玉（こもちまがたま）	品　　質	滑石製
作 者 等		員　　数	2点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	1：長7.8 cm　中央幅5.9 cm　頭部厚1.6 cm　中央厚3.9 cm 尾部厚1.4 cm　2：長6.7 cm　中央幅2.4 cm　中央幅3.8 cm 尾部厚0.7 cm
作品概要	子持勾玉とは大型の勾玉周囲に小さな勾玉を付けた形状をなし、服飾具ではなく何を形象したかが明らかでない一種の石製祭器と見なされている。大小2点ある。大型品は独立した背玉4個を持ち親玉から鰭状の扁平な板を作り出し、それを成形して4つの子玉を作る。小型品は親玉が三日月形で両端が尖り、背玉は2個が中央に集約する。本品は型式学的な特徴から6世紀に製作されたと推定される。古墳時代の祭祀儀礼の展開と地域間関係をうかがい知ることができる貴重な考古資料である。		

70　名称	横瓶（よこべ）	品　　質	土製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	口縁部径12.1 cm　胴部長32.0 cm　高22.5 cm
作品概要	丸底の長胴壺を成形後に開口部分に円板を貼り付けて塞ぎ、横長の球形胴部を作り出す。その後、その側面を刳り貫き別作りの口頸部を取り付けて横瓶とする。胴部はタタキで成形し、肩部からは自然釉が垂れており美術効果を高めている。横瓶は6世紀に登場する須恵器の器種の一種であり、古墳時代後期の副葬品に多く見られる。また表面に残る痕跡から、窯での焼成の様子をうかがい知ることができる資料である。とくに自然釉は燃焼材に起因する偶発的な要因で発生するものだが、後の灰釉陶器に繋がっていく要素であり、当時の人々が釉調の変化を一種の景色として愛好したことをうかがわせる優品である。		

71　名称	有蓋双耳壺（ゆうがいそうじこ）	品　　質	土製
作 者 等	伝奈良県桜井市穴師出土	員　　数	1合
時　　代	奈良時代・8世紀	寸 法 等	蓋：口径17.4 cm　器高7.1 cm　身：胴部径30.5 cm　口径14.8 cm　器高23.7 cm
作品概要	肩部に2つの耳が付いた薬壺形の壺に蓋を伴う須恵器の壺である。蓋はヘラ削りでていねいに整形し、中央には2つの凸帯によって3段に区切られた塔形のつまみを付ける。蓋内面には判読が難しい墨書が認められる。壺は粘土紐を曲げて耳を対向する2ヶ所に付ける。本品のような器形は仏具であることが多く、火葬や二次葬に伴う骨を納めた蔵骨器や地鎮具などの埋納品であった可能性が高い。『続日本紀』によると日本列島における火葬は7世紀末に導入されたが、考古資料ではその前後から蔵骨器が出土が知られている。伝えられる出土地には群集墳が広く展開しており、本品もその系譜につながる貴重な考古資料である。		

72　名称	銅製経筒　附　灰釉陶器外容器・納入品 （どうせいきょうづつ　つけたり　かいゆうとうきがいようき・のうにゅうひん）	品　　質	銅製
作 者 等	伝岐阜県出土	員　　数	1式
時　　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	経筒：径11.1 cm　高23.6 cm　同蓋：径11.3 cm　蓋高1.5 cm 方鏡：9.2×9.3 cm　厚0.3 cm　銅環：径7.8 cm　帯幅0.7 cm 外容器：高37.3 cm　口頸部径14.5 cm　胴部最大径34.3 cm 底径18.8 cm
作品概要	銅製の経筒に、外容器である灰釉広口壺などをともなう。経筒は、銅板を円筒状に成型して側面の合わせ部を10個の銅鋲で留め、端部を折り返す。底板は円板をはめ、蓋は銅板を敲いて成形する。全体に簡素な形状である。外容器である灰釉広口壺は淡灰緑色の釉が全体にかかる。経筒を納めるため口縁部を打ち欠いている。納入品として銅製方鏡、銅環、装飾を持つ竹製内容器の残片と見られる有機物がある。本品は岐阜県の経塚から出土したと伝えられ、形状からもこれを否定する材料はない。また、灰釉広口壺は素地や釉調からみて尾北窯（愛知県）の製品と考えられる。内容物も含め、平安時代末の経筒埋納の一端を示す貴重な資料である。		

73　名称	加彩鎮墓獣（かさいちんぼじゅう）	品　　質	加彩陶
作 者 等		員　　数	1駆
時　　代	中国　後漢-西晋時代・3-4世紀	寸 法 等	長27.7 cm　幅11.2 cm　高28.2 cm
作品概要	虎に似た姿、両肩に生えた翼などから、中国古代における空想上の動物「辟邪」を表したものと推測される。背中と腹に孔が開いている。その孔に棒状のものを挿して貫通させる器座であるとともに、墓室内に副葬されたものであれば、墓へ侵入しようとする邪悪なものを払いのける一種の鎮墓獣としての役割も期待されたであろう。頭頂部の左右に円孔が2個ずつ均等に並ぶ。これらの孔には別作りの角や耳などが挿しこまれていたと考えられる。四肢および腹の角張った粗雑な仕上げ方は、後漢末から西晋時代にかけての一角の鎮墓獣や牛を象った加彩陶と共通する。本作は当時の鎮墓獣に採用された造形の多様性を示す可能性があり、注目される。		

74　名称	漆盤（うるしばん）	品　　質	木胎漆塗
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中国　前漢-後漢時代・紀元前1世紀-1世紀	寸 法 等	口径24.0 cm　高6.0 cm
作品概要	木胎漆塗りで、器腹の浅い盤である。おもに食べ物を盛る実用の器として使われた。漆盤は遅くとも戦国時代後期(紀元前3世紀)に中国に出現し、秦から前漢時代にかけて普及した。前漢時代には巻雲文を主体とする繁縟な文様の漆器が発達したが、一方で本作のように内面を黒と朱で帯状に塗り分けるだけの簡便な装飾の漆器も存在した。本作の外面には「史」の字が手書きされている。これは製作に関わった工人か、持ち主の人名であると考えられる。このように、黒と朱を塗り分けただけの簡便な装飾を施し、人名と思しき字を記した漆盤は楽浪の彩篋冢や王光墓などに出土例を求めることができる。本作は前漢中期から後漢前期にかけて作られた漆盤の典型例として注目される。		

75　名称	漆耳杯（うるしじはい）	品　　質	木胎漆塗
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中国　秦ー前漢時代・紀元前3世紀ー紀元前2世紀	寸 法 等	長22.6 cm　幅17.0 cm　高6.5 cm
作品概要	平面が楕円形の木胎漆器で、長手の両側に把手が内傾してつく。俯瞰すると把手がひとの顔の両耳に見えることから、「耳杯」と呼ばれる。全体に黒漆を塗り地となし、朱漆と褐色に近い朱漆で四葉文・V字文・列点文などを描く。耳杯は羹や酒を盛る容器として戦国時代(紀元前5-前3世紀)に登場し、秦漢時代(前3-2世紀)に盛んに作られた。青銅器、銀器、玉器、ガラス器、陶器（副葬用の明器）などでも作られたが、本来は漆器で実用に供された。本作のように把手の輪郭が弧状を呈し、内外の口縁部をV字文と点で飾る耳杯は湖北省雲夢などの秦漢墓から多数出土している。秦から前漢時代の前期(紀元前3-前2世紀)にかけて製作された耳杯の典型例として位置づけられる。		

76　名称	青磁神亭壺（せいじしんていこ）	品　　質	青磁
作 者 等	中国・古越州窯　推定中国浙江省もしくは江蘇省出土	員　　数	1合
時　　代	中国　西晋時代・3世紀後半	寸 法 等	通高47.3 cm 身：最大径27.0 cm　高38.9 cm 蓋：10.3×10.3 cm　高9.7 cm
作品概要	胎土は灰色で、表面のほぼ全体に青磁釉が施される。平底の壺で、胴部と頚部とのあいだを突帯で隔す。胴部には人物像（あるいは仙人像）と蟠る龍の姿を俯瞰した姿の装飾を貼花で交互に配する。頚部より上は3層の大型建築物を象り、おもに楽器を演奏する人物像を飾る。第2層の屋根より上は蓋のように取り外し可能である。浙江省と江蘇省南部では、三国時代から東晋時代にかけて頚部より上に4口の小壺や大型建築物を立体表現で飾った特殊な壺が流行した。この種の壺は死後も安寧に暮らすことのできる仙界へと墓主を導く装置として、あるいは、葬送儀礼に際して魂が宿る依代としての役割を果たしたものと考えられている。「神亭壺」という通称は、その所以である。		

77　名称	ローマンガラス器（ろーまんがらすき）	品　　質	ガラス
作 者 等	東地中海地方	員　　数	31口
時　　代	ローマ時代・1-2世紀	寸 法 等	1：最大幅5.9 cm　高9.5 cm　2：口径7.5 cm　底径3.5 cm　高3.5 cm　3：最大幅8.5 cm　口径2.0 cm　底幅5.0 cm　高9.5 cm　4：口径4.0 cm　最大幅6.5 cm　高10.0 cm　5：口径4.0 cm　胴径4.0 cm　底径3.4 cm　高10.5 cm　6：口径1.3 cm　胴径5.0 cm　底径3.3 cm　高12.5 cm　7：口径1.7 cm　胴径4.0 cm　底径3.0 cm　高11.0 cm　8：口径1.7 cm　胴径4.0 cm　底径3.0 cm　高11.0 cm　9：口径4.5 cm　胴径8.0 cm　底径4.0 cm　高8.8cm　10：口径2.3 cm　胴部6.0 cm　底部3.5 cm　高10.0 cm　11：口径5.0 cm　胴径7.3 cm　底径4.0cm　高8.0cm　12：口径2.0 cm　胴径7.0 cm　底径4.0 cm　高8.5 cm　13：口径6.5 cm　胴径7.5 cm　底径4.5 cm　高7.7 cm　14：口径11.3 cm　底径5.0 cm　高4.3 cm　15：口径7.0 cm　底径3.5 cm　高5.8 cm　16：口径4.0 cm　胴径5.0 cm　底径3.5 cm　高5.8 cm　17：口径1.5 cm　胴径5.0 cm　底径3.0 cm　高5.7 cm　18：口径4.2 cm　底径2.8 cm　高6.8 cm　19：口幅3.0 cm　最大幅4. cm 2　胴径3.0 cm　底径2.5 cm　高5.0 cm　20:最大幅6.0 cm　胴径5.7 cm　底径2.5 cm　高8.0 cm　21：口径3.5 cm　胴径6.0 cm　底径4.0 cm　高6.0 cm　22：口径5.2 cm　胴径5.2 cm　底径3.0 cm　高6.2 cm　23：口径3.5 cm　最大幅6.0 cm　底径3.3 cm　高9.0 cm　24：口径3.0 cm　最大幅5.0 cm　底径3.3 cm　高8.5 cm　25：口径1.5 cm　胴径7.0 cm　底径4.0 cm　高8.5 cm　26：口径2.5 cm　胴径8.0 cm　底径3.0 cm　高10.0 cm　27：口径2.5 cm　胴径7.0 cm　底径4.5 cm　高9.0 cm　28：口径3.0 cm　胴径7.0 cm　底径3.5 cm　高7.0 cm　29：口径4.5 cm　胴径5.0 cm　底径3.5 cm　高13.0 cm　30：口径5.0 cm　胴径6.5 cm　底径2.5 cm　高16.0 cm　31:口径4.0 cm　胴径4.3 cm　底径3.0 cm　高12.0 cm
作品概要	1 両手付二連瓶、2ガラス碗、3両手付扁壺、4取手付ガラス瓶、5吹きガラス瓶、6吹きガラス瓶、7長頸吹きガラス瓶、8長頸吹きガラス瓶、9広口吹きガラス瓶、10撒水ガラス瓶、11紐文装飾ガラス瓶、12吹きガラス瓶、13吹きガラス広口瓶、14ガラス碗、15吹きガラス碗、16吹きガラス瓶、17貼付紐文ガラス瓶、18吹きガラスコップ、19取手付吹きガラス瓶、20凹み装飾取手付吹きガラス瓶、21吹きガラス瓶、22凹み装飾吹きガラス瓶、23両手付吹きガラス瓶、24両手付紐文装飾吹きガラス瓶、25紐装飾付吹きガラス瓶、26吹きガラス瓶、27突起装飾吹きガラス瓶、28両手付吹きガラス瓶、29吹きガラス瓶、30吹きガラス瓶、31吹きガラス瓶 紀元前50年頃、シリア＝パレスティナ地域で発明されたという吹きガラス技法により制作されたローマ時代のガラス容器31点。用途としては、瓶、碗、コップなどがあり、紐文装飾、取っ手などの装飾や、長頸、広口など形の違いが見られる。また宙吹ぎによる成形だけでなく、文様を彫り込んだ型に溶けたガラスを吹き込むか宙吹きにより型の凹凸を表面に写すて成形と装飾を同時に行っている。31点は6箱に収納されているが、収納箱の作り方や収納用仕込みの仕上げが同じため、一括資料として取り扱う。31点は、すべて発掘品と考えられ、土中の条件によって、表面の銀化の程度に差がある。		

78　名称	ローマンガラス器（ろーまんがらすき）	品　　質	ガラス
作 者 等	シリア・シドン	員　　数	5口
時　　代	ローマ時代・1-2世紀	寸 法 等	1：口径2.0 cm　胴径3.5 cm　底径2.5 cm　高12.0 cm　2：口径3.5 cm　胴径5.3 cm　底径3.5 cm　高6.5 cm　3：口径6.2 cm　底径3.0 cm　高2.5 cm　4：口径5.0 cm　胴径5.5 cm　底径4.2 cm　高6.5 cm　5：口径2.5 cm　胴径5.5 cm　底径2.5 cm　高10.5 cm
作品概要	1：長頸吹きガラス瓶、2：広口吹きガラス瓶、3：ガラス碗、4：凹み装飾吹きガラス瓶、5：吹きガラス瓶紀元前50年頃、シリア＝パレスティナ地域で発明されたという吹きガラス技法により制作されたローマ時代のガラス容器5点。瓶と碗のうち、凹み装飾吹きガラス瓶は、宙吹ぎによる成形だけでなく、文様を彫り込んだ型に溶けたガラスを吹き込むか宙吹きの途中で型の凹凸を表面に写した上で、さらに器体を膨らますことで現在の形になったと考えられる。5点は、すべて発掘品と考えられ、土中の条件によって、表面の銀化の程度に差がある。内箱蓋表には「ローマ期／硝子器　五種」、同蓋裏には「シリア　シドン／紀元ーー二世紀／市川清　「清識」（朱地白文方印）」という墨書と落款印章がある。墨書にあるシドンは、東地中海沿岸で現レバノンのサイダーにあたり、ローマ時代のガラスの名産地として知られている。		

79　名称	白地茶文字文大鉢（しろじちゃもじもんおおばち）	品　　質	陶器
作 者 等	中央アジアまたはイラン	員　　数	1口
時　　代	サーマーン朝時代・9-10世紀	寸 法 等	径31.5 cm　底径12.5 cm　高9.2 cm
作品概要	淡紅色の胎土を用い、底面を除く全面に白化粧土を掛けた大型の鉢。見込み中央には鳥文、実際には読めない倣文字文を口縁部内側3箇所に、黒褐色の絵具で描いている。外面に文様はなく、底面はほぼ平らなままで、高台を作り出していない。全体に黄色みを帯びた透明釉を施しており、口縁部にあ補修が多く認められる。地元で産出す胎土の淡紅色を目立たなくするための白化粧土掛けは、中国製磁器の透明感のある白へのあこがれを反映したものと考えられている。		

80　名称	青釉四耳鉢（せいゆうしじはち）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・カシャーン	員　　数	1口
時　　代	セルジューク朝時代・12-13世紀	寸 法 等	総幅25.5 cm　胴径24.0 cm　高台径10.5 cm　高15.5 cm
作品概要	淡紅色の胎土を用い、削り出された高台近くまで白化粧土を掛けた鉢。口縁部と胴部をつなぐように、取っ手4個を貼り付けている。外面には黒絵具で蔓草文や幾何学文を描いているが、見込み部分の文様は判然としない。全面に厚く青釉を施している。全面に貫入が見られ、見込みと外面の一部に銀化が認められる。イラン北部のカシャーンは、現在絨毯の産地として有名であるが、セルジューク朝時代には陶器や施釉タイルの産地として有名であった。		

81　名称	ラッカ手七連手付皿（らっかでななれんてつきさら）	品　　質	陶器
作 者 等	シリア	員　　数	1口
時　　代	アッバース朝時代・8-9世紀	寸 法 等	総幅27.5 cm　総高14.0 cm　各コップ口径約9.0 cm　高約7.5 cm
作品概要	薄い褐色の胎土を用いた多連皿。中央の小さい皿の周辺にほぼ同型の皿6個をならべ、それぞれの口縁部および底面周辺を同じ胎土でつなぎ合わせ、捻り紐状の取っ手をつけている。底面部で、７個の皿を固定するための胎土部分には、空気抜きと思われる穴6箇所があけられている。底面を除く全面に緑釉を施し、一部銀化した部分は金属質の光沢を放っている。また釉薬の剥落が部分的に認められる。取っ手を持たない多彩釉多連皿も作られていた。塩や胡椒などの調味料入れ、あるいはオリーブ、ナツメヤシの実、ナッツ類やピクルスなどのオードブル入れとされる。		

82　名称	藍彩花文子持花瓶（らんさいはなもんこもちかびん）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン	員　　数	1口
時　　代	サファヴィー朝時代・16世紀	寸 法 等	胴径18.5 cm　中央注口径6.0 cm　周辺注口径4.5 cm　高25.0 cm
作品概要	5個の注口部を持つ花瓶。撫で肩の壺の注口部を中心に、肩部の高さに、少し小ぶりの注口部4個が取り付けられている。内面のみならず、高台内面に至るまで、胴体下部の一部を除き、全面にわたって白釉を施している。高台付近の釉は一部剥落している。コバルト絵具で花弁文を胴部全面に描き、その上から透明釉を施す藍彩釉の技法を用いている。白釉が乾燥した後、焼成前にコバルト絵具で文様を描いたため、文様が滲んだものと思われる。花弁文は中国風であるため、中国景徳鎮の窯を中心とする、コバルト絵具を用いた青花（染付）磁器への憧れを反映するものであろう。		

83　名称	ラスター彩人物文子持壺 （らすたーさいじんぶつもんこもちつぼ）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン	員　　数	1口
時　　代	セルジューク朝時代・12-13世紀	寸 法 等	胴径13.0 cm　高22.0 cm
作品概要	下膨れの胴部に、少し開き気味の長頸を持つ壺。胴部中央には小型の注口3個が取り付けられている。高さのある高台は開き気味で、一部欠失している。内面は頸部上方まで、外面は高台近くまで白釉が施されている。低火度還元焔焼成により、金属光沢を示すラスター彩で、文様が全面に描かれている。口縁部、頸部と胴部の間、胴部の張り出し部分に枠線が引かれ、頸部には植物文など、胴部下半にも植物文が描かれている。胴部上半で小振りの注口同士の間には、向かって左へ進む騎馬人物3体が描かれている。赤みの強さは、絵具に含まれる銅の酸化物の割合が高いことを示している。		

84　名称	ミナイ手人物文鉢（みないでじんぶつもんはち）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・ラージェス	員　　数	1口
時　　代	セルジューク朝時代・12世紀	寸 法 等	径19.5 cm　高台径8.3 cm　高9.0 cm
作品概要	紅褐色の胎土を用いた、底面から大きく広がる鉢。底面及び高台を除く全面に少し厚手に白釉を施し、内面には金、赤、緑、黒、青など鮮やかな色絵具でさまざまな文様を描いている。外面は無文。さまざまな色絵具で絵を描き、低火度還元焔で焼成する技法をミナイ手（ペルシア語でエナメル、色絵を意味する）と呼び、セルジューク朝時代を代表する上絵付け技法にあたる。描かれている内容は、口縁内側で繰り返される倣文字文を含む長方形文様、見込み中央の向かい合い談笑する坐った人物2人、内側側面には向かい合う人頭有翼の動物3組である。		

85　名称	白地三彩直線交差文鉢 （しろじさんさいちょくせんこうさもんはち）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・ニシャプール	員　　数	1口
時　　代	サーマーン朝時代・10-11世紀	寸 法 等	径23.0 cm　底径10.5 cm　高9.5 cm
作品概要	薄い茶褐色の胎土を用いた、底面から開き気味に立ち上がる鉢。底面には高台を設けず、底面を少し中央に向けてゆるやかに窪ませている。内面から外面下部にかけて白化粧土を掛け、茶褐色の絵具で直線とジグザグ線を、また黄色と緑色の絵具を帯状に彩色して装飾している。また口縁外側には、三角形と直線を組み合わせた文様を繰り返し描いている。全面に透明釉を施している。見込み中央部を中心に透明釉が剥がれており、そのためこの部分の絵具は若干磨耗している。この作品のように、緑、黄、紫系の絵具を用いて、刻線で文様を表した作品を一般にペルシア三彩と呼ぶ。		

86　名称	三彩刻線文鉢（さんさいこくせんもんはち）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・ニシャプール	員　　数	1口
時　　代	アッバース朝時代・9世紀	寸 法 等	径19.0 cm　高台径8.0 cm　高6.8 cm
作品概要	茶褐色の胎土を用いた、高台から緩やかな曲線を描いて立ち上がる鉢。高台付近まで全面に白化粧土を掛け、内面を緑色、黄色、紫系の絵具で装飾し、その上から薄い褐色を呈する透明釉を施している。この作品のように、緑、黄、紫系の絵具を用いて、刻線で文様を表した作品を一般にペルシア三彩と呼ぶ。高台内部の削りだしは比較的浅い。口縁部から内面の下方にかけて、刻線で植物文のようなものを描いている。内面の絵具は内面を流れ落ちていっているが、見込み中央部の絵具のたまり具合を見ると、焼成時には、作品を上向きで少し傾けた状態に置いていたことが分かる。口縁部には、ところどころ釉がはがれた場所があり、胎土のざらつきを見ることができる。		

87　名称	白地黒線文鉢（しろじこくせんもんはち）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン	員　　数	1口
時　　代	サファヴィー朝時代・16世紀	寸 法 等	径24.5 cm　高台径9.0 cm　高8.0 cm
作品概要	薄い茶褐色の胎土を用いた、高台から緩やかな曲線を描いて広がる、口縁部が少し厚手の鉢。高台内部まで全面的に白化粧土を掛けている。見込み中央に花文、内面に網目文、口縁部には線状文を灰色の絵具で描いている。内面には透明釉が施されているが、外面は施釉されていない。見込みには焼成時のトチン痕3箇所がある。内面と口縁部の一部に釉の剥がれが認められる。口縁の外面に一部釉薬が垂れている。高台の内部は緩やかな弧を描きながら窪んでいる。		

88　名称	黄地三彩鉢（きじさんさいはち）	品　　質	陶器
作 者 等	中央アジア	員　　数	1口
時　　代	11世紀	寸 法 等	径23.0 cm　底径9.0 cm　高7.5 cm
作品概要	淡紅色の胎土を用いた、底部から大きく広がり途中から緩やかな曲線を描く鉢。底面を含む全面に白化粧土を掛けている。見込み中央の点、口縁部の列点、二重線と半円形と楕円を組み合わせた内面中央部の連続文を紫色の絵具で、帯状の太線を黄色の絵具で、そして細線と列点を淡紅色の絵具で描いている。この作品のように、緑、黄、紫系の絵具を用いて、刻線で文様を表した作品を一般にペルシア三彩と呼ぶ。少し黄色がかった透明釉を内面と口縁外面近くまで施している。底部は外周から内部に向かって緩やかに削り出しているが、中央には円柱状の低い凸部を残している。底部の欠損1箇所は、制作時のものである。		

89　名称	白地三彩花文鉢（しろじさんさいかもんはち）	品　　質	陶器
作 者 等	中央アジア	員　　数	1口
時　　代	10世紀	寸 法 等	径19.2 cm　底径9.0 cm　高8.5 cm
作品概要	薄い茶褐色の胎土を用いた、底面から緩やかな曲線を描きながら少々外反する鉢。底面にいたるまで全面に白化粧土を掛け、内面を中心に白釉を施し、緑色、黄色、黒褐色の絵具で花文を内面全体に描いている。外面には黒褐色の線と列点文および緑色の絵具による太い線が描かれている。この作品のように、緑、黄、紫系の絵具を用いて、刻線で文様を表した作品を一般にペルシア三彩と呼ぶ。底面はほぼ平らなままだが、内部に見られる刻線による円文の内側は少し削られている。		

90　名称	三彩刻線文鉢（さんさいこくせんもんはち）	品　　質	陶器
作 者 等	中央アジア	員　　数	1口
時　　代	9-10世紀	寸 法 等	径19.0 cm　底径9.2 cm　高8.5 cm
作品概要	薄い茶褐色の胎土を用いた、底部から弧を描きながら立ち上がった鉢。高台は削りだされておらず、平らな底面にいたるまで全面に白化粧土を掛けている。見込みのほぼ全面に刻線で表現した花文にあわせて、緑色、黄褐色、紫色の絵具を用いている。口縁内側に掛けられた緑色の絵具は、内面に垂れている。外面には緑色と茶褐色の線が引かれている。全面に透明釉が施されている。この作品のように、緑、黄、紫系の絵具を用いて、刻線で文様を表した作品を一般にペルシア三彩と呼ぶ。		

91　名称	三彩木葉文鉢（さんさいもくようもんはち）	品　　質	陶器
作 者 等	中央アジア	員　　数	1口
時　　代	9-10世紀	寸 法 等	径19.0 cm　底径8.0 cm　高7.5 cm
作品概要	薄い茶褐色の胎土を用いた、底部から緩やかな弧を描いて立ち上がり、口縁部が少し外反する鉢。高台は削りだされておらず、平らな底面にいたるまで全面に白化粧土を掛けている。内面は、黄色の絵具を背景に緑色の絵具の斑点を散らしている。見込み中央に表した刻線の花文を、紫絵具で描いている。緑色、紫色、黄色で内面に葉文を4回繰り返して描いている。全面に透明釉を施している。口縁の一部が欠失しており、釉薬の一部が剥がれているほか、焼成時の焼き傷も見られる。この作品のように、緑、黄、紫系の絵具を用いて、刻線で文様を表した作品を一般にペルシア三彩と呼ぶ。		

92　名称	白地蛍手コバルト文小鉢 （しろじほたるでこばるともんこばち）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・ラージェス	員　　数	1口
時　　代	セルジューク朝時代・12世紀	寸 法 等	径11.5 cm　高台径4.2 cm　高5.2 cm
作品概要	複合胎土を用いた、高台から大きく開く鉢。地元産の淡紅色や薄い茶褐色の少量の粘土に、ガラス粉及び多くの石英の粉末を混ぜた複合胎土（フリット胎土）は、それまでの陶器に比べて、より白く薄い焼き物を作ることを、12世紀頃可能にしたとされる。高台近くまでかなり厚手の白釉が施されており、口縁部から見込み中央に向かってコバルト絵具の線が5本引かれている。内面には刻線で幾何学文が表され、外面から削って薄くした器壁部分に開けられた穴は半透明の釉でふさがれており、光を通すことができる。金属器の透彫りを真似たと考えられるイスラーム圏の蛍手は、時代的に中国に先行する。		

93　名称	白地黒文字文小鉢（しろじくろもじもんこばち）	品　　質	陶器
作 者 等	イラン・ニシャプール	員　　数	1口
時　　代	サーマーン朝時代・11世紀	寸 法 等	径12.0 cm　高3.5 cm
作品概要	薄い茶褐色の胎土を用いた、底部から大きく開く鉢。底面にいたるまで文字通り全面に白化粧土を掛け、黒絵具で実際は読めない倣文字文を内面に描いている。見込み中央に点文が描かれているほか、釉薬が1箇所で剥がれている。全面に透明釉を施しており、外面の一部に貫入が認められる。底面は高台を削りださず、中央に向かって少し窪むように成型している。完形品。		

94　名称	大珠（たいしゅ）	品　　質	翡翠製
作 者 等	伝茨城県常陸大宮市下村田坪井出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	縦5.5 cm　横3.0 cm　厚1.6 cm　重量38.9g
作品概要	新潟県糸魚川産と推定される翡翠製。石質は、淡緑色で透明度の高い良質なものである。半月形の扁平な自然礫を素材に、大きく形状を変えることなく研磨して成形されている。上半部に両面からの穿孔が1箇所みられる。縄文時代後半期の日本列島では、緑色石材を用いた様々な垂飾が流行した。本品は、縄文時代中期の東日本で流行した大珠と呼ばれる鰹節形の翡翠製垂飾の一類型であり、大珠の形態的多様性を知る上で貴重である。		

95　名称	管玉（くだたま）	品　　質	翡翠製
作 者 等	伝茨城県かすみがうら市安食平出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・4000年前-3000年前	寸 法 等	直径2.2 cm　長4.3 cm　重量32.0g
作品概要	新潟県糸魚川産と推定される翡翠製。石質は、乳白色部分と濃緑色部分が入り混じる、透明度の高い非常に良質なものである。ずんぐりとした円柱形に成形され、器体長軸方向に一方から太めの穿孔がなされている。縄文時代後半期の日本列島では、緑色石材を用いた様々な垂飾が流行した。本品は、縄文時代中期の東日本で流行した大珠と呼ばれる鰹節形の翡翠製垂飾の一類型で縄文時代後期に発達する形態であり、大珠の形態的多様性を知る上で貴重である。		

96　名称	翡翠原石（ひすいげんせき）	品　　質	翡翠原石
作 者 等	茨城県東茨城郡大洗町大貫落神北貝塚出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・4000年前-3000年前	寸 法 等	縦5.8 cm　横4.0 cm　高3.1 cm　重量117.0g
作品概要	新潟県糸魚川産と推定される翡翠製。石質は、乳白色部分と緑色部分が入り混じる良質なものである。伴出土器から縄文時代後期のものと考えられる。縄文時代後半期の日本列島では、緑色石材を用いた様々な垂飾が流行した。本品の出土地に近い房総半島の同時期の遺跡からは、小さく粗割された翡翠原石や砕片が出土することから、翡翠製小玉が生産されていた可能性が指摘されており、本品は縄文時代後期における消費地での翡翠製垂飾の生産を具体的に示す事例として貴重である。		

97　名称	中空土製品（ちゅうくうどせいひん）	品　　質	土製
作 者 等	東北地方か	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・3000年前-2400年前	寸 法 等	縦8.8 cm　横6.2 cm　高2.8 cm
作品概要	海洋哺乳類や鳥類などの動物を模したと考えられる呪術具である。先端部は刻みを有するが、欠損により詳細不明。両側縁中央に先端に刻みのある突起を対照に設ける。表面下半の中央は膨らみ、環状工具による刺突文が施されている。両面ともS字状に連結した渦巻文が施されている。内部は中空で、表面先端部および裏面下端部に穿孔を有する。文様の特徴から、縄文時代晩期の東北に分布する亀ヶ岡文化のものと考えられる。亀ヶ岡文化では、多様な形態を持つ精巧な作りの小形土器、土偶、石棒等の呪術具が多数製作されたが、本品はこの文化における呪術具の多様性を示す上で貴重である。		

98　名称	土版（どばん）	品　　質	土製
作 者 等	青森県八戸市荒谷遺跡出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	縦9.2 cm　横6.7cm高1.5 cm
作品概要	両面に沈線による重弧文が施された扁平な楕円形の呪術具である。表面は、長軸の一方の端部を窪ませ、長軸中央に長い沈線を施して区画する。この区画線の左右に2個と3個の大小の重弧文を配す。裏面に、長軸中央に長い沈線を施して区画し、この区画線の左右に3個と4個の大小の重弧文を配す。重弧文を構成する沈線は、直線を繋いだようなぎこちなさがある。文様の特徴から、縄文時代晩期の東北に分布する亀ヶ岡文化のものと考えられる。亀ヶ岡文化では、多様な形態を持つ精巧な作りの小形土器、土偶、石棒等の呪術具が多数製作されたが、本品はこの文化における呪術具の多様性を示す上で貴重である。		

99　名称	小玉（こだま）	品　　質	緑色凝灰岩製(小玉14点、小玉未成品7点)、滑石製(小玉1点)
作 者 等	青森県つがる市亀ヶ岡遺跡出土	員　　数	22点
時　　代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸 法 等	1連・最大の小玉：縦1.2　横0.9　高0.7 未成品：1：縦1.2 cm　横1.0 cm　高0.5 cm　重0.8g　2：縦0.9 cm　横0.8 cm　高0.7 cm　重0.6g　3：縦0.9 cm　横0.8 cm　高0.5 cm　重0.4g　4：縦1.0 cm　横0.7 cm　高0.5 cm　重0.4g　5：縦0.9 cm　横0.8 cm　高0.5 cm　重0.3g　6：縦0.8 cm　横0.8 cm　高0.5 cm　重0.4g　7：縦0.7 cm　横0.6 cm　高0.4 cm　重0.3g
作品概要	15点1連の小玉とその未成品7点で構成される。在地産と推定される緑色凝灰岩製が主。小玉は直径1cm前後の小礫をそのままもしくは若干研磨して成形された後、穿孔が行われている。未成品には、研磨のみのもの1点、穿孔途中のもの3点、穿孔中に割れたもの3点があり、小玉の製作工程をうかがい知ることができる。同様な小玉は、縄文時代晩期の東北にみられる亀ヶ岡文化で特徴的なものである。縄文時代後半期の日本列島では、緑色石材を用いた様々な垂飾が流行しており、本品はその多様性を知る上で貴重である。		

100　名称	御物石器（ぎょぶつせっき）	品　　質	結晶片岩製
作 者 等	岐阜県・石川県・富山県出土か	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸 法 等	縦33.0 cm　横5.8 cm　高9.5 cm
作品概要	石製呪術具。全面に黄褐色の粘土が薄く付着する。平面形は略長方形で、長側面の1箇所に鞍状の抉りを持つ。両面は敲打仕上げで、幅広の凹線で縁辺や端部を縁取るような文様が施されている。出土地は不明ながら、御物石器は一般的に岐阜県・石川県・富山県に濃密に分布し、他の地域ではほとんど出土しない地域性の強い石製品である。縄文時代後晩期には、東日本で生まれた土偶や石棒などの呪術具が西日本へと伝わるが、御物石器はそれらとは好対照をなす。本品は、縄文時代の呪術具の地域性とその伝播を考える上で重要である。		

＜歴史資料＞（5件）

101　名称	長崎港図及び正保四年長崎警備図（ながさきこうずおよびしょうほうよねんながさきけいびず）	品　　質	紙本著色
作 者 等		員　　数	3舗
時　　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	1:長崎港図：縦111.0 cm　横248.8 cm　2:正保四年南蛮船来航警備図：縦82.1 cm　横112.3 cm 3:阿蘭陀船・唐船図：縦49.5 cm　横68.8 cm
作品概要	1「長崎港図」は長崎の市街と港を詳細に描いた図。成立時期は、上限は正徳5年(1715)、下限は文化4年である。本図のように港口まで描いた絵図は、江戸時代のものでは数点あるのみである。2「正保四年南蛮船来航警備図」と3「阿蘭陀船・唐船図」は、正保4年(1647)に交易再開を求めて来航したポルトガル船2艘を長崎港内に閉じこめ、九州各藩の軍船が包囲する様子を描いた図で、1と同時に描かれたと考えられる。1と2の虫損跡が重なることから、2と3は、1の上に重ねて使用されたと推察される。江戸時代後期の異国船の接近に対処するため、正保4年のポルトガル船来航時の対応を参考にしようとしたことが、本絵図制作の契機となったと思われる。		

102　名称	豊臣秀吉朱印状（とよとみひでよししゅいんじょう）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	安土桃山時代・天正18年(1590)	寸 法 等	本紙：縦21.5 cm　横58.3 cm　表装：縦105.0 cm　横60.8 cm 軸長（左軸首外れ)63.5m
作品概要	天正18年(1590)12月29日付、宗義智(1568-1615)宛、豊臣秀吉(1537-98)朱印状。義智から歳暮の祝儀として、太刀1腰、照布5端、白鳥2羽が贈られたことに対して礼を述べたもの。大正15年(1926)に、宗家が朝鮮総督府朝鮮史編修会に対して、豊臣秀吉、徳川家康関係の史料を無期限で貸与した中に本文書は入っていた。その後の経緯は不明だが、本文書は日本に戻り、1973年の売立目録に掲載されたが、その後再び所在が不明となった。近年刊行された名古屋市博物館編『豊臣秀吉文書集』四（吉川弘文館、2018年）では、上記売立目録を引用しており、本文書の所在は確認できなかったとうかがえる。本文書は、宗家から流出した秀吉関係文書を構成する一部として重要な史料である。		

103　名称	島津氏関係文書（しまづしかんけいもんじょ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1帖
時　　代	室町時代-江戸時代・15世紀-19世紀	寸 法 等	縦38.8 cm　横29.2 cm　厚3.2 cm
作品概要	薩摩島津氏とその家臣に関係する室町時代から江戸時代にかけての古文書38通を貼り込んだ手鑑。概ね安土桃山時代から江戸時代初頭にかけての書状類からなる。このうち(1)元亀2年～天正8年(1571-81)の島津義久書状は。自身の菩提寺である妙谷寺住職の体調を案じたもの。(38)は寛永11年(1634)に琉球王国から江戸幕府に派遣された使節に関する書状。1633年(清：天聡7年、日本：寛永10年)、中国の清朝より冊封を受けた琉球王尚豊は、その翌年、薩摩藩主島津家久へ謝恩使節を鹿児島に派遣した。薩摩藩はこの使節を京都に向かわせ、江戸幕府将軍徳川家光に二条城で謁見させた。この経緯については後世の編纂資料に詳しいが、本書状は関係する一次史料の原文書として貴重である。		

104　名称	宗義智書状案（そうよしとししょじょうあん）	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・慶長19年(1614)	寸 法 等	本紙：縦34.5 cm　横51.0 cm　表装：縦117.5 cm　横53.2 cm 軸長58.8 cm
作品概要	慶長19年(1614)12月28日付、本多正信(1538-1616)宛、宗義智(1568-1615)書状の案文。「大坂冬の陣」への出陣について、義智が大病を患い、参陣が叶わないため、子の義成(1604-1657)を参陣させたいが、義成はまだ家康・秀忠への御目見えが済んでいないため、家康の出頭人である正信に対して家康・秀忠への取り成しを依頼する内容である。文化13年(1816)に対馬藩が作成した「奥御判物長持之内ニ有之御書物写」（韓国国史編纂委員会保管）には、藩主の私物である「御判物長持」から「古キ御書物之内、考ニも可相成分」として本文書が書写されている。本文書は国外には流出せず、国内に留まったと見られる。近代以降に流出が進展した「宗家文書」を構成する一要素である史料である。		

105　名称	額字「松本寺」（がくじ　しょうほんじ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	萩之坊乗円筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦28.7 cm　横53.9 cm　裏貼紙「がく覚」：縦24.6 cm　横35.5 cm 表具：縦113.5 cm　横54.0 cm　軸長70.0 cm
作品概要	江戸時代初期の朱印船貿易家・角屋七郎兵衛(1610-72)が、ベトナム・ホイアンに建立した黄檗宗寺院「松本寺」の額字。七郎兵衛は寛永8年(1631)、長崎を出帆して安南国交趾（ベトナム）へ渡ったが、次第に鎖国令が強化されたことで帰国を断念し、ホイアンに永住することとなった。寛文10年（1670)にはホイアンに「松本寺」（寺号は先祖の故地である信州松本に由来）を建立し、同年に寺号の扁額と梵鐘の調達を松坂の角屋本家に依頼した。このときに揮毫された額字が本作品であり、裏に添付される「がく覚」は七郎兵衛の希望を汲んだ詳細な仕様を記した注文書控とみることができる。「がく覚」には松本寺や「日本町」、「唐人町」の位置を示した図が記されており貴重である。		

（２）寄贈（181件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	大坪流馬術印可状及び馬術図（おおつぼりゅうばじゅついんかじょうおよびばじゅつず）	品　　質	紙本著色
作 者 等	（印可状）上田吉丞重秀	員　　数	7枚、1幅、4巻
時　　代	印可状：江戸時代　馬術図：江戸時代・印可状：元和3年(1617)　馬術図：17世紀	寸 法 等	印可状4巻：(1)縦18.2 cm　横108.2 cm（うち見返し17.4 cm）　(2)縦18.2 cm　横150.0 cm（うち見返し16.2 cm）(3)縦18.2 cm　横87.5 cm（うち見返し15.5 cm）(4)縦18.4 cm　横112.5 cm（うち見返し15.9 cm） 馬術図7枚：(1)縦30.4 cm　横39.1 cm　(2)縦30.8 cm　横44.8 cm　(3)縦32.8 cm　横42.6 cm　(4)縦29.1 cm　横41.7 cm　(5)縦31.8 cm　横41.1 cm　(6)縦32.2 cm　横42.2 cm　(7)縦30.5 cm　横40.9 cm　(台紙)各縦42.6 cm　横52.0 cm 馬術図1幅：(本紙)縦31.2 cm　横40.0 cm　(表具)縦122.0 cm　横52.0 cm　軸長57.0 cm
作品概要	大正紡績（大阪府泉南郡東鳥取町）元社長阿形邦三（1914-2011）によるコレクション（日本の考古遺物・仏教美術・古陶磁・漆器、中国の青銅器・陶磁器、日本東洋絵画、ペルシア陶器、ローマンガラスなど）の一部が寄贈されたもの。絵画は、上田吉丞重秀(生没年不詳)が元和3年(1617)正月と4月に肥前福江藩の2代藩主・五島淡路守盛利(1591-1642)に大坪流馬術を伝授した印可状を伴う馬術図である。大坪流馬術は室町時代前期に大坪慶秀(1324-1407)が創始したとされ、斎藤安芸守好玄(1500-72)を中興の祖とする。好玄の門弟に細川左衛門佐康政があり、上田重秀は康政に師事し、やがて上田流の祖となった。印可状のうち正月21日付の許状と目録は斎藤安芸守・細川左衛門佐相伝の秘書を、卯月21日付の印可状と目録は、秘書に加えて「愚老」（上田重秀）による工夫鍛錬による極意の条々を伝授・印可したもので、馬術図はそれらに副えられたものと考えられる。印可状類の本紙・表装は、金銀泥や切箔等の装飾を施した大変美麗なものである。		

＜書跡＞（34件）

2　名称	古今和歌集切「やましろの」（こきんわかしゅうぎれ　やましろの）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝寂蓮筆	員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	本紙：縦15.4 cm　横15.1 cm　表装：縦132.5 cm　横40.8 cm　軸長45.7 cm
作品概要	もと冊子本で、『古今和歌集』巻第十五（恋五）の題知らず詠み人知らずの和歌5首（順に国歌大観番号759、欠番、760-762）を、各首2行ずつ計10行に書写した新出の断簡。2首目「ことてしは」は、流布本の定家本に見られない異本歌で、異本系統の元永本等諸本に見られるもの。また、4首目下句「われそかすかく君かこぬよは」は、定家本では「君かこぬよはわれそかすかく」となっており、この点も本作品が異本系統に属することを示す。平安末期から鎌倉初期の歌人である寂蓮(1139？-1202)筆の伝承をもつが、本作品は寂蓮の基準作と比べると自筆とは認められない。しかし、法性寺流をうけた鎌倉時代前期に特徴的な雄渾な書風を示す。		

3-16　名称	梅か香を（うめかかを）など	品　　質	彩箋墨書、紙本墨書
作 者 等	髙木聖鶴筆	員　　数	14件
時　　代	現代・昭和、平成	寸 法 等	
作品概要	髙木聖鶴(1923-2017、本名郁太)は、岡山県生まれ、現代を代表する書家の一人。昭和22年(1947)内田雲鶴に師事し、仮名作家としての道を生涯歩んだ。平安古筆を徹底して学び、格調高い仮名の美を現代書壇に展開した。平成18年(2006)文化功労者、平成25年(2013)文化勲章を受章。寄贈の作品は、西行『山家集』や『古今和歌集』、『和漢朗詠集』などに加え、近代の俳人星野麦人の句などから揮毫したもの。 1　梅か香を　1面 2　山方に　1面 3　ほとゝきす　1面 4　玲瓏として　1面 5　霞たつ　1面 6　始識　1面 7　山里は(小)　1面 8　山里は(大)　1面 9　今やらねば　1面 10　きひ野のを　1面 11　むらさめの　1面 12　よし野山　1面 13　古今和歌集巻第十三　1巻 14　秋風に　1面		

17-26　名称	齊風、鶏鳴（さいふう　けいめい）など	品　　質	紙本墨書
作 者 等	青山杉雨筆	員　　数	10件
時　　代	現代・昭和	寸 法 等	
作品概要	青山杉雨(1912-1993、本名文雄)は、愛知県生まれ、現代を代表する書家の一人。戦前、豊道春海門下の大池晴嵐に書の手ほどきを受けたのち、昭和17年(1942)、西川寧(1902-89)に入門し、生涯の師と仰いだ。西川の下で中国の文人的美意識を培い、中国古代の書を範としつつ現代的な作品を発表し、現代書壇を牽引した。「一作一面貌」を標榜して新たな書風を開拓し続けた。昭和63年(1988)文化功労者、平成4年(1992)文化勲章を受章。寄贈の作品は、『詩経』、石鼓文、王維、米元章、蘇軾など中国古代の書を題材に、様々な書体を用いて揮毫したもの。 1　齊風、鶏鳴　1面 2　驥子麟児　1面 3　潘尼詩「贈陸機出為呉王郎中令」　2幅 4　嗛慎　1面 5　鉄樹開華　1面 6　臨石鼓文（第二鼓）　1幅 7　王維詩「観猟」、杜審言詩「蓬莱三殿侍宴奉勅詠終南山」　2幅 8　米元章詩「西園雅集図記」　1面 9　蘇軾詩「正月二十一日病後述古邀往城外尋春」「十二月十四日夜微雪明日早往南溪小酌至晩」　2幅 10　呉鎮詩「題竹」　1面		

27-35　名称	動靡違（どうひい）など	品　　質	紙本墨書
作 者 等	成瀬映山筆	員　　数	9件
時　　代	現代・昭和、平成	寸 法 等	
作品概要	成瀬映山(1920-2007、本名栄三)は、東京生まれ、現代書壇に活躍した書家。戦後、青山杉雨(1912-1993)に師事し、師の書法を学んだ。金文などの古代文字に行草書の筆致を加えるなど独自の表現を開拓した。平成13年(2001)、文化功労者。寄贈の作品は、杜甫、李白、杜牧など中国古代の詩人や、わが国の『小学校学習指導要領』など多様な題材に取材し揮毫したもの。		

＜陶磁＞（23件）

36-58　名称	青磁三耳壺（せいじさんじこ）など	品　　質	磁器、陶器
作 者 等	中国、伊万里（有田）など	員　　数	23件
時　　代	中国　唐時代、中国　南宋時代、中国　北宋時代、江戸時代など	寸 法 等	
作品概要	大正紡績（大阪府泉南郡東鳥取町）元社長阿形邦三（1914-2011）によるコレクション（日本の考古遺物・仏教美術・古陶磁・漆器、中国の青銅器・陶磁器、日本東洋絵画、ペルシア陶器、ローマンガラスなど）の一部が寄贈されたもの。陶磁については、加彩駱駝を始めとする唐代から宋代までの中国陶磁のほか、伊万里焼を多数含む。 1　青磁三耳壺　1口 2　色絵花蝶文蓋付碗　5合 3　染付鯛形皿　1枚 4　染付竹虎文大皿　1枚 5　青磁花文輪花小皿　5枚 6　染付秋草文輪花皿　8枚 7　白磁碗　1口 8　緑釉碗　1口 9　青磁合子　1合 10　青磁牡丹文合子　1合 11　青白磁唐花文合子　1合 12　青磁牡丹唐草文合子　1合 13　青白磁菊花形合子　1合 14　青白磁刻花文平鉢　1口 15　青白磁六稜形花瓶　2口 16　白磁香炉　1口 17　唐三彩貼花獅子文鍑　1口 18　加彩駱駝　1躯 19　緑釉櫃　1個 20　緑釉井戸　1個 21　緑釉加彩馬　1躯 22　褐釉擂座柳斗文小壺　1口 23　緑褐釉羊　1躯		

＜漆工＞（4件）

59-62　名称	金箔押輪花天目台（きんはくおしりんかてんもくだい）など	品　　質	木製漆塗
作 者 等		員　　数	4件
時　　代	安土桃山時代、江戸時代など	寸 法 等	
作品概要	安土桃山時代から近代までの天目台。本来は天目に添うものであるが、これらは天目台のみで伝世したものである。「金箔押輪花天目台」は、酸漿が大きく、土居は高めで下方に向かって開き、羽は六弁のゆるやかな輪花形である。朱黒で塗り分けた上に黒漆地には金箔を押して華やかな作行をみせており、近世初期の天目台の遺例として貴重である。「黒漆輪花天目台」は、酸漿が大きく上方へ開き、土居は低く羽は六弁のゆるやかな輪花形で、唐物の天目台を写したものとみられる。 1　金箔押輪花天目台　1基 2　黒漆輪花天目台　1基 3　朱黒漆輪花天目台　1基 4　黒漆天目台　1基		

＜染織＞（1件）

63　名称	更紗手鑑（更紗集）（さらさてかがみ（さらさしゅう））	品　　質	紙本銅板刷彩色。冊子装
作 者 等		員　　数	1帖
時　　代	明治-大正時代・19-20世紀	寸 法 等	縦24.5 cm　横35.0 cm　厚3.0 cm
作品概要	江戸時代に日本に輸入されたインド更紗の小片の裂地を貼った手鑑を、銅版刷手彩色によって再現したものである。台紙20面に「古渡り阿蘭陀更紗」2枚、「天保年間渡り」10枚、「文化年間渡り」51枚、「天保十一年渡り」14枚、「文化六年渡り」21枚、「文化四年渡り唐口」6枚、「天保初年渡り」9枚、「安政二年七月渡り」8枚、「安政二年渡り」8枚の更紗裂が銅版刷に手彩色で表わされる。		

64-178　名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品　　質	
作 者 等		員　　数	115件
時　　代	縄文時代、弥生時代、古墳時代、サーマーン朝時代、セルジューク朝時代など	寸 法 等	
作品概要	大正紡績（大阪府泉南郡東鳥取町）元社長阿形邦三（1914-2011）によるコレクション（日本の考古遺物・仏教美術・古陶磁・漆器、中国の青銅器・陶磁器、日本東洋絵画、ペルシア陶器、ローマンガラスなど）の一部が寄贈されたもの。日本考古は、縄文時代の土器、土製品、骨角器、弥生時代の土器、古墳時代の副葬品、古代の陶器を中心とする。東洋考古は、中国の新石器時代の彩陶、漢・唐時代の陶磁器のほか、楽浪出土品として戦前から知られている青銅器・漆器などで構成されている。イスラーム美術は、イランで制作されたペルシア陶器を中心とする。いずれもが学術的に貴重で、特に縄文時代の骨角器、楽浪遺跡群の出土品など現在では入手困難なものが多く含まれている。細目は以下の通り。		

1	深鉢形土器	1点	58	方形革金具片	3点
2	深鉢形土器	1点	59	埴輪　家	1点
3	深鉢形土器	1点	60	埴輪　男子	1点
4	浅鉢形土器	1点	61	フラスコ形瓶	1口
5	注口土器	1点	62	有蓋椀	1合
6	鉢形土器	1点	63	広口壺	1口
7	鉢形土器	1点	64	台付円面硯	1口
8	岩版	1点	65	風字硯	1口
9	亀型土製品	1点	66	双耳瓶	1口
10	土版	1点	67	長頸壺	1口
11	土版	1点	68	双耳瓶	1口
12	耳飾	3点	69	四耳壺	1口
13	腰飾	1点	70	双耳瓶	1口
14	腰飾	1点	71	灰釉浄瓶	1合
15	笄	1点	72	広口壺	1口
16	笄	2点	73	双耳壺	1口
17	垂飾	1点	74	灰釉輪花椀	1口
18	垂飾	2点	75	灰釉水瓶	1口
19	垂飾	1点	76	青磁双耳小壺	2口
20	垂飾	1点	77	加彩鈁	1合
21	垂飾	1点	78	緑釉竈	1個
22	銛頭	1点	79	緑釉穀倉	1個
23	磨製石斧	2点	80	緑釉炉	1組
24	瓢形壺	1口	81	加彩穀倉	1合
25	広口壺	1口	82	緑釉穀倉	1個
26	器台	1口	83	灰陶豚	1躯
27	広口壺	1口	84	緑釉龍頭勺	2把
28	広口壺	1口	85	緑釉羊	1躯
29	鉢	1口	86	鈴	4個
30	紡錘車	1点	87	加彩牛	1躯
31	器台形石製品	1個	88	彩陶双耳壺	1口
32	腕輪形石製品片	2点	89	彩陶双耳壺	1口
33	紡錘車	1点	90	灰釉双耳罐	1口
34	ガラス勾玉	1点	91	緑釉罐	1口
35	ガラス蜜柑玉	3点	92	印文硬陶瓿	1口
36	ガラス丸玉	1点	93	緑釉壺	1口
37	ガラス勾玉	1点	94	灰釉輪花椀鍍金鳥形鎮子	2個
38	金銅製管玉・空玉	64個	95	漆耳杯	1口
39	管玉	3点	96	鍍金酒樽	1口
40	四連高杯	1口	97	緑釉耳杯	2口
41	瘤付壺	1口	98	漆塗台付灯	1式
42	広口壺	1口	99	雲気文漆小盤	1口
43	台付壺	1口	100	鍍金銀棺飾釘	3個
44	提瓶	2口	101	白地茶文字文大鉢	1口
45	台付長頸壺	1口	102	鳥獣文鉢	1口
46	横瓶	1口	103	黄地鉢	1口
47	鈴	1点	104	白地二彩輪文鉢	1口
48	長胴甕	1口	105	灰色地二彩木葉文鉢	1口
49	頭椎	1点	106	三彩花文鉢	1口
50	雲珠片	1点	107	黄地三彩花文鉢	1口
51	辻金具片	2点	108	白地茶文字文小鉢	1口
52	雲珠片	1点	109	黄地文字文小鉢	1口
53	磯金具片	1点	110	銅ラスター彩文字文二彩平鉢	1口
54	金銅冠残片	1点	111	蛍手白地藍絵人面文鉢	1口
55	金銅冠残片	2点	112	ミナイ手青釉地馬上人物文鉢	1口
56	辻金具片	1点	113	緑黄地青褐色文大鉢	1口
56	辻金具片	1点	114	薄黄地褐色ジグザグ文小鉢	1口
57	縁金具片	1点	115	白地黒色花文小鉢	1口

179　名称	三角形土版（さんかっけいどばん）	品　　質	土製
作 者 等	伝福島県耶麻郡西会津町上小島遺跡出土	員　　数	1点
時　　代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	縦5.2 cm　横4.7 cm　高2.5 cm
作品概要	１本の脚が欠失しているものの、元は3本の脚状突起を持つ呪術具である。表面の稜線上を中心に円形工具を用いた刺突文がみられる。縄文時代中期の北陸に分布する三角形土版の典型例として貴重である。		

180-181　名称	磨製石剣（ませいせっけん）など	品　　質	石材
作 者 等	朝鮮	員　　数	2件
時　　代	朝鮮　青銅器時代・1紀元前6世紀-紀元前5世紀、2紀元前5世紀-紀元前4世紀	寸 法 等	
作品概要	石材から身と柄を削り出し、研磨して剣の形としたものである。鐔や柄頭がやや突出している。朝鮮の青銅器時代の祭祀具であり、墳墓の副葬品として用いられる。これらの磨製石剣は、日本列島において縄文時代晩期の末から弥生時代前期の初めに当たる時期に製作された。九州地方でも、同じ時期には朝鮮半島由来とみられる磨製石剣が出土する例がある。したがって、稲作開始期の日本と朝鮮半島の間の交渉を物語る作品といえる。 1　磨製石剣　1振 2　磨製石剣　1振		

1-(1)-②-5　有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）

平成31年3月31日

	平成30年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,262,687	154	1,055,847	154	206,840	(2)	0	0
東京国立博物館	146,840	31	140,000	31	6,840	(1)	0	0
京都国立博物館	106,340	12	106,340	12	0	0	0	0
奈良国立博物館	101,564	6	101,564	6	0	0	0	0
九州国立博物館＊	907,943	105	707,943	105	200,000	(1)	0	0

＊東京国立博物館購入1件分と九州国立博物館購入1件分は運営費交付金と寄附金の両方を財源として購入した文化財のため、
実際の文化財購入はそれぞれ7件と105件となる。

1-(1)-②-6 寄託品一覧表

（単位：件）　平成31年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		12,469	197	1,186	3,130	55	253	6,434	87	616	1,974	53	305	931	2	12
絵画		3,438	57	420	481	13	66	2,251	28	246	555	16	105	151	0	3
書跡		1,690	69	268	393	10	30	876	42	199	359	16	36	62	1	3
彫刻		927	9	188	240	3	36	264	1	65	418	5	85	5	0	2
建築		5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工		994	14	86	134	5	18	554	2	36	212	7	31	93	0	1
刀剣		262	8	58	231	8	49				16	0	9	15	0	0
陶磁		1,421	1	8	128	0	3	1,001	1	4	8	0	0	284	0	1
漆工		741	15	56	92	6	14	495	4	15	121	5	26	33	0	1
染織		895	7	38	286	2	4	533	3	31	49	2	3	27	0	0
考古		942	13	34	162	4	13	420	6	10	236	2	10	125	1	1
民族資料		114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0
歴史資料		67	0	10	5	0	0	37	0	10	0	0	0	25	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	184	2	14	184	2	14									
	書跡	39	1	3	39	1	3									
	彫刻	31	0	0	31	0	0									
	金工	6	0	1	6	0	1									
	陶磁	170	1	1	170	1	1									
	漆工	30	0	1	30	0	1									
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	488	0	0	488	0	0									
	民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品		13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規定による「旧東洋課所掌分」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

（単位：件）　平成31年3月31日現在

		国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
		29年度	30年度			29年度	30年度			29年度	30年度			29年度	30年度			29年度	30年度		
		計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計		12,236	302	69	12,469	3,109	45	24	3,130	6,231	232	29	6,434	1,962	18	6	1,974	934	7	10	931
絵画		3,417	36	15	3,438	467	18	4	481	2,245	15	9	2,251	555	2	2	555	150	1	0	151
書跡		1,681	13	4	1,690	393	0	0	393	875	5	4	876	351	8	0	359	62	0	0	62
彫刻		928	5	6	927	242	1	3	240	262	3	1	264	418	1	1	418	6	0	1	5
建築		5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工		986	12	4	994	133	2	1	134	547	8	1	554	211	2	1	212	95	0	1	94
刀剣		245	24	7	262	218	20	7	231					16	0	0	16	11	4	0	15
陶磁		1,276	151	6	1,421	129	0	1	128	853	151	3	1,001	8	0	0	8	286	0	2	284
漆工		733	14	6	741	95	0	3	92	485	12	2	495	120	2	1	121	33	0	0	33
染織		858	41	4	895	286	0	0	286	498	38	3	533	47	3	1	49	27	0	0	27
考古		951	2	11	942	162	0	0	162	425	0	5	420	236	0	0	236	128	2	6	124
民族資料		114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	109
歴史資料		68	0	1	67	5	0	0	5	38	0	1	37	0	0	0	0	25	0	0	25
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	185	0	1	184	185	0	1	184												
	書跡	39	0	0	39	39	0	0	39												
	彫刻	31	0	0	31	31	0	0	31												
	金工	6	0	0	6	6	0	0	6												
	陶磁	167	4	1	170	167	4	1	170												
	漆工	30	0	0	30	30	0	0	30												
	染織	10	0	1	9	10	0	1	9												
	考古	490	0	2	488	490	0	2	488												
	民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品		13	0	0	13	13	0	0	13												

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　平成31年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		32	0	4	30	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画		7	0	4	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡		18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画				1	0	0	0	0	0						
東洋	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	14～30℃	26～77%
	収蔵庫	09：30～17：00	16～27℃	33～82%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	20～29℃	42～64%
	収蔵庫	09：30～17：00	20～25℃	46～65%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	16～30℃	31～65%
	収蔵庫	09：30～17：00	12～33℃	38～72%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	21～25℃	47～59%
	収蔵庫	24時間運転	21～24℃	51～59%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	17～24℃	38～74%
	収蔵庫	24時間運転	21～22℃	52～75%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	休止中		
	収蔵庫	8：30～17：30	18～25℃	50～60%
平成知新館	展覧会場	8：40～17：20	19～25℃	50～65%
	収蔵庫	8：40～17：20	20～25℃	55～60%
北収蔵庫		9：00～17：30	18～25℃	50～60%
東収蔵庫（改修工事中）		運用停止	―	―
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	50～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

平成31年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　450件 和古書・漢籍　25,575件 洋古書　0件	画像　3,380件	画像　3,047件 文字　4,671件	（完了）

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】 平成31年3月31日現在

合計		1,460		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		930	5	525
絵画		266	3	240
書跡		45	0	14
彫刻		44	0	12
建築		0	0	0
金工		21	0	0
刀剣		76	0	3
陶磁		52	0	0
漆工		17	0	0
染織		48	0	23
考古		71	0	4
歴史資料		13	0	4
民族資料		18	0	1
和書		29	0	8
東洋	絵画	9	0	18
	書跡	25	1	7
	彫刻	3	0	1
	金工	46	0	0
	陶磁	43	0	1
	漆工	2	0	0
	染織	3	1	11
	考古	71	0	3
	民族	9	0	0
法隆寺献納宝物		11	0	1
その他（黒田含）		8	0	174

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	131	103	101
絵画	48	26	4
書跡	14	2	2
彫刻	7	27	0
建築	0	0	0
金工	20	3	24
刀剣		0	1
陶磁	14	0	2
漆工	8	0	0
染織	5	9	1
考古	11	36	1
民族資料	0	0	0
歴史資料	4	0	6
和書	0	0	0
その他	0	0	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

平成31年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		89	26	17	6	40
絵　画		18	6	5	3	4
書　跡		7	2	3	1	1
彫　刻		1	0	0	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		30	1	5	0	24
刀　剣		2	1	0	0	1
陶　磁		2	0	0	0	2
漆　工		1	0	1	0	0
染　織		4	1	2	0	1
考　古		10	7	1	1	1
歴史資料		6	0	0	0	6
和　書		2	2	0	0	0
民族資料		1	1	0	0	0
東洋	絵　画	1	1			
	書　跡	1	1			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	1	1			
	漆　工	0	0			
	染　織	1	1			
	考　古	0	0			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		1	1			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		0	0			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-③-5 修理概況
【東京国立博物館】（計26件）

＜絵画＞（6件）

1 列品番号	A-137	品　質	紙本着色
名　称	遊女立姿図(ゆうじょたちすがたず)	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦94.2cm 横39.5 cm
年代世紀	18c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

2 列品番号	A-422	品　質	絹本着色
名　称	遊女聞香図(ゆうじょもんこうず)	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	縦87.6 横36.7 cm
年代世紀	18c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂の一部、軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

3 列品番号	A-972	品　質	紙本墨画淡彩
名　称	神農図(しんのうず)	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸 法 等	縦95.5 横46.2 cm
年代世紀	16c	施工会社	株式会社　光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂を新調、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

4 列品番号	A-10574	品　質	絹本着色
名　称	愛染明王像(あいぜんみょうおうぞう)	員　数	1幅
時　代	南北朝時代	寸 法 等	縦104.5 横54.4
年代世紀	14c	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5.新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

5 列品番号	A-11128	品　質	紙本金地着色
名　称	南蛮屏風(なんばんびょうぶ)	員　数	6曲1双
時　代	江戸時代	寸 法 等	154.8×371.5 cm
年代世紀	17c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 屏風装を解体する。 2. 絵具層の剥落止めの後、クリーニングを行なう。 3. 表打ちを行ない、画面を保護し、旧裏打紙、補紙を除去する。 4. 新たに補紙、裏打ちを行なう。 5. 仮張りをした後、補紙に補彩を行なう。 6. 骨下地を新調し、下張りを行ない、裏貼紙、本紙、裂を貼り込む。 7. 新調した表装裂、襲木、金具を取り付けて、屏風装に仕立てる。		

6 列品番号	A-12450	品　質	絹本著色
名　称	玄奘三蔵像(げんじょうさんぞうぞう)	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代	寸 法 等	縦134.4 横56.2
年代世紀	14c	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸を新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

＜東洋絵画＞(1件)

7 列品番号	TA-82	品　質	絹本着色
名　称	四季花鳥図巻(しきかちょうずかん)	員　数	1巻
時　代	清時代	寸 法 等	縦42 長さ521.2
年代世紀	18c	施工会社	㈱修美
修理内容	1. 解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 軸首は再利用し、表紙、軸、八双等を新調し、巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

＜書跡＞(2件)

8 列品番号	B-3178	品　質	紙本墨書
名　称	医心方(いしんぽう)	員　数	30巻、1冊
時　代	平安時代～江戸時代	寸 法 等	
年代世紀	12c～17c	施工会社	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度から平成28年度にかけて12巻、1冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。）		

9　列品番号	B-3474	品　　質	紙本墨書
名　　称	夢窓疎石墨跡杜甫詩(むそうそせきぼくせきとほし)	員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代	寸 法 等	本紙 縦22.3（最小値） 横121.5
年代世紀	文保2年 (1318)	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 表装裂を新調し、牙軸を修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

10　列品番号	TB-1171	品　　質	紙本墨書
名　　称	与虎丘紹隆印可状 (くきゅうじょうりゅうにあたういんかじょう)	員　　数	1幅
時　　代	北宋時代	寸 法 等	縦43.9 横52.4
年代世紀	宣和6年(1124)	施工会社	㈱桂文化財修理工房
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。補筆のある旧補紙は残す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、風帯、牙軸は修理して再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

11　列品番号	E-14365	品　　質	鉄製
名　　称	経筒(きょうづつ)	員　　数	5合
時　　代	鎌倉時代～室町時代	寸 法 等	① 蓋口径6.2 蓋高1.5 筒身径6.5 筒身高10.8 ； ② 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.5 筒身高10.5 ； ③ 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.4 筒身高11.0 ； ④ 蓋口径5.3 蓋高2.5 筒身径6.5 筒身高11.2 ； ⑤ 蓋口径6.2 蓋高0.3 筒身径6.5 筒身高11.3
年代世紀	14～16c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

12　列品番号	F-16027	品　　質	鉄製漆塗
名　　称	十二間星兜鉢(じゅうにけんのほしかぶとばち)	員　　数	1頭
時　　代	平安時代	寸 法 等	鉢高（眉庇含む） 15.1
年代世紀	12c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 腰巻の際など最低限の箇所に補填、補彩を施す。 5. 腰巻の不定形な形状に対応した、取り外し可能なマウント台を作製する。		

13　列品番号	TG-2075	品　　質	磁製
名　　称	五彩人物文長方合子 (ごさいじんぶつもんちょうほうごうす)	員　　数	1合
時　　代	明時代	寸 法 等	総高10.3 長径28.8 短径20.0
年代世紀	万暦年間(1573～1620)	施工会社	陶磁器修復たま工房
修理内容	1. 解体する 2. 旧補彩をクリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分に充填・補彩する。		

14　列品番号	I-3246	品　　質	練緯（絹）、刺繍、摺箔
名　　称	縫箔 白地草花肩裾模様 (ぬいはく　しろじそうかかたすそもよう)	員　　数	1領
時　　代	安土桃山時代	寸 法 等	丈100.8　裄51.5
年代世紀	16c	施工会社	㈱松鶴堂
修理内容	1. 全解体を行なう。 2. 表から当てている補修裂を外す。 3. 表裂、裏地それぞれに薄絹を添わせて補強修理を施す。 4. 元の姿に仕立て直す。 5. 刺繍糸の糸の解れ、乱れを整え留める。 6. 中性紙のケースに収納する。		

〈東洋染織〉(1件)

15　列品番号	TI-418-1	品　　質	絹製ヴェルヴェット地に金属糸とスパンコールで刺繍、宝石で装飾
名　　称	コート　濃紺ヴェルヴェット地花弁文様金銀糸刺繍 (のうこんう゛えるう゛えっとじかきもんようきんぎんししゅう)	員　　数	1着
時　　代	—	寸 法 等	丈110.0　肩幅44.0　袖長56.0
年代世紀	19c	施工会社	㈱染技連
修理内容	1. 部分的に解体する。 2. 損傷箇所に補修裂をあてて、縫いとめる。 3. 刺繍などのほつれをとめる。 4. 黄緑地の縁裂を新調して縫い合わせる。 5. 保存箱を新調する。		

〈考古〉(7件)

16　列品番号	J-6478	品　　質	土製
名　　称	陶棺(とうかん)	員　　数	1個
時　　代	古墳(飛鳥)時代	寸 法 等	棺身 高62.1 長172.7 幅48.5 ； 棺蓋 高23.6 幅65.1 長90.9
年代世紀	7c	施工会社	アトリエ多摩

修理内容	1. 旧補強用セメントを除去し、解体する。 2. 旧補填部分を除去し、クリーニングする。 3. 再度接合し、欠失部分は合成樹脂で補填する。 4. 補填箇所に補彩を施す。 5. 展示・保管・移動用の台座を作製する。

17 列品番号	J-8035	品　質	刀身：鉄製、環頭柄頭・鍔・鎺：鉄製 銀象嵌、縁金具：鉄地金銅製
名　称	単鳳環頭大刀(たんほうかんとうたち)	員　数	1本
時　代	古墳時代	寸 法 等	刀身：長61.2cm 最大幅2.5cm 厚0.8cm、環頭柄頭：全長9.5cm 環頭短径4.5cm 環頭長径5.5cm 環頭厚1.2cm 柄長5.0cm 柄厚0.5～1.0cm、鍔：長5.3cm 幅4.4cm 厚0.5cm、縁金具：長3.9cm 幅2.5cm 厚0.2cm、鎺：長2.0cm 幅2.9cm 厚2.0cm
年代世紀	6c	施工会社	飛鳥工房
修理内容	1. クリーニングする（象嵌表出含む）。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

18 列品番号	J-8036	品　質	鉄製
名　称	鉄刀子(てつとうす)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸 法 等	全長15.8cm 刀身長10.1cm 刀身最大幅1.7cm 茎長5.7cm 茎最大幅1.1cm
年代世紀	6c	施工会社	飛鳥工房
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

19 列品番号	J-36697	品　質	土製
名　称	埴輪　桂甲の武人(はにわ　けいこうのぶじん)	員　数	1個
時　代	古墳時代	寸 法 等	高130.5　最大幅39.5
年代世紀	6c	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 修理前調査を行う。 2. 旧接合部分を外し、全体を解体する。 3. 残存する赤色等顔料を残しながら旧接合部分の石膏や汚れを洗浄する。 4. オリジナルの断片を新規に接合する。 5. 欠失部に補填を行う。 6. 新規補填箇所に補彩を行う。		

20 列品番号	J-39038	品　質	青銅製
名　称	銅鐸(どうたく)	員　数	1個
時　代	弥生時代(後期)	寸 法 等	高86.5 舞径20.8×18.5 裾径(現存部)34.0×32.0
年代世紀	1～3c	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 津市教育委員会所蔵の同一個体破片を三次元計測して模造した破片を接合する。 5. 欠損した箇所を補填・復元する。 6. 補填箇所に彩色する。		

21 列品番号	J-39512	品　質	土製
名　称	深鉢形土器(ふかばちがたどき)	員　数	1個
時　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	口径15.4 底径6.5 高25.7
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

22 列品番号	J-39512	品　質	土製
名　称	深鉢形土器(ふかばちがたどき)	員　数	1個
時　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	口径26.8　高29.7
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

〈民族資料〉（1件）

23 列品番号	K-25924	品　質	鉄製鋳造
名　称	吊耳鉄鍋(つりみみてつなべ)	員　数	1個
時　代		寸 法 等	総高14 器高11.2 口径23.0
年代世紀	19c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。4. 欠失部分を復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

24 列品番号	QA-4383	品　質	着色、折仕立
名　称	《三河国図》（みかわのくにず）	員　数	1鋪
時　代	江戸時代	寸 法 等	本紙 縦187.3 横189.0
年代世紀	19c	施工会社	㈱墨仁堂
修理内容	1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。		

25 列品番号	QA-4384	品　質	着色、折仕立
名　称	《信濃国小諸城図》（しなののくにこもろじょうず）	員　数	1鋪

時　　代	江戸時代	寸 法 等	縦199.2 横166.1
年代世紀	19c	施工会社	㈱墨仁堂
修理内容	1. 本紙の剥落止めを行ない、裏打紙を除去する。 2. 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し、欠失箇所に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行ない、表紙を補修して再使用する。 4. もとの折り目で畳み、表紙を取り付ける。		

26　列品番号	X-55-20120531-006（伝来未詳品） （今後正式に登録予定）	品　　質	絹製、夾纈、纐纈
名　　称	裳残欠(もざんけつ)	員　　数	1腰
時　　代	奈良時代	寸 法 等	91.5×86.5
年代世紀	8c	施工会社	沢田むつ代、三田覚之
修理内容	1. 仮貼りされている和紙からはがす。 2. 部分ごとに解体する。 3. 加湿のうえで仕立て前の一枚裂の状態に展開する。 4. 楮紙にて裏打ちする。 5. 本来の仕立てに従って組み立てる。 6. 展示を兼ねた保存箱に設置する。		

【京都国立博物館】（計17件）

＜絵画＞（5件）

1　名　　称	梟図　淀藩稲葉家伝来品のうち　徳川家光筆(ふくろうず　よどはんいなばけでんらいひんのうち　とくがわいえみつひつ)	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	縦50.1cm　横30.0cm
品　　質	紙本墨画	施工会社	株式会社　岡墨光堂
修理内容	・調査を行う。・解体に先立ち本紙夷表面の汚れを除去する。・表装裂地を取り外し、肌裏紙以外の裏打紙を除去する。・濾過水を用いて本紙の汚れを除去する。・膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。・本紙の肌裏紙を除去する。・各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。・総裏打ののち仮張りし、充分に乾燥させる。・掛幅装に仕立てる。一文字風帯および中廻しは補修のうえ元使いとする。・桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。・修理後の記録をとり、報告書を作成する。		

2　名　　称	雒城尼寺図（らくじょうにじず）	員　　数	1幅
時　　代	中国・清時代（19世紀）	寸 法 等	縦122.5cm、横43.1cm
品　　質	紙本墨画	施工会社	漢和堂
修理内容	・修理開始前の保存状態を調査・記録する。・本紙の旧裏打紙を除去する。・しみと汚れを除去する。・新たに天然色素で染めた紙で肌裏を打つ。・生宣紙にて増し裏を入れる。・折れぶせを入れて折れを抑える。・本紙にふさわしい色合いの特製の裂地を用いる。・裂地の使用にあたっては天然色素で染めて光沢を調整する。・本紙と表装裂地を仮張りして乾燥させる。・本紙と表装裂地をつけまわす。・生宣紙にて中裏と総裏を入れて、十分に乾燥させる。・修理前の表装に似せた中国表装に仕立てる。・太巻を新調する。・包裂で作品を包み、桐箱に入れて保管する。・修理報告書を作成する。		

3　名　　称	国宝　蓮池水禽図　俵屋宗達筆（れんちすいきんずたわらやそうたつひつ）	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	縦119cm　横48.3cm
品　　質	紙本淡彩	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	2か年修理の2か年目。・解体修理により、肌裏紙を除去。新たに肌裏打を施す。・濾過水にて本紙の汚れを除去する。・表装裂地を新調する。軸端は木軸とする。・太巻とし、桐箱を新調する。		

4　名　　称	石燈籠図屏風　伊藤若冲筆（いしどうろうずびょうぶいとうじゃくちゅうひつ）	員　　数	6曲1双
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	（各）縦159.0cm　横363.0cm
品　　質	紙本墨画	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）・旧裏打ち紙を除去する。本紙を間接洗浄する・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。 ・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。・本紙の裏打ち紙は上下共役１分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で 裏打ち（増裏打ち）を行う　・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくり納める。（29年度より2か年事業）		

5　名　　称	柿本人麿像（かきのもとのひとまろぞう）	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（17世紀）	寸 法 等	縦83.3×横39.8cm
品　　質	絹本著色	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	・調査を行う。（採寸、修理前後の調査、撮影）・旧裏打ち紙を除去する。本紙を間接洗浄する・虫損痕などの損傷箇所には似寄の和紙で繕いを行う。 ・本紙を薄美濃紙で裏打ち（肌裏打ち）を行う。・本紙の裏打ち紙は上下共役１分残す。・巻頭紙、巻末紙を付ける。・本紙に厚みを付ける為に美栖紙で裏打ち（増裏打ち）を行う　・巻子装に仕立てる。・中性紙の箱をつくり納める。（29年度より2か年事業）		

＜書跡＞（3件）

6　名　　称	重要文化財　大手鑑（八十葉） （おおてかがみ（はちじゅうよう））	員　　数	1帖
時　　代	奈良～室町時代（8～16世紀）	寸 法 等	縦44.6cm、横60.8cm
品　　質	両面折帖装	施工会社	株式会社松鶴堂

修理内容	・修理前に本紙現状の写真撮影を行い、本紙表面及び損傷状況、装丁の調査・記録を行う。・墨、朱、金銀泥、顔料等の耐久性を確認し、必要に応じて膠水による剥落止めを施す。・各本紙を画帖本体から取り外し、現在の肌裏紙を除去する。・旧補修紙等を取り除く。・各本紙の損傷状況に応じてクリーニングを行い、経年による酸化物等の汚れを除去する。・解装後に本紙の材質、折目痕等の痕跡、裏面の状況等に応じて本紙補修を施す。・本紙に美濃紙による肌裏打ちを施し、仮張り乾燥を行う。鳥の子紙を貼り合わせて画帖台紙を作製する。画帖台紙に本紙を貼り込む。・二つ折りにした画帖台紙の一面を貼り合わせ、互い違いに開くように連結する。・向かい合う本紙同士の擦れを軽減するため、台紙のノドを除く三方に覆輪を取り付ける。・見返しの金箔台紙を再用する。・新たに表紙を作製する。表紙裂は金襴にて新調し、金具は現在のものを再用する。・画帖台紙に見返し及び表紙を取付け、元通りの画帖仕立てとする。・桐製の保存箱及び包裂を新調し、画帖を収納する。・修理後に写真撮影を行う。・修理報告書を作成する。（28年度より4か年事業）

7　名　　称	大般若経巻第二百五十五（法覚一筆経）　法覚筆（だいはんにゃきょうまきだいにひゃくごじゅうご（ほうかくいっぴつきょう）　ほうかくひつ）	員　　数	1巻
時　　代	鎌倉時代　建治元年（1275）	寸 法 等	縦25.8cm　全長658.0cm
品　　質	紙本墨書	施工会社	株式会社修美
修理内容	・現状を調査、記録する。・数紙ごとに解体する。・必要に応じ、膠水溶液にて剥落止めを行う。・柔らかい筆などを用い、表面の汚れを除去する。・旧補修紙を除去する。・濾過水を用い、最小限の加湿を与えたうえ、プレス乾燥を行い、本紙を伸ばす。・欠失箇所には、同質の補修紙を製作し、補紙をほどこす。・必要に応じて、折れが発生している箇所、および将来的にその発生が懸念される箇所に折伏せを入れる。・首欠であるため、巻頭に間紙を入れ、本紙を元の順に継ぎ直す。・新調した軸木、表紙などを取り付け、巻子に仕立てる。・太巻添軸を新たに装着し、新調した保存箱に納入する。		

8　名　　称	臨石鼓四屏　呉昌碩筆（りんせっこしへい　ごしょうせきひつ）	員　　数	4幅
時　　代	中国・中華民国元年（1912）	寸 法 等	（各）縦134.5cm　横46.8cm
品　　質	紙本墨書	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	・現状を調査、記録する。・必要に応じ、膠水溶液にて剥落止めを行う。・解体する。・濾過水を用い、本紙の汚れを除去する。・本紙に少量ずつ水分を与え、肌裏紙を除去する。・欠失箇所には、類似した補修紙にて補紙をほどこす。・小麦澱粉糊を用い、美濃紙にて肌裏打をほどこす。・古糊を用い、美栖紙にて２層、増裏打をほどこす。・１層目の裏打後には、折れが発生している箇所、および将来的にその発生が懸念される箇所に折伏せを入れる。・新調した表装裂地に、肌裏打、増裏打をほどこす。・本紙と表装裂地を付け廻す。・古糊を用い、宇陀紙にて総裏打をほどこす。・仮張りして充分に乾燥させた後、新調した中軸、発装などを取り付け、軸に仕立てる。		

＜金工＞（5件）

9　名　　称	槍　銘△長谷部国信（やり　めいさんかくはせべくにのぶ）	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代14世紀	寸 法 等	全長54.2cm、刃長20.0cm
品　　質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の差込研であるため、同じく差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影を行い、報告書を提出する。		

10　名　　称	脇差　無銘（わきざし　むめい）	員　　数	1口
時　　代	南北朝時代14世紀	寸 法 等	全長45.5cm、刃長36.5cm
品　　質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の差込研であるため、同じく差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影を行い、報告書を提出する。		

11　名　　称	太刀　無銘（たち　むめい）	員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代13世紀	寸 法 等	全長85.6cm、刃長68.8cm
品　　質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の差込研であるため、同じく差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影を行い、報告書を提出する。		

12　名　　称	刀　銘兼吉（かたな　めいかねよし）	員　　数	1口
時　　代	室町時代15世紀	寸 法 等	全長88cm、刃長68.8cm
品　　質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の差込研であるため、同じく差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影を行い、報告書を提出する。		

13　名　　称	刀　銘立命館義一作／乙酉年二月日（かたな　めいりつめいかんよしかずさく/きのととりにがつじつ）	員　　数	1口
時　　代	昭和時代　昭和20年（1945）	寸 法 等	全長87.4cm、刃長65.5cm
品　　質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の差込研であるため、同じく差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影を行い、報告書を提出する。		

＜漆工＞（1件）

14　名　　称	桐竹鳳凰菊桐紋蒔絵広蓋 （きりたけほうおうきりもんまきえひろぶた）	員　　数	1枚
時　　代	桃山～江戸時代　17世紀	寸 法 等	縦54.0cm　横56.9cm　高9.2cm
品　　質	木製、漆塗り、蒔絵	施工会社	北村繁
修理内容	・修理前の記録撮影を行い、調査して、修理方針を確認する。・クリーニングにさきがけて、塗膜や金具の剥離箇所を養生する。・クリーニングを行う。・剥離した漆塗膜や折れた金具を、割れずに動く範囲で木地に沿うように加圧して、麦漆で接着する。・塗膜の欠失箇所は、鑑賞を妨げない仕様で表面を補う（木地に生漆を含浸させて補強したのち、塗膜の欠失部分に漆下地を施して形状を整え、表面を研いで周囲と調和するよう仕上げる）。・木地や塗膜の亀裂に希釈した麦漆を含浸させて補強する。加飾部分にかかる亀裂は、蒔絵や金具に麦漆が乗らないよう細心の注意を払う。・修理後の記録撮影を行い、報告書を作成する。		

＜染織＞（2件）

15　名　　称	重要文化財　紅地雪持ち橘文様唐織小袖（べにじゆきもちたちばなもんようからおりこそで）	員　　数	1領
時　　代	桃山時代　16～17世紀	寸 法 等	丈144.0cm　裄61.5
品　　質	絹	施工会社	株式会社　松鶴堂
修理内容	・解体を行う。・経年による折れ皺、畳皺を伸ばす。・損傷部分を、部分的に補修する。・金糸などの刺繍部分を補強する。・裏面に補強裂を当てる、あるいは重ね仕立てにするなどして仕立てる。・収納方法を検討し、保存形態に合わせて畳紙などを新調する。（29年度より2か年事業）		

16　名　　称	重要文化財　濃茶麻地菊棕櫚文様帷子（こいちゃあさじきくしゅろもんようかたびら）	員　　数	1領
時　　代	江戸時代　17世紀	寸 法 等	丈155.1cm、裄62.7cm
品　　質	絹	施工会社	株式会社　染技連
修理内容	・解体を行う。・経年による折れ皺、畳皺を伸ばす。・損傷部分を、部分的に補修する。・金糸などの刺繍部分を補強する。・裏面に補強裂を当てる、あるいは重ね仕立てにするなどして仕立てる。・収納方法を検討し、保存形態に合わせて畳紙などを新調する。（29年度より2か年事業）		

＜考古＞（1件）

17　名　　称	兜 原山古墳出土品 （かぶと　はらやまこふんしゅつど）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代中期（5世紀）	寸 法 等	高16.0　長25.5　幅19.8
品　　質	鉄・鍛造・鋲留	施工会社	元興寺文化財研究所
修理内容	・修理に先立って写真撮影およびＸ線写真を実施し、作品現状を記録する。・全体に付着した土・砂・埃や錆の除去を行う（第一次クリーニング）。・有機溶剤（クレンゾル・エタノール・酢酸エチル混合液）に浸漬して表面の油脂分等の不純物を除去する。・アルカリ性のセスキカーボネイト水溶液に浸漬して脱塩処理を行う。　・作品強化と防錆のためにフッ素系アクリル樹脂20%ナフサ溶液による減圧含浸を実施する（樹脂含浸）。・第一次クリーニングで除去しきれなかった錆などを除去する。・再度樹脂含浸を行う。・外気と遮断するために樹脂塗布を行う。・欠損部はエポキシ樹脂にガラスマイクロバルーンを混合した素材を用いて成形復元する。　・再度樹脂塗布を行う。・樹脂含浸や樹脂塗布によって生じたつやを、つや消し剤を用いて抑制し、全体の質感を整えて仕上げる。・処理後は検査を行い、処理後の写真撮影を行う。		

【奈良国立博物館】（計6件）

＜絵画＞（3件）

1　名　　称	絹本著色釈迦十六善神像（けんぽんちゃくしょくしゃかじゅうろくぜんじんぞう）	員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	縦176.5cm　横122.4cm
品　　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失、強い横折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善し、画面の鑑賞性の向上と本紙の柔軟性回復を目的として、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。本紙処置を行う前に、顕微鏡等を用いて入念な調査を実施し、デジタル画像データを用いた詳細な損傷図を作成。濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した裏打紙をあて、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・上下軸木・啄木は新調し、軸首は歪みを調整のうえ再使用。桐太巻添軸・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調し、包裂に包んで納品。修理前中後の記録を整理し、報告書を作成する。（継続3か年事業のうちの第3年目）		

2　名　　称	絹本著色親鸞聖人像 （けんぽんちゃくしょくしんらんしょうにんぞう）	員　　数	1幅
時　　代	鎌倉～南北朝時代　14世紀	寸 法 等	縦148.8cm　横86.2cm
品　　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。表装を解体し裏打紙をすべて取り替える本格修理を行う。補絹箇所および補筆箇所を明確にするために損傷図を作った上で作業を進める。裏打紙の除去を行い、クリーニングを施す。剥落止めをして表打ちをし、肌裏紙を除去、取り外した旧補絹の箇所には劣化絹を用いて新たな補絹を施す。肌裏を打ち折れ付せを施す。乾燥後に必要な補彩を施す。修理過程においては必要に応じて光学調査を行う。表装裂、太巻添軸、軸首は再利用。鐶は四ッ鐶に変更し二個を復元新調する。桐印籠箱及び四方帙を新調。（継続2か年事業のうち第2年目）		
指　　定	重要文化財		

3　名　　称	絹本著色道宣律師像 （けんぽんちゃくしょくどうせんりっしぞう）	員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	縦112.5cm　横56.2cm
品　　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存

修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失・折れなどを改善するため、表装を解体し、裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。はじめに損傷地図を作成し、現在の状態を明らかにした上で、乾式肌上げ法により肌裏紙を除去する。濾過水を用いて汚れを除去し、黴の痕跡箇所については状態を観察した上で、必要に応じてエタノールによる殺菌処理を行う。クリーニング後、剝落止めを行い、本紙の欠失部分には電子線劣化絹で補填する。折れ伏せを施し、新調した肌裏紙をあてる。新たな補絹箇所には地色補彩を施す。表装はすべて新調し、現在の袋明朝表具から二段仏表具に改装する。太巻添軸、桐印籠箱、四方帙を新調する。旧箱内の附属品は旧箱に納入したままにする。（継続2か年事業のうち第1年目）
指　　定	重要文化財

＜彫刻＞（1件）

4　名　　称	木造役行者倚像（もくぞうえんのぎょうじゃいぞう）	員　　数	1軀
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	像高78.0cm
品　　質	木造	施工会社	（公財）美術院
修理内容	本格修理。埃を除去する。左手第2指、右手首外側の亡失箇所、右手第5指は樹脂等で材質強化し、ヒノキ材で補足する。布貼りは可能なかぎり除去する。像内と左の下駄に認められる虫孔・虫蝕箇所には樹脂等を充填し、木屎漆等で補修する。体側の割矧ぎ目はいったん解体し、清掃のうえ再接合し、木屎漆で整形する。持物は調査・協議のうえ左手には経巻ないし独鈷杵、右手には錫杖を新補する。（1か年事業）		

＜書跡＞（1件）

5　名　　称	不動護摩次第（ふどうごましだい）	員　　数	1巻
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	縦28.1cm　長996.8cm
品　　質	紙本墨書	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙表面の埃を取り、必要な箇所に剝落止めをおこなう。表紙、軸付紙、紙背の貼り紙等、当初の本紙以外の部分はすべて取り外す。本紙の継ぎを外し、一枚ごとの紙になった状態で、湿りを与えて旧補紙を除去する。表面の汚れを除去した後に旧修理時に施された糊の痕跡を、本紙に負担をかけない程度に除去する。プレス乾燥させ、本紙の形状を整える。紙質を調査するとともに、旧補紙除去後の状況を記録する。紙質調査の所見に基づいて新たな補紙を作成し、虫損等の欠失箇所を補う。継ぎ位置を確認しながら、本紙を継ぎ直す。表紙、軸木、軸巻紙を新調し、本紙に取り付けて巻子装に仕立てる。包裂、桐箱、紙帙は新調して納める。旧箱、旧表紙、旧補紙、旧軸、紙背から取り外した原稿用紙等は別置保存する。（1か年事業）		
指　　定	重要美術品		

＜考古＞（1件）

6　名　　称	波文縁方格規矩鏡（16号鏡、19号鏡）〔奈良県天神山古墳出土銅鏡〕）（はもんえんほうかくきくきょう〔ならけんてんじんやまこふんしゅつどひん〕	員　　数	2面
時　　代	古墳時代　4世紀	寸 法 等	波文縁方格規矩鏡（16号鏡）：径15.8cm　　波文縁方格規矩鏡（19号鏡）：径16.0cm
品　　質	青銅製　鋳造品	施工会社	(公財)元興寺文化財研究所
修理内容	処理前の状態を写真撮影、Ｘ線撮影、肉眼観察等で記録する。古い樹脂等を除去し、有機溶剤等による洗浄を行う。必要に応じて防錆処理を行い、合成樹脂等の含浸・塗布等で破片の強化処理を行った後、再接合、再補填、整形等を行う。展示公開に適した修復部の着色、艶消し等の仕上げを行う。処理中に使用した薬剤名や写真記録、作業工程、費やした時間等の修理に関する情報を整理し、修理報告書を納品する。（1か年事業）		
指　　定	重要文化財		

【九州国立博物館】（計40件）

＜絵画＞（4件）

1　名　　称	日月図軍扇足利尊氏花押 （じつげつずぐんせん　あしかがたかうじかおう）	員　　数	1点
時　　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	本紙中点18.5cm　装丁（展開時）縦34.8 cm、横53.2 cm　扇骨15本
品　　質	本紙紙本金銀箔　扇骨竹製	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体（調査）　本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、金銀箔等の調査、料紙のあらゆる情報について記録を行う。料紙 については、JIS8120（紙・板紙及びパルプ繊維組成試験方法）に基づき紙質検査を行って記録を行う。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニング を行う。3.強化・ 整形（剥落止め） 金銀箔や墨等の膠着力のテストを行い、必要に応じて 免膠水溶液 1 %前後を用いて剥落止め を行う。 効果を確認し、必要に応じて繰り返し行う 。膠水溶液を塗布する際は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意 を払い行う。4.解体（取り外し）本紙に負担がかからないようブリザベーションペンシルによる加湿を行い、必要最小限のの湿　りにて本紙を扇骨から取り外す。5.強化・ 整形（フラットニング） 必要最小限の湿りを与え、本紙を吸取紙と 板に挟んでフラットニングを 行う。6.補填 本紙料紙の調査結果に基づき、DIIPS 法による 象嵌式補修紙を作製し、自社で炊いた小 麦澱粉糊（新糊）を用いて本紙の両面から欠失箇所 に補修を行う。補修紙は本紙と補修紙の 重なりによる凹凸が最小限になるよう、補修紙の糊代部分を削って補修を行う。7.補彩 本紙料紙の地色を基本として行い、それに加え現在の経年変化した料紙の状態を加味した色合 いにも考慮して補修箇所に補彩を施す。最終的な調整としては欠失部周辺の状態にも応じて、鑑質を行う上で支障のないよう、微調整を行う。8.接合・組立 中骨は元のものを再使用する。親骨は、墨書を現状の ままとする場合は修理前に使用さ れている親骨を再使用し、墨書を別置保存する場 合は柘植材にて復元したものを新調して使用する。復元新調する場合の透かしの形を含め、親骨については所有者や関係各所との協議を行って決定する。中骨、親骨それぞれを本紙に貼りつけ、要を新調し扇子装に仕立てる。9.収納等 保存箱は元のものを使用し、扇骨を折り畳んだ状態で保存する。		

2　名　　称	花鳥図巻（かちょうずかん）	員　　数	1巻
時　　代	中国　清時代・康熙51年(1712)	寸 法 等	縦35.6cm 横919.5cm
品　　質	絹本著色巻子装	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1.解体 本紙に装着されている表紙、軸巻き、軸木を取り外す。本紙同士の紙継ぎを外す。2.洗浄 本作品は、水溶性の顔料を多用しているとうかがえるため、水を用いた汚れ除去は行わない。但し、埃を払い、虫糞除去などのドライクリーニングは行う。3.接合・組立 表紙裂と見返し料紙はそれぞれ補修を行い、新調した竹製八双を取付けて元の表紙に組み立てる。新調した軸木に元の軸首を取付ける。新規に軸巻絹を作製する。表紙、本紙、軸巻絹を繋ぎ合わせ、軸木を付け、新調した紐 を付けて巻子装に仕上げる。4.強化・整形 絵具層に膠水溶液にて剥落止を施す。但し、耐水性が低い絵具層については行わない。肌裏紙を取り替え、更に 3層の裏打ちを施して、柔軟で強度のある仕上がりにする。5.補填 本紙料絹の欠失箇所に、電子線劣化絹にて補填する。6.補彩 補填を行った箇所に、周囲と調和する補彩を施す。7.収納等 太巻添軸を新調する。元の箱に枕を取り付け、新調した包裂に包み納入する。30年度は4の途中までを施工（30年度より、2か年継続事業）。		

3 名　称	星曼荼羅（ほしまんだら）	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	本紙：横41. 2cm 縦92.4cm　表具：横59.0cm 縦154.3cm
品　質	絹本著色掛軸装	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1. 解体・表装より本紙を取り外す。軸首と座鐶は再使用するため、軸木から慎重に分離する。本紙は、剥落止めなどの処置を安全に行えるよう平滑にした後に、仮裏打ちを施し安定化を図る。2.洗浄　絵具層の安定性を確認した後、浄化水を噴霧し、本紙下に吸取紙を敷いて汚れを吸い取る方法にて、水溶性の汚れ除去を行う。3.強化・整形　絵具層の強化汚れ除去の後、再度絵具層の強化を行う 。強化には、それぞれ の絵具層の状況に応じた膠水溶液の濃度を調整し（1.0～3.0%）、必要に応じて布海苔を添加して施工性の調整をする。4.解体・肌裏紙の除去 裏彩色が認められることから、裏彩色を安全に保持するためにも表打ちを施し、本紙裏面を詳細に確認しながら少しずつ除去する方法にて行う。表打ちに際しては、絵具層の強化と耐水性を十分確認したうえで行い、布海苔にて本紙表面に3層の養生紙を貼って安定させる。5.強化・整形　裏打紙の色調整　裏打紙の色調と明度は所有者と十分協議したうえで決定する。2層目、3層目の裏打紙の色も影響するため、同様に決定する。新しく施す裏打ち 掛軸装に仕立てるには 4~ 5 府の裏打ちを施すが、各段階の裏打ちでは本紙と各部分の裂の柔軟性の違いを見極め、それぞれの裏打ちの厚みを調整することで、表装全体が均一な調子になるようにする。使用する裏打紙は選定技術保存保持者の工房にて作製されたものを、それぞれの工程に相応しい紙を選択して用いる。また、それぞれの接着には小麦澱粉糊（新糊）と新糊を10年程冷暗所にて保管した糊（古糊）を調整して用い柔軟な仕上がりにする。折れ伏せ入れ 本作品は横折れが発生しており、欠失箇所も広範囲に多数分布しているため、増裏打ちの後、折れの発生が予見される箇所に細い帯状の楮紙を貼ることで、折れの発生を予防する。新しく裏打ちを施した直後は、折れる箇所が分り難くなる。このため、段階をふまえた念入りな折れ伏せを施す。6.補填　本紙欠失箇所に本紙料絹の組成に近い電子線劣化絹を補填する。7.補彩　補填箇所のみ、余白の色よりやや明るめの補彩を施し、鑑賞の妨げにならないようにする。8.接合・組立　増裏打ちと折れ伏せ入れを施した後、掛軸装の形に接合す。るその後に総裏打ちを施し、十分な乾燥を経て、掛軸装が安定して巻き解きできるようにする。乾燥後、新調した上軸と下軸、調整した元の軸首と座鐙、紐を取り付けて掛軸装に仕上げる。9.収納等　桐製太巻添軸にて巻き取り、気密性の高い桐製印籠箱を新調して納入する。納入の際には、絹羽二重製の袱紗に包み、箱内での安定を図る。元の保存箱には本紙とともに極めが納入されている。伝来を知る上で重要な質料であるため、中性紙製の外箱を新調して新調した桐製印籠箱と同梱する。		

4 名　称	渡海羅漢図巻（とかいらかんずかん）	員　数	1幅
時　代	画：中国　明時代・17世紀　賛：寛文6、7年(1666-67) 跋：天和3年(1686)9月9日	寸 法 等	縦 29.8cm　　全長 1309.5cm　　紙数 35紙
品　質	羅漢図：紙本著色、題・賛・跋：紙本墨書、象牙軸	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、絵具層の調査や紙質検査を行ってあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担が かからないように巻子装を解体し、本紙の継ぎを全て取り外す。2.強化・整形 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨及び彩色絵具に、兎膠水溶液 0.5～3%を用い、剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際にも必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧して汚れを吸取紙に移動させる方法にて、汚れの除去を行う。クリーニングによって現状の作品の風合いを損なわないようにすること、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。4.強化・整形 再度、墨、彩色絵具に免膠水溶液0.5～3% を用い、剥落止めを行う。5.解体 肌裏紙の糊浮きが著しいため、湿りを与えずに肌裏紙を除去する。湿りを与えずに除去できない部分にのみ、必要最小限の湿りを与えて除去を行う。6.補填 本紙と同質の繊維による補修紙を準備･調整し、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて本紙の裏面より欠失箇所に補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように補修紙の糊代部を削って補修を行う。7.強化・整形。本紙の色調に合わせて天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。8.接合・組立。美栖紙にて古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調の表紙裂及び天地裂、見返しを薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。仮張り後、表紙裂と見返しを合わせる。 本紙を継ぎ、新調した天地裂地を付け廻しする。椿と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。9.補彩 本紙の持っている地色を基本として行い、それに加え現在の経年劣化した本紙料紙の状態を加味した色合いにも考慮して補彩を施す。最終的な調整として、所有者と協議の上、欠失部（補紙を施した箇所）周辺の状態にも応じ、鑑賞を行う上で支障のないように微調整を行う。10.接合・組立 軸首は再使用、軸巻 紙、中軸、八双、紐は新調し、巻子装に仕立てる。11.収納等 今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。桐屋郎中箱・漆塗桐台差紐付外箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。30年度は8の途中までを施工（30年度より、2か年継続事業）。		
所蔵者	福岡・千眼寺		

＜書跡＞（1件）

5 名　称	重要文化財　鷹尾神社大宮司家文書 （たかおじんじゃだいぐうじけもんじょ）	員　数	93点
時　代	鎌倉～室町時代　13-16世紀	寸 法 等	(1)縦27.5横35.5　(2)縦25.6横33.5　(3)縦21.5横24.0　(4)縦26.1横39.0　(5)縦23.5横32.7　(6)縦30.3横34.2　(7)縦29.7横36.9　(8)縦32.2横57.8　(9)縦30.0横171.0　(10)縦32.2横48.3　(11)縦28.5横43.1　(12)縦28.1横71.5　(13)縦31.2横94.4　(14)縦33.2横52.6　(15)縦28.0横39.5(16)縦30.7横90.6　(17)縦27.2横72.2　(18)縦24.0横60.3　(19)縦24.5横26.7　(20)縦28.5横33.2　(21)縦28.0横38.2　(22)縦30.5横44.9　(23)縦27.9横45.7　(24)縦26.8横72.5　(25)縦27.6横41.2　(26)縦31.7横104.4　(27)縦32.1横102.3　(28)縦30.5横43.3　(29)縦25.9横142.0　(30)縦26.8横35.2　(31)縦27.2横110.3　(32)縦29.9横41.9　(33)縦29.6横37.1　(34)縦31.7横51.3　(35)縦29.5横40.8　(36)縦26.2横69.4　(37)縦21.0横31.0　(38)縦25.8横32.1　(39)縦28.8横44.5　(40)縦30.3横189.4　(41)縦32.6横155.4　(42)縦30.5横232.8　(43)縦26.9横35.0　(44)縦28.4横46.1　(45)縦28.2横32.3　(46)縦31.8横117.2　(47)縦31.8横117.2　(48)縦27.5横30.0(49)縦30.0横36.8　(50)縦27.2横36.6　(51)縦28.5横38.5　(52)縦28.5横40.0　(53)縦26.5横43.8　(54)縦29.8横44.1　(55)縦29.8横43.3　(56)縦30.2横111.7　(57)縦46.9横43.0　(58)縦28.2横31.9　(59)縦27.4横36.8　(60)縦31.9横44.8　(61)縦29.3横37.9　(62)縦28.0横46.5　(63)縦32.5横38.8　(64)縦25.5横30.0(65)縦23.4横46.3　(66)縦26.8横29.1　(67)縦27.5横34.0　(68)縦29.0横38.0　(69)縦29.2横26.8　(70)縦15.0横39.5　(71)縦25.6横34.1　(72)縦26.6横76.7　(73)縦26.2横39.4　(74)縦25.1横39.9　(75)縦22.4横43.9　(76)縦23.4横43.9　(77)縦28.6横109.2　(78)縦19.2横39.4　(79)縦24.0横37.2　(80)縦38.5横55.8　(81)縦27.7横123.1　(82)縦31.0横80.5　(83)縦27.0横37.2　(84)縦29.7横250.6　(85)縦27.9横227.9　(86)縦23.6横108.3　(87)縦21.4横120.6　(88)縦20.5横74.6(89)縦29.2横982.6　(90)縦29.8横979.0　(91)縦24.6横19.1　(92)縦26.6横16.5　(93)縦27.0横76.0　(94)縦27.0横19.0　（単位はcm）
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社

修理内容	1.解体　本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行う。額装のものについては装丁を解体する。2.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行い、本紙に堆積した埃や塵を除去する。3.強化・整形（剥落止め）　墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて膠水溶液を用いて剥落止めを行う。効果を確認し、必要に応じて都度繰り返し行う 。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないようにする等細心の注意を払い行う。4.強化・整形（フラットニング）　折れや破損によって収縮した本紙を伸ばし、繊維の毛羽立ちを押さえて、あばれや皺を改善することで本紙を安全に扱えるようにするために、ゴアテックスを用いて軽い湿りを加えて軽い圧をかけ、平らに整える。5.解体　必要最小限の湿りを与え、裏打紙や旧補修・補強紙等を除去する。除去に際しては所有者や関係各所と協議の上で行う。6.補填　各本紙の紙質・状態に合わせて手漉きにて補修紙を作製し、欠失箇所 に手繕いにて補修を施す。竪帳については、漉き嵌めによる補修を、紙数が多い続紙についてはDIIPS法（象嵌式）による補修を施す。7.強化・整形（裏打ち）強度的に裏打ちが必要なものについては、所有者や関係各所との協議を行った上で裏打ちを行う。8.接合・組立　続紙については、所有者や関係各所との協議を行った上で、糊離れが生じていた紙継ぎ箇所を 新糊を用いて適正な位置に継ぎ直す。冊子については、新調した紙嵯りを用い、元の形態に綴じ直す。9.収納等　竪紙（額装を解体した一紙を含む）、折紙、続紙、竪帳については、本紙を楮紙にて包み、新調した桐樫貪箱に収納し、油単を新調する。30年度は6の10%までを施工（30年度より、3か年継続事業）。
所蔵者	個人蔵

＜金工＞（24件）

6　名　　称	梅竹の図真形釜（うめたけのずしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	室町時代・15世紀	寸 法 等	蓋径14.1cm　口径13.9cm　最大径26.2cm　総高18.6cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.口部分のひび部分への、漆及び金漆の充填を行う。口造りの口肉厚を金漆で均等にする。3.　煮上げしながら銹止めの処置を行う。		

7　名　　称	素文真形釜（すもんしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	蓋径14.3cm　口径14.0cm　最大径26.8cm　総高18.8cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処置を行う。		

8　名　　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	室町時代後期・16世紀	寸 法 等	蓋径15.4cm　口径15.6cm　最大径29.2cm　総高19.7cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処置を行う。		

9　名　　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	室町時代後期・16世紀	寸 法 等	蓋径11.3cm　口径11.5cm　最大径22.4cm　総高16.8cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処置を行う。湯口部分を金漆で繕う。		

10　名　　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	室町時代後期・16世紀	寸 法 等	蓋径14.2cm　口径14.3cm　最大径26.8cm　総高19.2cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.口部分の割れとひびに内側からのみ漆を染み込ませ、局部的に金漆を使用して補強の処置を行う。3.煮上げしながら銹止めの処置を行う。銹止めでとまらないようであれば、前面に漆の焼付けも検討する。		

11　名　　称	平釜（ひらがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径14.3cm　口径14.0cm　最大径26.4cm　総高9.9cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処置を行う。		

12　名　　称	水仙の図蒲団釜（すいせんのずふとんがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.0cm　口径11.8cm　最大径27.2cm　総高15.3cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.真底の部分のみ、湯口部分の湯廻り不良を金漆で繕う　3.白い塗料を除去し、煮上げしながら銹止めの処置を行う。		

13　名　　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	室町時代後期・16世紀	寸 法 等	蓋径12.7cm　口径12.6cm　最大径23.4cm　総高16.8cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処置を行う。替蓋の摘み部分を一旦取り外し、緑青を除去後着色し装着する。		

14　名　　称	瓜の図くり口釜（うりのずくりくちがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代後期・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.7cm　口径12.1cm　最大径25.5cm　総高17.9cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処置を行う。		

15　名　　称	蔦の図肩衝釜（つたのずかたつきがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代後期・16世紀後半	寸 法 等	蓋径11.8cm　口径12.3cm　最大径23.6cm　総高17.4cm

品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら錆止めの処置を行う。替蓋の水垢を除去する。（低い温度で加熱しながら弱酸性の液体で中和させ、その後色あわせを行う）		

16　名　　称	鹿楓流水の図広口釜 （しかかえでりゅうすいのずひろくちがま）	員　　数	1口
時　　代	江戸時代前期・17世紀	寸 法 等	蓋径18.3cm　口径18.5cm　最大径24.1cm　総高15.0cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら錆止めの処置を行う。		

17　名　　称	肩霰竹柳の図真形釜 （かたあられたけやなぎのずしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径13.2cm　口径12.3cm　最大径25.8cm　総高17.5cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら錆止めの処置を行う。		

18　名　　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.3cm　口径12.5cm　最大径27.0cm　総高18.1cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.真底の赤錆の除去後、煮上げしながら錆止めの処置を行う。それでも進行が止まらない場合には、漆による全面焼付けも検討する。		

19　名　　称	撫肩釜（なでがたがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径14.4cm　口径14.2cm　最大径27.0cm　総高17.3cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら錆止めの処置を行う。同時に色合せを行い、白い付着物を目立たないようにする。		

20　名　　称	五疋駒の図くり口布団釜 （ごひきこまのずくりくちふとんがま）	員　　数	1口
時　　代	江戸時代前期・17世紀	寸 法 等	蓋径10.8cm　口径10.8cm　最大径23.3cm　総高15.4cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら錆止めの処置を行う。		

21　名　　称	車軸釜（しゃじくがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径11.6cm　口径11.6cm　最大径27.7cm　総高18.6cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら錆止めの処置を行う。替蓋はおは口で目立たせないように処置を行う。		

22　名　　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径13.3cm　口径13.3cm　最大径25.3cm　総高17.1cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.真底の赤錆の除去後、煮上げしながら錆止めの処置を行う。		

23　名　　称	霰真形釜（あられしんなりがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.2cm　口径12.0cm　最大径25.5cm　総高19.3cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.中期の赤錆の除去後、煮上げしながら錆止めの処置を行う。		

24　名　　称	岩膚撫肩釜（いわはだなでがたがま）	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径11.1cm　口径11.1cm　最大径25.4cm　総高18.3cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.低い温度で加熱して錆止めの処置を行う。胴部に割れがあるため、煮上げは行わない。		

25　名　　称	梶の釜（かじのかま）	員　　数	1口
時　　代	室町時代前期・15世紀	寸 法 等	蓋径12.5cm　口径12.4cm　最大径26.5cm　総高21.2cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藻等が付着している資料については、煮上げ時に除去する。2.薄くなった真底部分に金漆の肉盛（約2ミリ位）補強を行う。煮上げしながら錆止めの処置を行う。		

26　名　　称	二重肩釜（にじゅうかたがま）	員　　数	1口
時　　代	室町時代後期・16世紀	寸 法 等	蓋径14.9cm　口径15.0cm　最大径27.0cm　総高15.4cm
品　　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金

修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.中期の赤銹の除去後、煮上げしながら銹止めの処餾を行う。替蓋の汚れは低温加熱してブラッシング除去の処置を行う。

27 名　称	胴締雲龍釜（どうしめうんんりゅうがま）	員　数	1口
時　代	江戸時代中期・18世紀	寸 法 等	蓋径11.9cm　口径12.0cm　最大径14.3cm　総高16.3cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.低い温度で加熱し、銹止め処置とおはぐろで色調合せを行う（釜外側と内側、共蓋）底部の割れは金漆により補修。		

28 名　称	宗和好九輪釜（そうわごのみくりんがま）	員　数	1口
時　代	江戸時代前期・17世紀	寸 法 等	蓋径（鉄蓋）15.8cm（唐金蓋）16.4cm　口径17.0cm　最大径23.7cm　総高19.8cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処懺を行う。湯廻り不良の鋳掛け部分を金漆で補修する。		

29 名　称	七疋駒の図湯釜（ななひきこまのずゆがま）	員　数	1口
時　代	江戸時代中期・18世紀	寸 法 等	蓋径19.1cm　口径19.1cm　最大径29.5cm　総高23.8cm
品　質	鉄・鋳造	施工会社	八木鋳金
修理内容	1.埃、塗料、カビ、藁等が付着している場合は、煮上げ時に除去する。2.煮上げしながら銹止めの処置を行う。替蓋の梱包材跡は、低い温度で加熱しおはぐろにて色調あわせ行う。真底部分を金漆で繕う。		

＜刀剣＞（1件）

30 名　称	脇差（わきざし）	員　数	1口
時　代	江戸時代・17世紀後半-18世紀前半	寸 法 等	総長50.2cm　刃長36.6cm　反り0.7cm
品　質	鉄・鍛造	施工会社	小宮光敏
修理内容	1.改正砥で錆を取り、姿（形）を直す。2.改正砥の砥石目を名倉砥の砥石目にする。3.名倉砥の砥石目を内曇砥の砥石目にする。（この時に刃文が見えてくる）4. 内曇砥の砥石目を刃艶砥で整える。（刃艶砥は内曇砥を薄くして和紙を漆で裏張りしたもの）5.地艶砥で地鉄を整える。（地艶砥は鳴滝砥を薄くして和紙を漆で裏張りしたもの）6.刃取りを行う。（刃文にかかった地艶砥の砥石目を刃艶砥の砥石目に戻す）7.差込み拭いをかける。（磁鉄鉱を細かい粉末にして油で溶いたもの）8.ナルメを行う。（切先の仕上げ）9.鎬地・棟を鉄の棒で磨く。		

＜陶磁＞（2件）

31 名　称	片輪車千鳥文双耳壺 （かたわぐるまちどりもんそうじこ）	員　数	1口
時　代	安土桃山時代～江戸時代・17世紀初期	寸 法 等	高15.5cm　口径12.6cm　高台径9.3cm
品　質	陶器	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 観察・記録 修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング・解体 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら、接着剤による接合部分をデザインカッターやリュウター、アセトンや注射器、綿棒やブラシ等を用いて解体し、クリーニングをおこなう。3.樹脂強化 必要に応じて脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による強化をおこなう（断面の脆そうな部分のみ）。4.接合・樹脂充填（復元） 破片が使用できたらエポキシ系接着剤（ハイスーパー5）で接合後、隙間や復元部分をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR－6504：主剤、XNH-6504：硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなう。5.補彩色：修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。耳の部分には2～6を、口縁の金継部分については、5、6を実施する。		

32 名　称	孔雀牡丹太湖石図瓶 （くじゃくぼたんたいこせきずへい）	員　数	1口
時　代	江戸時代・17世紀中葉	寸 法 等	高31.0cm　口径6.9cm　底経16.0cm
品　質	色絵磁器	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.観察・記録 修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング・解体 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら、接着剤による接合部分をデザインカッターやリュウター、アセトンや注射器、綿棒やブラシ等を用いて解体し、クリーニングをおこなう。3.樹脂強化 必要に応じて脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による強化をおこなう（断面の脆そうな部分のみ）。4.接合・樹脂充填 エポキシ系接着剤（ハイスーパー5）で接合後、隙間や復元部分をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR－6504：主剤、XNH-6504：硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなう。5.補彩色 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。		

＜染織＞（1件）

33 名　称	前田家伝来名物裂帖 （まえだけでんらいめいぶつぎれちょう）	員　数	1冊
時　代	中国　元～ 明時代　（13～17 世紀）	寸 法 等	縦110. 5cm　横 49. 0cm 厚 3. 0cm
品　質	雲母引き台紙 20 枚を糸綴じした冊子	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1.解体に耐えられないと判断した雲母の浮き箇所に、剥落止めの処置を施す。台紙を表、中、裏の3層に剥がし、糸綴じ部分と中層を残し表裏それぞれをノド部分から切り離す。ただし、構造的に困難であると判明した場合は、糸綴じを切り台紙を表裏2倍に剥がす。2. 解体前に、表面的な埃を、柔らかい刷毛か筆で裂を傷めないよう慎重に払う。3. 台紙を表、 裏に剥がし分離した後、補強のために新調した1mm厚程度の台紙と貼り合わせる。新調する台紙は現状と同じ大きさで、厚みのある堵紙（江渕栄貫製）を数枚貼り合わせて、薄くても軽拡で強度のあるものにする。それぞれを貼り合わせる糊は、小麦澱粉糊に布海苔を混合してやや柔軟性のある仕上がりにする。裂や金糸などの浮きは、糊差しにて止める。印金や雲母の剥離は、膠水溶液や布海苔にて部分的な剥落止めを行う。4.38 面の台紙を引出し1段に1面ずつ入れる桐製箪笥を作製する。ただし、箪笥は9 段のものと10 段のものを2悼ずつ作製し、収蔵庫の棚に収納出来るようにする。台紙を引出しに収納する際には、染色品の保護に使用されている、酸とアルカリを含まないノンバッファー紙（製品名：ピュアガード）を台紙表面全体に被せる。30年度は3を施工（29年度より、3か年継続事業）。		

＜考古＞（1件）

34　名　　称	埴輪　馬（はにわ　うま）	員　　数	1点
時　　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	総高94.0、幅32.0、体長93.0 cm
品　　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.解体　資料の現状を把握し、接合面を確認しながら、接着剤や石膏による修理部分をデザインカッターやリュウター、アセトンや注射器、綿棒やプラシ等を用いて解体し、クリーニングをおこなう。2.強化・整形　必要に応じて脆弱部分にパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）　を塗布し、樹脂による強化をおこなう（接合断面や接地面は全て）。表面も必要に応じておこなうが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3.接合・組立。3-1エポキシ系接着剤（ハイスーパー5）で破片を大まかに接合後、隙間や復元部分をエポキシ樹脂アラルダイトXNR-6504主剤、XNI-1-6504: 硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなうこの段階で部位ごとに幾つかのパーツに仕上げる。3-2大まかなパーツの接合作業完了後同様に部位のパーツを接合しながら、まず馬の下半分の接合をおこない、脚のバランスを調整しながら仕上げる。次に上半分の接合をおこない（バランスによっては頭部の接合は最終段階とする）、完了後下部と上部を接合して作業を完了させる　4.補填　組立完了後、全体の接合部分の隙間や復元部分をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR-6504主剤、XNI-1-6504:硬化剤）、パラロイドB72(溶剤アセトン）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）　を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなう。5.補彩色　修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。6.収納等（安定台製作）馬の下半分の接合・復元完了後、現地にて資料取りをおこない安定台座を製作する。安定台座天板に足に合わせた落とし込みと突起を設けて、四本の脚がずれない様にする。埴輪の移動や展示も台に載せたままおこなえる様に、指掛けとサラシの固定部分を兼ねた隙間を設ける。材質は木製とし、脚受の部分はエポキシ樹脂やシリコン、ウレタン等を用いて脚を安全に固定する。仕上げは展示にも耐えられる様に、ウレタン塗装の艶消し仕上げとする。30年度は3.接合・組立の3-1までを施工（30年度より、2か年継続事業）。		

＜歴史資料＞（6件）

35　名　　称	重要文化財 対馬宗家関係資料 （つしまそうけかんけいしりょう）	員　　数	19箱1～7巻
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙　縦18.0-34.5 cm　横45.5-56.9 cm
品　　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損低状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあら ゆる情報について記録を行った後、本紙に負担が掛からないように巻子装を解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。本紙下に吸取紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、以降の作業において抱えている汚れにより染みや際付きを起こさないことを前提として、過剰なクリーニングは行わず、必要最小限の水の量によるクリーニングに留めることとする。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。都度効果を確認し、必要に応じて繰り返し行う。膠水溶液を塗布する際にもその墨は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。4.解体 必要最小限の湿りを与え、裏打紙を除去する。5.補填 本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。補修紙の作製はDIIPS法にて作製する。6.強化・整形（裏打ち）。薄美濃紙にて、自社で炊 いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。7. 接合・組立。肌裏打ち後、本紙の厚みや硬さが異なり、厚み調整が必要な場合は美栖紙にて古糊を用いて増裏打ち行う。折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する可能性がある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。椿と雁皮の混合紙を用い新糊と布海苔の混合糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りし十分に乾燥させる。復元新調した表紙裂地は薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、仮張り後、新糊と布海苔の混合糊を用いて表紙裂と見返し（再使用）を貼り合わせる。元の通り継ぎ合わせた本紙と表紙見返しを継ぎ合わせ、再使用した軸首・八双・中軸・紐等を取り付けて巻子装に仕立て る。8.収納等。今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調して巻子を太く巻き、新調したウコン染めの包裂に本紙を包み、保存する。30年度は巻1～4を施工（30年度より、2か年継続事業）。		

36　名　　称	細川忠興（三斎）書状 （ほそかわただおき(さんさい)しょじょう）	員　　数	1巻
時　　代	江戸時代・寛永11年(1634)	寸 法 等	全体（8紙）:縦15.7cm 横257.7cm 第1紙:縦15.7cm　横cm　第2紙:縦15.7cm　横46.8cm　第3紙:縦15.7cm　横25.5cm　第4紙:縦15.7cm　横46.2cm 第5紙:縦15.7cm　横13.9cm　第6紙:縦15.7cm　横34.8cm　第7紙:縦15.7cm　横11.5cm　第8紙:縦15.7cm　横32.2cm
品　　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、紐・上下軸木を取り外す。2.洗浄 筆や刷毛などを用いてドライクリーニングを行った後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にてクリーニングを行う。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠 水溶液 0.5～2%を用いて剥落 止めを行う。効果を確認し、必要に応じて都度繰り返し行う。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。4.解体 必要最小限の湿りを与え、裏打紙を除去 する。5.補填 本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を手漉きにて作製し、本紙欠失箇所に手繕いにより補修を行う。6.強化・整形（肌裏打ち） 矢車にて染色した薄美濃紙を、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.接合・組立 肌裏打ち後、本紙 の厚みや硬さが異なり、厚み調整が必要な場合は古糊を用いて美栖紙にて増裏打ち行う。折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する可能性のある箇所に折れ伏せを施す。新糊と布海苔の混合糊を用いて、楮と雁皮の混合紙にて総裏打ちを行い、仮張りし十分に乾燥させる。新調した表紙裂地は薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行い、仮張りして乾燥させた後、混合糊を用いて表紙裂と見返しを貼り合わせる。本紙と表紙見返しを継ぎ合わせ、新調した紐・八 双竹・中軸を取り付けて巻子装に仕立てる。8.収納等 折れによる損傷が著しいことから、修理後は、折れの発生を軽減させるためにも、桐太巻添軸を新調して太く巻く仕様を提案する。それに伴い巻子の巻径が太くなり、現状の保存箱には収納できなくなるため、桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入し保存を行う。		

37　名　　称	長崎唐館図及蘭館図 （ながさきとうかんずおよびらんかんず）	員　　数	2巻
時　　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	【唐館図】本紙：縦36.6 横485.5（4紙）　表具：縦36.6 横521.3　【蘭館図】本紙：縦36.6 横404.3（3紙）　表具：縦36.6 横440.4（単位cm）
品　　質	紙本著色　巻子装2巻	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1.解体　本紙に装着されている表紙、軸木を取り外す。本紙同士の紙継ぎを外す。その際には料紙、絵具層を傷めることのないように細心の注意を払って行う。2.洗浄 水溶性の顔料を多用しているとうかがえるため、水を用いた汚れ除去は行わない。但し、埃を払い、虫糞除去などのドライクリーニングは行う。3.接合・組立　1紙ごとに新しく4層の裏打ちを施した後、制作当初の継ぎと同じ箇所にて繋ぎ合わせる。表紙裂と見返し料紙はそれぞれ補修を行い、新調した竹製八双を取付けて元の表紙に組み立てる。新調した軸木に元の軸首を取付ける。新規に軸巻紙を作製する。表紙、本紙、軸巻紙を繋ぎ合わせ、軸木を付け、新調した紐を付けて巻子装に仕上げる。4.強化・整形　絵具層に膠水溶液にて剥落止めを施す。但し、耐水性が低い絵具層については行わない。肌裏紙を取り替え、更に3層の裏打ちを施して、柔軟で強度のある仕上がりにする。5.補填 本紙料紙の欠失箇所に、本紙料紙の紙質調査に基づいた補修紙にて補填を行う。6.補彩　補填を行った箇所に、周囲と調和する補彩を施す。7.収納等　絵具層の安全を図るため太巻添軸を装着し、密閉度の高い桐製印籠箱(2巻入り）を新調して納入する。旧箱も資料的価値が高いため、新調箱と一緒に納入出来る中性紙製外箱を作製する。		

38 名　称	豊臣秀吉朱印状（とよとみひでよししゅいんじょう）	員　数	1巻
時　代	安土桃山時代・天正20年(1592)	寸 法 等	本紙寸法：縦：2.4cm 横：64.5cm
品　質	紙本墨書　巻子装	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1.解体　表紙、軸木、軸巻紙を本紙から取り外す。本紙の総裏紙を除去する。2.洗浄　本紙表面に付着している雲母を除去する。ただし、本紙への固着が強固な場合、無理な除去は本紙を傷める可能性があるため、除去可能な箇所のみ取り除き、付着面積を軽減する程度にとどめる。水溶性の汚れは表打ち時に軽減される。本紙全面が経年により汚れていることから、部分的な染み抜きについては、染みを抜いたところのみ明るくなり過ぎることになるため、部分的な染み抜きは行わない。3.強化・整形　墨、朱印の膠着力の確認　墨書、朱印の状態について顕微鏡を用いて確認し、膠着力の低下が確認された場合、濃度を調整した膠水溶液（1%～2%）にて剥落止めを施す。本紙毛羽立ちの処置　修理中に脱落する危険性のある著しい毛羽立ちについては、布海苔を用いて本紙に固定する。本紙全体に発生している微細な毛羽立ちについては、後に施す表打ちによって抑止が可能である。表打ち　安定した状態で肌裏紙除去を行うため、本紙に表打ちを施す。表打ちは濃度を調整した布海苔を用いて3層の養生紙を表面に施す。4.解体　肌裏紙、天地足し紙の除去　乾式肌上げ法にて肌裏紙の除去を行う。表打ちを施した本紙について、裏面から粘度を調整した布海苔水溶液を塗布し、裏打紙の糊をゆるめ小面積ずつ裏打紙の除去を行う。天地に施されている足し紙についても、同様の方法で除去する。5.補填　本紙欠失箇所について、本紙料紙と同質の補修紙を作製し、本紙の色味よりやや控えめに調色したものを補填する。新規に施す天地の足し紙天地保護として足し紙を取り付ける。取り付け幅は、必要最小限とするが、具体的な寸法については所有者と協議の上、決定する。6.強化・整形　肌裏打ち　薄美濃紙と小麦澱粉糊（以降、新糊）を用いて肌裏打ちを施す。本紙の厚みが薄く、現在の肌裏紙の色味がそのまま作品の印象となっている可能性が高いため、新規肌裏紙の色調は、現肌裏紙に近い色味に調色し、作品の印象を変えないように留意する。増裏打ち　美栖紙と小麦澱粉糊を10年程冷暗所で寝かせた糊を用いて増裏打ちを行う。肌裏紙同様、色味が作品の印象に影響することから、増裏紙調色の際も作品の印象を変えないように 留意する。折れ伏せ入れ　本作品は縦折れが著しいため、増裏打ちの後、折れが発生する箇所及び、折れの発生が予測される箇所に細い楮紙製の紙帯を、新糊を用いて貼ることで今後の折れの発生を予防する。総裏打ち薄美濃紙と新糊・布海苔の混合海苔を用いて総裏打ちを行う。肌裏紙、増裏紙と同様、色味が作品の印象に影響することから、留意して調色する 。7.補彩　新たに補填した補修紙及び足し紙に、周囲の地色を反映した補彩を施す。8.接合・組立　表紙と軸巻を新調　染紙表紙と楮紙製軸巻紙を新調する。それぞれの色味については、所有者と協議して決定する。表紙、軸巻、軸木の本紙への取り付け　新調した表紙、軸巻、軸木を本紙に接合する。なお、軸首については再使用する。9.収納等　桐製太巻添軸、桐製印籠箱を新調し、羽二重の包裂に本紙を包んで納入する。		

39 名　称	稲富流鉄砲秘伝書 （いなどめりゅうてっぽうひでんしょ）	員　数	7帖1舗
時　代	江戸時代・慶長18年(1613)	寸 法 等	(1)縦24.4　横381. 8 (2)縦24. 2　横422.9 (3)縦24. 1　横486.5 (4)縦24.4　横508.3 (5)縦24.6　横1102. 6 (6)縦24.5　横1627.8 (7)縦24. 5　横1814.5 (8)縦48. 7　横116.8（単位cm）
品　質	紙本著色・墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　殆どの紙継ぎ上に描画、墨書がされているため、紙継ぎは、過去に外した形跡があるものを除き、外さない。2.洗浄　本紙料紙は打紙加工により大変密度が高く硬く締まった料紙であることと、紙継ぎを外さずに作業を進めることから、過度な水分による汚れ除去は行わない。3.接合・組立　紙継ぎ部分は外さずに作業を進めるが、糊浮き箇所や接着強度が弱まっている箇所には、糊差しおよび継ぎ直しを行う。料紙の伸展後は元の形状に折り畳む。4.強化・整形　絵具層は、経年や水損、波打ちによって剥離、剥落、粉状化が進んでいるため、膠水溶液にて剥落止めを行う。絵具層の種類、厚みなどによって濃度を1～3%で調整して使い分ける。また、胡粉の薄塗箇所などでは膠水溶液の塗布による白の発色が鈍くならないよう、それに対応できる膠の種類、濃度の選択を十分検討して行う。5.補填　欠失箇所には、本紙料紙の紙質調査に基づいた補修紙を作製して補填する。本紙料紙は硬く厚みのある料紙であるため、填め込み方法による補填を行う。6.補彩　補修紙作製時に、本紙料紙よりやや明るめの色に染色をするため補彩は行わない。7.1帖ずつ包み紙にて包み、元の箱に納入する。但し、包み紙で包むことにより元の箱に納入出来ない場合は、より簡易的な方法にて包む。		

40 名　称	広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）	員　数	4面
時　代	（採拓）昭和９年頃(1934年)、（原碑）朝鮮・三国時代・414年	寸 法 等	第1面：上半分縦264.3　横148.0、下半分縦275.0　横145.0、第2面：縦528.0　横122.0　第3面：縦532.0　横178.0　第4面：縦530.0　横120.0（単位cm）
品　質	拓本　折り畳み	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　本紙を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査紙のあらゆる情報について記録を行う。2.強化・整形（剥落止め）膠着力の低下や、表面の擦れにより不安定になっている墨に、兔膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際、その量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出 ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。その後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、水道水中の細かなゴミや塩素・鉄分を取り除いた水。以下同）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過剰なクリーニングは行わず、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とする。4.強化・整形（剥落止め）再度、墨に兔膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。5.補填（補修）　本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、小麦澱粉糊（新糊）を用いて欠失箇所の補修を行う。また、補修紙を用いて本紙の四方周囲に足し紙をする。補修紙は、本紙と補修紙の重なりによる凹凸 が最小限になるように補修紙の糊代部分を削り、補修を行う。また、料紙の継ぎ及び旧補填箇所の重なりも最小限になるよう極力削り、平滑にする。6.強化・整形　本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙にて、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.接合・組立　肌裏打ち後、美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。折れ伏せ後、もう一層増裏打ちを行う。表装裂地を新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂を付け廻し、袋表装の形に仕立てる。8.強化・整形　本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを2層行う。中裏打ち後、宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.接合・組立　軸首、上下軸木、啄木、打込鐶等を新調し、掛軸装に仕立てる。10.収納等　新調した4幅入り中性紙箱に納入する。30年度は第1面を施工（30年度より、4か年継続事業）。		

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

平成31年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		310	98	149 (5,166)	63 (946)
絵　画		139	42	69 (2,127)	28 (324)
書　跡		58	13	38 (1,159)	7 (197)
彫　刻		44	3	28 (1,365)	13 (265)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		0	0	0 (2)	0 (4)
刀　剣		4	4	0 (0)	0 (0)
陶　磁		8	8	0 (1)	0 (0)
漆　工		13	4	0 (39)	9 (101)
染　織		8	0	3 (190)	5 (19)
考　古		7	7	0 (15)	0 (0)
歴史資料		9	0	9 (209)	0 (31)
和　書		7	7	0 (0)	0 (0)
民族資料		0	0	0 (4)	0 (2)
その他		3	0	2 (40)	1 (2)
東洋	絵　画	4	4		
	書　跡	3	3		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	3	3		
	漆　工	0	0		
	染　織	0	0		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（　）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（　）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展

1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）(過去５か年（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）(過去５か年（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート（後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

平成31年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	14か所 （本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2（要介添え））	8か所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3か所 （東新館1、地下回廊2）	7か所 （本体建物）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	5基 （平成知新館4） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4か所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1か所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	2台	23台
車椅子	28台 （正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1）	13台 （検札4、平成知新館7、倉庫保管2）	15台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 12か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーキープ 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
30年度整備事項	平成館和式便器を洋式便器（温水洗浄便座付）に更新した。		地図やピクトグラム等を利用して館外誘導サインをよりわかりやすい内容に更新した。また、あわせて4言語（日・英・中・韓）による表記を進めた。	

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

平成31年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
30年度計（台）：	200,637台	30年度計（台）：	104,463台	30年度計（台）：	63,299台	30年度計（台）：	65,167台
・アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝（30.4.1～5.13）	―	・特別展「池大雅」（日、英、中、韓）	6,498台	・特別展「国宝　春日大社のすべて」	10,274台	・特別展「王羲之と日本の書」（30.4.1～4.8）	2,365台
・創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生－つながる日本美術」	38,615台	うち日本語版	5,808台	うち日本語版	8,631台	うち日本語版	2,319台
・特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	67,218台	うち英語版	294台	うち英語版	275台	うち英語版	9台
・東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	(※)1,119台	うち中国語版	332台	うち中国語版	1,321台	うち中国語版	30台
・特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	34,435台	うち韓国語版	64台	うち韓国語版	47台	うち韓国語版	7台
・特別展「顔真卿」	46,465台	・特別展「京のかたな」（日、英、中、韓）	84,889台	・修理完成記念特別展「糸のみほとけ－国宝　綴織當麻曼荼羅と繍仏」	5,509台	・特別展「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」	28,580台
・特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」（31.3.26～3.31）	8,337台	うち日本語版	82,921台	うち日本語版	3,054台	うち日本語版	27,223台
・特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」（31.3.5～3.31）	5,567台	うち英語版	628台	うち英語版	136台	うちジュニア版（日本語）	1,107台
		うち中国語版	1,247台	うち中国語版	2,269台	うち英語版	67台
（参考）30年度ダウンロード件数		うち韓国語版	93台	うち韓国語版	50台	うち中国語版	118台
・「トーハクなび」		名品ギャラリー	13,076台	・「第70回正倉院展」	39,072台	うち韓国語版	65台
Android版	2,847件	うち日本語版	3,549台	うち日本語版・一般向け	36,630台	・特別展「オークラコレクション」	7,303台
iOS版	6,993件	うち英語版	1,115台	うち日本語版・子供向け	1,221台	うち日本語版	7,057台
アプリ端末貸出（日英）	15,290件	うち中国語版	7,964台	うち英語版・一般向け	206台	うち英語版	86台
音声ガイド貸出（中韓）	19,401件	うち韓国語版	448台	うち中国語版・一般向け	929台	うち中国語版	110台
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	25件			うち韓国語版・一般向け	86台	うち韓国語版	50台
				・なら仏像館名品展	8,444台	・特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	13,189台
				うち日本語版	3,905台	うち日本語版	12,911台
				うち英語版	794台	うち英語版	43台
				うち中国語版	3,189台	うち中国語版	195台
				うち韓国語版	556台	うち韓国語版	40台
						・文化交流展示	13,730台
						うち日本語版（30.5.22～）	2,268台
						うち英語版	2,502台
						うち中国語版	4,299台
						うち韓国語版	4,661台

※音声ガイドではなく、スマートフォン用アプリとして提供した。

1-(2)-③-5 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

平成31年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
137件(外国語)	59件(外国語)	74件(外国語)	122件(外国語)
137件(日本語)	59件(日本語)	74件(日本語)	122件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計137件(外国語)/137件(日本語)

・総合文化展（特集を除く）　99件（外国語）／99件（日本語）　含国宝室
・特集　28件（外国語）／28件（日本語）
・黒田記念館　10件（外国語）／10件（日本語）

【京都国立博物館】計59件(外国語)/ 59件(日本語)

・名品ギャラリー（特集展示等を除く）　34件（外国語）／34件（日本語）
・特集展示「新収品展」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特集展示「謎とき美術！最初の一歩」　5件（外国語）／5件（日本語）
・特集展示「百萬遍 知恩寺の名宝」　4件（外国語）／4件（日本語）
・特集展示「亥づくし―干支を愛でる―」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特集展示「京の冬景色」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特集展示「美麗を極める中国陶磁」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特集展示「初公開！天皇の即位図」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特別企画「中国近代絵画の巨匠 斉白石」　10件（外国語）／10件（日本語）
・特集展示「雛まつりと人形」　1件（外国語）／1件（日本語）
※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計74件(外国語)/74件(日本語)

・名品展（珠玉の仏たち）　7件（外国語）／ 7件（日本語）*1,*2
・名品展（珠玉の仏教美術）　4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
・名品展（青銅器館）　12件（外国語）／12件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
・特集展示「新たに修理された文化財」　9件（外国語）／ 9件（日本語）*2(一部)
・特別陳列「お水取り」　2件（外国語）／ 2件（日本語）*2
・特別陳列「覚盛上人770年御忌鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」3件（外国語）／ 3件（日本語）*2
・模型展示「仏像の手の形（印相）」　9件（外国語）／ 9件（日本語）
・模型展示「仏像の制作過程」　14件（外国語）／14件（日本語）
・パネル展示「奈良国立博物館の概要」　3件（外国語）／3件（日本語）*3
・パネル展示「奈良国立博物館の歴史」　3件（外国語）／4件（日本語）*3
・パネル展示「仏像の見方」　4件（外国語）／4件（日本語）*3

*1 28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供。29年10月より日本語音声ガイドを追加提供した。
*2 日・英・中・韓の4言語を併記
*3 日・英・仏・中・韓の5言語を併記

【九州国立博物館】計 122 件(外国語)/ 122 件(日本語)

・文化交流展示（特集展示を除く）　67 件(外国語)/67 件(日本語)
・文化交流展示　特集展示等　55 件(外国語)/55 件(日本語)
　うち「災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～」　4 件(外国語)/ 4 件(日本語)
　「茶の湯を楽しむⅧ　博多文琳と黒田家の茶道具」　2 件(外国語)/ 2 件(日本語)
　「京都・仁和寺観音堂の千手観音像とその仲間たち」　9 件(外国語)/ 9 件(日本語)
　「国宝　銅鐸絵画」　1 件(外国語)/ 1 件(日本語)
　「全国高等学校　考古名品展 2018」　4 件(外国語)/ 4 件(日本語)
　「坂本五郎コレクション受贈記念　北斎と鍋島、そして」　6 件(外国語)/ 6 件(日本語)
　「大宰府史跡発掘 50 年記念　大宰府研究の歩み」　7 件(外国語)/ 7 件(日本語)
　「平戸松浦家伝来の伊能図」　4 件(外国語)/ 4 件(日本語)
　「玉 ―古代を彩る至宝―」　18 件(外国語)/ 18 件(日本語)
・4 言語（日・英・中・韓）音声ガイドを提供した。

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

平成31年3月31日現在

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	127回	146回	160回	125回	93回
講演会等　参加者数	14,419人	18,080人	21,453人	21,692人	12,206人
①講演会	30回	23回	32回	26回	23回
	6,735人	6,023人	9,153人	6,999人	6,249人
アンケート結果	92.00%	89.00%	88.00%	88.09%	86.16%
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	12回	12回	12回
	1,893人	2,369人	2,793人	2,716人	2,822人
アンケート結果	88.00%	94.00%	88.80%	89.57%	89.57%
・記念講演会	13回	9回	14回	7回	7回
	3,651人	3,005人	5,048人	2,589人	2,189人
アンケート結果	85.00%	93.00%	93.00%	84.45%	85.24%
・シンポジウム	―	1回	2回（3日）	3回	1回
	―	284人	579人	920人	250人
アンケート結果	―	1	―	83%	―
・テーマ別講演会	4回	1回	1回	0回	3回
	1,096人	365人	210人	0人	988人
アンケート結果	96%	86.00%	94.00%	―	84.20%
・その他講演会	1回	0回	3回	4回	0回
	95人	0人	523人	774人	0人
アンケート結果	98%	0.00%	92.00%	―	―
②列品解説（ギャラリートーク等）	94回	120回	125回	96回	64回
	7,326人	11,669人	11,123人	14,026人	5,108人
③連続講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）
	320人	352人	947人	551人	728人
アンケート結果	87.00%	97.00%	96.80%	89.00%	88.50%
④公開講座	2回	2回	2回	2回	5回
	38人	36人	230人	116人	121人
アンケート結果	97.00%	98.00%	100.00%	96.49%	100.00%
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	36回	39回	45回	32回	37回
講演会等　参加者数	4,596人	4,845人	5,132人	4,014人	4,357人
①土曜講座	31回	32回	38回	22回	19回
	3,888人	3,721人	4,123人	2,433人	1,969人
アンケート結果	80%	83%	82%	83%	80%
②記念講演会	1回	1回	1回	4回	12回
	193人	200人	190人	800人	1,884人
アンケート結果	-	-	―	86%	80%
③夏期講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）
	206人	206人	210人	212人	198人
アンケート結果	89%	80%	94%	90%	90%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	66人	91人	69人	49人	39人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	2回	4回	4回	4回	4回
	243人	627人	540人	520人	267人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	27回	28 回	26回	26回	27回
講演会等　参加者数	3,525人	3,974人	3,518人	3,437人	3,569人
①特別展等講座	14回	15回	13回	13回	14回
	1,986人	2,123人	1,972人	2,141人	1,853人
アンケート結果	86%	79%	87%	91%	88%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）
	561人	609人	555人	525人	478人
アンケート結果	91%	95%	89%	91%	95%
③サンデートーク	12回	12回	12回	12回	12回
	978人	1,242人	991人	771人	1, 238人
アンケート結果	87%	85%	88%	87%	88%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	82回	87回	77回	84回	80回
講演会等　参加者数	4,694人	6,212人	5,369人	6,024人	4,491人
①特別展記念講演会	4回	3回	3回	2回	2回
	980人	710人	675人	359人	150人
アンケート結果	―	―	―	―	―
②講演及びシンポジウム	26回	38回	25回	26回	16回
	2,132人	4,096人	3,293人	3,521人	2,166人
アンケート結果	―	―	-		
③ミュージアムトーク	52回	46回	49回	56回	62回
	1,582人	1,406人	1,401人	2,144人	2,175人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	44校	48校	52校	53校	56校
京都国立博物館	29校	29校	27校	29校	32校
奈良国立博物館	27校	27校	25校	27校	28校
九州国立博物館	24校	25校	25校	25校	23校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	**回数計**	**93回**	**回数計**	**37回**	**回数計**	**27回**	**回数計**	**80回**
	参加者計	**12,206人**	**参加者計**	**4,357人**	**参加者計**	**3,569人**	**参加者計**	**4,491人**
	講演会	23回 6,249人	土曜講座	19回 1,969人	特別展等講座	14回 1,853人	特別展記念講演会	2回 150人
	列品解説（ギャラリートーク等）	64回 5,108人	記念講演会	12回 1,884人	夏季講座	1回 478人	講演及びシンポジウム	16回 2,166人
	連続講座（2日間）	1回 728人	夏期講座（2日間）	1回 198人	サンデートーク	12回 1,238人	ミュージアムトーク	62回 2,175人
	公開講座	5回 121人	社会科教員のための向上講座	1回 39人				
			セミナー・シンポジウム等	4回 267人				
	その他展示に関連するイベント	66回 14,142人	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	16回 1,162人	その他展示に関連するイベント	44回 16,947人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1） 講演会　　23回　　6,249人

①月例講演会

12回　　2,822人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
1	4月17日	桜咲く絵画の世界	田沢裕賀（学芸研究部長）	238人	94.39%
2	5月19日	博物館総長　森鴎外の筆跡	田良島哲（博物館情報課長）	247人	85.71%
3	6月9日	ひらがなの美―高野切―	恵美千鶴子（百五十年史編纂室長）	277人	87.23%
4	7月14日	江戸の仏像と近代の彫刻	西木政統（文化財活用センター企画担当研究員）	271人	90.83%
5	8月18日	びじゅつがだんだん好きになってきた子どものための講演会	小林牧（文化財活用センター副センター長）	102人	87.23%
6	9月22日	世界無形文化遺産　バティックの世界を訪ねる	小山弓弦葉（登録室長）	276人	81.12%
7	10月20日	建国千百年　高麗の考古と美術	白井克也（九州国立博物館学芸部企画課長）	224人	87.61%
8	11月24日	宮廷の年中行事	猪熊兼樹（特別展室主任研究員）	297人	86.36%
9	12月1日	漢時代の画像石	市元塁（東洋室主任研究員）	136人	88.06%
10	1月12日	「初期白磁」―白磁の始まりとその展開	佐藤サアラ（常盤山文庫主任学芸員）、三笠景子(平常展調整室主任研究員)	216人	86.06%
11	2月2日	王羲之書法の残影―唐時代への道程―	鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員）、富田淳（学芸企画部長）	392人	87.42%
12	3月2日	子供の姿とお人形―日本美術における子供の表現―	三田覚之（工芸室研究員）	146人	91.03%

②記念講演会

7回　　2,189人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
1	4月14日	日本美術鑑賞への誘い	小林忠（『國華』主幹、岡田美術館館長）、河野元昭、（『國華』編輯委員、静嘉堂文庫美術館館長）、瀬谷愛(保存修復課主任研究員)	344人	90.65%
2	4月21日	つながる雪舟つながる若冲	島尾新（『國華』編輯委員、学習院大学教授）、佐藤康宏（『國華』編輯委員、東京大学教授）、瀬谷愛(保存修復課主任研究員)	363人	77.71%
3	7月28日	縄文の美を楽しむ	品川欣也（考古室長）	264人	86.09%
4	10月6日	デュシャンの本質	マシュー・アフロン（フィラデルフィア美術館学芸員）	292人	82.98%
5	10月12日	千本釈迦堂・大報恩寺の歴史	菊入諒如（千本釈迦堂 大報恩寺 住職）	292人	80.43%
6	11月18日	大報恩寺のみほとけ　運慶次世代の仏師と京都	皿井舞（文化財活用センター貸与促進担当主任研究員）	325人	90.50%
7	2月9日	顔真卿　王羲之を超えた名筆	富田淳（学芸企画部長）	309人	88.50%

③シンポジウム

1回　　250人

	開催日	テーマ・講師等		参加者数	担当研究員	″良い″の割合
1	1月18日	国際シンポジウム「世界の中の日本美術―オリエンタリズム・オクシデンタリズムを超えた日本理解」	発表者：アン・ニシムラ・モース（ボストン美術館）、矢野明子（大英博物館）、ヴィブケ・シュラーペ（ハンブルク美術工芸博物館）、アイヌーラ・ユスーポワ（プーシキン美術館）、今井敦（調査研究課長） モデレーター：浅見　龍介（企画課長）			250人

④テーマ別講演会

3回　　988人

	実施日	テーマ	出演等	参加者数	″良い″の割合
1	7月22日	トークイベント 「縄文・日本美術・岡本太郎」	山下裕二（美術史家・明治学院大学教授）、井上洋一（副館長）	347人	92.53%
2	10月16日	トークショー 「デュシャンの向こうに日本がみえる。」	山田五郎（評論家）×松嶋雅人（文化財活用センター企画担当課長）	320人	79.73%
3	1月27日	席上揮毫＆トーク 「古典を受け継ぐ現代の書－世代をつなぐ筆墨の美－」	司会：富田淳（学芸企画部長）出演：仲川恭司（毎日書道会理事・専修大学名誉教授）、鬼頭墨峻（毎日書道会理事）、石飛博光（毎日書道会理事）	321人	79.66%

⑤その他講演会

0人

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　64回　　5,108人

①ギャラリートーク

39回　　4,076人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
1	4月3日	立体作品修理の現場から	野中昭美（保存修復室研究員）	124人
2	4月4日	国宝『花下遊楽図屏風』を楽しむ	大橋美織（絵画・彫刻室研究員）	104人
3	4月17日	親と子のギャラリーの展示デザイン	神辺知加（デザイン室主任研究員）	59人
4	4月24日	法隆寺の宝物を読み解く	三田覚之（文化財活用センター貸与促進担当研究員）	141人
5	5月8日	高野切と仮名の美	恵美千鶴子（百五十年史編纂室長）	180人
6	5月18日（2回）	国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	小島有紀子（文化財活用センター企画担当研究員）	171人
7	5月22日	樂２代常慶の選択	今井敦（調査研究課長）	130人
8	5月29日	中国の石仏	勝木言一郎（東洋室長）	116人
9	6月19日	般若経関係の仏画	沖松健次郎（絵画・彫刻室長）	129人
10	6月26日	博物館でＬＥＤの光を見てみると	木下史青（平常展調整室長）	71人
11	7月3日	進化する中国陶磁コレクション	三笠景子（平常展調整室主任研究員）	128人
12	7月10日	京都・浄瑠璃時の地蔵菩薩立像	浅見龍介（企画課長）	183人
13	7月20日	瓦が語る古代国家の歩み	山本亮（考古室研究員）	150人
14	8月5日	トーハクキッズデー　子どものためのギャラリートーク 「どうぶつのおきもののお話」	伊藤信二（博物館教育課長）	30人
15	8月5日	トーハクキッズデー　子どものためのギャラリートーク 「びじゅつのかたちのお話」	小島有紀子（文化財活用センター企画担当研究員）	50人
16	8月5日	トーハクキッズデー　子どものためのギャラリートーク 「ぶつぞうのお話」	勝木言一郎（東洋室長）	54人
17	8月10日	禅僧の物語を描く	救仁郷秀明（列品管理課長）	128人
18	8月28日	青森県つがる市亀ヶ岡遺跡の魅力	品川欣也（考古室長）	198人
19	10月2日	叡尊と中世律宗	瀬谷愛（保存修復室主任研究員）	120人
20	10月13日	Introduction to Japanese Painting「日本絵画入門」	ミウォシュ・ヴォズニ（国際交流室専門職）	51人
21	10月30日	資料・情報の探し方について	住広昭子（情報資料室員）	51人
22	11月6日	考古作品を集めた人々	飯田茂雄（考古室アソシエイトフェロー）	108人
23	11月9日	斉白石作品鑑賞入門	呉孟晋（京都国立博物館列品管理室主任研究員）	163人
24	11月13日	写真とアルバムから見る博物館草創期の活動	遠藤楽子（百五十年史編纂室主任研究員）	63人
25	11月20日	トーハクボランティアで生きがいをみつけよう	鈴木みどり（ボランティア室長）	26人
26	11月27日	国宝・江田船山古墳出土品からみた対外交流	河野正訓（考古室研究員）	161人
27	12月11日	斉白石の魅力	植松瑞希（出版企画室研究員）	170人
28	12月18日	「イニ像浮彫」が伝える歴史	小野塚拓造（平常展調整室研究員）	89人
29	12月21日	京都御所　飛香舎(藤壺)の調度	猪熊兼樹（特別展室主任研究員）	61人
30	1月18日	古典の香り「祝賀」	田邊留美子（登録室アソシエイトフェロー）	92人
31	1月22日	密教の灌頂用具について	伊藤信二（博物館教育課長）	103人
32	1月29日	中国絵画にみる吉祥の世界	植松瑞希（出版企画室研究員）	104人
33	2月26日	経塚の世界	飯田茂雄（考古室アソシエイトフェロー）	99人
34	3月12日	器を彩る桜―伊万里と京焼	三笠景子（平常展調整室主任研究員）	136人
35	3月19日	X線CT装置の保存修理への活用	宮田将寛（調査分析室専門職）	73人
36	3月22日	博物館でお花見を鑑賞ガイド	丸山猶計（教育講座室長）	65人
37	3月26日	修理後作品の見どころ紹介	土屋裕子（保存修復室長）	121人
38	3月29日	博物館でお花見を鑑賞ガイド	阿部楓子（教育講座室アソシエイトフェロー）	74人

②特別展関連ギャラリートーク

1回　218人

	開催日	テーマ・講師等	講師等	参加者数
1	2月19日	南北朝時代の書―東晋と唐の架け橋―	六人部克典（登録室研究員）	218人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

24回　814人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
1	12月12日、12月22日、12月25日、1月10日、1月12日、1月24日	6回	「揺銭樹」にみる古代中国・四川地域の死生観	廣谷妃夏	210人
2	12月13日、12月16日、12月19日、12月23日、1月9日、1月17日	6回	落合芳幾「五節句」にみる江戸の文化	神野有紗	220人
3	12月15日、12月20日、1月16日、1月20日、1月23日、1月25日	6回	浅井忠「グレーの秋」	岩井智子	165人
4	1月11日、1月18日、1月26日、1月30日、2月2日、2月6日	6回	「色絵月梅図茶壺」の魅力に迫る	倉澤佑佳	219人

3)　連続講座　　2日間（計1回）　1回　728人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	″良い″の割合
1	10月26日	日本の仏教美術 第1講「日本の仏教文化における絵画」 第2講「仏教彫刻　運慶と運慶次世代の仏師たち」 第3講「禅宗の絵画」	第1講：沖松健次郎（絵画・彫刻室長） 第2講：皿井舞（文化財活用センター貸与促進担当主任研究員） 第3講：救仁郷秀明（列品管理課長）	352人	―
	10月27日	日本の仏教美術 第4講「仏教美術の幕開け―聖徳太子とその美術―」 第5講「伎楽面と仮面芸能の魅力―法隆寺献納宝物を中心に―」 第6講「仏教工芸―荘厳への意識―」	第4講：三田覚之（文化財活用センター貸与促進担当研究員） 第5講：西木政統（文化財活用センター企画担当研究員） 第6講：伊藤信二（博物館教育課長）	376人	88.50%

4)　公開講座　5回　121人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
1	9月3日～9月4日 9月6日～9月7日	教育連携事業「博物館学講座」 9月3日「彫刻作品について」皿井舞（文化財活用センター貸与促進担当主任研究員） 「工芸作品について」伊藤信二（博物館教育課長） 「博物館の広報」鬼頭智美（広報室長） 「課題説明」木下史青（平常展調整室長）、教育講座室 9月4日「展示見学」教育講座室 「展示デザイン」矢野賀一（デザイン室長） 「考古」市元塁（東洋室主任研究員） 「書跡・歴史資料について」冨坂賢（保存修復課長） 「課題取り組み」木下史青（平常展調整室長）、教育講座室 9月6日「博物館の出版」松尾美貴（出版企画室長） 「博物館の国際交流」楊鋭（国際交流室長） 「絵画作品について」沖松健次郎（絵画・彫刻室長） 「実習 作品の取り扱い・展示」沖松健次郎（絵画・彫刻室長）、教育講座室 「課題取り組み」木下史青（平常展調整室長）、教育講座室 9月7日「情報システム」村田良二（情報管理室長） 「博物館のボランティア活動」鈴木みどり（ボランティア室長） 「課題取り組み」木下史青（平常展調整室長）、教育講座室 「課題講評」木下史青（平常展調整室長）、教育講座室	33人	平成館小講堂他
2	9月5日	博物館セミナー 「博物館の運営」竹之内勝典（総務課長） 「総合文化展の仕組み」木下史青（平常展調整室長） 「特別展の仕組み」猪熊兼樹（特別展室主任研究員） 「保存修理」和田浩（環境保存室長） 「博物館の情報アーカイブ」田良島哲（博物館情報課長） 「博物館教育」藤田千織（教育普及室長） 「調査研究について」今井敦（調査研究課長）	88人	平成館大講堂他

5) その他展示に関連する事業　66回　14,142人

	実施日	内容	会場	参加者数
1	5月13日	国際博物館の日記念ツアー「上野の山でサルめぐり」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	37人
2	9月11日	博物館でアジアの旅　スペシャルツアー 「インドネシアと南海の民族文化を楽しむ旅」 添乗員：三笠景子（平常展調整室主任研究員）、猪熊兼樹（特別展主任研究員）、市元塁（東洋室主任研究員）	東洋館5室、東洋館12室、東洋館13室、東洋館ミュージアムシアター	240人
3	9月12日（2回） 9月14日（2回）	博物館でアジアの旅　インドネシアの伝統芸能「ジャワの影絵芝居ワヤン・クリ」出演：スミリール	表慶館1階	639人
4	9月19日	博物館でアジアの旅　スペシャルツアー 「インドネシアと南海の美術工芸を楽しむ旅」 添乗員：今井敦（調査研究課長）、小山弓弦葉（登録室長）、西木政統（文化財活用センター企画担当研究員）	本館4室、東洋館12室	243人
5	9月28日（4回）	博物館でアジアの旅　気軽に椅子ヨガin東洋館 講師：渡辺美保	東洋館1室	105人
6	10月5日（2回）	特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」関連イベント JAZZと声明の夕べ	平成館大講堂	560人
7	4月1日～4月8日（8回）	日本文化との出会い　きもの体験	本館特別4室	267人
8	5月22日～6月10日（17回）	日本文化との出会い　書体験	本館2階ラウンジ	2,868人

9	5月26日	おとなのためのワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下みどりのライオン	14人
10	9月29日、30日(2回)	おとなのためのワークショップ「バティックに挑戦」	本館地下みどりのライオン	32人
11	11月3日	おとなのためのワークショップ「屏風体験！」	応挙館	20人
12	1月2日、3日（2回）	博物館で初もうで「大小絵暦に挑戦！」カレンダー/ワークシート配布	本館2階便殿前	6,900人
13	1月26日	日本文化との出会い　浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオン	102人
14	2月5日～2月24日（18回）	日本文化との出会い　書体験	本館2階ラウンジ	1,920人
15	2月23日	おとなワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下みどりのライオン	15人
16	3月15日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」 講師：冨坂賢（保存修復課長）、荒木臣紀（調査分析室長）、和田浩（環境保存室長）、土屋裕子（保存修復室長）、瀬谷愛（保存修復室研究員）、野中昭美（保存修復室研究員）	本館地下みどりのライオン、X線CT室、実験室、修理室2、平成館企画展示室	57人
17	3月30日	日本文化との出会い　浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオン	123人

【京都国立博物館】

1)　土曜講座　　19回　　1,969人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	6月16日	織田信長と蘭奢待―正親町天皇宸翰消息―	美術室長（兼列品管理室長）　羽田聡	153人
2	6月23日	新羅印花文陶質土器をめぐって―スタンプ文様の世界―	上席研究員　宮川禎一	50人
3	6月30日	釈迦堂縁起と狩野派の絵巻	研究員　井並林太郎	115人
4	7月7日	法隆寺金堂壁画再入門	学芸部長　朝賀浩	78人
5	7月14日	杉本哲郎と堂本印象 ―京都府立堂本印象美術館リニューアルに寄せて―	保存修理指導室長　大原嘉豊	79人
6	7月21日	奈良写経の魅力―五月一日経―	アソシエイトフェロー　上杉智英	77人
7	8月4日	願いを託された動物・植物―吉祥文様入門―	研究員　水谷亜希	135人
8	8月25日	百萬遍知恩寺の歴史	浄土宗大本山百萬遍知恩寺　法主　福[illegible]隆	169人
9	9月1日	もっと見たい！もっと見せたい！廣海家の漆器コレクション	教育室長　永島明子	88人
10	9月8日	京都の社寺と博物館―京都国立博物館による百萬遍知恩寺什物調査について―	主任研究員　呉孟晋	102人
11	12月22日	慶長小袖―転換期のきものデザイン―	企画室長（兼工芸室長）　山川曉	61人
12	1月12日	漢代の画像鏡と画像石―歴史を描く歴史―	上席研究員　宮川禎一	58人
13	1月19日	いのししはめでたいか―いのしし図像学―	アソシエイトフェロー　上杉智英	111人
14	2月2日	美麗を極める中国陶磁	研究員　降矢哲男	110人
15	2月9日	須磨コレクションの中国近代絵画	北京画院理論研究部主任　呂暁	84人
16	2月16日	天皇の即位図を読む	研究員　福士雄也	148人
17	2月23日	木匠から巨匠へ：斉白石の人生と芸術	名誉館員　西上実	119人
18	3月2日	雛御殿―雛人形の暮らす館―	企画室長（兼工芸室長）　山川曉	90人
19	3月9日	斉白石の絵画における現代性	主任研究員　呉孟晋	142人

2)　記念講演会　　12回　　1,884人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月7日	自由な魂を求めて―池大雅の憧れた文人的世界―	館長　佐々木丞平	127人
2	4月14日	西湖への憧れ―大雅の名勝図を体感する―	青山学院大学　准教授（兼出光美術館　学芸員）　出光佐千子	89人
3	4月21日	旅する画家の絵	研究員　福士雄也	118人
4	4月28日	池大雅の絵画―あるいは卵の殻と黄身との関係―	東京大学大学院　教授　佐藤康宏	119人
5	5月12日	大雅と蕪村―十便十宜図を中心に―	岡田美術館　館長　小林忠	200人
6	9月29日	京のかたな	佐野美術館　館長　渡邉妙子	200人
7	10月6日	京のかたなⅠ－古刀－	主任研究員　末兼俊彦	200人
8	10月13日	京鍛冶の黄金期－粟田口から来派へ－	ふくやま美術館　館長　原田一敏	175人
9	10月20日	日本刀の源流－日本の原始古代刀－	主任研究員　古谷毅	130人

10	10月27日	京のかたなⅡ－新刀－	主任研究員　末兼俊彦	200人
11	11月3日	対談「『京のかたな』総まとめ」	美術ライター（兼永青文庫　副館長）　橋本麻里 主任研究員　末兼俊彦	200人
12	11月10日	合戦絵巻と武器・武具の研究	研究員　井並林太郎	126人

3)　夏期講座　　1回　　198人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月27日	第1講 高松塚古墳・キトラ古墳壁画を守る	保存科学室長　降幡順子	198人
		第2講 江戸の和ガラス ―粋なうつわ、遊びのかたち―	サントリー美術館　学芸副部長　土田ルリ子	
		第3講 灰色からみてゆく若冲 ―石燈籠図屏風のグレー―	北斎館　館長　安村敏信	
	7月28日	第1講 茶碗 ―種類と美意識―	研究員　降矢哲男	
		第2講 高松塚古墳壁画と古代国家の誕生 ―古墳時代から律令国家へ―	主任研究員　古谷毅	
		第3講 「四天王寺阿弥陀三尊像」と「平等院雲中供養菩薩像」から ―仏師の感性と技を見る―	三井記念美術館　館長　清水眞澄	

4)　社会科教員のための向上講座　　1回　　39人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	8月28日	講義「特集展示＜謎とき美術！はじめの一歩＞のみどころと、名品ギャラリーの魅力紹介」	研究員　水谷亜希	39人

5)　ギャラリートーク・シンポジウム等　4回　　267人

	開講日	テーマ・講師		参加者数(人)
1	8月19日（2回実施）	ギャラリートーク「特集展示＜謎とき美術！最初の一歩＞」	研究員　水谷亜希	92人
2	9月2日	研究発表と座談会　「仏師とその工房をめぐる諸問題」	京都国立博物館連携協力室長 淺湫毅、 文化財活用センター主任研究員 皿井舞、 奈良国立博物館主任研究員 山口隆介	76人
3	1月26日	国際特別講演会・日本人研究者との座談会	一郷韓国美術史研究院長　姜友邦　他	99人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業　に記載。

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　14回　　1,853人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月14日	「御創建1250年　春日大社のすべて」	春日大社宮司　花山院弘匡	112人
2	4月21日	「春日権現験記絵と解脱房貞慶」	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授　高橋悠介	116人
3	5月12日	「春日大社伝来甲冑の特質」	元奈良県立美術館長　宮崎隆旨	121人
4	5月26日	「春日をめぐる神仏と造形」	学芸部工芸考古室長　清水健	125人
5	7月21日	「国宝綴織當麻曼荼羅―その図様と意義」	佛教大学教授　大西磨希子	169人
6	8月4日	「繡仏の世界―刺繍釈迦如来説法図（奈良国立博物館蔵）を中心に」	学芸部長　内藤栄	170人
7	8月11日	「飛鳥から奈良時代における刺繍と金糸の技法の変遷」	東京国立博物館客員研究員　沢田むつ代	194人
8	10月27日	「鳥兜様の楽帽の復元について」	宮内庁正倉院事務所保存課調査室主任研究官 山片唯華子	109人
9	11月3日	「正倉院宝物と新羅」 ①「正倉院宝物にみる朝鮮半島の工芸」 ②「正倉院金工品と新たに出土した新羅の金工品の重要性」 ③「東大寺・正倉院と新羅からの将来経典」 ④「正倉院宝物にみる百済文化」 ⑤パネルディスカッション	①宮内庁正倉院事務所長　西川明彦 ②韓国・東国大学校教授　崔應天 ③奈良国立博物館調査員　樋笠逸人 ④学芸部長　内藤栄 ⑤西川明彦、崔應天、樋笠逸人、内藤栄	227人
10	11月4日	「月借銭のしくみ―古代の官営高利貸―」	大阪市立大学名誉教授　栄原永遠男	147人
11	11月10日	「正倉院三彩10話―正倉院に伝わる二彩・三彩陶器の特徴と謎―」	学芸部列品室長　吉澤悟	119人
12	1月12日	「春日奥山の水神信仰と若宮神社」	春日大社国宝殿主任学芸員　松村和歌子	60人
13	2月16日	「修二会（お水取り）について」	東大寺長老　筒井寛昭	92人
14	2月23日	「覚盛上人の事跡―唐招提寺中興―」	学芸部企画室長　野尻忠	92人

2)　夏季講座　第47回「素材から探る仏像のひみつ」

1回　478人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	8月22日	「仏像の素材と糸のみほとけ」	学芸部長　内藤栄	478人
		「金銅のみほとけ」	大阪大学文学研究科教授　藤岡穣	
		「土のみほとけ」	大津市歴史博物館学芸員　寺島典人	
	8月23日	「木のみほとけ―各時代の樹種の選択―」	日本大学大学院芸術学研究科客員教授　金子啓明	
		「絹のみほとけ」	東北大学名誉教授　泉武夫	
		「水墨のみほとけ―東アジア仏教の転換点―」	東京大学東洋文化研究所准教授　塚本麿充	
	8月24日	「石のみほとけ」	大和郡山市教育委員会主任　山川均	
		「みほとけを健康診断」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	

3)　サンデートーク　12回　1,238人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月15日	「高御座の造形の由来―天皇の即位と菩薩の階梯―」	学芸部アソシエイトフェロー　樋笠逸人	119人
2	5月20日	「概説：中国仏像史」	館長　松本伸之	140人
3	6月17日	「綴織當麻曼荼羅の修理と転写の歴史」	学芸部主任研究員　北澤菜月	118人
4	7月15日	「文化財を科学するⅤ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	72人
5	8月19日	「裳懸座再考」	学芸部情報サービス室長　岩井共二	147人
6	9月16日	「古文書に見る中世後期の大和国」	学芸部アソシエイトフェロー　佐藤稜介	111人
7	10月14日	「仏像写真考」	学芸部資料室主任　佐々木香輔	99人
8	11月18日	「中世絵巻と宮曼荼羅」	学芸部教育室長　谷口耕生	81人
9	12月16日	「平安時代の宮中の日常―政治と生活―」	学芸部主任研究員　斎木涼子	107人
10	1月20日	「奈良時代の二つの紫紙金字経」	学芸部企画室長　野尻忠	72人
11	2月17日	「仏像調査からわかること その５―南予地方の調査の成果を中心に―」	学芸部上席研究員　岩田茂樹	86人
12	3月17日	「春日東西塔の新知見」	学芸部主任研究員　中川あや	86人

4)　その他展示に関連するイベント　16回　1,162人

	実施日	内容	会場	参加者
1	4月30日	春日大社のすべて展関連フォーラム「まほろばの神と仏と祈り」	奈良春日野国際フォーラム	400人
2	6月6日	春日大社のすべて展関連イベント「せんとくんが奈良博にやってくる」	当館敷地	–
3	7月14日～8月26日	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「オリジナル手芸作品展示コーナー」	地下回廊	–
4	7月22日	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「綴織実演」	展示室	–
5	7月28日	「夏休み親子新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	26人
6	7月29日	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「織ってみよう！糸のみほとけ」	地下回廊	65人
7	8月5日	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「天寿国繍帳の繍い方を体験しよう」	会議室	15人
8	10月8日	Daiwa Sakura Aid　Presents「第70回正倉院展記念音燈華スペシャルコンサート」	当館敷地	–
9	10月27日～11月12日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	–
10	10月28日	第70回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	160人
11	11月17日	朝活　心静かにみほとけを観る	展示室	19人
12	1月10日	「文化財保存修理所特別公開」	講堂・文化財保存修理所	124人
13	2月11日	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	36人
14	2月16日	特別陳列「覚盛上人770年御忌鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」関連イベント親子ワークショップ「オリジナルうちわ作り」	地下回廊	25人
15	3月1日～11日、13日、14日	お水取り展中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	131人
16	3月1日	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	161人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　2回　　150人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	10月8日	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」 「大倉集古館の近世絵画－狩野派、琳派など魅力の作品群をめぐって－」	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	70人
2	10月13日	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」 「大倉集古館－日本最初の美術館はなぜできた？」	学芸部長　小泉恵英	80人

2)講演及びシンポジウム等　　16回　　2,166人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	5月19日	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」 印象派の至宝を楽しむ。ビュールレ・コレクションの名画の数々	名古屋市美術館副館長　深谷克典	220人
2	6月5日	国立扶餘博物館・国立公州博物館研究者招聘記念講演会「韓国の博物館に学ぶ」 第1部　講演会 「国立公州博物館の現状と未来　―常設展のリニューアルの成果と地域別収蔵庫建設を中心に―」 「国立扶餘博物館と博物館での保存科学」 第2部　質問コーナー 「日韓の博物館、ここが似ている、ここは違う」	国立公州博物館学芸研究士　李慶洙（イ・キョンス）氏 国立扶餘博物館学芸研究士　黄鉉盛（ファン・ヒョンソン）氏	49人
3	7月22日	特集展示「京都仁和寺観音堂　千手観音とその仲間たち」 記念講演会「京都仁和寺の歴史と観音堂」 「観音堂のこれから～御室派宗団として～」 「仁和寺の歴史～縁起そして宝蔵・観音堂～」 対談「観音堂の仏像たち～信仰の対象と工芸品～」	総本山仁和寺執行長　吉田正裕 総本山仁和寺学芸員　朝川美幸 総本山仁和寺執行長　吉田正裕 展示課長　楠井隆志	80人
4	8月4日	全国高等学校歴史学フォーラム2018 『地誌編輯罪状取調書』から読み解く皆川ハケムラの信仰史 土面と巨人伝説 江戸の信仰のあり方 よみがえる渡辺三三旧蔵資料 「幻の水城」を探る 糸島地域における石工の基礎的研究 本校を例に見た戦時中の学生たちについて 壱岐島の黒曜石～馬立海岸遺跡を中心に～ 新聞で追う100年前の大分～戦争・暴動・疫病～ 為朝外伝～東峰村で発見した母の墓、そしてこれから～	栃木県立学悠館高等学校歴史研究部 福島県立相馬高等学校郷土部 群馬県立桐生高等学校地歴部 岐阜県立関高等学校地域研究部 福岡県立筑紫丘高等学校 福岡県立糸島高等学校歴史部 福岡県立宗像高等学校歴史研究会 長崎県立壱岐高等学校東アジア歴史・中国語コース歴史学専攻 大分東明高等学校 福岡県立朝倉高等学校史学部	300人
5	8月5日	特集展示「京都仁和寺観音堂　千手観音とその仲間たち」 記念講演会「文化財建造物を守り伝える －仁和寺観音堂の保存修理事業 － 」	京都府教育庁指導部文化財保護課主査 吉田理 総本山仁和寺学芸員　朝川美幸	60人
6	8月5日	特集展示「国宝　銅鐸絵画」 記念講演会『絵画銅鐸の魅力』	神戸市教育委員会文化財課文化財保護活用係長　橋詰　清孝	80人
7	8月19日	特集展示「京都仁和寺観音堂　千手観音とその仲間たち」 記念講演会「観音堂と仁和寺にある法師たち」	仁和寺仁和伝法所員　泰地翔大	60人
8	8月26日	シンポジウム「魏志倭人伝のクニグニネットワーク」－クニグニをつなぐ道をたどる－ 基調講演「魏志倭人伝の世界」 事例講演「弥生時代の遺跡を取り巻く風景」 リレートーク　各市町担当者による地域紹介	九州大学名誉教授　西谷　正 考古イラストレーター　早川和子	270人
9	11月23日	大宰府史跡発掘50年記念・文化交流展「たたいて削って青銅器－アジアの響銅－」関連シンポジウム「響銅でつながる大宰府と東アジア」 「響銅でつながる大宰府と東アジア」 「太宰府出土の響銅」 「極薄青銅器に現在の鋳金作家が挑む―響銅製作技術解明の予察として－」	学芸部企画課主任研究員　川村佳男 太宰府市教育委員会　井上信正 東京藝術大学教授　赤沼　潔	93人

10	12月1日	ICOM-ASPAC日本会議2018 国際シンポジウム 「文化財が未来へつなぐ－自然災害と博物館－」（1日目） 開会式 主催者挨拶 来賓挨拶 来賓祝辞・紹介 「世界津波の日」の制定経緯とこれまでの活動、今後の展望 第1部 基調講演 「日本の文化財防災について」 「韓国の文化財防災」 第2部 「世界津波博物館会議」成果報告 モデレーター 「世界津波博物館会議の趣旨と意義」 世界津波博物館会議報告 「津波の記録と記憶を風化させないためどう活動すべきか」 「津波の恐怖を次世代にどう伝えるべきか」 「地震に関わる特別な資源を利用し、防災のための新たな方法を探る」 総合討論 閉会挨拶	ICOM-ASPAC 委員長、大韓民国国立中央博物館長　Bae Kidong ICOM-ASPAC 日本会議 2018 実行委員会委員長、館長　島谷弘幸 ICOM 会長　Suay Aksoy 環境大臣　原田義昭 文化庁文化財鑑査官 豊城浩行 福岡県知事　小川 洋 衆議院議員　福井 照 文化庁文化財鑑査官　豊城浩行 韓国国立文化財研究所長　Choi Jong-Deok 東北大学教授　小野裕一 国連国際防災戦略事務局（UNISDR）駐日事務所代表　松岡由季 稲むらの火の館名誉館長　西 博義 アチェ州政府文化・観光局 津波博物館長兼歴史部長　Hafnidar 5.12 汶川特大地震記念館管理センター主任 馮正碧 チリ内務公安省国家緊急対策室（ONEMI）長官 Ricardo Toro Tassara ICOM京都大会2019組織委員会委員長、京都国立博物館長　佐々木丞平	120人
11	12月2日	ICOM-ASPAC日本会議2018 国際シンポジウム 「文化財が未来へつなぐ－自然災害と博物館－」（2日目） 開会挨拶 ICOM-ASPAC及びICOM京都大会2019説明 ICOM-DRMC 活動報告 研究発表I 「文化遺産と災害リスクの低減」 「ネパールにおける文化遺産の盗難について」 「ブータン王国における博物館及び修復活動の現状」 総合討論 モデレーター パネリスト 研究発表II 「震災と博物館行動-近年の国立台湾歴史博物館と国立歴史民俗博物館を事例として」 「自然災害への対応マニュアルと韓国の国立博物館の現在の情勢について」 「日本の文化財防災ネットワーク推進事業の取り組みについて」 「日本における文化財レスキューの現状」 総合討論 モデレーター パネリスト 総括 太宰府宣言 閉会挨拶	ICOM副会長　An,Laishun ICOM京都大会2019運営委員会委員長、ICOM-ASPAC 副委員長　栗原祐司 ICOM-LAC 委員長　Samuel Franco Arce バヌアツ文化センター所長 Richard Japuneyo Shing ネパール博物館協会　Prem Singh Basnyat 前ブータン王国仏教美術・文化保存修復所所長代理　岩田侑利子 ICOMOS-ICORP 委員、立命館大学教授　益田兼房 研究発表Iの発表者 国立台湾歴史博物館研究組副研究員　陳 怡宏 国立歴史民俗博物館副館長　西谷　大 国立ハングル博物館長　朴　榮國 国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室長　岡田　健 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長　髙妻洋成 学芸部長　小泉惠英 研究発表IIの発表者 ICOM京都大会2019運営委員会委員長、ICOM-ASPAC副委員長　栗原 祐司 ICOM-ASPAC委員長　Bae　Kidong 日本博物館協会長、ICOM京都大会2019組織委員会副委員長　銭谷眞美	80人
12	12月8日	特別展『京都・醍醐寺 － 真言密教の宇宙 －』関連イベント アクロス・文化学び塾 「醍醐寺探訪 － 空海から秀吉まで － 」	学芸部文化財課主任研究員　森實久美子	72人
13	12月15日	大宰府史跡発掘50年記念・九州国立博物館 「大宰府研究」事業シンポジウム 「展望・大宰府研究２　大宰府の官衙―大宰府政庁周辺官衙跡の調査から―」 開会挨拶 趣旨説明 講演「大宰府の官衙」 研究報告 「前面官衙跡の調査研究成果」 「蔵司地区官衙跡の調査研究成果」 「鉄から見た大宰府官衙」 「大宰府の諸司 - 蔵司を中心に - 」 パネルディスカッション 「大宰府の官衙」 閉会挨拶	東洋大学教授・大宰府史跡調査研究指導委員会委員・古代史　森　公章 九州歴史資料館　小田和利 福岡県教育委員会　下原幸裕 展示課研究員　小嶋　篤 九州歴史資料館　松川博一 コーディネーター 九州歴史資料館　酒井芳司 展示課主任研究員　小澤佳憲	277人

14	31年2月3日	こども☆ひかりプロジェクト研究会inきゅーはく 近未来予想図～ミュージアムで夢を語る～ 「ファーストタッチのデザインでミュージアムはよみがえる」 「人々の活動が美術館を活かす－アート×ボランティアー」 「韓国博物館の教育普及事業～ワクワクドキドキのミュージアムへ～」	兵庫県立人と自然の博物館　八木　剛 横浜美術館　端山聡子 交流課主任研究員　久保田和之	100人
15	31年2月9日	特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」 リレー講座「醍醐寺展をより楽しむための醍醐味講座」 「じっくり味わう醍醐寺の仏画」 「ホットでクールな醍醐寺の彫刻」	学芸部文化財課主任研究員 森實久美子 展示課長　楠井隆志	262人
16	31年2月14日	平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業セミナー 「大分県が取り組む文化財の地域防災計画」 「文化財防災にかかわる地域防災計画策定の経緯とその後の活動について」 「大分県における文化財防災の取り組み」	日出町歴史資料館・帆足萬利里記念館　館長 平井義人 大分県教育庁文化財課文化財班参事（統括） 三重野 誠	43人

3)　ミュージアムトーク　　62回 参加者総数　　2,175人

・担当研究員数　　延べ 62人　　※うち夜間開催分は 715人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として毎週（10月からは原則第1、3、5）火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の17時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	4月3日	能装束鑑賞の楽しみ	学芸部企画課特別展室長　原田あゆみ	25人
2	4月14日	夜のミュージアムトーク はにわ君のかいてきなお部屋	学芸部博物館科学課主任研究員　秋山純子	6人
3	4月17日	災害で水濡れした紙、どうするの？	学芸部博物館科学課長　木川りか	20人
4	4月28日	夜のミュージアムトーク 古代のデザイン一美しく飾られた古墳一	学芸部文化財課長　河野一隆	33人
5	5月1日	お釈迦さまの一生	学芸部企画課主任研究員　森實久美子	20人
6	5月12日	夜のミュージアムトーク 松永耳庵さんのうるしコレクション	学芸部文化財課主任研究員　川畑憲子	13人
7	5月15日	博多文琳と黒田家の茶道具	学芸部企画課アソシエイトフェロー　酒井田千明	60人
8	5月26日	夜のミュージアムトーク ズドンと一発　火縄銃	学芸部文化財課研究員　望月規史	45人
9	5月29日	シルクロードの美術	学芸部特任研究員　臺信祐爾	40人
10	6月9日	夜のミュージアムトーク むかしむかしの神様たち	展示課研究員　小嶋　篤	70人
11	6月12日	赤く塗った土器	展示課主任研究員　小澤佳憲	30人
12	6月23日	夜のミュージアムトーク ベトナムからの手紙	学芸部企画課研究員　松浦晃佑	30人
13	6月26日	福岡発、京都行き！江戸時代の焼き物	学芸部文化財課研修生　無津呂健太郎	49人
14	7月3日	夏はやっぱり海！の考古学	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木 蘭貞	16人
15	7月14日	夜のミュージアムトーク 絵の具を拡大してみると・・・・	学芸部博物館科学課主任研究員　志賀智史	60人
16	7月18日	特集展示「国宝　銅鐸絵画」展ご紹介	交流課主任研究員　進村真之	30人
17	7月28日	夜のミュージアムトーク 青銅器のカタチは時空をこえて	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	14人
18	7月31日	始まりました！全国高等学校考古名品展	展示課主任研究員　今井涼子	25人
19	8月5日	ミュージアムトーク・プレミアム 「仁和寺坊主トーク」第1回	総本山仁和寺執行長　吉田正裕	90人
20	8月5日	ミュージアムトーク・プレミアム 「仁和寺坊主トーク」第2回	総本山仁和寺執行長　吉田正裕	60人
21	8月7日	ミュージアムトーク・プレミアム 桜ヶ丘銅鐸の絵画	神戸市立博物館学芸担当課長　山本雅和	80人
22	8月11日	ミュージアムトーク・プレミアム 「仁和寺坊主トーク」第1回	総本山仁和寺執行長　吉田正裕	40人
23	8月11日	ミュージアムトーク・プレミアム 「仁和寺坊主トーク」第2回	総本山仁和寺執行長　吉田正裕	60人
24	8月11日	夜のミュージアムトーク 撮影しナイト	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 落合晴彦	80人
25	8月14日	仁和寺観音堂の千手観音像とその仲間たち	展示課長　楠井隆志	50人
26	8月19日	ミュージアムトーク・プレミアム 「仁和寺坊主トーク」第1回	総本山仁和寺執行長　吉田正裕	60人
27	8月19日	ミュージアムトーク・プレミアム 「仁和寺坊主トーク」第2回	総本山仁和寺執行長　吉田正裕	90人
28	8月25日	夜のミュージアムトーク 気分は考古学者！測量編	展示課主任研究員　今井涼子	10人
29	8月28日	韓国の美に親しむ	学芸部文化財課主任研究員　畑　靖紀	30人
30	9月8日	夜のミュージアムトーク 見えないものを見る科学の目	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 大橋有佳	12人
31	9月12日	九博でみる仏像ファッションショー	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤　信	30人
32	9月22日	夜のミュージアムトーク 江戸時代の「大宰府」の姿	展示課主任研究員　一瀬　智	30人
33	9月26日	博物館での健康診断―X線CTとその活用	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺裕基	40人
34	10月2日	坂本五郎コレクションについて	学芸部企画課研究員　望月規史	30人

35	10月13日	夜のミュージアムトーク 「愛をこめてラブレターを」～仏像編～	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤　信	14人
36	10月16日	坂本五郎コレクションの陶磁器	学芸部企画課研究員　酒井田千明	50人
37	10月27日	夜のミュージアムトーク 米作りでくらしがかわる！？	展示課主任研究員　小澤佳憲	7人
38	10月30日	長生き願望、北斎の日新除魔図	学芸部文化財課研究員　山下善也	35人
39	11月4日	「平戸藩と伊能図」	学芸部企画課研究員　松浦晃佑	30人
40	11月10日	夜のミュージアムトーク たたいて削って青銅器－東アジアの響銅（きょうどう）－	学芸部企画課主任研究員　川村佳男	25人
41	11月11日	大宰府史跡発掘50年記念特集展示 「大宰府研究の歩み」展示解説	展示課主任研究員　一瀬　智	20人
42			展示課主任研究員　小澤佳憲	20人
43			展示課研究員　小嶋　篤	20人
44	11月13日	シルクロードの美術	学芸部特任研究員　臺信祐爾	20人
45	11月24日	夜のミュージアムトーク 撮影しナイト２	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 落合晴彦	21人
46	11月27日	東アジアの印刷文化	展示課主任研究員　一瀬　智	45人
47	12月8日	夜のミュージアムトーク 「忠敬君のすごい地図」（伊能図の魅力）	学芸部企画課研究員　松浦晃佑	55人
48	12月11日	細形銅剣と平形銅剣	交流課主任研究員　進村真之	30人
49	12月15日	大宰府史跡発掘50年記念特集展示 「大宰府研究の歩み」	展示課主任研究員　一瀬　智	40人
50	12月22日	夜のミュージアムトーク 縄文人ってどんな顔？	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 小川香菜恵	25人
51	31年1月12日	夜のミュージアムトーク こんなところに博物館？	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木 蘭貞	35人
52	31年１月16日	お姫様の婚礼調度	学芸部文化財課資料登録室長　川畑憲子	30人
53	31年１月26日	夜のミュージアムトーク 気分は考古学者～土器を観察してみよう！～	展示課主任研究員　今井涼子	25人
54	31年１月29日	木材の中にいる虫を「見る」「聴く」	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺裕基	15人
55	31年2月9日	夜のミュージアムトーク 目立つ修理!?陶磁器修理の歴史	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	25人
56	31年2月13日	密教の仏たち	学芸部文化財課主任研究員　森實久美子	50人
57	31年2月23日	夜のミュージアムトーク 見えないものを見る科学の目	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 大橋有佳	45人
58	31年2月26日	天神さま ― 波乱の生涯と伝説	学芸部文化財課主任研究員　畑　靖紀	25人
59	31年3月9日	夜のミュージアムトーク はにわ君のかいてきなお部屋	学芸部博物館科学課主任研究員　秋山純子	20人
60	31年3月12日	文化財の赤外線調査	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 大橋有佳	25人
61	31年3月23日	夜のミュージアムトーク ナニコレ!?考古学者のひみつ道具	学芸部文化財課　無津呂健太郎	15人
62	31年3月26日	模様の東西交流	学芸部企画課アソシエイトフェロー 桑原有寿子	30人

4)　その他展示に関連するイベント

44回　　16,947人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）	備考
1	文化交流展	4月13日～7月18日までの金曜・土曜日（11日間）	夜間開館　×　文化交流展示 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展示室入口	690人	
2		5月3日、4日	GW特別企画 古代衣装＆竪穴住居組み立て体験「Back to the KODAI（バック・トゥー・ザ・古代）」	エントランス	100人	
3		5月5日	GO!GO!キッズミュージアム 鬼瓦スタンプラリー!! 鬼がわらミニ版絵付体験ワークショップ	エントランス	360人	
4		6月9日	第5回スケッチしナイト☆	4階文化交流展室	50人	
5		7月20日～9月29日までの金曜・土曜日（25日間）	夜間開館　×　文化交流展示 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展示室入口	690人	
6		7月31日	夏休みファミリーイベント 「絵本と音の玉手箱」 「王様探しておおさわぎ」	ミュージアムホール	150人	
7		７月31日～9月2日	夏休み特別企画 チョコちゃん恋の応援団	4階文化交流展室	1,044人	アンケートの回答者数
8		8月10日、18日	文化交流展関連イベント 「弥生人現る!!～101回目の米作り」	4階文化交流展室	400人	
9		8月11日	なりきり考古学者体験測量スペシャル	ミュージアムホール	8人	特集展示「全国高等学校考古名品展2018」関連
10		8月12日	なりきり考古学者体験銅鐸拓本スペシャル	あじっぱ および 4階文化交流展示室	12人	特集展示「国宝　銅鐸絵画」関連

11	文化交流展	8月25日	第6回スケッチしナイト☆	4階文化交流展室	15人	
12		8月25日、26日	吉野ヶ里Days in 九博 勾玉づくり体験、青銅器鋳造体験、組紐体験等	ミュージアムホール	432人	
13		9月12日	特集展示坂本五郎コレクション受贈記念 「北斎と鍋島、そして」開会式	エントランス	70人	
14		11月3日	NPO法人「歩かんね太宰府」主催ウォーキング 「伊能忠敬　太宰府測量の足あと」第1回	館外	20人	特集展示「伊能忠敬没後二百年記念　平戸松浦家伝来の伊能図」
15		11月10日	NPO法人「歩かんね太宰府」主催ウォーキング 「伊能忠敬　太宰府測量の足あと」第2回	館外	8人	特集展示「伊能忠敬没後二百年記念　平戸松浦家伝来の伊能図」
16		11月11日	大宰府史跡発掘50年記念ウォーク・イベント 「大宰府史跡ものがたり」	4階文化交流展示室	113人	特集展示「太宰府史跡発掘50年記念　大宰府研究の歩み」
17		12月14日～31年1月26日までの金曜・土曜日（12日間）	夜間開館　×　文化交流展示 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	展示室入口	690人	
18		31年1月19日	第7回スケッチしナイト☆	4階文化交流展室	8人	
19		31年3月2日	きゅーはく女子考古部プレゼンツ「古代の宴へようこそ！」	ミュージアムホール	300人	
20	特別展「王羲之と日本の書」	3月27日～4月1日	「九州の現代書壇展」 「日本書芸院九州・沖縄選抜作家展」	ミュージアムホール	—	
21		3月27日～4月1日	日中国交正常化45周年記念書道展	エントランス	—	
22		4月6日、7日	夜間開館×特別展「王羲之と日本の書」梅が枝餅引換券プレゼント	特別展示室入口	310人	
23	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	5月19日～7月16日	「びじゅつチューン！」ぬりえ持参でプレゼント！企画	特別展示室入口	—	
24		5月19日～7月16日	ニコライバーグマン作品展示	エントランス	—	
25		5月19日～7月16日までの毎週金土	＜夜間来場者プレゼント企画＞ 特別展「ビュールレ・コレクション」夜間開館Ｂ3ポスタープレゼント	特別展示室入口	—	
26		5月19日～7月16日までの金曜・土曜日（17日間）	夜間開館×特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展示室入口	5,996人	
27		5月20日	Eテレ「ガールズクラフト」スペシャルワークショップ	ミュージアムホール	86人	
28		5月24日	「至上の印象派展 ビュールレ・コクション」×ＫＢＣネマタイアップ　印象派シネマナイト 第1回「セザンヌと過ごした時間」	（館外）ＫＢＣシネマ実施	59人	
29		5月25日～7月16日	特別展「ビュールレ・コレクション」フォトポイントパネル設置	エントランス	—	
30		5月31日	「至上の印象派展 ビュールレ・コクション」×ＫＢＣネマタイアップ　印象派シネマナイト 第2回「ゴッホ　最期の手紙」	（館外）ＫＢＣシネマ実施	110人	
31		6月1日～30日	特別展「ビュールレ・コレクション」しおり配布	特別展示室入口	—	
32		6月2日	びじゅチューン！「井上涼の印象派ライブ in 福岡」	ミュージアムホール	530人	
33		6月10日	特別展「ビュールレ展」記念 九州国立博物館杯第11回さいふごま大会	ミュージアムホール	40人	
34		6月11日、25日、7月9日	特別展「ビュールレ・コレクション」月曜日来場Ｂ3ポスター配布	特別展示室入口	—	
35		7月1日～12日	特別展「ビュールレ・コレクション」オリジナルシール配布	特別展示室入口	—	
36	明治150年記念特別展「オークラコレクション」	11月3日	「オークラウロ」カクテルコンサート	（館外）ホテルオークラ福岡	46人	
37		11月4日	オークラウロ・コンサート 男爵・大倉喜七郎が作った楽器「オークラウロ」を九博で演奏！	ミュージアムホール	217人	
38		10月2日～12月9日までの金曜・土曜日（19日間）	夜間開館×特別展「オークラコレクション」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展示室入口	1,097人	

39	特別展「京都　醍醐寺ー真言密教の宇宙ー」	31年1月29日	総本山醍醐寺　声明コンサート	ミュージアムホール	250人	
40		31年2月3日	節分　限定イベント	特別展示室入口	1,000人	
41		31年2月16日	「ニッポンの力」　スペシャルゲスト　ラグビー選手　五郎丸歩トークショー	ミュージアムホール	340人	
42		31年2月17日	特別展「京都・醍醐寺ー真言密教の宇宙ー」記念　第13回さいふごま大会	ミュージアムホール	80人	
43		31年2月21日、26日	お坊さんトーク 講師：別格本山 阿弥陀院(真言宗醍醐派) 浅井戒仁師	特別展示室	350人	
44		31年1月29日～3月24日までの金曜・土曜日（16日間）	夜間開館×特別展「京都・醍醐寺」梅が枝餅引換券プレゼント	特別展示室入口	1,299人	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**955回**	**回数計**	**516回**	**回数計**	**68回**	**回数計**	**1,990回**
	参加者計	**319,324人**	**参加者計**	**48,605人**	**参加者計**	**2,977人**	**参加者計**	**8,645人**
	体験型プログラム等	702回 309,901人	体験型プログラム等	482回 47,198人	体験型プログラム等	28回 436人	体験型プログラム等	1,873回 4,914人
	学校との連携事業	253回 9,423人	学校との連携事業	34回 1,407人	学校との連携事業	40回 2,541人	学校との連携事業	117回 3,731人
	児童生徒を対象とした刊行物	3件 177,000部	児童生徒を対象とした刊行物	2件 53,500部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 25,000部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 20,000部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 1,221台	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 1,107台

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　702回　　309,901人

①ハンズオン展示等

594回　　199,472人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	297回	27,496人	実際に体験した人数
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	297回	171,976人	実際に体験した人数

②ワークショップ

33回　　5,154人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日、2日	桜ワークショップ「春らんまん　桜ぬりえ」	本館2階ラウンジ	2回	973人	
2	5月26日	ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下教育普及スペース	1回	12人	
3	6月23日、24日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	51人	6/23：19名 6/24：32名
4	6月23日、24日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	37人	6/23：17名 6/24：20名
5	7月14日、15日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	2回	51人	7/14：21名 7/15：30名
6	7月14日、15日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	2回	32人	7/14：14名 7/15：18名
7	8月5日	トーハクうちわぬり絵	本館2階ラウンジ	1回	787人	キッズデーイベントとして実施
8	8月5日	えほんの読み聞かせ「ぶんぶく茶釜」	本館2階4室	2回	102人	①62名 ②40名 キッズデーイベントとして実施
9	8月5日	えほんの読み聞かせ「牛若丸」	本館1階18室	2回	129人	①56名 ②73名 キッズデーイベントとして実施
10	8月5日	見学ガイドアプリ 「学校版トーハクなび」貸出サービス	本館2階	1回	53人	キッズデーイベントとして実施
11	8月11日	ファミリーワークショップ「なりきり日本美術館★なりきりガイド」	本館地下教育普及スペース	2回	57人	①AM：30名 ②PM：27名
12	8月25日	ファミリーワークショップ「からだが動くエビを作ってみよう」	本館地下教育普及スペース	1回	22人	
13	9月29日、30日	ファミリーワークショップ「バティックに挑戦」	本館地下教育普及スペース	2回	27人	9/29：15名 9/30：12名
14	11月3日	ファミリーワークショップ「屏風体験！」	本館地下教育普及スペース、応挙館	1回	18人	
15	12月8日、9日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	44人	12/8：19名 12/9：25名

16	12月8日、9日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	24人	12/8：11名 12/9：13名
17	2月23日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び―立雛を作ろう!―」	本館地下教育普及スペース	1回	26人	
18	3月27日、28日、29日、30日、31日	桜ワークショップ「春らんまん　桜ぬりえ」	本館2階ラウンジ	5回	2,709人	

③その他の体験型プログラム　　― 回　　― 人

④児童生徒を対象とした展示

74回　　103,320人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月17日～5月20日	「親と子のギャラリー　サルのひろば」	平成館企画展示室	31回	―	通常の展示室のため、人数のカウントを行っていない
2	7月24日～9月9日	「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！　なりきり日本美術館」	本館特別5室、特別4室	43回	103,320人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　　1,955人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月5日	トーハクキッズデー	本館、平成館考古展示室	1回	1,955人	未就学児から中学生までの入館者数を計数

2)学校との連携事業　　253回　　9,423人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

228回　　8,895人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	本館地下教育普及スペース、大講堂、展示室等	226回	8,873人	226校
2	8月7日、11月14日	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、展示室等	2回	22人	2校

②出前授業等　　― 回　　― 人

③職場体験

20回　　63人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館、東洋館ほか	20回	63人	20校、延べ50日

④教員を対象とした研修　　5回　　465人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月20日	特別展「名作誕生」教員研修	大講堂	1回	140人	
2	7月10日	大田区立小学校図工部　研修	本館地下教育普及スペース	1回	16人	大田区の小学校図工教員を対象にした研修への協力
3	7月27日	「スクールプログラム」教員研修＋特別展「縄文」教員研修	大講堂	1回	260人	
4	7月31日	新宿区立中学校教育研究会社会科部　研修	本館地下教育普及スペース	1回	22人	新宿区の中学校社会科教員を対象にした研修への協力
5	9月20日	東京都教職員研修センター　専門性向上研修（社会科）	本館地下教育普及スペースほか	1回	27人	東京都の小中高社会科教員を対象にした研修への協力

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　3件　　177,000部

	名　　称	発行部数	備　考
1	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」ジュニアガイド	130,000部	
2	親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！　なりきり日本美術館」ワークシート	40,000部	
3	博物館に初もうで　カレンダー付きワークシート	7,000部	

②音声ガイド　　― 件　　― 台

③その他メディア　　― 件　　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　482回　47,198人

①ハンズオン展示等

378回　28,710人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	さわって発見！ミュージアム・カート	京都国立博物館　平成知新館	145回	28,710人	参加者は概算 年始を除く名品ギャラリー開室日の毎日84日 ※9/4は台風接近により活動休止
2	通年	デジタル絵巻	京都国立博物館　平成知新館	233回	—	開館日の毎日、参加者数カウント不可

②ワークショップ

91回　18,324人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月7日～5月20日の開館日	指で描こう！指墨画にチャレンジ	京都国立博物館　平成知新館	38回	5,427人	特別展「池大雅」関連ワークショップ
2	9月1日・2日	スタンプでうちわをデザインしよう！	京都市勧業館「みやこめっせ」	2回	956人	「ミュージアムキッズ！全国フェアin京都2018」（こども☆ひかりプロジェクト主催）
3	9月29日～11月25日の開館日	まぢかで見よう！はじめての刀	京都国立博物館　平成知新館	49回	11,741人	特別展「京のかたな」関連ワークショップ ※9/30は台風接近により活動休止
4	11月24日・25日	スタンプでバッグをデザイン！	羽生水郷公園	2回	200人	参加者は概算 「世界キャラクターさみっとin羽生」（世界キャラクターさみっとin羽生実行委員会主催）

③その他の体験型プログラム

7回　— 人

1	9月1日・2日	トラりん登場！	熊本県立装飾古墳館	2回	—	「ミュージアムキッズ！全国フェア2018」（こどもひかりプロジェクト主
2	5月8日～10日 9月22日～23日	トラりん登場！	筆の里工房（広島県）	5回	—	筆の里工房の企画展「筆が奏でる琳派の美」にあわせ出張した。参加者数カウント不可

④児童生徒を対象とした展示

1回　—人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月21日～9月2日	特集展示「謎とき美術！最初の一歩」	京都国立博物館　平成知新館	1回	—	参加者は当該期間の入館者数（41,712人）でカウントしているため、実績値には含めていない。

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

5回　164人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	11月11日	「観音図」おしゃべり鑑賞会	堀川御池ギャラリー	3回	72人	文化財ソムリエが「観音図」（フリーア美術館）の複製を用いて、京都市立中学校総合文化祭の展示会場にて鑑賞会を行った。（文化財に親しむ授業実行委員会主催）
2	8月19日（2回実施）	ギャラリートーク「特集展示＜謎とき美術！最初の一歩＞」	研究員　水谷亜希	2回	92人	特集展示「謎とき美術！最初の一歩」関連イベント

2)学校との連携事業　34回　1,407人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

15回　120人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月11日	京都府立嵯峨野高等学校	京都国立博物館	1回	18人	「京の文化財」研究に係るフィールドワークの受け入れ、研究への助言
2	5月16日	佐賀市立金泉中学校	京都国立博物館	1回	6人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、名品ギャラリー解説、自由観覧
3	5月16日	伊豆市立修善寺中学校	京都国立博物館	1回	6人	博物館の仕事、文化財の保存と展示について質問対応
4	5月17日	京都府立福知山高等学校	京都国立博物館	1回	20人	博物館の仕事紹介、特別展についての見どころ紹介
5	7月10日	京都市立静原小学校	京都国立博物館	1回	2人	戦国時代に関する展示の解説、自由観覧
6	7月13日	奈良帝塚山中学校	京都国立博物館	1回	3人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、名品ギャラリー解説、自由観覧
7	9月29日	京都府立鴨沂高等学校	京都国立博物館	1回	21人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、刀の鑑賞ポイント解説と刀のお手入れ体験
8	10月1日	横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校	京都国立博物館	1回	8人	文化財の活用や外国人観光客への対応に関するインタビュー
9	11月15日	滋賀県立守山高等学校	京都国立博物館	1回	1人	博物館教育に関するインタビュー

10	1月23日	京都市立藤森中学校	京都国立博物館	1回	8人	博物館の歴史、博物館の仕事紹介、名品ギャラリー解説、自由観覧
11	2月8日	静岡大学教育学部附属静岡中学校	京都国立博物館	1回	7人	博物館の仕事、文化財の保存と展示に関するインタビュー対応
12	2月25日	京都すばる高等学校	京都国立博物館	1回	1人	博物館の歴史、文化財の保存と展示、デジタル化への取り組みに関するインタビュー対応
13	2月27日	京都市立八瀬小学校	京都国立博物館	1回	8人	仏像についての解説、名品ギャラリー解説
14	3月8日	新潟市立早通中学校	京都国立博物館	1回	5人	博物館の仕事、文化財の保存に関するインタビュー対応
15	3月14日	上越市立城北中学校	京都国立博物館	1回	6人	文化財の展示や来館者を増やすための取り組みに関するインタビュー対応

②出前授業等

7回　537人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月13日	文化財に親しむ授業　京都市立樫原小学校　6年生	京都市立樫原小学校	1回	140人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	7月18日	文化財に親しむ授業　京都市立梅津北小学校6年生	京都市立梅津北小学校	1回	57人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	9月18日	文化財に親しむ授業　京都市立岩倉南小学校6年生	京都市立岩倉南小学校	1回	126人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	10月5日	文化財に親しむ授業　京都市立西京極西小学校5・6年生	京都市立西京極西小学校	1回	93人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	10月23日	文化財に親しむ授業　京都市立高雄中学校1・2・3年生	京都市立高雄中学校	1回	51人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	11月21日	文化財に親しむ授業　京都市立花園小学校　6年生	京都市立花園小学校	1回	40人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
7	12月20日	文化財に親しむ授業　京都市立翔鸞小学校　6年生	京都市立翔鸞小学校	1回	30人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　―回　―人

④教員を対象とした研修

3回　84人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月1日	長岡京市立神足小学校教員研修	京都国立博物館	1回	20人	講義：「博物館の仕事紹介と特集展示〈謎とき美術！最初の一歩〉のみどころ紹介」水谷亜希（京都国立博物館 研究員）
2	8月9日	文化財を教室に！－複製を活用した事例紹介と交流会―	京都国立博物館	1回	25人	発表者：森本彩（三重県立四日市高等学校）、井野彩奈（奈良大学／文化財ソムリエ）、高口柚（同志社大学／文化財ソムリエ）、水谷亜希（京都国立博物館研究員）
3	8月27日	社会科教員のための向上講座（（小）社会科授業実践力向上講座（中・高・総）社会科教員指導力向上講座）	京都国立博物館	1回	39人	講義：「特集展示＜謎とき美術！最初の一歩＞のみどころと、名品ギャラリーの魅力紹介」水谷亜希（京都国立博物館研究員） 主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

9回　666人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月5日	第54回小中学生記者の文化財取材コンクール	京都国立博物館平成知新館	1回	74人	京都市内の小中学生による「博物館のしごと」をテーマとした取材を受け入れ、インタビュー等に協力した 主催：公益財団法人京都古文化保存協会
2	10月22日	京都府立福知山高等学校・附属中学校 鑑賞の授業、歴史の授業	京都府立福知山高等学校・附属中学校	1回	97人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
3	11月1日	京都府立嵯峨野高等学校 鑑賞の授業	京都府立嵯峨野高等学校	1回	70人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
4	1月11日	京都市立東山泉小中学校 鑑賞の授業	京都市立東山泉小中学校	1回	67人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
5	1月15日、16日	三重県立四日市高等学校 鑑賞の授業	三重県立四日市高等学校	1回	91人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
6	1月22日	京都市立西ノ京中学校 鑑賞の授業	京都市立西ノ京中学校	1回	127人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
7	1月24日	京都市立烏丸中学校 鑑賞の授業	京都市立烏丸中学校	1回	50人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
8	2月1日	和歌山県立粉河高等学校 鑑賞の授業	和歌山県立粉河高等学校	1回	35人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
9	2月12日	平安女学院中学高等学校 鑑賞の授業	平安女学院中学高等学校	1回	55人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

2件　53,500部

	名　称	発行部数	備　考
1	特集展示「謎とき美術！はじめの一歩」関連シート 「謎ときにチャレンジ」シート及び答え	20,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。
2	博物館Dictionary No.198,208～212	33,500部	4月、6月、7月、12月発行。観覧者（子ども～大人）対象。198号は29年度発行だが、好評により9,250部増刷。

②音声ガイド　— 件　— 台

③その他メディア　4件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんTwitter	—	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　28回　436人

①ハンズオン展示等　— 回　— 回

②ワークショップ

10回　276人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	7月25日～26日	親子で学ぼう奈良の仏像	講堂・展示室	2回	118人	
2	7月28日	「夏休み親子新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	1回	26人	
3	7月29日	奈良教育大との連携事業特別展「糸のみほとけ」関連イベント「織ってみよう！糸のみほとけ」	地下回廊	2回	65人	午前・午後１回ずつ実施
4	8月5日	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「天寿国繍帳の繍い方を体験しよう」	会議室	1回	15人	
5	12月15日	奈良トライアングルミュージアムズ「仏像を撮ってみよう！」	写場	2回	27人	午前・午後１回ずつ実施
6	2月16日	特別陳列「覚盛上人770年御忌鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」関連イベント親子ワークショップ「オリジナルうちわ作り」	地下回廊	2回	25人	午前・午後１回ずつ実施

③その他の体験型プログラム　— 回　— 人

④児童生徒を対象とした展示　17回　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月27日～11月12日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	17回	—	29年度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　1回　160人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月28日	第70回正倉院展　親子鑑賞会	講堂	1回	160人	

2)学校との連携事業　40回　2,541人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

13回　747人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月～3月	学校プログラム	講堂・なら仏像館	13回	747人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

②出前授業等　— 回　— 人

③職場体験　1回　3人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月26日～7月27日	職場体験（奈良県立青翔中学校）	全館	1回	3人	

④教員を対象とした研修　— 回　— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

26回　1,791人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂・なら仏像館	26回	1,791人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　1件　　25,000部

	名　　称	発行部数	備　　考
1	特別展「国宝 春日大社のすべて」のジュニアガイド「かるたで学ぼう!!-春日大社のすべて-」	25,000部	4月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

②音声ガイド　　1件　　1,221台

	名　　称	台数	備　　考
1	第70回正倉院展(日本版・子供向け)	1,221台	利用台数

③その他メディア　　―　件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　1,873回　　4,914人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等

1,698回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月17日～6月17日	針聞書～はらのむしランキング	あじぎゃら	61回	―	展示日数
2	4月24日～9月9日	沖縄	あじ庵	107回	―	展示日数
3	5月8日～10月28日	青と白の磁器	ディスプレイ	174回	―	展示日数
4	6月19日～11月25日	ワヤンクリの世界 ～ラーマーヤナより	あじぎゃら	160回	―	展示日数
5	7月3日～31年3月31日	モンゴル屋台 ～お初だよ、モンゴル	あじっぱ	272回	―	展示日数
6	7月24日～11月25日	秋吉コレクション（郷土人形）～木のぬくもり	あじぎゃら	123回	―	展示日数
7	9月12日～11月18日	世界の民族衣装part1	あじ庵	67回	―	開催日数
8	9月26日～31年3月31日	韓国屋台 ～お面と韓紙工芸	あじっぱ	187回	―	展示日数
9	10月30日～31年3月31日	国々の装い	ディスプレイ	153回	―	展示日数
10	11月13日～31年3月31日	日本屋台 ～はりこと干支	あじっぱ	139回	―	展示日数
11	11月20日～31年2月3日	世界の民族衣装part2	あじ庵	76回	―	展示日数
12	11月27日～31年3月3日	昔話とお年玉切手	あじぎゃら	97回	―	展示日数
13	31年2月5日～31年3月31日	お雛様かざりとさげもん	あじ庵	55回	―	展示日数
14	31年3月5日～31年3月31日	針聞書	あじぎゃら	27回	―	展示日数

展示日数はH30.12.31現在

②ワークショップ　　38回　　1,696人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	5月13日、11月25日	なりきり学芸員体験	あじぎゃら	4回	12人	小学校3年生以上（大人も可）、各回6人
2	10月20日、12月2日、2月23日	なりきり考古学者体験	あじぎゃら	9回	45人	小学校4年生以上（大人も可）、各回5人
3	7月29日	行こうよ！ あじっぱ夏祭り	ミュージアムホール	1回	632人	
4	7月31日	絵本と音の玉手箱（読み聞かせ＆コンサート）	ミュージアムホール	1回	150人	
5	7月31日	王さまを探して大さわぎ	研修室、バックヤード、文化交流展示室	1回	30人	小学生以下
6	8月4日	歴史学フォーラム ～石器で色々なものを切ってみよう	ミュージアムホール	1回	5人	高校生対象
7	8月11日、11月23日	伝統手芸ワークショップ	研修室	2回	95人	ボランティア主催ワークショップ
8	8月11日	なりきり考古学者体験平板測量スペシャル	ミュージアムホール	2回	10人	小学校4年生～6年生、各回6人
9	8月12日	なりきり考古学者体験拓本スペシャル	あじぎゃら 文化交流展示室	2回	12人	小学校3年生以上（大人も可）、各回6人
10	8月10日、8月17日	弥生人あらわる ～101回目の米作り	文化交流展示室	6回	240人	文化交流展示室入室者対象
11	9月1日	大人のなりきり考古学者体験	ミュージアムホール	2回	10人	大人対象
12	9月16日	博多伝統おきあげワークショップ	エントランスホール	1回	42人	ボランティア主催ワークショップ
13	10月14日	折り紙ワークショップ	エントランスホール	1回	25人	ボランティア主催ワークショップ

14	11月3日	きゅーはくの森でどんぐりクエスト	博物館散策路	1回	12人	ボランティア主催ワークショップ
15	31年1月13日、3月9日	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	2回	56人	小学生以上、各回28名
16	31年3月2日	きゅーはく女子考古部プレゼンツ「古代の宴へようこそ！」	ミュージアムホール	1回	300人	きゅーはく女子考古部の活動発表
17	31年3月17日	馬頭琴ワークショップ	ミュージアムホールホール	1回	20人	小学生以上、20名

③その他の体験型プログラム　31回　3,218人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	4月13日	きゅーはくきゃらばん（きゅうぱっく体験）	九州国立博物館研修室	1回	20人	
2	5月6日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験・衣装体験、伝統工芸体験）	鹿島市民図書館	1回	100人	
3	5月19日	きゅーはくきゃらばん（きゅうぱっく体験）	九州国立博物館研修室	1回	18人	
4	5月30日	きゅーはくきゃらばん（ガイダンス）	福岡建設専門学校	1回	70人	
5	6月23日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	熊本装飾古墳館	1回	85人	
6	6月26日	きゅーはくきゃらばん（きゅうパック体験、鬼瓦づくり）	福岡手話の会博多支部	1回	40人	
7	7月23日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	大野城市立心のふるさと館	1回	50人	
8	7月31日、8月１日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	大丸エルガーラ	2回	100人	
9	8月25日、8月26日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	横浜高島屋	2回	100人	
10	9月１日、9月2日	きゅーはくきゃらばん（古代文字スタンプづくり）	京都市歓業館みやこめっせ	2回	120人	
11	9月10日	きゅーはくきゃらばん（きゅうパック体験）	九州国立博物館研修室	1回	30人	
12	9月19日	きゅーはくきゃらばん（きゅうパック体験）	ゆめ佐賀大学佐賀校	1回	120人	
13	9月27日	きゅーはくきゃらばん（きゅうパック体験）	ゆめ佐賀大学唐津校	1回	30人	
14	10月19日	きゅーはくきゃらばん（きゅうパック体験）	九州国立博物館研修室	1回	7人	
15	10月21日	きゅーはくきゃらばん（きゅうパック体験）	九州国立博物館研修室	1回	25人	
16	11月10日	きゅーはくきゃらばん（きゅうパック体験、民族楽器体験）	宗像市立河東西小学校	1回	220人	
17	11月11日	貫頭衣を着てみよう！	石人山・弘化谷古墳公園	1回	20人	きゅーはく女子考古部の活動
18	11月13日	きゅーはくきゃらばん（古代文字スタンプづくり）	ゆめ佐賀大学鹿島校	1回	30人	
19	11月23日	きゅーはくきゃらばん(民族衣装体験)	福岡県立青少年海の家「玄海の家」	1回	50人	
20	11月27日	きゅーはくきゃらばん(古代文字スタンプづくり、きゅうぱっく体験、民族衣装・楽器体験)	大野城市立大野東中学校ランドセルクラブ	1回	80人	
21	12月3日	きゅーはくきゃらばん（古代文字スタンプづくり、民族衣装・楽器体験）	久留米市立篠山小学校学童保育所	1回	60人	
22	12月19日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	九州国立博物館研修室	1回	20人	
23	12月22日	九博こどもフェスタ	ミュージアムホール	1回	1,400人	
24	31年2月14日	きゅーはくきゃらばん（古代文字スタンプづくり）	大野城市立月の浦小学校ランドセルクラブ	1回	16人	
25	31年2月15日	きゅーはくきゃらばん（きゅうぱっく体験）	九州国立博物館研修室	1回	7人	
26	31年2月24日	きゅーはくきゃらばん（きゅうぱっく体験）	福岡手話の会福岡本部	1回	100人	
27	31年3月2日	きゅーはくきゃらばん（きゅうぱっく体験、民族楽器体験）	八女市げんき館おおぶち	1回	200人	
28	31年3月2日、3日	きゅーはくきゃらばん（鬼瓦づくり）	南相馬市体育館	1回	100人	

④児童生徒を対象とした展示　106回　―　人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月2日～12月9日	「明治150年記念　特別展　オークラ　コレクション展」わかりやすい解説パネル	展覧会会場	58回	―	開催日数
2	31年1月29日～3月24日	特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」わかりやすい解説パネル	展覧会会場	48回	―	開催日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　— 回　　— 人

2)学校との連携事業　　117回　　3,731人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

47回　　3,452人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月25日	田川市立　田川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	42人	
2	6月6日	大牟田市立　白川小学校	研修室・文化交流展示室	1回	67人	
3	6月8日	みやま市立　瀬高中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	125人	
4	6月11日	福岡県立　輝翔館中等教育学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	123人	
5	6月12日	筑後市立　筑後小学校	研修室・文化交流展示室	1回	79人	
6	6月13日	古賀市立　舞の里小学校	研修室・文化交流展示室	1回	53人	
7	6月14日	春日市立　白水小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	91人	
8	6月20日	直方市立　中泉小学校	研修室・文化交流展示室	1回	47人	
9	6月21日	福岡市立　北崎小学校	研修室・文化交流展示室	1回	40人	
10	6月22日	久留米市立　青峰小学校	研修室・文化交流展示室	1回	24人	
11	6月27日	大川市立　大川小学校	研修室・文化交流展示室	1回	48人	
12	6月29日	久留米市立　長門石小学校	研修室・文化交流展示室	1回	70人	
13	7月4日	福岡市立　東光小学校	研修室・文化交流展示室	1回	46人	
14	7月9日	田川市立　後藤寺中学校	研修室・文化交流展示室	1回	65人	
15	7月11日	福岡市立早良小学校	研修室・文化交流展示室	1回	72人	
16	7月18日	豊前市立　角田小学校	研修室・文化交流展示室	1回	8人	
17	7月19日	福岡市立　田隈小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	83人	
18	8月28日	八女市立　黒木中学校	研修室・文化交流展示室	1回	7人	
19	8月29日	福岡市立　那珂南小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	107人	
20	8月30日	福岡市立　愛宕小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	132人	
21	9月4日	福岡市立　弥生小学校	研修室・文化交流展示室	1回	48人	
22	9月5日	福津市立　勝浦小学校	研修室・文化交流展示室	1回	18人	
23	9月5日	古賀市立　花見小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	95人	
24	9月6日	福岡市立　玉川小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	103人	
25	9月12日	飯塚市立　穂波西中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	119人	
26	9月18日	みやま市立　山川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	47人	
27	9月21日	大川市立　田口小学校	研修室・文化交流展示室	1回	41人	
28	9月27日	太宰府市立　太宰府西小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	128人	
29	9月28日	八女市立　見崎中学校	研修室・文化交流展示室	1回	42人	
30	10月10日	うきは市立　山春小学校	研修室・文化交流展示室	1回	44人	
31	10月17日	豊前市立　合岩中学校	研修室・文化交流展示室	1回	64人	
32	10月30日	太宰府市立　国分小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	113人	
33	10月31日	芦屋町立　芦屋小学校	研修室・文化交流展示室	1回	38人	
34	11月2日	小郡市立　立石小学校	研修室・文化交流展示室	1回	35人	
35	11月13日	福岡市立　周船寺小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	107人	
36	11月14日	大任町立　大任中学校	研修室・文化交流展示室	1回	43人	
37	11月20日	大刀洗町立　菊池小学校	研修室・文化交流展示室	1回	47人	
38	11月21日	八女市立　福島中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	109人	
39	11月28日	飯塚市立　飯塚東小学校	研修室・文化交流展示室	1回	66人	

40	12月4日	太宰府市立　水城西小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	133人	
41	12月7日	福岡市立　壱岐南小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	97人	
42	12月12日	行橋市立　行橋中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	189人	
43	12月13日	福岡市立　美和台小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	143人	
44	12月14日	福岡市立　有住小学校	研修室・文化交流展示室	1回	41人	
45	31年1月17日	福岡市立　舞鶴小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	107人	
46	31年2月1日	豊前市立　宇島小学校	研修室・文化交流展示室	1回	36人	
47	31年2月5日	太宰府市立　太宰府東小学校	研修室・文化交流展示室	1回	70人	

②出前授業等

5回　151人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月20日、7月4日	総合学習飛び梅タイム「歴史探訪コース」	太宰府中学校	2回	21人	
2	5月1日	きゅうぱっく体験	大刀洗町立本郷小学校	1回	60人	
3	6月13日	きゅうパック体験	福岡県立直方特別支援学校	1回	20人	
4	31年3月13日	きゅうぱっく体験	那珂川市立岩戸小学校	1回	50人	

③職場体験

18回　93人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～12月 31年1月～2月	中学校職場体験	全館	18回	93人	

④教員を対象とした研修

3回　25人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月3日	「先生のための博物館活用術！」	研修室、展示室	1回	11人	
2	8月2日～4日、8月17日～18日	県立学校初任者研修	体験型施設あじっぱ	2回	14人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

44回　10人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	31年3月3日～31年3月24日	ジュニア学芸員体験	会議室・あじっぱ・あじぎゃら	4回	10人	
2	4月1日～31年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	40回	―	62パック

①刊行物　1件 20,000部

	名　　称	冊数	備　　考
1	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」ジュニアガイド	20,000部	納品冊数

②音声ガイド　1件 1,107台

	名　　称	台数	備　　考
1	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」ジュニア版音声ガイド	1,107台	利用台数

③その他メディア　― 件　― 回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

平成31年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	22 人	インターンシップ	1 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	8 人
	大学との連携講座	1 件 33 人	大学との連携講座	1 件 6 人	大学との連携講座	2 件 8 人	大学との連携講座	2 件 109 人
	見学対応	13 回 482 人	見学対応	1 回 25 人	見学対応	3 回 315 人	見学対応	3 回 140 人
	その他	1 回 88 人	その他	23 回 349 人	その他	― 回 ― 人	その他	14 回 264 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　22 人

受入期間	7月4日～31年3月31日		
受入部署	学芸企画部／特別展室、出版企画室、国際交流室、博物館教育課、教育普及室、教育講座室、情報資料室 学芸研究部／平常展調整室、東洋室、保存修復課 総務部／総務課		
参加者数	22 人	学校数	19 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　33 人

期　　間	9月3日～9月7日		
回　　数	5回		
開催場所	平成館小講堂、本館3室、本館15室、本館17室、本館2階会議室		
参加者数	33 人	学校数	19 大学／　― 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館学講座」を実施した。		

3)　見学対応　　13 回　　482 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	482 人	学校数	13 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	鑑賞の支援および、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、東京国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

4)　その他　　1 回　　88 人

期　　間	9月5日		
回　　数	1 回		
開催場所	平成館大講堂、本館17室		
参加者数	88 人	学校数	26 大学／　― 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」を実施した。		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　1 人

受入期間	8月20日～8月31日、9月10日～9月21日		
受入部署	学芸部　保存修理指導室		
参加者数	1 人	学校数	1 大学／　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生1名のインターンを文化財保存修理所にて受け入れた。12月10日には平成知新館4F会議室にて1名による報告会を行った。（出席者24名）		

2)　大学等との連携講座　　1 件　　6 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	6 人
担当研究員数	4 人

3)　見学対応　　1 回　　25 人

期　　間	11月6日		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	25 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	美術教育などを専門に学ぶ大学生・大学院生を対象に、当館の博物館教育活動の概要を解説した。		

4)　その他　　23 回　　349 人

期　　間	9月7日		
回　　数	1		
開催場所	京都国立博物館　文化財保存修理所		
参加者数	11 人	学校数	5 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を実施した。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行い、学生の意欲や目的意識の向上を図った。		

期　　間	5月16日、5月23日、5月30日、6月20日、6月27日、7月4日、7月11日、8月29日、9月12日、9月19日、9月26日、10月10日、10月17日、11月7日、11月14日、12月5日、12月12日、1月9日、2月6日、2月20日		
回　　数	20		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	19 人	学校数	8 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

期　　間	10月19日、11月16日		
回　　数	2		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	319 人	学校数	29 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	京都国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「京のかたな」にかかる講演会を実施した。		

【奈良国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

2)　大学等との連携講座　　2 件　　8 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	2 人　（前期1人、後期1人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座
実施日	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
受入人数	6 人
担当研究員数	2 人

3)　見学対応　　3 回　　315 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	315 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	3 人		
事業内容	鑑賞の支援および、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、奈良国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

【九州国立博物館】

1)　インターンシップ　　8 人

受入期間	8月27日～8月31日（5日間）		
受入部署	学芸部博物館科学課		
参加者数	8 人	学校数	4 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	5 人		
事業内容	文化財修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。		

2)　大学等との連携講座　　2 件　　109 人

内　　容	放送大学の面接授業
実施日	12月13日、14日
開催場所	九州国立博物館
受入人数	39 人
担当研究員数	8 人

内　　容	筑紫女学園大学アジア文化学科「体験ーミュージアムデ学ぶアジア」連携講座
実施日	4月18日
開催場所	筑紫女学園大学
受入人数	70 人
担当研究員数	1 人

3)　見学対応　　3 回　　140 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	140 人	学校数	3 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	当館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。		

4)　その他　　14 回　　264 人

期　　間	5月15日,16日,22日,23日,29日		
回　　数	5回		
開催場所	筑紫女学園大学		
参加者数	204 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	1 人		
事業内容	バックヤードツアー		

期　　間	8月22日～9月3日（10日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	17 人	学校数	13 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	4月27日、5月25日、6月29日、7月20日、10月19日、11月9日、12月14日		
回　　数	8回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	43 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

平成31年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
56校	32校（※）	28校（※）	23校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数（56校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	10,368人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	7,971人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学, 文化ファッション大学院大学, 文化学園大学短期大学部, 文化服装学院, 文化外国語専門学校）	7,469人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,400人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,716人	20年4月1日	
6	東京大学	34,831人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,558人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学, 杉野服飾大学短期大学部, ドレスメーカー学院）	1,174人	20年4月1日	
9	大正大学	5,695人	20年4月1日	
10	東海大学	32,774人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,883人	20年4月1日	
12	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッド大学院大学・ハリウッド美容専門学校）	476人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,321人	20年4月1日	
14	立教大学	23,575人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,846人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,759人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,956人	20年4月1日	
18	法政大学	40,482人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,359人	20年4月1日	
20	昭和女子大学・昭和女子大学短期大学部	6,327人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	4,974人	20年5月1日	
22	東洋大学	34,281人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,121人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部）	4,981人	20年6月1日	
25	文教大学	9,736人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,892人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,185人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	2,003人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,821人	22年4月1日	
30	学習院大学	9,883人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,128人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,393人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	3,018人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,734人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,906人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,916人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,621人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	2,975人	25年4月1日	
39	中央大学	30,968人	25年6月1日	
40	麗澤大学	2,991人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	44,862人	25年8月1日	
42	共立女子大学・共立女子短期大学	6,520人	26年4月1日	
43	成城大学（文芸学部）	1,996人	26年4月1日	
44	日本文化大學	750人	27年4月1日	
45	鶴見大学（文学部）	1,427人	27年5月1日	
46	十文字学園女子大学	3,572人	27年6月1日	
47	早稲田大学	55,333人	27年6月1日	
48	東京外国語大学	4,947人	28年4月1日	
49	横浜国立大学	10,676人	28年4月1日	
50	國學院大學	12,434人	28年4月1日	
51	聖心女子大学	2,661人	28年5月1日	
52	津田塾大学	3,448人	29年8月1日	
53	清泉女子大学	1,989人	29年10月1日	
54	立正大学（文学部）	2,306人	30年4月1日	
55	東京国際大学	7,475人	30年4月1日	
56	明治大学（文学部）	3,943人	30年5月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

【京都国立博物館】

①　加入校数（32校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人　瓜生山学園	11,516人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,348人	18年6月1日	奈良博との共通加入	

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
3	奈良女子大学	2,662人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	886人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	京都女子大学	7,156人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,128人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	5,005人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	20,832人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	850人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,379人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学文芸学部・総合文化研究科	2,237人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,842人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,360人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	16,360人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	4,032人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人　同志社	40,212人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	3,623人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,139人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学人文科学部	1,055人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	京都教育大学	2,358人	20年7月1日	奈良博との共通加入	
21	京都市立芸術大学	1,071人	20年8月1日	京博のみ	
22	大阪大学	24,406人	20年12月1日	奈良博との共通加入	
23	京都外国語大学　京都外国語大学短期大学	4,778人	21年8月1日	奈良博との共通加入	
24	学校法人　関西大学	33,891人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
25	京都府立大学	2,148人	23年7月1日	京博のみ	29年4月に一時退会、10月に再入会
26	学校法人　京都産業大学	14,658人	24年8月1日	京博のみ	
27	立命館大学	37,005人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
28	学校法人　二本松学院	2,500人	29年4月1日	京博のみ	
29	四天王寺大学 人文社会学部	1,804人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
30	学校法人　関西学院	27,582人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
31	大手前大学	2,256人	30年6月1日	京博のみ	
32	大阪大谷大学	3,176人	30年11月1日	奈良博との共通加入	

【奈良国立博物館】

①加入校数（28校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,336人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,348人	18年5月8日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,662人	18年5月15日	京博との2館併用	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	886人	18年6月9日	京博との2館併用	
5	京都精華大学	3,128人	18年6月28日	京博との2館併用	
6	京都橘大学	5,005人	18年6月30日	京博との2館併用	
7	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,832人	18年6月30日	京博との2館併用	
8	京都大学	23,379人	18年8月22日	京博との2館併用	
9	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,237人	18年8月24日	京博との2館併用	
10	奈良学園大学　（奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部、奈良学園登美ヶ丘高等学校）	2,512人	18年10月1日	奈良博のみ	
11	奈良佐保短期大学	296人	18年11月29日	奈良博のみ	
12	佛教大学	16,360人	19年4月1日	京博との2館併用	
13	奈良大学	3,623人	19年5月2日	京博との2館併用	
14	京都工芸繊維大学	4,032人	19年6月1日	京博との2館併用	
15	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	40,212人	19年6月1日	京博との2館併用	
16	奈良先端科学技術大学院大学	1,139人	19年11月7日	京博との2館併用	
17	就実大学　人文科学部	1,055人	20年4月1日	京博との2館併用	
18	天理大学	3,169人	20年7月1日	奈良博のみ	
19	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,358人	20年7月1日	京博との2館併用	
20	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,406人	20年12月1日	京博との2館併用	
21	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,778人	21年8月1日	京博との2館併用	
22	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	31,022人	23年6月1日	京博との2館併用	
23	奈良工業高等専門学校	1,111人	23年7月1日	奈良博のみ	
24	立命館大学	37,005人	26年4月1日	京博との2館併用	
25	京都女子大学	7,156人	29年4月1日	京博との2館併用	
26	四天王寺大学　人文・社会学部	1,804人	29年5月1日	京博との2館併用	
27	学校法人　関西学院	27,582人	30年4月1日	京博との2館併用	
28	大阪大谷大学	3,176人	30年11月1日	京博との2館併用	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のリピート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、 来館毎にスタンプを押印し、３回目と６回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。 7月29日に奈良教育大学と連携して展覧会に関連した親子向けのワークショップを実施。

【九州国立博物館】

① 加入校数（23校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,627人	19年4月1日	
2	久留米大学	6,887人	19年4月1日	
3	西南学院大学	8,392人	19年4月1日	
4	筑紫女学園大学	3,133人	19年4月1日	
5	福岡教育大学	5,470人	19年4月1日	
6	福岡大学	21,014人	19年4月1日	
7	九州産業大学造形短期大学部	270人	19年4月1日	
8	福岡女子短期大学	492人	19年4月1日	
9	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	150人	19年4月1日	
10	久留米大学附設高等学校	595人	19年4月1日	
11	西南学院高等学校	1,322人	19年4月1日	
12	筑紫女学園高等学校	1,513人	19年4月1日	
13	筑紫台高等学校	1,587人	19年4月1日	
14	福岡大学附属大濠高等学校	1,951人	19年4月1日	
15	福岡大学附属若葉高等学校	1,128人	19年4月1日	
16	放送大学福岡学習センター	2,508人	19年5月1日	
17	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	411人	20年4月1日	
18	九州大学	18,973人	20年5月1日	
19	九州情報大学	435人	21年4月1日	
20	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,083人	21年5月1日	
21	日本赤十字九州国際看護大学	464人	23年4月1日	
22	第一薬科大学	1,173人	27年4月1日	
23	福岡有朋高等専修学校	433人	29年4月1日	

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 11月3日(土・祝) 9：30～21：00	○参加者数　1,622人《676人》 内　留学生　1,565人 同伴者　51人 ＡＬＴ　6人 ・無料観覧（総合文化展のみ） ・留学生のためのお茶会 参加者数：28人 ・留学生のためのお茶体験 参加者：147人 ・ボランティアによる英語ガイド 参加者数：393人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数：342人	・留学生アンケート回答者数176人 （回収率88%） ・来館頻度：初めて89%、2回目以降7% ・認知経路：ポスター64%、友人19%　他 ・出身国：中国62%　他 ・また博物館に来たいか：ぜひ来たい 40%来たい52%、たぶん来ない7%、来ない1%
京都国立博物館 11月3日(土・祝) 9：30～20：00	○参加者数　39人《88人》 留学生　39人《88人》 ・特別展「京のかたな」観覧料を団体料金に割引 ・公式キャラクター「トラりん」ノベルティグッズプレゼント	・留学生アンケート回答者数2人 （回収率5%） ・来館頻度：初めて100% ・「留学生の日」：初めて100% ・認知経路：ポスター・チラシを見て100%、HPを見て0%、友人・教師0%　他0% ・展示内容：とても良かった50%、良かった50%、普通以下0% ・出身国：中国50%、マレーシア50%
奈良国立博物館 11月1日(木) 9：00～18:00 (正倉院展会期中のため9：00開館)	○来館者数　12,336人《11,836人》 留学生　109人《65人》 ・「正倉院展」(特別展)及び「名品展」の無料観覧	・アンケート実施せず （正倉院展開催中につき実施困難のため）
九州国立博物館 11月3日(土・祝) 9：30～20：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　1,298人《2,863人》 留学生　22人《　28人》 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin九博	・留学生アンケート回答者数11人(回収率50%) うち、文化交流ツアーin九博参加者10人 ・出身国：中国11人 ・来館回数：1回2人、2回4人、3回1人、5回1人、10回以上2人 ・認知経路（複数回答）：ホームページ4人、学校から2人、友達から5人、無回答1人 ・満足度（文化交流展）：とてもよかった8人、よかった3人 ・満足度（文化交流ツアーin九博）：とてもよかった10人 ・文化交流ツアーin九博の全体の流れやスタッフの対応：とてもよかった9人、よかった1人

＊来館者数、参加者数等：《　》内は平成29年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会(29年4月1日改定)　　平成31年3月31日現在

区分 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	2,939 人 （旧友の会 1人を含む）	8,000 円
九州国立博物館	73 人	10,000 円

メンバーズプレミアムパス(29年4月1日より新設)　　平成31年3月31日現在

区分 （年会費） 館名	会員数	一般 (5,000 円)	一般 (3,100 円)	学生 (3,500 円)	学生 (3,000 円)	学生 (2,100 円)	家族 (10,000 円)
東京国立博物館	13,667 人 （旧パスポート 14 人を含む）	13,341 人	－	312 人	－	－	－
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	1,185 人	1,142 人	－	－	31 人	－	12 人
九州国立博物館	5,181 人	－	2,985 人	－	－	2,196 人	－

国立博物館メンバーズパス（４館共通/29年4月1日より新設） 平成31年3月31日現在

区分 （年会費） 館名	会員数	一般 (2,000 円)	学生 (1,000 円)
東京国立博物館	4,687 人 （旧ベーシック 6 人を含む）	4,468 人	213 人
京都国立博物館	1,112 人	1,074 人	38 人
奈良国立博物館	221 人	203 人	18 人
九州国立博物館	33 人	31 人	2 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートの鑑賞割引、当館ミュージアムショップの商品の一部割引、レストラン・カフェでの飲食料金の割引、総合文化展招待券の配布。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券8枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
③当館レストランでの飲食料金の割引
④当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施
・4月18日（水）　特別展「国宝　春日大社のすべて」
　　特別鑑賞会　参加人数176名人
・7月18日（水）　特別展「糸のみほとけ」
　　特別鑑賞会　参加人数160名人

・10月30日（火）　特別展「第70回正倉院展」
特別鑑賞会　参加人数182名人

【九州国立博物館】
①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は２回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1）会員数　　平成31年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		（一般社団法人清風会）	（ﾐｭｰｼﾞｱﾑ・ﾊﾟｰﾄﾅｰ）		
件数	621件	485人	7件	93件	45件
内訳	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（個人）:5人 特別会員（団体）:22団体 特別会員（個人）:17人 維持会員（団体）:50団体 維持会員（個人）:527人	賛助会員（団体）:34人 特別会員（団体）:25人 特別会員（個人）:62人 普通会員（団体）:16人 普通会員（個人）:348人	団体会員:6 件 個人会員:1 件	特別支援会員:4団体 特別会員:4団体 一般会員（団体）:17団体 一般会員（個人）:68人	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（個人）:3人 特別会員（個人）:2人 維持会員（個人）:20人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員（団体）:1団体 特別会員（団体）:3団体 維持会員（団体）:16団体

2）賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】
①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】
①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】
①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑥当館レストランでの飲食料金の割引
⑦当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・4月17日（火）　特別展「国宝　春日大社のすべて」
特別鑑賞会　参加人数66名人
・7月17日（火）　特別展「糸のみほとけ」
特別鑑賞会　参加人数65名人
・10月29日（月）　特別展「第70回正倉院展」
特別鑑賞会　参加人数134名人

【九州国立博物館】
①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

平成 31 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供　2 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	11 月 20 日～11 月 25 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館ラウンジ	14,355	
2	10 月 31 日～11 月 3 日	イベント	創エネ・あかりパーク 2018 に伴うライトアップ	本館前庭	―	「創エネ・あかりパーク 2018」実行委員会共催

2) 館主催・協力イベント　31 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	4 月 2 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2018　桜の街の音楽会 Vive! サクソフォーン・クゥルテット	正門池前	174	東京・春・音楽祭実行委員会共催
2	4 月 2 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2018　桜の街の音楽会 坂東真奈実＆黒川実咲	法隆寺宝物館	138	東京・春・音楽祭実行委員会共催
3	4 月 4 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2018「東博でバッハ vol.40」島田真千子＆北谷直樹	平成館ラウンジ	199	東京・春・音楽祭実行委員会共催
4	4 月 11 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2018「東博でバッハ vol.41」川田知子	法隆寺宝物館	127	東京・春・音楽祭実行委員会共催
5	6 月 23 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	167	サロン・ド・ソネット共催
6	7 月 15 日	イベント	納涼東博寄席	平成館大講堂	322	当館主催
7	7 月 27,28 日	イベント	トーハクＢＥＥＲ ＮＩＧＨＴ！ No.1	本館前庭	2,212	当館主催
8	8 月 3 日,4 日	イベント	トーハクＢＥＥＲ ＮＩＧＨＴ！ No.2	本館前庭	9,429	当館主催
9	8 月 5 日	イベント	キッズデー　日本の楽器のコンサート	本館前	396	当館主催
10	8 月 5 日	イベント	キッズデー　クラリネットコンサート	平成館大講堂	354	当館主催
11	9 月 15 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	法隆寺宝物館	221	サロン・ド・ソネット共催
12	9 月 21 日 9 月 22 日	イベント	博物館で野外シネマ	本館前庭	5,125	当館主催
13	10 月 19 日	音楽会	Music Weeks in TOKYO まちなかコンサート	本館大階段	365	東京文化会館他共催
14	10 月 29 日	音楽会	NOTES: composing resonace -INVISIBLE-	本館前	590	国際交流基金ｱｼﾞｱｾﾝﾀｰ共催
15	11 月 13 日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	297	東大寺共催
16	11 月 15 日,16 日,17 日,18 日,22 日,23 日,24 日,29 日,30 日,12 月 1 日	イベント	柳瀬荘アート教育プロジェクト	柳瀬荘	470	日本大学芸術学部共催
17	12 月 15 日	音楽会	クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	260	サロン・ド・ソネット共催
18	12 月 23 日 12 月 24 日 12 月 25 日	音楽会	感謝 DAY クリスマスライブ	本館大階段 他	2,396	当館主催
19	31 年 1 月 2 日 1 月 3 日	イベント	和太鼓（湯島天神白梅太鼓）	本館前	3,171	当館主催
20	31 年 1 月 2 日 1 月 3 日	イベント	獅子舞（葛西囃子中村社中）	本館前	2,923	当館主催
21	31 年 1 月 3 日	イベント	クラリネット（ジュリアンズ）	平成館ラウンジ	855	当館主催
22	31 年 1 月 20 日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	366	当館主催
23	31 年 2 月 13 日	音楽会	文化の杜の音めぐり	本館 他	343	東京・春・音楽祭実行委員会共催
24	31 年 3 月 8 日	音楽会	東京国立博物館×東京･春･音楽祭　夜の音巡り～桜の街の音楽会スペシャル	正門　他	610	東京・春・音楽祭実行委員会共催
25	31 年 3 月 15 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2019　桜の街の音楽会 Vive! サクソフォーン・クゥルテット	正門	130	東京・春・音楽祭実行委員会共催

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
26	31 年 3 月 20 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2019「東博でバッハ vol.42」豊島泰嗣＆中野振一郎	平成館ラウンジ	186	東京・春・音楽祭実行委員会共催
27	31 年 3 月 22 日	音楽会	ジュスカ・グランペール コンサート	法隆寺宝物館	236	当館・大和ハウス工業株式会社
28	31 年 3 月 23 日	音楽会	ジュスカ・グランペール コンサート	法隆寺宝物館	241	当館・大和ハウス工業株式会社
29	31 年 3 月 23 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2019「東博でバッハ vol.43」小林美恵	法隆寺宝物館	205	東京・春・音楽祭実行委員会共催
30	31 年 3 月 26 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2019「東博でバッハ vol.44」　伊東裕	法隆寺宝物館	113	東京・春・音楽祭実行委員会共催
31	31 年 3 月 27 日	音楽会	東京･春･音楽祭 2019　桜の街の音楽会 土岐祐奈	本館大階段	323	東京・春・音楽祭実行委員会共催

【京都国立博物館】

1）会場提供　　75 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 6 日～5 月 20 日	イベント	特別展「池大雅」にかかる音声ガイドの貸出等	平成知新館の一部	10	
2	4 月 6 日～5 月 20 日	イベント	特別展「池大雅」にかかる物販・図録の販売等	平成知新館の一部	10	
3	4 月 13 日～14 日	打合せ	ICOM 京都大会打合せ	管理棟会議室	20	
4	4 月 15 日	理事会	全日本博物館理事会	会議室 1	16	
5	4 月 15 日	茶席	煎茶会	茶室	60	
6	4 月 19 日	研修会	修理技術者資格制度新任者研修会	研修室	15	
7	4 月 21 日	イベント	ヨガの会	茶室	12	
8	4 月 23 日	説明会	ユーススタッフ説明会	会議室 1	60	
9	4 月 23 日	講演会	清風会鑑賞会	講堂	200	
10	5 月 6 日	茶席	お茶席体験	茶室	7	
11	5 月 11 日	打合せ	ICOM 京都大会打合せ	管理棟会議室	10	
12	5 月 17 日	審査	修理技術者資格制度登録審査	会議室 2・研修室	15	
13	5 月 26 日	茶席	茶会	茶室	20	
14	6 月 13 日	コンサート	京都国際文化交流コンサート	講堂・接客室 1、2	200	
15	7 月 4 日	講演会	文化遺産オンラインの登録推進等に関する説明会	講堂	100	
16	7 月 8 日	講演会	日本人形玩具学会研究発表大会	講堂	100	
17	7 月 18 日	講演会	日本結晶成長学会特別講演会	講堂	120	
18	7 月 27 日	研修会	修理技術者資格制度講習会	会議室 1・会議室 2・研修室	30	
19	8 月 20 日	鑑賞会	清風会鑑賞会	講堂	200	
20	8 月 21 日	鑑賞会	貸切鑑賞会・ディナーパーティー	講堂･展示室･グランドロビー	87	
21	8 月 22 日	茶席	大学同窓会	茶室	15	
22	8 月 24 日	コンサート	オペラガラコンサート	講堂	200	
23	9 月 9 日～14 日	研修会	第 11 回指定文化財企画・展示セミナー	会議室 1・調査室	28	
24	9 月 17 日～19 日	研修会	従事者研修	会議室 1・研修室	40	
25	9 月 28 日～11 月 25 日	イベント	特別展「京のかたな」にかかる音声ガイドの貸出等	平成知新館の一部	10	
26	9 月 28 日～11 月 25 日	イベント	特別展「京のかたな」にかかる物販・図録の販売等	平成知知新館・明治古都館の一部	10	
27	10 月 1 日	イベント	ICOM 舞鶴ミーティングレセプション	グランドロビー	70	
28	10 月 5 日	茶席	お茶席体験	茶室	5	
29	10 月 5 日	資格試験	修理技術者資格制度試験	会議室 1・会議室 2・研修室	26	
30	10 月 7 日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	講堂・展示室	118	
31	10 月 8 日	調査・研究	下総龍角寺出土塼仏・瓦の胎土分析	科学調査室	3	
32	10 月 9 日	鑑賞会	清風会鑑賞会	講堂	200	
33	10 月 14 日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）・講演	講堂・展示室	474	
34	10 月 18 日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	展示室	29	
35	10 月 19 日ほか 13 日間	調査・研究	青松塚古墳出土遺物 X 線 CT 調査	X 線調査室	2	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
36	10月21日	演奏会	笛の演奏会	茶室	20	
37	10月22日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）・講演	講堂・展示室	783	
38	10月24日	茶席	お茶席体験	茶室	5	
39	10月28日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	展示室	100	
40	11月2日～3日	茶席	わん椀ONE展 茶会	茶室	10	
41	11月3日	イベント	ファッションショー及びプロジェクションマッピング	グランドロビー	100	
42	11月4日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	展示室	116	
43	11月5日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）・講演	講堂・展示室	86	
44	11月5日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	講堂・展示室	132	
45	11月6日	研修会	文化財研修	研修室	25	
46	11月14日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）・講演	講堂・展示室	193	
47	11月14日,11月25日,11月28日	茶席	茶会	茶室	5	
48	11月16日	講演会	清風会鑑賞会	講堂	200	
49	11月18日	茶席	稽古茶会	茶室	20	
50	11月18日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	展示室	30	
51	11月19日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）・講演	講堂・展示室	1036	
52	11月21日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	展示室	30	
53	11月22日	鑑賞会	貸切鑑賞会（特別展「京のかたな」）	展示室	271	
54	11月24日	茶席	茶会	茶室	5	
55	11月27日	茶席	茶会	茶室	10	
56	11月30日,12月1日	資格試験	修理技術者資格制度試験	会議室２・研修室	15	
57	12月1日	茶席	茶会	茶室	5	
58	12月1日	イベント	韓国伝統舞踊公演	講堂	200	
59	12月2日	コンサート	浜野ケイ子コンサート	講堂	200	
60	1月3日	茶席	お茶席体験	茶室	9	
61	1月4日	茶席	お茶席体験	茶室	5	
62	1月12日,1月19日,1月26日	講演会	ＪＲ京の冬の旅特別講座	研修室	49	
63	1月9日,1月16日	茶席	茶会	茶室	3	
64	1月15日	イベント	イヴニングカンバセーション	グランドロビー	100	
65	1月22日	イベント	コンサート控室	接客室１	5	
66	1月23日	茶席	初釜	茶室	25	
67	2月8日、2月22日、2月28日	茶席	茶会	茶室	4	
68	2月6日,2月13日,2月27日	茶席	茶会	茶室	8	
69	2月22日	イベント	学間連携共同教育推進事業平成３０年度成果報告会	講堂・明治古都館玄関ホール、中央ホール	200	
70	2月26日	講演会	JICA研修トルコ講義	研修室	11	
71	3月4日	鑑賞会	清風会鑑賞会	講堂	200	
72	3月6日,3月13日,3月27日	茶席	茶会	茶室	10	
73	3月10日	講演会	博物館見学ツアー事前学習・講演	講堂	50	
74	3月14日	茶席	お茶席体験	茶室	5	
75	3月30日	茶席	茶会	茶室	20	

2） 館主催・協力イベント　　33件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月7日	講演会	記念講演会「自由な魂を求めて―池大雅の憧れた文人的世界―」	講堂	127	特別展「池大雅」関連イベント
2	4月13日	イベント	松平健さん記念撮影会＆トークイベント	グランドロビー・講堂	200	特別展「池大雅」関連イベント
3	4月14日	講演会	記念講演会「西湖への憧れ―大雅の名勝図を体感する―」	講堂	89	特別展「池大雅」関連イベント

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
4	4月21日	講演会	記念講演会「旅する画家の絵」	講堂	118	特別展「池大雅」関連イベント
5	4月28日	講演会	記念講演会「池大雅の絵画―あるいは卵の殻と黄身との関係―」	講堂	200	特別展「池大雅」関連イベント
6	5月11日	イベント	京都・らくご博物館（春）	講堂	123	主催：当館　制作協力：米朝事務所
7	5月12日	講演会	記念講演会「大雅と蕪村―十便十宜図を中心に―」	講堂	200	特別展「池大雅」関連イベント
8	6月24日	コンサート	クラッシック室内楽コンサート	講堂	84	主催：一般社団法人 Music Dialogue　後援：当館
9	7月27日､8月25日	イベント	ICOM 京都大会プレイベント「明治古都館特別公開」	明治古都館	400	主催：当館
10	8月3日	イベント	京都・らくご博物館（夏）	講堂	194	主催：当館　制作協力：米朝事務所
11	8月5日	講演会	文化財取材コンクール	講堂	100	主催：京都古文化保存協会　協力：当館
12	9月29日	講演会	記念講演会「京のかたな」	講堂	200	特別展「京のかたな」関連イベント
13	9月29日	イベント	「刀剣乱舞-ONLINE-」コラボ企画　「トラりん」&「おっきい こんのすけ」写真撮影会	グランドロビー	－	特別展「京のかたな」関連イベント
14	9月29日～11月25日	イベント	「刀剣乱舞-ONLINE-」コラボ企画　刀剣男士等身大パネル展示	明治古都館　中央・玄関ホール	－	特別展「京のかたな」関連イベント
15	9月29日～11月25日	イベント	復元模造刀剣特別公開	明治古都館　展示室1	－	特別展「京のかたな」関連イベント
16	10月6日	講演会	記念講演会「京のかたなⅠ－古刀－」	講堂	200	特別展「京のかたな」関連イベント
17	10月8日	イベント	京博でサムライ体験！- Be a SAMURAI -	庭園	150	特別展「京のかたな」関連イベント
18	10月13日	講演会	記念講演会「京鍛冶の黄金期―粟田口から来派へ―」	講堂	175	特別展「京のかたな」関連イベント
19	10月20日	講演会	記念講演会「日本刀の源流－日本の原始古代刀－」	講堂	130	特別展「京のかたな」関連イベント
20	10月27日	講演会	記念講演会「京のかたなⅡ－新刀－」	講堂	200	特別展「京のかたな」関連イベント
21	11月3日	講演会	記念講演会「『京のかたな』総まとめ」	講堂	200	特別展「京のかたな」関連イベント
22	11月9日	イベント	京都・らくご博物館（秋）	講堂	185	主催：当館　制作協力：米朝事務所
23	11月10日	講演会	記念講演会「合戦絵巻と武器･武具の研究」	講堂	126	特別展「京のかたな」関連イベント
24	1月6日	イベント	いけばなパフォーマンス	明治古都館　中央ホール	232	
25	1月14日	イベント	芸舞妓　春の舞	講堂	364	
26	1月23日	イベント	2019新春コンサート	講堂	110	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）後援：京都国立博物館
27	2月3日	イベント	対談イベント　「森見登美彦氏、京都国立博物館で語る」	講堂	178	
28	2月8日	イベント	京都・らくご博物館（冬）	講堂	173	
29	3月3日	イベント	映画上映会羅生門	講堂	84	
30	3月16日、17日	イベント	中国茶会	茶室	192	
31	3月21日～24日	イベント	明治古都館特別公開	明治古都館	2,461	
32	3月21日～24日	イベント	陶磁器マルシェ	庭園	2,461	
33	3月23日、24日	イベント	堪庵　春の呈茶席	茶室	250	

【奈良国立博物館】

1）会場提供　　42件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月～11月	撮影	NHK総合「ダーウィンが来た！生きもの新伝説」	当館敷地	―	
2	4月6日	講座･セミナー	奈良学園大学新入生オリエンテーション	講堂・展示室	150	奈良学園大学

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
3	4月10･12･14･15日	茶会	茶会	茶室	21	茶道裏千家流円明会
4	4月12日	講座･セミナー	奈良シニア大学記念講演	講堂	147	奈良シニア大学
5	4月16・18・20日	茶会	茶会	茶室	30	茶道裏千家流円明会
6	4月20日	講座･セミナー	春日大社のすべて展についてのレクチャー	講堂・展示室	114	就実大学
7	5月2日	講座･セミナー	春日大社のすべて展についてのレクチャー	講堂・展示室	111	奈良大学附属高校
8	5月11日	講座･セミナー	NHK文化センター現地講座「美術館散歩」	講堂・展示室	21	NHK文化センター神戸教室
9	5月17日	夜間貸切観覧	「なら仏像館」夜間貸切観覧	展示室	223	ワインシュタイン国際心血管発生再生会議
10	5月27日	講座･セミナー	春日大社展トークショー	講堂	145	NHK奈良放送局
11	6月6日	撮影	NHK奈良放送局「ならナビ」	当館敷地	—	
12	6月7日～10日	イベント	なら国際映画祭シネマテーク	講堂・応接室	497	なら国際映画祭実行委員会
13	6月8日	講座･セミナー	春日大社のすべて展についてのレクチャー	会議室・展示室	51	神戸大学
14	6月9日	講座･セミナー	春日大社のすべて展についてのレクチャー	会議室・講堂	25	春日大社
15	7月5日～8日	イベント	なら国際映画祭シネマテーク	講堂・応接室	269	なら国際映画祭実行委員会
16	8月5日～8月14日	イベント	「第20回なら燈花会」 ろうそくやオブジェを設置	当館敷地	—	なら燈花会の会
17	9月14日	イベント	ひむろしらゆき祭 in 興福寺純氷道中	当館敷地	—	ひむろしらゆき祭実行委員会
18	9月16・17日	イベント	第3回春日野音楽祭まちなかステージ	当館敷地	—	春日野音楽祭実行委員会
19	9月18日～24日	イベント	なら国際映画祭	講堂・応接室	352	なら国際映画祭実行委員会
20	10月3・5・7・10日	茶会	茶会	茶室	40	茶道裏千家流円明会
21	10月5日	撮影	NHK WORLD JAPAN	当館敷地	—	
22	10月7日～14日	撮影	かんさい情報ネット ten	当館敷地	—	
23	10月9日	イベント	「なら燈花会」体験燈花会	当館敷地	—	なら燈花会の会
24	10月23日	撮影	CM撮影	仏教美術資料研究センター	—	株式会社 loop&loop
25	10月25日	撮影	CM撮影	仏教美術資料研究センター	—	株式会社ほぼ日
26	10月27日～11月12日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	—	(財)仏教美術協会
27	10月27日～11月12日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	—	㈲日本クリーンシステムズ
28	10月27日～11月12日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
29	10月27日～11月12日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
30	10月27日～11月12日	キャンペーン	郵便切手・はがき類の販売	新館西側敷地	—	奈良中央郵便局
31	11月11日	イベント	「コトロゲ」チェックポイント	当館敷地	—	奈良市ポイント運営事務局
32	11月17日	イベント	奈良市アートプロジェクト「グリーン・マウンテン・カレッジ」	当館敷地	—	奈良市アートプロジェクト実行委員会
33	11月17・18日	イベント	奈良市アートプロジェクトチェ・ジョンファ作品展示	当館敷地	—	奈良市アートプロジェクト実行委員会
34	12月8日	講座・セミナー	建築家講演会	講堂	148	一般社団法人奈良県建築士会
35	12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	—	春日大社
36	1月24日	講座・セミナー	奈良シニア大学一般教養講座	講堂	119	奈良シニア大学
37	1月30日	撮影	KCNファミリーチャンネル番組撮影	庭園	—	近鉄ケーブルネットワーク
38	2月6日～2月7日	茶会	第六回珠光茶会	茶室・展示室	170	珠光茶会実行委員会
39	2月8日～2月14日	イベント	なら瑠璃絵オブジェの設置	庭園	-	なら瑠璃絵実行委員会
40	2月21日～2月22日	講座・セミナー	平成30年度研究協議会「文化財保存修復の現状-課題と展望-」	講堂	55	日本博物館協会
41	3月3日、13日	講座・セミナー	覚盛上人770年御忌唐招提寺と戒律復興展レクチャー	講堂・展示室	96	ジェイアール東海ツアーズ

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
42	3 月 10 日	茶会	茶会	茶室	12	沼津千本浜茶会

2）館主催・協力イベント　38 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 17 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	66	
2	4 月 18 日	鑑賞会	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	176	
3	4 月 30 日	講座・セミナー	春日大社のすべて展関連フォーラム「まほろばの神と仏と祈り」	奈良春日野国際フォーラム	400	主催：奈良国立博物館、NHK 奈良放送局、NHK プラネット近畿
4	6 月 6 日	イベント	春日大社のすべて展関連イベント「せんとくん」が奈良博にやってくる	当館敷地	—	
5	7 月 14 日～8 月 26 日	イベント	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「オリジナル手芸作品展示コーナー」	地下回廊	—	
6	7 月 14 日～9 月 30 日	イベント	ライトアッププロムナード・なら 2018	なら仏像館・仏教美術資料研究センター外観	—	ライトアッププロムナード・なら実行委員会
7	7 月 17 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	65	
8	7 月 18 日	鑑賞会	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	160	
9	7 月 22 日	イベント	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「綴織実演」	展示室	—	
10	7 月 25 日～7 月 26 日	イベント	親子で学ぼう奈良の仏像	講堂・展示室	118	共催：奈良市教育委員会
11	7 月 28 日	イベント	「夏休み親子新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	26	読売新聞奈良支局
12	7 月 29 日	イベント	奈良教育大学との連携事業特別展「糸のみほとけ」関連イベント「織ってみよう！糸のみほとけ」	地下回廊	65	主催：奈良国立博物館・奈良教育大学大学院「地域と伝統文化」教育プログラム
13	8 月 5 日	イベント	特別展「糸のみほとけ」関連イベント「天寿国繍帳の繍い方を体験しよう」	会議室	15	
14	8 月 9 日～8 月 10 日	コンサート	音燈華　ジュスカ・グランペール（ギター・バイオリンの演奏）	庭園・西新館南ピロティ	828	主催：大和ハウス工業株式会社 共催：奈良国立博物館
15	9 月 21 日～23 日	イベント	なら国際映画祭アートナイト「銀幕の庭」	当館敷地	—	主催：奈良公園クラスター形成実行委員会
16	10 月 8 日	イベント	Daiwa Sakura Aid　Presents「第 70 回正倉院展記念音燈華スペシャルコンサート」	当館敷地	—	主催：奈良国立博物館、大和ハウス工業株式会社
17	10 月 27 日～11 月 12 日	展示	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館 1F ロビー	—	
18	10 月 27 日～11 月 12 日	イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	地下回廊	—	
19	10 月 27 日～11 月 12 日	展示	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	—	主催：奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ
20	10 月 27 日～11 月 12 日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ・庭園	15,812	結の会
21	10 月 28 日	鑑賞会	第 70 回正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	160	主催：奈良国立博物館・読売新聞社
22	10 月 29 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	134	
23	10 月 30 日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	182	
24	10 月 31 日～11 月 1 日	鑑賞会	タクシー・ホテル等関係者特別鑑賞会	講堂・展示室	260	
25	11 月 1 日	特別観覧	留学生の日	展示室	109	
26	11 月 3 日	シンポジウム	正倉院学術シンポジウム 2018「正倉院の色」	東大寺総合文化センター金鐘ホール	227	
27	11 月 17 日	イベント	朝活　心静かにみほとけを観る	展示室	19	
28	11 月 17 日～11 月 18 日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	2,518	
29	11 月 17 日～11 月 18 日	特別公開	庭園散策ツアー	庭園	69	
30	12 月 15 日	イベント	奈良トライアングルミュージアムズ「仏像を撮ってみよう！」	地下写場	27	
31	12 月 17 日	茶会	おん祭「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	92	主催：裏千家　泉本宗悠
32	1 月 2 日～1 月 5 日	イベント	2019 お正月は奈良博	なら仏像館・地下回廊	-	
33	1 月 10 日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」	講堂・文化財保存修理所	124	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
34	2月11日	講演・鑑賞	『お水取り「講話」と「粥」の会』	講堂・茶室控室・展示室	36	
35	2月16日	イベント	特別陳列「覚盛上人770年御忌鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」関連イベント親子ワークショップ「オリジナルうちわ作り」	地下回廊	25	
36	3月1日～11日、13日、14日	特別鑑賞	お水取り展中の定期観光バス向けボランティア解説	展示室	131	
37	3月1日	講演・鑑賞鑑賞	「お水取り展鑑賞とお松明」	講堂・展示室	161	結の会
38	3月31日	特別公開	仏教美術資料研究センター公開	仏教美術資料研究センター	1,926	

【九州国立博物館】

1) 会場提供　1件（イベント、講演会等）

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	10月28日	イベント	筑紫地区未来フォーラム～日本一住みやすい、元気な筑紫地区を目指して！～	ミュージアムホール	100	主催：一般社団法人つくし青年会議所

2) 館主催・協力イベント　157件＊3件中止のため

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4月3日～4月8日	イベント	「九州の現代書壇展」謙慎書道会　九州・沖縄選抜作家展	ミュージアムホール	－	主催：九州国立博物館
2	4月7日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	32	主催：九州国立博物館
3	4月21日	コンサート	きゅーはくミュージアムコンサート「弦に想いをのせて」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
4	4月27日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
5	4月28日、29日	イベント	ひびきのこづえワークショップ虫をつくろう	研修室	200	主催：NPO法人太宰府アートのたね
6	5月3日、4日	イベント	GW特別企画 古代衣装＆竪穴住居組み立て体験「Back to the KODAI（バック・トゥー・ザ・古代）」	エントランス	100	主催：九州国立博物館
7	5月5日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	145	主催：九州国立博物館
8	5月5日	イベント	GO!GO!キッズミュージアム鬼瓦スタンプラリー!!鬼がわらミニ版絵付体験ワークショップ	エントランス	360	主催：九州国立博物館
9	5月13日	イベント	第74回はじめての茶道体験	茶室	10	主催：九州国立博物館
10	5月13日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	6	主催：九州国立博物館
11	5月17日～7月17日	イベント	ニコライバーグマンによるフラワーインスタレーション	エントランス	－	主催：九州国立博物館
12	5月19日	講演会	「印象派の至宝を楽しむ。ビュールレ・コレクションの名画の数々」	ミュージアムホール	210	主催：九州国立博物館
13	5月19日～7月16日までの毎週金土	イベント	＜夜間来場者プレゼント企画＞特別展「ビュールレ・コレクション」夜間開館B3ポスタープレゼント	展示室入口	－	主催：九州国立博物館
14	5月20日	イベント	Eテレ「ガールズクラフト」スペシャルワークショップ	ミュージアムホール	84	主催：九州国立博物館
15	5月25日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館
16	5月27日	イベント	第81回親子で茶道体験	茶室	53	主催：九州国立博物館
17	5月28日	イベント	FIFAワールドカップ2018ロシアアジア代表日本2018「トークショー」	ミュージアムホール	250	主催：「アジア代表日本2018」実行委員会
18	5月25日～7月16日	パネル設置	特別展「ビュールレ・コレクション」フォトポイントパネル設置	エントランス	－	主催：九州国立博物館
19	6月1日～30日	イベント	特別展「ビュールレ・コレクション」しおり配布	特別展室入口	－	主催：九州国立博物館
20	6月2日	講演会	びじゅチューン!「井上涼の印象派ライブ in 福岡」	ミュージアムホール	530	主催：九州国立博物館
21	6月2日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	95	主催：九州国立博物館
22	6月3日	コンサート	太宰府天満宮 九州国立博物館共催企画「花菖蒲コンサート in 九博」佐藤和哉（篠笛奏者）	ミュージアムホール	800	主催：九州国立博物館
23	6月5日	講演会	国立扶餘博物館・国立公州博物館研究者招聘記念講演会「韓国の博物館に学ぶ」	研修室	49	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
24	6月9日	イベント	第5回スケッチしナイト☆	4階文化交流展室	50	主催：九州国立博物館
25	6月9日	コンサート	太宰府天満宮 九州国立博物館共催企画 「花菖蒲コンサート in 九博」 里地帰（二胡 弾き語）	ミュージアムホール	750	主催：九州国立博物館
26	6月10日	イベント	特別展「ビュールレ展」記念 九州国立博物館杯第11回さいふごま大会	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
27	6月11日、25日、7月9日	イベント	特別展「ビュールレ・コレクション」月曜日来場B3ポスター配布		―	主催：九州国立博物館
28	6月16日	コンサート	AANMI Japan tour 2018 in Dazaifu-in the currunt	ミュージアムホール	280	主催：九州国立博物館
29	6月16日	イベント	九博ホタル観賞会 ＊ホタル発生数の減少により中止	北側散策路	―	主催：九州国立博物館
30	6月19日～7月1日	イベント	アジア代表日本2018「フラッグ掲示」	エントランス	―	主催：九州国立博物館
31	6月29日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	130	主催：九州国立博物館
32	7月7日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」 ＊大雨による休館により中止	館内	―	主催：九州国立博物館
33	7月1日～12日	イベント	特別展「ビュールレ・コレクション」オリジナルシール配布	展示室入口	―	主催：九州国立博物館
34	7月18日～8月4日	展示	博多祇園山笠関連映像及び錦山金太夫氏作品パネル展示	エントランス	―	主催：九州国立博物館
35	7月20日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	129	主催：九州国立博物館
36	7月20日、21日、22日、24日、25日	イベント	太宰府 夏のPremier Museum 浴衣で九博、オリジナルグッズプレゼント！	1階総合案内所	―	主催：九州国立博物館
37	7月21日	イベント	太宰府 夏のPremier Museum みゅーじあむ寄席「九博夏の怪談噺」	ミュージアムホール	129	主催：九州国立博物館
38	7月22日	講演会	特集展示「京都・仁和寺観音堂　千手観音像とその仲間たち」関連イベント 記念講演会「京都仁和寺の歴史と観音堂」	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
39	7月22日	イベント	第82回親子で茶道体験	茶室	62	主催：九州国立博物館
40	7月24日、25日	イベント	特別夜間開館wiht太宰府天満宮 「夏の天神まつり」	館内	―	主催：九州国立博物館
41	7月24日、25日	イベント	太宰府 夏のPremier Museum 「青空プラネタリウム」～涼しいプラネタリウムでゆったり星空を満喫～	ミュージアムホール	426	主催：九州国立博物館
42	7月28日	イベント	第75回はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
43	7月29日	イベント	「いこうよ！あじっぱ夏祭り2018」	ミュージアムホール	632	主催：九州国立博物館
44	7月31日	イベント	夏休みファミリーイベント 「絵本と音の玉手箱」「王様探しておおさわぎ」	ミュージアムホール	150	主催：九州国立博物館
45	7月31日～8月5日	イベント	福岡県市町村名勝庭園協議会パネル展「福岡県の庭園にいこう」	エントランス	―	主催：九州国立博物館
46	7月31日～9月2日	イベント	夏休み特別企画 チョコちゃん恋の応援団	４階文化交流展室	1,044	主催：九州国立博物館
47	8月4日	講演会	全国高等学校歴史学フォーラム2018	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
48	8月4日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	43	主催：九州国立博物館
49	8月5日	講演会	特集展示「京都・仁和寺観音堂　千手観音像とその仲間たち」関連イベント 記念講演会「文化財建造物を守り伝える －仁和寺観音堂の保存修理事業 －」	研修室	60	主催：九州国立博物館
50	8月5日	講演会	特集展示「国宝　銅鐸絵画」記念講演会 『銅鐸絵画の魅力』	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
51	8月9日	展示	博多祇園山笠の展示	エントランス	―	主催：九州国立博物館
52	8月9日～19日	イベント	国東半島宇佐地域・六郷満山開山1300年 「神と仏と鬼の郷」キャンペーン	エントランス	2,600	主催：国東半島宇佐地域・六郷満山開山1300年誘客キャンペーン実行委員会
53	8月10日、18日	イベント	文化交流展関連イベント 「弥生人現る!!～101回目の米作り」	4階文化交流展室	400	主催：九州国立博物館
54	8月11日	イベント	なりきり考古学者体験～平板測量スペシャル！	ミュージアムホール	10	主催：九州国立博物館
55	8月11日	イベント	きゅーはくで楽しく！エコエコワークショップ	研修室	43	主催：九州国立博物館
56	8月12日	イベント	なりきり考古学者体験 銅鐸拓本スペシャル	4階文化交流展室	12	主催：九州国立博物館
57	8月12日	イベント	第83回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
58	8月14日～8月26日	イベント	九州次世代展2018	エントランス	―	主催：九州国立博物館
59	8月18日	イベント	九博夏の伝統芸能公演 江戸糸あやつり人形劇	ミュージアムホール	296	主催：九州国立博物館
60	8月19日	講演会	特集展示「京都・仁和寺観音堂　千手観音像とその仲間たち」関連イベント 記念講演会「観音堂と仁和寺にある法師たち」	研修室	60	主催：九州国立博物館
61	8月25日、26日	イベント	吉野ヶ里Days in 九博 勾玉づくり体験、青銅器鋳造体験、組紐体験等	ミュージアムホール	432	主催：佐賀県立博物館、国営海ノ中道海浜公園事務局（国営吉野ケ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里管理センター
62	8月25日	イベント	第6回スケッチしナイト☆	4階文化交流展室	15	主催：九州国立博物館
63	8月26日	講演会	吉野ヶ里Days in 九博 シンポジウム「魏志倭人伝のクニグニネットワーク」	ミュージアムホール	270	主催：佐賀県立博物館、国営海ノ中道海浜公園事務局（国営吉野ケ里歴史公園）、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同企業体、吉野ヶ里管理センター
64	8月27日	イベント	博多祇園山笠御神入れ	エントランス	―	主催：九州国立博物館
65	8月28日～9月9日	展示	東九州神楽人の祭展 特別展示　京築・庄内・日之影神楽の魅力を紹介	エントランス	―	主催：京築連帯アメニティー都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
66	9月1日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	61	主催：九州国立博物館
67	9月1日	イベント	おとなのなりきり考古学者体験	ミュージアムホール	10	主催：九州国立博物館
68	9月8日、9日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽公演　神楽の集い－京築・庄内・日之影－ 神楽体験ワークショップ 御幣づくりワークショップ（日之影神楽）、神楽装束体験（庄内神楽）	ミュージアムホール、エントランス	1,400	主催：京築連帯アメニティー都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
69	9月12日	イベント	特集展示坂本五郎コレクション受贈記念「北斎と鍋島、そして」開会式	エントランス	70	主催：九州国立博物館
70	9月13日	イベント	九州産業大学創立60周年記念　美術館特別所蔵品展「名品は師なり－教育用標本としての芸術コレクション－」 教育用標本としての芸術コレクション開会式	エントランス	60	主催：九州産業大学
71	9月13日～24日	展示	九州産業大学創立60周年記念　美術館特別所蔵品展「名品は師なり－教育用標本としての芸術コレクション－」 教育用標本としての芸術コレクション	ミュージアムホール	7,590	主催：九州産業大学
72	9月15日	イベント	九州産業大学創立60周年記念　美術館特別所蔵品展「名品は師なり－教育用標本としての芸術コレクション－」 教育用標本としての芸術コレクション　ギャラリートーク	ミュージアムホール	37	主催：九州産業大学
73	9月16日	イベント	博多おきあげワークショップ ～おきあげきんぎょでうちわをつくろう～	エントランス	42	主催：九州国立博物館
74	9月17日	イベント	九州産業大学創立60周年記念　美術館特別所蔵品展「名品は師なり－教育用標本としての芸術コレクション－」 教育用標本としての芸術コレクション　講演会	研修室	69	主催：九州産業大学
75	9月23日	イベント	九州産業大学創立60周年記念　美術館特別所蔵品展「名品は師なり」 教育用標本としての芸術コレクション　ギャラリートーク	ミュージアムホール	23	主催：九州産業大学
76	9月25日	イベント	「太宰府 古都の光」	屋外レストラン前広場	―	太宰府ブランド創造協議会事務局（太宰府市観光推進課内）
77	9月25日	イベント	4階文化交流展示室 特別無料観覧 with「太宰府 古都の光」	九州国立博物館 4階文化交流展示室	319	主催：九州国立博物館
78	9月30日	イベント	第76回はじめての茶道体験 ※台風のため中止	茶室	中止	主催：九州国立博物館
79	10月2日～14日	展示	大宰府史跡発掘50年記念パネル展	エントランス	―	主催： 九州歴史資料館、九州国立博物館
80	10月2日～12月9日	イベント	期間限定　直行臨時バス運行記念キャンペーン	-	―	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
81	10月6日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」 ※台風のため中止	館内	中止	主催：九州国立博物館
82	10月8日	講演会	記念講演会 大倉集古館の近世絵画－狩野派、琳派など魅力の作品群をめぐって－	ミュージアムホール	70	主催：九州国立博物館
83	10月13日	講演会	記念講演会 大倉集古館－日本最初の美術館はなぜできた？	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
84	10月13日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	中止	主催：九州国立博物館
85	10月14日	イベント	あなたが知らない折り紙の世界～一枚の折り紙が織りなす不思議～	エントランス	25	主催：九州国立博物館
86	10月19日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
87	10月20日	イベント	舞踏家　浅野瑞穂『天女の舞』	ミュージアムホール	270	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
88	10月20日	イベント	第84回親子で茶道体験	茶室	49	主催：九州国立博物館
89	10月20日	イベント	なりきり考古学者体験〈実測体験〉	あじっぱ	10	主催：九州国立博物館
90	10月21日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「明治150年記念　オークラコレクション」記念　第12回さいふごま大会	ミュージアムホール	60	主催：九州国立博物館
91	10月24日	講演会	IPMセミナー	ミュージアムホール	140	主催：九州国立博物館
92	11月3日	イベント	トレジャーハンターみっちーのきゅーはくディスカバリー 「日本の何コレ？」を探せ	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
93	11月3日	イベント	ネイチャークエスト2 「きゅーはくの森」でどんぐりクエスト ～どんぐりの背くらべ？～	エントランス	12	主催：九州国立博物館
94	11月3日	イベント	第9回留学生イベント 「文化交流ツアーin九博」	和室、バックヤード、文化交流展示室	13	主催：九州国立博物館
95	11月3日、4日	イベント	「国東半島宇佐地域・六郷満山開山1300年」および「国東市歴史体験学習館指定文化財特別展示」合同PRキャンペーン	エントランス	877	主催：国東半島宇佐地域・六郷満山開山1300年誘客キャンペーン実行委員会、国東市文化財課、国東市歴史体験学習館
96	11月3日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	51	主催：九州国立博物館
97	11月4日	イベント	オークラウロ・コンサート 男爵・大倉喜七郎が作った楽器「オークラウロ」を九博で演奏！	ミュージアムホール	217	主催：九州国立博物館
98	11月9日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	主催：九州国立博物館
99	11月11日	イベント	大宰府史跡発掘50年記念ウォーク・イベント「大宰府史跡ものがたり」	4階文化交流展示室	113	主催：公益財団法人　古都大宰府保存協会
100	11月11日	イベント	第77回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
101	11月13日～25日	展示	南島原市・天草市連携観光推進キャンペーン「世界遺産のふたつのまち」パネル展	エントランス	－	主催：南島原市、天草市
102	11月16日、17日	展示	～太宰府秋の夜祭り～ 長崎の灯り「ランタン展示」	エントランス	－	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会
103	11月16日、17日	展示	～太宰府秋の夜祭り～ 長崎の灯り「中国変面」「龍踊り」	屋外レストラン前	980	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会
104	11月17日	コンサート	きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館
105	11月18日	イベント	修復の現場お見せします！ 特別公開『博物館科学・文化財保存修復施設』	バックヤード	53	主催：九州国立博物館
106	11月23日	シンポジウム	大宰府史跡発掘50年記念・文化交流展「たたいて削って青銅器－東アジアの響銅－」関連シンポジウム 「響銅でつながる大宰府と東アジア」	ミュージアムホール	93	主催：九州国立博物館
107	11月23日	イベント	きゅーはくで楽しく！エコエコワークショップ	研修室	52	主催：九州国立博物館
108	11月25日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	6	主催：九州国立博物館
109	11月27日～12月2日	展示	ICOM-ASPAC関連 熊本地震被災文化財復旧情報発信パネル展	エントランス	－	主催：熊本県教育庁教育
110	12月1日、2日	シンポジウム	ICOM-ASPAC 日本会議2018	ミュージアムホール	200	主催：ICOM-ASPAC、ICOM京都大会組織委員会、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構、九州国立博物館・福岡県
111	12月1日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	73	主催：九州国立博物館
112	12月2日	イベント	なりきり考古学者体験	あじっぱ	15	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
113	12月7日、8日	イベント	夜の九博☆ファンタジア2018	エントランス、研修室	370	主催：九州国立博物館
114	12月11日～16日	展示	MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館	エントランス	1,728	主催：MOA美術館（公益財団法人岡田茂吉美術文化財団）「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
115	12月14日	コンサート	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	主催：九州国立博物館
116	12月15日	シンポジウム	大宰府史跡発掘50年記念・九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム 「展望・大宰府研究　大宰府の官衙ー大宰府政庁周辺官衙跡の調査からー」	ミュージアムホール	277	主催：九州国立博物館
117	12月16日	イベント	MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館 MOA美術館児童作品展「九州国立博物館長賞」表彰式 「ジェルキャンドルと星のランタンをつくろう！」	エントランス	300	主催：MOA美術館（公益財団法人岡田茂吉美術文化財団）「MOA美術館児童作品展 in 九州国立博物館」実行委員会
118	12月22日	イベント	第11回「九博子どもフェスタ」	ミュージアムホール、エントランス、研修室	1,400	主催：九州国立博物館を愛する会、九州国立博物館ボランティア
119	12月22日	イベント	第85回親子で茶道体験	茶室	57	主催：九州国立博物館
120	31年1月1日～6日	イベント	正月イベント「九博でお正月～新春日本の遊び～」 「博多伝統工芸博多独楽展」「羽子板アート展」	エントランス	－	主催：九州国立博物館
121	31年1月2日、3日	イベント	正月イベント「九博でお正月～新春日本の遊び～」 筑前博多独楽パフォーマンス	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館
122	31年1月2日、3日	イベント	正月イベント「九博でお正月～新春日本の遊び～」 ①九博で書初め	エントランス	805	主催：九州国立博物館
123	31年1月2日、3日	イベント	正月イベント「九博でお正月～新春日本の遊び～」 ②ジャンボだるま落としに挑戦！	ミュージアムホール	90	主催：九州国立博物館
124	31年1月1日～5日	イベント	北斎オリジナルカレンダープレゼント	文化交流展示室内	－	主催：九州国立博物館
125	31年1月3日	イベント	正月イベント「九博でお正月～新春日本の遊び～」 「大江戸祝いパフォーマンス」	ミュージアムホール	420	主催：九州国立博物館
126	31年1月5日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	26	主催：九州国立博物館
127	31年1月8日～27日	展示	第34回筑紫地区中学校美術展	エントランス	－	主催：筑紫地区中学校美術教育研究会
128	31年1月12日	イベント	第78回はじめての茶道体験	茶室	7	主催：九州国立博物館
129	31年1月13日	イベント	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	12	主催：九州国立博物館
130	31年1月19日	イベント	第5回みゅーじあむ寄席 月亭方正　林家きく麿　二人会	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館
131	31年1月19日	イベント	第7回スケッチしナイト☆	4階文化交流展室	8	主催：九州国立博物館
132	31年1月29日	イベント	特別展「京都・醍醐寺ー真言密教の宇宙ー」総本山醍醐寺　声明コンサート	ミュージアムホール	250	主催：九州国立博物館
133	31年1月29日～2月3日	展示	九州女子大学　第51回卒業書作展	エントランス	－	主催：九州女子大学人間発達学科人間基礎専攻
134	31年2月2日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	95	主催：九州国立博物館
135	31年2月2日～3月21日	イベント	第21回大宰府天満宮門前まつり カムカムださいふスタンプラリー	エントランス、他施設外	－	主催：天満宮門前会、大宰府観光協会
136	31年2月3日	イベント	特別展「京都・醍醐寺ー真言密教の宇宙ー」節分限定イベント	特別展室受付	1,000	主催：九州国立博物館
137	31年2月3日	イベント	こども☆ひかりプロジェクト研究会 in きゅーはく 近未来予想図～ミュージアムで夢を語る～	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
138	31年2月5日～11日	展示	「宗像・沖ノ島と関連遺産群」紹介パネル	エントランス	－	主催：九州国立博物館
139	31年2月9日	講演会	特別展「京都・醍醐寺ー真言密教の宇宙ー」リレー講座 「醍醐寺展をより楽しむための醍醐味講座」 「じっくり味わう醍醐寺の仏画」 「ホットでクールな醍醐寺の彫刻」	ミュージアムホール	262	主催：九州国立博物館
140	31年2月9日	イベント	第79回はじめての茶道体験	茶室	8	主催：九州国立博物館

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
141	31年2月13日～17日	展示	ラグビーワールドカップ2019日本大会関連展示	エントランス	－	主催：九州国立博物館
142	31年2月14日	講演会	平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「大分県が取り組む文化財の地域防災計画」	研修室	43	主催：九州国立博物館（文化財防災ネットワーク推進事業）
143	31年2月16日	イベント	ラグビーワールドカップ2019日本大会ワークショップ	エントランス	50	主催：九州国立博物館
144	31年2月16日	イベント	特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」関連イベント「ニッポンの力」スペシャルゲスト　ラグビー選手　五郎丸歩トークショー	ミュージアムホール	340	主催：九州国立博物館
145	31年2月17日	イベント	九州国立博物館杯特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」記念　第13回さいふごま大会	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
146	31年2月19日～3月3日	展示	UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）PR展@九州国立博物館	エントランス	－	主催：宇部市
147	31年2月21日	イベント	特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」関連イベント「お坊さんトーク」	特別展室	125	主催：九州国立博物館
148	31年2月22日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
149	31年2月23日	イベント	なりきり考古学者体験（実測体験）	あじっぱ	8	主催：九州国立博物館
150	31年2月24日	イベント	UBEビエンナーレPR展@九州国立博物館ワークショップ「カンバッジをつくろう！」	研修室	6	主催：宇部市
151	31年2月24日	イベント	博多にわか笑演会in九州国立博物館	ミュージアムホール	150	主催：博多二和加振興会
152	31年2月24日	イベント	第86回親子で茶道体験	茶室	58	主催：九州国立博物館
153	31年2月26日	イベント	特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」関連イベント「お坊さんトーク」	特別展室	225	主催：九州国立博物館
154	31年2月26日	イベント	博多伝統芸能「博多芸妓の世界」	ミュージアムホール	320	主催：九州国立博物館振興財団
155	31年3月2日	イベント	きゅーはく女子考古部PRESENTS「古代の宴へようこそ！」	ミュージアムホール	300	主催：九州国立博物館
156	31年3月2日	イベント	夜間開館イベント「夜の博物館たんけん隊」	館内	69	主催：九州国立博物館
157	31年3月5日～17日	展示	平成30年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～弥生ものがたり～」	エントランス	－	主催：筑紫地区社会教育振興協議会
158	31年3月9日	イベント	ガムランワークショップ ジャワのガムラン演奏体験～五感で知る、アジアの青銅楽器の魅力～	ミュージアムホール	24	主催：九州国立博物館
159	31年3月10日	イベント	はらのむしアニメーション公開記念イベント「はらのむしフェスティバル」 ・イベントステージ ・ワークショップ ・ウォークラリー	ミュージアムホール	480	主催：九州国立博物館
160	31年3月16日	イベント	第80回はじめての茶道体験	茶室	14	主催：九州国立博物館
161	31年3月17日	イベント	馬頭琴ワークショップ「スーホの白い馬」に登場するモンゴルの馬頭琴を演奏してみよう！	ミュージアムホール	20	主催：九州国立博物館

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

平成31年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		30年度新規	総数	30年度新規	総数	30年度新規	総数	30年度新規	総数
写真原板(フィルム)		95件	323,773件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		12,447件	100,162件	6,520件	36,902件	6,973件	52,069件	3,820件	20,452件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	件	件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	4,192冊	208,768冊	2,878冊	150,806冊	2,587冊	89,875冊	(*2)75,380冊	188,129冊
	漢書	315冊	40,809冊	164冊	22,103冊	46冊	5,269冊	0冊	0冊
	洋書	1,001冊	14,542冊	120冊	4,649冊	36冊	1,989冊	108冊	2,745冊
	計	5,508冊	264,119冊	3,162冊	177,558冊	2,669冊	97,133冊	75,488冊	190,874冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		(*1) -59巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

*1 マイクロフィルムは劣化(ビネガーシンドローム)のため、30年度に59件を廃棄（デジタル化済）

*2 館外に別置しシステムに登録していなかった図書（70,312冊）も加えた。30年度に増えた和書は5,068冊、洋書は108冊の計5,176冊である。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	6,118人	5,936人	4,730人	4,971人	4,616人
閉架図書（閲覧）	3,800件	4,521件	4,862件	4,905件	5,314件
マイクロフィルム（閲覧）	562件	399件	588件	502件	456件
レファレンスサービス	4,401件	4,006件	5,014件	4,861件	5,113件
コピーサービス	26,200枚	25,395枚	30,818枚	30,066枚	33,832枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

平31年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	402	23	379	186	7	179	88	12	76	56	2	54	72	2	70
写真撮影	93	8	85	5	1	4	28	4	24	25	2	23	35	1	34
映画撮影	11	11	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							4	4	0		0	0	1	1	0
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	15	1	14	3	0	3	2	0	2	3	0	3	2	0	2
模造							5	1	4				0	0	0
熟覧	283	3	280	172	0	172	49	3	46	28	0	28	34	0	34

点数

平31年3月31日現在

区分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計	2,142	39	2,103	1,160	15	1,145	384	15	369	416	6	410	182	3	179
写真撮影	479	17	462	49	5	44	159	4	155	182	6	176	89	2	87
映画撮影	18	18	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							7	7	0	0	0	0	1	1	0
ビデオ撮影							0	0	0				0	0	0
模写	67	1	66	3	0	3	4	0	4	49	0	49	5	0	5
模造							6	1	5				0	0	0
熟覧	1,578	3	1,575	1,098	0	1,098	208	3	205	185	0	185	87	0	87

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

平31年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	1,202	1,004	198				737	718	19	327	201	126	0	0	0
		カラー													138	85	53
	プリントでの提供	モノクロ	67	63	4				64	63	1	3	0	3			
		カラー	0	0	0				0	0	0	0	0	0			
画像再利用			139	84	55							136	81	55	3	3	0

点数

平31年3月31日現在

区分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	5,684	3,525	2,159				3,273	2,764	509	1,834	436	1,398	0	0	0
		カラー													577	325	252
	プリントでの提供	モノクロ	239	113	126				133	113	20	106	0	106			
		カラー	0	0	0				0	0	0	0	0	0			
画像再利用			451	187	264							448	184	264	3	3	0

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・高精細複製品によるあたらしい屏風体験「平家物語　一の谷・屋島合戦図屏風」

会期	10月23日（火）～12月2日（日）（36日間）
ターゲット	インターネット媒体、映像技術系媒体
重点項目	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
特記事項	綴プロジェクトによる高精細複製品を活用。キヤノン(株)共催で、10/29に報道発表を行った。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	文藝春秋12月号(キヤノン企業広告)
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	東博ウェブサイトでの紹介、東博メールマガジン、東博SNS(ツイッター・インスタグラム)、各1回の情報発信
その他	ウインダム（ピームス）による報道発表（10/29）案内
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	中外日報（11月2日「高精細複製で共同研究」）ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	ニコニコニュース、美術手帖、時事通信ニュース、日本経済新聞、BIGLOBEニュース、Current Awareness Potal、財経新聞、PR TIMES、産経デジタル、月刊私塾界（全国私塾情報センター）ほか、計11媒体
その他	インターネットメディア掲載関連ツイート、約30件

・8Kで文化財　国宝「聖徳太子絵伝」

会期	11月27日（火）～12月25日（火）（26日間）
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、仏教美術愛好者、経済（トレンド・デジタル・映像制作、開発）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	本展示が、NHKエデュケーショナルと文化財活用センターによる8K映像コンテンツ制作のお披露目の機会となった。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	東博ウェブサイトでの紹介、東博メールマガジン、東博SNS(ツイッター・インスタグラム)、各1回の情報発信
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	㈱KAODAKWA発行電子マガジン「週刊東京ウォーカーplus」50号（12月12日発行）
インターネットメディア	毎日新聞、Mapionニュース、LINEニュース、朝日新聞デジタル&m、財経新聞、とれまがニュース、TrendTimes(トレンドタイムス)、ビズハック！、ニコニコニュース、@nifty ビジネスほか、計30媒体
その他	インターネットメディア掲載関連ツイート、約＝件

・高精細複製品によるあたらしい屏風体験 国宝「松林図屏風」

会期	10月23日～12月2日（36日間）
ターゲット	インターネット媒体、映像技術系媒体
重点項目	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—

交通広告	—
新聞・雑誌広告	文藝春秋2月号(キヤノン企業広告)
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	東博ウェブサイトでの紹介、東博メールマガジン、東博SNS(ツイッター・インスタグラム)、トーハクブログ、各1回の情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	インターネットメディア掲載関連ツイート、約10件

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・特別企画「博物館でお花見を」

会期	3月13日(火)～4月8日(日) 26日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,149件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	交通広告（Ｂ１駅貼り）：京王線・井の頭線（新宿・渋谷・明大前）、ＪＲ（上野・鶯谷・新宿・品川・秋葉原・神田）、メトロ（表参道・銀座・六本木・新宿・中目黒・自由が丘・武蔵小杉・二子玉川） 交通広告（サイネージ）：東京丸の内地下連絡通路、渋谷ハチ公改札、新宿東口改札、JR上野駅
新聞・雑誌広告	朝日（朝刊）、読売（夕刊）×2、ジャパンタイムズ×2、ジャパンニューズ、メトロガイド
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	中国人向けソーシャルメディアWechat出広
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	サンケイリビング、東京新聞、産経新聞
テレビ、ラジオ	NHKBSプレミアム、TOKYO MX「ひるキュン」、NHK「首都圏ネットワーク」、ニュースたいとう　ほか
雑誌	うえの、ノジュール3月号ほか
インターネットメディア	WEB版美術手帖、Precious.jp、モモモサーバー、OZmall、FASHION PRESS、Internet Museumほ　か
その他	—

・特集「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン　なりきり日本美術館」

会期	7月24日(火)～9月9日(日) (43日間)
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け媒体、インターネット媒体
特記事項	ＮＨＫ Ｅテレの番組「びじゅチューン」とのコラボレーションによる企画
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約826件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)等)
交通広告	東京駅八重洲北口、上野駅デジタルサイネージ、上野駅、鶯谷駅ポスター掲出
新聞・雑誌広告	読売KODOMO新聞、毎日小学生新聞、日本経済新聞朝刊、朝日新聞朝刊
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など

その他	SNS広告配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	新聞：読売新聞（日曜版「アート散歩」8月13日、ジュニアプレス7月下旬～8月上旬）、朝日小学生新聞8月初旬掲載予定、東京新聞、世界日報、地域新聞　ほか 配信：共同通信(予定)
テレビ、ラジオ	ＮＨＫ Ｅテレ、ＴＢＳラジオ
雑誌	ソトコト8月号、Hanakoファミリー夏のおでかけブック、オズマガジン8月号　ほか
インターネットメディア	Tokyoウォーカープラス、レッツエンジョイ東京、ココシル上野　ほか
その他	—

・特別企画「博物館でアジアの旅」

会期	9月4日(火)～9月30日（日）(24日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1167件(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター、インドネシア関係等)
交通広告	JR駅貼り（上野、鶯谷、目黒、五反田）、東京駅八重洲口北口サイネージ（9月中）、上野駅サイネージ（9月3日（月）～9月30日（日））、東京メトロ・東急・都営駅貼り（日本橋、表参道、銀座、六本木、明治神宮、渋谷、浅草、五反田）、京王線駅貼り
新聞・雑誌広告	「朝日新聞」、「ジャパンタイムズ」、「ジャパンニューズ」、各1回　「読売新聞」2回
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など。
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞
テレビ、ラジオ	NHK　WORLD、アフター6ジャンクション、ニュース台東
雑誌	うえの
インターネットメディア	「confort」「Walkerplus」、「レッツエンジョイ東京」ほか
その他	—

・特集「王羲之書法の残影－唐時代への道程－」

会期	2019年1月2日(水)～3月3日（日）（52日間）
ターゲット	書道家、書道ファン
重点項目	中国の書について理解を深める
特記事項	台東区との連携事業。報道内覧会実施　平成30年1月15日、？人出席
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	駅貼り(JR上野・鶯谷)、上野駅サイネージ
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ブログ関連記事？回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	東京新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—

インターネットメディア	—
その他	—

・特別企画「博物館に初もうで」

会期	30年1月2日（水）～27日（日）（23日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,147件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	東京駅八重洲北口サイネージ、上野駅サイネージ、JR駅貼り（上野、鶯谷）東京メトロ・東急・都営駅貼り（【メトロ】銀座線・日比谷線上野駅、銀座、表参道、六本木、日本橋、九段下、明治神宮前、根津、【都営】浅草、上野御徒町、【東急】二子玉川、自由が丘、京王線駅貼り
新聞・雑誌広告	朝日新聞展覧会特集企画、読売新聞特集企画、ジャパンニューズ各1回、ジャパンタイムズ2回、Hanako、週刊新潮
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、共同通信配信、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	J-WAVE、ニッポン放送、ニュースたいとう　ほか
雑誌	オズマガジン、ぴあ、Casa BRUTUS、きょうの歳時記・美術館　ほか
インターネットメディア	ファッションプレス、美術手帖、ウォーカープラス、インターネットミュージアム、レッツエンジョイほか
その他	庭園開放、「転合庵」公開（4月11日～5月7日）

(2) 特別展、共催展等

・アラビアの道ーサウジアラビア王国の至宝

会期	1月23日（火）～ 5月13日（日）（99日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約5000件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター、和菓子協会等)に送付、館内配布
交通広告	JR　SWボード3B31駅32面、JR　NLボード23駅31面、東京メトロ電飾看板再販枠20面セット、私鉄PLボード21駅22面、JR上野東京ライン湘南新宿ライン中づりＢ３
新聞・雑誌広告	朝日新聞、ジャパンタイムズ、ジャパンニューズ
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、SNS:公式フェイスブック、ツイッター　当館ツイッター,フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	朝日ガイド1月号
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、朝日新聞、赤旗新聞ほか
テレビ、ラジオ	ＮＨＫ「日曜美術館アートシーン」
雑誌	Pen、芸術新潮、サライ、大人が観たい美術展2018、美術手帖
インターネットメディア	インターネットミュージアム、東京アートビート、ＧＯＬＤＮＥＷＳ、Art-Exhibition.Tokyo、モモモサーバー、上野が好き
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	

実施日	1月23日
人数等	92媒体　122人出席

・創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生－つながる日本美術」

会期	4月13日(金)～5月27日(日)（40日間）
ターゲット	古美術ファン、日本文化・東洋美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約5700件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	JR 駅ボード、駅サイネージ　JR上野駅 J・ADビジョン、東急　車内ポスター　東急連結部ドア横、駅ボード　横浜メガセット、京王　駅ばりポスター、東京メトロ　車内ステッカー、新型車両　ドア横　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞ほか
テレビ広告	テレビ朝日、BS朝日　スポット枠
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日、國華社)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター　当館ツイッター,フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	SNS広告　2期
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、産経新聞、東京新聞、毎日新聞、日経新聞、読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	BS朝日『壇蜜の日本美訪～つながる名作誕生のドラマ～』、NHK『日曜美術館』アートシーン、テレビ朝日『モーニングショー』、BS日テレ『ぶらぶら美術博物館』、テレビ朝日『東京サイト』、ドワンゴ『ニコニコ生放送』　ほか
雑誌	日経おとなのOFF、東京人、家庭画報、和』、エクラ、東洋経済、＆プレミアム、クロワッサン、Oggi、芸術新潮、ニッポンの国宝ほか
インターネットメディア	タイムアウト東京、ぴあ、オズモール、プレミアムジャパン、ehills、各種ニュースサイト　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	29年11月13日（平成館大講堂）
人数等	62媒体、67名出席
④報道内覧会	
実施日	4月12日
人数等	158媒体、219名出席

・特別展「縄文―1万年の美の鼓動」

会期	7月3日（火）～9月2日（日）（55日間）
ターゲット	縄文文化に興味のある層、日本美術ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6000件（美術館・博物館、東京都および神奈川、千葉、埼玉中学校、高校、近隣小学校、大学など）
交通広告	JR駅NTボード、JR上野駅デジタルサイネージ、京成線駅貼ポスター　東京メトロUボード、東急線ドア横ポスターほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	ＮＨＫ30秒スポット
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事10回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、展覧会公式ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、地方紙各紙、ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ「ぶらぶら美術館・博物館」、NHK「日曜美術館」、NHK「歴史秘話ヒストリア」、NHK「びじゅチューン　夏休みスペシャル」、フジテレビ「めざましテレビ」、日本テレビ「NEWS ZERO」、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」
雑誌	芸術新潮、日経おとなのOFF、美術展ぴあ2018、美術の窓、大人が観たい美術展、和楽、サライ、ムー、炎芸術、ジャパンプレシャス、週刊ファミ通、女性セブン、家庭画報、週刊朝日、一個人、潮、Domani、家庭画報、STORYほか

インターネットメディア	インターネットミュージアム、「ココシル上野」、レッツエンジョイ東京、Yahoo　ニュース、文春オンライン、毎日新聞デジタル、朝日新聞デジタル、お墓の引越しドットコム、FNN PRIME、美術手帖オンライン、ファッションプレス、ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	2月21日　平成館大講堂
人数等	64媒体、82名出席
④報道内覧会	
実施日	7月2日
人数等	176媒体、254名出席

・東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」

会期	10月2日(火)～12月9日(日)（60日間）
ターゲット	中高年男性、現代美術に興味のある層、フランス文化に興味のある層、日本美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	博物館・美術館、ギャラリー、画廊、ホテル、学校、旅行会社　等　約1,300件へ送付
交通広告	上野駅デジタルサイネージ。JR東京駅八重洲口、東京メトロ六本木駅
新聞・雑誌広告	朝日新聞。読売新聞、日経新聞、ジャパンタイムズ（フロント面、Spotlight誌）、ジャパンニューズ
ラジオ広告	J-WAVE、TBSラジオ　PRスポット
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジン、SNSでの情報発信、PR動画配信、公式ホームページ、展覧会ツイッターでの紹介、
その他	・展覧会公式キャラクター制作。割引券つきシール等プロモーションツール制作 ・GINZASIX蔦屋書店でのPR展開（本展特設スペース開設、トークイベント2回実施）および本展開催記念トークイベント開催 ・J-WAVEライブ（10月14日）、J-WAVE会員向け内覧会（11月6日）、J-WAVE会員100円割引 ・日仏美術学会見学会（11月13日）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、産経新聞、毎日新聞、東京新聞、神奈川新聞、埼玉新聞、公明新聞、北海道新聞、ジャパンタイムズ　ほか
テレビ、ラジオ	J-WAVE、TBSラジオ、TOKYOFM　ほか
雑誌	日経おとなのOFF、一個人、エルジャポン、婦人画報、Casa　Brutus、ハーパーズバザー、リンネル、SPUR、芸術新潮、anan、男の隠れ家、装苑、Pen、家庭画報、mini、 STORY、一個人、OZマガジン、GINZA、UOMO、中央公論、FUDGE、エンジン　など
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、朝日マリオンコム、タイムアウト東京、サライjp、インターネットミュージアム、国際文化会館サイト、さんち、イープラス、ananWEB、クロワッサンオンライン、GOTOKYO、フォーサイト、青い日記帳、Web版美術手帖、FASHIONSNAP、FashionPress　など
その他	J-WAVEライブ報告記事（約50件）
③報道発表会	
実施日	4月25日(水)　大報恩寺展との合同報道発表会　平成館大講堂
人数等	45媒体　59名出席
④報道内覧会	
実施日	10月1日
人数等	198名出席　大報恩寺展との合同報道内覧会

・特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」

会期	10月2日(火)～12月9日(日)（60日間）
ターゲット	仏像ファン、日本美術ファン、歴史ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約4000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	大型ボード（ＪＲ50駅50面、東京メトロ17駅20面）、東武日比谷線乗り入れドア横、東武半蔵門線乗り入れドア横、ＪＲ首都圏全線ドア横新Ｂ、京王沿線タイアップ上野駅サイネージほか
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞ほか
テレビ広告	—

「東京国立博物館ニュース」掲載	4回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社)ウェブサイトでの紹介、Twitter、Facebookへ広告出稿
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞　ほか
テレビ、ラジオ	ＮＨＫ「日曜美術館アートシーン」、日本テレビ「バゲット」BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」など
雑誌	日経おとなのOFF7月号、芸術新潮8月号、美術展秋冬ぴあ、一個人、婦人画報、Pen、婦人公論、Discover Japan、クロワッサン、ミセス、時空旅人、芸術新潮、一個人、男の隠れ家、月刊美術、冬ぴあ　サライ12月号、ぴあ、ここ知る、FRaU　ほか
インターネットメディア	ニコニコ生放送、レッツ・エンジョイ・東京、インターネットミュージアム、SPICE、ココシル上野、livedoorニュース、artin、girlstalk、
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月25日(水)　デュシャン展との合同発表平成館大講堂
人数等	45媒体　59名出席
④報道内覧会	
実施日	10月1日
人数等	198名出席　デュシャン展との合同報道内覧会

・日中平和友好条約締結40周年記念　特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」

会期	10月30日（火）～12月25日（火）（50日間）
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、絵画ファン
重点項目	ウェブサイト、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	62件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、ホテル等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ウェブサイト及びTwitter、Facebook
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、産経新聞、中日新聞、日本経済新聞ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	月刊書道界、時空旅人、うえの、美術の窓、月間美術、芸術新潮、Pen、ミセス
インターネットメディア	インターネットミュージアム、美術A&S
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	10月29日(月)
人数等	22媒体26名

・特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」

会期	30年1月16日（水）～2月24日(日)　35日間
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、書跡ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等

ポスター・チラシ・DM送付	約6,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	大型ボード（JR山手線30駅30面、メトロ17駅20面）、サイネージ(上野駅周辺)、毎日新聞既存枠・電飾看板(6面)、SNS広告ほか
新聞・雑誌広告	毎日新聞（社告、特集、イベントインフォなど20回程度）、日本経済新聞（社告、カラー特集）
テレビ広告	CM(TBS、BS-TBS、BS日テレ)
「東京国立博物館ニュース」掲載	4回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事　回、メールマガジンでの情報配信、公式ウェブサイト
その他	外部での講演会、書店への割引券配布
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、日本経済新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK「美の壺」、NHK「日曜美術館アートシーン」　ほか
雑誌	時空旅人、月刊書道界、芸術新潮、婦人画報、日経おとなのOFF、一個人、墨、刀剣春秋、美術の窓、別冊太陽、和樂、Pen、BAILA、story　など
インターネットメディア	ココシル上野、SPICE、インターネットミュージアム、東京デートナビ、web美庵、美術手帖、モモモサーバー　など
その他	—
③報道発表会	
実施日	7月26日　平成館大講堂
人数等	58媒体83人出席
④報道内覧会	
実施日	2019年1月15日
人数等	134媒体170人出席

【京都国立博物館】

(1)名品ギャラリー（平常展）

・特集展示「新収品展」

会期	6月12日（火）～7月16日（月・祝）（31日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	和樂（小学館）、わかりやすい京都（どこいこ）　ほか計13件
インターネットメディア	京都で遊ぼうART（エグザム）
その他	—

・特集展示「謎とき美術！最初の一歩」

会期	7月21日（土）～9月2日（日）（37日間）
ターゲット	小中学生および保護者、海外からの旅行者、一般の日本美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—

「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、京ごよみ（観光情報プロダクト）　ほか計9件
インターネットメディア	SMILEPORT（兵庫県学校厚生会）
その他	―

・特集展示「百萬遍 知恩寺の名宝」

会期	8月7日（火）～ 9月9日（日）（29日間）＊9月4日（火）は台風のため臨時休館
ターゲット	一般の日本美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、月刊書道界（藤樹社）　ほか計4件
インターネットメディア	京都で遊ぼうART（エグザム）、阪急電鉄イベント情報（阪急電鉄）
その他	―

・新春特集展示「亥づくし―干支を愛でる―」

会期	12月18日（火）～31年1月27日（日）（30日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	神戸新聞
テレビ、ラジオ	髙岡美樹のべっぴんラジオ（ラジオ大阪）
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、月刊書道界（藤樹社）、おふたいむ（ひでみ企画）　ほか計13件
インターネットメディア	そうだ京都行こう（JR東海）、阪急電鉄イベント情報（阪急電鉄）　ほか3件
その他	―

・特集展示「京の冬景色」

会期	12月18日（火）～31年1月27日（日）（30日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客、京都ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	婦人画報（ハースト婦人画報社）、美しいキモノ（ハースト婦人画報社）　ほか計3件
インターネットメディア	そうだ京都行こうFaceBook（JR東海）
その他	京の冬の旅パンフレット（京都市観光協会）

・特集展示「美麗を極める中国陶磁」

会期	12月18日（火）～31年2月3日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、中国美術ファン、陶磁ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	陶説（日本陶磁協会）、わかりやすい京都（どこいこ）　ほか2件
インターネットメディア	そうだ京都行こうFaceBook（JR東海）
その他	―

・特集展示「初公開！天皇の即位図」

会期	31年1月30日（水）～3月10日（日）（35日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回

博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	月刊茶の間（プラメイク）
インターネットメディア	美術手帖Web版（BTCompany）、DigiStyle京都（太平印刷）
その他	—

・特別企画「中国近代絵画の巨匠 斉白石」

会期	31年1月30日（水）～3月17日（日）（41日間）
ターゲット	一般の中国絵画ファン、水墨画ファン、斉白石ファン、中国からの旅行者
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	美術屋百兵衛（麗人社）、アサヒメイト（朝日販売サービスセンター）　ほか計2件
インターネットメディア	アサヒメイト（朝日販売サービスセンター）、FIGARO.jp「編集部ブログ」（フィガロジャポン）
その他	—

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	31年2月13日（水）～3月17日（日）（29日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	目の眼（目の眼）
インターネットメディア	そうだ京都行こうFaceBook（JR東海）、じゃらんイベント情報など（インフォメーションテクノロジー関西）
その他	—

(2)特別展覧会、共催展等

・特別展「池大雅　天衣無縫の旅の画家」

会期	4月7日（土）～5月20日（日）（38日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、文人画ファン、水墨画ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,152件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか京阪電車、阪急電車、京都市営地下鉄主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）
雑誌	聚美（聚美社）、芸術新潮（新潮社）　ほか計4件
インターネットメディア	ニコニコ生放送（ドワンゴ）、美術手帖Web版（BTCompany）
その他	―
③報道発表会	
実施日	29年11月22日（水）
人数等	45媒体、53人出席（場所：学士会館）
③報道発表会	
実施日	29年12月18日（月）
人数等	10媒体、16人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	4月6日（金）
人数等	46媒体、52人出席

・特別展「京のかたな　匠のわざと雅のこころ」

会期	9月29日（土）～11月25日（日）（50日間）
ターゲット	一般の刀剣ファン、日本美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミおよびSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,152件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅)、JR大阪駅サイネージ、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト・ツイッター、共催者（読売新聞社）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）、歴史秘話ヒストリア（NHK）、英雄たちの選択（NHKBS）、刀剣乱舞 おっきいこんのすけの刀剣散歩（MX TV）、Chai（FM滋賀）　ほか5件
雑誌	和樂（小学館）、BRUTUS（マガジンハウス）、目の眼（目の眼）、女性セブン（小学館）、週刊新潮（新潮社）　ほか計16件
インターネットメディア	ニコニコ生放送（ドワンゴ）、電ファミニコゲーマー（ドワンゴ）　ほか3件
その他	―

③報道発表会	
実施日	29年11月22日（水）
人数等	45媒体、53人出席（場所：学士会館）
③報道発表会	
実施日	6月11日（月）
人数等	28媒体、31人出席（場所：京都国立博物館）
③報道発表会	
実施日	7月2日（月）
人数等	18媒体、29人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	9月28日（金）
人数等	58媒体、74人出席

【奈良国立博物館】
(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	近鉄奈良駅デジタルサイネージ広告
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日本経済新聞
テレビ、ラジオ	関西テレビ
雑誌	『おとな旅プレミアム』TAC出版、『るるぶ京都奈良　社寺めぐり』JTBパブリッシング、『日経おとなのOFF』日経BP社、『美術の窓』生活の友社、『ことりっぷ奈良飛鳥』『まっぷるマガジン』昭文社、『ミセス』文化出版局　ほか
インターネットメディア	ギャラリーガイドブック、るるぶ、NAVITIME　ほか
その他	—

・名品展　「珠玉の仏教美術」

会期	12月11日（火）～31年3月14日（木）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、産経新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」

会期	12月11日（火）～31年1月20日（日）（37日間）
ターゲット	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭（12/17）前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（大阪メトロ）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	奈良新聞、朝日新聞、神戸新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『和樂』小学館、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『関西ウォーカー』KADOKAWA、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『家庭画報』世界文化社　ほか
インターネットメディア	ART AgendA、ウェブ版「美術手帖」、サライ.jp、ホルベインアーチストナビ、あをによしなら旅ネット、Casa BRUTUSオンライン　ほか
その他	—

・特別陳列「お水取り」

会期	31年2月8日（金）～3月14日（木）（33日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	和展新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『歴史の旅人』歴史街道推進協議会、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『関西ウォーカー』KADOKAWA、『染織文庫』染織さきがけ出版、『yomiっこ』読売奈良ライフ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、ホルベインアーチストナビ、サライ.jp、ART AgendA、ウェブ版「美術手帖」、関西ぶんかなび　ほか
その他	『近くて、いい旅　電車&ウォーク』JR西日本、『50プラス』JR東海ツアーズ、『なら探検ミュージアム』ほか

・特別陳列「覚盛上人770年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」

会期	31年2月8日（金）～3月14日（木）（33日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、絵画ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『Dream Navi』四谷大塚、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『書道界』藤樹社、『関西春ウォーカー』KADOKAWA、『染織文庫』染織さきがけ出版　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、ART AgendA、関西ぶんかなび　ほか
その他	『なら探検ミュージアム』　ほか

(2)特別展、共催展等

・創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」

会期	4月14日（土）～6月10日（日）（51日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、仏像ファン、
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、仏像ファン向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	交通広告：ポスター-（JR西日本、大阪メトロ、近鉄、阪神電車、阪急電鉄、奈良交通（バスマスク））、チラシ（近鉄主要駅）、デジタルサイネージ（梅田駅、JR奈良駅、関西国際空港）、近鉄奈良駅ステッカー ほか
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	PRフラッグを作成し近隣商店街に配布
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、中外日報、奈良新聞、読売新聞、奈良日日新聞、産経新聞、神戸新聞、日刊スポーツ、Japan Times　ほか
テレビ、ラジオ	『ごごナマ』『日曜美術館アートシーン』『ぐるっと関西おひるまえ』『歴史秘話ヒストリア』『NHKニュース』NHK、『Nキャス』奈良テレビ、
雑誌	『時空旅人』プラネットライツ、『和樂』『サライ』『ニッポンの国宝100』小学館、『関西ウォーカー』『ぶらぶら美術・博物館　プレミアムアートブック2018-2019』KADOKAWA、『美しいキモノ』ハースト婦人画報社、『月刊なごや』北白川書房、『日経REVIVE』日経新聞、『月刊奈良』現代奈良協会、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『染織文庫』染織さきがけ出版、『歴史人』KKベストセラーズ、『月刊ギャラリー』ギャラリーステーション、『日経おとなのOFF』日経BP社、『大阪保険医雑誌』大阪府保険医協会、『月刊書道界』藤樹社、『月刊遠州』大有、『発見上手』三井住友信託銀行、『月刊アゴラ』京阪ジャーナル社、『歴史REAL』洋泉社　ほか
インターネットメディア	関西ぶんかなび、共同通信、yahooニュース、ええ古都なら、マイ・フェイバリット関西、ARTNAVI EX、ARTLOGUE、Lmaga.jp、cinefil　ほか
その他	『近くて、いい旅　電車&ウォーク』JR西日本、『アサヒメイト』朝日友の会、『50プラス』JR東海ツアーズ、『なら探検ミュージアム』、『ホッと！HANSHIN』 、『7ぴあ』、『ザ・淀川』、『yomiっこ』ほか

③報道発表会	
実施日	11月29日
人数等	20媒体、23人出席（場所：春日大社）
実施日	3月9日
人数等	11媒体、17人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	4月13日
人数等	35媒体、41人出席

・修理完成記念特別展「糸のみほとけ －国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏－」

会期	7月14日（土）～8月26日（日）（40日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生および学校関係者向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄）、チラシ（近鉄主要駅）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港） ほか
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、京都新聞、産経新聞、毎日新聞、日経新聞
テレビ、ラジオ	読売テレビ、ＢＳジャパン
雑誌	『ハンディクラフツ』日本手芸普及協会、『ステッチイデー』『手づくり手帖』『キルトジャパン』『毛糸だま』日本ヴォーグ社、『Bead Art』KOBE とんぼ玉ミュージアム、『和樂』『サライ』『ニッポンの国宝100』小学館、 『関西ウォーカー』KADOKAWA、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『芸術新潮』新潮社、『日経おとなのOFF』日経BP社、『染織文庫』染織さきがけ出版、『ノジュール』JTBパブリッシング、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『婦人公論』中央公論新社、『月刊書道界』藤樹社　ほか
インターネットメディア	ART AgendA、ええ古都なら、あをによしなら旅ネット、ARTLOGUE、Lmaga.jp、サライ.jp、ホルベインアーチストナビ、ウェブ版「美術手帖」、関西ぶんかなび　ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	6月1日
人数等	11媒体、15人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	4月5日
人数等	10媒体、10人出席
実施日	7月13日
人数等	19媒体、22人出席

・特別展「第70回　正倉院展」

会期	10月27日（土）～11月12日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、JR大阪駅、JR京都駅、JR東京駅、JR名古屋駅、大阪メトロ、近鉄主要駅、京阪主要駅、東京メトロ主要駅、奈良交通、阪急電鉄、阪急梅田駅、）、チラシ（JR大阪駅、近鉄主要駅、大阪メトロ、南海なんば駅）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港） ほか
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—

「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	10月22日・24日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、奈良新聞、日本経済新聞、スポーツ報知、岩手日報　ほか
テレビ、ラジオ	『かんさい情報ネット ten！』『ウェークアップ！　ぷらす』『情報ライブ　ミヤネ屋』読売テレビ、『ならナビ』『ＮＨＫニュース』『日曜美術館』NHK、『ラジオ深夜便』NHK大阪放送局　ほか
雑誌	『SAVVY』京阪神エルマガジン社、『和樂』小学館、『月刊大和路ならら』地域情報ネットワーク、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『日経おとなのOFF』日経BP社、『月刊目の眼』、『サライ』『女性セブン』小学館、『家庭画報』株式会社世界文化社、『月刊奈良』現代奈良協会、『マイ奈良』アサコム奈良ニッセイシャ、『関西冬ウォーカー』株式会社KADOKAWA、『美術の窓』生活の友社、『芸術新潮』新潮社、『陶遊』エスプレス・メディア出版、『ぱーぷる』エヌ・アイ・プランニング、『yomiっこ』読売奈良ライフ、『Discover Japan』枻出版社　ほか
インターネットメディア	ART AgendA、Lmaga.jp、あをによしなら旅ネット、ARTLOGUE、関西ぶんかなび、ウェブ版「美術手帖」ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	8月3日
人数等	21媒体、39人出席（場所：当館講堂）
実施日	8月21日
人数等	31媒体、44人出席（場所：日本記者クラブ）
④報道内覧会	
実施日	10月26日
人数等	31媒体、138人出席

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

・特集展示　災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～

会期	3月13日(火)～5月6日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、文化保護に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	95件（友の会会員等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	RKK熊本放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK、RKB毎日放送
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国 ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノほか
その他	マスコミ内覧会開催6社出席

・特集展示　茶の湯を楽しむⅧ 博多文琳と黒田家の茶道具

会期	4月10日(火)～6月3日(日)（49日間）
ターゲット	一般の美術工芸品ファン、茶道関係者等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	バス停広告掲出

新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK、RKB毎日放送
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国 ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノほか
その他	マスコミ内覧会開催6社出席

・特集展示　京都・仁和寺観音堂の千手観音像とその仲間たち

会期	7月3日(火)～9月2日(日)（54日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、仏像ファン、仏教文化ファン、日本美術ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	95件（友の会会員等）
交通広告	主要バス停シティスケープ
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、でかなび、ぐらんざ、ｅ－みる、広報ださいふ等
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンクほか
その他	マスコミ内覧会開催7社出席

・特集展示　国宝 銅鐸絵画

会期	7月10日(火)～9月2日(日)（49日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、および学生等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	94件（友の会会員）
交通広告	主要バス停シティスケープ
新聞・雑誌広告	FUKUOKA NOW
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国等

インターネットメディア	イベントバンク、アクロスお出かけ情報ほか
その他	マスコミ内覧会開催4社出席

・特集展示　全国高等学校考古名品展2018

会期	7月21日(土)～9月9日(日)（45 日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、および学生等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	94件（友の会会員）
交通広告	主要バス停シティスケープ
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置、ＲＫＢラジオ、クロスＦＭ、ＫＢＣラジオ
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、長崎新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、グラフふくおか等
インターネットメディア	イベントバンク、アクロスお出かけ情報ほか
その他	マスコミ内覧会開催4社出席

・特集展示　坂本五郎コレクション受贈記念 北斎と鍋島、そして

会期	9月12日(水)～10月21日(日)（43日間）
ターゲット	一般の美術工芸品ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1件（古美術商）
交通広告	主要バス停シティスケープ
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、西日本新聞、読売新聞、佐賀新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	月刊「目の眼」、ぐらんざ、太宰府イベント情報、九州王国、グラフふくおか、月刊はかた等
インターネットメディア	イベントバンク、アクロスお出かけ情報、フクオカーノほか
その他	マスコミ内覧会開催6社出席

・特集展示　大宰府発掘調査50 周年記念 大宰府研究の歩み

会期	9月12日(水)～12月23日(日・祝)（89日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―

交通広告	—
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	FBS「めんたいワイド」、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、西日本新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国等
インターネットメディア	イベントバンク、アクロスお出かけ情報、フクオカーノほか
その他	マスコミ内覧会開催6社出席

・特集展示　平戸松浦家伝来の伊能図

会期	10月30日(火)～12月23日(日・祝)（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、および学生等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	キャンパスメンバーズ主要大学4駅にポスター掲出
新聞・雑誌広告	FUKUOKA NOW
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、毎日新聞、長崎新聞、スポーツ報知
テレビ、ラジオ	FBS福岡放送、ケーブルステーション福岡
雑誌	ださいふ情報、九州王国ほか
インターネットメディア	イベントバンク、アクロスお出かけ情報ほか
その他	マスコミ内覧会開催7社出席

・特集展示　玉 - 古代を彩る至宝 -

会期	31年1月1日(火・祝)～2月24日(日)（55日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、および学生等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	ポスター車内（西鉄）
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	ー
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	NHKラジオ

雑誌	九州王国
インターネットメディア	イベントバンク、アクロスお出かけ情報、アルトネほか
その他	マスコミ内覧会開催4社出席

(2)特別展、共催展等

・展覧会名：特別展「王羲之と日本の書」

会期	2月10日(土)～4月8日(日)（50日間）
ターゲット	書跡ファン、中国歴史ファン、書道愛好家、書道教室の生徒等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	―
交通広告	駅ボード（西鉄・JR）、ポスター駅貼り等（西鉄・JR）、ポスター車内（西鉄・JR・太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TNCテレビ西日本
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、福岡県庁デジタルサイネージ
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、聖教新聞
テレビ、ラジオ	TNCテレビ西日本、FBS福岡放送、RKB毎日放送、RKBラジオ、ケーブルステーション福岡
雑誌	月刊はかた、くるめすたいる、ライフさせぼ、ぐらんざ、wa、nasse、ぐらふふくおか、広報だざいふ、、ふるさとの自然と歴史、九州王国　等
インターネットメディア	フクオカーノ、アルトネ、ふくおかサポートねっと 等
その他	―
③報道発表会	
実施日	29年11月7日
人数等	8媒体、9人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	2月9日
人数等	12媒体、20人出席

・特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」

会期	5月19日(土)～7月16日(月・祝)（54日間）＊7/7は大雨のため休館
ターゲット	西洋美術および絵画ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,200件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、福岡県庁デジタルサイネージ、太宰府市役所デジタルサイネージへの広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、大分合同新聞、聖教新聞
テレビ、ラジオ	NHK、テレビ西日本、ケーブルステーション福岡、LOVE FM、RKBラジオ
雑誌	くるめスタイル、日経おとなのOFF、ライフさせぼ、UR賃貸住宅あおぞら、太宰府イベント情報、ぐらんざ、美術の窓、CLiM、まいんず、Jimotoshinbun、Rainbow、月刊はかた、九州王国、FUKUOKA NOW、でかなび等

インターネットメディア	フクオカーノ、ふくおかサポートねっと、アルトネ、ウォーカープラス、イベントバンク等
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月16日
人数等	6媒体、6人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	5月18日
人数等	16媒体、20人出席

・明治150年記念「特別展　オークラ　コレクション」

会期	10月2日(火)～12月9日(日)（58日間)※10/5は台風のため休館
ターゲット	一般の歴史ファン、美術ファン、日本美術ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,190件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、福岡県庁デジタルサイネージ、太宰府市役所デジタルサイネージへの広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	NHK、RKBラジオ、LOVE FM、ケーブルステーション福岡
雑誌	婦人公論、wa、遊人、太宰府イベント情報、キュリオマガジン、花saku、時空旅人、まいんず、ふくおか経済、書道界、月刊はかた、クロワッサン、西鉄ニュース等
インターネットメディア	フクオカーノ、ふくおかサポートねっと、アルトネ、ウォーカープラス、イベントバンク等
その他	西鉄バス車内広告
③報道発表会	
実施日	7月6日
人数等	9媒体、10人出席（場所：ホテルオークラ）
④報道内覧会	
実施日	10月1日
人数等	9媒体、11人出席

・特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」

会期	31年1月29日(火)～3月24日(日)（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,180件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、福岡県庁デジタルサイネージ、太宰府市役所デジタルサイネージへの広告掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―

テレビ、ラジオ	—
雑誌	wa、2018年美術展完全ガイド、ふくおか経済、くまもと経済、e-みる、クラッシー、ミニコミまいんず、くるめスタイル、リビング福岡、九州王国、日経おとなのOFF 等
インターネットメディア	フクオカーノ、ふくおかサポートねっと、アルトネ、ウォーカープラス、イベントバンク等
その他	—
③報道発表会	
実施日	11月2日
人数等	8媒体、10人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	31年1月28日
人数等	7媒体13人出席

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	30年4月1日（日）～31年3月31日（日）（307日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

(2)特別展等

・夏期企画展(夏のこども展示)「たいけん！なぶんけん」

会期	30年7月21日（土）～9月2日（日）（~~38~~37日間）
ターゲット	高校生以下及びその家族
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞　ほか
テレビ、ラジオ	京都ラジオ ほか
雑誌	マイ奈良
インターネットメディア	—
その他	—

③報道発表会	
実施日	30年7月20日
人数等	5媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」

会期	30年10月13日（土）～11月25日（日）（38日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	奈良テレビ　NHK大阪 ほか
雑誌	読売奈良ライフ ほか
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	30年10月12日
人数等	8媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・新春ミニ展示「平城京の亥」

会期	31年1月4日（金）～1月27日（日）（21日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	京都新聞 ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	マイ奈良
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	—

人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・冬期企画展「発掘された平城 2017・2018」

会期	31年2月2日（土）～3月31日（日）（50日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞　ほか
テレビ、ラジオ	奈良テレビ　ほか
雑誌	
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	31年2月1日
人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	30年4月1日（日）～31年3月31日（日）（357日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	ＫＣＮ番組取材への協力
雑誌	
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース
その他	―

・速報展
①「山田寺の調査（飛鳥藤原第188-11次）」
②「山田道の調査（飛鳥藤原第193次、第194次）」
③「飛鳥寺北方の調査（飛鳥藤原第188-19次、第192-1次、第192-9次）」

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	30年4月1日（日）～31年3月31日（日）（304日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・春期特別展「あすかの原風景」

会期	30年4月27日（金）～7月1日（日）（58日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	明治時代から昭和前半にかけての飛鳥の集落等の様子を紹介し遺跡理解を促進する
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,370件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	マイ奈良、月刊大和路ならら、ぱーぷる、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	30年4月26日
人数等	8媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・夏期企画展「第9回写真コンテスト 飛鳥のいきもの」

会期	30年7月27日（金）～9月2日（日）（33日間）
ターゲット	写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、高校生及びその家族
重点項目	写真雑誌、高校写真部などへの情報提供と奈良県高校写真展優秀作品の展示
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約835件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良
雑誌	ならめがね、ぱーぷる、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアム、登竜門
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る」

会期	30年10月5日（金）～12月2日（日）（51日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥池工房遺跡の調査研究の成果及び日韓共同研究の成果の理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,425件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事15回、SNSでの情報配信
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	奈良のミュージアム、マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、「ええ古都なら」、インターネットミュージアム、、イベントバンク　ほか
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・冬期企画展 「飛鳥の考古学2018」

会期	31年1月25日（金）～3月17日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,340件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等）
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	「ええ古都なら」、インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	橿原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	31年1月24日
人数等	6媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
文化財活用センターパンフレット	3,000部	・視察者等に配布 ・マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、国内の美術館・博物館等に配布
2020年度東京国立博物館収蔵品貸与促進事業・2019年度東京国立博物館収蔵品（キリシタン関係遺品）貸与促進事業実施対象館募集告知チラシ	1,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース	隔月刊年6回　各50,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
東京国立博物館「案内と地図」 31.3改訂	日本語　122,000部 英語　80,000部 中国語（簡体字）　22,000部 中国語（繁体字）　7,500部 韓国語　10,000部 フランス語　14,000部 スペイン語　9,000部 ドイツ語　6,500部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校、観光案内所等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内 2019.4-2020.3	31年度版　90,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
京都国立博物館だより	198号（4・5・6月）　20,000部 199号（7・8・9月）　15,000部 200号（10・11・12月）　30,000部 201号（31年1・2・3月）　15,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.137～140	Vol.137（4・5・6月）　3,000部 Vol.138（7・8・9月）　3,000部 Vol.139（10・11・12月）3,000部 Vol.140（31年1・2・3月）3,000部	観覧者、京都観光案内所
特集展示「謎とき美術！最初の一歩」「百萬遍知恩寺の名宝」チラシ	30,000部	観覧者、周辺施設、鉄道主要駅、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集展示「謎とき美術！最初の一歩」ポスター	30部	周辺施設、鉄道主要駅
特集展示「謎とき美術！最初の一歩」謎ときシート、回答シート	各15,000部	観覧者
特集展示「百萬遍知恩寺の名宝」リーフレット	15,000部	観覧者
「京博のお正月2019」ポスター・チラシ	ポスター　2,000部 チラシ　115,000部	観覧者、周辺施設、鉄道主要駅、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特別企画「中国近代絵画の巨匠 斉白石」ポスター・チラシ	ポスター　50部 チラシ　105,000部	観覧者、周辺施設、鉄道主要駅、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
特集展示「初公開！天皇の即位図」リーフレット	15,000部	観覧者
特集展示「雛まつりと人形」リーフレット	8,000部	観覧者
平成31年度年間スケジュール	40,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
「留学生の日2018」ポスター・チラシ	ポスター　450部 チラシ　9,000部	観覧者ほか、関西圏の大学、専門学校へ送付
博物館Dictionary No.198,208～214	No.198（4月）　9,250部 (No.198は29年度発行だが、好評により9,250部を増刷) No.208（4月）11,250部 No.209（6月）　2,000部 No.210（7月）　2,500部 No.211（7月）　2,500部 No.212（12月）　2,000部 No.213（1月）　2,000部 No.214（2月）　2,000部	観覧者（子ども～大人）対象
京都国立博物館パンフレット2019	10,000部	観覧者、関係機関

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号　20,000部 夏号　20,000部 秋号　30,000部 冬号　20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等　約5,200件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　35,000部 英語版　8,000部 フランス語版　1,000部 ドイツ語版　1,000部 中国語版（簡体字）　8,000部 中国語版（繁体字）　8,000部 韓国語版　2,000部 スペイン語版　1,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　70,000部 中国語版　13,000部 韓国語版　9,000部 英語版　9,000部 ドイツ語版　0部 フランス語版　0部 スペイン語版　0部 合計　101,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　14,200部 合計　14,200部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　2,500部 中国語版　300部 韓国語版　300部 英語版　400部 合計　3,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(40)号　50,000部 夏(41)号　50,000部 秋(42)号　50,000部 冬(43)号　50,000部 合計　200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　2018年間スケジュール	31,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
九州国立博物館　2019年間スケジュール	14,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布 ・福岡市内宿泊施設で配布
九州国立博物館　わくわく通信	年5回　総数　715,000枚	・近郊の小中学校に配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

平成31年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		321	300	21	173	162	11	80	74	6	35	31	4	33	33	0
合　　計		1,858	1,688	170	1,355	1,225	130	289	274	15	134	109	25	80	80	0
絵画		586	478	108	359	277	82	144	132	12	49	35	14	34	34	0
書跡		83	76	7	50	43	7	22	22	0	5	5	0	6	6	0
彫刻		192	183	9	144	142	2	19	19	0	29	22	7	0	0	0
建築		13	13	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
金工		83	81	2	44	44	0	31	31	0	7	5	2	1	1	0
刀剣		97	81	16	93	77	16				0	0	0	4	4	0
陶磁		77	76	1	50	50	0	22	21	1	0	0	0	5	5	0
漆工		58	54	4	45	43	2	9	9	0	2	0	2	2	2	0
染織		89	85	4	61	59	2	26	24	2	1	1	0	1	1	0
考古		214	199	15	143	128	15	12	12	0	41	41	0	18	18	0
民族資料		36	36	0	36	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		26	26	0	15	15	0	4	4	0	0	0	0	7	7	0
和書		30	30	0	29	29	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
東洋	絵画	20	20	0	20	20	0									
	書跡	28	26	2	28	26	2									
	彫刻	12	10	2	12	10	2									
	金工	48	48	0	48	48	0									
	陶磁	44	44	0	44	44	0									
	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	3	3	0	3	3	0									
	考古	94	94	0	94	94	0									
	民族	10	10	0	10	10	0									
法隆寺献納宝物		11	11	0	11	11	0									
黒田記念館収蔵品		2	2	0	2	2	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
貸与先件数		274	273	244	242	321
合　　計		1,962	1,530	1,561	1,544	1,858
絵画		392	432	560	454	586
書跡		92	81	109	133	83
彫刻		361	313	136	185	192
建築		3	3	13	13	13
金工		94	92	85	88	83
刀剣		10	22	41	48	97
陶磁		257	116	80	98	77
漆工		109	54	99	114	58
染織		35	48	72	54	89
考古		243	201	193	211	214
民族資料		8	37	23	2	36
歴史資料		36	20	61	27	26
和書		13	18	19	39	30
東洋	絵画	42	20	14	32	20
	書跡	13	7	18	7	28
	彫刻	5	6	3	6	12
	金工	4	0	0	0	48
	陶磁	28	13	8	20	44
	漆工	5	2	9	3	2
	染織	7	0	7	0	3
	考古	10	0	2	7	94
	民族	0	0	0	0	10
法隆寺献納宝物		2	33	2	1	11
黒田記念館収蔵品		193	12	7	2	2

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

平成31年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	259	1,480	149	1,199	54	136	24	84	32	61
国内	244	1,335	139	1,076	52	133	21	65	32	61
国・国立	40	246	22	203	8	28	3	5	7	10
地方・公立	134	775	78	636	25	54	11	45	20	40
私立団体	70	314	39	237	19	51	7	15	5	11
海外	15	145	10	123	2	3	3	19	0	0

○寄託品

平成31年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	114	378	25	156	57	153	24	50	8	19
国内	105	353	23	149	53	141	21	44	8	19
国・国立	20	147	4	100	11	42	2	2	3	3
地方・公立	53	107	15	35	25	40	9	24	4	8
私立団体	32	99	4	14	17	59	10	18	1	8
海外	9	25	2	7	4	12	3	6	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

平成31年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　11件　　海外貸与文化財130件[うち寄託品7件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市）】	14年1月1日 ～30年12月31日	東洋彫刻2件
2	「今・昔―日本のアート＆デザイン―」	文化庁【ウェールズ国立博物館(連合王国・カーディフ市)】	6月16日～9月9日	18件 刀剣16、漆工1、考古1
3	江戸絵画名品展	プーシキン美術館・文化庁【プーシキン美術館】	9月4日～ 10月28日	絵画78件
4	「長澤蘆雪―18世紀日本のアバンギャルド」	文化庁【リートベルク美術館(スイス・チューリッヒ市)】	9月6日～11月4日	絵画1件
5	若冲―動植綵絵を中心に	国際交流基金・宮内庁【パリ市立プティ・パレ美術館(フランス・パリ市)】	9月15日～10月14日	絵画1件
6	ジャポニスム2018 「縄文－日本における美の誕生」展	国際交流基金・文化庁【パリ日本文化会館】	10月17日～12月8日	考古14件[6]
7	2018年国際交流展《ユネスコ世界記憶遺産、通信使記憶物》(仮題)	釜山広域市立博物館【大韓民国釜山広域市立博物館】	10月25日～11月25日	書跡6件
8	「京都の宝：琳派300年の創造」展(仮称)	国際交流基金・京都国立近代美術館・細見美術館【パリ市立チェルヌスキ美術館(フランス・パリ市)】	10月26日 ～31年1月27日	絵画1件[1]
9	「大高麗918・2018 燦爛たる挑み」	大韓民国　国立中央博物館【大韓民国　国立中央博物館】	12月4日 ～31年3月3日	彫刻2件
10	董其昌の書画芸術展	上海博物館【上海博物館】	12月7日 ～31年3月10日	東洋書跡2件
11	源氏物語の世界展	メトロポリタン美術館【メトロポリタン美術館】	31年3月5日 ～31年6月16日	5件 絵画1、書跡1、漆工1、染織2

【京都国立博物館】　海外貸与先6件　　海外貸与文化財 15件[うち寄託品 12件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	ジャポニスム2018「深みへ-日本の美意識を求めて」展	独立行政法人国際交流基金【ロスチャイルド館（フランス・パリ)】	6月30日～ 8月31日	絵画1件
2	「長澤蘆雪 - 18世紀日本のアバンギャルド」展	文化庁【リートベルク美術館（スイス・チューリッヒ市)】	7月31日～11月30日	絵画4件
3	ジャポニスム2018「若冲-動植綵絵を中心に」展	宮内庁,独立行政法人国際交流基金, 日本経済新聞社【パリ市立プティ・パレ美術館】	8月20日 ～ 10月31日	絵画1件
4	ジャポニスム2018「京都の宝-琳派300年の創造」展	京都国立近代美術館,独立行政法人国際交流基金, 細見美術館【パリ市立チェルヌスキ美術館】	10月1日～12月4日	絵画1件
5	「日本美術に見る動物の姿」展（仮称）	独立行政法人国際交流基金【ナショナル・ギャラリー・オブ・アート(ワシントン)】	31年3月4日 ～31年9月頃	絵画4件 陶磁1件 染織2件
6	特別展「神 - 日本美術における神性の発見」	クリーブランド美術館	31年2月26日 ～31年8月頃	絵画1件

【奈良国立博物館】　海外貸与先 4件　　海外貸与文化財 25件[うち寄託品 6件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	「長澤蘆雪－18世紀日本のアバンギャルド」	文化庁【リートベルク美術館（スイス・チューリッヒ)】	7月30日～11月28日	絵画1件
2	特別展「大高麗918・2018燦爛たる挑み」	韓国国立中央博物館【韓国国立中央博】	11月～28日 ～31年1月14日	絵画2件
3	「日本美術に見る動物の姿」展	ナショナルギャラリーオブアート・独立行政法人国際交流基金【ナショナルギャラリーオブアート（ワシントン)】	31年2月26日～	彫刻2件 絵画3件
4	特別展『神－日本美術における神性の発見』	クリーブランド美術館【クリーブランド美術館（アメリカ)】	31年2月26日～	彫刻5件 絵画8件 工芸4件

【九州国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	松山市考古館	8月31日～31年3月29日	43	42
2	徳島市立考古資料館	8月31日～31年3月29日	26	18

【奈良国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	市立五條文化博物館	7 月 9 日～31 年 4 月 30 日	1（55 点）	5
2	群馬県県立歴史博物館	8 月 3 日～31 年 4 月 17 日	6（27 点）	7
3	大分県立歴史博物館	9 月 1 日～31 年 4 月 19 日	11（74 点）	9

1-（5）-①-5　収蔵品貸与促進事業

【東京国立博物館】

	貸与先名		期間	貸与件数（件）
1	大阪歴史博物館	「没後 130 年　なにわ人物誌　堀田龍之助　―幕末・近代の大阪に生きた博物学者―」	4 月 25 日～6 月 18 日	3
2	斎宮歴史博物館	企画展「斎宮のまわりにも魅力がいっぱい―斎宮で自由研究②―」	7 月 14 日～9 月 2 日	1
3	彦根城博物館	特別展「長曽祢虎徹―新刀随一の匠―」	10 月 26 日～11 月 25 日	5
4	大分県立美術館	「国宝、日本の美をめぐる―東京国立博物館名品展」	11 月 2 日～11 月 25 日	44
5	堺市博物館	「堺・経典をめぐる文化史」	11 月 17 日～12 月 16 日	2
6	板橋区立郷土資料館	板橋区立郷土資料館 平成 30 年度企画展「再発見！いたばしの遺跡―いたばしの旧石器時代・縄文時代―」	31 年 1 月 19 日～31 年 3 月 24 日	6

（参考）

その他（収蔵品・寄託品以外）の貸与

【東京国立博物館】

	区分	貸与先	期間	貸与件数（件）	貸与先件数（件）
1	図書	サントリー美術館	4 月 25 日～7 月 1 日	1	1
2	図書	大阪市立美術館	10 月 16 日 ～11 月 25 日	1	1
3	図書	たばこと塩の博物館	11 月 3 日～31 年 1 月 14 日	1	1

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成31年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
436 件	131 件	140 件	71 件	72 件
	本部文化財活用センター		文化財防災ネットワーク推進本部	
	2 件		2 件	

【本部文化財活用センター】20件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	東京都建設局公園緑地部	葛西臨海水族園のあり方検討委員会委員	4月～31年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
2	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	7月～31年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
3	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡保存活用検討委員会　委員	10月～31年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
4	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	「日本博（仮称）2020」に係る準備及び実施	12月～31年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
5	三菱一号館美術館	新技術を使用した文化財展示に係る助言	12月5日	文化財活用センター副センター長　小林牧 企画担当課長　松嶋雅人
6	文化庁	「日本が誇る先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業」に係る助言	31年3月1日	文化財活用センター副センター長　小林牧 企画担当課長　松嶋雅人 総務担当課長　樋口理央
7	独立行政法人日本芸術文化振興会	芸術文化振興基金運営委員会　委員	9月～31年3月	文化財活用センター統括マネージャー　齊藤孝正
8	全国都道府県在京文教担当者連絡協議会	研修における講師	10月11日	文化財活用センター 企画担当課長　松嶋雅人 総務担当課長　樋口理央 保存担当室長　吉田直人
9	文化庁	2019年度文化遺産・観光コンテンツバンク事業委託（調査設計・運用方針等検討）技術審査委員会委員	31年3月4日～3月31日	文化財活用センター 企画担当課長　松嶋雅人 デジタル資源担当室長　村田良二
10	大分県立美術館	貸与促進事業として実施する展覧会の作品配置・展示ケース作成について助言	7月	文化財活用センター貸与促進担当課長　救仁郷秀明
11	内閣府	デジタルアーカイブ・ジャパン推進委員会　実務者検討委員会　構成員	4月～31年3月	文化財活用センターデジタル資源担当課長　田良島哲
12	国立国会図書館	ジャパンサーチ（仮）に関する助言	10月5日	文化財活用センターデジタル資源担当課長　田良島哲 デジタル資源担当室長　村田良二 東京国立博物館学芸企画部博物館情報課情報管理室 阿児雄之
13	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～31年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
14	日本文化財科学会	日本文化財科学会会誌編集委員	4月～31年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
15	一般社団法人照明学会	照明学会美術館博物館照明技術指針作成委員会委員	4月～31年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
16	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会実行委員会委員	10月～31年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
17	文化庁	国立アイヌ民族博物館収蔵庫収蔵棚仕様策定委員会委員	31年3月18日	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
18	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	31年1月～3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
19	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会実行委員会委員	31年1月～3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
20	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会プログラム作成委員会委員	31年1月～3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創

【東京国立博物館】131件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	聖林寺・文化庁・株式会社栗生総合計画事務所	展示ケース導入に関する助言	31年1月15日	企画課長　浅見龍介、同特別展室長　丸山士郎、同デザイン室長　矢野賀一
2	千葉大学文学部	「現代社会で働くこと」講師	11月22日	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕

3	サントリー美術館	展示ケースのガラス、改修についての助言	6月5日	企画課デザイン室長　矢野賀一
4	板橋区美術館	展示ケース導入に関する助言	9月4日	企画課デザイン室長　矢野賀一
5	韓国国立現代美術館	展示・広報デザインについての助言	10月1日	企画課デザイン室長　矢野賀一、広報室長　鬼頭智美
6	国立アイヌ博物館	展示ケース導入に関する助言	12月14日	企画課デザイン室長　矢野賀一、保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔
7	京都市美術館	展示ケース導入に関する助言	12月19日	企画課デザイン室長　矢野賀一
8	香港歴史博物館	展示改修に関する助言	31年1月10日	企画課デザイン室長　矢野賀一
9	北京故宮博物院	出版・制作に関して概要説明	6月3日	企画課出版企画室長　松尾美貴
10	京都国立博物館	廣海家寄贈文化財調査	8月	博物館教育課長　伊藤信二
11	岐阜県教育委員会	県指定に向けた文化財の調査	9月	博物館教育課長　伊藤信二
12	九州国立博物館	特別展「オークラコレクション」自在置物ハンズオン模型製作に伴う調査と助言	10月	博物館教育課長　伊藤信二
13	根津美術館	講演「ほとけを飾る－荘厳と花」	31年3月23日	博物館教育課長　伊藤信二
14	九州国立博物館振興財団	スクールプログラムについて	12月4日	博物館教育課長　伊藤信二、同教育普及室長　藤田千織
15	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	外国人向けプログラム（書体験、きもの体験、音声ガイドとアプリなど）について	6月21日	博物館教育課教育普及室長　藤田千織
16	韓国国立中央博物館	当館の教育プログラム全般、とくに展示室内での鑑賞教育について	11月27日	博物館教育課教育普及室長　藤田千織
17	日本科学未来館	当館の教育プログラム全般について	31年1月24日	博物館教育課教育普及室長　藤田千織
18	広島県教育委員会	広島頼家関係資料調査委員会	8月2日～3日	博物館教育課教育講座室長　丸山猶計
19	文化庁	買取協議会	12月3日	博物館教育課教育講座室長　丸山猶計
20	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能士認定試験審査員	31年2月17日	博物館教育課教育講座室長　丸山猶計
21	江戸東京博物館	ボランティア運営について	5月17日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
22	佐賀城本丸歴史館	外国語対応について	6月21日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
23	九州国立博物館	障がい者対応について	31年3月31日	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり
24	文京区	文京区立森鴎外記念館　運営協議会　委員	4月1日～31年3月31日	博物館情報課長　田良島哲
25	内閣府迎賓館	デジタルデータの運用に関する助言	6月19日	博物館情報課長　田良島哲、同情報管理室長　村田良二
26	東京大学	デジタルアーカイブ関係機関連絡会オブザーバー	9月19日	博物館情報課長　田良島哲、同情報管理室長　村田良二
27	国際協力機構	「博物館とコミュニティ開発」コース　講義	10月24日	博物館情報課長　田良島哲
28	日本写真学会	第35回 画像保存セミナー　講演	10月26日	博物館情報課長　田良島哲
29	文化庁	第11回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー講師	6月25日、9月10日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
30	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会員	7月4日	博物館情報課情報管理室長　村田良二
31	鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	中岳山麓窯跡群に関する指導	12月14日～15日	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
32	国立新美術館	広報活動全般についての助言	5月9日	広報室長　鬼頭智美、同専門職　小島佳
33	国立ニューサウスウェールズ美術館	展示・広報デザインについての助言	10月16日	広報室長　鬼頭智美、文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人
34	国立民族学博物館	平成30年度「博物館学集中コース」研修講師	10月24日	広報室長　鬼頭智美
35	三菱一号館美術館	周年事業広報についての助言	11月16日	広報室専門職　小島佳
36	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～31年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
37	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～31年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

38	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～31年3月31日	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
39	ルーブル美術館	来館者数の推移と傾向に関わる助言・意見交換	30年1月～12月	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
40	韓国国立中央博物館	館史編纂に関わる現状と課題	9月13日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
41	日本大学芸術学部	写真学科学外授業における展示解説	12月22日	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子
42	宮内庁三の丸尚蔵館	保存活用の在り方に関する有識者懇談会有識者	4月1日	学芸研究部長　田沢裕賀
43	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月6日～31年4月5日	学芸研究部長　田沢裕賀
44	大阪市立美術館	特別展「江戸の戯画」講演会講師	5月19日	学芸研究部長　田沢裕賀
45	宮内庁三の丸尚蔵館	作品修理指導	5月24～25日、10月3日～4日	学芸研究部長　田沢裕賀
46	ロシア・プーシキン美術館	「江戸絵画名品展」講演会講師	9月4日	学芸研究部長　田沢裕賀
47	文化庁	買取鑑査会議	9月10日	学芸研究部長　田沢裕賀
48	國立故宮博物院(台北)	日本美術作品購入審査	10月11日～12日	学芸研究部長　田沢裕賀
49	大分県立美術館	国宝展トークイベント講師	11月2日	学芸研究部長　田沢裕賀
50	広川町教育委員会	装飾された棺のルーツ	4月8日	学芸研究部上席研究員　河野一隆
51	北九州市自然史・歴史博物館	装飾古墳の人類史－人はなぜ墓を飾るのかー	31年1月19日	学芸研究部上席研究員　河野一隆
52	文化庁文化財部伝統文化課	平成30年度「選定保存技術公開事業」企画審査	5月20日～6月10日	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉
53	文化庁文化財部伝統文化課	文化審議会文化財分科会第四専門調査会	6月27日	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉
54	東京文化財研究所	Workshops on Conservation of Japanese Textile 2018	8月13日～17日	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉
55	シルク博物館	第25回全国染織作品展の鑑査および審査会	9月5日	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉
56	静岡県教育委員会	平成31年度　第1回静岡県文化財保護審議会	11月26日	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉
57	独立行政法人日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	12月3日～31年2月13日	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉
58	文化庁文化財第一課	無形文化財（工芸技術）の調査	31年3月8日	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉
59	千葉県博物館協会	平成30年度千葉県博物館協会総会で講演	5月24日	列品管理課登録室研究員　六人部克典
60	新潟県歴史資料保存活用連絡協議会	平成30年度第1回歴史資料保存活用研修会で講演	7月20日	列品管理課登録室研究員　六人部克典
61	国際交流基金、パリ市立チェルヌスキ美術館	L’exposition Trésors de Kyoto - trois siècles de créations Rinpa（「京都の宝―琳派300年の創造」展）展覧会図録のフランス語訳校閲	5～6月	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　曽田めぐみ
62	東京藝術大学大学美術館・陳列館	「1940’s フジタ・トリビュート」展に関わる展示照明の監修	7月27日～8月10日	列品管理課平常展調整室長　木下史青
63	宗教法人 浅草寺	展示照明設備改修に向けての仕様等に関する相談への対応・助言	9月28日	列品管理課平常展調整室長　木下史青
64	茨城県陶芸美術館	展示照明設備改修に向けての仕様等に関する相談への対応・助言	11月21日	列品管理課平常展調整室長　木下史青
65	ルーヴル・アブダビ	Roads of Arabia展の作品、展示方法に関する専門的援助および助言	5月2日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
66	韓国国立公州博物館ほか	考古資料の保管と収蔵環境に関する専門的援助および助言	6月15日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
67	すみだ生涯学習センター	特別展「縄文-1万年美の鼓動」自治体講演会	7月7日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
68	アフガニスタン、バーミヤン考古学研究所	考古資料の保管、展示に関する専門的助言	9月4日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
69	毎日新聞社	毎日メディア・カフェにて、古代アラビアの文化について講演	9月13日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
70	シリア、ダマスカス国立博物館	博物館の展示環境や様々な取り組みについての情報提供と助言	11月28日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
71	イラク、スレイマニエ国立博物館	考古資料の展示に関する専門的助言、展示環境整備に関する専門的助言	12月25日	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造

72	町田市立博物館	町田市立博物館運営委員	29年7月1日～31年6月30日	調査研究課長　今井敦
73	文化庁	国有品修理協議会の委員	7月6日	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
74	法隆寺金堂壁画保存活用委員会ワーキング・グループ	法隆寺金堂壁画等の適切な保存活用に関わる調査・研究	30年2月～31年3月31日	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
75	仏教芸術学会	論文の査読	12月	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
76	仏教芸術学会	仏教芸術学会設立準備会委員	29年6月～	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
77	鎌倉市教育委員会	文化財審議委員	6月1日～	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
78	東北大学	集中講義	7月1日～8月31日	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
79	仏教芸術学会	仏教芸術学会運営委員	31年1月～	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
80	仏教芸術学会	論文の査読	31年2月	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞
81	静岡県富士山世界文化遺産センター	「江戸時代後期の風景表現について」講演会講師	8月11日	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織
82	岡山県瀬戸内市	国宝「山鳥毛」里帰りプロジェクト　記者発表	10月23日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
83	文化庁	文化庁文化財買取協議会	12月18日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
84	高知県文化生活スポーツ課	文化財価格評価	31年3月2日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
85	つがる市教育委員会	亀ヶ岡遺跡総括報告書作成に関する助言・協力	7月5日	調査研究課考古室長　品川欣也
86	縄文国宝自治体首長懇談会	縄文時代の国宝の活用について	7月25日	調査研究課考古室長　品川欣也
87	アイヌ国立博物館準備室	アイヌ国立博物館の展示に関する助言・協力	9月4日	調査研究課考古室長　品川欣也
88	アイヌ国立博物館準備室	アイヌ国立博物館の展示に関する助言・協力	11月8日	調査研究課考古室長　品川欣也
89	東京都教育庁	都指定文化財に関する助言・協力	11月28日	調査研究課考古室長　品川欣也
90	内閣官房アイヌ総合政策室、文化庁	アイヌ資料にかかる助言・協力	31年1月18日	調査研究課考古室長　品川欣也
91	アイヌ国立博物館準備室	アイヌ資料にかかる助言・協力	31年1月24日	調査研究課考古室長　品川欣也
92	静岡市教育委員会	館蔵登呂遺跡・有東遺跡出土品に関する助言・協力	31年2月13日	調査研究課考古室長　品川欣也
93	青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ	青森県史にかかるデータベースの公開についての助言・協力	31年2月13日	調査研究課考古室長　品川欣也
94	アイヌ国立博物館準備室	アイヌ資料にかかる助言・協力	31年3月8日	調査研究課考古室長　品川欣也
95	さきたま史跡の里博物館	展示ケース制作	4月18日	調査研究課考古研究員　河野正訓
96	文化庁	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー「文化財の特質と取扱・梱包実習（考古資料）」講師	6月27日	調査研究課考古研究員　河野正訓
97	下関市考古博物館	2018年度第３回一般教養講座「萩市見島ジーコンボ古墳群と東アジアの積石塚」講師	9月1日	調査研究課考古研究員　河野正訓
98	青梅市	縄文―１万年の美の鼓動―に関する講演	7月11日	調査研究課考古室研究員 山本亮
99	松山市考古館	東京国立博物館所蔵 松山市出土考古資料と戦前期の埋蔵文化財保護	12月12日	調査研究課考古室研究員 山本亮
100	公益財団法人　向日市埋蔵文化財センター	五塚原古墳第10次調査出土遺物の整理指導および評価について	31年2月15日	調査研究課考古室研究員 山本亮
101	韓国・石壮里博物館	2019年度開催予定の特別展(黒曜石に関する展覧会)への助言	30年12月～31年2月	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄
102	埼玉県教育局市町村支援部　生涯学習文化財課	大型出土遺物のエックス線調査方法について	4月17日～8月9日	保存修復課長　冨坂　賢、同調査分析室長　荒木臣紀
103	三の丸尚蔵館	平成館の空調設備の設置面積について	5月15日	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
104	相撲博物館	染織品の燻蒸後処理について	10月9日	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
105	北海道博物館	論文査読	12月1日～31年1月16日	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
106	文化財虫菌害研究所	文化財の虫菌害・保存対策研修会講師	7月6日	保存修復課環境保存室長 和田浩
107	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～31年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
108	日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員および認定試験委員会委員	4月1日～31年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
109	文化庁	企画・展示セミナー講師	6月25日、9月10日	保存修復課環境保存室長 和田浩
110	国立歴史民俗博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	9月11日～31年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩

111	東京文化財研究所	「保存科学」編集委員	12月1日～31年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
112	長崎県歴史文化博物館	展示環境整備に関する助言	31年1月17日	保存修復課環境保存室長 和田浩
113	東京都教育庁	平成３０年度　区市町村教育委員会埋蔵文化財担当者会議及び研修会での講演	31年3月1日	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔
114	東京藝術大学大学院	塑像のマウント方法に関する相談	4月9日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子、同研究員　野中昭美
115	長野県小諸市　小諸市民大学講座	「文化財の保存と修復―文化財を元気にする仕事―」	8月3日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
116	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会　事務局新妻洋子（公益財団法人日本博物館協会）	「カンバス画の安定化処理」（陸前高田支援ワークショッププログラムで講演および実技ワークショップ	8月21日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
117	Smithsonian Institute, USA（アメリカ・スミソニアン研究所）	Desalination of Acrylic Painting usig Water Method. Stabilization of canvas paintings (acrylic paintings) of cultural assets damaged by Tsunami on March 11th 2011	10月22日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
118	永青文庫	屏風の修理についての助言	4月19日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
119	正倉院	作品のマット装についての助言	5月22日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
120	永青文庫	石彫文化財の保存についての助言	7月10日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
121	国立アイヌ民族博物館設立準備室	保存カルテについての助言	12月13日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
122	金沢美術工芸大学	修理委員会外部委員（金沢美術工芸大学所蔵「架鷹図屏風」）	6月18日	保存修復課保存修復室長 土屋裕子
123	文化庁	国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議	6月11日～31年3月31日	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
124	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	6月1日～32年5月31日	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
125	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会	31年1月27日	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛
126	東北芸術工科大学	文化財修理実務に関する特別講義	6月28日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
127	山種美術館/㈱歌舞伎座	彫刻の修理に関する相談	10月3日～9日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
128	東京藝術大学大学院	文化財修理実務に関する特別講義	10月19日	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
129	公益財団法人日本博物館協会	美術品梱包輸送技能取得士認定制度に関する委員会委員	4月11日～31年3月31日	総務部長　山下登
130	国立科学博物館	臨時売店運営事業者選定委員会委員	7月6日～	経理課長　香取雄太
131	独立行政法人日本芸術文化振興会	大型文化催事準備チーム連携員	12月7日～31年3月31日	総務課長　竹之内勝典

【京都国立博物館】140件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会副委員長	4月～5月	館長　佐々木丞平
2	ICOM日本委員会	理事	4月～5月	副館長　栗原祐司
3	日本ミュージアム・マネージメント学会	第23回大会実行委員	4月～5月	副館長　栗原祐司
4	公益財団法人日本博物館協会	評議員	4月～6月	館長　佐々木丞平
5	公益財団法人日本博物館協会	理事	4月～6月	副館長　栗原祐司
6	滋賀県教育委員会	文化財保護審議会委員	4月～9月	企画室長　山川　曉
7	佛教大学	非常勤講師	4月～9月	保存修理指導室長 大原嘉豊
8	佛教大学	非常勤講師(集中講義)	4月～9月	保存修理指導室長 大原嘉豊
9	同志社大学	嘱託講師	4月～9月	保存修理指導室長 大原嘉豊
10	ICOM京都大会2019京都推進委員会	ICOM京都大会2019京都推進委員会委員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
11	宮内庁京都事務所	御所・離宮懇談会委員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
12	公益財団法人京都古文化保存協会	評議員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
13	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター	評議員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
14	ICOM日本委員会 公益財団法人日本博物館協会	ICOM京都大会2019組織委員会委員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平

15	奈良国立博物館	評議員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
16	公益財団法人三菱財団	理事	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
17	一般社団法人清風会	清風会理事	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
18	公益社団法人　日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
19	古典の日推進委員会	特別委員	4月～31年3月	館長　佐々木丞平
20	アール・ブリュットネットワーク	企画委員	4月～31年3月	副館長　栗原祐司
21	兵庫県立考古博物館	運営委員会　委員	4月～31年3月	副館長　栗原祐司
22	南九州市	南九州市世界の記憶推進会議アドバイザー	4月～31年3月	副館長　栗原祐司
23	大阪市	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会委員	4月～31年3月	副館長　栗原祐司
24	独立行政法人国際観光振興機構	MICEアンバサダー	4月～31年3月	副館長　栗原祐司
25	ICOM京都大会2019組織委員会	ICOM京都大会運営委員	4月～31年3月	副館長　栗原祐司 総務課総務・人事係　三島貴雄
26	奈良国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～31年3月	学芸部長　朝賀浩
27	京都市元離宮二条城保存整備委員会	京都市元離宮二条城保存整備委員会委員	4月～31年3月	学芸部長　朝賀浩
28	九州国立博物館	文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～31年3月	学芸部長　朝賀浩
29	京都大学大学院人間・環境学研究科	教育・研究指導客員教授及び客員准教授	4月～31年3月	上席研究員　宮川禎一 企画室長　山川曉 連携協力室長　淺湫毅 保存修理指導室長　大原嘉豊
30	京都女子大学	非常勤講師（「日本美術史A」「日本美術史B」）	4月～31年3月	特任研究員　山本英男
31	公益財団法人大和文華館	評議員	4月～31年3月	特任研究員　山本英男
32	愛知県	愛知県史編さん委員会特別調査執筆委員	4月～31年3月	企画室長　山川曉
33	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員	4月～31年3月	企画室長　山川曉
34	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会委員	4月～31年3月	企画室長　山川曉
35	公益財団法人祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	4月～31年3月	企画室長　山川曉 連携協力室長　淺湫毅
36	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～31年3月	連携協力室長　淺湫　毅
37	花園大学	非常勤講師	4月～31年3月	美術室長　羽田聡
38	近畿大学	非常勤講師	4月～31年3月	美術室長　羽田聡
39	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会委員	4月～31年3月	美術室長　羽田聡 保存修理指導室長　大原嘉豊
40	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ美術史班専門委員	4月～31年3月	保存修理指導室長 大原嘉豊
41	宗教法人総持寺	総持寺当麻曼荼羅修理委員会委員	4月～31年3月	保存修理指導室長 大原嘉豊
42	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員	4月～31年3月	保存科学室長　降幡順子
43	日本文化財科学会	日本文化財科学会評議員	4月～31年3月	保存科学室長　降幡順子
44	鳥取県	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会委員	4月～31年3月	保存科学室長　降幡順子
45	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会　委員	4月～31年3月	保存科学室長　降幡順子
46	國學院大學	非常勤講師	4月～31年3月	考古室主任研究員 古谷毅
47	國學院大學	客員教授	4月～31年3月	考古室主任研究員 古谷毅
48	聖心女子大学	非常勤講師	4月～31年3月	考古室主任研究員 古谷毅
49	学校法人関西大学	研究分担者	4月～31年3月	列品管理室主任研究員 呉孟晋
50	奈良大学通信教育部	通信教育部指導教員(非常勤)	4月～31年3月	工芸室研究員　降矢哲男
51	奈良国立博物館	特別展「国宝　春日大社のすべて」展示・撤収指導	4月9日 6月13日	工芸室主任研究員 末兼俊彦
52	京都美術工芸大学	「博物館教育論」非常勤講師	4月10日 4月17日 4月24日	教育室研究員　水谷亜季

53	放送大学	「博物館経営論（19）」ゲスト	4月16日	総務課専門職員　関谷泰弘
54	法隆寺金堂壁画保存活用委員会	法隆寺金堂壁画保存活用委員会事務局員	5月～31年3月	学芸部長　朝賀浩
55	静岡県立博物館	寄託品（中国絵画）調査	5月28日	列品管理室主任研究員 呉孟晋
56	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	6月～31年3月	副館長　栗原祐司
57	公益財団法人　大和文華館	公益財団法人大和文華館評議員	6月～31年3月	学芸部長　朝賀浩
58	文化庁	重要文化財等の修理及び保存科学に関する研修事業協力者会議委員	6月～31年3月	保存修理指導室長 大原嘉豊
59	観光庁	分かりやすい多言語解説整備推進委員会委員	6月～31年3月	企画室アソシエイトフェロー　リンネマリサ
60	國學院大学	「第44回日本文化を知る講座」講師	6月2日	考古室主任研究員 古谷　毅
61	野﨑家塩業歴史館	漆工品調査指導	6月12日～13日 10月25日～26日 12月11日～12日	教育室長　永島明子
62	石川県立美術館	「若冲と光瑤」出品作品の展示・撤収指導	6月14日 6月22日 7月23日 7月31日	保存修理指導室研究員 福士雄也
63	全国大学博物館学講座協議会	全博協60周年記念講演会「全博協のあゆみ」講師	6月16日	副館長　栗原祐司
64	きょうと障害者文化芸術推進機構	きょうと障害者文化芸術推進機構理事	7月～31年3月	館長　佐々木丞平
65	水平社博物館	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	7月～31年3月	副館長　栗原祐司
66	京都大学	非常勤講師	7月1日～31日	企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル
67	幕末明治福井150年博実行委員会	幕末明治福井150年博講演会講師	7月15日	上席研究員　宮川禎一
68	滋賀県教育委員会	滋賀県指定有形文化財（美術工芸品）の指定にかかる調査指導	7月31日	保存科学室長　降幡順子
69	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議会委員	8月～31年3月	工芸室主任研究員 末兼俊彦
70	神戸大学	非常勤講師（博物館資料保存論）	8月1日～8月31日	保存科学室長　降幡順子
71	文化庁	仁和寺文化財調査への協力	8月2日～3日	美術室長　羽田聡（8月2日のみ） 企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
72	武蔵野大学仏教文化研究所	連続公開講座「仏教と文化」講師	8月4日	企画室長　山川曉
73	九州国立博物館	ICOM-ASPAC日本会議2018の企画運営協議	8月8日	副館長　栗原祐司 総務課専門職員　関谷泰弘
74	京都女子大学	非常勤講師	9月～31年1月	企画室長　山川曉
75	國學院大學	非常勤講師(集中)	9月～31年3月	副館長　栗原祐司
76	日本オリンピックミュージアム	日本オリンピックミュージアム設立準備委員会オブザーバー	9月～31年3月	副館長　栗原祐司
77	三重県教育委員会	三重県文化財保護審議会委員	9月～31年3月	教育室長　永島明子
78	京都橘大学	非常勤講師	9月～31年3月	保存修理指導室研究員 福士雄也
79	神戸新聞	夕刊「随想」執筆	9月3日～12月28日	館長　佐々木丞平
80	日本展示学会	2018年度展示論講座「展示論―博物館の展示」講師	9月6日	副館長　栗原祐司
81	福岡市博物館	特別展「浄土九州－九州の浄土教美術」展示・撤収指導	9月12日 11月2日	保存修理指導室長 大原嘉豊
82	文化庁	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師	9月13日～14日	美術室長　羽田聡、連携協力室長　淺湫毅（9月13日） 考古室主任研究員　古谷毅（9月14日）
83	城陽市教育委員会	平成30年度城陽市民大学「文学・歴史」コース講師	9月15日	上席研究員　宮川禎一
84	東京国立博物館	法隆寺献納宝物調査	9月18日～19日 9月27日	学芸部長　朝賀浩（9月18日～19日） 保存修理指導室長　大原嘉豊（9月27日）
85	神戸新聞社	「播磨政経懇話会」講演	9月26日	館長　佐々木丞平
86	東山南部地域活性化委員会	講演会講師	9月30日	工芸室主任研究員 末兼俊彦

87	京都市	京都市文化功労賞審査委員	8月28日～令和2年3月31日	館長　佐々木丞平
88	ICOM京都大会2019組織委員会	ICOM京都大会2019組織委員	10月～31年3月	館長特別補佐　山﨑秀保
89	京都大学大学院文学研究科	非常勤講師（「博物館学Ⅲ」）	10月～31年3月	上席研究員　宮川禎一
90	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～31年3月	連携協力室長　淺湫毅
91	NHK大阪放送局	NHK公開講演会講師	10月2日、11日、17日、18日	工芸室主任研究員 末兼俊彦
92	文部科学省国立教育政策研究所	平成30年度博物館長研修講師	10月4日	館長　佐々木丞平
93	京都市	等持院所蔵彫刻調査	10月4日～5日	連携協力室長　淺湫毅 列品管理室主任　岡田愛
94	泉大津市	平成30年度泉大津市文化フォーラム講師	10月14日	上席研究員　宮川禎一
95	野洲市歴史民俗博物館	「遷座1300年記念　兵主退社展」展示・撤収指導	10月17日 11月12日	企画室長　山川曉
96	国際交流基金	ジャポニズム2018「京都の宝：琳派300年の創造」展出陳作品展示指導及び随展のため	10月21日～11月28日	保存修理指導室研究員 福士雄也
97	長崎市長崎学研究所	長崎の幕末維新150周年記念シンポジウム　パネルディスカッション及び研究報告講師	10月21日	上席研究員　宮川禎一
98	大分県立埋蔵文化財センター	埋文講演会2「豊後船井と茶の湯Ⅰ」講師	10月21日	工芸室研究員　降矢哲男
99	東京文化財研究所	オープンレクチャー講師	10月27日～28日	列品管理室主任研究員 呉孟晋
100	京都造形大学	「歴史遺産Ⅱ-1」非常勤講師	10月28日	企画室長　山川曉
101	文化庁	文化財買取評価員	10月30日	教育室長　永島明子
102	山形大学	科研費に係る熟覧調査	11月1日～2日	企画室長　山川曉
103	文化庁	海外展「長澤芦雪」開催に伴う作品輸送	11月2日～9日	学芸部長　朝賀浩
104	清風会	見学会（中之島香雪美術館）での講演	11月2日	保存修理指導室長 大原嘉豊
105	韓国・東国大学仏教文化研究院	「日本現存の韓国仏教文献」講師	11月2日	企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
106	高知県立坂本龍馬記念館	連続講演会「坂本龍馬とその時代」講師	11月3日	上席研究員　宮川禎一
107	広島市立大学	「芸術学研究Ⅰ・Ⅱ」非常勤講師	11月8日～9日	特任研究員　山本英男
108	東京国立博物館	特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」展にかかるギャラリートーク講師	11月9日	列品管理室主任研究員 呉孟晋
109	高知県	明治150年式典特別講演会講師及び記念対談コメンテーター	11月11日	上席研究員　宮川禎一
110	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「絵画」）調査	11月15日～16日	学芸部長　朝賀浩（11月16日） 保存修理指導室長　大原嘉豊（11月15日）
111	文化庁	「重要文化財西行物語絵巻」復元模写製作に係る文化財調査	11月20日～25日	学芸部長　朝賀浩
112	鳥取県埋蔵文化財センター	青谷上寺地遺跡第18次調査指導	11月22日	保存科学室長　降幡順子
113	京都新聞COM	「熊本・京都文化フォーラム」パネリスト	11月23日～24日	館長　佐々木丞平
114	京都女子大学	「教養科目A（芸術と表現2）」非常勤講師	11月23日	企画室アソシエイトフェロー　リンネマリサ
115	公益財団法人日本博物館協会	第66回全国博物館大会フォーラム講師	11月28日	館長　佐々木丞平
116	国宝修理装潢師連盟	修理技術者初級講習会講師	11月30日	学芸部長　朝賀浩
117	徳島県教育委員会	「坂東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」調査検討委員会	12月～31年3月	副館長　栗原祐司
118	独立行政法人日本芸術文化振興会	独立行政法人日本芸術文化振興会大型文化催事準備チーム連携員	12月～31年3月	学芸部長　朝賀浩 総務課長　數馬厚人
119	文化庁	文化財買取評価員	12月3日	特任研究員　山本英男
120	京都新聞COM京都ふるさとの集い連合会	「京都ふるさと連講演会」講師	12月5日	上席研究員　宮川禎一
121	北九州市立自然史・歴史博物館歴史友の会	歴史友の会講演会講師	12月8日	上席研究員　宮川禎一
122	文化庁	平成30年度博物館学芸員専門講座講師	12月14日	副館長　栗原祐司
123	ICOM京都大会2019京都推進委員会	平成30年度「博物館・美術館向け多言語化対応研修会」講師	12月14日 31年1月30日 31年2月29日	総務課専門職員　関谷泰弘 企画室アソシエイトフェロー　リンネマリサ
124	元興寺文化財研究所	重要文化財稲堂古墳出土方形板瓦綴短甲の地板配列に関する検討会	12月17日	考古室主任研究員 古谷　毅

125	JR西日本コミュニケーションズ	「第53回京の冬の旅」広報協力及び特別講座講師	12月21日～31年3月31日	館長　佐々木丞平
126	NHKエデュケーショナル	「鳥獣戯画」8K撮影テスト立ち会い	31年1月9日	学芸部長　朝賀浩 企画室研究員　井並林太郎
127	公益財団法人京都市生涯学習振興財団	「アスニーセミナー」講師	31年1月18日	館長　佐々木丞平
128	関西文化学術研究都市推進機構	「第77回けいはんなサイエンスカフェ」講師	31年1月23日	保存科学室長　降幡順子
129	東京都美術館	「奇想の系譜展」展示・展示替立ち会いのため	31年2月5日～6日 31年3月10日～11日	保存修理指導室研究員　福士雄也
130	宇治市源氏物語ミュージアム	宇治市源氏物語ミュージアム連続講座講師	31年2月8日	企画室長　山川曉
131	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「書跡」）	31年2月15日	美術室長　羽田聡 企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
132	國學院大學研究開発推進機構	学術資料センターフォーラム「文化財の活用とは何か」講師	31年2月16日	考古室主任研究員　古谷毅
133	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「工芸」）	31年2月19日	企画室長　山川曉
134	清風会	見学会（伊勢神宮及び神宮徴古館）での講演	31年2月25日	企画室長　山川曉
135	第48回日本伝統工芸近畿展実行委員会	第48回日本伝統工芸近畿展鑑査会鑑査委員	31年2月26日	企画室長　山川曉 企画室アソシエイトフェロー　リンネマリサ
136	碧南市教育委員会	新指定文化財の指導助言	31年3月1日	保存修理指導室長　大原嘉豊
137	鳥取県立むきばんだ史跡公園	特別講座「弥生のガラス玉づくり」の講師	31年3月2日～3日	保存科学室長　降幡順子
138	中之島香雪美術館	国宝「鳥獣戯画」展示指導	31年3月4日	企画室研究員　井並林太郎
139	国際交流基金	「日本美術に見る動物の姿」展作品集荷立会い	31年3月14日	保存修理指導室研究員　福士雄也
140	NHK	興福寺四天王像顔料調査協力	31年3月26日	保存科学室長　降幡順子 保存科学室アソシエイトフェロー　中屋菜緒

【奈良国立博物館】71件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	東北歴史博物館	東北歴史博物館主催　東日本大震災復興祈念特別展「東大寺と東北―復興を支えた人々の祈り」に関する集荷・展示・撤収・返却等の協力	4月6日、4月16日～4月20日、5月25日～30日、6月24日～6月28日、7月3日～7月6日、7月17日～7月19日	上席研究員　岩田茂樹 企画室長　野尻忠 列品室長　吉澤悟 教育室長　谷口耕生 工芸考古室長　清水健 工芸考古室員　三本周作
2	奈良女子大学	非常勤講師	4月～31年3月	学芸部長　内藤栄
3	奈良女子大学	特任教授	4月～31年3月	上席研究員　岩田茂樹
4	奈良女子大学	客員准教授	4月～31年3月	企画室長　野尻忠
5	公益財団法人　藤田美術館	所蔵品の保管に関する援助	4月～33年度	学芸部長　内藤栄 上席研究員　岩田茂樹 企画室長　野尻忠 列品室長　吉澤悟 保存修理指導室長　鳥越俊行 工芸考古室長　清水健 教育室長　谷口耕生 情報サービス室長　岩井共二 資料室長　宮崎幹子 情報サービス室主任研究員　北澤菜月 列品室主任研究員　山口隆介 美術室主任研究員　斎木涼子 教育室主任研究員　中川あや 工芸考古室員　三本周作 資料室主任　佐々木香輔
6	アート・ドキュメンテーション学会	学会賞選考委員会へ出席し、助言	5月10日	資料室長　宮崎幹子
7	奈良文化財研究所	古代寺院出土品の調査研究への協力	5月10日～5月11日、7月20日	教育室主任研究員　中川あや
8	公益財団法人　仏教美術研究上野記念財団	理事会に委員として出席し助言	5月11日、6月12日、31年3月15日	館長　松本伸之

9	鳥取県教育委員会	鳥取県文化財保護審議会委員	5月15日、7月30日、11月8日、31年2月5日～2月6日	教育室主任研究員　中川あや
10	公益財団法人髙梨学術奨励基金事務局	公益財団法人髙梨学術奨励基金理事	5月22日	館長　松本伸之
11	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会委員として、修理事業に関わる調査、指導、助言	5月24日、7月17日、7月20日、8月1日、31年2月26日	上席研究員　岩田茂樹
12	国立歴史民俗博物館	共同研究員（『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究）として、研究会に参加、助言	6月2日、31年1月26日、2月23日	工芸考古室長　清水健
13	東大寺	文献史料目録整備のための原本調査に協力	6月4日～6月7日、9月5日	企画室長　野尻忠 美術室主任研究員　斎木涼子
14	薬師寺	文化財の保存状態に関する助言	6月5日	上席研究員　岩田茂樹 情報サービス室長　岩井共二 列品室主任研究員　山口隆介
15	公益財団法人メセナかがわ・濱野年宏芸術交流協会	特別講演会にて講演	6月7日	館長　松本伸之
16	大学共同利用期間法人人間文化研究機構国立民族学博物館	共同研究員として研究会へ出席	6月8日、31年2月8日	保存修理指導室長　鳥越俊行
17	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」アーカイブ・ワーキング・グループ専門委員として調査、助言	6月8日、31年1月27日	資料室主任　佐々木香輔
18	同志社大学	非常勤講師	6月12日、11月30日	資料室長　宮崎幹子
19	奈良文化財研究所	平城宮跡展示館検討会に出席し、助言	6月15日	教育室主任研究員　中川あや
20	アメリカ合衆国　クリーブランド美術館	クリーブランド美術館主催「神道」展に対し、調査・出陳交渉協力	6月16日～17日、6月21日、6月27日、9月21日、10月1日、10月5日～6日、11月11日、11月18日、11月29日、12月11日、12月13日、31年1月29日、2月17日、2月18日～22日、2月25日～26日、3月1日、3月4日～5日、3月11日～29日	上席研究員　岩田茂樹 教育室長　谷口耕生 工芸考古室長　清水健 工芸考古室員　三本周作 列品室主任研究員　山口隆介 美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり 資料室主任　佐々木香輔
21	一般財団法人　仏教美術協会	評議員として定時評議委員会に出席、助言	6月18日、31年3月11日	館長　松本伸之
22	奈良県	奈良の仏像海外展示推進協議会委員として協議会に参加、助言	6月18日	館長　松本伸之
23	奈良県	奈良の仏像海外展示企画員会に参加、助言	6月18日	学芸部長　内藤栄
24	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	文化遺産保護協力事業運営審議会委員として審議会に出席、助言	6月21日	館長　松本伸之
25	宮内庁	正倉院懇談会会員として懇談会に出席、助言	6月27日	館長　松本伸之
26	島根県教育委員会教育庁	石見銀山遺跡客員研究員	6月～31年5月30日	保存修理指導室長　鳥越俊行
27	奈良女子大学	経営協議会委員として協議会に参加、助言	7月25日、11月26日、31年3月26日	館長　松本伸之
28	文化庁	文化庁美術学芸課修理業者選定委員会に出席し、助言	7月6日	教育室長　谷口耕生
29	佐久市立近代美術館	特別企画展「―薬師寺と平山郁夫の縁―玄奘三蔵と仏教伝来」にかかる展示及び撤収指導	7月9日～7月13日、8月7日、8月26日～8月28日	列品室主任研究員　山口隆介
30	法隆寺	講演「飛鳥・奈良時代における唐文化の受容」第68回夏季大学	7月26日	館長　松本伸之
31	文化庁	仁和寺所蔵の文化財調査への協力	7月30日～7月31日	企画室長　野尻忠 美術室主任研究員　斎木涼子
32	長野県埋蔵文化財センター	小島・柳原遺跡群調査指導委員会委員として委員会に出席、助言	8月1日～8月2日	学芸部長　内藤栄
33	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員として調査、助言	8月6日～8月7日、12月5日、31年1月27日	教育室長　谷口耕生
34	奈良県教育委員会	文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議へ出席し、助言	8月7日	保存修理指導室長　鳥越俊行
35	奈良文化財研究所	春日東西塔出土時の調査に関する援助・助言	8月10日	教育室主任研究員　中川あや

36	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員として大津市歴史文化基本構想策定検討会議に出席、助言	8月29日、31年1月22日	上席研究員　岩田茂樹
37	ICOM京都大会2019組織委員会	運営委員会委員として担当者会議に出席、助言	9月2日、10月1日	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ
38	文化庁	国立アイヌ民族博物館におけるアイヌ関係資料等管理システムの研究開発等業務に係る技術審査専門員	9月7日～31年3月	資料室長　宮崎幹子
39	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さんに伴う仏像等美術工芸品調査協力	9月8日～9月9日、11月23日、12月12日	教育室長　谷口耕生 情報サービス室長　岩井共二 列品室主任研究員　山口隆介 資料室主任　佐々木香輔
40	読売新聞社	正倉院フォーラム東京にて講演	9月8日	館長　松本伸之
41	元興寺	元興寺主催展覧会「大元興寺諸仏展」に係る作品輸送・展示・撤収に関する助言・指導	9月10日～9月11日、9月28日	上席研究員　岩田茂樹
42	大覚寺	所蔵品の修理に関する助言	9月18日	教育室長　谷口耕生
43	COMCOL	ICOM京都大会2019組織委員会委員として、COMCOL2018年次海外に出席し、助言	9月23日～10月1日	企画室アソシエイトフェロー　堀内しきぶ
44	石清水八幡宮	文化財の写真撮影及び保存状態に関する助言	9月26日	上席研究員　岩田茂樹 情報サービス室長　岩井共二 列品室主任研究員　山口隆介 資料室主任　佐々木香輔
45	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員として審議会に出席、助言	9月27日	情報サービス室長　岩井共二
46	京都美術工芸大学	正倉院展出前授業講師	10月1日	学芸部長　内藤栄
47	奈良県教育委員会	奈良県文化財保護審議会委員として審議会に出席し、助言	10月4日	学芸部長　内藤栄
48	名古屋市博物館	正倉院フォーラム名古屋にて講演	10月7日	工芸考古室長　清水健
49	河合町教育委員会	河合町指定候補文化財の調査に協力	10月11日	上席研究員　岩田茂樹
50	奈良ロータリークラブ	講演「必見！正倉院展」	10月18日	館長　松本伸之
51	新潟市會津八一記念館	講演	11月16日	館長　松本伸之
52	公益財団法人　日本博物館協会	参与として全国博物館会議に参加、助言	11月28日～29日	館長　松本伸之
53	奈良県	奈良県伝統的工芸品指定委員会委員として会議に出席、助言	11月30日	学芸部長　内藤栄
54	京都府立大学	非常勤講師	12月1日、12月8日、12月16日	資料室長　宮崎幹子
55	春日若宮おん祭保存会	春日若宮おん祭　お渡り式　解説	12月17日	列品室長　吉澤悟
56	神戸大学	文学部において講義	12月21日	列品室長　吉澤悟
57	天理市文化財保護審議会	天理市文化財保護審議会委員として審議会に出席	12月27日	教育室長　谷口耕生
58	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2018	国際シンポジウム「世界の中の日本美術―オリエンタリズム・オクシデンタリズムを超えた日本理解」専門家会議に出席	31年1月19日	学芸部長　内藤栄 教育室アソシエイトフェロー　翁みほり 企画室員　松木悠
59	京都国立博物館	国際特別講演会にて講演	31年1月26日	教育室長　谷口耕生
60	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」に出席し助言	31年1月27日	館長　松本伸之 保存修理指導室長　鳥越俊行
61	神戸大学	教授、准教授として講義	31年2月8日	情報サービス室長　岩井共二 列品室長　吉澤悟
62	愛知県立芸術大学	非常勤講師として講義	31年1月29日	教育室長　谷口耕生
63	京都国立博物館	評議員として評議委員会に出席し、助言	31年1月31日	館長　松本伸之
64	河合町教育委員会	河合町文化財保護審議会に出席し、助言	31年2月19日	上席研究員　岩田茂樹
65	京都国立博物館	法隆寺金堂壁画写真ガラス原板の修理について助言	31年2月22日	教育室長　谷口耕生 資料室長　宮崎幹子
66	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員として市指定文化財候補の調査に協力	31年3月6日	上席研究員　岩田茂樹
67	中華人民共和国　上海博物館	博物館を新設する際の設備・作業について助言	31年3月7日～8日	保存修理指導室長　鳥越俊行
68	文化庁	文化材用Ｘ線ＣＴスキャナー　一式の仕様策定委員として委員会に出席し、助言	31年3月18日	保存修理指導室長　鳥越俊行

69	文化庁	収蔵庫収蔵棚　一式の仕様策定委員として委員会に出席し、	31年3月18日	保存修理指導室長　鳥越俊行
70	東京国立博物館	東京国立博物館百五十年史編纂に係る調査への協力	31年3月20日	館長　松本伸之
71	仁和寺	仁和寺所蔵の文化財調査への協力	31年3月25日～29日	企画室長　野尻忠 美術室主任研究員　斎木涼子

【九州国立博物館】72件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	宮内庁	宮内庁三の丸尚蔵館有識者懇談会委員	4月1日～12月11日	館長　島谷弘幸
2	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会委員	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
3	外務省	日米文化教育交流会議（カルコン）パネル委員	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
4	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
5	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
6	公益財団法人福岡文化財団	評議員	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
7	立正大学	「立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト」外部評価委員	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
8	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
9	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
10	高知城歴史博物館	研究顧問	4月1日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
11	愛知県陶磁美術館	愛知県陶磁美術館資料委員会委員	4月1日～31年3月31日	副館長　伊藤嘉章
12	公益社団法人日本工芸会	鑑査委員等選考委員	4月1日～31年3月31日	副館長　伊藤嘉章
13	岐阜県可児市教育委員会	可児市大萱古窯跡群調査・保存・整備指導委員会委員	4月1日～31年3月31日	副館長　伊藤嘉章
14	岐阜県教育委員会	岐阜県文化財保護審議会委員	4月1日～31年3月31日	副館長　伊藤嘉章
15	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部長　小泉惠英
16	福岡県立美術館	福岡県立美術館協議会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部長　小泉惠英
17	公益財団法人大分芸術文化スポーツ振興財団	事業評価委員会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部長　小泉惠英
18	熊本県	平成２８年熊本地震被災文化財等復旧復興基金活用動産文化財検討委員会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部長　小泉惠英
19	九州歴史資料館	九州歴史資料館協議会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
20	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
21	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
22	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
23	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
24	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
25	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	平成３０年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
26	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲刀剣類登録審査会補助員	4日1日～31年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
27	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	平成３０年度人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員	4月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
28	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	4月2日～31年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子
29	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月5日～31年3月31日	副館長　伊藤嘉章
30	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月6日～31年4月5日	館長　島谷弘幸
31	公益社団法人日本工芸会西部支部	第５３回西部伝統工芸展審査委員	4月11日～4月12日	副館長　伊藤嘉章
32	福岡県	福岡県伝統的工芸品月間推進協議会委員	4月13日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
33	太宰府天満宮	御本殿調査有識者会議委員	4月18日～31年3月31日	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
34	一般財団法人公園財団	研究顧問	5月18日～31年3月31日	館長　島谷弘幸

35	松浦党研究連合会	講師	6月1日～6月2日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
36	文化庁	重要文化財等の修理及び保存科学に関する研修事業協力者会議委員	6月4日～31年3月29日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
37	奈良国立博物館	文化財保存修理所運営委員会委員	6月4日	学芸部長　小泉惠英
38	東京国立博物館	作品調査	6月20日～6月21日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
39	公益社団法人日本工芸会	顧問	6月21日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
40	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員	7月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
41	長崎県壱岐市	壱岐市立一支国博物館　指定管理者選定委員	7月13日～9月30日	館長　島谷弘幸
42	新宮町教育委員会	相島海底遺跡調査指導委員会における助言	7月17日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
43	ICOM京都大会2019組織委員会	組織委員	7月18日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
44	沖縄県立博物館・美術館	琉球王国文化遺産集積・再興事業にかかる調査、指導	7月31日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子
45	上ノ国町教育委員会	水中遺跡の推進にかかる現地指導	8月7日～8月9日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
46	公益社団法人日本工芸会　第65回日本伝統工芸展運営委員会	鑑査・審査委員	8月19日～8月20日	副館長　伊藤嘉章
47	文化庁	文化財調査	8月30日～8月31日	副館長　伊藤嘉章
48	徳之島町教育委員会	徳之島町水中遺跡調査指導委員	9月1日～31年3月31日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
49	文部科学省	文化審議会（文化功労者選考分科会）委員	9月2日～31年3月31日	館長　島谷弘幸
50	文化庁	技術審査専門員	9月7日～31年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当専門職 （併）学芸部文化財課専門職 竹内俊貴
51	文化庁	美術工芸品買取鑑査会議委員	9月10日～31年3月31日	副館長　伊藤嘉章
52	東京国立博物館	特別調査「法隆寺献納宝物」	9月20日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　森實久美子
53	京都国立博物館、読売新聞大阪本社	京都国立博物館特別展「国宝　京のかたな」作品展示	9月26日～9月27日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
54	松戸市立博物館	講師	10月7日	学芸部長　小泉惠英
55	熊本県玉名市	史跡永安寺東古墳石室応急処置	10月19日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
56	甘木歴史資料館	講師	10月28日	副館長　伊藤嘉章
57	公益財団法人白鶴美術館	講師	10月28日	学芸部企画課特別展室主任研究員　川村佳男
58	福岡県伝統的工芸品振興協議会	審査委員	11月1日～12月13日	学芸部長　小泉惠英
59	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会　第４１回大会実行委員	11月2日～31年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子
60	特定非営利活動法人南の風創生本部	講師	11月15日～11月17日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
61	東京国立博物館	特別調査「絵画」	11月15日～11月16日	学芸部文化財課主任研究員山下善也、同資料管理室主任研究員　畑靖紀
62	可児市教育委員会	講師	11月17日	副館長　伊藤嘉章
63	京都国立博物館、読売新聞大阪本社	京都国立博物館特別展「国宝　京のかたな」作品撤収	11月25日～11月26日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
64	文化庁	買取評価員	12月3日	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
65	徳島県教育委員会	若杉山遺跡発掘調査現地指導	12月6日～12月7日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
66	公益財団法人文化財虫菌害研究所	講師	12月11日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
67	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	12月13日～31年3月31日	学芸部長　小泉惠英
68	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	12月13日～31年3月31日	総務課長　國谷勝伸
69	壱岐市立一支国博物館	講師	12月16日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史

70	明治維新150周年記念黎明館企画特別展「華麗なる薩摩焼」実行委員会（鹿児島県歴史資料センター黎明館）	パネリスト	12月25日	副館長　伊藤嘉章
71	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会（福岡県）	講師	31年2月26日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
72	伊仙町	伊仙町水中遺跡確認調査指導委員	31年3月1日～3月31日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞

【文化財防災ネットワーク推進本部】2件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	北海道博物館等	北海道胆振東部地震における被災時対応に関する助言	10月26日	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 黄川田翔
2	展示・収蔵設備メーカー、美術品梱包輸送会社等	「博物館・美術館における展示・収蔵の安全対策に関する協議会」（第1回）における助言	31年2月26日	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 黄川田翔

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

平成31年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
6件	3件	3件

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：研修、ワークショップ	6月25日～7月6日	アルメニア・染織文化遺産保存修復専門家	12	3	－	
		10月20日～21日	イラン国立博物館、文化財保存専門家	2			
2	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	8月27日～9月14日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	19	1	100	
3	国際研修「International Course on Paper Conservation in Latin America」：メキシコ研修	5月28日～6月13日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	17	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2018（集団研修）「考古遺跡の調査と保存・活用」	9月4日～10月4日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	31	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2018（個別テーマ研修）「博物館収蔵品の保存科学」	7月24日～8月7日	アフガニスタン、バングラデシュ、パキスタンの専門家	15	1	―	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（フィジーで開催）	10月22日～27日	フィジー人および一部周辺国の専門家	6	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】0件

【奈良文化財研究所】　2件

	名称	機関名	備考
1	学術交流に関する協定書	カザフスタン共和国国立博物館	
2	学術交流に関する協約書	大韓民国国立弥勒寺遺物展示館	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】5件　　平成31年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究事業：ワークショップ、ワーキンググループセッション、調査報告会	4月5日～6日	東ティモールの専門家研究者	2日	5回	運営費交付金
		6月26日～27日	スリランカの専門家研究者	2日		運営費交付金 文化庁受託経費
		9月4日～6日	アフガニスタンの専門家研究者	3日		文化庁受託経費
		12月8日～11日	アフガニスタン・東ティモールの専門家研究者	4日		文化庁受託経費
		3月5日～8日	スリランカの専門家研究者	4日		文化庁受託経費
2	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究」事業：研究会議、ワークショップ	5月30日～31日	フィリピン専門家研究者	2日	2回	政府開発援助 ユネスコ活動費補助金
		9月13日～14日	フィリピンの専門家研究者	2日		政府開発援助 ユネスコ活動費補助金
3	IRCIの「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究-教育を題材として-」事業のための国際シンポジウム IRCI's International Symposium for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage's contribution to sustainable development: Focusing on Education	1月21日～22日	フィリピン・ベトナム・日本の専門家研究者	2日	1回	政府開発援助 ユネスコ活動費補助金
4	第七回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会 The Seventh Governing Board Meeting of IRCI	9月26日	IRCI運営理事	1日	1回	文化庁受託経費
5	アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ Asia-Pacific Regional Workshop on Intangible Cultural Heritage and Natural Disasters	12月7日～9日	アジア太平洋地域の専門家研究者	3日	1回	文化財保存活用基金

2-(3)-②-3　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①

2-(3)-②-4　調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-②

2-(3)-②-5　学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-③

2-(3)-②-6　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

2-(3)-②-7　論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8　調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）　◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

平成31年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		137日			219日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		1,070人			295人		
		29年度末	30年度追加	30年度末	29年度末	30年度追加	30年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数（件）	図書	117,696件	3,903件	121,599件	359,584件	8,856件	368,440件
	雑誌	162,609件	1,647件	164,256件	96,691件	2,953件	99,644件
	その他（図録・報告書等）	37,722件	7,092件	44,814件	*9,978件	*7,038件	*17,016件
	計	318,027件	12,642件	330,669件	456,275件	11,809件	468,084件

＊奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

平成31年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	28件	24件
データベースのデータ件数（件）	1,271,388件	1,316,283件
データベース等へのアクセス件数（件）	3,096,569件	12,870,940件
（ホームページへのアクセス件数（件））	4,494,214件	1,060,693件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】 2件 317人

平成31年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第５２回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	10月26～27日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	134人	
2	第１３回無形民俗文化財研究協議会「いま危機にある無形文化遺産ー無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐってー」	12月14日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	183人	

【奈良文化財研究所】 17件 3,986人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	平城宮東院地区の発掘調査(平城第595 次）現地説明会	6月17日	奈良市法華寺町685 ほか発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城宮東院地区の発掘調査(平城第595 次）の現地説明会を開催した。	813人	
2	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第198次）現地説明会	9月15日	橿原市高殿町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査（飛鳥藤原第198次）現地説明会を開催した。	694人	
3	平城宮東区朝堂院の発掘調査(平城第602次）現地説明会	12月15日	奈良市法華寺町ほか	奈良文化財研究所	平城宮東区朝堂院の発掘調査(平城第602次）現地説明会を開催した。	569人	
4	第122回公開講演会	6月16日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	224人	
5	東院庭園庭の宴	9月22日	平城宮跡　東院庭園	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演等を行った。	138人	
6	第10回東京講演会「藤原から平城へ」	10月13日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	東京で、奈良文化財研究所の調査研究についての講演会を開催した。	530人	
7	第123回公開講演会	11月10日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	163人	
8	第1 回 報告書データベース作成に関する説明会	10月23日	京都学・歴彩館小ホール	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	35人	
9	第10回文化的景観研究集会	11月18日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	風景の足跡 ― 考古学からの文化的景観再考 ―について風景の足跡について開催した。	90人	
10	第2回 報告書データベース作成に関する説明会	11月22日	福島県庁本庁５階「正庁」	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	42人	

11	保存科学研究集会2018	11月27日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	同位体比分析と産地推定に関する最近の動向について、国・地方公共団体もしくはそれに準ずる団体に所属する文化財担当職員および日本文化財科学会あるいは文化財保存修復学会の会員を対象に行った。	116人	
12	第22回古代官衙・集落研究集会	12月7日～8日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	官衙・集落と大甕について、地方公共団体職員・大学教員等の研究者を対象として行った。	119人	
13	第3回 報告書データベース作成に関する説明会	12月20日	石川県地場産業振興センター本館２階第２研修室	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	35人	
14	遺跡整備・活用研究集会	12月21日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	史跡等の保存活用計画－歴史の重層性と価値の多様性－について史跡等の整備・活用に携わっている地方公共団体職員・関係者、大学所属の研究者等を対象に行った。	129人	
15	第4回 報告書データベース作成に関する説明会	31年1月22日	埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	56人	
16	第19 回古代瓦研究会シンポジウム	31年2月2日～3日	平城宮跡資料館講堂	奈良文化財研究所	古代瓦について、地方公共団体職員・大学教員、学生等の研究者を対象に行った。	203人	
17	第5 回 報告書データベース作成に関する説明会	31年2月22日	大分県立埋蔵文化財センター第２講座室	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	30人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

平成31年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	3,560件	4,992件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５か年）　（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５か年）　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】　1件　受講者 30人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月9日～7月20日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	30人	100%	100%	その他（保存担当学芸員フォローアップ研修、6月25日、102人）

【奈良文化財研究所】　15件　受講者 211人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	建築遺構調査課程	6月11日～6月15日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な、上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修	8人	100%	100%	
2	古文書歴史資料調査基礎課程	6月18日～6月22日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修	12人	100%	100%	
3	近現代建築保存活用課程	7月9日～7月13日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	近現代建築の価値の理解、その保存方法および活用方法について、理念、制度、修理、耐震対策、管理、活用等の面から講義をおこない、近現代建築の保存に取り組む自治体担当者としての必要な知識の習得を目指す研修	24人	100%	100%	
4	木質文化財の科学的調査基礎課程	7月23日～7月27日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	木質文化財を調査する際に必要となる木材科学，年代学，保存科学などの科学的な基礎知識を習得し，担当現場に生かすことを目指す研修	8人	100%	100%	
5	地質考古調査課程	9月3日～9月7日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡等の発掘調査で必要とされる、地層・基礎土木・土壌等に関する基礎的な専門知識や調査技術、さらにそれらに根ざした環境復原方法の習得を目指す研修	29人	100%	100%	
6	文化的景観調査計画課程	9月10日～9月14日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修	10人	100%	100%	
7	遺跡情報記録課程	9月18日～9月21日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡・遺物の正確な記録を取る方法と、情報の保存活用手法としてのGISやデータベースの利用に関する専門知識と技術を習得し、遺跡情報の公開・利活用を目指す研修	21人	100%	100%	
8	低湿地遺跡調査課程	10月3日～10月5日	3	地方公共団体の文化財担当職員※	低湿地遺跡の発掘調査から報告書作成までについて必要な知識を習得することを目的とする研修	8人	100%	100%	
9	保存科学Ⅰ(金属製遺物)課程	10月9日～10月17日	7	地方公共団体の文化財担当職員※	本課程では、金属製遺物の劣化現象に対する理解を深め、保存処理および処理前後の環境調整が劣化の抑制にもたらす効果について、保存処理工程および処理に係る劣化状態調査の実習と講義を交えて学ぶ研修	12人	100%	100%	

10	文化財写真課程	11月26日 ～12月6日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財の記録の中核をなす記録写真撮影について、様々な文化財写真分野の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得できる研修	20人	100%	100%	
11	報告書編集基礎課程	12月6日 ～12月13日	6	地方公共団体の文化財担当職員※	文化財調査記録に必要不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得するための研修	15人	100%	100%	
12	報告書デジタル作成課程	12月13日～ 12月20日	6	地方公共団体の文化財担当職員※	報告書出版に必要な編集やコンテンツ制作の技術について、デジタル編集を中心に据えた実習で、技術を習得することを目的とした研修	7人	100%	100%	
13	史跡等保存活用課程	31年1月15日 ～1月25日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	座学・隣地講義を通して史跡の整備計画について基本的知識を吸収し、基本構想・基本計画の立案演習を行う研修	21人	100%	100%	
14	出土文字資料調査課程	2月18日 ～2月22日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	木簡・墨書土器・漆紙文書など、出土文字資料の調査のための実践的な技術や知識の習得を目的とする研修	10人	100%	100%	
15	保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程	2月25日 ～3月1日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	本課程は土壌や岩石で構成される遺構を対象に、環境制御による遺構の保存法を習得することを目的として、遺構の劣化要因および劣化の進行に対して環境がおよぼす影響について、環境調査の実習などを交えて学ぶ研修	6人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

【文化財防災ネットワーク推進本部】 5件　　受講者 182人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	水損紙資料真空凍結乾燥処理ワークショップ	7月12日	1	九州各県の文化財担当職員	水損紙資料の安定化処置を進めていくにあたっての、真空凍結乾燥処理についての講義と実習。	7人	－	－	会場：奈良文化財研究所
2	文化財等防災ネットワーク研修	10月31日 ～11月1日	2	地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員	1日目：講義3件「文化財の防災ネットワーク構築とレスキュースキーム、文化財防災と地域防災計画」「水損紙資料の微生物被害と応急処置」「被災した民俗資料の応急処置」、2日目：水損紙資料のレスキューのための資料の水洗と乾燥、ドライクリーニング、水損書籍の対処等の実習と全体ディスカッション。	16人	－	－	会場：奈良文化財研究所
3	うきは市文化財サポーター育成講座	5月28日 ～12月17日	8	うきは市民等	福岡県うきは市と登録有形文化財河北家住宅所蔵の動産文化財を対象に、市民と協働した地域歴史遺産保全活動モデルの構築のために、平時における悉皆調査方法を実践で学ぶことを目指した講座。	90人	－	－	会場：うきは市民ホール他 全8回。参加者数は延べ人数
4	文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「大分県が取り組む文化財の地域防災計画」	31年2月14日	1	地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員	県の地域防災計画に基づき、文化財の災害対策を積極的に進めている大分県の文化財担当者の講演。	43人	－	－	会場：九州国立博物館
5	平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業研修会「水害に備える」	31年2月27日	1	京都府内の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員	京都府内各地における洪水等のリスク、被害防止のための備え、水損発生時の応急処置の講義。	26人	－	－	会場：京都国立博物館

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

平成31年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部 文化財活用センター
950件	596件	301件	53件

【東京文化財研究所】　596件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	28件
2	無形文化遺産に関する助言	25件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	44件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	60件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	11件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	428件

【奈良文化財研究所】　301件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	9件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	6件
3	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	273件
4	被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力	13件

【本部文化財活用センター】

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	53件

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）　◎共通資料d

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

平成31年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	1,831	1,386	781	165	112	328	445	198	247
	うち有償	763	721	485	143	18	75	42	13	29
	うち無償	1,068	665	296	22	94	253	403	185	218
茶室	総件数	178	178	124	23	6	25			
	うち有償	113	113	73	23	5	12			
	うち無償	65	65	51	0	1	13			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,059	634	345	43	30	216	425	198	227
	うち有償	211	186	101	24	6	55	25	13	12
	うち無償	848	448	244	19	24	161	400	185	215
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	164	144	14	11	72	47	20	0	20
	うち有償	46	29	13	9	7	0	17	0	17
	うち無償	118	115	1	2	65	47	3	0	3
撮影利用	総件数	430	430	298	88	4	40	0	0	0
	うち有償	393	393	298	87	0	8	0	0	0
	うち無償	37	37	0	1	4	32	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	109,140	106,671	92,166	12,986	1,023	496	2,469	374	2,095
茶室	5,663	5,663	4,671	581	265	146			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	18,367	17,706	10,520	6,776	100	310	661	374	287
その他（左記以外の建物、敷地）	56,431	54,623	51,288	2,677	658	0	1,808	0	1,808
撮影利用	28,679	28,679	25,687	2,952	0	40	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5か年）

平成31年3月31日現在

年度				26	27	28	29	30
国立文化財機構	総来館者数			3,890,178	4,146,847	3,810,178	4,875,133	3,977,125
	平常展	計		1,372,538	1,536,565	1,577,811	1,736,421	1,706,401
		有料	一般	522,569	636,504	653,711	778,185	747,422
			大学生	59,208	76,590	71,850	76,093	73,196
			小・中・高生	537	0	0	159	0
			友の会	123,720	139,076	152,643	185,553	192,482
		無料	一般(黒田含む)	85,285	107,574	108,272	107,824	116,321
			小・中・高・大生	165,340	176,248	183,375	206,900	204,691
		招待者等		415,879	400,573	407,960	381,707	372,289
	特別展	計		2,517,640	2,610,282	2,232,367	3,138,712	2,270,724
		有料	一般	1,670,944	1,678,816	1,404,313	2,049,172	1,510,156
			高・大生	93,348	113,109	76,242	105,410	112,381
			小・中生	22,149	34,820	31,337	29,312	22,558
			友の会	58,421	66,016	56,725	56,008	22,245
		無料	小・中生・一般	102,343	122,894	82,184	98,848	91,328
		招待者等		570,435	594,627	581,566	799,962	512,056
東京国立博物館	総来館者数			1,913,643	1,994,508	1,907,647	2,569,585	2,142,960
	平常展	計		587,528	747,944	761,709	1,030,180	989,508
		有料	一般	269,639	383,579	381,817	525,037	478,770
			大学生	31,324	42,528	41,159	48,052	43,486
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	96,297	108,147	119,573	160,739	172,646
		無料	高校生	20,345	27,108	24,623	32,714	27,701
			小・中生	50,040	52,386	55,176	70,686	66,933
		招待者等		95,280	87,619	101,677	143,888	145,696
		黒田記念館(無料)		24,603	46,577	37,684	49,064	54,276
	特別展	計		1,326,115	1,246,564	1,145,938	1,539,405	1,153,452
		有料	一般	926,279	811,089	733,704	995,261	764,691
			高・大生	51,690	61,790	36,115	41,210	54,270
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	12,920	11,889	10,714	11,684	1,988
		無料	小・中生	31,503	51,547	26,992	20,051	37,968
		招待者等		303,723	310,249	338,413	471,199	294,535
京都国立博物館	総来館者数			539,134	653,336	384,340	941,931	477,884
	平常展	計		265,791	205,526	186,162	136,862	146,314
		有料	一般	147,106	124,229	110,054	80,789	87,013
			大学生	16,801	21,478	14,192	12,016	13,028
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	12,764	15,234	15,248	9,341	7,058
		無料	高校生	11,137	15,261	10,773	13,069	14,608
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		77,983	29,324	35,895	21,647	24,607
	庭園開放	計		—	1,699	11,417	15,676	11,168
		有料	一般	—	825	5,572	8,082	6,114
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	—	93	635	505	196
		無料	大学生	—	56	1,040	436	362
			高校生	—	235	2,117	2,777	1,638
			小・中生	—	—	—	—	—
		招待者等		—	490	2,053	3,876	2,858
	特別展	計		273,343	446,111	186,761	789,393	320,402
		有料	一般	190,015	306,503	109,451	579,728	227,508
			高・大生	14,231	18,021	8,885	31,654	29,472
			小・中生	1,683	—	—	—	—
			友の会	11,978	19,001	10,511	13,192	3,166
		無料	小・中生	4,571	7,803	7,233	17,566	10,023
		招待者等		50,865	94,783	50,681	147,253	50,233
奈良国立博物館	総来館者数			476,993	455,859	449,322	549,211	527,786
	平常展	計		92,147	95,208	145,676	135,776	140,829
		有料	一般	31,433	30,165	63,886	60,294	63,675
			大学生	3,519	3,204	7,431	6,518	6,534
			小・中・高生	537	0	0	159	0
			友の会	3,344	3,957	5,290	4,250	3,196
		無料	小・中・高生	20,933	18,221	31,133	28,257	28,492
		招待者等		32,381	39,661	37,936	36,298	38,932
	特別展	計		384,846	360,651	303,646	413,435	386,957
		有料	一般	273,574	267,663	219,776	298,133	284,723
			高・大生	13,403	13,852	12,674	17,109	15,684
			小・中生	9,208	9,843	7,685	11,792	13,443
			友の会	14,443	16,265	15,750	16,058	3,901
		無料	小・中生	0	0	202	420	269
		招待者等		74,218	53,028	47,559	69,923	68,937
九州国立博物館	総来館者数			804,663	884,128	922,468	668,269	700,391
	平常展	計		357,362	412,621	393,590	350,848	349,114
		有料	一般	71,014	93,457	89,006	101,029	109,272
			大学生	7,251	9,072	8,766	9,253	9,950
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	11,315	11,645	11,897	10,718	9,386
		無料	高校生	22,494	26,765	23,788	22,730	28,868
			小・中生	38,507	34,381	33,435	34,789	34,730
		招待者等		206,781	237,301	226,698	172,329	156,908
	特別展	計		447,301	471,507	528,878	317,421	351,277
		有料	一般	271,895	283,603	333,172	168,511	226,615
			高・大生	13,249	18,463	17,722	14,820	12,369
			小・中生	11,258	24,977	23,652	17,520	9,115
			友の会	19,080	18,861	19,750	15,074	13,190
		招待者等		131,819	125,603	134,582	101,496	89,988
平城宮跡資料館	総来館者数			109,188	105,334	102,053	104,279	90,558
	平常展	無料	一般	52,221	50,064	62,210	50,598	53,775
	特別展	無料	一般	56,967	55,270	39,843	53,681	36,783
藤原宮跡資料館	総来館者数			8,461	10,933	8,378	8,162	8,270
	平常展	無料	一般	8,461	10,933	8,378	8,162	8,270
飛鳥資料館	総来館者数			38,096	42,749	35,970	33,696	29,276
	平常展	計		9,028	12,570	8,669	8,319	7,423
		有料	一般	3,377	4,249	3,376	2,954	2,578
			大学生	313	308	302	254	198
		無料	小・中・高生	1,884	1,835	1,290	1,442	1,359
		招待者等		3,454	6,178	3,701	3,669	3,288
	特別展	計		29,068	30,179	27,301	25,377	21,853
		有料	一般	9,181	9,958	8,210	7,539	6,619
			大学生	775	983	846	617	586
		無料	小・中・高生	9,302	8,274	7,914	7,130	6,285
		招待者等		9,810	10,964	10,331	10,091	8,363

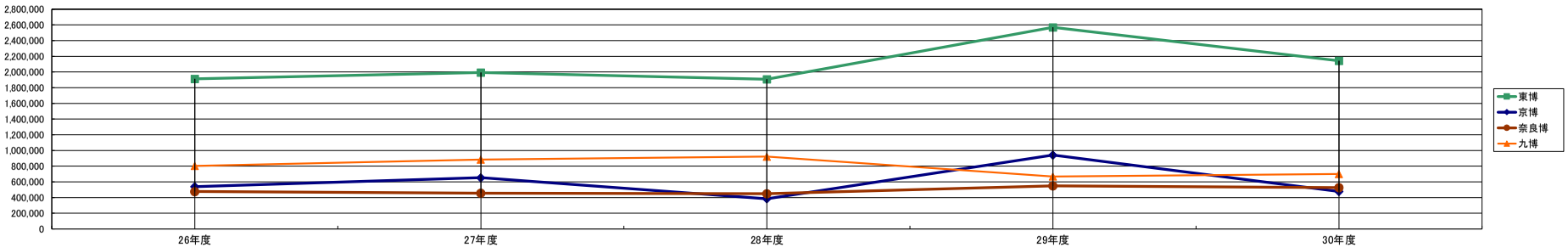
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（26～30年度）

国立文化財機構 合計

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
合計	総　合　計	3,890,178	総　合　計	4,146,847	総　合　計	3,810,178	総　合　計	4,875,133	総　合　計	3,977,125
	平常展のみの来館者	1,372,538	平常展のみの来館者	1,536,565	平常展のみの来館者	1,577,811	平常展のみの来館者	1,736,421	平常展のみの来館者	1,706,401
	特別（共催）展計	2,517,640	特別（共催）展計	2,610,282	特別（共催）展計	2,232,367	特別（共催）展計	3,138,712	特別（共催）展計	2,270,724

1）国立博物館

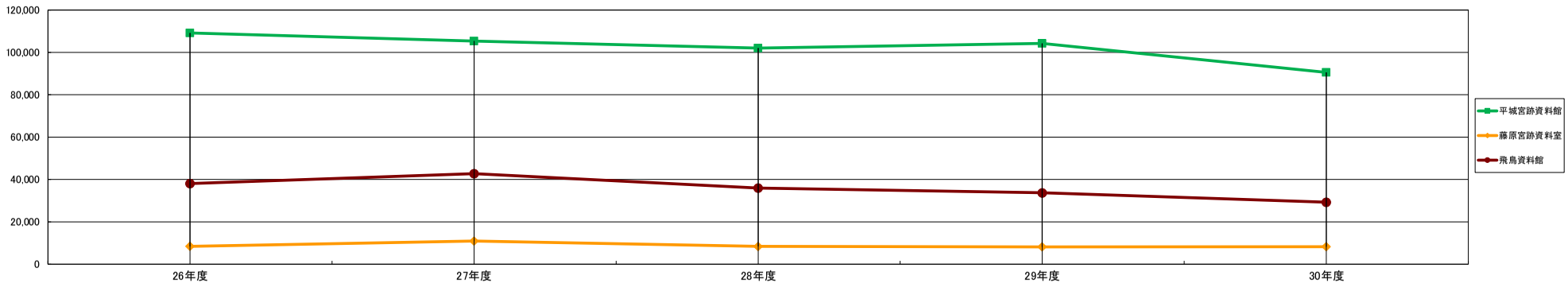


	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
計	総　計	3,734,433	総　計	3,987,831	総　計	3,663,777	総　計	4,728,996	総　計	3,849,021
	平常展のみの来館者	1,302,828	平常展のみの来館者	1,462,998	平常展のみの来館者	1,498,554	平常展のみの来館者	1,669,342	平常展のみの来館者	1,636,933
	特別（共催）展計	2,431,605	特別（共催）展計	2,524,833	特別（共催）展計	2,165,223	特別（共催）展計	3,059,654	特別（共催）展計	2,212,088
東博	総計(黒田記念館含む)	1,913,643	総計(黒田記念館含む)	1,994,508	総計(黒田記念館含む)	1,907,647	総計(黒田記念館含む)	2,569,585	総計(黒田記念館含む)	2,142,960
	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	587,528	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	747,944	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	761,709	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	1,030,180	平常展のみの来館者(黒田記念館含む)	989,508
	特別（共催）展計	1,326,115	特別（共催）展計	1,246,564	特別（共催）展計	1,145,938	特別（共催）展計	1,539,405	特別（共催）展計	1,153,452
	特別展「栄西と建仁寺」	229,994	特別展「みちのくの仏像」	16,573	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	157,589	特別展「茶の湯」	245,795	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	67,263
	特別展「キトラ古墳壁画」	119,268	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	72,344	特別公開「国宝土偶 縄文の女神」	※2　－	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	116,100	創刊記念『国華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」	173,995
	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	402,241	特別展「鳥獣戯画―京都　高山寺の至宝」	239,115	特別展「黄金のアフガニスタン　―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」	154,875	「フランス人間国宝展」	70,192	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	354,259
	2014年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華　陶磁名品展」	※1(65,075)	「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	78,562	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	600,439	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	197,004
	「日本国宝展」	386,708	アート オブ ブルガリ１３０年にわたるイタリアの美の至宝　THE ART OF BVLGARI. 130 YEARS OF ITALIAN　MASTERPIECES	142,000	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	199,567	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ-天平と真言密教の名宝-」	324,042	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	80,191
	特別展「みちのくの仏像」	162,948	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	483,809	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	212,144	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	182,837	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」	※1(62,405)
	特別展「3.11大津波と文化財の再生」	※2　－	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	24,764	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」	133,629			顔真卿　王羲之を超えた名筆	198,920
	コルカタ・インド博物館所蔵　インドの仏―仏教美術の源流	24,956	特別公開「国宝土偶 縄文の女神」	※2　－	特別展「春日大社－千年の至宝」	209,572			特別展　御即位30年記念　両陛下と文化交流　－日本美を伝える－	48,340
									特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」	33,480
京博	総　計	539,134	総　計	653,336	総　計	384,340	総　計	941,931	総　計	477,884
	平常展のみの来館者	265,791	平常展のみの来館者	205,526	平常展のみの来館者	186,162	平常展のみの来館者	136,862	平常展のみの来館者	146,314
			庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	1,699	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,417	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	15,676	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,168
	特別（共催）展計	273,343	特別（共催）展計	446,111	特別（共催）展計	186,761	特別（共催）展計	789,393	特別（共催）展計	320,402
	特別展「南山城の古寺巡礼」	69,443	特別展覧会　「桃山時代の狩野派－永徳の後継者たち－」	118,186	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展覧会「禅－心をかたちに－」	88,228	開館120周年記念　特別展覧会「海北友松」	164,900	特別展「池大雅―天衣無縫の旅の画家―」	67,399
	特別展「修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺」	203,900	特別展観　第100回大蔵会記念 仏法東漸－仏教の典籍と美術－※３	34,696	特別展覧会　没後150年「坂本龍馬」	98,533	開館120周年記念　特別展覧会「国宝」	624,493	特別展「京のかたな―匠のわざと雅のこころ―」	253,003
			琳派誕生四〇〇年記念 特別展覧会「琳派　京を彩る」	327,925						
奈良博	総　計	476,993	総　計	455,859	総　計	449,322	総　計	549,211	総　計	527,786
	平常展のみの来館者	92,147	平常展のみの来館者	95,208	平常展のみの来館者	145,676	平常展のみの来館者	135,776	平常展のみの来館者	140,829
	特別（共催）展計	384,846	特別（共催）展計	360,651	特別（共催）展計	303,646	特別（共催）展計	413,435	特別（共催）展計	386,957
	特別展　「武家のみやこ　鎌倉の仏像－迫真とエキゾチシズム－」	37,022	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う　平安古経展」	10,561	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」	55,198	特別展「快慶」	123,842	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950
	特別展「国宝　醍醐寺のすべて　－密教のほとけと聖教－」	78,476	開館120年記念特別展「白鳳－花ひらく仏教美術－」	128,901	生誕800年記念特別展「忍性　－救済に捧げた生涯－」	39,834	1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」	72,540	修理完成記念特別展「糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繍仏」	45,175
	特別展　「天皇皇后両陛下傘寿記念　第66回正倉院展」	269,348	特別展 第67回正倉院展	221,189	特別展 第68回正倉院展	208,614	特別展 第69回正倉院展	217,053	特別展 第70回正倉院展	245,832
九博	総　計	804,663	総　計	884,128	総　計	922,468	総　計	668,269	総　計	700,391
	平常展のみの来館者	357,362	平常展のみの来館者	412,621	平常展のみの来館者	393,590	平常展のみの来館者	350,848	平常展のみの来館者	349,114
	特別（共催）展計	447,301	特別（共催）展計	471,507	特別（共催）展計	528,878	特別（共催）展計	317,421	特別（共催）展計	351,277
	特別展「華麗なる宮廷文化　近衛家の国宝　京都・陽明文庫展」	60,808	九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」	77,455	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	158,738	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	56,314	特別展「王羲之と日本の書」	14,971
	特別展「クリーブランド美術館展―名画でたどる日本の美―」	70,794	九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展　―100のモノが語る世界の歴史―　A History of the World in 100 Objects」	133,174	特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」	133,002	特別展「世界遺産 ラスコー展」	118,555	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	198,489
	特別展「台北　國立故宮博物院－神品至宝－」	256,070	九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」	161,172	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	87,413	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」	63,069
	特水城・大野城・基肄城築造1350年記念別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」/特別展「日本発掘－発掘された日本列島2014－」	59,629	九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン－守りぬかれたシルクロードの秘宝－」	67,641	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966	特別展「王羲之と日本の書」	55,139	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	74,748
			特別展「始皇帝と大兵馬俑」	32,484						

※１　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※２　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※３　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（26～30年度）

2）研究成果公開施設



	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
計	**総　合　計**	**155,745**	**総　合　計**	**159,016**	**総　合　計**	**146,401**	**総　合　計**	**146,137**	**総　合　計**	**128,104**
	平常展のみの来館者	**69,710**	**平常展のみの来館者**	**73,567**	**平常展のみの来館者**	**79,257**	**平常展のみの来館者**	**67,079**	**平常展のみの来館者**	**69,468**
	特別（共催）展計	**86,035**	**特別（共催）展計**	**85,449**	**特別（共催）展計**	**67,144**	**特別（共催）展計**	**79,058**	**特別（共催）展計**	**58,636**
平城宮跡資料館	総　計	109,188	総　計	105,334	総　計	102,053	総　計	104,279	総　計	90,558
	平常展のみの来館者	52,221	平常展のみの来館者	50,064	平常展のみの来館者	62,210	平常展のみの来館者	50,598	平常展のみの来館者	53,775
	特別（共催）展計	56,967	特別（共催）展計	55,270	特別（共催）展計	39,843	特別（共催）展計	53,681	特別（共催）展計	36,783
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1－	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1-	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1-	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1-
	夏期企画展「平城京ビックリはくらんかい－奈良の都のナンバーワン－」	17,712	夏のこども展示「平城京“ごみ”ずかん-ごみは宝-」	18,108	夏のこども展示「ナント！おいしい！？平城京！！—奈良の都の食事情—」	9,532	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	927	夏のこども展示　「たいけん！なぶんけん —平城宮の考古学—」	9,205
	秋期特別展「地下の正倉院展—木簡を科学する—」／「埋蔵文化財センターの40年」	19,281	秋期特別展「地下の正倉院展　造酒司木簡の世界」	16,830	秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界—役人の勤務評価と昇進—」	17,653	平城宮跡資料館 春期企画展「永野太造作品展—草創期の奈文研を支えた写真家—」	21,811	秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」	15,853
	ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第１期）	9,806	発掘速報ミニ企画展示第1期	10,003	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	12,658	夏のこども展示　「ナント！　すできな！？　平城生活♪」	10,882	平城宮跡資料館　冬季企画展「発掘された平城2017・2018」	11,725
	ミニ展示「発掘速報展　平城2014」（第2期）	10,168	発掘速報ミニ企画展示第2期	10,329			秋期特別展「地下の正倉院展-国宝 平城宮跡出土木簡-」	14,841		
							平城宮跡資料館ミニ展示「平城京の戌」	5,220		
藤原宮跡資料室	総　計	8,461	総　計	10,933	総　計	8,378	総　計	8,162	総　計	8,270
	平常展のみの来館者	8,461	平常展のみの来館者	10,933	平常展のみの来館者	8,378	平常展のみの来館者	8,162	平常展のみの来館者	8,270
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	38,096	総　計	42,749	総　計	35,970	総　計	33,696	総　計	29,276
	平常展のみの来館者	9,028	平常展のみの来館者	12,570	平常展のみの来館者	8,669	平常展のみの来館者	8,319	平常展のみの来館者	7,423
	特別（共催）展計	29,068	特別（共催）展計	30,179	特別（共催）展計	27,301	特別（共催）展計	25,377	特別（共催）展計	21,853
	春期特別展「いにしえの匠たちーものづくりからみた飛鳥時代ー」	10,597	飛鳥資料館開館40周年　春期特別展「はじまりの御仏たち」	10,725	春期特別展「文化財を撮る—写真が遺す歴史—」	9,974	春期特別展「藤原京ー藤原京ー等地の調査—」	9,613	春期特別展「あすかの原風景」	8,816
	夏期企画展第５回写真コンテスト「飛鳥の甍」	3,505	飛鳥資料館開館40周年　夏期企画展　飛鳥資料館第6回写真コンテスト作品展「ひさかたの天(そら)ーいにしえの飛鳥を想ふー」	4,088	夏期企画展　飛鳥資料館第7回写真コンテスト作品展「飛鳥の石」	3,383	夏期企画展　飛鳥資料館第8回写真コンテスト作品展「飛鳥の路」	2,930	夏期企画展　飛鳥資料館第9回写真コンテスト作品展「飛鳥のいきもの」	2,428
	企画展「津田洋　大和の美仏に魅せられて」	2,716	秋期特別展 飛鳥資料館開館40周年　「キトラ古墳と天の科学」	12,862	秋期特別展　「祈りをこめた小塔」	9,373	秋期特別展「高松塚古墳を掘る-解明された構築過程-」	9,877	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房ー日韓の技術交流を探る」	7,492
	秋期特別展「はぎとり・きりとり・かたどり　ー大地にきざまれた記憶ー」	9,592	冬期企画展「飛鳥の考古学2015-飛鳥の古墳調査最前線ー」	2,504	冬期企画展　「飛鳥の考古学2016-飛鳥むかしむかし早川和子原画展-」	4,571	冬期企画展「飛鳥の考古学2017」	2,957	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117
	冬期企画展「飛鳥の考古学2014 - 縄文・弥生・古墳から飛鳥へ - 」	2,658								

※1　平常展の一部として実施
※2　「飛鳥寺2013」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,648人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた全期間の来館者数は10,473人
※3　「日光男体山のかがやき」と同時開催期間は同展と一体でカウントのため、単独開催期間の来館者数2,313人のみ計上。なお、同時開催期間も含めた期間の来館者数は3,359人

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　311 日間（平常展のみの開館日数　89 日間）
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館
③展示総件数　9,253件（うち国宝 383件、重要文化財　832件）
(1)本館・平成館企画展示室　4,338件（うち国宝 270件、重要文化財 366件）
(2)東洋館　3,150件（うち国宝　12件、重要文化財　82件）
(3)法隆寺宝物館　430件（うち国宝 16件、重要文化財　236件）
(4)平成館考古展示室　1,219件（うち国宝 85件、重要文化財　133件）
(5)黒田記念館　116件（うち国宝 0件、重要文化財　15件）
④展示替件数　5,981 件　・　展示替回数　延べ 423 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　一般620円、大学生410円
黒田記念館　無料
⑥特集　全28件（●国宝、◎重要文化財、〇重要美術品）

場所	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　サルのひろば	4 月 17 日 ～ 5 月 20 日	34 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ 猿図、百猿図、猿形土製品			
東京国立博物館、国立科学博物館、そして恩賜上野動物園は、平成 20 年度以来、上野ミュージアム・ウィーク（国際博物館の日記念事業）の一部として３館園連携事業を実施した。本特集はそれに即した展示で、本年度は「サル」をテーマとし、国立科学博物館と恩賜上野動物園は生物、標本の「サル」を扱い、当館では「サル」をモチーフとした作品を展示した。春の行楽やゴールデンウィークで東京国立博物館を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさや面白さを伝えることを目的とした。 猿は日本列島にも生息しており、縄文時代からすでに日本人は多岐にわたる猿のイメージを作り出すなど、古くから日本人の生活に深くかかわってきた。本特集では、写実的な猿の表現をはじめ、人とのかかわりから生まれた猿のイメージや表現について解説した。また子どもたちへの理解を促すため、恩賜上野動物園の協力を得て、映像など補助的な解説パネルの製作を行うほか、題箋には平易な言い回しを取り入れた名称や解説を記す。 三館園をめぐるツアー「上野の山でサルめぐり」を 2018 年 5 月 13 日に実施した。			
本館 14 室	和物茶碗の世界ー美濃、樂、京焼、唐津、高取	4 月 24 日 ～ 6 月 24 日	26 件
＜主な作品＞ 志野茶碗 銘 橋姫、色絵波に三日月文茶碗、黒楽茶碗 銘 尼寺、銹絵草花文茶碗、片身替釉茶碗 銘 深山路			
茶の湯の茶碗のなかでも、日本国内で作られた茶碗、いわゆる「和物茶碗」の特集展示。 和物茶碗は、喫茶の風とともに中国から取り入れられた精美な唐物茶碗や、室町時代後期に美意識の変化に伴って茶の湯の茶碗に見立てられるようになった高麗茶碗とは異なり、安土桃山時代に大成された侘茶のために創作され、多様に展開していった。 この特集では、館蔵品・ご寄託品による美濃、樂、京焼、唐津、高取といった各地の和物茶碗を一堂に集め紹介した。			
本館 特別 1 室	ひらがなの美ー高野切―	5 月 8 日～ 7 月 1 日	21 件（国宝 4 件、重文 2 件、重美 6 件）
＜主な作品＞ ●和歌体十種断簡、●寛平御時后宮歌合、◎古今和歌集巻十九断簡（高野切）、●元暦校本万葉集　巻一（古河本）、●元暦校本万葉集　巻二（古河本）、◎手鑑「月台」			
高野切は、平安時代・11 世紀半ばに書写された『古今和歌集』の現存最古の写本である。平安時代に書写された仮名の最高峰であり、現代のひらがなの美しい形のもととなるもので、日本の書の歴史において基本中の基本とされる重要な作品である。本特集ではまず、高野切の仮名の世界をじっくりとご覧いただいた。そして、高野切の三人に筆者によるほかの作品を展示したとともに、高野切に類似する同時代の仮名もご紹介した。			
本館 15 室	就任 100 年　帝室博物館総長森鷗外の筆跡	5 月 15 日 ～ 7 月 8 日	38 件
＜主な作品＞ 上野公園ノ法律上ノ性質、重要雑録 合議書類自明治四十年五月　至昭和五年七月			
鷗外森林太郎は大正 6 年（1917）12 月末に帝室博物館総長に就任し、翌 7 年（1918）1 月から本格的に執務を始めた。すでに鷗外研究の中で総長在任中の業績については知られてきたが、ここ数年来の調査によって、館蔵資料の各所に鷗外の筆跡が残されていることが判明している。この特集では「帝室博物館書目解題」「鑑査会議」など学芸関係の仕事や館運営の実務に関わる書類や書籍にさりげなく書き込まれた鷗外の筆跡と学術書などに寄せて巻頭を飾った自筆の題や序文などを多数紹介した。解説には当時の鷗外の日記や書簡を紹介し、館での仕事ぶりとの関連を明らかにした。			
平成館 企画展示室	平成 29 年度　新収品	6 月 19 日 ～ 7 月 29 日	39 件（重文 3 件、重美 2 件）
＜主な作品＞ 〇大弐三位集断簡（端白切）「あきかぜは」、◎行草書五言古詩軸、◎能面　伝山姥、〇五彩金襴手水注			
平成 29 年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介した。			

本館 特別1・2室	明治150年記念 書と絵が語る明治	7月10日 ～ 9月2日	45件

＜主な作品＞
額字「敬天愛人」、七言二句、旧江戸城之図、銀座夜景

政治、社会、文化が大きく変化した明治時代のさまざまな側面を、その時代を生きた人々による書と、西欧から新しい表現方法を得た絵画によって点描する。書は維新の三傑をはじめとする政治家や文化人の揮毫を、絵画は高橋由一や五姓田義松など洋画を中心に、明治の人物、都市、自然などを描いた作品を紹介した。

本館 14室	江戸の仏像から近代の彫刻へ	7月10日 ～ 9月30日	15件

＜主な作品＞
釈迦如来坐像、薬師如来坐像、蝦蟇仙人像、龍頭観音像、一字金輪坐像（模造）

江戸から明治にかけては、仏教美術を巡る環境も大きく変化した。信仰の対象として造られていた仏像は、岡倉天心らによって紹介された近代的な美意識のもと美術鑑賞の対象ともなり、文化財としての意義も認められるようになった。同時に、一時の仏教排斥運動によって仏像作家である仏師は彫刻家へと転身を余儀なくされ、これまで培われた高度な木彫技術を背景に、美術作品として彫刻制作を行なうようになる。本特集では、館蔵品および寄託品の中から、江戸の仏像と明治以降の彫刻作品の比較展示を行なうことで、価値観の多様化にともなう仏像表現の新たな展開とその魅力についてご紹介した。

本館 特別4室・5室	親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！ なりきり日本美術館	7月24日 ～ 9月9日	5件

＜主な作品＞
体験型展示「富嶽三十六景　神奈川沖浪裏」

ファミリー層を対象とした参加体験型展示「親と子のギャラリー」の夏休み企画は、豊かで自由な想像力で美術の楽しみを広げ、多くの子どもたちから圧倒的な支持を得ている井上涼の「びじゅチューン！」（NHK Eテレ）とコラボレーションし、番組で取り上げられた東博所蔵作品を入口とする。体験のキーワードは「なりきり」。作品に登場する人物になりきることによって、作品の背後にある物語や風景、そこに描かれた人々の暮らしを体感。自由な想像力で美術作品に親しみ、鑑賞を深めることを目指した。会場には、当館所蔵の5つの作品に関わる5つのコンテンツが配された。それぞれ高精細画像や三次元計測によるデータを用いた精巧な複製やＩＣＴ技術などを使い、多彩なアプローチで「なりきり」体験をデザインした。なお、関連して本館18室に「神奈川沖浪裏(A-11177-4)」「大はしあたけの夕立(A-9124-59)」(各半期)、「麗子微笑(A-10568)」(通期)を展示した。

東洋館 8室	中国書画精華―名品の魅力―	8月28日 ～ 10月21日	59件(国宝12件、重文23件)

＜主な作品＞
●夏景山水図軸、●出山釈迦図軸、●紅白芙蓉図軸、◎李白吟行図軸、●寒山拾得図軸、●瀟湘臥遊図巻、尺牘「急足帖」、行草書十詩五札巻、●禅院額字「東西蔵」、●禅院額字「解空室」、◎禅院額字「釈迦宝殿」、草書五言絶句四首四屏、楷書懐素自叙帖語軸

今年も、秋の中国美術の名品展として「中国書画精華」を開催する。わが国に古くから舶載された中国の書画は、日本美術にも大きな影響を与えてきた。特に、宋元時代の書画は、鎌倉時代以降の禅宗とともに数多く伝えられ、書院や茶室において、日本の趣味にもとづく新たな鑑賞法のもとに親しまれてきた。東山御物に代表される中国の書画の名品の中には、中国では伝わることがなく、今日、日本においてのみ伝世しているものも少なくない。また、明治以降、新たに中国本来の文人趣味を理想とする優れた収集家によって、中国伝世の歴代書画の精品が、少なからず日本に伝えられた。それらは、中国の書画の神髄を示すものといえる。今回は名品の名品たるゆえんを分かり易く解説し、その魅力に迫った。

東洋館 12室	岡野繁蔵コレクション―インドネシア由来の染織と陶磁器	9月4日 ～ 12月25日	31件(重美4件)

＜主な作品＞
白地バリ風俗図描絵、白磁鳳首瓶、グリンシン(肩掛)ワヤン人形文様経緯絣銀糸刺繍、○青磁鉄絵牡丹文鉢、ショール赤地花文様緯絣、○五彩草花文稜花皿、○青花魚藻文大皿

「博物館でアジアの旅」の期間にあわせて、ここでは大正のはじめにインドネシアのスマトラ島へ渡り、実業家として活躍した岡野繁蔵（1894～1975）のコレクションの染織と陶磁器をとりあげる。染織はスマトラ島、ジャワ島を中心とする各地域の特色あるバティック、イカットなどを展示し、インドから東南アジア、日本へとつながる技法や文化的交流について紹介した。また陶磁器は、東南アジア産だけでなく、岡野旧蔵の中国陶磁もあわせて、交易地インドネシアをキーワードにその貿易陶磁的性格という新たな視点から紹介した。

東洋館 12室	ワヤン―インドネシアの人形芝居―	9月4日 ～ 12月25日	34件

＜主な作品＞
ワヤン・クリ　アルジュノ、ワヤン・クリ　バヌワティ、ワヤン・クリ　カルノ、ワヤン・クリ　ハヌマン、ワヤン・ゴレ　ウマルモヨ

インドネシアの人形芝居ワヤンは、約千年前に始まり、現在も盛んに上演される伝統芸能であり、影絵人形を用いるワヤン・クリや、木彫りの人形を用いるワヤン・ゴレがあり、地域によって人形のデザインや演目が異なっている。　盛んに演じられるインドの叙事詩『マハーバーラタ』や『ラーマーヤナ』は、10 世紀ごろ、ヒンドゥー教とともにインドネシアに伝えられ、民衆の間に広まった。やがて絵巻物を操って物語を語るワヤン・ベベルが登場し、そこから人形が独立したものがワヤン・クリ、人形が木彫りになったのがワヤン・ゴレである。物語もインドネシアの歴史や自然の中でアレンジされている。　人形遣いダランは、夜を徹してすべての人形を 1 人で操り、せりふを語り、そして伴奏のガムランに演奏の指示をも下す。

本特集では、ワヤン・クリやワヤン・ゴレの様々なキャラクターを紹介し、また地域による人形のちがいなども示した。

インドネシアのワヤン・クリは、バティックやクリスとともに、ユネスコの無形文化遺産に登録されているが、本特集は、同時期に展示されるバティックやワヤンとともに、日本とインドネシアの国交 60 周年を記念するものである。また、展示期間に平成 30 年度「博物館でアジアの旅」の期間も含み、関連したスペシャルツアー等も企画された。

平成館 企画展示室	中国写真紀行―日本人が撮った100年前の風景―	9月4日 ～ 10月28日	82件

＜主な作品＞
黄河渡場、禹門口、太室石闕（「支那写真帖」のうち）、天龍山石窟第十四窟菩薩半跏像

明治 26 年（1893）、岡倉天心と早崎梗吉によって行われた文化財調査を嚆矢として、日本人による写真撮影を伴う訪中調査が行われた。被写体は文化財のみならず、風景や風俗におよび、当時の中国の姿を伝える貴重な資料となっている。本展では、清朝末期から中華民国の初めに早崎梗吉、塚本靖、関野貞によって撮影された写真資料からその足跡を辿り、中国各地の風景を紹介した。

本館 14 室	特集京都御所 飛香舎（藤壺）の調度	10 月 2 日 ～ 12 月 25 日	16 件
＜主な作品＞ 松喰鶴蒔絵螺鈿二階厨子、松喰鶴蒔絵螺鈿			
本特集では、安政度内裏（京都御所）の飛香舎で用いられた調度を紹介した。飛香舎は平安時代の内裏の後宮十二殿舎のひとつで、別名を藤壺ともいい、『源氏物語』などの古典にも名高い。同舎は中世以後の内裏の荒廃のなかで途絶えたが、寛政年間に裏松固禅の考証によって古式をふまえた復古調で再興された。すなわち旧儀を行なうことを想定して、母屋・廂から構成される寝殿造で造営され、室内に舗設する調度も古式を調査して製作された。寛政度内裏の焼失後、安政年間に再興された新造内裏も寛政度を踏襲した復古調内裏であった。ここで紹介した飛香舎調度は、この安政度内裏の調度であり、平安時代の寝殿造の調度の形式を伝える希少な実例である。			
本館 特別 2 室	世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録記念　キリシタンの遺品	10 月 10 日 ～ 12 月 2 日	63 件（重文 40 件）
＜主な作品＞ ◎聖母子像、◎キリスト像、◎板踏絵　キリスト像（ピエタ）、日本誌			
当館は長崎奉行所がキリシタンから没収した信仰にかかわる遺品と弾圧に用いた踏絵などを収蔵している。これらは 16 世紀の日本にキリスト教が伝来し、信仰が定着したこと、その後の禁制下にも長崎を中心に信仰が受け継がれた証拠として極めて貴重である。今回はキリシタン関係資料と当時のヨーロッパで刊行された日本に関する書籍を展示した。なお 7 月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録され、関心が高まることが予想された。			
東洋館 8 室	日中平和友好条約締結 40 周年記念　特別企画　中国近代絵画の巨匠　斉白石	10 月 30 日～12 月 25 日	126 件
＜主な作品＞ 延年酒図、菊花群鶏図、蝦図、清平福来図、篆書四言聯			
本年は、日中平和友好条約の締結から 40 周年にあたる。これを記念し、中国・北京画院所蔵の斉白石の名品を一堂に展示した。斉白石(1864-1957)は、「人民芸術家」と称された、現代中国で最も有名かつ人気のある画家である。明るく華やかな彩色と、簡潔で力強い筆線、自由自在な水墨技法を特徴とし、様々な主題を幅広く手がけ、書家・篆刻家としても高い評価を得ている。中国で最も古く規模の大きな美術アカデミーである北京画院は、初代名誉院長に斉白石を迎えており、斉白石研究の中心として知られている。本展では、斉白石の絵画を、1 花木、2 鳥獣、3 昆虫、4 魚蝦、5 山水、6 神仏と人物、の 6 つの主題別に紹介し、あわせて書と印を展示した。また、斉白石の遺した画稿・日記・文具を並べてその制作の源に迫る。以上を通じ、斉白石の作品および人柄の魅力をわかりやすく伝えた。　本展の主催は、東京国立博物館、北京画院、朝日新聞社（広報協力）、後援は、中国大使館、中国文化・観光部、北京市文化局、中国対外文化集団。なお、京都国立博物館との共同企画（京都国立博物館会期：2019 年 1 月 30 日～2019 年 3 月 17 日）。			
平成館 企画展示室	特集松山・徳島の考古学	11 月 6 日 ～12 月 25 日	58 件
＜主な作品＞ 石棒、木偶、扁平鈕２式銅鐸、須恵器 子持器台、須恵器 久米評			
本特集は平成 30 年度考古相互貸借事業によるもので、徳島市立考古資料館と松山市考古館の所蔵品を借用して展示する。徳島と松山の両市域では、縄文時代晩期後半に稲作が伝来する。当初は縄文時代以来の土偶や石棒が用いられたが、後に銅鐸や木偶などへ替わり、稲作の定着ともに儀礼のあり方も変化していく。また古墳時代には各地域を代表する古墳の鏡、須恵器や陶質土器から、朝鮮半島や中央政権との関係性を示す豊かな文化が明らかとなる。続いて古代では律令制の進展、仏教文化の広まりを示す瓦や刻書土器を紹介した。			
本館 14 室	特集大判と小判	1 月 2 日～2 月 3 日	36 件
＜主な作品＞ 天正菱大判、天正長大判、蛭藻金、万延大判			
黄金色の輝きを持ち錆びることのない金は、洋の東西を問わず富と財貨の象徴であった。日本においても古くから貴金属として扱われてきたが、国内通用の金貨として規格化されたのは意外に遅く、豊臣秀吉が天正年間に製造させた延金に始まる。 この特集では、発行当時世界最大の金貨であった天正長大判をはじめ、江戸時代の大判小判を一堂に展示し、江戸時代の貨幣鋳造の歴史を当館収蔵品で辿ることを目的とした。			
本館 特別 1・2 室	特集博物館に初もうで　イノシシ 勢いのある年に	1 月 2 日～1 月 27 日	30 件(国宝 1 件. 重文 1 件. 重美 1 件)
＜主な作品＞ 野猪、◎埴輪 猪、沃懸地鳳凰蒔絵小脇指、萩野猪図屏風			
イノシシは、北方をのぞく日本全国に生息しており、狩猟の対象となる身近な動物だった。中国で「猪」というとブタに相当するが、ブタはイノシシを家畜化したものである。「猪」は、食用として人の生に密着していることや多産であることなどから、豊穣を象徴する存在であり、また「猪突猛進」という言葉があるように、前に突き進む猛烈な勢いが信奉される場合もあった。花札に描かれる「萩と猪」もまた、絵画モチーフに用いられてきた。ただ意外に、「猪」を題材にした美術工芸品は数少ない。 本特集展示では、「猪」にあやかり、本年が脂ののった勢いのある一年になるよう、「猪」をモチーフにした作品を集めた。古来より「猪」を身近に感じてきた人々のまなざしを感じていただける展示に努めた。			
東洋館 8 室	特集王羲之書法の残影―唐時代への道程―	1 月 2 日 ～3 月 3 日	34 件
＜主な作品＞ 定武蘭亭序(呉炳本)、持世第一経、仏説歓普賢経、律蔵初分巻第十四、僧伽吒経巻第二、牛橛造像記、魏霊蔵造像記、楊大眼造像記			
中国の歴史上、東晋時代と唐時代は、書法が最高潮に到達した。なかでも書を芸術に高めた王羲之の存在は大きく、その書は南北朝を通して隋に受け継がれた。王羲之の書を継承する流麗な南朝の書と、異民族による個性的な北朝の書が、相互に影響を与え合いながら発展した南北朝時代の書を概観し、隋の統一によって美しい楷書が生まれるまでの流れをご紹介した。台東区立書道博物館との連携企画第 16 弾。			
東洋館 5 室	特集白磁の誕生と展開	1 月 2 日～4 月 21 日	28 件(重文 2 件)
＜主な作品＞ 白磁天鶏壺、◎白磁水注、白磁人頭飾り水注、白磁獣耳瓶、◎三彩貼花龍耳瓶			

ここでは特集「白磁の誕生と展開」として、中国北朝から隋、初唐にかけて、華北地方において白磁がいかに誕生し、展開したのかという問題をとりあげ、東京国立博物館所蔵品、および公益財団法人常盤山文庫所蔵品のなかから、貴重な作品を選りすぐり展観する。			
黒田記念館 黒田記念室	特集ラファエル・コランと黒田清輝	1 月 22 日～4 月 14 日	22 件
＜主な作品＞ 花野			
黒田記念館は、洋画家黒田清輝の遺産と作品が国に寄贈されたことが契機となって建てられた施設である。館内には黒田記念室が設けられ、遺族の方々から寄贈された遺作の油彩画、素描等を展示して画家黒田の芸術を顕彰するために公開した。黒田清輝の画業の初期から晩年までを一覧できるような展示を行った。　本展示期間では、特集陳列として黒田清輝がフランス留学中に師事した画家ラファエル・コランの下絵類を、その影響が色濃く見られる黒田の《花野》等と併せて展示した。			
本館 特別 1・2 室	特集上杉家伝来の能面・能装束	1 月 29 日～3 月 31 日	56 件
＜主な作品＞ 狩衣 紫地桐鳳凰模様、厚板唐織 紅紫段花車破格子模様、能面 筋怪士、法被 縹地檜垣瓢箪模様、縫箔 白地木賊鎌草花模様、能面 弱法師、能面 宝来女、唐織 紅緑段御簾色紙短冊萩模様、唐織 金地松帆模様			
米沢藩上杉家では、４代藩主綱憲が金剛流を召し抱えて以降、歴代藩主が能楽をたしなんできた。同家に残された金剛家秘伝書には、能面 120 面が所蔵されていたことが記されており、その後も上杉家が保管し、同家が主催する演能に使用されてきた。第２次世界大戦中に東京帝室博物館が寄託を受けていた能面 103 面のうち 32 面を昭和 22 年に、能装束を昭和 12 年、22 年の２回に渡り、当館が購入した。その他の能面・能装束は、現在所在不明のものが多く、上杉家コレクションの全容を知ることは難しい。 当館が所蔵する上杉家伝来の能面 32 面と能装束 96 領は､江戸時代より金剛流能をたしなんで来た上杉家の能の様相を概観する上で非常に貴重である。本企画は、これらをまとまったかたちで展示するはじめての機会であった。			
本館 14 室	特集おひなさまと日本の人形	2 月 5 日～3 月 17 日	46 件
＜主な作品＞ 牙首雛、紫宸殿（雛用御殿）、立雛（次郎左衛門頭）、御所人形			
3 月 3 日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行った。今回は当館の雛人形を代表する牙首雛（三谷てい氏寄贈）を中心に展示した。また天児・這子や紙雛にはじまる雛人形の発展を概観した。一方、日本の人形文化を代表するものとして御所人形の名品も一同に展示し、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、華やかに楽しく伝えた。			
平成館 企画展示室	特集東京国立博物館コレクションの保存と修理	3 月 12 日～4 月 7 日	10 件
＜主な作品＞ 南蛮屏風、杜甫詩、コート 濃紺ヴェルヴェット地花卉文様金銀糸刺繍			
本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介したため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、考古、歴史資料、染織などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げた。作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただいた。30 年度は、本格修理完了品として「南蛮屏風」「夢窓疎石墨跡」や「コート濃紺ヴェルヴェット地花卉文様金銀糸刺繍」など 10 件を展示した。			
本館 14 室	密教彫刻の世界	3 月 19 日 ～ 6 月 23 日	18 件（重文 6 件、重美 1 件）
＜主な作品＞ ◎十一面観音菩薩立像、如意輪観音菩薩坐像、◎愛染明王坐像、◎大日如来坐像、◎大日如来坐像、チャクラサンヴァラ父母仏立像			
ヒンドゥー教の影響を受けてインドで成立した密教では、特異な姿の仏が数多く見られる。顔や手足が多い変化観音や、恐ろしい表情の明王は、その異形の姿によって人びとの信仰を集めた。本特集は、「特別展　東寺-空海と仏像曼荼羅」（3 月 26 日～6 月 2 日）にあわせて開催し、密教に特有の仏の世界を、館蔵品を中心にご覧いただいた。			

(2) 特別展、共催展等（海外展を含む）

展覧会名	アラビアの道ーサウジアラビア王国の至宝
会　　期	1月23日（火） ～ 2018年5月13日（日）（99日間）
会　　場	表慶館
主　　催	東京国立博物館、サウジアラビア国家遺産観光庁、NHK、朝日新聞社
特別協賛	サウジアラムコ
協　　賛	昭和シェル石油、住友化学
作品件数	428件
来館者数	250,100名（目標100,000人、達成率：250.1%）
入場料金	総合文化展観覧料：一般620円(520円)、大学生410円(310円)　＊（　）内は20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	91.4%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	古代より交易路が張り巡らされ、人々と諸文明が行き交ったアラビア半島。本展では、その躍動的な歴史と文化を示すサウジアラビア王国の至宝を日本で初めて公開した。100万年以上前にさかのぼるアジア最初の石器、5000年前に砂漠に立てられた人形石柱、ヘレニズム時代やローマ時代に賑わった古代都市からの出土品、イスラームの聖地マッカ（メッカ）のカァバ神殿で17世紀に使われた扉、サウジアラビア初代国王の遺品（20世紀）など、400件以上の貴重な文化財をとおして、アラビア半島の知られざる歴史を紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	創刊記念『國華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」
会　　期	4月13日(金) ～5月27日(日)　(40日間)
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、國華社、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日

協　　賛	竹中工務店、凸版印刷、三菱商事
協　　力	あいおいニッセイ同和損保、日本通運
作品件数	130件
来館者数	173,995人（目標120,000人、達成率：145.0%）
入場料金	一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、中学生以下無料、＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	84.4%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	日本美術史上に輝く「名作」たちは、さまざまなドラマをもって生まれ、受け継がれ、次の名作の誕生へとつながった。本展では、作品同士の影響関係や共通する美意識に着目し、地域や時代を超えたさまざまな名作誕生のドラマを、国宝・重要文化財含む約130件を通してご紹介した。
講演会等	「日本美術鑑賞への誘い」小林忠(『國華』主幹、岡田美術館館長）、河野元昭(『國華』編輯委員、静嘉堂文庫美術館館長）、瀬谷愛(当館保存修復課主任研究員）　4月14日（土）　344名 「つながる雪舟、つながる若冲」島尾新(『國華』編輯委員、学習院大学教授)、佐藤康宏(『國華』編輯委員、東京大学教授）、瀬谷愛(当館保存修復室主任研究員）　4月21日（土）　363名

展覧会名	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」
会　　期	7月3日（火）　～9月2日（日）　（55日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
協　　賛	凸版印刷
協　　力	文化庁、国際交流基金、大塚オーミ陶業、大塚国際美術館、日本児童教育振興財団
作品件数	207件
来館者数	354,259人（目標100,000人、達成率：354.2%）
入場料金	一般1,600円(1,400円/1,300円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円、(700円/600円)、中学生以下無料　＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	88.2%
担当研究員数	3人
展覧会の内容	縄文時代は約1万3000年前に始まった。人びとが狩猟や漁撈、採集などの日々の暮らしのなかで工夫を重ねて作り出したさまざまな道具は、力強さと神秘的な魅力にあふれている。本展では「縄文の美」をテーマに、縄文時代草創期から晩期まで、日本列島の多様な地域で育まれた優品を一堂に集め、その形に込められた人びとの技や思いに迫った。
講演会等	「縄文の美を楽しむ」品川欣也(考古室長）7月28日（土）264名 トークイベント「縄文・日本美術・岡本太郎」山下裕二（美術史家・明治学院大学教授）、井上洋一（東京国立博物館副館長）7月22日（日）347名

展覧会名	特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」
会　　期	10月2日(火）～12月9日(日)　（60日間）
会　　場	平成館3,4室
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社
協　　賛	トヨタ自動車
作品件数	47件
来館者数	197,004名（目標120,000人、達成率：164.2%）
入場料金	一般1400円（1200円／1200円）、大学生1000円（800円／800円）、高校生800円（600円／　600円）、中学生以下無料＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	84.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	京都市上京区に所在する大報恩寺は、鎌倉時代初期に開創された。本展では、大報恩寺の秘仏本尊で、快慶の弟子、行快作の釈迦如来坐像、快慶作の十大弟子立像、運慶の弟子で、行快とほぼ同じ世代である肥後定慶作の六観音菩薩像など、大報恩寺に伝わる鎌倉彫刻の名品の数々を展示した。
講演会等	「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」菊入諒如　（千本釈迦堂 大報恩寺 住職）　10月12日（金）　292名 「大報恩寺のみほとけ　運慶次世代の仏師と京都」　皿井舞（絵画・彫刻室主任研究員）　11月18日（日）325名

展覧会名	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画　　特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」
会　　期	10月2日(火）～12月9日(日)（60日間）
会　　場	平成館1,2室
主　　催	東京国立博物館、フィラデルフィア美術館
特別協力	キヤノン株式会社
協　　力	日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社、ミネベアミツミ株式会社
後　　援	J-WAVE、TBSラジオ
国際巡回後援	テラ・アメリカ美術財団
作品件数	152件
来館者数	80,191名（目標50,000人、達成率：160.4%）
入場料金	一般1200円（1000円／900円）、大学生900円（700円／600円）、高校生700円（500円／400円）、中学生以下無料＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	91.4%
担当研究員数	3名

展覧会の内容	マルセル・デュシャン（1887 - 1968）は、伝統的な西洋芸術の価値観を大きく揺るがし、20世紀の美術に衝撃的な影響を与えた作家である。本展覧会の第1部「デュシャン　人と作品」では、フィラデルフィア美術館のデュシャン・コレクションより、油彩画、レディメイド、関連資料および写真を含む計150余点によって、創作活動の足跡を紹介した。第2部「デュシャンの向こうに日本がみえる。」では、もともと西洋とは異なった社会環境のなかで作られた日本の美術をデュシャンの作品と比べることによって、その意味や価値観を浮かび上がらせ、日本の美の楽しみ方を新たに提案した。
講演会等	「デュシャンの本質」マシュー・アフロン（フィラデルフィア美術館学芸員）　10月6日（土）　292名 トークショー「デュシャンの向こうに日本がみえる。」山田五郎（評論家）、松嶋雅人（当館研究員）　10月16日（火）堂　320名 JAZZと声明の調べ　10月5日(金)　560名

展覧会名	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」
会　　期	10月30日（火）　～12月25日（火）（50日間）
会　　場	東洋館8室
主　　催	東京国立博物館、北京画院、朝日新聞社
後　　援	外務省、文化庁、中国大使館、中国文化・観光部、北京市文化局、中国対外文化集団
作品件数	126件
来館者数	62,405名（目標25,000人、達成率：249.6%）
入場料金	無料
アンケート結果　満足度	―
担当研究員数	2名
展覧会の内容	日中平和友好条約の締結40周年を記念し、中国近代絵画の巨匠・斉白石の人と芸術を紹介する展覧会を開催した。斉白石（1864～1957）は、農家に生まれたが、画譜や古画を学び、写生に励んで画家として大成し、北京画院の初代名誉院長となった。現代中国で最も有名かつ人気のある画家の一人で、斉白石の作品126件を展示した。
講演会等	ギャラリートーク「斉白石作品鑑賞入門」　呉孟晋（京都国立博物館列品管理室主任研究員）　11月9日（金）163名 ギャラリートーク「斉白石の魅力」　植松瑞希（出版企画室研究員）　12月11日（火）170名

展覧会名	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」
会　　期	2019年1月16日(水)　～2月24日(日)　（35日間）
会　　場	平成館
主　　催	東京国立博物館、毎日新聞社、日本経済新聞社、NHK、NHKプロモーション
特別協賛	大和ハウス工業
協　　賛	信越化学工業、損保ジャパン日本興亜、トヨタ自動車、NISSHA、三菱商事
協　　力	内田洋行、台東区立書道博物館、毎日書道会
作品件数	177件
来館者数	198,920名（目標60,000人、達成率：331.5%）
入場料金	一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)中学生以下無料 ＊(　)内は前売り／20名以上の団体料金
アンケート結果　満足度	81.1%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	中国唐時代に活躍した顔真卿は、前世代の虞世南、欧陽詢、褚遂良という初唐の三大家の伝統を継承しながら、顔法と称される特異な筆法を創出し、後世にきわめて大きな影響を与えた。本展では、書の普遍的な美しさを法則化した唐時代に焦点をあて、顔真卿の人物や書の本質に迫った。また、後世や日本に与えた影響にも目を向け、唐時代の書の果たした役割を検証した。
講演会等	席上揮毫＆トーク「古典を受け継ぐ現代の書－世代をつなぐ筆墨の美－」仲川恭司（毎日書道会理事）、鬼頭墨峻（毎日書道会理事）、石飛博光（毎日書道会理事）　1月27日（日）321名 「顔真卿　王羲之を超えた名筆」　富田淳（学芸企画部長）　2月9日（土）309名

展覧会名	＜海外展＞江戸絵画名品展
会　　期	9月4日（火）～10月28日（日）(55日間)
会　　場	ロシア連邦・プーシキン美術館
主　　催	東京国立博物館、文化庁、プーシキン美術館
作品件数	135件
特別協力	千葉市美術館、板橋区立美術館
担当研究員数	2人
来館者数	126,948人
展覧会の内容	平成30年度が「ロシアにおける日本年」であることから、文化庁と東京国立博物館の所蔵品を中心に、千葉市美術館、板橋区立美術館、およびロシア所在の優品を加えて「江戸絵画名品展」を開催した。幕府御用絵師として江戸絵画の基調を確立した狩野探幽をはじめとする狩野派の作品、江戸時代中期の円山応挙、さらに浮世絵や琳派の作品を含む名品を展示した。
講演会等	なし

展覧会名	＜海外展＞縄文―日本における美の誕生
会　　期	2018年10月17日（水）～2018年12月8日（土）(38日間)
会　　場	フランス共和国・パリ日本文化会館
主　　催	東京国立博物館、文化庁、国際交流基金
協　　力	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
作品件数	64件

担当研究員数	3人
来館者数	14,806人
展覧会の内容	日仏友好160周年を記念し、日本文化を紹介する企画「ジャポニスム2018」がパリを中心に行われた。その機会にあわせて「縄文-日本における美の誕生ー」を開催し、日本美術の源流ともいえる縄文時代の作品の名品を紹介した。日本の芸術に造詣の深いフランス人に新鮮な驚きを与え、多くの人々を魅了した「JOMON」を、再びパリで展示する機会となった。
講演会等	なし

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　287日(名品ギャラリー開館日数： 149日、特別展（池大雅）開館日数：38日、特別展（京のかたな）開館日数：48日、庭園のみ開館日数：52日)
②展示総件数　1,038件
③展示替件数　1,021件
④入場料金　一般520円、大学生260円　※庭園のみ開館時は一般260円
⑤特集展示等：全9件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特集展示	新収品展	6月12日～7月16日	85件(国宝1件、重要文化財6件)
特集展示	謎とき美術！最初の一歩	7月21日～9月2日	15件（重要文化財2件）
特集展示	百萬遍 知恩寺の名宝	8月7日～9月9日	37件（重要文化財5件）
新春特集展示	亥づくしー干支を愛でるー	12月18日～31年1月27日	11件（重要文化財1件、重要美術品1件）
特集展示	京の冬景色	12月18日～31年1月27日	5件（国宝1件）
特集展示	美麗を極める中国陶磁	12月18日～31年1月27日	74件
特別企画	中国近代絵画の巨匠　斉白石	31年1月30日～3月17日	126件（件）
特集展示	初公開！天皇の即位図	31年1月30日～3月17日	8件（件）
特集展示	雛まつりと人形	31年2月13日～3月17日	43件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「池大雅　天衣無縫の旅の画家」
会　　期	4月7日(土)～5月20日(日)（38日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社
協　　賛	清水建設、大和ハウス工業、野崎印刷紙業、非破壊検査
協　　力	日本香堂
作品件数	162件（うち国宝3件、重要文化財15件）
来館者数	67,399人（目標来館者数70,000人・達成率96.3%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
アンケート結果　満足度	満足度90.2%
講演会等	・記念講演会 4月 7日「自由な魂を求めて―池大雅の憧れた文人的世界―」講師：佐々木丞平（京都国立博物館 館長） 4月14日「西湖への憧れ―大雅の名勝図を体感する―」講師：出光佐千子氏（青山学院大学准教授/出光美術館学芸員） 4月21日「旅する画家の絵」講師：福士雄也（京都国立博物館 研究員） 4月28日「池大雅の絵画―あるいは卵の殻と黄身との関係―」講師：佐藤康宏氏（東京大学大学院 教授） 5月12日「大雅と蕪村―十便十宜図を中心に―」講師：小林忠氏（岡田美術館 館長）

展覧会名	特別展「京のかたな　匠のわざと雅のこころ」
会　　期	9月29日(土)～11月25日(日)（50日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿
後　　援	京都市観光協会
協　　賛	岩谷産業、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、野崎印刷紙業、パナソニック
特別協力	公益財団法人日本美術刀剣保存協会
協　　力	ニトロプラス、日本香堂
作品件数	200件（うち国宝21件、重要文化財71件）
来館者数	253,003人（目標来館者数80,000人・達成率316.3%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	満足度97.7%
講演会等	・記念講演会 9月29日「京のかたな」講師：渡邉 妙子 氏（佐野美術館 館長） 10月 6日「京のかたなⅠ－古刀―」講師：末兼俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 10月13日「京鍛冶の黄金期―粟田口から来派へ―」講師：原田一敏氏（ふくやま美術館 館長） 10月20日「日本刀の源流―日本の原始古代刀―」講師：古谷毅（京都国立博物館 主任研究員） 10月27日「京のかたなⅡ－新刀―」講師：末兼俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 11月 3日 対談「『京のかたな』総まとめ」 登壇者：橋本麻里氏（美術ライター/永青文庫 副館長）×末兼俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 11月10日「合戦絵巻と武器・武具の研究」講師：井並林太郎（京都国立博物館 研究員）

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：321日(名品展のみの開館日数：213日)
②展示総件数：462件
③展示替件数：232件
④入場料金：一般　520円　大学生　260円
⑤特別陳列等：全124件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）141件
　珠玉の仏教美術（西新館）187件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）9件
　中国古代青銅器（青銅器館）124件

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術―特集　大宿所―	12月11日～31年1月20日	35件
特別陳列	お水取り	31年2月8日～3月14日	68件（重要文化財20件）
特別陳列	覚盛上人770年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興	31年2月8日～3月14日	21件（重要文化財12件）

(2)特別展、共催展等

展覧会名	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」
会　　期	4月14日(土)～6月10日(日)（51日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、春日大社、朝日新聞社、ＮＨＫ奈良放送局、ＮＨＫプラネット近畿
特別協賛	―
協　　賛	ダイキン工業、竹中工務店、天理時報社、福寿園
特別協力	―
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	224件（うち国宝57件、重要文化財47件）
来館者数	95,950人(目標来館者数 50,000人・達成率192.0%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	87.7%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	神護景雲二年（768）の創建より1250年を迎える春日大社の歴史を、数多の社宝や春日信仰の生み出した美術工芸品によって辿った。展示を通じて、平城京の鎮護として創建され、藤原氏の氏の社として発展し、朝廷から庶民に至るまで広く信仰を集めた春日大社の歴史をたどり、多くの社宝や関連作品により、その全容を示した。国宝57件、重要文化財47件を含む224件の関連作品を展示した。
講演会等	○公開講座 4回　参加者数合計　474人 4月14日(土)「創建1250年　春日大社のすべて」花山院弘匡（春日大社宮司）/ 参加者数　112人 4月21日(土)「春日権現験記絵と解脱房貞慶」高橋悠介（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授）/ 参加者数　116人 5月12日(土)「春日大社伝来甲冑の特質」宮崎隆旨（元奈良県立美術館長）/ 参加者数　121人 5月26日(土)「春日をめぐる神仏と造形」清水健（工芸考古室長）/ 参加者数　125人 ○関連フォーラム 1回　参加者数合計　400人 4月30日（月・祝）創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」関連フォーラム「まほろばの神と仏と祈り」/参加者数　400人 ○展覧会関連イベント 1回　参加者数合計　-人 6月6日(水)「せんとくんが奈良博にやってくる」 / 参加者数　-人

展覧会名	修理完成記念特別展「糸のみほとけ ―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏―」
会　　期	7月14日(土)～8月26日(日)（40日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館、読売テレビ、日本経済新聞社
特別協賛	―
協　　賛	ライブアートブックス
特別協力	當麻寺、川島織物セルコン
協　　力	繡匠 樹田紅陽、凸版印刷、日本香堂、日本航空、仏教美術協会
作品件数	138件（うち国宝9件、重要文化財35件）
来館者数	45,175人(目標来館者数50,000人・達成率90.4%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	95.9%
担当研究員数	3名

展覧会の内容	国宝 綴織當麻曼荼羅（奈良・當麻寺）の修理完成を記念し、わが国で古代より作成されてきた綴織と刺繍による仏の像を一堂に集めて展示を行い、その歴史と背景にある信仰に迫った。国宝9件、重要文化財35件を含む138件の関連作品を出陳し、特に天寿国繍帳、綴織當麻曼荼羅、刺繍釈迦如来説法図の国宝3点とイギリス・大英博物館所蔵の刺繍釈迦如来説法図を同時に展示するなど、絵画とも違う「糸」の仏の世界の魅力を発信した。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　533人 7月21日(土)「国宝綴織當麻曼荼羅―その図様と意義」大西磨希子（佛教大学教授）/ 参加者数　169人 8月 4日(土)「繍仏の世界―刺繍釈迦如来説法図（奈良国立博物館蔵）を中心に」内藤栄（学芸部長）/参加者数　170人 8月11日(土)「飛鳥から奈良時代における刺繍と金糸の技法の変遷」沢田むつ代（東京国立博物館客員研究員）/ 参加者数　194人 ○夏季講座 1回　参加者数合計　478人 8月22日（水）～24日（金）夏季講座「素材から探る仏像のひみつ」/ 参加者数　478人 ○展覧会関連イベント 4回　参加者数合計　80人及び自由参加 7月14日(土)～8月26日(日)一般作品公募・展示「オリジナル手芸作品展示コーナー」/ 参加者数　-人 7月22日(日)綴織実演 / 参加者数　-人 7月29日(日)親子向けワークショップ「織ってみよう！糸のみほとけ」奈良教育大学大学院生 / 参加者数　65人 7月29日(土)大人向けワークショップ「天寿国繍帳の繍い方を体験しよう！」樹田 紅陽（刺繍工芸家）/参加者数　15人

展覧会名	第70回正倉院展
会　　期	10月27日（土）～11月12日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、ＮＴＴ西日本、関西電気保安協会、キヤノン、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、ＪＲ東海、ＪＲ西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、大和ハウス工業、白鶴酒造、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	ＮＨＫ奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
作品件数	56件
来館者数	245,832人(目標来館者数180,000人・達成率136.6%)
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
アンケート結果　満足度	85.9%
担当研究員数	4名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物56件を公開する。
講演会等	○公開講座 3回　参加者数合計　375人 10月27日(土)「鳥兜様の楽帽の復元について」山片唯華子（宮内庁正倉院事務所保存課調査室主任研究官）/参加者数　109人 11月 4日(日)「月借銭のしくみ―古代の官営高利貸―」栄原永遠男（大阪市立大学名誉教授）/参加者数　147人 11月10日(土)「正倉院三彩10話―正倉院に伝わる二彩・三彩陶器の特徴と謎―」吉澤悟（列品室長）/ 参加者数　119人 ○シンポジウム 1回　参加者数合計　227人 11月3日（土・祝）正倉院学術シンポジウム2018「正倉院宝物と新羅」/ 参加者数　227人 ○展覧会関連イベント 2回　参加者数合計　160人及び自由参加 10月27日(土)～11月12日(月) 正倉院展短歌コンクール受賞作品展示　/ 参加者数　-人 10月28日(日) 第70回正倉院展親子鑑賞会 / 参加者数　160人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数 311 日(うち平常展のみ開館日数 143 日) ＊7/7 は大雨のため休館、10/6 は台風のため休館
②展示総件数：1,995 件(うち国宝 52 件、重要文化財 233 件)
③展示替件数：1,779 件
④入場料金：一般 430 円、大学生 130 円
⑤特集展示・特別公開等：全 9 件

展示名称	特集展示　災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～				
開催期間	3 月 13 日(火)～ 5 月 6 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 1 室	陳列件数（うち 指定品件数）	15 件
内容	熊本地震から 2 年の節目を迎え、熊本における地震の歴史を振り返るとともに被災文化財レスキューの取り組みを紹介した。				
展示名称	特集展示　茶の湯を楽しむⅧ　博多文琳と黒田家の茶道具				
開催期間	4 月 10 日(火)～ 6 月 3 日(日)	開催場所	文化交流展示室 第 10 室	陳列件数（うち 指定品件数）	20 件
内容	名宝「博多文琳」をはじめ茶入の名品を中心に、福岡藩主黒田家に伝来した茶道具を紹介した。				
展示名称	特集展示　京都・仁和寺観音堂の千手観音像とその仲間たち				
開催期間	7 月 3 日(火)～	開催場所	文化交流展示室	陳列件数（うち	5 件

	9月2日(日)		第11室	指定品件数)	
内容	仁和寺・観音堂の修理事業が完了することを記念し、本尊千手観音像をはじめとする脇侍・眷属像33軀を一堂に公開した。				
展示名称	特集展示　国宝　銅鐸絵画				
開催期間	7月10日(火)～ 9月2日(日)	開催場所	文化交流展示室 第1室	陳列件数（うち 指定品件数）	8件（うち国宝8件）
内容	中学校の教科書に必ず登場する「絵画銅鐸」3点を含む国宝桜ヶ丘銅鐸14点・銅戈7点を一堂に公開した。				
展示名称	特集展示　全国高等学校　考古名品展2018				
開催期間	7月21日(土)～ 9月9日(日)	開催場所	文化交流展示室 第3室	陳列件数（うち 指定品件数）	52件（うち重文3件）
内容	各地の高等学校保管考古資料の名品とともに高校生の考古学研究活動を紹介した。				
展示名称	特集展示　坂本五郎コレクション受贈記念　北斎と鍋島、そして				
開催期間	9月12日(水)～ 10月21日(日)	開催場所	文化交流展示室 第1室、9室、10室、11室	陳列件数（うち 指定品件数）	106件（うち重文30件）
内容	坂本五郎氏が収集した陶磁器・書跡・絵画・彫刻などの名品259件の寄贈を記念し、一挙公開した。				
展示名称	特集展示　大宰府史跡発掘50年記念　大宰府研究の歩み				
開催期間	9月12日(水)～ 12月23日(日･祝)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室3テーマ、第7室	陳列件数（うち 指定品件数）	31件（うち重文2件）
内容	大宰府研究のこれまでの歩みを、特別史跡「大宰府跡」「大野城跡」「水城跡」の記録や出土品から紹介した。				
展示名称	特集展示　平戸松浦家伝来の伊能図				
開催期間	10月30日(火)～ 12月23日(日･祝)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数（うち 指定品件数）	27件（うち国宝2件）
内容	伊能忠敬没後200年を記念して、平戸藩主・松浦家に伝来した伊能図を公開し、忠敬の功績を紹介した。				
展示名称	特集展示　玉 ―古代を彩る至宝―				
開催期間	31年1月1日(火･祝) ～ 2月24日(日)	開催場所	文化交流展示室 第3室	陳列件数（うち 指定品件数）	93件
内容	シルクロードを通じて、地中海沿岸からも運ばれた古墳時代の玉の数々を紹介した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「王羲之と日本の書」			
会　　期	2月10日(土)～4月8日(日)（50日間＊年度では7日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本			
作品件数	116件(うち、国宝26件、重要文化財18件、重要美術品4件)			
来館者数	70,110人(目標来館者数40,000人・達成率175.3%) ※全会期中の人数			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果　満足度	89.6%			
講演会等	2回　参加者合計　550人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	2月10日	リレー講座「王羲之と日本の書」 「王羲之愛好と書の魅力」	館長　島谷弘幸	300人
	2月17日	リレー講座「王羲之と日本の書」 「古い筆跡たちのささやき」	学芸部文化財課資料登録室長　丸山猶計	250人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	2月10日～4月8日までの金曜・土曜日（17日間）	プレゼント企画 夜間開館 × 特別展「王羲之と日本の書」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！		1,370人
	2月11日	【第1回】席上揮毫会（書のデモンストレーション） 出演：黒田賢一先生、陣軍陽先生、岩田海道先生		513人
	2月12日	九州国立博物館杯 特別展「王羲之と日本の書」記念 第10回さいふごま大会		40人
	2月18日	【第2回】席上揮毫会（書のデモンストレーション） 出演：髙木聖雨先生、吉田成美先生、吉村宣枝先生		530人
	2月23日	特別展「王羲之と日本の書」関連イベント 「つづけ字しおりワークショップ」		60人
	3月5日 ～3月8日	書聖　王羲之と日本の書　開催記念 九州国立博物館の島谷館長と行く王羲之の故郷を訪ねる旅		34人
	3月18日	高校生書道パフォーマンス		―人
	3月13日 ～3月18日	「九州の現代書壇展」 「西日本書美術協会選抜作家展」		―人
	3月20日 ～3月25日	「九州の現代書壇展」 「西部毎日書道会選抜作家展」		―人
	3月27日 ～4月1日	日中国交正常化45周年記念書道展		―人
	3月27日 ～4月1日	「九州の現代書壇展」 「日本書芸院九州・沖縄選抜作家展」		―人

	4月3日 ～4月8日	「謙慎書道会　九州・沖縄選抜作家展」	ー人

展覧会名	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」			
会　　期	5月19日(土)～7月16日(月･祝)（54日間）＊7/7は大雨のため休館			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州			
作品件数	64件			
来館者数	198,489人(目標来館者数120,000人・達成率165.4%)			
入場料金	一般1,600円、高大生900円、小中生500円			
アンケート結果　満足度	84.8%			
講演会等	2回　参加者合計276人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	5月19日	印象派の至宝を楽しむ。ビュールレ・コレクションの名画の数々	名古屋市美術館副館長　深谷克典	220人
	6月15日	しっとこ九博 至上の印象派展～ビュールレ・コレクション～解説講座	学芸部特任研究員　臺信祐爾	56人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	5月19日～7月16日	「びじゅチューン！」ぬりえ持参でプレゼント！企画		―
	5月19日～7月16日	ニコライバーグマン作品展示		―
	5月19日～7月16日までの毎週金土	＜夜間来場者プレゼント企画＞ 特別展「ビュールレ・コレクション」夜間開館Ｂ3ポスタープレゼント		―
	5月19日～7月16日までの金曜・土曜日（17日間）	夜間開館×特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！		5,996人
	5月20日	Eテレ「ガールズクラフト」スペシャルワークショップ		86人
	5月24日	「至上の印象派展 ビュールレ・コクション」×ＫＢＣシネマタイアップ　印象派シネマナイト第1回「セザンヌと過ごした時間」		59人
	5月25日～7月16日	特別展「ビュールレ・コレクション」フォトポイントパネル設置		―
	5月31日	「至上の印象派展 ビュールレ・コクション」×ＫＢＣシネマタイアップ　印象派シネマナイト第2回「ゴッホ　最期の手紙」		110人
	6月1日～30日	特別展「ビュールレ・コレクション」しおり配布		―
	6月2日	びじゅチューン！「井上涼の印象派ライブ in 福岡」		530人
	6月10日	特別展「ビュールレ展」記念 九州国立博物館杯第11回さいふごま大会		40人
	6月11日、25日、7月9日	特別展「ビュールレ・コレクション」月曜日来場Ｂ3ポスター配布		―
	7月1日～12日	特別展「ビュールレ・コレクション」オリジナルシール配布		―

展覧会名	［明治150年記念］ 特別展「オークラコレクション」			
会　　期	10月2日(火)～12月9日(日)（59日間）＊10/6は台風のため休館			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＴＶＱ九州放送			
作品件数	112件(うち、国宝3件、重要文化財10件、重要美術品16件)			
来館者数	63,069人(目標来館者数40,000人・達成率157.7%)			
入場料金	一般1,500円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果　満足度	83.5%			
講演会等	2回　参加者合計　150人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	10月8日	記念講演会 「大倉集古館の近世絵画―狩野派、琳派など魅力の作品群をめぐって―」	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	70人

	10月13日	記念講演会 「大倉集古館―日本最初の美術館はなぜできた？」	学芸部長　小泉惠英	80人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	10月21日	特別展「オークラコレクション展」記念 九州国立博物館杯第12回さいふごま大会		60人
	11月3日	「オークラウロ」カクテルコンサート		46人
	11月4日	オークラウロ・コンサート 男爵・大倉喜七郎が作った楽器「オークラウロ」を九博で演奏！		217人
	10月2日～12月9日までの金曜・土曜日（19日間）	夜間開館×特別展「オークラコレクション」梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！		1,097人

展覧会名	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」			
会　　期	31年1月29日(火)～3月24日(日)（48日間）			
会　　場	九州国立博物館　特別展示室			
主　　催	総本山醍醐寺、九州国立博物館・福岡県、ＴＶＱ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社、ＢＳテレビ東京			
作品件数	104件(うち、国宝32件、重要文化財49件)			
来館者数	74,748人(目標来館者数70,000人・達成率　106.8%)			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果　満足度	89.0%			
講演会等	2回　参加者合計　　334人			
	講座			
	期日	講座名	所属・講師	参加者
	12月8日	アクロス・文化学び塾 「醍醐寺探訪 － 空海から秀吉まで － 」	学芸部文化財課主任研究員　森實久美子	72人
	31年2月9日	リレー講座「醍醐寺展をより楽しむための醍醐味講座」 「じっくり味わう醍醐寺の仏画」 「ホットでクールな醍醐寺の彫刻」	学芸部文化財課主任研究員　森實久美子 展示課長　楠井隆志	262人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	31年 1月29日	総本山醍醐寺　声明コンサート		250人
	31年 2月3日	節分　限定イベント		1,000人
	31年 2月16日	「ニッポンの力」　スペシャルゲスト　ラグビー選手　五郎丸歩トークショー		340人
	31年 2月17日	特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」記念 第13回さいふごま大会		80人
	31年 2月21日、 2月26日	お坊さんトーク 講師：別格本山 阿弥陀院(真言宗醍醐派)　浅井戒仁師		350人
	31年1月29日～3月24日までの金曜・土曜日（16日間）	夜間開館×特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」記念品プレゼント		1,299人

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：307日（平常展のみの開館日数：182日）
②展示総件数：560件
③展示替回数：0回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：53,775人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	夏期企画展(こども展示)　「たいけん！なぶんけん」		
会　　期	30年７月21日（土）～９月２日（日）(37日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	100件（0件）
来館者数	9,205人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク６回・参加者数合計200人		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展ー荷札木簡をひもとくー」		
会　　期	30年10月13日（土）～11月25日（日）（38日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	84件（国宝26件）
来館者数	15,853人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク3回・参加者数合計172人		

展覧会名	新春ミニ展示「平城京の亥」		
会　　期	31年1月4日（金）～1月27 日（日）（21日間）	会　場	平城宮跡資料館　入口ロビー
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	2件（0件）
来館者数	4,576人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	冬期企画展「発掘された平城　2017・2018」		
会　　期	31年2月2日（土）～3月31 日（日）（50日間）	会　場	平城宮跡資料館　入口ロビー
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	100件（0件）
来館者数	11,725人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク4回・参加者数合計119人		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：357日
②展示総件数：534件
③展示替回数：7回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：3件
⑥平常展来館者数　：8,270人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
山田寺の調査（飛鳥藤原第188-11次）	6月29日～31年 3月31日	瓦3、土器2
山田道の調査（飛鳥藤原第193次、第194次）	6月29日～31年 3月31日	土器（須恵器、土師器）43、木製弓（実物大）写真パネル1
飛鳥寺北方の調査（飛鳥藤原第188-19次、第192-1次、第192-9次）	6月29日～31年 3月31日	瓦（文字瓦2、軒丸瓦10、軒平瓦4、鴟尾2）、塼2

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：304日（平常展のみの開館日数：117日）
②展示総件数：136件
③展示替回数：2回
④入場料金：一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料　※（　）は20名以上の団体
⑤平常展のみの来館者数：7,423人

(2)特別展、企画展等：4件

展覧会名	春期特別展「あすかの原風景」		
会　　期	4月27日（金）～7月1日（日）（58日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	63点（0件）
来館者数	8,816人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ウォークイベント1回　参加者数合計11人		

展覧会名	夏期企画展「第9回写真コンテスト「飛鳥のいきもの」」		
会　　期	7月27日（金）～ 9月2日（日）（33日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	122点（0件）
来館者数	2,428人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	ー		

展覧会名	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房ー日韓の技術交流を探る」		
会　　期	10月5日（金）～12月2日（51日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	600件（0件）
来館者数	7,492人		
入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体		
講演会	曲物イベント1回　参加者数17人		

展覧会名	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」		
会　　期	31年1月25日（金）～3月17日（日）（45日）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	350点（0件）
来館者数	3,117人		

入場料金	一般270円（170円）　大学生130円(60円)　高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※（　）は20名以上の団体
講演会	ー

b ボランティア受入実績

1　受入人数

平成31年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
1,025人	149人	264人	159人	295人	158人

2　活動内容

【東京国立博物館】　計149人

種別　（登録人数）	概　　要
生涯学習ボランティア （144人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」実施（通年） ・学校向けワークショップ補助（通年） ・ファミリー向けワークショップ補助（通年） ・一般向けワークショップ補助（通年） ・工程見本展示鑑賞補助　（通年） ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施（通年） ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施（通年） ・日本文化体験補助（通年） 【保存修復事業の補助（平成30年度は休止）】 【館内案内】 ・本館 1階エントランス、2階、17室(通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導(通年) 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（通年） ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷（通年） ・たんけんマップの作成・印刷（通年） 【職場体験実施活動補助】 受入数：20校　生徒数：63人　（中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（36人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(7冊) ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用（通年） ・触知図を使用した館内案内（通年） ・盲学校のためのスクールプログラムの実施（通年） 【各種連携事業】 ・「キッズデー」（8月5日）内プログラム アートスタジオ、刀剣・武士の装いツアー、考古展示室ガイド、ワークショップ補助、キッズコーナー補助 ・「留学生の日」(10月13日)内プログラム ボランティアによる茶会、たてもの散歩ツアー、考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、刀剣・武士の装いツアー、英語ガイド、浮世絵ガイド（日本語・中国語）実施、館内案内 ・「博物館でアジアの旅」(9月4日～9月30日)内プログラム たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、考古展示室ガイド、東洋館ツアー ・「博物館でお花見を」（平成30年4月1日～8日、平成31年3月12日～31日内プログラム） 樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、東洋館ツアー、英語ガイド、近代の美術ガイド、庭園茶室ツアー、法隆寺宝物館ガイド、アートスタジオ、浮世絵ガイド、お茶会、彫刻ガイド、陶磁ガイド、考古展示室ガイド、刀剣・武士の装いツアー 【ボランティアデー開催】 ・ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、東洋館ツアー、英語ガイド、近代の美術ガイド、庭園茶室ツアー、法隆寺宝物館ガイド、アートスタジオ、浮世絵ガイド、お茶会、彫刻ガイド、陶磁ガイド、考古展示室ガイド、刀剣・武士の装いツアー、通常活動の実施。（12月1・2日） 2)来館者参加型ガイドツアー等の実施363回13,739人 自主企画プログラム（予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数） ・樹木ツアー　23回664人参加 ・浮世絵ガイド　20回932人 ・本館ハイライトツアー　38回1,895人 ・法隆寺宝物館ガイド　27回1,275人

種別 （登録人数）	概　　要
	・考古展示室ガイド　30回1,524人 ・陶磁ガイド　14回468人 ・庭園茶室ツアー　13回227人 ・お茶会　26回391人 ・彫刻ガイド　40回1,809人 ・英語ガイド　32回1,002人（留学生の日の定点ガイド含む） ・アートスタジオ　9回306人 ・たてもの散歩ツアー　33回1,122人 ・近代の美術ガイド　10回388人 ・東洋館ツアー　28回830人 ・刀剣・武士の装いツアー　14回732人 ・ボランティア活動紹介ツアー　6回184人
東京芸術大学大学院インターンシップ (5人)	当館研究員と東京芸術大学大学院生が連携し準備、事業を行った。学生の貴重な経験や研究の一助となり、かつ、来館者にとっても展示についての理解を深めるきっかけとなった。 【ギャラリートーク(研究発表)班】5人（1人辞退） 総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計24回、814人】 「『揺銭樹』にみる古代中国・四川地域の死生観」　6回、210人 「落合芳幾『五節句』にみる江戸の文化」6回、220人 「浅井忠『グレーの秋』」6回、165人 「『色絵月梅図茶壺』の魅力に迫る」6回、219人 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1（3）①3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】　計55回
- ・新規ボランティア研修　3回
- ・基本活動関連研修　24回
- ・活動紹介ツアー研修　8回
- ・バリアフリー班研修　7回
- ・イベント班研修　1回
- ・ワークショップ班研修　5回
- ・スクールプログラム班研修　7回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】（以下の展示等につき実施）　計3回
- ・特別展「名作誕生-つながる日本美術」
- ・特別展「縄文-1万年の美の鼓動」
- ・特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」

【京都国立博物館】　計264人

種　別 （登録人数）	概　　要
京博ナビゲーター（202人）	京博ナビゲーター（ボランティア）が、下記の活動を行った ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動（年始を除く名品ギャラリー開室日毎日、145日、概算28,710人）※9/4は台風接近により活動休止 ・特別展「池大雅」関連ワークショップ「指で描こう！指墨画にチャレンジ」（38日、5,427人参加） ・特別展「京のかたな」関連ワークショップ「まぢかで見よう！はじめての刀」（49日、11,471人参加）※9/30は台風接近により活動休止 ・教育普及活動の補助（夏期講座） そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会（4回）を実施した。
調査・研究支援ボランティア(28人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(19人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（20回）を受けたのち、京都市内の小中学校訪問授業において下記の通り講師をつとめた。（7回・537人） 6月13日（京都市立樫原小学校）、7月18日（京都市立梅津北小学校）、9月18日（京都市立岩倉南小学校）、10月5日（京都市立西京極西小学校）、10月23日（京都市立高雄中学校）、11月21日（京都市立花園小学校）、12月20日（京都市立翔鸞小学校）
京都・らくご博物館学生ボランティア（15人）	当館主催で定期的に開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】　計159人

種　別 （登録人数）	概　　要
世界遺産グループ(52人)	【世界遺産学習】 奈良市の公立小学校5年生の受け入れ　26校　1,791人 【学校団体案内】 ・幼稚園、小学生、中学生、高校生　13校　747人 【イベント補助】 ・奈良市教育委員会との共催イベント「親子で学ぼう 奈良の仏像」　2回　50組118人参加
解説グループ(56人)	【通年の活動】

	・青銅器館のデスクでの質問対応　　通年（423回） ・地下回廊のデスクでの質問対応　　132回 ・なら仏像館のデスクでの質問対応　　通年（1059回） ・西新館名品展のデスクでの質問対応と解説　120回 【展示案内】 ・なら仏像館定時ツアー解説　通年（417回） ・特別陳列「お水取り」ミニツアー解説(27回) 【その他、予約による解説実施】　3件（※30年7月より受付を停止） 【中学生職場体験　館内案内】　　1件
サポートグループ（51人）	【教育普及事業の補助】 ・公開講座の受付　　13回 ・サンデートークの受付　12回 ・夏季講座の受付　　3日 【イベントの補助】 ・イベント「春日ウォーク～行って楽しむ！春日大社のすべて～」　受付と補助　1回 ・親と子のワークショップ「綴ってみよう！糸のみほとけ」　受付と補助　1回 ・イベント「天寿国繡帳の繡い方を体験しよう」　受付と補助　1回 ・イベント「仏像を撮ってみよう！」　受付と補助　1回 ・親子ワークショップ「オリジナルうちわ作り」　受付と補助　1回 ・アンケート調査　受付と補助　19回 ・第70回正倉院展親子鑑賞会　受付と補助　1回 ・「文化財保存修理所特別公開」受付と補助　1回 ・お水取り「講話」と「粥」の会　受付と補助　1回 【館及びボランティア室の業務の補助】 ・第70回夏季講座の配布資料袋詰め作業　1回 ・正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業　1回 ・ボランティア対象の各種研修等の受付　20回 【交流チームの活動】 ・H30年度ボランティア親睦会　131人（参加数） ・なら仏像館定時ツアー解説体験会の実施　1回 【庭園チームの活動】 ・秋の茶室庭園散策ツアーの立案と実施　2日　69人 ・仏教美術資料研究センター公開の立案と実施　2日　1926人 【通信誌チームの活動】 ・ボランティア通信誌「ブリッジ」発行　3回

【ボランティアに対する研修の実施】　計22回
　・名品展研修　17回
　・特別展、特別陳列、特集展示の研修　5回
【グループ別の勉強会の実施】計25回
　・世界遺産グループ　　9回
　・解説グループ　　7回
　・サポートグループ　　9回
【各グループ共通の活動】
　・第70回正倉院展・講堂ボランティア解説　17日　77回

【九州国立博物館】　計295人

種　別　（登録人数）	概　　要
展示解説ボランティア(65人)	文化交流展示室での案内、及び展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(35人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア(28人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語案内ボランティア(64人)	英語・韓国語・中国語での館内ガイド。
環境ボランティア(30人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア(3人)	ボランティア主催イベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア(17人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア(13人)	ボランティア広報紙の作成（年４回）やボランティアイベント等の活動をサポート。 他部会との交流や、他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。
学生ボランティア(6人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。
フィールドボランティア（12人）	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。

種　別　（登録人数）	概　　要
手話ボランティアグループ（22人）	聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動（NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない）。
(研修)全体研修　4回、部会別研修　40回、グループ研修　40回
(対応来館者数) 展示解説(6,840人)、館内案内(9,342人)、バックヤードツアー(2,928人)

【奈良文化財研究所】　計158人

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（158人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
　平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修　8回
　解説ボランティア向け現地説明会　2回
　解説ボランティア勉強会　10回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1） 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

平成31年3月31日現在

<table>
<tr><td rowspan="5">386 人</td><td>博物館計</td><td>東京国立博物館</td><td>京都国立博物館</td><td>奈良国立博物館</td><td>九州国立博物館</td></tr>
<tr><td>126 人</td><td>79 人</td><td>14 人</td><td>12 人</td><td>21 人</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>188 人</td><td colspan="2">24 人</td><td colspan="2">164 人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="2">文化財防災ネットワーク推進本部</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">54 人</td><td colspan="2">18 人</td><td></td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　79人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	鄭　智威	中国	北京画院・美術館副館長	特別展「中国近代絵画の巨匠　斉白石」にかかる意見交換及び会場視察のため	4 月 22 日～4 月 27 日
2	劉　瑋治	同上	北京画院・弁公室主任	同上	同上
3	王　亜民	同上	故宮博物院・常務副院長	東京国立博物館・北京故宮博物院間の文化財の展示方法、施設管理に関する情報交換、関連文化財施設との交流・協力関係の推進のため	6月9日～6月14日
4	楊　暁波	同上	故宮博物院・経営管理処処長	同上	同上
5	張　光耀	同上	故宮博物院・展覧部主任	同上	同上
6	馮　輝	同上	故宮博物院・文創事業部主任	同上	同上
7	劉　輝	同上	故宮博物院・出版部副主任	同上	同上
8	董　丹	同上	故宮博物院・外事処科長	同上	同上
9	朴　永萬	同上	韓国国立中央博物館・学芸研究室保存科学部学芸員	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	6月28日～7月11日
10	Sharon Hildebrand	アメリカ	フィラデルフィア美術館・展示担当責任者	「マルセル・デュシャンと日本美術」にかかる輸送及び展示作業のため	9月18日～9月29日
11	Cynthia Albertson	同上	フィラデルフィア美術館・アシスタンコンサバター	同上	9月20日～9月29日
12	Wynne Kettell	同上	フィラデルフィア美術館・レジスタラー	同上	9月22日～9月30日
13	Mattew Affron	同上	フィラデルフィア美術館・キューレター	「マルセル・デュシャンと日本美術」にかかる開会式・合同特別内覧会出席のため	9月28日～10月7日
14	Alice Beamesderfer	同上	フィラデルフィア美術館・副館長	同上	9月30日～10月6日
15	Timothy Rub	同上	フィラデルフィア美術館・館長	同上	9月30日～10月4日
16	劉　宝華	中国	北京画院・党委書記	「中国近代絵画の巨匠　斉白石」展にかかる展示作業のため	10月21日～10月26日
17	鄭　智威	同上	北京画院・美術館副館長	同上	同上
18	孫　嘉昌	同上	北京画院・芸術部典蔵	同上	同上
19	李　燕	同上	北京画院・弁公室主管	同上	同上
20	黄　暁鋼	同上	中国対外文化集団公司・総経理	「中国近代絵画の巨匠　斉白石」展にかかる開幕式出席のため	10月28日～11月1日
21	陳　向寧	同上	中国対外文化集団公司・国際一部総監	同上	同上
22	庄　庄	同上	中国対外文化集団公司・項目経理	同上	同上
23	呉　洪亮	同上	北京画院・副院長	同上	同上
24	郭　宝君	同上	北京画院・創作室主任	同上	同上
25	楽　祥海	同上	北京画院・芸術部主任	同上	同上
26	陳　斌	同上	北京画院・弁公室主任	同上	同上
27	朴　娟嬉	韓国	韓国国立中央博物館・教育文化交流団教育課	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	11月19日～12月2日
28	羅　元欣	中国	北京画院・美術館副主任	「中国近代絵画の巨匠　斉白石」展にかかる展示替え作業のため	11月24日～11月28日
29	張　元貴	同上	北京画院・弁公室主管	同上	同上
30	陶　怡霖	同上	北京画院・理論研究部編務	同上	同上
31	徐　方円	同上	中国上海博物館文物保護中心・副研究館員	東京国立博物館・中国上海博物館間の学術交流のため	11月26日～11月30日
32	沈　敬一	同上	中国上海博物館文物保護中心・館員	同上	同上
33	金　靖之	中国	中国上海博物館・展覧部館員	特別展「董其昌の書画芸術」にかかる点検・輸送のため	11月27日～12月1日
34	劉　一聞	同上	中国上海博物館・書画部研究館員	同上	同上
35	魏　崴	同上	中国上海博物館・書画部助理館員	同上	同上
36	Cynthia Albertson	アメリカ	フィラデルフィア美術館・アシスタンコンサバター	「マルセル・デュシャンと日本美術」にかかる輸送及び撤収作業のため	12月7日～12月12日
37	Wynne Kettell	同上	フィラデルフィア美術館・アシスタンコンサバター	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
38	Sharon Hildebrand	アメリカ	フィラデルフィア美術館・展示担当責任者	「マルセル・デュシャンと日本美術」にかかる輸送及び撤収作業のため	12月7日～12月14日
39	李　蘭	中国	中国上海博物館・書画研究部副主任副研究館員	東京国立博物館・中国上海博物館間の学術交流のため	12月10日～12月19日
40	奇　潔	同上	北京画院・理論研究部副主任	「中国近代絵画の巨匠　斉白石」展にかかる撤収作業のため	12月23日～12月28日
41	李　瓊	同上	北京画院・芸術部典蔵	同上	同上
42	王　煥然	同上	北京画院・美術館策劃	同上	同上
43	顔　暁軍	同上	中国上海博物館・書画研究部館員	特別展「董其昌の書画芸術」にかかる点検・返却のため	12月25日～12月28日
44	張　潔	同上	中国上海博物館・文化交流弁公室館員	同上	12月25日～12月28日
45	何　碧琪	同上	香港中文大學文物館・副研究員	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」にかかる展示作業のため	31年1月8日～1月12日
46	劉　芳如	台湾	國立故宮博物院・書画処処長	同上	同上
47	陳　建志	同上	國立故宮博物院・書画処助理研究員	同上	同上
48	姚　進莊	中国	香港中文大學文物館・館長	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」にかかる開幕式出席のため	31年1月14日～1月15日
49	何　鑒菲	同上	北山堂基金・助理總監	同上	31年1月14日～1月19日
50	耿　東昇	同上	中国国家博物館・研究院陶磁研究所所長	日本・中国間の文化交流および東洋における古代陶磁器に関する研究情報の交換と協力関係の推進を図るため	31年1月15日～2月28日
51	孫　丹妍	同上	中国上海博物館・書画研究部副研究館員	特別展「董其昌の書画芸術」にかかる点検・返却のため	31年1月24日～1月29日
52	金　靖之	同上	中国上海博物館・展覧部館員	同上	同上
53	ウンベルト・パッパラルド	イタリア	スオル・オルソラ・ベニンカサ大学	ポンペイ展に関する打ち合わせと会場視察	31年2月2日～2月10日
54	ロザリア・カルディエロ	同上	スオル・オルソラ・ベニンカサ大学	同上	31年2月2日～2月10日
55	陳　韵如	台湾	國立故宮博物院　書画処副研究員	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」にかかる撤収作業のため	31年2月23日～2月27日
56	張　華芝	同上	國立故宮博物院　書画処副研究員	同上	同上
57	何　碧琪	中国	香港中文大學文物館　副研究員	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」にかかる撤収作業のため	31年3月11日～3月14日
58	Anne Nishimura Morse	アメリカ	ボストン美術館	北米欧州ミュージアム日本専門家連携交流事業参加のため	31年1月15日～1月19日
59	Monika Bincsik	同上	メトロポリタン美術館	同上	同上
60	Andreas Marks	同上	ミネアポリス美術館	同上	同上
61	Laura Allen	同上	サンフランシスコ・アジア美術館	同上	同上
62	Akiko Yano	イギリス	大英博物館	同上	同上
63	Rupert Faulkner	同上	ヴィクトリア&アルバート博物館	同上	同上
64	Wibke Schrape	同上	ハンブルク美術工芸博物館	同上	同上
65	Ainura Yusupova	ロシア	プーシキン美術館	同上	同上
66	Menno Fitski	オランダ	アムステルダム国立美術館	同上	同上
67	Wu Yao	アメリカ	スミス大学付属美術館	同上	同上
68	Sarah Thompson	同上	ボストン美術館	同上	同上
69	Xiaojin Wu	同上	シアトル美術館	同上	同上
70	Wai Yee Chiong	同上	ロードアイランドスクールオブデザイン付属美術館	同上	同上
71	Elizabeth Saluk	同上	クリーブランド美術館	同上	同上
72	Annette Gaspers	同上	シカゴ美術館	同上	同上
73	Mami Hatayama	同上	シカゴ美術館	同上	同上
74	Maya Hara	同上	サンフランシスコ・アジア美術館	北米欧州ミュージアム日本専門家連携交流事業参加のため	31年1月15日～1月19日
75	Laura Vigo	カナダ	モントリオール美術館	同上	同上
76	Fuyubi Nakamura	同上	UBC人類学博物館	同上	同上
77	Masami Yamada	イギリス	ヴィクトリア&アルバート博物館	同上	同上
78	Anna Savelyeva	ロシア	エルミタージュ美術館	同上	同上
79	Olga Chernova	同上	ロシア国立東洋美術館	同上	同上

【京都国立博物館】　14人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	オーガスタ・リーマ	ポルトガル	リスボン新大学科学技術学部ガラスと陶磁の美術部門研究員	外国人客員研究者として	9月1日～11月30日
2	サミュエル・フランコ・アルチェ	グアテマラ	ICOM-LAC委員長	全国博物館大会、世界津波博物館会議及びICOM-ASPAC参加のため	11月27日～12月4日
3	姜　友邦	韓国	一郷韓国美術史研究院長	講演及び学術交流のため	31年1月24日～1月29日
4	メアリー・レウィン	アメリカ	カルフォルニア大学バークレー校東洋美術史博士後期課程	特別研究員として	31年2月4日～5月17日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
5	王亜楠	中国	北京画院美術館副主任	特別企画「斉白石」展示のため	31年1月27日～2月1日
6	劉渴	同上	北京画院弁公室副主任	同上	同上
7	徐建光	同上	北京画院芸術部典蔵修復	同上	同上
8	呂暁	同上	北京画院理論研究部主任	特別企画「斉白石」展示替及び土曜講座のため	31年2月22日～27日
9	佟欣鑫	同上	北京画院芸術部副主任	特別企画「斉白石」展示替のため	同上
10	陳新勇	同上	北京画院弁公室弁事員	同上	同上
11	杜軍山	同上	北京画院副院長	特別企画「斉白石」撤収のため	31年3月17日～22日
12	陳倩	同上	北京画院芸術部典蔵副主任	同上	同上
13	隋蓬勃	同上	北京画院弁公室弁事員	同上	同上
14	周蓉	同上	北京画院理論研究部編審	同上	同上

【奈良国立博物館】　延べ　12人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	顧　永傑	中国	河南博物院　副研究員	博物館における文化財の調査研究及び保存・展示	4月16日～4月30日
2	劉　丁輝	同上	河南博物院　文博館員	同上	同上
3	鄭　旼英	韓国	慶州博物館　学芸研究士	文化財の調査及び研究交流	5月17日～6月15日
4	Jane Portal	イギリス	大英博物館　アジア部　部長	糸のみほとけ展にかかる作品点検及び輸送作業のため	7月3日～7月10日
5	Nathan Harrison	同上	大英博物館　コレクションマネージャー	糸のみほとけ展にかかる作品点検及び返却作業のため	8月29日～9月4日
6	閔　丙贊	韓国	国立慶州博物館　館長	第70回正倉院展視察及び当館職員との意見交換のため	10月26日～10月28日
7	崔　基殷	同上	国立慶州博物館　学芸研究士	同上	同上
8	崔　應天	同上	東国大学校　教授	正倉院学術シンポジウム2018「正倉院宝物と新羅」における研究発表及びパネルディスカッションへの出席	11月2月～11月5日
9	章　頴	中国	上海博物館　弁公室副主任　館員	両機関における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	12月18日～12月22日
10	伍　琳	同上	上海博物館　工会主席	同上	同上
11	呉　侃	同上	上海博物館　陳列設計部　館員	同上	同上
12	李　鎔賢	韓国	国立慶州博物館　学芸研究士	同上	1月9日～2月8日

【九州国立博物館】　延べ　21人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
1	李　慶洙	韓国	国立公州博物館学芸研究士	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	6月4日～6月17日
2	黄　鉉盛	同上	国立扶餘博物館学芸研究士	同上	同上
3	トーマス・ストラング	カナダ	Canadian Conservation Institute・Senior Conservation Scientist	基盤Ａ「アジアの文化財の伝統的制作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」に係る研究調査、打合せ	9月7日～9月15日
4	ヴァレリー　ブライス	イギリス	ヴィクトリア＆アルバート美術館主任コンサベーター	IPMセミナーの実施に係るご協力および打ち合わせ	10月21日～10月28日
5	スアイ・アクソイ	トルコ	ICOM会長	ICOM-ASPAC日本会議2018出席のため	11月30日～12月2日
6	安　来順	中国	ICOM副会長	同上	同上
7	Inkyung Chang	韓国	ICOM執行役員	同上	同上
8	裵 基同	同上	ICOM-ASPAC委員長 韓国国立中央博物館館長	ICOM-ASPAC日本会議2018出席のため	11月30日～12月2日
9	プレム・シン・バスニャート	ネパール	ネパール博物館協会座長 ICOM-ASPAC理事	同上	11月30日～12月4日
10	Mohamad Shawalibin Badi	マレーシア	Deputy Director General of the Department of Museums Malaysia (Policy Division)	同上	同上
11	Jahangir Hussain	バングラデシュ	ICOM BANGLADESH BANGLADESH NATIONAL MUSEUM Kazi Nazrul Islam	同上	同上
12	Wei Jun	中国	ICOM China	同上	11月30日～12月3日
13	サミュエル・フランコ・アルチェ	グァテマラ	ICOM-LAC委員長	同上	11月30日～12月4日
14	崔 鐘惠	韓国	韓国国立文化財研究所所長	同上	同上
15	リチャード・ジャプネヨ・シン	バヌアツ	バヌアツ文化センター所長	同上	11月30日～12月3日
16	朴　榮國	韓国	韓国国立ハングル博物館	同上	同上
17	陳　怡宏	台湾	国立台湾歴史博物館研究組副研究員	同上	12月1日～12月2日
18	Patcharin Sukpramool（パッチャリン・スックプラムーン）	タイ	タイ王国芸術局上席研究官	海外交流展に係る事前調査	31年3月22日～3月27日
19	Thachsorn Tantiwong（タッチャソーン・タンティウォン）	同上	タイ王国芸術局主任学芸員	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
20	Chanathip Nantachaibancha（チャナティープ・ナンタチャイバンチャ）	タイ	タイ王国芸術局デザイナー	海外交流展に係る事前調査	31年3月22日～3月27日
21	Sarun Klinsukon（サルン・クリンスコン）	同上	タイ王国芸術局学芸員	同上	同上

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　24人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Razan al-Jundi	シリア	シリア古物博物館総局	「シルクロードが結ぶ友情プロジェクト」シリア人研修(紙資料)参加のため。	5月15日～5月30日
2	Fatat Kamel Jadid	同上	同上	同上	同上
3	Bumpa Dorji	ブータン	内務文化省文化局　国立図書館公文書館	ICCROM国際研修「紙の保存と修復」参加のため。	8月26日～9月16日
4	Sanne Capion Hansen	デンマーク	コペンハーゲン市博物館	同上	同上
5	Mariano Sebastian Krawiecki	アルゼンチン	アルゼンチン文書保管部局	同上	同上
6	Jennifer Loubser	オーストラリア	クイーンズランド州立図書館	同上	同上
7	Crystal Leigh Maitland	カナダ	カナダ保存研究所	同上	同上
8	Audrey Mcginley	フランス	オワーズ県文書館	同上	同上
9	Judith Namutowe Kalikeka	ザンビア	ザンビア国立公文書館	同上	同上
10	Amelia Rampton	イギリス	ARコンサベーション	同上	同上
11	Makelesi Tinaibici Rokoleka	フィジー	フィジー国立公文書館	同上	同上
12	Marta Weronika Winiarczyk	ポーランド	クラクフ国立博物館	同上	同上
13	José Luiz Pedersoli Júnior	イタリア	文化財保存修復研究国際センター	同上	同上
14	Hilary L. Raigetal	ミクロネシア連邦	Waa'Gey	無形文化遺産部がおこなう、アジア太平洋地域の無形文化遺産の保護に関する調査研究の一環として、国際学会World Social Science Forumに参加するため。	9月24日～10月1日
15	Richard Mackay	オーストラリア	株式会社マッケイ・ストラテジック	世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業のため。	10月21日～10月27日
16	Birgitta Gertrud Ringbeck	ドイツ	ドイツ連邦共和国外務省	同上	同上
17	John Tadao Teramoto	アメリカ	インディアナポリス美術館	在外日本古美術品保存修復協力事業、修復作品の中間視察のため。	10月22日～11月4日
18	Jaya Ram Shrestha	ネパール	ネパール国立博物館	受託ネパール事業の一環として、無形文化遺産の保護状況に関する、意見交換を行うため。	12月5日～12月12日
19	Yamuna Maharjan	同上	同上	同上	同上
20	Pongthorn Hiengkaew	タイ	タイ王国文化省芸術局　記念物保存部　建造物課	研究会「陸部東南アジアにおける木造建築技術の発展と相互関係」参加のため。	12月14日～12月19日
21	François Tainturier	ミャンマー（フランス国籍）	インヤー・ミャンマー学研究所	同上	同上
22	Ruth Diana Shervington	オーストラリア	ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア	在外日本古美術品保存修復協力事業、修復作品の中間視察のため。	31年2月20日～2月23日
23	陳　正哲	台湾	南華大学	シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」参加のため。	31年3月12日～3月17日
24	Ruth Marie Redden	オーストラリア	RR Conservation & Design	文化遺産国際協力コンソーシアム特別講演会「文化遺産とSDGsを考える」への参加のため。	31年3月17日～3月21日

【奈良文化財研究所】延べ　164人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1～32	PARK KYEONG WOO 他31人	韓国	江原道庁文化芸術課	奈文研の遺跡・遺物の保存・修復・整備など、文化財の維持管理における取り組み・保全活動について視察	4月19日
33,34	顧永傑 他1人	中国	河南博物院・副研究員	奈文研の資料の情報化について視察	4月19日
35	朱騰	同上	中国人民大学・副教授	研究所訪問	5月1日
36～41	K.P.Rao 他5人	インド	ハイデラーバード大学歴史学科・教授	動物考古学研究室、保存修復研究室、遺物整理室長、発掘現場の見学	6月5日
42	呉炎亮	中国	遼寧省文物考古研究所・所長	共同研究	6月11日～6月16日
42	卢治萍	同上	遼寧省文物考古研究所・館員	同上	同上
42	郑　宇	同上	遼寧省文物考古研究所・館員	同上	同上
42	赵代盈	同上	遼寧省文物考古研究所・館員	同上	同上
43～50	金斗喆 他7人	韓国	国立釜山大学韓国校・博物館長	平城宮跡、キトラ古墳壁画体験館、飛鳥資料館視察	7月18日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
51～53	エリンコ・クレーマ 他2人	イギリス	ケンブリッジ大学考古調査課程学科・専任講師	考古科学セミナー「過去の人口変動と法医考古」での報告	7月23日
54	Naing Naing Lay Maw	ミャンマー	ヤンゴン大学　考古学部　准講師	文化遺産国際協力拠点交流事業による招へい研修：陶磁器の調査研究方法	7月29日～8月4日
55	Khine Pyae Sone	同上	ダゴン大学　考古学部　准講師	同上	同上
56	Ei Shwe Sin Phyo	同上	陶磁器研究者、ヤンゴン大学大学院修了生	同上	同上
57	尹享準	韓国	慶州国立文化財研究所・学芸研究士	発掘交流	8月6日～9月28日
58～76	劉岩 他18人	中国	河南省文物局文物保護考古処・副所長	大型遺跡の保存活用状況視察、平城宮跡、高松塚周辺地区、キトラ古墳周辺地区視察	9月4日9月5日
77		アフガニスタン		ＡＣＣＵ集団研修「考古遺跡の調査と保存・活用」	9月11日,17,27,28
78	Sonam TENZIN	ブータン	内務文化省文化局遺産保存課・文化専門職員	同上	同上
79	KHANN Mony	カンボジア	サンボー・プレイ・クック国立文機構遺跡・考古・保存部建造物保存課・副課長	同上	同上
80	LI Mengjing	中国	北京国文琰文化遺産保護センター第2スタジオ（遺跡管理・保存・展示）・プロジェクトリーダー	同上	同上
81	Mereoni CAMAILAKEBA	フィジー	フィジー博物館考古室・現地調査官	同上	同上
82	Kisha GHANKER	インド	グルクル・カングリー大学古代インド史・文化・考古学部・研究員	同上	同上
83	Nur IHSAN	インドネシア	ハサヌディン大学研究所考古研究センター・研究員	同上	同上
84	Aidana KOPTILEUODA	カザフスタン	カザフスタン国立博物館考古学・民族学部門考古遺物第1ラボ・研究員	同上	同上
85	Tawake ERIATA	キリバス	内務省文化博物館部門・文化専門補佐員	同上	同上
86	Sommay SINGTHONG	ラオス	ラオス国立大学社会科学部歴史・考古学科考古学・文化財マネジメントコース・講師（考古学専攻）	同上	同上
87	Zaha AHMED	モルディブ	教育省遺産局遺産課・遺産課長代理	同上	同上
88	Eleanor Jeneen STURROCK	ニュージーランド	ヘリテージ・ニュージーランド北部事務所・考古専門職員	同上	同上
89	Jason KARIWIGA	パプアニューギニア	人類・社会・考古学部パプアニューギニア大学・ティーチング・フェロー	同上	同上
90	Inguruwattage Kishan Chaleendra AMARASINGHE	スリランカ	スリランカ中央文化基金調査部・考古専門職員	同上	同上
91	Hikkmatulla HOSHIMOV	ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所先史部門・専門職員	同上	同上
92	DO Truong Giang	ベトナム	ベトナム社会科学アカデミー王城跡研究所情報・国際協力課・課長	同上	同上
93	Thwet Thwet Aye	ミャンマー	宗教文化省ピー考古学フィールドスクール・講師	文化遺産国際協力拠点交流事業による招へい研修：考古遺跡の調査方法	10月14日～10月21日
94	Chan Mya Aye	同上	宗教文化省ピー考古学フィールドスクール・講師	同上	同上
95	Win Win Phyo	同上	宗教文化省ピー考古学フィールドスクール・講師	同上	同上
96,97	Sopheak Lam 他1人	カンボジア	奈良文化財研究所シェムリアップ事務所・Research assistant	研究会「カンボジア考古学の最新調査」での発表	10月15日
98,99	M. ポルキンホーン 他1人	オーストラリア	フリンダース大学・講師	同上	同上
100～105	田庸昊 他5人	韓国	国立文化財研究所・学芸研究士	日韓共同研究中間成果報告会、平城地区視察	10月18日～10月19日
106～113	石鼎 他7人	中国	復旦大学・文物与博物館学系講師	研究所訪問	10月30日
114,115	S. Kaner 他1人	イギリス	セインズベリー日本藝術研究所・所長	講演	10月31日
116～121	ウ・ギョンジュン 他5人	韓国	景福宮管理所長	奈文研の主な事業、研究成果等について情報収集	11月7日
122～129	鄭憲律 他7人	同上	益山市長	奈文研訪問、平城宮跡見学	11月12日
130	李匡悌	台湾	台湾中央研究院 考古学門　学門召集人	奈文研訪問	11月16日
131～133	李熙濬 他2人	韓国	国立伽耶文化財研究所	木器研究視察	11月19日
134	HU ZHAOJIAN（胡趙建）	中国	河南省文物考古研究院・副院長	共同研究	11月19日～11月23日
135	ZHOU RUNSHAN(周潤山)	同上	河南省文物考古研究院・助理館員	同上	同上
136	MA JUNCAI(馬俊才)	同上	河南省文物考古研究院・研究員	同上	同上
137	JIANG ZHONGHUA(蒋中華)	同上	河南省文物考古研究院・技師	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
138	Tong Tao（仝涛）	中国	中国社会科学院考古研究所・副研究員	共同研究	11月15日～12月14日
139	Shen Lihua（沈麗華）	同上	中国社会科学院考古研究所・助理研究員	同上	同上
140～142	李勇錫 他2人	韓国	国立文化財研究所・自然文化財研究室長	同上	12月7日
143	Dong Ningning（董寧寧）	中国	复旦大学文物与博物館学系・青年副研究員	同上	12月7日～12月13日
144～146	李恩碩 他2人	韓国	国立海洋文化財研究所 海洋遺物研究課	施設見学	1月22日
147,148	宋震 他1人	中国	中央戯劇学院戯劇管理学部・教授	いざない館見学	1月28日
149	Askat Zhumabaev	キルギス	国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所・研究員	施設見学（遺物整理室）	2月1日
150	Lee Woojong(李雨鍾)	韓国	嶺南大学・教授	東アジア木造建築史研究会での研究発表	2月10日～2月13日
151～153	劉斌 他2人	中国	西北大学文化遺産学院・副教授	施設見学	2月19日
154	SU RONGYU(蘇栄誉)	同上	中国科学院自然科学史研究所・研究員	研究会「陶笵技術の実験考古学」での発表および共同研究	2月23日～2月28日
155	LIAN HAIPING(廉海萍)	同上	上海博物館・研究員	同上	同上
156	ZHANG CHANGPING(張昌平)	同上	武漢大学歴史学院・教授	同上	同上
157	ナタン・シュランゲール	フランス	国立古文書大学・考古学教授	施設見学	2月28日
158	WU WENLING（鄔文玲）	中国	中国社会科学院歴史研究所・研究員	共同研究	3月18日～3月20日
159	劉欣寧	台湾	台湾中央研究院歴史言語研究所・助研究員	同上	3月18日～3月21日
160	陳淑君	同上	台湾中央研究院歴史言語研究所・助研究員	同上	同上
161	王祥安	同上	中央研究院數位文化中心・資訊總監	同上	同上
162	YOUNG Rarana	カンボジア	王立芸術大学・准教授	同上	3月22日～3月28日
163	CHUN Channarot	同上	王立芸術大学・研究員	同上	同上
164	EPANN Kimchay	同上	王立芸術大学・研究員	同上	同上

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　58人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Manuel Smith	東ティモール	Director of Cultural Heritage, Ministry of Education and Culture, Timor-Leste	ポストコンフリクト国の無形文化遺産に関する予備調査についてのワークショップ 出席	4月5日～6日
2	Aleixo da Cruz	同上	General Coordinator, Unit of Implementation of Academy of Creative Arts in Timor-Leste under the Director General's office	同上	4月5日～6日
3	Celestino da Silva Mendes Sarmento	同上	Head of Culture, Manufahi Distrit	同上	4月5日～6日
4	Myla T. Buan	フィリピン	Board Secretary, National Commission for Culture and the Arts, The Philippines	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究-教育を題材として-」事業研究会議 出席	5月30日～31日
5	Renee Coreses Taravela	同上	Head of Cultural Communities and Traditional Arts Section, National Commission for Culture and the Arts, The Philippines	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究-教育を題材として-」事業研究会議 出席	5月30日～31日
6	Chandramali Liyanage	スリランカ	Director, National Crafts Council, Sri Lanka	ポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の研究ワークショップ 出席	6月26日～27日
7	Himali Jinadasa	同上	Senior Advisor to the Hon. Minister, Office of the Minister of Industry and Commerce, Ministry of Insdustry and Commerce, Sri Lanka	同上	6月26日～27日
8		アフガニスタン		第一回アフガニスタン無形文化遺産調査準備ワークショップ 出席	9月4日～6日
9		同上		同上	同上
10		同上		同上	同上
11		同上		同上	同上
12		同上		同上	同上
13	Renee Coreses Talavera	フィリピン	Head, Cultural Communities and Traditional Arts Section, National Commission for Culture and the Arts	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究」事業打合せ 出席	9月13日～14日
14	Himalchuli GURUNG	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	「第七回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会」出席	9月26日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
15	Jin ZHAO	中国	Deputy Director, Division of Multilateral Affairs, Bureau for External Cultural Relations, Ministry of Culture and Tourism of the People's Republic of China	同上	同上
16	Hyung-bin PARK	韓国	Senior Researcher, World Heritage Division, Cultural Heritage Administration, the Republic of Korea	同上	同上
17	Jing ZHANG	中国	Deputy Director-General, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	「第七回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会」陪席	9月26日
18	Tianxiong DUAN	同上	Deputy Director of the Office of Administration, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
19	Haijiao TANG	同上	Training Programme Coordinator, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
20	Seongyong PARK	韓国	Assistant Director-General, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
21	Sunyoung YOU	同上	Program Officer, Planning and Administration Section, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
22	Mya Mya Khin	ミャンマー	Head, Department of Anthropology, University of Yangon, Myanmar	アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ 出席	12月7日～9日
23	Phan Phuong Anh	ベトナム	Lecturer, Department of Anthropology, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam National University of Hanoi	同上	同上
24	Soledad N. Dalisay	フィリピン	Department Chair, Department of Anthropology, University of the Philippines-Diliman	同上	同上
25	Jayaram Shrestha	ネパール	Director, National Museum of Nepal	同上	同上
26	Yamuna Maharjan	同上	Museum Officer, National Museum of Nepal	同上	同上
27	Richard Shing	バヌアツ	Director, Vanuatu Cultural Centre	同上	同上
28	Melaia Tikoitoga	フィジー	Special Revitalization Unit, iTaukei Institute of Language and Culture, Fiji	同上	同上
29	Fadjar I. Thufail	インドネシア	Senior Researcher, Research Center for Regional Resources, Indonesian Institute of Sciences (LIPI)	同上	同上
30	Md.Amanullah Bin Mahmood	バングラデシュ	Former personnel of Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), Dhaka Office, Bangladesh	アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ 出席	12月7日～9日
31	Vu Canh Toan	ベトナム	Technical Lead, Institute for Social and Environmental Transition-International, Vietnam Office (ISET-Vietnam)	同上	同上
32	Abner O. Lawangen	イギリス	Disaster Risk Reduction & Management Officer, Disaster Risk Reduction and Management Center Tublay, Philippines / University of Portsmouth, UK	同上	同上
33	Adriana Molano	ペルー	Manager, Regional Center for the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage of Latin America (CRESPIAL), Peru	同上	同上
34	Lucas Roque Dos Santos	同上	Capacity Building Coordinator, Regional Center for the Safeguarding of Intangible Cultural Heritage of Latin America (CRESPIAL), Peru	同上	同上
35	Meredith Wilson	オーストラリア	Associate, Stepwise Heritage and Tourism, Pty, Ltd., Australia	同上	同上
36	JC Gaillard	ニュージーランド	Associate Professor, School of Environment, The University of Auckland, New Zealand	同上	同上
37	Himalchuli Gurung	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
38	Chen Xiaoxi	中国	Program Officer, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP), China	アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ 陪席	12月7日～9日
39	Xu Mingji	同上	Program Officer, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP), China	同上	同上
40	Boyoung Cha	韓国	Chief, Cooperation and Networking Section, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	「アジアのポストコンフリクト国等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究」 参加	12月7日～9日
41	Yunsuk Jang	同上	Consultant, IT Management Section, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	12月7日～9日
42		アフガニスタン		同上	12月8日～11日
43		同上		同上	同上
44		同上		同上	同上
45	Aleixo da Cruz	東ティモール	General Coordinator, Unit of Implementation of Academy of Creative Arts in Timor-Leste under the Director General's Office	同上	同上
46	Celestino da Silva Mendes Sarmento	同上	Head of Culture, Manufahi District	同上	同上
47	Pham Thi Thuy Chung	ベトナム	Researcher, Vietnam Museum of Ethnology	IRCIの「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」事業のための国際シンポジウム 出席	1月21日～22日
48	Vu Hong Nhi	同上	Deputy Head, Education Department, Vietnam Museum of Ethnology	同上	同上
49	Nguyen Thi Hong Van	同上	Deputy Director, Scientific Research Management, Training and International Cooperation, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上
50	Bui Thanh Xuan	同上	Deputy Director, Research Division for Continuing Education, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上
51	Renee Coreses Talavera	フィリピン	Head, Cultural Communities and Traditional Arts Section, National Commission for Culture and the Arts (NCCA), Philippines	同上	同上
52	Jocelyn Timbol-Guadalupe	同上	Reviewer, The School of Living Traditions (SLT) Learning Guides, National Commission for Culture and the Arts (NCCA), Philippines	IRCIの「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究—教育を題材として」事業のための国際シンポジウム 出席	1月21日～22日
53	Duong Bich Hanh	タイ	Programme Specialist for Culture from UNESCO Bangkok Office	同上	同上
54	Virgilio Senadrin Almario	フィリピン	Chairman, National Commission for Culture and the Arts (NCCA), Philippines	平成30年度外国人芸術家・文化財専門家招へい事業による招へい	1月28日～2月2日
55	Chandramali Liyanage	スリランカ	Director, National Crafts Council, Sri Lanka	「スリランカ北部及び東部における無形文化遺産のためのワーキンググループセッション」 出席	3月5日～8日
56	Himali Jinadasa	同上	Senior Advisor to the Hon. Minister, Office of the Minister of Industry and Commerce, Ministry of Insdustry and Commerce, Sri Lanka	同上	同上
57	Podinilame Maddapitigalage	同上	Associate Professor, Multi Disciplinary Design, Faculty of Visual Arts, University of Visual and Performing Arts, Sri Lanka	同上	同上
58	Thelaxsan Thanabalasingam	同上	Temporary Assistant Lecturer, University of Jaffna, Sri Lanka	同上	同上

【文化財防災ネットワーク推進本部】18人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	喬雲飛	中国	中国文化遺産研究院 副院長	日中共同による文化財防災に関する研修プログラムに係る被災文化財及び歴史的建造物の防災体制に関する視察	6月3日～6月7日
2	張暁彤	同上	中国文化遺産研究院 教育培訓学院副教務長	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
3	Rohit Kumar RANJITKAR	ネパール	Nepal Director, Kathmandu Valley Preservation Trust	国際シンポジウムにおけるプレゼンテーション指導	9月18日～9月19日
4	Wesley Webb CHEEK	アメリカ	Urban Studies Doctoral Candidate, City, Culture and Community, Tulane University	同上	同上
5	Joseph Allan KING	イタリア	Director of the Sites Unit, ICCROM	国際シンポジウムにおけるプレゼンテーション指導・シンポジウムパネリスト出席	9月18日～9月20日
6	Corine WEGENER	アメリカ	Director, Smithsonian Cultural Rescue Initiative, Office of the Provost/Under Secretary for Museums and Research, Smithsonian Institution	同上	9月18日～9月21日
7	Elke SELTER	ベルギー	Researcher (PhD), SOAS, University of London Expert Emergency Response, Emergency Preparedness and Response Unit, Culture Sector, UNESCO	同上	同上
8	Ming Chee ANG	マレーシア	General Manager, George Town World Heritage Incorporated	同上	同上
9	David Antonio TORRES CASTRO	メキシコ	Full Time Conservator, National Bureau for Cultural Heritage Conservation part of National Institute of Anthropology and History	国際シンポジウムにおけるプレゼンテーション講演	同上
10	Idrees JEHAN	パキスタン	Disaster Risk Reduction Officer, FATA Disaster Management Authority	同上	同上
11	Vikas Namdeo KURNE	インド	Disaster Management Coordinator, Indian Red Cross Society	同上	同上
12	Abel Assefa GIRMAY	エチオピア	Heritage Conservator, Authority for Research and Conservation of Cultural Heritage	同上	9月18日～9月22日
13	Farhad BANIZAMAN LARI	イラン	Project manager at Tarh-e-Now Andishan Consulting Engineers Co. Lecturer at University of Applied Science and Technology (Red Crescent Organization/Tehran Disaster Mitigation and Management Organization)	同上	同上
14	Irakli KOBULIA	ジョージア	Independent Consultant	同上	同上
15	Jamyang Singye NAMGYEL	ブータン	Architect, Division for Conservation of Heritage Sites, Department of Culture, Ministry of Home and Cultural Affairs, Royal Government of Bhutan	同上	同上
16	Kundishora Tungamirai CHIPUNZA	ジンバブエ	Chief Curator, National Musuems and Monuments of Zimbabwe	同上	同上
17	Marcia Furriel Ramos GALVEZ	ブラジル	Architect at the Architectural preservation group - associated to the Memory and Information Center, House of Rui Barbosa Foundation - Ministry of Culture	国際シンポジウムにおけるプレゼンテーション講演	同上
18	Sumeru TRIPATHEE	ネパール	Country-Humanitarian Preparedness & Response Coordinator, Oxfam GB (Oxfam in Nepal)	同上	同上

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

平成31年3月31日現在

<table>
<tr><th rowspan="2">国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td>56 人</td><td>17人</td><td>12人</td><td>13人</td><td>14人</td></tr>
<tr><td rowspan="4">112人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>56 人</td><td colspan="2">19人</td><td colspan="2">37人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">0 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　17人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州国立博物館	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	九州国立博物館主任研究員 川村佳男	企画課デザイン室長　矢野賀一、保存修復課環境保存室長　和田浩
2	東京工業大学	片山東熊と宮内庁内匠寮の日本近代建築発展に果たした役割ー明治宮廷建築の研究ー	東京工業大学環境社会理工学院特任准教授　平賀あまな	企画課デザイン室長　矢野賀一
3	慶應義塾大学	「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」	慶應義塾大学特任講師 鳥谷真佐子	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
4	国立歴史民俗博物館	「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」	国立歴史民俗博物館長 久留島浩	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
5	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	東京大学史料編纂所教授 尾上陽介	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
6	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	九州国立博物館副館長 伊藤嘉章	学芸研究部上席研究員　河野一隆
7	奈良国立博物館	基盤研究（Ａ）高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	奈良国立博物館長　松本伸之	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統
8	成城大学	基盤研究（Ｂ）東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	成城大学教授　岩佐光晴	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統
9	上智大学	古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる綜合的実証研究	上智大学神学部特任教授 月本昭男	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
10	天理大学	古代東地中海地域における都市文化の変容とその背景	天理大学文学部教授 桑原久男	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
11	東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター	世界図屏風の研究	東京大学史料編纂所　准教授 岡美穂子	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂　ほか外部研究者
12	信州大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	信州大学信州大学准教授 佐藤全敏	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 皿井舞
13	京都大学	真言密教寺院の資料調査に基づく分野横断的綜合研究ー新たな仏教思想史の枠組みを求めて	京都大学教授　上島亨	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 皿井舞
14	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	大阪大学教授　藤岡穣	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 皿井舞
15	奈良文化財研究所	基盤研究（C）「蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究」	奈良文化財研究所考古第三研究室長　清野孝之	調査研究課考古室研究員　山本亮 ほか外部研究者
16	筑波大学	被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究	筑波大学教授　松井俊也	保存修復課環境保存室長　和田浩
17	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	奈良国立博物館長　松本伸之	保存修復課環境保存室長　和田浩

【京都国立博物館】延べ　12人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	実践女子大学	日本現存福州版大蔵経の総合的研究の深化と典籍学への応用	文学部教授　牧野和夫	学芸部企画室アソシエイトフェロー　上杉智英
2	奈良大学	富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究	文学部教授　原口志津子	学芸部保存修理指導室長 大原　嘉豊
3	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	人文科学研究所准教授 稲本　泰生	学芸部保存修理指導室長 大原　嘉豊
4	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部保存修理指導室長 大原　嘉豊
5	大阪大谷大学	新義真言系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究	文学部教授　宇都宮啓吾	学芸部美術室長　羽田　聡
6	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長　田沢裕賀	学芸部特任研究員　山本英男、学芸部保存修理指導室研究員　福士雄也
7	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	資料課係長　水野敏典	学芸部考古室主任研究員 古谷　毅
8	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
9	北海道大学	ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究ー社会価値と事業改善に着目して	文学研究科・教授　佐々木亨	総務課　関谷泰弘
10	奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部・考古第三研究室長　清野孝之	学芸部保存科学室長　降幡順子
11	共立女子大学	中世仏教美術における霊性の発生と継承に関する基礎的研究	文芸学部・教授　山本聡美	学芸部企画室　井並林太郎

【奈良国立博物館】延べ　13人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	教育室長　谷口耕生
2	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	教授　井手誠之輔	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	准教授　稲本泰生	教育室長　谷口耕生
4	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	准教授　稲本泰生	情報サービス室長　岩井共二
5	北海道博物館	X線CTを核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	学芸員　杉山智昭	保存修理指導室長　鳥越俊行
6	高野山大学	海洋交易路における仏教流伝形態の研究	名誉教授　松長有慶	学芸部長　内藤栄
7	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二	資料室長　宮崎幹子
8	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	美術室長　岩田茂樹
9	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	保存修理指導室長　鳥越俊行
10	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	列品室主任研究員　山口隆介
11	奈良大学	X線CTを核にした3Dデータの活用に基づく文化財の新研究基盤創設	教授　今津節生	保存修理指導室長　鳥越俊行
12	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究-金に等しい価値があったころ-	名誉教授　西山要一	企画室長　野尻忠
13	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究-大航海時代を中心に-	室長　小林公治	保存修理指導室長　鳥越俊行

【九州国立博物館】　延べ　14人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	実践女子大学	19世紀日本の女性南画家の移動と交遊圏	文学部教授　仲町啓子	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
2	鹿児島大学	住吉派の模写から見る近世御用絵師の絵画制作研究	法文教育学域教育学系教授　下原美保	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
3	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山要一	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
4	九州大学	作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究	人文科学研究院教授 井出誠之輔	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
5	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授　尾上陽介	館長　島谷弘幸
6	東京文化財研究所	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発　－旧修理材料や微生物痕の除去－	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
7	北海道博物館	X線CTを核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	学芸部社会貢献グループ学芸主査　杉山智昭	客員研究員　赤田昌倫
8	京都府立大学	対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究	文学部教授　横内裕人	学芸部企画課特別展室研究員 松浦晃佑
9	東京外国語大学大学院	東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築：「長い12・13世紀」を中心に	総合国際学研究院教授 青山亨	学芸部文化財課長　原田あゆみ
10	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部長　小泉惠英
11	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二	本部文化財活用センターデジタル資源担当専門職（併）学芸部文化財課資料管理室　竹内俊貴
12	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長　田沢裕賀	学芸部文化財課主任研究員 山下善也 学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
13	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理よび環境整備－保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか
14	国立歴史民俗博物館	中世日本の国際交流における海上交通に関する研究	研究部准教授　荒木和憲	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　佐々木蘭貞

【東京文化財研究所】延べ　19人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	早稲田大学	エジプト､ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	文学学術院教授　近藤　二郎	文化遺産国際協力センター研究員 前川　佳文
2	東京大学	「図書館資料保存論」に関する基礎的研究	大学院経済学研究科(経済学部) 講師　小島　浩之	保存科学研究センター長 佐野　千絵
3	東京藝術大学	光に脆弱な文化財材料の光劣化機構の研究-低酸素環境での劣化挙動と波長依存性-	大学院美術研究科准教授 塚田　全彦	保存科学研究センター長 佐野　千絵
4	法政大学	能楽及び能楽研究の国際的定位と新たな参照標準確立のための基盤研究	能楽研究所教授　山中　玲子	特任研究員　高桑　いづみ
5	早稲田大学	近松没後義太夫節浄瑠璃作品のデジタル･アーカイブを利用した包括的研究	坪内博士記念演劇博物館名誉教授　鳥越　文蔵	無形文化遺産部長　飯島　満
6	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	社会学部教授　松川　節	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神　葉子
7	筑波大学	アンコール遺跡群における石材劣化の新展開とその集学的研究	芸術系教授　松井　敏也	保存科学研究センター客員研究員 片山　葉子
8	文化財活用センター	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	貸与促進担当主任研究員 皿井　舞	保存科学研究センター副センター長 早川　泰弘
9	文化財活用センター	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	貸与促進担当主任研究員 皿井　舞	文化財情報資料部専門職員 城野　誠治

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
10	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山　要一	保存科学研究センター副センター長 早川　泰弘
11	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作･修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	副館長　伊藤　嘉章	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川　典子
12	徳島大学	伊能図の成立過程に関する学際的研究－忠敬没後200年目の地図学史的検証－	大学院社会産業理工学研究部（社会総合科学域）教授　平井松午	保存科学研究センター副センター長 早川　泰弘
13	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部学術研究員 配川　美加	特任研究員　高桑　いづみ
14	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部学術研究員 配川　美加	無形文化遺産部客員研究員 星野　厚子
15	茨城大学	内生細菌共生維持機構を利用して微生物に潜在機能を付与する技術の開発	農学部准教授　西澤　智康	保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤　嘉則
16	東京大学	観世家のアーカイブの形成と室町期能楽の新研究	大学院総合文化研究科教授　松岡　心平	特任研究員　高桑　いづみ
17	龍谷大学	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	文学部教授　北野　信彦	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚　将英
18	龍谷大学	文化財建造物の伝統的な塗装彩色材料の再評価と保存・修理・資料活用に関する研究	文学部教授　北野　信彦	保存科学研究センター保存環境研究室付　吉田　直人
19	東京国立博物館	ディルムン文明の起源―バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究―	客員研究員　後藤　健	文化遺産国際協力センター研究員 安倍　雅史

【奈良文化財研究所】延べ　37人

○科学研究費補助金　延べ　32人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	日本目録学の確立と古典学研究支援ツールの拡充 ―天皇家・公家文庫を中心に―	教授　田島　公	都城発掘調査部史料研究室長 馬場　基
2	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授　池田　栄史	埋蔵文化財センター長 高妻　洋成
3	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授　池田　栄史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　柳田　明進
4	東京大学	歴史知識情報のオープンデータ化に向けたスキームと情報利活用手法の再構築	教授　久留島　典子	都城発掘調査部史料研究室長 馬場　基
5	奈良大学	文字文化からみた東アジア社会の比較研究	教授　角谷　常子	副所長 渡邉 晃宏
6	山口大学	東アジアにおける都城と葬地の政治的・社会的関連に関する比較史的総合研究	教授　橋本　義則	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　小田　裕樹
7	京都大学	古代「仏都圏」の社会と文化に関する地域史的・比較史的研究	教授　吉川　真司	都城発掘調査部主任研究員 山本　崇
8	東京大学	前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎用的利用に関する研究	教授　林　譲	企画調整部文化財情報研究室 研究員　高田　祐一
9	東京大学	前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎用的利用に関する研究	教授　林　譲	都城発掘調査部史料研究室研究員 山本　祥隆
10	福岡大学	新・日韓交渉の考古学―弥生時代―	教授　武末　純一	都城発掘調査部主任研究員 庄田　慎矢
11	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	教授　村上　恭通	都城発掘調査部主任研究員 丹羽　崇史
12	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	教授　山田　太造	都城発掘調査部史料研究室長 馬場　基
13	国立歴史民俗博物館	考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築	教授　山田　康弘	埋蔵文化財センター主任研究員 山崎　健
14	国立科学博物館	ホモ・サピエンス躍進の初源史：東アジアにおける海用進出のはじまりを探る総合的研究	グループ長　海部　陽介	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　芝　康次郎
15	京都大学	古代・中世東西回廊－東南アジア大陸部交流網の歴史的動態	研究員　柴山　守	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤　由似
16	法政大学	物質文化と精神文化の交流と断絶からみた、海峡を繋ぐ「北の内界世界」の総合的研究	教授　小口　雅史	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　田村　朋美
17	東北大学	年輪幅・酸素安定同位体比標準年輪曲線ネットワーク構築とそれに基づく木材産地推定	助教　大山　幹成	埋蔵文化財センター主任研究員 星野　安治
18	東京文化財研究所	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	所長　亀井　伸雄	都城発掘調査部遺構研究室研究員 海野　聡
19	大谷大学	モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究	教授　松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
20	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究	准教授　梶原　義実	都城発掘調査部考古第二研究室長 尾野　善裕
21	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	都城発掘調査部主任研究員 馬場　基
22	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　小田　裕樹
23	東京医療保健大学	古代食の綜合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授　三舟　隆之	埋蔵文化財センター主任研究員 山崎　健
24	鳴門教育大学	中南米熱帯収束帯の年輪気候学と14C Bombシリーズの構築	教授　米延　仁志	埋蔵文化財センター主任研究員 星野　安治

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
25	弘前大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構築	准教授　植月　学	都城発掘調査部主任研究員 庄田　慎矢
26	弘前大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構築	准教授　植月　学	埋蔵文化財センター客員研究員 菊地　大樹
27	埼玉大学	初期遊牧社会における社会複雑化とユーラシア東西交易路の復原に関する包括的研究	准教授　中村　大介	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　田村　朋美
28	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	教授　小椋　大輔	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷　草一郎
29	鹿児島大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	助教　新里　貴之	都城発掘調査部主任研究員 庄田　慎矢
30	東京大学	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質	准教授　海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー　李　暉
31	奈良教育大学	古環境の変遷と動・植物利用の諸段階	教授　金原　正明	埋蔵文化財センター客員研究員 菊地　大樹
32	お茶の水女子大学	民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相	特任准教授　細谷　葵	都城発掘調査部主任研究員 庄田　慎矢

○学術研究助成基金助成金　延べ　5人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授　大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
2	早稲田大学	衛星画像のGIS分析による隋唐都城とシルクロード都市の空間構造の比較考古学的研究	准教授　城倉　正祥	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　山藤　正敏
3	天理大学	専制国家成立期の長城地帯における金銀器・青銅器の生産と流通	教授　小田木　治太郎	埋蔵文化財センター客員研究員 菊地　大樹
4	奈良女子大学	玉類の流通からみた威信財システム脱却過程に関する考古科学的研究	特任講師　大賀　克彦	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員　田村　朋美
5	慶應義塾大学	博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築	特任講師　鳥谷　真佐子	埋蔵文化財センター客員研究員 野口　淳

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

平成31年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
465人	152 人	52人	35人	20人	45人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	284 人	140人		144人	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進本部	
	6 人	14 人		9 人	

【本部文化財活用センター】

○職員旅費：延べ6人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	樋口　理央	ロシア	8 月 31 日～9 月 6 日	プーシキン美術館「江戸絵画名品展」開会式出席のため	東博館長裁量経費	
2	小林　牧	フランス・イギリス	12 月 7 日～12 月 13 日	ヨーロッパにおけるデジタル展示等視察及び聞き取り調査のため	文化財活用センター博物館調査研究費	
3	樋口　理央	同上	12月7日～12月13日	同上	同上	
4	髙木　結美	フランス	31年1月2日～1月9日	パリにおけるデジタル展示等視察のため	文化財活用センター企画部門運営費	
5	松沼　穂積	同上	31年1月2日～1月9日	同上	同上	
6	松嶋　雅人	同上	31年1月5日～1月9日	同上	同上	

○その他：延べ1人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	樋口　理央	中国	12 月 5 日～12 月 7 日	上海博物館「董其昌展」開会式出席のため	先方負担	

【東京国立博物館】延べ　52人（科学研究費助成事業、その他補助金を除く）

（参考：科学研究費助成事業、その他助成金を含む合計人数は69人）

○海外交流展経費・招へい共通事業費　34人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	鬼頭　智美	アメリカ	4 月 3 日～4 月 9 日	「マルセル・デュシャンと日本美術」展に関する打ち合わせのため	海外交流展経費	
2	矢野　賀一	同上	4月3日～4月9日	同上	同上	
3	松嶋　雅人	同上	4月4日～4月7日	作品調査並びに特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」に関する打合せのため	同上	
4	楊　鋭	中国	4月16日～4月18日	北京故宮で開催される「アール サーニ・コレクション展」の開会式を視察のため	同上	
5	小野塚　拓造	同上	同上	同上	同上	
6	楊　鋭	同上	4月23日～4月25日	学術交流協約書調印式のため	招へい共通事業費	
7	富田　淳	同上	同上	同上	同上	
8	矢野　賀一	ドイツ・フランス	6月18日～6月23日	パリ開催の縄文展に関する打合せ他	海外交流展経費	
9	小山　弓弦葉	インドネシア	7月18日～7月25日	アジアの旅にかかる特別調査	同上	
10	神辺　知加	同上	7月22日～7月25日	同上	同上	
11	楊　鋭	台湾	7月25日～7月28日	国際博物館長フォーラム出席のため（館長随行）	同上	
12	猪熊　兼樹	インドネシア	8月1日～8月10日	アジアの旅にかかる特別調査	同上	
13	楊　鋭	中国	8月29日～9月2日	第10回日中韓文化大臣会合に出席のため	同上	
14	君波　妙子	ロシア	8月30日～9月6日	「江戸絵画名品展」開会式出席のため（館長随行）	同上	
15	遠藤　楽子	韓国	9月9日～9月16日	韓国・国立中央博物館と当館との2018年度学術交流のため	招へい共通事業費	
16	富田　淳	中国	9月24日～9月27日	特別展「三国志」協約書調印式出席のため	海外交流展経費	
17	楊　鋭	同上	同上	同上	同上	
18	韓　知延	韓国	10月17日～10月21日	平成30年度韓国の博物館における多言語化調査	招へい共通事業費	
19	李　京林	同上	同上	同上	同上	
20	王　蕾	中国	10月30日～11月4日	中国の博物館におけるパネル表記及び多言語化調査	同上	
21	趙　玉萍	同上	同上	同上	同上	
22	飯田　茂雄	韓国	11月7日～11月17日	韓国・国立中央博物館と当館との2018年度学術交流のため	同上	
23	猪熊　兼樹	マレーシア	12月1日～12月8日	特別展にかかる打ち合わせのため	海外交流展経費	
24	小野塚　拓造	同上	同上	同上	同上	
25	山本　亮	中国	31年1月14日～1月26日	中国・上海博物館と当館との2018年度学術交流のため	招へい共通事業費	
26	鬼頭　智美	韓国	31年1月30日～2月1日	「The Essential Duchamp」展会場視察および現地担当者との業務確認、意見交換、および韓国国立中央博物館展示・広報関係多言語化語対応視察	海外交流展経費	
27	矢野　賀一	同上	31年1月30日～2月1日	同上	同上	
28	荻堂　正博	同上	31年2月26日～2月28日	同上	同上	
29	楊　鋭	中国	31年2月27日～3月1日	三国時代関連文物・遺跡の調査	同上	
30	河野　一隆	同上	同上	同上	同上	
31	市元　塁	同上	同上	同上	同上	
32	小野塚　拓造	イスラエル	31年3月8日～3月15日	展覧会準備のための調査・視察・打ち合わせ	同上	
33	鷲頭　桂	イスラエル・イギリス	31年3月10日～3月17日	同上	同上	
34	猪熊　兼樹	中国	31年3月10日～3月24日	中国・上海博物館と当館との2018年度学術交流のため	招へい共通事業費	

○職員旅費（その他）：延べ18人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	和田　浩	アメリカ	4 月 5 日～4 月 9 日	借用作品の環境条件の協議及び関連作品の展示環境調査のため	環境保全費	
2	井上　洋一	イタリア・フランス	6月5日～6月12日	特別展の打ち合わせ	副館長裁量経費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
3	和田　浩	韓国	6 月 11 日～6 月 12 日	貸与作品の環境条件の協議および展示環境調査	環境保全費	
4	和田　浩	ドイツ	6 月 18 日～6 月 20 日	展示ケースの施工状況検査	同上	
5	黄川田　翔	ドイツ・フランス	6月18日～6月23日	パリ開催の縄文展に関する打合せ他	防災⑥5）博物館展示・収蔵安全対策	
6	和田　浩	フランス	6月26日～6月29日	列品貸与先施設の環境調査	環境保全費	
7	田良島　哲	台湾	7 月 25 日～7 月 28 日	国際博物館長フォーラム出席のため（館長随行）	館長裁量経費	
8	六人部　克典	中国	10月14日～10月19日	「中国近代絵画の巨匠　斉白石」展にかかる作品輸送のため	文化財保存活用基金（斉白石）	
9	土屋　裕子	アメリカ	10月21日～10月28日	カンバス画・漆の安定化処置方法に関する研究のため	防災⑥2）カンバス画・漆器安定化処理	
10	野中　昭美	同上	10月21日～10月28日	同上	同上	
11	大橋　美織	ロシア	10月26日～10月27日	エルミタージュ美術館視察のため	館内調査研究費	
12	韓　知延	韓国	12月1日～12月4日	特別展「大高麗 918・2019、燦爛たる挑み」開会式　副館長随行	同上	
13	川岸　瀬里	フランス・イギリス	12月7日～12月13日	博物館視察、インタビュー	文化財活用センター	
14	荻堂　正博	同上	12月7日～12月13日	同上	同上	
15	和田　浩	イギリス	31年3月3日～3月5日	列品貸与予定先施設の環境調査	環境保全費	
16	井上　洋一	イスラエル・イギリス	31年3月11日～3月18日	展覧会準備のための調査・視察・打ち合わせ	副館長裁量経費	
17	植松　瑞希	中国	31年3月25日～3月29日	「中国近代絵画の巨匠　斉白石」展作品返却のため	文化財保存活用基金（斉白石）	
18	和田　浩	アメリカ	31年3月26日～3月29日	列品貸与予定先施設の環境調査	環境保全費	

○科学研究費助成事業：延べ15人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	和田　浩	ドイツ	4 月 2 日～4 月 9 日	11ｔｈ International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East 参加、発表のため	科学研究費	
2	小山　弓弦葉	アメリカ	6月3日～6月9日	文部科学省研究助成による作品調査	同上	
3	大橋　美織	台湾	9月19日～9月21日	「偽好物―16世紀～18世紀の「蘇州片」とその影響」展視察のため	同上	
4	猪熊　兼樹	韓国	10月17日～10月21日	科研にかかる調査のため	同上	
5	猪熊　兼樹	中国	11月14日～11月17日	中国古代漆器国際シンポジウム参加のため	同上	
6	小野塚　拓造	アメリカ	11月14日～11月19日	The 2018 ASOR Annual Meetingでの発表のため	同上	
7	瀬谷　愛	同上	31年1月20日～1月23日	科研にかかる調査研究のため	同上	
8	和田　浩	同上	31年2月4日～2月6日	海外輸送時の環境調査	同上	
9	河野　一隆	インドネシア	31年2月5日～2月16日	科研にかかる調査のため	同上	
10	和田　浩	オーストラリア	31年2月16日～2月20日	国際会議での研究成果発表	同上	
11	大橋　美織	イタリア	31年2月28日～3月10日	狩野派科研イタリア在外日本絵画調査	同上	
12	田沢　裕賀	イタリア	31年3月5日～3月10日	同上	同上	
13	小山　弓弦葉	オランダ・イギリス	31年3月10日～3月20日	文部科学省研究助成による作品調査	同上	
14	矢野　賀一	中国	31年3月11日～3月16日	基盤研究(B)「極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　－東アジア金属工芸史の再構築－」に係る調査	同上	
15	和田　浩	中国	31年3月11日～3月16日	同上	同上	

○その他補助金：延べ2人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	木下　史青	ウクライナ	6 月 2 日～6 月 8 日	テルモ生命科学芸術財団助成金にかかる調査のため	木下助成金（テルモ財団：文化的復興）	
2	ミウォシュ・ヴォズニ	アメリカ	10 月 4 日～10 月 9 日	フリーア・サックラーでの作品調査および展示の視察	ヴォズニ助成金（摘水軒財団：曽我蕭白）	

【京都国立博物館】延べ　35人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	栗原　祐司	台湾	4月19日～4月22日	「台湾世界記憶國家名録推動計画」会議出席、他	他機関負担	
2	降矢　哲男	アメリカ	4月22日～4月29日	サンフランシスコ・アジア美術館における日本陶磁調査	職員旅費	
3	リンネ　マリサ	同上	同上	サンフランシスコ・アジア美術館における日本陶磁調査補助	同上	
4	栗原　祐司	アメリカ	5月4日～5月10日	アメリカ博物館協会大会（AAM）参加	他機関負担	
5	リンネ　マリサ	同上	5月6日～5月11日	同上	同上	
6	栗原　祐司	同上	6月4日～6月5日	第28回日米文化教育交流会議（カルコン）参加	同上	
7	佐々木　丞平	フランス	6月4日～6月10日	ICOM総会等に参加	職員旅費	
8	栗原　祐司	同上	6月5日～6月12日	同上	同上	
9	呉　孟晋	中国	6月9日～6月12日	何香美術館「公共講座」での講演、広州美術学院美術館「中国現代美術史学術工作坊」での発表	他機関負担	
10	関谷　泰弘	イギリス	6月16日～6月22日	国際シンポジウムMuseumnext参加	科研費	
11	上杉　智英	中国	6月21日～6月25日	国際シンポジウム「思渓蔵」での発表	他機関負担	
12	栗原　祐司	アメリカ	6月21日～6月26日	ICOM-UMAC会議に出席	同上	
13	呉　孟晋	台湾	8月28日～9月2日	故宮博物院での講座、中央研究院シンポジウムでの発表	同上	
14	降矢　哲男	韓国	9月6日～9月11日	韓国国立海洋博物館国際学術院大会での発表及び全羅南道陶磁器調査	同上	
15	呉　孟晋	中国	9月21日～9月24日	北京画院国際シンポジウム「北京画院斉白石芸術国際研究センター2018年会及び学術検討会での発表	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
16	リンネ　マリサ	フランス、スイス、アゼルバイジャン	10月4日～10月16日	国際シンポジウム　ギメ美術館（5日・6日）、リートベルク美術館（7日・8日）にてICOM京都大会の宣伝・発表者と打合せ、ICOM－ICDAD年次会議（10日～14日　アゼルバイジャン）	他機関負担	
17	栗原　祐司	スイス	10月5日～10月10日	国際シンポジウム「Rosetsu in Context」参加	同上	
18	関谷　泰弘	アメリカ	10月8日～10月13日	国際シンポジウムICOM－MPR発表	同上	
19	呉　孟晋	中国	10月13日～10月19日	斉白石展の集荷	職員旅費	
20	栗原　祐司	アゼルバイジャン	10月21日～10月26日	国際科学会議参加	他機関負担	
21	福士　雄也	フランス	10月21日～11月28日	ジャポニズム「京都の宝：琳派300年の創造」展出陳重要文化財作品の展示設営指導・点検立合、随展	同上	
22	関谷　泰弘	オランダ	10月27日～11月3日	Cultural Global Leadership Programme参加	同上	
23	リンネ　マリサ	アメリカ	10月28日～11月4日	科学研究費「日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究」による染織調査にかかる通訳のため	同上	
24	上杉　智英	韓国	11月1日～11月3日	「日本現存の韓国仏教文献」講演	同上	
25	栗原　祐司	カンボジア	11月2日～11月6日	アセアン博物館会議	同上	
26	朝賀　浩	スイス	11月2日～11月9日	「長澤蘆雪―18世紀日本のアバンギャルド」展開催に伴う作品輸送等	同上	
27	山川　曉	韓国	11月5日～11月8日	国際シルクロード染織学会での発表	同上	
28	朝賀　浩	イギリス	11月20日～11月25日	大英博物館作品調査	同上	
29	栗原　祐司	中国	11月22日～11月27日	中国博物館大会参加	同上	
30	栗原　祐司	台湾	31年1月12日～14日	中華民国博物館學會年次会合参加	同上	
31	山﨑　秀保	ブラジル	31年2月18日～25日	ICOM京都大会2019に関するプレゼンテーション	同上	
32	呉　孟晋	中国	31年3月1日～3日	上海博物館「丹青宝筏：董其昌書画芸術大展」作品調査	職員旅費	
33	リンネ　マリサ	アメリカ	31年3月10日～20日	科学研究費「日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究」による染織調査にかかる通訳のため	他機関負担	
34	栗原　祐司	同上	31年3月23日～29日	ICOM DRMC Strategic Planning Meeting及び打ち合わせ	同上	
35	呉　孟晋	中国	31年3月25日～29日	特別企画「斉白石展」の返却	職員旅費	

【奈良国立博物館】延べ　20人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩田　茂樹	中国	12月11日～12月20日	中国上海博物館との協定に基づく学術交流	他機関負担	上海博物館他（中国）
2	中川　あや	同上	同上	同上	同上	同上
3	辻村　尚亨	同上	同上	同上	同上	同上
4	朴株顯	韓国	12月21日～1月16日	韓国慶州博物館との協定に基づく学術交流	同上	慶州博物館他（韓国）
5	張小娟	中国	1月8日～1月22日	河南博物院との協定に基づく学術交流	同上	河南博物院(中国)
6	堀内　しきぶ	同上	同上	同上	同上	同上

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	松本　伸之	中国	4月19日～4月23日	世界古都シンポジウム出席	運営費交付金	中国钼都利豪国际饭店
2	松本　伸之	韓国	5月23日～5月25日	慶州博物館特別展「皇龍寺」開会式出席	同上	国立慶州博物館
3	朴株顯	同上	同上	同上	同上	同上
4	山口　隆介	インドネシア	8月1日～8月7日	科研費「海洋交易路における仏教流伝形態の研究」にかかる調査	科学研究費助成事業（分担）	ジャカルタ国立中央博物館、ジョクジャカルタ遺跡
5	堀内　しきぶ	カナダ	9月23日～10月1日	COMCOL2018年次会合およびICOM国際委員会委員長意見交換会	他機関負担	Canadian Museum for Human Rights他
6	谷口　耕生	中国	11月8日～11月10日	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に伴う文化財調査及び研究資料蒐集	科学研究費助成事業（分担）	遼寧省博物館
7	北澤　菜月	同上	同上	科研費「作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究」に伴う繡仏及び関連作品の調査	同上	同上
8	北澤　菜月	韓国	11月28日～12月1日	韓国国立中央博物館「大高麗展」への館蔵品貸与にともなう輸送及び展示の立ち会い	他機関負担	国立中央博物館
9	内藤　栄	オランダ	12月10日～12月16日	「科研費「海洋交易路における仏教流伝形態の研究」に係る調査	科学研究費助成事業（分担）	オランダ国立ライクス美術館、リンデン美術館、国立インド美術館
10	北澤　菜月	アメリカ	1月15日～1月24日	国際シンポジウムへの参加及び仏教美術調査	他機関負担	フリアギャラリー他
11	谷口　耕生	韓国	1月13日～1月14日	韓国国立中央博物館「大高麗展」撤収・輸送・搬入	同上	国立中央博物館
12	岩田　茂樹	アメリカ	3月11日～3月29日	クリーブランド美術館「神道美術」展の作品輸送随行・展示作業立ち会い	同上	クリーブランド美術館
13	三本　周作	同上	同上	同上	同上	同上
14	谷口　耕生	アメリカ	同上	同上	同上	同上

【九州国立博物館】延べ　45人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	原田　あゆみ	タイ	6月4日～6月9日	ワシントン条約規制対象貨物（文化財）の輸出入に伴う現地調整	他機関負担	
2	島谷　弘幸	アメリカ	6月4日～6月7日	第28回カルコン合同会議にかかる駐米日本国大使レセプションおよび会議に出席のため	他機関負担	
3	崔英花	台湾	7月25日～7月28日	台北國立故宮博物院主催「第４世代の博物館：館長学術フォーラム」随行のため	運営費交付金	
4	島谷　弘幸	同上	同上	4.0世代の博物館を考える：博物館長学術フォーラム出席	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
5	川村　佳男	韓国	8月19日～8月21日	基盤研究（Ｂ）「極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較―東アジア金属工芸史の再構築」―に係る調査	科学研究費助成事業	
6	李秀眞	同上	同上	同上	同上	
7	原田　あゆみ	タイ	8月21日～9月1日	海外交流展「タイ」に係る調査および協議	運営費交付金	
8	小澤　佳憲	韓国	8月24日～9月5日	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	他機関負担	アジア文化交流センター負担
9	松浦　晃佑	台湾	8月28日～9月3日	台湾文化部芸術文化専門家招聘事業に係る館長視察同行のため	運営費交付金	
10	久保田　和之	韓国	9月19日～21日	教育普及事業に関する調査	他機関負担	アジア文化交流センター負担
11	川畑　憲子	中国	11月14日～11月22日	中国古代漆器国際シンポジウムおよび 2018 年中国文物学会漆器琺瑯器専業委員会年会／科研【基盤 C】「出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究」に係る自主調査	科学研究費助成事業、他機関負担	
12	大橋　有佳	ベトナム	9月23日～9月27日	ベトナム国立歴史博物館学術文化交流事業所蔵文化財の保存状態調査および関連情報の収集／基盤（Ａ）「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」に関わる保存修復調査用務	運営費交付金、科学研究費助成事業	
13	島谷　弘幸	台湾	8月28日～9月3日	台湾文化部芸術文化専門家招聘事業に係る視察および講演	他機関負担	
14	無津呂　健太郎	韓国	8月24日～9月5日	日韓学術文化交流協定に基づくシンポジウム等に参加し、学術研究および博物館活動に関する情報収集や資料の交換を行う	運営費交付金	直方市研修生
15	秋山　純子	フランス	9月23日～10月1日	基盤（C）「文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討」に係る調査	科学研究費助成事業	
16	臺信　祐爾	スイス	10月2日～10月6日	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」クーリエ業務（打ち合わせ・作品搬出・輸送随伴・作品搬入）のため	他機関負担	
17	志賀　智史	ベトナム	10月23日～10月27日	科研【基盤Ａ】「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」に関する調査・情報収集用務／ベトナム国立歴史博物館との学術文化交流事業のうち、所蔵文化財の修理事業	運営費交付金、科学研究費助成事業	
18	大澤　信	中国	10月25日～10月31日	四川省仏教彫刻調査および多言語標記調査	自己収入	
19	崔英花	同上	同上	同上	同上	
20	原田　あゆみ	スイス	12月13日～12月18日	『国際会議：琉球王国の芸術文化』発表、作品調査	他機関負担	
21	白井　克也	韓国	31年1月6日～1月10日	海外交流展にかかる事前調査	運営費交付金	
22	小泉　惠英	同上	同上	同上	同上	
23	川村　佳男	同上	31年1月16日～1月18日	基盤（Ｂ）「極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較－東アジア金属工芸史の再構築－」に係る調査	科学研究費助成事業	
24	李秀眞	同上	同上	同上	同上	
25	佐々木　蘭貞	スリランカ	31年1月26日～2月2日	スリランカ水中文化遺産現地調査	受託費	
26	小泉　惠英	タイ	31年2月3日～2月9日	瀋陽故宮展の開催打診のため／東博研究職員選考会議／タイとの国際交流展のための事前調査	運営費交付金	
27	望月　規史	同上	31年2月3日～2月10日	刀剣調査／タイとの国際交流展のための事前調査	同上	
28	無津呂　健太郎	同上	同上	タイとの国際交流展のための事前調査	同上	
29	佐々木　蘭貞	同上	31年2月5日～2月9日	同上	同上	直方市研修生
30	白井　克也	同上	同上	同上	同上	
31	松浦　晃佑	韓国	31年2月8日～2月11日	基盤（Ｂ）「対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究」に係る大蔵調査	科学研究費助成事業	
32	渡辺　祐基	ドイツ	31年2月16日～2月22日	Ｘ線ＣＴスキャナーの性能および組立て状態に係わる確認および協議	運営費交付金、他機関負担	
33	木川　りか	タイ	31年2月22日～2月26日	タイとの国際交流展のための事前調査	運営費交付金	
34	原田　あゆみ	同上	31年2月22日～2月27日	同上	同上	
35	秋山　純子	同上	同上	同上	同上	
36	松浦　晃佑	同上	31年2月25日～3月1日	日タイ学術交流協定にかかわる調査	運営費交付金	
37	川畑　憲子	中国	31年2月25日～3月2日	科研【基盤Ｃ】出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究に係る自主調査	科学研究費助成事業	
38	李秀眞	韓国	31年3月2日～3月5日	韓国の博物館・美術館における文化財表記および多言語化対応に係る調査	自己収入	
39	白井　克也	オランダ、ベルギー	31年3月3日～3月9日	特別展「古代エジプト展（仮称）」にかかわる事前調査	他機関負担	
40	森實　久美子	ドイツ、ポルトガル	31年3月5日～3月13日	基盤（A）「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」にかかる調査／日本仏教美術作品の調査	科学研究費助成事業	
41	川村　佳男	中国	31年3月11日～3月16日	科研（基盤B）「極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較－東アジア金属工芸史の再構築－」に係る調査	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
42	小泉　惠英	同上	31年3月20日～3月23日	特別展「瀋陽故宮展（仮）」にかかる打ち合わせおよび調査／特集展示「文化財よ、永遠に」図録・運営打ち合わせ	運営費交付金	
43	川村　佳男	同上	31年3月20日～3月24日	特別展「瀋陽故宮展（仮）」にかかる打ち合わせおよび調査	同上	
44	桑原　有寿子	同上	同上	同上	同上	
45	西島　亜木子	台湾	31年3月26日～3月29日	障がい者対応に係る教育普及事業調査	自己収入	

【東京文化財研究所】延べ　140人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	淺田　なつみ	ネパール	9月16日～9月28日	ハヌマンドカ王宮内における現地調査、歴史的集落保全に関するカトマンズ盆地内行政職員との打ち合わせ	受託（文化庁）	
2	淺田　なつみ	カンボジア	31年1月19日～1月26日	タネイ遺跡東門仮設補強実施監理	運営費交付金	
3	淺田　なつみ	ネパール	31年2月22日～3月14日	ハヌマンドカ王宮内における蛍光X線分析を用いた壁画調査等	受託（文化庁）	
4	安倍　雅史	イラン	5月31日～6月14日	カル・クブ遺跡の発掘調査	科学研究費	
5	安倍　雅史	カンボジア	8月18日～9月15日	タネイ遺跡における現地調査	運営費交付金	
6	安倍　雅史	イラン	10月18日～10月26日	大気汚染と虫害に関するワークショップの実施	同上	
7	安倍　雅史	バーレーン	31年1月5日～2月1日	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科学研究費	
8	安倍　雅史	同上	31年2月9日～2月14日	同上	同上	
9	石田　真弥	台湾	8月12日～8月18日	台湾の近代文化遺産の実査	運営費交付金	
10	石村　智	韓国	4月23日～5月7日	韓国国立無形遺産院との研究交流	同上	
11	石村　智	マレーシア	7月23日～7月28日	国際狩猟採集社会研究会議に参加	同上	
12	石村　智	ミクロネシア連邦	8月11日～8月19日	ミクロネシアにおけるスカイスケープ考古学の実践に関する現地調査	他機関負担	
13	石村　智	ネパール	8月21日～8月30日	ネパール・カトマンズ盆地の無形文化遺産調査	受託（文化庁）	
14	石村　智	フィジー	10月19日～10月26日	ACCUの研修にて講義	他機関負担	
15	石村　智	モーリシャス	11月24日～12月2日	第13回無形文化遺産保護条約政府間会議に出席	運営費交付金	
16	犬塚　将英	イタリア	9月10日～9月15日	IIC2018での成果発表及び情報交換	同上	
17	犬塚　将英	トルコ	10月18日～10月23日	研修での講義	受託（文化庁）	
18	元　喜載	メキシコ	5月26日～6月7日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
19	元　喜載	ドイツ	7月1日～7月15日	ワークショップ開催	基金	
20	元　喜載	カナダ	11月25日～11月30日	作品調査	運営費交付金	
21	元　喜載	ドイツ	31年3月11日～3月15日	シンポジウム開催に係る資材輸送	基金	
22	江村　知子	マレーシア	8月26日～8月29日	ＩＦＬＡ世界大会参加	運営費交付金	
23	江村　知子	オランダ、スイス、フランス	10月3日～10月11日	国際美術図書館会議参加および情報収集	同上	
24	江村　知子	イギリス	11月13日～11月21日	研究協議および調査	同上	
25	江村　知子	カナダ	11月25日～11月30日	作品調査	同上	
26	江村　知子	アメリカ	31年2月7日～2月10日	作品調査および研究情報収集	科学研究費	
27	江村　知子	同上	31年3月20日～3月28日	屏風絵作品の調査および会議出席	科学研究費／運営費交付金	
28	大島　大輔	トルコ	10月18日～10月26日	打合せ、現地調査、研修	運営費交付金	
29	小田切　真梨	台湾	8月7日～8月10日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の視察	同上	
30	小野　真由美	アメリカ	31年3月25日～3月29日	作品の熟覧および法量の計測ほか	科学研究費	
31	加藤　雅人	メキシコ	5月26日～6月7日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
32	加藤　雅人	ドイツ	7月1日～7月14日	ワークショップ開催	基金	
33	加藤　雅人	台湾	8月6日～8月17日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
34	加藤　雅人	カナダ	11月25日～11月28日	作品調査	運営費交付金	
35	加藤　雅人	ドイツ	31年3月11日～3月14日	シンポジウム開催に係る資材輸送	基金	
36	川野邊　渉	イタリア	11月13日～11月17日	ICCROM理事会出席	他機関負担	
37	間舎　裕生	アルメニア、ジョージア	6月19日～7月12日	染織品のドキュメンテーションおよび染色に関するワークショップの開催	運営費交付金	
38	間舎　裕生	カンボジア	9月12日～10月8日	タネイ遺跡における現地調査	同上	
39	間舎　裕生	カンボジア	31年3月7日～3月18日	タネイ遺跡における調査	運営費交付金	
40	菊池　理予	台湾	8月7日～8月10日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の講師	基金	
41	北河　大次郎	同上	8月12日～8月20日	台湾の近代文化遺産シンポジウムと実査	運営費交付金	
42	北河　大次郎	スイス、イタリア	8月23日～8月31日	スイス、イタリアにおけるコンクリート構造物事例調査	運営費交付金	
43	橘川　英規	リトアニア	9月11日～9月18日	2018EAJRS conference in Kaunasへの参加	同上	
44	久保田　裕道	中国	6月8日～6月11日	ワークショップへの参加	同上	
45	久保田　裕道	ネパール	8月21日～8月30日	ネパール・カトマンズ盆地の無形文化遺産調査	受託（文化庁）	
46	久保田　裕道	韓国	10月25日～10月27日	国際無形文化遺産会議2018への参加	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
47	久保田　裕道	ネパール	31年3月10日～3月14日	ラリトプル市長会議への出席	受託（文化庁）	
48	倉島　玲央	ミャンマー	31年3月4日～3月8日	ミャンマー産漆と漆器に係る研究打ち合わせと現地調査	運営費交付金	
49	五木田　まきは	メキシコ	5月26日～6月7日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	同上	
50	五木田　まきは	ドイツ	7月1日～7月15日	ワークショップ開催	基金	
51	五木田　まきは	台湾	8月12日～8月17日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	同上	
52	五木田　まきは	エルサルバドル、ホンジュラス	10月23日～11月12日	シンポジウム発表、現地調査	科学研究費／助成金	
53	五木田　まきは	ドイツ	31年3月11日～3月15日	シンポジウム開催に係る資材輸送	基金	
54	後藤　里架	台湾	8月6日～8月17日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
55	後藤　里架	ドイツ	11月24日～12月3日	同上	同上	
56	小林　公治	韓国	5月10日～5月12日	韓国国立中央博物館での会議出席	他機関負担	
57	小林　公治	シンガポール、インドネシア、フィリピン	8月7日～8月18日	漆器等の調査および協議	科学研究費	
58	小林　公治	イギリス	11月4日～11月8日	浦添市美術館ほかでの調査および研究会出席	同上	
59	小林　公治	中国	11月14日～11月23日	中国での国際学会発表および調査	科学研究費／運営費交付金／他機関負担	
60	小林　公治	中国	31年3月8日～3月17日	中国国内各地での調査、意見交換および協議	科学研究費	
61	小峰　幸夫	イラン	10月18日～10月26日	大気汚染と虫害に関するワークショップの実施	運営費交付金	
62	境野　飛鳥	バーレーン	6月23日～7月5日	第42回世界遺産委員会への出席	同上	
63	境野　飛鳥	イギリス、フランス	31年3月4日～3月8日	文化財の英語表記にかかる聞き取り調査	受託（文化庁）	
64	佐藤　嘉則	ポルトガル	9月4日～9月9日	IBBS18国際会議への参加	科学研究費	
65	佐野　千絵	韓国	9月11日～9月14日	LMLCS2018への参加と招待講演	他機関負担	
66	佐野　千絵	イラン	10月18日～10月26日	大気汚染と虫害に関するワークショップの実施	運営費交付金	
67	塩谷　純	アメリカ	11月1日～11月6日	石橋財団国際シンポジウム「近代日本美術と中国」での研究発表	他機関負担	
68	鴫原　由美	ミャンマー	7月11日～7月25日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	運営費交付金	
69	鴫原　由美	イタリア	11月12日～11月20日	南イタリアにおける壁画の保存管理に関する調査	同上	
70	鴫原　由美	ミャンマー	31年1月14日～1月25日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	同上	
71	城野　誠治	タイ	31年1月27日～2月2日	タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査	同上	
72	友田　正彦	ネパール	4月10日～4月19日	ハヌマンドカ王宮内における修復事業に関する運営委員会への出席および現地調査	受託（文化庁）	
73	友田　正彦	ミャンマー	5月23日～5月29日	歴史的建造物の建築構法・技術に関する調査および技術的助言	同上	
74	友田　正彦	カンボジア	6月3日～6月9日	ICC会議への参加およびタネイ遺跡における調査	運営費交付金	
75	友田　正彦	ネパール	7月9日～7月14日	ハヌマンドカ王宮内における現地調査	受託（文化庁）	
76	友田　正彦	ブータン	7月15日～7月25日	ブータンの歴史的版築建造物に関する調査	科学研究費	
77	友田　正彦	ミャンマー	8月21日～8月26日	ミャンマー・バガンにおける歴史的煉瓦造建造物に関する調査	受託（文化庁）	
78	友田　正彦	カンボジア	9月24日～9月29日	タネイ遺跡における現地調査	運営費交付金	
79	友田　正彦	韓国	10月23日～10月26日	ISAIA2018（The International Symposium on Architectural Interchanges in Asia）における発表	同上	
80	友田　正彦	ミャンマー	11月12日～11月19日	歴史的建造物の建築構法・技術に関する調査および技術的助言	受託（文化庁）	
81	友田　正彦	韓国	12月20日～12月22日	東アジアイコモスワークショップでの講演	他機関負担	
82	友田　正彦	ブータン	31年1月13日～1月20日	ブータン内務文化省文化局遺跡保存課(DCHS)との打ち合わせおよび現地調査	運営費交付金	
83	友田　正彦	ネパール	31年2月24日～3月2日	ハヌマンドカ王宮修復事業に関する調査および打ち合わせ	受託（文化庁）	
84	友田　正彦	ネパール、カンボジア	31年3月10日～3月18日	ラトリプル市長会議への出席、タネイ遺跡調査	受託(文化庁)、運営費交付金	
85	友田　正彦	ネパール	31年3月22日～3月26日	ハヌマンドカ王宮修復事業に関する会議出席	受託（文化庁）	
86	中山　俊介	ネパール	4月10日～4月14日	ハヌマンドカ王宮内における修復事業に関する運営委員会への出席および現地調査	運営費交付金	
87	中山　俊介	メキシコ	5月27日～6月1日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催視察	同上	
88	中山　俊介	バーレーン、ドイツ、アルメニア、ジョージア	6月27日～7月12日	第42回世界遺産委員会への出席、研修の視察と情報収集	運営費交付金	
89	中山　俊介	台湾	8月7日～8月10日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の視察	同上	
90	中山　俊介	台湾	8月12日～8月18日	台湾の近代文化遺産の実査	同上	
91	中山　俊介	トルコ	10月18日～10月26日	打合せ、現地調査、研修	同上	
92	中山　俊介	イタリア	11月11日～11月20日	南イタリアにおける壁画の保存管理に関する調査	同上	
93	中山　俊介	ドイツ	11月24日～12月5日	大気汚染と虫害に関するワークショップの開催、作品調査	基金／他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
94	西　和彦	バーレーン	6月23日～7月5日	第42回世界遺産委員会への出席	運営費交付金	
95	西　和彦	スイス	9月17日～9月21日	第４回ル・コルビジェ国際常設会議への出席	他機関負担	
96	西　和彦	イタリア	11月13日～11月17日	ICCROM理事会出席	運営費交付金	
97	西　和彦	アルゼンチン	12月2日～12月9日	ICOMOS総会への出席	他機関負担	
98	西　和彦	イギリス、フランス	31年3月4日～3月8日	文化財の英語表記にかかる聞き取り調査	受託（文化庁）	
99	早川　典子	中国	10月27日～11月1日	壁画古墳の保存修復方法に関する調査及び研究交流会での発表	受託（文化庁）	
100	早川　典子	ドイツ	11月25日～12月1日	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の講師	基金	
101	早川　典子	ミャンマー	31年3月4日～3月8日	ミャンマー産漆と漆器に係る研究打ち合わせと現地調査	科学研究費	
102	早川　泰弘	台湾	8月15日～8月19日	国際シンポジウムへの出席	他機関負担	
103	日高　信二	メキシコ	5月27日～6月1日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催視察	運営費交付金	
104	二神　葉子	バーレーン	6月23日～7月5日	第42回世界遺産委員会への出席	同上	
105	二神　葉子	モンゴル	9月19日～9月23日	「モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究」シンポジウムでの発表	科学研究費	
106	二神　葉子	モーリシャス	11月24日～12月2日	第13回無形文化遺産保護条約政府間会議に出席	運営費交付金	
107	二神　葉子	韓国	12月20日～12月22日	東アジアイコモスワークショップでの講演	他機関負担	
108	二神　葉子	タイ	31年1月27日～2月2日	タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査	運営費交付金	
109	外間　尹隆	ドイツ	11月24日～11月29日	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の視察	同上	
110	米沢　玲	カナダ	11月25日～11月30日	作品調査	同上	
111	前川　佳文	イタリア、スイス	4月19日～4月29日	ミャンマーおよびトルコ事業に関する打ち合わせ	同上	
112	前川　佳文	トルコ	6月20日～7月1日	壁画関連調査と研修での講義	受託（文化庁）	
113	前川　佳文	ミャンマー	7月11日～8月5日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	運営費交付金	
114	前川　佳文	イタリア	8月19日～8月31日	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	科学研究費	
115	前川　佳文	同上	9月6日～9月19日	ポンペイ遺跡壁画保存修復新技法開発に向けた実験調査	同上	
116	前川　佳文	トルコ	10月10日～10月26日	壁画関連調査と研修での講義	受託（文化庁）	
117	前川　佳文	イタリア	11月12日～11月20日	南イタリアにおける壁画の保存管理に関する調査	科学研究費	
118	前川　佳文	エジプト	12月17日～31月1月1日	新王国時代岩窟墓内に描かれた壁画の保存修復事前調査および壁画損傷個所の応急処置	同上	
119	前川　佳文	ミャンマー	31年1月14日～2月3日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	運営費交付金	
120	増渕　麻里耶	ドイツ	4月2日～4月8日	ICAANE2018への参加	他機関負担	
121	増渕　麻里耶	トルコ	11月4日～11月9日	壁画保存に関する教育機関調査	受託（文化庁）	
122	増渕　麻里耶	ネパール	31年2月22日～2月28日	ハヌマンドカ王宮内における蛍光X線分析を用いた壁画調査等	同上	
123	マルティネス　アレハンドロ	イギリス	4月23日～5月4日	Weald and Downland Living Museumにおける大工研修の調査および南英国の歴史木造建築に関する調査	科学研究費	
124	マルティネス　アレハンドロ	ミャンマー	5月23日～5月29日	歴史的建造物の建築構法・技術に関する調査および技術的助言	受託（文化庁）	
125	マルティネス　アレハンドロ	カンボジア	6月3日～6月9日	ICC会議への参加およびタネイ遺跡における調査	運営費交付金	
126	マルティネス　アレハンドロ	ブータン	7月15日～7月25日	ブータンの歴史的版築建造物に関する調査	同上	
127	マルティネス　アレハンドロ	ミャンマー	8月21日～8月26日	ミャンマー・バガンにおける歴史的煉瓦造建造物に関する調査	受託（文化庁）	
128	マルティネス　アレハンドロ	イギリス	9月7日～9月20日	ICOMOS木の委員会国際シンポジウムにおける参加・発表、イギリス木造建築調査	科学研究費	
129	マルティネス　アレハンドロ	ミャンマー	11月12日～11月19日	歴史的建造物の建築構法・技術に関する調査および技術的助言	受託（文化庁）	
130	マルティネス　アレハンドロ	ブータン、カンボジア	31年1月13日～1月26日	ブータン内務文化省文化局遺跡保存課(DCHS)との打ち合わせおよび現地調査、タネイ遺跡東門仮設補強実施監理	運営費交付金	
131	安川　政和	イギリス	7月11日～7月15日	セインズベリー日本藝術研究所表敬訪問及び共同研究に係る協定書の署名式	同上	
132	安永　拓世	スイス	8月28日～9月8日	長澤蘆雪－18世紀日本のアバンギャルド」展開催に伴う作品輸送等	他機関負担	
133	安永　拓世	イギリス	11月13日～11月21日	講演、研究協議および調査	運営費交付金	
134	山田　大樹	ネパール	4月25日～5月11日	ハヌマンドカ王宮内における現地調査および歴史的集落サンクーにおけるエンジニアWSの開催	受託（文化庁）	
135	山田　大樹	イラン	5月16日～5月25日	歴史的地区における開発に関する現地調査	科学研究費	
136	山田　大樹	ネパール	7月7日～7月18日	ハヌマンドカ王宮内における現地調査	受託（文化庁）	
137	山田　大樹	同上	9月16日～9月28日	ハヌマンドカ王宮内における現地調査、歴史的集落保全に関するカトマンズ盆地内行政職員との打ち合わせ	同上	
138	山田　大樹	フィリピン	10月1日～10月5日	NCCA（国家文化芸術委員会）主催「文化統計および創造的経済に係る国際会議」での発表	運営費交付金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
139	山梨　絵美子	イギリス	7月11日～7月15日	セインズベリー日本藝術研究所表敬訪問及び共同研究に係る協定書の署名式	運営費交付金	
140	山府木　碧	ミャンマー	31年3月4日～3月8日	ミャンマー産漆と漆器に係る研究打ち合わせと現地調査	同上	

【奈良文化財研究所】延べ　144人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	国武　貞克	カザフスタン	3月27日～4月7日	カザフスタンにおける旧石器資料調査	先方負担	
2	島田　敏男	ベトナム	4月18日～4月22日	ゲアン省カイソン村の集落調査	運営費交付金	
3	内田　和伸	韓国	4月19日～4月21日	公州大学校での研究発表	先方負担	
4	庄田　慎矢	同上	4月22日～4月26日	研究打合せ、資料調査	科学研究費	
5	杉山　洋	カンボジア	4月22日～4月27日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
6	箱崎　和久	中国	4月27日～5月1日	福州大学開催楊鴻勛建築史学国際学術検討会への出席	先方負担	
7	中村　一郎	フィジー	5月13日～5月18日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催ワークショップ事前準備	他機関負担	
8	影山　悦子	フランス	5月15日～5月21日	ウストゥルシャナに関するワークショップへの参加、発表	科学研究費	
9	佐藤　由似	カンボジア	5月18日～6月10日	前近代日本=カンボジア間交流史の構築：出土陶磁器と日本=カンボジア往復書簡に基づく歴史・考古学研究	渡航費：先方負担、滞在費：科学研究費	
10	杉山　洋	同上	5月21日～5月25日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
11	今井　晃樹	韓国	5月27日～5月31日	瓦磚の調査および関連遺跡の調査	科学研究費	
12	影山　悦子	ウズベキスタン	6月3日～6月9日	ソグド、バクトリアの壁画の調査・記録	助成金＋科学研究費	
13	杉山　洋	カンボジア	6月4日～6月8日	西トップ遺跡の調査と修復に関する資材等の状況確認	助成金	
14	庄田　慎矢	中国	6月7日～6月12日	国際会議(English Worldwid Conference of the society for East Asian Archaeology)での学会発表、打合せ	運営費交付金	
15	山藤　正敏	同上	同上	第8回東アジア考古学会（SEAA8）への参加・口頭発表	科学研究費	
16	田村　朋美	同上	同上	国際会議(English Worldwid Conference of the society for East Asian Archaeology)に出席、研究発表	科学研究費分担金	
17	丹羽　崇史	中国	6月7日～6月18日	SEAA8への参加・発表	科学研究費	
18	佐藤　由似	カンボジア	6月22日～6月29日	西トップ遺跡の調査	助成金	
19	森本　晋	バーレーン	6月23日～7月1日	第42回世界遺産委員会出席	運営費交付金	
20	杉山　洋	カンボジア	6月24日～6月29日	西トップ遺跡の調査と修復に関する資材等の状況確認	助成金	
21	石橋　茂登	韓国	6月25日～6月28日	日韓共同研究に関する学術交流	運営費交付金	
22	庄田　慎矢	同上	同上	同上	同上	
23	松村　恵司	同上	同上	同上	同上	
24	国武　貞克	カザフスタン	7月10日～8月9日	カザフスタンにおける旧石器資料調査	科学研究費	
25	丹羽　崇史	中国	7月14日～7月19日	資料調査	同上	
26	佐藤　由似	カンボジア	7月16日～7月28日	西トップ遺跡の調査	助成金	
27	脇谷　草一郎	中国	7月19日～7月21日	故宮博物院養心殿の劣化状態調査に参加	先方負担	
28	森本　晋	カンボジア	7月22日～7月26日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
29	大林　潤	同上	同上	西トップ遺跡の建築学的調査	同上	
30	杉山　洋	同上	7月22日～7月27日	西トップ遺跡の調査と修復	同上	
31	加藤　真二	ロシア	7月28日～8月9日	ロシア・アルタイで開催されるアジア旧石器協会(APA)会議に参加、研究報告	科学研究費分担金	
32	山口　欧志	インドネシア	8月4日～8月14日	インドネシア政府との調査プロジェクトの締結と三次元計測ワークショップの開催	他機関負担	
33	海野　聡	中国	8月13日～8月17日	福建省歴史的建造物調査	助成金	
34	田村　朋美	ベトナム	8月13日～8月20日	ベトナム中部チャーキュウ都城遺跡出土ガラス資料の実見および遺跡の踏査	他機関負担	
35	加藤　真二	中国	8月15日～8月21日	霊井関連遺跡出土品の調査	科学研究費	
36	山口　欧志	モンゴル	8月19日～8月26日	モンゴル国内の遺跡と碑文の研究の為	他機関負担	
37	高妻　洋成	エクアドル	8月20日～8月29日	「エクアドル地震2016」による被災博物館支援 研究プロジェクト	同上	
38	杉山　洋	カンボジア・タイ	8月25日～9月3日	古代・中世東西回廊-東南アジア大陸部交流網の歴史的動態	科学研究費分担金	
39	佐藤　由似	カンボジア・タイ	8月25日～9月5日	西トップ遺跡調査、タイ調査	同上	
40	田村　朋美	タイ・トルコ	8月31日～9月9日	タイ・ナコーンシータマラートにおける出土品調査、およびトルコ・イスタンブール開催の国際学会(AIHV21:21st Internationaler Kongress der Association Internationa;e Poit I' Histoire du Verre)に参加、研究発表	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
41	前川　歩	韓国	9月3日～10月5日	国立慶州文化財研究所との発掘交流	運営費交付金	
42	高妻　洋成	中国	9月8日～9月10日	中日協力文化財防災減災高級研修事業	同上	
43	国武　貞克	カザフスタン	9月10日～10月9日	カザフスタンにおける発掘調査	科学研究費	
44	浦　蓉子	中国	9月15日～9月23日	中国田螺山遺跡の木製品調査	他機関科学研究費	
45	庄田　慎矢	ドイツ	9月17日～9月24日	学会参加、研究打合せ	科学研究費	
46	影山　悦子	カナダ	9月18日～9月22日	第16回アメリカ織物学会シンポジウムへの参加、研究発表	同上	
47	丹羽　崇史	モンゴル・韓国	9月18日～9月25日	モンゴル西北部における冶金関連遺跡の調査	科学研究費分担金	
48	山口　欧志	モンゴル	9月20日～9月23日	億歳交流基金助成国際シンポジウム「世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山と周辺の聖なる景色」-課題と展望」への参加・発表	同上	
49	田村　朋美	同上	9月23日～9月28日	モンゴル出土ガラス製遺物の調査	他機関負担	
50	MARES Emmanuel	アメリカ	9月23日～10月3日	北米日本庭園協会主催の国際シンポジウムに参加	科学研究費	
51	杉山　洋	カンボジア	9月24日～9月28日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
52	山藤　正敏	キルギス	9月24日～10月8日	キルギス共和国チュー渓谷西部の考古学調査	科学研究費	
53	高妻　洋成	モンゴル	9月26日～9月29日	文化遺産研究センターとの研究交流に関する打合せ	運営費交付金	
54	星野　安治	カザフスタン	10月2日～10月10日	カザフスタンにおける現代考古学調査研究における自然科学的方法の適用と応用	先方負担	
55	庄田　慎矢	韓国	10月6日～10月8日	研究集会、打合せ	科学研究費	
56	李　暉	中国	10月14日～10月18日	中国浙江省台州地区大工道具調査実施	同上	
57	岩戸　晶子	韓国	10月17日～10月21日	韓国瓦学会での研究発表	渡航費：先方負担、滞在費：韓国瓦学会・科学研究費	
58	今井　晃樹	同上	10月18日～10月21日	韓国瓦学会での研究発表および韓国古代寺院の調査	同上	
59	加藤　真二	フランス	10月20日～10月28日	ＩＰＨにおける中国旧石器・細石器の調査	科学研究費	
60	中村　一郎	フィジー	10月23日～10月29日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催ワークショップ事前準備	先方負担	
61	杉山　洋	カンボジア	10月24日～10月29日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
62	山藤　正敏	キルギス	10月25日～11月8日	キルギス共和国アク・ベシム遺跡の考古学調査	科学研究費分担金	
63	森本　晋	アメリカ	10月26日～11月1日	学会PNC2018に出席	他機関負担	
64	石橋　茂登	中国	10月27日～11月1日	吉林省集安所在の高句麗壁画墓の視察調査	受託	
65	金　旻貞	同上	同上	同上	同上	
66	玉田　芳英	同上	同上	同上	同上	
67	廣瀬　覚	同上	同上	同上	同上	
68	栗山　雅夫	同上	同上	同上	同上	
69	中島　義晴	韓国	10月29日～11月2日	韓国国立文化財研究所との共同研究	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
70	内田　和伸	同上	同上	同上	同上	
71	柳　成煜	同上	11月1日～11月3日	韓国文化財保存科学会参加	先方負担	
72	山口　欧志	インドネシア	11月3日～11月16日	インドネシアでの研究活動のためVISA取得手続きおよびインドネシア科学院（LIPI）との研究打合せ	他機関負担	
73	加藤　真二	中国	11月10日～11月16日	霊井関連遺跡出土品の調査	科学研究費	
74	小池　伸彦	同上	11月12日～11月17日	遼寧省文物考古研究所との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」(喇嘛洞遺跡、大板営子遺跡ほか出土遺物の調査、平成31年度共同研究・研究計画の協議)	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
75	廣瀬　覚	同上	同上	同上	同上	
76	栗山　雅夫	中国	同上	同上	同上	
77	大澤　正吾	中国	同上	同上	同上	
78	庄田　慎矢	オランダ・イギリス	11月20日～11月26日	研究打合せ・国際シンポジウム	先方負担・運営費交付金	
79	石橋　茂登	同上	同上	同上	同上	
80	田村　朋美	イギリス	11月21日～11月25日	国際シンポジウムに参加	先方負担	
81	李　暉	中国	11月22日～11月29日	中国浙江省台州地区大工道具調査実施	科学研究費	
82	影山　悦子	ミャンマー	11月23日～12月1日	測量研修の補助	受託	
83	森本　晋	同上	同上	同上	同上	
84	山藤　正敏	同上	同上	同上	同上	
85	島田　敏男	カンボジア	11月25日～11月29日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金	
86	大林　潤	同上	11月25日～11月30日	西トップ遺跡の建築学的調査	同上	
87	杉山　洋	同上	11月25日～12月6日	西トップ遺跡の調査と修復	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
88	佐藤　由似	同上	12月3日～12月9日	西トップ遺跡調査、プノンペン王立芸術大学	同上	
89	森本　晋	同上	12月4日～12月7日	国際調整委員会出席、西トップ遺跡の調査	同上	
90	田村　朋美	中国	12月7日～12月10日	国際シンポジウム（International Symposium on Ancient Glass along The Silk Road)に出席、研究発表	先方負担	
91	高田　祐一	韓国	12月10日～12月13日	日韓共同研究「日韓古墳・寺院の比較研究」にかかる調査	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
92	廣瀬　覚	同上	同上	同上	同上	
93	高妻　洋成	中国	12月13日～12月16日	雲崗石窟の保存に関する現地調査	先方負担	
94	森本　晋	フランス	12月14日～12月19日	計量基準資料の調査	運営費交付金	
95	佐藤　由似	カンボジア	12月17日～12月25日	西トップ遺跡調査	同上	
96	庄田　慎矢	ドイツ・リトアニア	1月8日～1月16日	国際研究集会"Transeurasian millets and beans, language and genes"および"International Seminar on Archacology of Central Asia"における研究発表	一部先方負担、科学研究費	
97	石橋　茂登	韓国	1月11日～1月12日	韓国所在の古墳壁画関連施設の視察調査	受託	
98	李　暉	同上	1月11日～1月14日	科学研究費基盤研究Ｂ（古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質）研究会参加	科学研究費分担金	
99	高妻　洋成	同上	同上	韓国所在の類似古墳壁画の調査	受託	
100	荻山　琴美	同上	同上	韓国所在の古墳壁画関連施設の視察調査	同上	
101	金　旻貞	同上	同上	同上	同上	
102	畑野　吉則	台湾	1月15日～1月17日	台湾中央研究院歴史語言研究所で文字検索共通DB構築の打合せ	科学研究費	
103	馬場　基	同上	同上	木簡・簡牘画像IIIF化に関する共同研究	同上	
104	高田　祐一	同上	同上	台湾中央研究院歴史語言研究所で文字検索共通DB構築の打合せ	同上	
105	鈴木　智大	中国	1月15日～1月19日	浙江省の古建築調査および資料収集	同上	
106	杉山　洋	カンボジア	1月15日～1月19日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
107	森本　晋	ミャンマー	1月15日～1月22日	窯跡・陶磁器の調査研修とワークショップ開催	受託	
108	影山　悦子	同上	同上	窯跡・陶磁器の調査研修とワークショップ開催の補助	同上	
109	佐藤　由似	同上	同上	窯跡・陶磁器の調査研修とワークショップ開催	同上	
110	石橋　茂登	イタリア	1月24日～1月30日	壁画の複製等による展示手法の調査	同上	
111	西田　紀子	イタリア	同上	同上	同上	
112	中田　愛乃	イタリア	同上	同上	同上	
113	佐藤　由似	カンボジア	2月5日～3月2日	ポスト・アンコール期の調査	科学研究費	
114	金田　明大	イタリア	2月10日～2月15日	ADRIANE+(Plus)キックオフミーティング参加	運営費交付金	
115	高田　祐一	同上	2月10日～2月16日	アリアドネプロジェクトに関する協議	科学研究費	
116	森本　晋	台湾	2月12日～2月15日	中央研究院での陶磁器に関する調査	運営費交付金	
117	尾野　善裕	同上	同上	同上	同上	
118	加藤　真二	中国	2月15日～2月24日	鄭州・済南・北京での研究成果報告、資料調査、研究打合せ	科学研究費	
119	影山　悦子	ウズベキスタン	2月17日～2月23日	イスラム以前の考古遺物の調査ほか	科学研究費、助成金	
120	石田　由紀子	韓国	2月18日～2月22日	慶州および扶余地域における6～8世紀の瓦の調査	渡航費：科学研究費、滞在費:先方負担	
121	清野　陽一	同上	同上	同上	同上	
122	岩戸　晶子	同上	同上	韓国古代寺院における出土瓦の調査	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
123	小田　裕樹	韓国	2月25日～3月1日	日韓共同研究の一環として①慶州出土唐三彩の調査、②百済地域出土時の調査、③韓国の食器・食事・食生活に関わる民俗調査	同上	
124	森川　実	同上	同上	同上	運営費交付金	
125	松永　悦枝	韓国	2月25日～3月1日	日韓共同研究の一環として①慶州出土唐三彩の調査、②百済地域出土時の調査、③韓国の食器・食事・食生活に関わる民俗調査	運営費交付金	
126	桑田　訓也	台湾	2月25日～3月1日	簡牘の調査、研究会での発表	先方負担	
127	馬場　基	台湾	同上	簡牘史料等の調査	他機関科学研究費	
128	栗山　雅夫	中国	2月25日～3月27日	中国社会科学院考古研究所との学術交流	先方負担	
129	浦　蓉子	中国	2月26日～3月3日	中国田螺山遺跡の木製品調査	他機関科学研究費	
130	畑野　吉則	同上	3月4日～3月12日	中国甘粛省および湖南省出土簡牘の調査	科学研究費	
131	浦　蓉子	中国	3月4日～3月12日	中国甘粛省および湖南省出土簡牘の調査	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
132	佐藤　由似	カンボジア	3月5日～3月10日	西トップ遺跡の調査と修復	科学研究費分担金	
133	杉山　洋	同上	同上	同上	運営費交付金	
134	渡邉　晃宏	韓国	3月12日～3月14日	韓国出土木簡の調査・木簡研究交流	科学研究費	
135	桑田　訓也	同上	3月12日～3月15日	日韓共同研究木簡等出土文字資料の調査	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
136	今井　晃樹	中国	3月16日～3月23日	北魏洛陽宮城出土遺物の調査	運営費交付金	
137	岩戸　晶子	同上	同上	同上	同上	
138	石田　由紀子	同上	同上	同上	同上	
139	清野　陽一	同上	同上	同上	同上	
140	田村　朋美	モンゴル	3月18日～3月22日	モンゴル国出土ガラス製遺物の調査	科学研究費分担金	
141	神野　恵	中国	3月18日～3月22日	共同研究に関する協議、唐三彩の調査	渡航費：運営費交付金、滞在費:先方負担	
142	山藤　正敏	同上	同上	同上	同上	
143	丹羽　崇史	同上	同上	同上	同上	
144	尾野　善裕	同上	同上	同上	同上	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　13人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩本　渉	ベトナム	5月17日～18日	SDGs事業実施に関する打合せ	政府開発援助ユネスコ活動費補助金	
2	坂本　翼	同上	同上	同上	同上	
3	岩本　渉	フランス	6月5日～7日	Seventh General Assembly for the 2003 Convention 出席 Sixth annual coordination meeting of category 2 centres 出席	受託（文化庁）	
4	大貫　美佐子	同上	同上	同上	同上	
5	岩本　渉	韓国	7月17日	Unlocking the potential of tertiary education for ICH safeguarding 出席	同上	
6	岩本　渉	モンゴル	8月28日～29日	2018 Sub-regional Meeting for ICH safeguarding in Northeast Asia 出席	同上	
7	岩本　渉	ベトナム	10月19日	SDGs事業実施に関する打合せ	政府開発援助ユネスコ活動費補助金	
8	大貫　美佐子	フィリピン	同上	同上	同上	
9	佐々木　一恵	フィリピン	11月13日	同上	同上	
10	岩本　渉	韓国	12月13日	ICHCAP理事会 陪席	受託（文化庁）	
11	長谷川　悟郎	同上	12月13日～14日	同上	同上	
12	大貫　美佐子	中国	12月19日	CRIHAP理事会 陪席	同上	
13	野嶋　洋子	バヌアツ	1月14日～25日	科研費事業「無形文化遺産の継承・変容と自然災害による影響の動態的把握：バヌアツ北部事例研究」における現地調査	科学研究費補助金	
14	岩本　渉	中国	3月26日	CRIHAP理事会 陪席	受託（文化庁）	

【文化財防災ネットワーク推進本部】延べ　9 人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岡田　健	中国	4月26日～5月2日	四川省土木建築学会世界遺産工作委員会「文化遺産リスクマネジメント国際学術論壇」での講演	平成30年度文化芸術振興費補助金	
2	黄川田　翔	フランス	6月18日～6月23日	パリ開催の縄文展に関する打合せ他	同上	
3	岡田　健	中国	9月3日～9月14日	中日共同文物防災減災高級研修コースでの講演	同上	
4	高妻　洋成	同上	9月8日～9月10日	同上	同上	
5	白木　ひかる	同上	9月7日～9月10日	中日共同文物防災減災高級研修コースの随行	同上	
6	黄川田　翔	フランス	10月4日～10月15日	パリ開催の縄文展に係る輸送・展示の安全性に関する調査	同上	
7	岡田　健	中国	10月14日～10月19日	第2回博物館文化財防震技術国際学術シンポジウムでの講演	同上	
8	土屋　裕子	アメリカ	10月21日～10月28日	カンバス画の安定化処置方法に関する研究のため	同上	
9	野中　昭美	同上	同上	同上	同上	

c-② 調査研究テーマ一覧

平成31年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
152 件	81 件	31 件	17 件	17 件	16 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	69 件	22 件	47 件	0 件	
	本部文化財活用センター・東京国立博物館		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	1 件		1 件		

【本部文化財活用センター・東京国立博物館】　1件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	副センター長　小林牧

【東京国立博物館】　31件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　27件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	特別調査「法隆寺献納宝物」（第40次）	学芸研究部	調査研究課長　今井敦
2	特別調査「書跡」第16回	学芸研究部	書跡・歴史室長（保存修復課長）冨坂賢
3	特別調査「工芸」第10回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　竹内奈美子
4	特別調査「彫刻」第8回	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
5	特別調査「絵画」第3回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
6	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　今井敦
7	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課保存修復室長　土屋裕子
8	仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
9	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　猪熊兼樹
10	「上杉家伝来の能面・能装束」ほか特集に関連する調査研究	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
11	特集「明治150年記念 書と絵が語る明治」に関連する調査研究	学芸研究部	博物館情報課長　田良島哲
12	特集「岡野繁蔵コレクション―インドネシア由来の染織と陶磁器」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課登録室長（貸与特別観覧室長）　小山弓弦葉
13	特集「特集ワヤン―インドネシアの人形芝居―」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　猪熊兼樹
14	特集「京都御所 飛香舎（藤壺）の調度」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員　猪熊兼樹
15	特集「白磁の誕生と展開」に関連する調査研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室主任研究員 三笠景子
16	特集「ラファエル・コランと黒田清輝」に関連する調査研究	学芸研究部	学芸研究部（東京文化財研究所文化財情報資料部近・現代視覚芸術研究室長）　塩谷純
17	特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関連する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）冨坂賢
18	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」に関する調査研究	学芸企画部	企画課長　浅見龍介
19	特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」に関連する調査研究	学芸企画部	調査研究課絵画・彫刻室（文化財活用センター企画担当課長）　松嶋雅人
20	特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課出版企画室研究員　植松瑞希
21	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」に関連する調査研究	学芸企画部	学芸企画部長　富田淳
22	特別展「国宝 東寺-空海と仏像曼荼羅」に関連する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室長　丸山士郎
23	特別展「三国志」に関連する調査研究	学芸企画部	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
24	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　矢野賀一
25	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二
26	凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　田良島哲
27	ＩＣＴを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）冨坂賢
2	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	学芸研究部	保存修復課環境保存室長　和田浩
3	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
4	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子

【京都国立博物館】17件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　13件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	上席研究員　宮川禎一
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
3	陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
4	近畿地区社寺文化財の調査研究	学芸部	連携協力室長　淺湫毅
5	特集展示「美麗を極める中国陶磁」に関する調査研究	学芸部	工芸室研究員　降矢哲男
6	特集展示「百萬遍知恩寺の名宝」に関する調査研究	学芸部	列品管理室主任研究員　呉孟晋
7	特別企画「日中平和友好条約締結40周年記念 中国近代絵画の巨匠 斉白石」に関する調査研究	学芸部	列品管理室主任研究員　呉孟晋
8	特集展示「初公開！天皇の即位図」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室　福士雄也
10	特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
11	特別展「京のかたな　匠のわざと雅のこころ」に関する調査研究	学芸部	工芸室主任研究員　末兼俊彦
12	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念　国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」に関する調査研究	学芸部	連兼協力室長　淺湫毅
13	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室長　永島明子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊 保存科学室長　降幡順子
3	非破壊分析手法とその分析精度に係る調査研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
4	文化財情報に関する調査研究	学芸部/総務課	美術室長　羽田聡 事業推進係主任　澁谷完滋

【奈良国立博物館】 17件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　13件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	企画室長　野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長　清水健
4	墳墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長　吉澤悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	上席研究員　岩田茂樹
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集 大宿所―」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　斎木涼子
8	特別陳列「覚盛上人770年御忌　鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」に関する調査研究	学芸部	企画室長　野尻忠
9	Ｘ線ＣＴスキャナ等による彫刻・漆工・考古資料などの文化財に関する構造技法の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
10	修理完成記念特別展「糸のみほとけ―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏―」に関する調査	学芸部	学芸部長　内藤栄
11	特別展「第７０回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室長　清水健
12	特別展「国宝の殿堂 藤田美術館」に関する調査研究	学芸部	情報サービス室長　岩井共二
13	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生 主任研究員　斎木涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
2	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長　宮崎幹子

【九州国立博物館】16件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　11件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	Ｘ線ＣＴスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部企画課	特別展室研究員　松浦晃佑
3	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究	展示課	主任研究員　今井涼子
4	特集展示「国宝　銅鐸絵画」に関する調査研究	交流課	主任研究員　進村真之
5	特集展示「全国高等学校考古名品展2018」に関する研究	展示課	主任研究員　今井涼子
6	インドネシアの装飾古墳に関する調査研究	学芸部企画課	課長兼文化交流展室長・特別展室長 白井克也
7	水中文化遺産に関する調査研究	学芸部	学芸部長　小泉惠英
8	特別展 「明治150年記念　オークラコレクション」 に関する調査研究	学芸部文化財課	資料管理室主任研究員　山下善也
9	特別展「新安沈船展（仮）」に関連する調査研究	学芸部企画課	課長兼文化交流展室長・特別展室長 白井克也
10	ＮＨＫと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸部企画課	課長兼文化交流展室長・特別展室長 白井克也
11	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	特別展室研究員　西島亜希子

○その他有形文化財に関連する調査研究　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	博物館における文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室主任研究員　志賀智史
3	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
4	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）	学芸部博物館科学課	環境保全室研究員　秋山純子
5	日タイにおける文化財調査と資料集成	学芸部文化財課	課長　原田あゆみ

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　飯島満

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　佐野千絵
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長　北河大次郎
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　佐野千絵

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　西　和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

【奈良文化財研究所】　47件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　19件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　島田敏男
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　17件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮東院地区の発掘調査（平城第595次調査）	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
4	平城宮東区朝堂院東門の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
5	東大寺東塔院の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
6	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
7	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
8	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
9	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
10	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
11	中国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	副所長　渡辺晃宏
12	韓国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	副所長　渡辺晃宏
13	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　中島　義晴
14	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター 企画調整部 都城発掘調査部	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長　金田明大
15	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
16	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	考古第三研究室長　清野孝之
17	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	センター長　高妻洋成

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
3	動植物遺体の調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長兼保存修復科学研究室長 高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
3	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
4	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
5	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　3件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	企画調整部	部長　森本　晋
2	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復	企画調整部	国際遺跡研究室専門職　佐藤由似
3	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	部長　森本　晋

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	部長　森本　晋
2	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部 企画調整部	研究支援推進部連携推進課長 津田保行

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部	部長　森本　晋
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　12件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　森本　晋

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体等の要請による発掘調査等への協力・援助	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	部長　玉田芳英
3	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　松村恵司
4	他機関等との共同研究及び受託研究	研究支援推進部	所長　松村恵司
5	被災した地域の復旧・復興事業に伴う地方公共団体等への支援・協力	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　　伴　佳英
2	平城宮復原整備研究	都城発掘調査部　平城地区	副部長　渡辺晃宏
3	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長　加藤真二
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	ＮＰＯ法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	連携推進課長　津田保行

○連携大学院教育の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	研究支援推進部	所長　松村恵司

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

〇アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長　岩本　渉

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
47 件	11 件	35 件	1 件

【東京文化財研究所】　11件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	保存科学研究センター
2	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
3	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
4	被災資料有害物質発生状況調査業務	保存科学研究センター
5	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
6	世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業	文化遺産国際協力センター
7	文化財の英語表記に関する調査研究事業	文化遺産国際協力センター
8	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化遺産国際協力センター
9	文化遺産保護国際貢献事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	文化遺産国際協力センター
10	文化遺産保護国際貢献事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	文化遺産国際協力センター
11	シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修（紙資料）」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　35件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	津山市城西伝統的建造物調査	文化遺産部
2	旧中村家住宅調査研究業務	文化遺産部
3	湯浅町重要建造物調査研究業務	文化遺産部
4	重要文化財綿業会館保存活用計画調査研究業務	文化遺産部
5	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡発掘調査による出土文化財の調査・研究及び報告書作成業務	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
6	平成30年度具志川城跡三の郭毀損箇所詳細記録調査	埋蔵文化財センター
7	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部　平城地区
8	京都市の文化的景観保存計画策定調査	文化遺産部
9	考古資料および文献史料からみた過去の地震・火山災害に関する情報の収集とデータベースの構築・公開	埋蔵文化財センター
10	平成30年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	埋蔵文化財センター
11	国道163号木津東バイパス事業に伴う岡田国遺跡埋蔵文化財発掘調査に係る年輪年代測定業務	埋蔵文化財センター
12	波怒棄館遺跡および台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
13	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
14	群馬県金井下新田遺跡出土ガラス製遺物の材質調査	埋蔵文化財センター
15	平成30年度　国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	埋蔵文化財センター
16	法隆寺若草伽藍跡西方の調査出土壁画片の調査	埋蔵文化財センター
17	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及びキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営業務	埋蔵文化財センター
18	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	埋蔵文化財センター
19	井寺古墳の被害状況調査業務	埋蔵文化財センター
20	大規模地震により被災した玉名地域にある凝灰岩で構築された古墳石室等の被害状況並びに保存環境調査業務	埋蔵文化財センター
21	平成３０年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	企画調整部
22	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部　平城地区
23	長門鋳銭所跡出土木簡等の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部　平城地区
24	国宝薬師寺東塔遺物整理業務（金属製品）	都城発掘調査部　平城地区
25	平城京左京一条二坊十五坪の調査	都城発掘調査部　平城地区
26	平城京左京二条二坊十五坪の調査	都城発掘調査部　平城地区
27	五十二段北トイレ改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
28	史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
29	史跡　飛鳥寺跡に隣接する県道「橿原神宮東口停車場飛鳥線」の厳重立会調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
30	史跡　飛鳥寺跡に隣接するバイパス水路工事の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
31	特別史跡藤原宮跡（別所町水路改修）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
32	特別史跡藤原宮跡（高殿町道路拡幅）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
33	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	企画調整部
34	古墳・壁画等の複製品を用いた展示活用に関する情報収集・分析業務	企画調整部
35	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平成30年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

平成31年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
475件	239件	73件	47件	64件	55件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	213件	85件	128件	0件	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進本部		
	5件	2件	16件		

【本部文化財活用センター】　5件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	ColBaseの課題	文化財活用センター　デジタル資源担当室長 村田良二	12月2日	じんもんこん2018、じんもんこん・総合資料学共催セッション「歴史研究と人文研究のためのデータを学ぶ」
2	同上	「ホンモノか、複製か―文化財活用をめぐる課題と実践」	文化財活用センター副センター長　小林牧	31年3月5日	日本学術会議哲学委員会【芸術と文化環境分科会】公開シンポジウム「物質と文化―文化財の保存と活用を巡る諸状況―」

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	資料への光の影響と展示照明技術の動向について	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	7月5日	文化財虫菌害研究所　第40回文化財の虫菌害・保存対策研修会
2	同上	保存科学ー環境制御（保存環境管理）	同上	9月4日	国文学研究資料館平成30年度アーカイブズ・カレッジ
3	同上	美術館・博物館における照明、温湿度管理	同上	11月28日	第51回全国美術館会議保存研究部会会合

【東京国立博物館】　73件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　59件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	東京国立博物館における阿部コレクション受贈の経緯について	学芸企画部長　富田淳	11月3日	大阪市立美術館「生誕150周年 阿部房次郎と中国書画」開催記念シンポジウム 阿部コレクションの諸相ー文化的意義とその未来ー
2	同上	縄文時代の土器・土偶 ー縄文造形の美の背景を考えるー	企画課特別展室主任研究員　井出浩正	7月22日	若狭町歴史環境講座（縄文文化分野）
3	同上	縄文造形の美を楽しむ	企画課特別展室主任研究員　井出浩正	11月4日	小海町郷土資料館セミナー
4	同上	縄文の美を楽しむ	企画課特別展室主任研究員　井出浩正	31年2月24日	相模原市立博物館考古学講座
5	同上	縄文の美を楽しむ　ー日本とフランスの２つの特別展「縄文」からー	企画課特別展室主任研究員　井出浩正	31年3月16日	しんとう・ふるさと歴史講座
6	同上	書跡をみる目～茶席の掛物を中心に～	博物館教育課教育講座室長　丸山猶計	7月16日	表千家同門会　福岡県支部
7	同上	集中講義	博物館教育課教育講座室長　丸山猶計	9月4日～7日	佛教大学
8	同上	東京国立博物館の広報活動におけるソーシャルメディアの活用事例	広報室長　鬼頭智美	5月19日	2018年国際博物館の日記念シンポジウム
9	同上	日本の書　その美と受容	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	6月26日	愛知県立芸術大学芸術講座
10	同上	平清盛と「平家納経」	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	12月8日	宮島観光協会
11	同上	東京国立博物館所蔵狩野永敬筆十二ヶ月花鳥図屏風と韓国国立中央博物館所蔵山本素軒筆四季花鳥図屏風の考察	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子	9月13日	韓国国立中央博物館　学術交流研究発表会
12	同上	ICOM京都大会とオフサイトミーティング開催地について	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員　遠藤楽子	10月2日	ICOMAM（国際博物館会議　武器・軍事史博物館国際委員会）年次大会（スロベニア・リュブリャナ）
13	同上	「辻が花」と称される中世の縫い締め絞りについて	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長） 小山弓弦葉	7月1日	第10回国際絞り会議
14	同上	能装束の歴史―金春家伝来品に見る	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長） 小山弓弦葉	8月3日	「平成三十年　能楽金春祭り」能楽講座
15	同上	The textile exchange between Japan and India; During the 16th and 19th Centuries	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長） 小山弓弦葉	11月15日	the International Conference: 'India-Japan: Unearthing Lesser Known Linkages' November 15-17, 2018

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	「上方浮世絵師　浅山芦国とその石碑」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	10月28日	浅山芦国二百回忌・芦国石碑修復完成記念式典
17	同上	「幕末期の合巻からみる摩耶夫人のイメージ－朝鮮仏画「釈迦誕生図」とのかかわりから－」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	12月16日	韓国日語日文学会・2018年冬季国際学術大会　絵入本ワークショップⅪ
18	同上	「河鍋暁斎筆「地獄極楽めぐり図」と勝田家の菩提寺」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	31年1月14日	暁斎連続講演会　Part1　暁斎の仏画―特に追悼絵に見る癒しについて
19	同上	「河鍋暁斎筆《地獄極楽めぐり図》について（十一）―第三六図「田鶴遺愛の品々」に描かれた茨木の鬼女と渡辺綱について」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	31年1月27日	河鍋暁斎研究発表会
20	同上	浅草寺の什宝（彫刻）	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	7月25日	金龍山浅草寺夏安居研修講義
21	同上	櫟野寺に伝わるみほとけの魅力	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	11月24日	櫟野寺大開帳記念文化講座
22	同上	Iconography and Style in Genre Painting after European Models in Momoyama Japan'	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	4月28日	JAPAN'S GLOBAL BAROQUE Workshop, Yale University, Council on East Asian Studies
23	同上	Envisioning the West: European Style Paintings in the Late 16th-17th Century Japan	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	31年3月10日	Toward the Future: Museums and Art History in East Asia (CIHA Colloquium 2019, Tokyo)
24	同上	平安時代前期の「所(ところ)」と造像	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	9月2日	平成30年度「仏教美術研究上野記念財団　研究発表と座談会」
25	同上	美術のなかのいのしし　亥年によせて	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	31年1月20日	大和文華館
26	同上	建長寺宝物風入特別講座	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	11月3日	第13回鎌倉芸術祭
27	同上	三輪山における考古資料の調査と現状について	調査研究課考古室研究員 山本亮　ほか外部研究者	4月21日	考古学研究会第64回総会・研究集会
28	同上	河内平野における初期方形周溝墓群とその構造	調査研究課考古室研究員 山本亮　ほか外部研究者	5月27日	日本考古学協会第84回総会
29	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第2次発掘調査概要報告	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄　　ほか外部研究者	5月27日	第84回　日本考古学協会
30	同上	兵馬俑に秘められた技―有形の文化遺産を支える無形の技―	調査研究課東洋室　主任研究員　市元塁	7月21日	東京シンポジウム2018-文化遺産を考える-
31	同上	博物館学講座「考古」	調査研究課東洋室　主任研究員　市元塁	9月4日	平成30年度キャンパスメンバーズ博物館学講座
32	同上	津波で被災した文化財の安定化処理の現状と課題―東京国立博物館が取り組む安定化処理仕様の模索―	調査分析室長　荒木臣紀、同研究員　宮田将寛、保存修復室長　土屋裕子、同研究員　野中昭美、同研究補佐員　本茉梨絵　土屋良子、　ほか外部研究者	6月16日	文化財保存修復学会
33	同上	津波で被災した漆工芸品の脱塩処置方法の考察	保存修復課保存修復室長土屋裕子、同研究員　野中昭美、同研究補佐員本茉梨絵　土屋良子、調査分析室研究員　宮田将寛　ほか外部研究者	6月16日～17日	文化財保存修復学会第40回大会
34	同上	津波により被災した文化財への救援活動の今～東日本大震災から７年を経て～	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	9月12日	2018International Symposium: Earthquake Disaster Preparedness Response in Museums
35	同上	Desalination of Japanese Lacquer by Blotter Washing	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	10月22日	Smithsonian：Museum Conservation Institute
36	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」に関する調査研究	京都・千本釈迦堂大報恩寺と慶派仏師	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	10月27日	読売大手町スクール
37	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」に関連する調査研究	顔真卿と祭姪文稿-唐代書法の輝き-	学芸企画部長　富田淳	31年1月18日	千代田区立日比谷図書文化館
38	特別展「国宝 東寺-空海と仏像曼荼羅」に関連する調査研究	「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」展　解説講座	列品管理課貸与特別観覧室研究員西木政統	31年3月31日	よみうりカルチャー
39	博物館教育に関する調査研究	「ミュージアム・コミュニケーション―『多様な関わりを創る』市民との協働」	博物館教育課教育普及室長　藤田千織　ほか外部研究者	11月29日	日本博物館協会・第66回全国博物館大会・第4分科会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
40	博物館教育に関する調査研究	九州産業大学国際シンポジウム「博物館と医療・福祉のよりよい関係を英国・米国の事例から考える」	博物館教育課教育普及室長　藤田千織　ほか外部研究者	31年2月19日	平成30年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」助成による国際シンポジウム。 2018年度 文化庁「博物館マネジメント人材養成事業実行委員会」、九州産業大学主催
41	同上	ミュージアムの社会的包摂	博物館教育課教育普及室長　藤田千織　ほか外部研究者	31年3月18日	ミュージアム・マネジメント学会・エデュケーター研究会
42	同上	博物館・美術館のボランティア -東京国立博物館の例を中心に-	博物館教育課ボランティア室長　鈴木みどり	31年2月21日	大分県立美術館
43	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究（科学研究費助成事業）	平安時代彫刻史における日中の関係性	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	10月7日	国書の会ミニシンポジウム 「国風文化」期の東アジアを考える
44	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究（科学研究費助成事業）	柿本人麻呂像と歌仙絵の系譜	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	6月27日	出光美術館水曜講演会
45	同上	天皇ゆかりの宝物・宝蔵とそのゆくえ―蓮華王院宝蔵絵を中心に―	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	31年1月6日	京都文化博物館シンポジウム「宝物と政権の歴史的諸相」
46	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究（科学研究費助成事業）	「屈曲する竹―文同・李衎・呉鎮・夏昶を中心に」	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	7月14日	中国美術研究会
47	同上	「曲がり竹をえがく―文同・李衎・呉鎮・夏昶を中心に」	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	8月8日	宋代史研究会
48	同上	「辺文進筆『柏鷹図』、朱端筆『竹石図』、張弼筆『草書七律詩』」	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	11月29日	関西中国書画コレクション研究会
49	中世律宗絵画の基礎的研究（科学研究費助成事業）	法隆寺東院舎利殿の美術と中世律宗	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	1月18日	国際シンポジウム「日本仏教の展開とその造形」（ハーバード大学ライシャワーセンター＆龍谷大学アジア仏教文化研究センター共同主催）
50	フェニキア人の「出現」―考古資料から見た初期の交易活動と対外進出（科学研究費助成事業）	The excavations at Tel Rekhesh, Israel: The results of 2013-2017 seasons	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造　ほか外部研究者	4月5日	11th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East
51	同上	Tel Rekhesh in the Iron Age I: An Aspect of Iron Age Demography in the Eastern Galilee	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造　ほか外部研究者	11月15日	2018 Annual Meeting, American Schools of Oriental Research
52	同上	テル・レヘシュの初期鉄器時代層	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造	12月22日	第25回イスラエル考古学研究会
53	美術解剖学教育の交流と展開　―独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して―（科学研究費助成事業）	三木成夫の考える骨　-人の頭骨形茶碗を考える為に	列品管理課平常展調整室長　木下史青	7月21日	美術解剖学会・第25回大会
54	災害からの文化的復興とアート「茶の湯」に関わる調査研究（公益財団法人テルモ生命科学芸術財団）	福島ビエンナーレ2018・映画『華 いのち 中川幸夫』トークイベント	列品管理課平常展調整室長　木下史青　ほか外部研究者	10月14日	福島ビエンナーレ2018 海神の芸術祭
55	同上	トークイベント「どくろ茶会 福島一谷中」、展覧会「どくろ茶会」シリーズ vol.9	列品管理課平常展調整室長　木下史青	11月10日	art-Link上野-谷中2018・ｱｰﾄﾘﾝｸ事務局

○その他有形文化財に関連する調査研究　14件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	東京国立博物館における環境保全の取り組み	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月8日	国立民族学博物館共同研究会
2	同上	東京国立博物館における虫菌害予防と光の演出効果、展示室内の環境保全について	保存修復課環境保存室長 和田浩	7月6日	第40回文化財の虫菌害・保存対策研修会－予防－
3	同上	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究－生物劣化のリスク評価を用いた数値解析による環境調整方法の検討－	保存修復課環境保存室長 和田浩　ほか外部研究者	7月8日	日本文化財科学会
4	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	美術品輸送専用車両の荷台上で発生する振動レベルの分布	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月17日	文化財保存修復学会
5	同上	文化財梱包・輸送の科学	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月25日	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー東日本会場
6	同上	RO-RO船による文化財輸送における乗下船時の振動環境	保存修復課環境保存室長 和田浩	7月8日	日本文化財科学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
7	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	美術品輸送専用車両を用いた文化財の低速走行輸送時の環境について	保存修復課環境保存室長 和田浩	7月12日	日本包装学会
8	同上	文化財梱包・輸送の科学	保存修復課環境保存室長 和田浩	9月10日	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー西日本会場
9	同上	Proposal of New Index for Transport History of Museum Objects	保存修復課環境保存室長 和田浩	31年2月18日	Symposium 'Managing Risks to Collections', Australian Institute for the Conservation of Cultural Material, Melbourne
10	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	筆跡資料としての書籍の「題辞」	博物館情報課長 田良島哲	6月17日	アート・ドキュメンテーション学会大会研究会
11	同上	人文系博物館の資料情報とCIDOC CRM	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二	9月15日	TP&Dフォーラム2018
12	同上	アート・ドキュメンテーションにおける“弁当型”検索の親和性と展望	博物館情報課情報管理室 アソシエイトフェロー 酒井晶	10月13日	アート・ドキュメンテーション学会
13	同上	ミュージアム・ライブラリーにおける館蔵文化財情報と文献情報の関連付けについて―東京国立博物館資料館の試み	博物館情報課情報資料室員　住廣昭子	10月13日	アート・ドキュメンテーション学会2018年度秋季研究会
14	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究（科学研究費助成事業）	CIDOC CRMによる「ColBase」データのマッピング	博物館情報課情報管理室長　村田良二	6月17日	アート/ドキュメンテーション学会2018年度年次大会

【京都国立博物館】47件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　34件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	仏師とその工房をめぐるいくつかの試案	連携協力室長　淺湫毅	9月2日	研究発表と座談会　仏師とその工房をめぐる諸問題（仏教美術研究上野記念財団助成研究会）
2	同上	古墳時代の漢字文化 －国家形成期における文字と金石文－	考古室主任研究員 古谷 毅	6月2日	國學院大學研究開発推進機構 平成30年度 第44回日本文化を知る講座
3	同上	考古資料の構造と特質 -品質・形状と取扱い・修理 -	同上	9月14日	文化庁 第11回指定文化財(美術工芸品)　企画･展示セミナー
4	同上	研究発表に関する総合討論・コメンテーター	同上	12月15日	慶北大学シルクロード研究センター・韓国古墳文化研究会「金工品からみた古代東亜細亜世界の交流」シンポジウム
5	同上	研究発表に関する総合討議・司会	同上	31年2月16日	國學院大學学術資料センター　研究フォーラム「文化財の活用とは何か」シンポジウム
6	同上	山本竟山と長尾雨山：雨山関係資料について	列品管理室主任研究員 呉　孟晋	4月28日	関西大学東西学術研究所シンポジウム「山本竟山の書と学問」（於関西大学梅田キャンパス）
7	同上	須磨弥吉郎蔵品和中国近現代美術	同上	6月10日	何香凝美術館公共講座（於何香凝美術館（中国・深圳））（中国語）
8	同上	譚華牧留日時期的日本洋画壇	同上	6月11日	国際ワークショップ「中国現代美術史学術工作坊」（於広州美術学院（中国・広州））（中国語）
9	同上	長尾雨山与海上画家的交往	同上	8月29日	「典蔵新紀元：清末民初的上海画壇」系列専題演講（於国立故宮博物院（台湾・台北））（日本語）
10	同上	長尾雨山与海上文人的交往	同上	8月30日	「使節･海商･僧侶：近世東亜文化意象伝衍過程中的中介人物」国際学術研討会（於中央研究院中国文哲研究所（台湾・台北））（中国語）
11	同上	京都の社寺と博物館：京都国立博物館による百萬遍知恩寺什物調査について	同上	9月2日	特集展示「百萬遍知恩寺の名宝」関連土曜講座
12	同上	『良友』画報にみる中国の渡欧画家たち	同上	9月15日	日仏美術学会セミナー「両大戦間パリを中心としたアジア系美術家」（於東京・日仏会館）
13	同上	向上看的鷹：以斉白石画鷹談起	同上	9月22日	北京画院斉白石芸術国際研究中心2018年会及学術研討会（於中国・北京会議中心）（中国語）
14	同上	伝統を現代につなぐ：斉白石が描いた花鳥のすがた	同上	10月27日	第52回東文研オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」（於東京文化財研究所）
15	同上	斉白石作品鑑賞入門	同上	11月9日	特別企画「中国近代絵画の巨匠斉白石」展ギャラリートーク（於東京国立博物館）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	斉白石の絵画における現代性	列品管理室主任研究員 呉　孟晋	31年3月9日	特別企画「中国近代絵画の巨匠斉白石」展土曜講座（於京都国立博物館）
17	同上	近世京都商人恵比須屋荘兵衛―前川五郎左衛門家の記録と什物―	教育室研究員　水谷亜希	11月18日	佛教大学宗教文化ミュージアム秋期特別展関連講演会
18	特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究	京都国立博物館における人形コレクションの形成	企画室長　山川　曉	7月8日	日本人形玩具学会　第30回研究発表大会
19	近畿地区社寺文化財の調査研究	袈裟が伝える 日中交流	同上	8月4日	武蔵野大学　連続公開講座
20	同上	Quilted (Rag) Kasaya from the 7th to 10th Centuries Preserved in Japan	同上	11月6日	国際シルクロード染織学会　第3回大会 （韓国：国立伝統文化大学）
21	同上	王朝人の錦	同上	31年2月8日	宇治市源氏物語ミュージアム　連続講座
22	特別展「池大雅」に関する調査研究	特別展「池大雅」のみどころ	保存修理指導研究員 福士雄也	4月13日	NHK文化センター梅田教室
23	同上	池大雅　天衣無縫の旅の画家	同上	4月23日	一般社団法人清風会記念講演会
24	同上	池大雅の旅と絵画	同上	4月25日	城陽プラネタリウム
25	特集展示「天皇の即位図」に関する調査研究	俵屋宗達筆　風神雷神図屏風	同上	9月12日	京都国立博物館文化財ソムリエ講座
26	同上	近世の天皇即位図―知られざる大礼の世界を読む―	同上	31年2月9日	城陽市西部コミュニティセンター
27	陶磁に関する調査研究	国宝からみえる日本文化	工芸室研究員　降矢哲男	5月19日	『つがやま市民教養文化講座』、ライズヴィル都賀山
28	同上	座敷飾りにみえる陶磁器の使用状況とその在り方について	同上	5月26日	、家具道具室内史学会2018年度大会・シンポジウム
29	同上	茶碗-種類と美意識-	同上	7月28日	平成30年度　京都国立博物館夏期講座
30	同上	日本出土の高麗青磁	同上	9月7・8日	大韓民国・国立海洋博物館国際学術大会「高麗建国と統一の源泉海」、大韓民国・国立海洋博物館
31	同上	豊後府内と茶の湯	同上	10月21日	企画展「大友氏の栄華２～豊後府内に花開く雅の世界～」関連講座、大分県立埋蔵文化財センター
32	博物館教育に関する調査研究	京都国立博物館の教育普及	教育室研究員　水谷亜希	4月10日、17日、24日	京都美術工芸大学　博物館教育論
33	幕末・維新史に関する調査研究	坂本龍馬の情報戦―薩長会談の蔭で―	上席研究員　宮川禎一	5月26日	日本大学　「日本軍事史学会」年次総会　貴重講演
34	同上	龍馬の「秘策」と福井藩―大政奉還をめぐって―	同上	7月15日	福井県　幕末明治福井150年博連続講演会

○その他有形文化財に関連する調査研究　13件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	レプリカ制作を通してみる19世紀ヨーロッパのこども服―ウール地ドレス―	保存科学室長　降幡順子	5月13日	服装文化学会第19回大会
2	同上	X線CTを用いた内部構造調査－「懸守」（国宝・四天王寺蔵）の調査事例－	同上	6月17日	文化財保存修復学会第40回大会
3	同上	キトラ古墳天井・星宿図の蛍光X線元素分析調査	同上	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
4	同上	奈良三彩・緑釉陶器の胎土中に含まれている鉄の化学状態の分析	同上	7月8日	日本文化財科学会第35回大会
5	同上	Disaster Mitigation Approaches in Kyoto National Museum	同上	9月5日	UNESCO Chair Programme on Cultural Heritage and Risk Managemen
6	同上	文化財を後世に伝える科学－博物館資料の科学調査－	同上	31年1月23日	第77回けいはんなサイエンスカフェ
7	同上	京博におけるリスクマネジメント	同上	31年2月26日	トルコ博物館及び文化財の自然災害からの保護に関わる能力開発コース研修
8	同上	弥生のガラス玉づくり	同上	31年3月3日	鳥取県立むきばんだ史跡公園・特別講座
9	同上	基盤研究(B)[富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究2016～2019]に基づく調査研究「本法寺蔵法華経曼荼羅図の様式における若干の問題について」	保存修理指導室長 大原嘉豊	12月25日	富山市八尾町・長松山本法寺蔵「法華経曼荼羅図」原寸大複製全幅展示および研究会（東京藝術大学陳列館）
10	同上	「泣ける」日本美術―名品に隠された秘話―	保存修理指導研究員 福士雄也	7月18日	大阪美術倶楽部
11	文化財の保存・修復に関する調査研究	法隆寺金堂壁画再入門	学芸部長　朝賀浩	7月7日	京都国立博物館土曜講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
12	文化財の保存・修復に関する調査研究	法隆寺金堂壁画　未来へ	同上	31年2月23日	法隆寺シンポジウム（有楽町朝日ホール）
13	同上	松崎天神縁起の尽きせぬ魅力	学芸部長　朝賀浩	31年3月2日	松崎天神縁起研究会シンポジウム（防府市アスピラート）

【奈良国立博物館】　64件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　61件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良国立博物館の展望	館長　松本伸之	4月21日	世界古都シンポジウム
2	同上	概説中国仏像史	同上	5月20日	奈良国立博物館サンデートーク
3	同上	仏像の来た道―インド・中国そして日本へ―	同上	6月6日	文化の集い講演会
4	同上	飛鳥・奈良時代における唐文化の受容	同上	7月26日	第六十八回法隆寺夏季大学
5	同上	国立博物館における教育事業	同上	9月22日	大学美術教育学会奈良大会シンポジウム
6	同上	奈良大和路の美術と魅力	同上	11月26日	新潟市會津八一記念館
7	同上	奈良国立博物館をもっと知る―春日大社のすべて	学芸部長　内藤栄	5月6日	朝日カルチャーセンター名古屋
8	同上	天武・持統朝の美術	同上	6月17日	吉野万葉塾
9	同上	吉野町から歴史はかわった―壬申の乱と美術史―	同上	6月17日	吉野万葉塾　上野誠氏との対談
10	同上	奈良国立博物館をもっと知る―糸のみほとけ	同上	7月15日	朝日カルチャーセンター名古屋
11	同上	糸のみほとけ	同上	7月27日	奈良婦人会館講座
12	同上	繡仏の世界―刺繡釈迦如来説法図（奈良国立博物館蔵）を中心に	同上	8月4日	修理完成記念特別展「糸のみほとけ」公開講座
13	同上	糸のみほとけ―刺繡釈迦如来説法図・天寿国繡帳を中心に	同上	8月7日	日経講座
14	同上	仏像の素材と糸のみほとけ	同上	8月22日	奈良国立博物館第47回夏季講座「素材から探る仏像のひみつ」
15	同上	南都復興と薬師寺	同上	8月22日	薬師寺講座
16	同上	関西文化の発祥は、歴史的ダイバーシティ許容社会にあった	同上	9月8日	第2回GI関西
17	同上	東大寺の彫像－鎌倉復興期の作例を中心に－	上席研究員　岩田茂樹	5月27日	東北歴史博物館
18	同上	美術鑑賞基本のき－仏像鑑賞入門－	同上	12月8日	名張市桔梗が丘市民センター
19	同上	仏像調査からわかること　その５―南予地方調査の成果を中心に―	同上	31年2月17日	奈良国立博物館サンデートーク
20	同上	菩薩・如来の衣装を着てみよう！	情報サービス室長 岩井共二	5月26日	吹田市立博物館　ワークショップ
21	同上	裳懸座再考	同上	8月29日	奈良国立博物館サンデートーク
22	同上	『平安の正倉院』を10倍楽しもう	工芸考古室長　清水健	4月30日	創建1250年記念特別展　「国宝 春日大社のすべて」関連フォーラム「まほろばの神と仏と祈り」
23	同上	春日大社　悠久の歴史と祈りの美	同上	5月11日	NHK公開講演会「創建1250年記念特別展　国宝 春日大社のすべて」
24	同上	春日龍珠箱の世界	同上	5月13日	読売新聞後援・いのちと心の講座142「創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」展（奈良国立博物館）・特別講座②」
25	同上	春日をめぐる神仏と造形	同上	5月26日	創建1250年記念特別展「国宝　春日大社のすべて」公開講座
26	同上	春日赤童子について	同上	12月16日	奈良学セミナー
27	同上	春日曼荼羅の世界	教育室長　谷口耕生	5月20日	春日大社創建1250年記念　旅する神様①
28	同上	中世絵巻と宮曼荼羅	同上	11月18日	奈良国立博物館サンデートーク
29	同上	奈良時代の二つの紫紙金字経	企画室長　野尻忠	31年1月20日	奈良国立博物館サンデートーク
30	同上	覚盛上人の事跡―唐招提寺中興―	同上	31年2月23日	特別陳列「覚盛上人770年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興」公開講座
31	同上	鹿島神宮と香取神宮に伝わる神宝について	列品室長　吉澤悟	4月15日	「創建1250年記念特別展　国宝 春日大社のすべて」特別講座
32	同上	春日大社の起源	同上	4月16日	「創建1250年記念特別展　国宝 春日大社のすべて」NHK公開講演会
33	同上	出土品からみた白山古墳	同上	9月15日	ぐんま古墳最前線 第3回 鼎談「古墳と和同開珎－最後の古墳・白山古墳を考える－」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
34	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	墓制の変化－古墳の消滅と火葬の広がり－	同上	12月21日	神戸大学文学部
35	同上	綴織當麻曼荼羅の修理と転写の歴史	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	6月17日	奈良国立博物館サンデートーク
36	同上	平安時代の宮中の日常―政治と生活―	美術室主任研究員 斎木涼子	12月16日	奈良国立博物館サンデートーク
37	同上	古代寺院跡から出土した金銅製品の材質構造調査―奈良文化財研究所・飛鳥資料館保管資料を中心に―	教育室主任研究員 中川あや	7月1日～2日	文化財保存修復学会ポスター発表
38	同上	春日東西塔の新知見	同上	31年3月17日	奈良国立博物館サンデートーク
39	同上	古写真から読み解く興福寺旧蔵の仏たち	列品室主任研究員 山口隆介	5月12日	興福寺仏教文化講座(奈良)
40	同上	大行寺本尊阿弥陀如来像と快慶	同上	7月1日	大行寺
41	同上	後白河院と快慶	同上	7月15日	妙法院仏教文化講座
42	同上	快慶と工房制作―快慶展の知見をふまえて―	同上	9月2日	研究発表と座談会 仏師とその工房をめぐる諸問題
43	同上	肥後定慶の軌跡と造像	同上	12月8日	霊山寺塾
44	同上	古文書に見る中世後期の大和国	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介	9月16日	奈良国立博物館サンデートーク
45	同上	石田三成：なぜ関ヶ原の戦いが起こったのか	同上	12月13日	大阪府高齢者大学校　戦国武将の生き方に学ぶ科
46	同上	高御座の造形の由来	前美術室アソシエイトフェロー　樋笠逸人	4月15日	奈良国立博物館サンデートーク
47	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物の歴史と魅力	同上	9月21日	アスニーセミナー
48	同上	正倉院宝物の歴史と特徴	同上	10月1日	京都美術工芸大学出前授業
49	同上	正倉院宝物誕生の謎	同上	10月7日	岡山県立博物館　博物館講座　岡山の歴史と文化
50	同上	せいぶ正倉院講座	同上	10月31日	奈良市西部公民館
51	同上	正倉院宝物にみる百済文化	同上	11月3日	正倉院学術シンポジウム二〇一八「正倉院宝物と新羅」
52	同上	正倉院宝物の来た道	工芸考古室長　清水健	10月7日	正倉院展フォーラム名古屋～宝物の魅力を語る～
53	同上	正倉院三彩十話－正倉院に伝わる二彩・三彩陶器の特徴と謎－	同上	11月10日	「第70回正倉院展」公開講座
54	同上	正倉院展親子鑑賞会	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	10月29日	奈良国立博物館親子鑑賞会
55	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財の保存・修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のＸ線ＣＴ調査	工芸考古室長　清水健、保存修理指導室長　鳥越俊行、工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	7月7日・8日	第35回日本文化財科学会ポスター発表
56	同上	奈良国立博物館所蔵中国古代青銅器のＸ線ＣＴ調査について	保存修理指導室長 鳥越俊行	6月16日	文化財保存修復学会
57	同上	アイヌ民族文化財保存修復体制の確立にむけたＸ線ＣＴによる資料現況調査	同上	6月17日	文化財保存修復学会
58	同上	Ｘ線ＣＴスキャナによる奈良県五條猫塚古墳出土鉄地金銅製冑の構造調査	保存修理指導室長　鳥越俊行、列品室長　吉澤悟、教育室主任研究員 中川あや	7月7日・8日	第35回日本文化財科学会ポスター発表
59	同上	文化財を科学するⅤ	保存修理指導室長 鳥越俊行	7月15日	奈良国立博物館サンデートーク
60	同上	みほとけを健康診断	同上	8月24日	奈良国立博物館第47回夏季講座「素材から探る仏像のひみつ」
61	同上	文化財におけるＸ線の利用―Ｘ線ＣＴスキャナと蛍光Ｘ線分析装置―	同上	11月30日	日本アイソトープ協会第24回九州支部主任者研修会

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学長対談	館長　松本伸之	10月3日	奈良教育大学広報誌「ならやま」
2	同上	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	資料室長　宮崎幹子	6月12日、11月30日	同志社大学
3	同上	博物館情報・メディア論	同上	12月1日、8日、16日	京都府立大学

【九州国立博物館】　55件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　17件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	国宝「初音の調度」-耳盥・輪台、渡金箱、旅眉作箱-のX 線 CTによる構造・技法調査	学芸部文化財課資料登録室主任研究員　川畑憲子、徳川美術館　吉川美穂、学芸部博物館科学課研究補佐員田中麻美、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー大橋有佳、学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史、大西漆芸修復スタジオ大西智洋、客員研究員　赤田昌倫、学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員秋山純子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長木川りか	7月7日、8日	日本文化財科学会35回大会
2	同上	雪舟と祥啓 ―旅する画家がみた景勝―	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	11月3日	公開講座「西湖をめぐる美術と文化」（会場：神奈川県立金沢文庫）
3	同上	響銅でつながる大宰府と東アジア	学芸部企画課主任研究員川村佳男	11月23日	大宰府史跡発掘50年記念・文化交流展「たたいて削って青銅器－東アジアの響銅」関連シンポジウム「響銅でつながる大宰府と東アジア」（会場：九州国立博物館）
4	同上	夏珪の瀟湘八景図と室町水墨画―「東山御物」の規範性をめぐる諸問題―	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	31年1月26日	美術史学会西支部例会（会場：九州大学西新プラザ）
5	特別展「至上の印象派ビュールレ・コレクション」	ビュールレ・コレクション展紹介１印象派とは	学芸部特任研究員臺信祐爾	5月24日	西日本支店長会（会場：九州国立博物館内）
6	同上	ビュールレ・コレクションの見どころ経済人・ビュールレを中心に	学芸部特任研究員臺信祐爾	5月29日	Bizcoli（会場：九州化経済調査協会）
7	同上	ビュールレ・コレクションの見どころ　モネを中心に	学芸部特任研究員臺信祐爾	6月1日	九州各県教育長協議会見学会（会場：九州国立博物館内）
8	同上	ビュールレ・コレクション展紹介2　コレクターとしてのビュールレ	学芸部特任研究員臺信祐爾	6月12日	西日本支店長会（会場：九州国立博物館内）
9	同上	ビュールレ・コレクションの特徴　ルノアールを中心に	学芸部特任研究員臺信祐爾	6月14日	ピーポート甘木文化趣味講座（会場：朝倉市総合文化センター）
10	同上	ビュールレ・コレクションの見どころ　セザンヌを中心に	学芸部特任研究員臺信祐爾	6月15日	しっとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
11	同上	ビュールレ・コレクション展の見どころ　マネを中心に	学芸部特任研究員臺信祐爾	6月25日	大野城市　シニア大学（会場：九州国立博物館内）
12	同上	ビュールレ・コレクション展の見どころ　空前絶後の展覧会	学芸部特任研究員臺信祐爾	7月4日	芸術ふれあいセミナー（会場：岩国市役所内）
13	特別展「明治150年記念　オークラコレクション」	大倉集古館の近世絵画-狩野派、琳派など魅力の作品群をめぐって-	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	10月8日	特別展「オークラコレクション」特別講演会（会場：九州国立博物館）
14	同上	オークラコレクション―古今の美を収集した大倉父子の夢	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	10月23日	ＢＩＺＣＯＬＩ（会場：九州経済調査協会　BIZCOLI）
15	同上	オークラコレクション展のみどころ	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	11月2日	しっとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
16	同上	九州国立博物館特別展「明治150年記念　オークラコレクション」	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	11月29日	大野城市シニア大学講座（会場：九州国立博物館）
17	特集展示「平戸松浦家伝来の伊能図」	平戸松浦家伝来の伊能図	学芸部企画課研究員松浦晃佑	12月2日	九博ふるさとセミナー（会場：大野城心のふるさと館）

○その他有形文化財に関連する調査研究　38件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	世界の水中考古学と鷹島	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞	6月2日	松浦党研究連合会　第40回総会
2	同上	湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除－社寺建築における効果の検証-	京都大学大学院　藤井義久、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、トータルシステム研究所 北原博幸、京都大学大学院　藤原裕子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則、東京文化財研究所小峰幸夫、東京文化財研究所　犬塚将英、東京文化財研究所　古田嶋智子、国立民族学博物館　日高真吾、千葉県立中央博物館　斉藤明子、（公財）文化財建造物保存技術協会　福岡憲	6月16日	文化財保存修復学会40回大会

3	その他有形文化財に関連する調査研究	木造建築に施された漆層表面のひずみの経時変化	京都大学大学院　藤井義久、（公財）日光社寺文化財保存会　原田正彦、トータルシステム研究所北原博幸、京都大学大学院　藤原裕子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京文化財研究所　佐藤嘉則、東京文化財研究所　小峰幸夫、東京文化財研究所犬塚将英、東京文化財研究所　古田嶋智子、国立民族学博物館　日高真吾、千葉県立中央博物館斉藤明子、（公財）文化財建造物保存技術協会福岡憲	6月16日	文化財保存修復学会40回大会
4	その他有形文化財に関連する調査研究	大規模ガス燻蒸から加湿温風殺虫処理へ	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	6月21日	加湿温風処理法に関する専門家研究集会
5	その他有形文化財に関連する調査研究	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-生物劣化のリスク評価を用いた数値解析による環境調整方法の検討-	京都大学大学院　小椋大輔、京都大学大学院　藤原良輔、東京文化財研究所　佐野千絵、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、東京国立博物館　和田浩、東京文化財研究所　吉田直人、京都大学大学院　鉾井修一	7月7日、8日	日本文化財科学会35回大会
6	その他有形文化財に関連する調査研究	対馬矢櫃の石積遺構に関する調査概報	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞	7月29日	国立歴史民俗博物館基幹研究「中世日本の国際交流における海上交通に関する研究」：研究発表
7	その他有形文化財に関連する調査研究	Culture-based and molecular-based analysis of the fungal community on tsunami disaster-affected cultural properties	Yoshinori Sato and Rika Kigawa	9月5日－7日	IBBS(International Biodeterioration & Biodegradation Society) 2018, New Trends in Cultural Heritage Biodeterioration
8	その他有形文化財に関連する調査研究	「建国千百年　高麗の考古と美術」	学芸部企画課長白井克也	10月20日	東京国立博物館月例講演会
9	その他有形文化財に関連する調査研究	昇平丸の調査報告	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞	10月26日	北海道上ノ国町教育委員会　昇平丸の調査報告会
10	その他有形文化財に関連する調査研究	海から眺める歴史～水中考古学の成果～	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞	11月16日	南の風創生本部・南伊豆町教育委員会　文化講演会
11	その他有形文化財に関連する調査研究	九州国立博物館所蔵の彫漆器コレクションについて	学芸部文化財課資料登録室長　川畑憲子	11月16日	上海博物館『千文万華-中国歴代漆器芸術-』展に関連する「中国古代漆器国際シンポジウム」
12	その他有形文化財に関連する調査研究	ヤマトシミの発育および食性に関する基礎的検討	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、東京文化財研究所小峰幸夫、東京文化財研究所　佐藤嘉則、学芸部博物館科学課研究補佐員富松志帆	11月17日	日本環境動物昆虫学会創立30周年記念大会
13	その他有形文化財に関連する調査研究	“Ryukyu-Maritime Trade through the Asian Sea Lanes”	学芸部文化財課長原田あゆみ	12月14日、15日、16日	International Symposium: Arts of the Ryūkyū Kingdom University of Zurich/ Museum der Kulturen Basel, Switzerland
14	その他有形文化財に関連する調査研究	東洋の船：海底からよみがえる真実	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞	31年2月11日	九州大学浅海底フロンティア研究センター　一般公開講演
15	その他有形文化財に関連する調査研究	8～13世紀に見られる宝相華模様の様式変化中国・日本の遺物と伝世品から	学芸部企画課アソシエイトフェロー　桑原有寿子	31年2月17日	帝塚山大学講演会「十世紀アジア世界の精華 ～遼代の宮廷文化と平安文化を探る～」
16	その他有形文化財に関連する調査研究	X線CTによるオオナガシバンムシの幼虫の穿孔過程の観察	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　渡辺祐基、学芸部博物館科学課研究補佐員　田中麻美、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、京都大学大学院藤原裕子、京都大学大学院　藤井義久	31年3月15日	第69回日本木材学会大会
17	その他有形文化財に関連する調査研究	沈没船から読み解く造船技術と航海	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー佐々木蘭貞	31年2月26日	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺跡群特別研究事業　第1回国際検討会

18	その他有形文化財に関連する調査研究	対馬・法清寺の諸像にみる「境界」について	学芸部企画課 アソシエイトフェロー 大澤信	31年3月17日	中世美術史研究会
19	文化財の材質・構造等に関する共同研究	火山地帯から産出した赤土素材のベンガラについて	学芸部博物館科学課 保存修復室長　志賀智史	7月7日 、8日	日本文化財科学会35回大会
20	博物館における文化財保存修復に関する研究	文化財の保護と理系分野　－博物館科学の仕事-	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	5月11日	西日本工業倶楽部
21	博物館における文化財保存修復に関する研究	「豆糊」の分析―倫に含まれる脂質成分について―	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 大橋有佳、東京藝術大学 稲葉政満、同上　塚田全彦、東京文化財研究所 早川典子	6月17日	文化財保存修復学会第40回大会
22	博物館における文化財保存修復に関する研究	九州国立博物館所蔵 安南国副都堂福義侯書簡に使用された白色顔料	学芸部博物館科学課保存修復室主任研究員 志賀智史	6月17日	文化財保存修復学会第40回大会
23	博物館における文化財保存修復に関する研究	文化財の保存と修復の考え方と実践	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	8月6日	福岡歴史観光市民大学
24	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館の環境管理	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	12月12日	放送大学
25	博物館における文化財保存修復に関する研究	文化財の保存と修復	学芸部博物館科学課 保存修復室長　志賀智史	12月13日	放送大学
26	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	文化財害虫について、文化財の虫等への対処法	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	5月23日	IPM研修（職員向け対象研修会）
27	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	九博における低温殺虫処理の試み	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子	5月23日	IPM研修（職員向け対象研修会）
28	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	博物館の虫	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	5月26日	きゅーはく女子考古部オリエンテーション
29	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	ガラス外壁を有する博物館建造物における照明を利用した衝突野鳥の対策	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課主任研究員　秋山純子、学芸部博物館科学課研究補佐員　富松志帆、武藤美代、泊智子、九州環境管理協会　柿本大典、大城戸博文	6月16日	文化財保存修復学会40回大会
30	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	九州国立博物館における各種資料の低温殺虫処理について	学芸部博物館科学課主任研究員　秋山純子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課研究補佐員　富松志帆、武藤美代	6月16日	文化財保存修復学会40回大会
31	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	博物館資料を守る	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	9月3日	文化庁事業「大学における文化芸術推進事業・学芸員・図書館司書のための研修会」 宮崎ＫＩＴＴＥＮ
32	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	九州国立博物館における夜間開館と飛来昆虫調査	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、環境文化創造研究所　山崎久美子	10月24日	IPMセミナー
33	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	温湿度のモニタリング方法と重要性 測定機器、調湿方法、データ管理　（実習）	学芸部博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	10月25日	IPM研修
34	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	文化財害虫について 文化財害虫の同定（実習） 文化財の虫やカビへの対応法	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	10月25日 、26日	IPM研修
35	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	文化財害虫発見記録データ分析 データの見方	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか、学芸部博物館科学課環境保全室研究員 秋山純子	10月26日	IPM研修
36	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	生物処理方法の選択	V&A museum Val Blyth、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	10月26日	IPM研修
37	博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	文化財の生物被害と加害生物およびレベルコントロールについて	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長　木川りか	12月7日	（公財）文化財研究所　第8回IPMコーディネータ資格取得講習会、国立民族学博物館

38	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）	「赤外線画像と彩色材料の成分との比較について」	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　秋山純子、香川県立ミュージアム　上野進、鹿間里奈	7月7日、8日	日本文化財科学会35回大会

【東京文化財研究所】　85件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　20件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　15件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	日本におけるシソーラス・語彙集に関する情報蓄積または情報源について一日本美術人名情報	文化財情報資料部研究員 橘川英規	6月16日	国際シンポジウム「「アート・歴史分野における国際的な標準語彙の活用 —Getty Vocabulary Programの活動と日本」国立歴史民俗博物館
2	同上	明治期～昭和期刊行博覧会・展覧会資料のオープン・アクセス化事業	同上	9月12日	EAJRS：日本資料専門家欧州協会）第29回年次大会、リトアニア・ヴィータウタス・マグヌス大学
3	同上	The Contribution of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties: Art Bibliography in Japan for OCLC Central Index（東京文化財研究所の情報発信： OCLCセントラル・インデックスへの日本美術文献の情報提供）	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	10月4日	第8回国際美術図書館会議、アムステルダム国立美術館
4	同上	日本の展覧会カタログ論文の国際的可視性を高めるための取り組み:「東京文化財研究所美術文献目録」のOCLCへの提供	文化財情報資料部研究員 橘川英規	10月13日	アート・ドキュメンテーション学会第11回秋季研究集会、お茶の水女子大学
5	同上	与謝蕪村筆「鳶・鴉図」に見るトリプルイメージ	文化財情報資料部研究員 安永拓世	11月15日	イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 Third Thursday Lecture
6	日本東洋美術史の資料学的研究	土佐光起著『本朝画法大伝』考—「画具製法并染法極秘伝」を端緒として—	文化財情報資料部主任研究員　小野真由美	6月26日	文化財情報資料部研究会
7	同上	ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子他	7月30日	同上
8	同上	絹本著色技法の史的展開について—仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察	東京藝術大学非常勤講師 京都絵美	11月27日	同上
9	同上	病苦図像の源流—静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経変相図」について	共立女子大学教授 山本聡美	12月27日	同上
10	同上	静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系	成城大学教授　相澤正彦	12月27日	同上
11	同上	二幅の不動明王画像	文化財情報資料部研究員 米沢玲	31年2月28日	同上
12	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供—ヨシダ・ヨシエ文庫を例に	文化財情報資料部研究員 橘川英規	5月23日	同上
13	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線XT調査	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治　他	7月6日	日本文化財科学会第35回大会
14	同上	平蒔絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—	金沢大学助教　神谷嘉美	10月2日	文化財情報資料部研究会
15	同上	中国における漆地螺鈿の成立と発展—螺鈿史上の古代・中世とその画期	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	11月15日～16日	中国古代漆器国際学術研討会

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	古典芸能における御祝儀物	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	10月14日	儀礼文化学会
2	同上	現代に生きる江戸のファッション	無形文化遺産部主任研究員菊地理予	12月1、8、15日	江戸文化講座
3	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産のパブリックメモリー	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	6月9日	中国・南方科技大学
4	同上	ICH contributing to Japanese Post-disaster Rehabilitation	同上	10月26日	大韓民国国立無形遺産院
5	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	Safeguarding cultural heritage in the Pacific: current issues and perspectives.	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	9月26日	World Social Science Forum 2018, Fukuoka

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　36件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	光学的調査の方法と成果-科学写真からわかること	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	12月8日	那智参宮曼荼羅絵巻本の仕立てを探る　國學院大學

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　35件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	石人山古墳装飾石棺表面の微生物制御方法の検討	保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	6月16日	文化財保存修復学会第40回大会
2	同上	油彩画に発生したカビの各種顔料における抗カビ性評価	同上	同上	同上
3	同上	湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除―社寺建築における効果の検証―	保存科学研究センター客員研究員　藤井義久、保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	同上	同上
4	同上	木造建築に施された漆層表面のひずみの経時変化	同上	同上	同上
5	同上	Culture-based and molecular-based analysis of the fungal community on tsunami disaster-affected cultural properties	保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	9月5日	The International Biodeterioration and Biodegradation Society 2018 meeting -New Trends in Cultural Heritage Biodeterioration-
6	同上	多湿環境から乾燥における生麩糊によるカビ被害の検証	保存科学研究センター生物科学研究室長 佐藤嘉則	11月13日	日本防菌防黴学会第45回年次大会
7	同上	ヤマトシミの発育および食性に関する基礎的検討	保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則、保存科学研究センターアソシエイトフェロー小峰幸夫　他	11月17日	日本環境動物昆虫学会創立30周年記念大会
8	同上	チビケカツオブシムシ成虫の摂食と寿命	保存科学研究センターアソシエイトフェロー 小峰幸夫	31年3月5日	都市有害生物管理学会第40回大会
9	保存と活用のための展示環境の研究	合板からの酢酸放散挙動と博物館展示ケースで用いるための選定指標	保存科学研究センター長 佐野千絵　他	9月4日	日本建築学会2018東北大会
10	同上	白色 LED の発光特性と彩色絵画の色彩との関係について	保存科学研究センター保存科学研究室　吉田直人	6月16日	文化財保存修復学会第40回大会
11	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘、文化財情報資料部専門職員　城野誠治	7月7日～8日	日本文化財科学会第35回大会
12	同上	INAXライブミュージアム「窯のある資料館」における保存環境と塩類析出に関する調査（２）	佐々木淑美、保存科学研究センター　分析科学研究室長　犬塚将英	同上	同上
13	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	ウトグチ瓦窯跡における着生生物繁茂を与える光環境	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明、森井順之、保存科学研究センター研究補佐員柳沼由可子	6月16日	文化財保存修復学会第40回大会
14	同上	覆屋の藻類繁茂軽減効果に関する研究	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明、森井順之、保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英	7月7日～8日	日本文化財科学会第35回大会
15	同上	過去に造られたレプリカを利用した露頭の風化速度の検証	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明、森井順之、保存科学研究センター研究補佐員柳沼由可子、酒井修二、運天弘樹	10月16～17日	日本応用地質学会平成30年度研究発表会
16	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	現代技法で製作されたミャンマー漆器の科学調査	保存科学研究センター修復材料研究室研究員 倉島玲央 他	同上	同上
17	同上	Pemulen® TR-2ゲルを利用した液体汚損クリーニング-油除去作業を例にして-	保存科学研究センター修復材料研究室アソシエイトフェロー　藤井佑果　他	6月17日	文化財保存修復学会　第40回大会
18	同上	ポリウレタンフォームとシリコーンゴムを用いた作品の調査と保存の検討 ―1980年代に制作されたマネキンについて―	保存科学研究センター修復材料研究室室長　早川典子　他	6月16日	同上
19	同上	「豆糊」の分析 糊に含まれる脂質成分について	同上	6月17日	同上
20	同上	接着剤およびアーカイバルテープの劣化	同上	同上	同上
21	同上	在来技法で製作された画絹の科学的調査	同上	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
22	同上	群青顔料が紙の劣化に及ぼす影響	保存科学研究センター客員研究員　貴田啓子、保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子　他	同上	同上
23	同上	ドウサによる和紙の劣化抑制について	同上	6月21日	第 85 回紙パルプ研究発表会
24	同上	Retardation Effect in the Copper Corrosion Damage to Japanese Paper by Dōsa	同上	10月30日	IIC -paper conservation-, Beijing
25	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	松煙煤に関する研究	保存科学研究センター修復材料研究室客員研究員宇高健太郎	6月17日	文化財保存修復学会　第40回大会
26	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	砂防施設と文化財について	保存科学研究センター近代文化遺産研究室長北河大次郎	6月6日	国土交通省北陸地方整備局
27	同上	”ここ”の歴史へ－幻のジェットエンジン、語る－	同上	6月2日	東京文化財研究所／国際基督教大学アジア文化研究所・平和研究所
28	同上	日本における近代化遺産に関する文化財保護行政の展開について	同上	8月17日	台湾文化部文化資産局
29	同上	わが国防災遺産の系譜と立山砂防	同上	9月30日	富山県世界遺産登録推進事業実行委員会
30	同上	20世紀遺産と立山砂防	同上	10月12日	土木学会
31	同上	旧安田銀行担保倉庫の保存・活用に関する取り組み　煉瓦建造物の保存活用に関する研究-16	保存科学研究センター近代文化遺産研究室アソシエイトフェロー　石田真弥	31年3月7日	2018年度（第89回）　日本建築学会関東支部研究報告発表会
32	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	高松塚古墳壁画の修復報告 ―国宝絵画としての保存修復処置―	保存科学研究センター修復材料研究室長早川典子	6月17日	文化財保存修復学会　第40回大会
33	同上	Investigation of thermal environment inside the shelter for decorated tumulus in Japan	保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英　他	9月14日	International Instutitute for Conservation(トリノ工科大学)
34	同上	高松塚古墳壁画をまもり・伝える：保存修理現場の今	保存科学研究センター修復材料研究室長早川典子	12月23日	龍谷大学文学部文化遺産学シンポジウム＜高松塚古墳壁画保存の過去・現在そして未来＞
35	同上	日本における漆喰古墳壁画の保存修復	同上	31年3月2日	アジア壁画の保存と彩色技術交流に関する国際コロキウム（東京藝術大学）

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　21件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　21件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei and Progress of the Archaeological Investigation	アンコール地域保存管理機構遺跡保存課　アン・ソピアップ、文化遺産国際協力センター保存計画研究室長 友田正彦	6月5日	The 30th Technical Session of ICC-Angkor
2	同上	タ・ネイ寺院の保存・考古学的調査	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　マルティネス・アレハンドロ、文化遺産国際協力センター研究員　安倍雅史	10月15日	東南アジア考古学会例会
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	Il progetto in corso di Tokyo National Research Institute for Cultural Propertie	文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文	4月26日	The University of Applied Sciences and Arts of Southern Switzerland
4	同上	ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究」-美術史的・技法的視点による壁画調査-	保存科学研究センターアソシエイトフェロー　鴫原由美、文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文	6月17日	文化財保存修復学会第40回大会
5	同上	Loka-Hteik-Pan寺院祠堂（バガン、ミャンマー）の壁画保存修復に向けた調査研究	文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文、文化協会バスティオーニ ダニエラ・マーフィ、文化協会バスティオーニ ステファーニア・フランチェスキーニ、ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局　チーリン	同上	同上
6	在外日本古美術品保存修復協力事業	日本絵画の裏彩色に対する剥落止めに用いる膠水溶液濃度の検討	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　元喜載、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　小田桃子、文化遺産国際協力センター技術支援研究室長　加藤雅人	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
7	同上	クラクフ国立博物館所蔵　狩野董川中信筆『月下秋景図』（紙本着色　掛軸装）修復事例報告	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　小田桃子、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　元喜載、文化遺産国際協力センター技術支援研究室長　加藤雅人、君嶋隆幸、白井啓太	同上	同上
8	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院の歴史的変遷	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　間舎裕生	9月4日	日本建築学会2018年大会（東北）
9	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	コカナにおける伝統的建造物の復興の実態(被災後 2 年半)―2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 8 ―	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教　森朋子、神戸芸術工科大学教授　西村幸夫	9月6日	日本建築学会2018年大会（東北）
10	同上	カトマンズ盆地内ネワール集落における伝統的町並みの残存状況―2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける震災状況調査報告 その 9―	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程　濵田愛、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程　永門航、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教　森朋子、神戸芸術工科大学教授　西村幸夫	同上	同上
11	同上	カトマンズ盆地内ネワール集落における伝統的空間構造の特徴分析―2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 10―	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程　永門航、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程　濵田愛、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教　森朋子、神戸芸術工科大学教授　西村幸夫	同上	同上
12	同上	カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院における考古学調査	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　間舎裕生	12月8日	ユーラシア考古学勉強会第10回例会
13	文化遺産保護国際貢献事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	2016 年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害及び構造的特徴　（その 1）バガン遺跡群の文化遺産建造物における地震被害の概要	八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭、金沢工業大学建築学部建築学科講師　佐藤弘美、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　マルティネス・アレハンドロ	9月6日	日本建築学会2018年大会（東北）
14	同上	2016年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴（その2）常時微動計測に基づく振動特性の把握	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士前期課程　川島康生、八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭、金沢工業大学建築学部建築学科講師　佐藤弘美、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　マルティネス・アレハンドロ、首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子	同上	同上
15	同上	2016年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴（その3）煉瓦プリズムと目地モルタルの材料試験	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士後期課程　陳昕岩、香川大学工学部安全システム建設工学科准教授　宮本慎宏、首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子、東京大学生産技術研究所教授　腰原幹雄	同上	同上
16	同上	2016年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴（その4）煉瓦ユニットの圧縮試験	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子、首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士後期課程　陳昕岩、八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭	同上	同上
17	同上	Brick masonry construction in Bagan - Technical features and some consideration for its restoration -	文化遺産国際協力センター保存計画研究室長　友田正彦	11月13日～14日	Seminar on the Conservation of Historical Brick Buildings in Bagan

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
18	同上	Bagan from structural view	東京大学生産技術研究所教授　腰原幹雄	同上	同上
19	同上	Organic analysis of historical mortar in Bagan	日鉄住金テクノロジー株式会社尼崎事業所文化財調査室　渡邊緩子	同上	同上
20	同上	Report of International Cooperation for Bagan - Japan	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェローマルティネス・アレハンドロ	11月18日	1st International Committee for Safeguarding Bagan
21	文化遺産保護国際貢献事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation	文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文	6月29日	The Ministry of Culture and Tourism of Turkey

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　8件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	田中一松資料について	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	7月7日	「記録された日本美術史-相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」シンポジウム、京都工芸繊維大学
2	同上	田中一松の眼と手-田中一松資料、鶴岡在住期の資料および絵画作品調書を中心に	同上	31年1月29日	文化財情報資料部研究会

○調査研究成果の発信　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報とAPEX	文化財情報資料部研究員 小山田智寛	4月24日	APEX UG Meetup 2018#2 ～ ゼロ to APEX -ゼロからはじめるAPEX
2	同上	WordPressで作る文化財情報データベース	文化財情報資料部研究員 小山田智寛　他	6月2日	WordCamp Osaka 2018
3	同上	DataCoreを利用した 拡張可能なストレージ事例紹介	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子　他	7月12日	DataCore DCIEサミット
4	同上	文化財データベースの作成とその意義について	文化財情報資料部研究員 小山田智寛	10月26日	第52回オープンレクチャー　かたちからの道、かたちへの道
5	同上	持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について	文化財情報資料部研究員 小山田智寛　他	31年3月2日	第24回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」静岡大学浜松キャンパス
6	同上	文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用	同上	31年3月16日	デジタルアーカイブ学会　第3回研究大会

【奈良文化財研究所】　128件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　53件

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　53件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	日本の史跡内発掘遺構の整備と活用状況	文化遺産部室長　内田和伸	4月20日	『世界遺産公山城百済王宮関連遺跡の調査成果とこれからの課題』公州大学シンポジウム
2	同上	鳥海柵の整備	同上	31年2月9日	平成30年度国指定史跡鳥海柵跡シンポジウム
3	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	藤原宮朝堂院朝庭における幢幡遺構の配置と設計思想	同上	5月27日	平成30年度に日本造園学会大会
4	同上	六条院にみる平安時代の庭園の四季	文化遺産部研究員 高橋知奈津	7月12日	宇治市源氏物語ミュージアム平成30年度連続講座第４回
5	同上	日本庭園の特質と歴史／庭園のみかた	同上	7月24日	平成30年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎ｺｰｽ第１回
6	同上	庭園の柵を飛び越えて　内と外を繋ぐもの	文化遺産部アソシエイトフェロー　マレス・エマニュエル	8月31日	金沢大学地域政策研究センター主催の国際シンポジウム「都市景観をグリーンインフラから考える―金沢における活用と協働―」
7	同上	浄瑠璃寺と円成寺の庭園―森蘊による庭園の復原的研究―	同上	9月22日	木津川市ふれあい文化講座
8	同上	The Bridge : Iconic symbol of Japanese Gardens	同上	9月30日	北米日本庭園協会主催の国際シンポジウム「JAPAN' S GIFT TO THE WORLD - JAPANESE GARDENS AS A GLOBAL PHENOMENON -」
9	同上	造園古書にみる「露地・茶庭」	文化遺産部研究員 高橋知奈津	10月21日	平成30年度庭園の歴史に関する研究会
10	同上	東大寺の知られざる庭園を訪ねて―森蘊作庭の東大寺龍蔵院庭園―	文化遺産部アソシエイトフェロー　マレス・エマニュエル	10月28日	名勝大乗院庭園文化館事業「第６回　庭園研究講座」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	同上	日本庭園における反橋の色付けについて	同上	10月28日	古材文化の会研究会
12	同上	文化財庭園の保存管理	文化遺産部研究員 高橋知奈津	10月29日	平成30年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎ｺｰｽ第2回
13	同上	大乗院庭園の発掘と整備	文化遺産部室長　内田和伸	11月3日	日本庭園学会関西支部見学会
14	同上	奈良市における庭園の総合調査（速報）	文化遺産部研究員 高橋知奈津	11月4日	平成30年度日本庭園学会関西大会
15	同上	文化財庭園の保存修理	同上	11月30日	平成30年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎ｺｰｽ第3回
16	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	名勝法華寺庭園の保存活用計画	文化遺産部研究員 高橋知奈津	12月22日	平成30年度遺跡整備・活用研究集会
17	同上	名勝法華寺庭園の今日的価値	同上	31年1月31日	平成30年度総合研究会
18	同上	回遊式庭園としての大乗院庭園	同上	31年3月15日	名勝大乗院庭園文化館事業　文化講演会
19	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	日本霊異記の中の大安寺②―大安寺僧の活動	都城発掘調査部主任研究員 山本崇	4月21日	大安寺歴史講座Ver.８
20	同上	石神遺跡Ｂ期整地土出土の土器	都城発掘調査部主任研究員 森川実	6月30日	第156回歴史土器研究会
21	同上	石神遺跡ＳＤ640出土の土器	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	同上	第156回歴史土器研究会
22	同上	石神遺跡ＳＫ764出土の土器	考古第二研究室長 尾野善裕	6月30日	第156回歴史土器研究会
23	同上	木簡からみた古代兵庫	都城発掘調査部主任研究員 山本崇	9月7日	平成30年度兵庫県生活文化大学考古学講座
24	同上	平城宮幢旗遺構の発見―平城宮遷都と儀式遺構の変化―	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	10月13日	奈文研第10回東京講演会
25	同上	古代都市藤原京の実態	都城発掘調査部長　玉田芳英	10月13日	奈文研第10回東京講演会
26	同上	日韓古代瓦の使用方法に関する比較研究	考古第三研究室長　清野孝之	10月18日	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表
27	同上	藤原宮の造瓦体制	都城発掘調査部研究員 石田由紀子	10月21日	第204回歴史考古学研究会
28	同上	古代宮都の発掘調査から見た猿投窯	考古第二研究室長　尾野善裕	12月8日	みよし猿投古窯研究会
29	同上	平城宮第一次大極殿院における幢旗遺構の発見	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	12月15日	都城制研究会
30	同上	石神遺跡Ｂ期土坑群出土土器について	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　土橋明梨紗	12月16日	第159回歴史土器研究会
31	同上	醍醐環濠出土の中・近世土器・陶磁器と遺構変遷	考古第二研究室長　尾野善裕	12月16日	第159回歴史土器研究会
32	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	宮都の土器から猿投窯須恵器編年と北丹波・東流遺跡出土土器を考える	考古第二研究室長　尾野善裕	31年3月16日	東海土器研究会・歴史土器研究会合同例会・「古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究」第3回研究会
33	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	「ここ」にある必然性からつながりのデザインへ	文化遺産部研究員 惠谷浩子	10月17日	日本ランドスケープフォーラム総会
34	同上	日本庭園における短冊石の筏打ちについて	文化遺産部室長　中島義晴	10月28日	平成30年度日本造園学会関西支部大会
35	同上	伊奈冨神社庭園（七島池）の修復と地域による保護のとりくみ	景観研究室長　中島義晴	11月11日	平成30年度日本造園学会中部支部大会
36	同上	文化的景観の調査研究・普及・保全に関する取組み	文化遺産部研究員 惠谷浩子	12月15日	日本イコモス国内委員会2018年次総会
37	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	宮都における大甕	考古第二研究室研究員 小田裕樹	12月7日～8日	第22回古代官衙・集落研究集会
38	同上	北陸における官衙・集落と大甕	川畑誠	12月7日～8日	第23回古代官衙・集落研究集会
39	同上	古代官衙・集落と大甕	田中広明	同上	第24回古代官衙・集落研究集会
40	同上	長岡京の甕据付建物と大甕	木村泰彦	同上	第25回古代官衙・集落研究集会
41	同上	大甕の生産と流通の変遷について	木村理恵	同上	第26回古代官衙・集落研究集会
42	同上	大甕を使う	三舟隆之	同上	第27回古代官衙・集落研究集会
43	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	近江地域の一本づくり・一枚づくり	(公財)滋賀県文化財保護協会・北村圭弘	31年2月2日～3日	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開２」
44	同上	山城地域の一本づくり・一枚づくり	京丹後市教育委員会・ 藤田智子	同上	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開３」
45	同上	摂津・河内・紀伊地域の一本づくり・一枚づくり	龍谷大学文学部・谷崎仁美	同上	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開４」
46	同上	近畿北・西部の一本づくり・一枚づくり	(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター・村田和弘 (公財)兵庫県まちづくり技術センター・垣内拓郎	同上	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開５」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
47	同上	山陽地方の一本づくり・一枚づくり	岡山県古代吉備文化財センター・松尾佳子	同上	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開６」
48	同上	山陰地方の一本づくり・一枚づくり	浜田市教育委員会・榊原博英	同上	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開７」
49	同上	四国地方の一本づくり・一枚づくり	徳島県立博物館・岡本治代	同上	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開８」
50	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	九州地方北部の一本づくり・一枚づくり	佐賀市教育委員会・山口　亨	同上	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開９」
51	同上	九州地方南部の一本づくり・一枚づくり	熊本市経済観光局 熊本城総合事務所・金田一精	31年2月2日～3日	第19回シンポジウム　8世紀の瓦づくりⅧ「一本づくり・一枚づくりの展開１０」
52	水中文化遺産に関する調査研究	海底遺跡における埋め戻し法の差異が鉄製遺物の腐食に及ぼす影響	埋蔵文化財センター長 高妻洋成	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
53	同上	出土木製遺物の一時保管環境における酸素供給の抑制による水質および遺物への影響	埋蔵文化財センター長 高妻洋成	同上	同上

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　65件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　30件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	文化遺産のデジタルドキュメンテーションの現状と課題	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	5月27日	日本考古学協会第84回大会総会研究発表要旨
2	同上	中国の瓦―中国における瓦の出現と拡散―	埋蔵文化財センター客員研究員　中村亜希子	6月3日	2018東南アジア考古学会
3	同上	Tracing the Construction Process of the Shangjin Palace Site, Bohai Kingdom	遺跡・調査技術研究室研究員　中村亜希子	6月7日	Society for East Asian Archaeology
4	同上	国史跡上市黒川遺跡群を中心とした立山信仰関連文化遺産の三次元計測とその活用	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	6月9日	日本海研究グループ支援事業 研究成果発表会
5	同上	SLAM技術を用いた森林内遺構の迅速な計測	埋蔵文化財センター室長 金田明大	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
6	同上	微細痕跡の資料化:SfM-MVS と深度合成を用いた可視化	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	同上	同上
7	同上	「同笵瓦」と「異笵瓦」の比較-瓦当三次元計測データの検討-	遺跡・調査技術研究室研究員　中村亜希子	同上	同上
8	同上	3D Recording of Cultural Heritage with it's Focus on Stone Objetcs	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	8月13日	Teknologi Digital dalam Pengeloaan Warisan Budaya
9	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	Digital Record of Cultural Heritage relating to Great Burkhan Khaldun Mountain	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　山口欧志	9月22日	WORLD HERITAGE-GREAT BURKHAN KHALDUN MOUNTAIN AND ITS SURROUNDING SACRED LANDSCAPE: RESEARCH, PRESERVATION AND PROTECTION
10	同上	古代の器のかたちを考える―はやり、つくりかた、つかいかた―	埋蔵文化財センター室長 金田明大	10月14日	寒風陶芸会館 須恵器窯再現・焼成プロジェクト2018
11	同上	ＳｆＭに関する研修の講師	埋蔵文化財センター室長 金田明大・埋蔵文化財センター研究員　山口欧志	10月18日	青谷上寺地遺跡・鳥取埋文センター研修
12	同上	Digital Documentation of Cultural Heritagefor Conservation, Preservation, and Utilization	埋蔵文化財センター研究員 山口欧志	11月14日	Seminar TEKNOLOGI DIGITAL dalam Pengeloaan Warisan Budaya
13	同上	ハンズオンNo.1「文化財の三次元計測（初級編）」	埋蔵文化財センター室長 金田明大	11月23日	第3回文化財方法論研究会
14	同上	ハンズオンNo.2「文化財の三次元計測（中級編）」	埋蔵文化財センター研究員 山口欧志	同上	同上
15	同上	ハンズオンNo.3「遺物モデルのスケーリングとマージ」	遺跡・調査技術研究室研究員　中村亜希子	同上	同上
16	同上	文化財情報の収集と可視化	埋蔵文化財センター研究員 山口欧志	11月24日	第3回文化財方法論研究会
17	同上	土器口縁径の計測の効率化に向けた試行	埋蔵文化財センター室長 金田明大	11月25日	第3回文化財方法論研究会
18	同上	瓦当紋様の三次元計測データを用いた研究法	遺跡・調査技術研究室研究員　中村亜希子	同上	同上
19	同上	３D計測に関する研修の講師担当	埋蔵文化財センター室長 金田明大	12月6日	北海道立埋蔵文化財センター研修

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	年輪年代学研究	平城京出土木製人形の同一材検討	都城発掘調査部　アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
21	同上	年輪年代学的手法による平城京左京二条二坊十四坪出土木簡の同一材推定	埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治，都城発掘調査部主任研究員　桑田訓也，都城発掘調査部研究員　山本祥隆，都城発掘調査部アソシエイトフェロー　浦蓉子	11月11日	第33回日本植生史学会大会
22	年輪年代学研究	歴史的建造物の自然科学分析をめぐる学際研究の接点を探る	埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治	31年3月9日	日本建築史学会近畿支部建築史部会・日本木材学会木質文化財研究会合同研究会
23	動植物遺体の調査研究	東北地方における貝塚調査の現状―宮城県・岩手県を中心として―	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健、埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也ほか	6月16日	日本動物考古学会第６回大会
24	同上	マグロ属椎骨の形態による種同定の試み	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也	同上	同上
25	同上	広田湾・気仙沼湾周辺における近年の動物遺存体調査事例	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也、埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健ほか	同上	同上
26	同上	The ancient horse ritual and the horse breeders in Japan	埋蔵文化財センター客員研究員　丸山真史	9月4日	13th International Conference of Archaeozoology
27	同上	Agricultural-Pastoral Contact Zone During the Spring and Autumn Period and the Warring States Period, China	埋蔵文化財センター客員研究員　菊地大樹	同上	同上
28	同上	椎骨の形態に基づく遺跡出土マグロ属の種同定	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也	10月6日	2018年度日本魚類学会年会
29	同上	骨からみた古代の馬	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	11月4日	『人とともに生きた馬』松阪市文化財センターはにわ館秋季特別展講演会
30	同上	国家形成期における哺乳類利用	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	12月1日	近江貝塚研究会第301回例会

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　35件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	Archaeometrical approach to glass beads trade in Xiongnu period	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美ほか２名	6月10日	the 8th Worldwide Conference of the SEAA in Nanjing, China
2	同上	考古学と分析化学　～古代ガラスの産地と交易～	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美	6月19日	第130回分析技術研究会
3	同上	出土鉄製遺物の塩化イオン集積に対して埋蔵環境が及ぼす影響	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター研究員　柳田明進 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
4	同上	キトラ古墳天井・星宿図の蛍光 X 線元素分析調査	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　金旻貞ほか１名	同上	同上
5	同上	14世紀モンゴル帝国フグノタラニーン・ウグンヒード寺遺跡の顔料調査（Ⅰ）	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　柳成煜ほか４名	同上	同上
6	同上	硫化鉄を含む鉄製遺物の劣化に及ぼす湿度の影響	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	7月8日	日本文化財科学会第35回大会
7	同上	海底遺跡における埋め戻し法の差異が鉄製遺物の腐食に及ぼす影響	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	同上	同上
8	同上	出土木製遺物の一時保管環境における酸素供給の抑制による水質および遺物への影響	埋蔵文化財センター研究員　松田和貴、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	同上	同上
9	同上	対馬出土ガラス玉類の考古科学的検討	埋蔵文化財センター研究員　田村朋美、埋蔵文化財センター客員研究員　大賀克彦ほか１名	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
10	同上	文化財調査の科学技術	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	8月4日	第20回日本表面真空学会関西支部市民講座「鑑定の科学技術」
11	同上	Study on the ancient ‘Sandwich beads’ excavated in Japan	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美、埋蔵文化財センター客員研究員　大賀克彦	9月4日	21st International Congress of the Association Internationale pour l'Histoire du Verre
12	同上	保管･展示時における出土鉄製文化財の腐食に及ぼす湿度の影響	埋蔵文化財センター研究員 柳田明進、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、 埋蔵文化財センター室長 高妻洋成	10月13日	日本建築学会　環境工学委員会 第48回熱シンポジウム「役に立つ湿気研究」
13	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	モンゴルハラホリン博物館所蔵７世紀突厥時代の塑像の彩色顔料研究（Ⅰ）	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　柳成煜 ほか２名	11月2日	韓国文化財保存科学会第48回大会
14	同上	Glass Beads Trade Between the East and West	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	11月23日	The Arrival of Belief at the Extremities of the Silk Roads: Recent work on the archaeology of the interface between incoming and local religions in Eurasia 400 - 1000 AD
15	同上	日本列島出土の古代ガラスの産地と同位体比分析	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	11月27日	保存科学研究集会「同位体比分析と産地推定に関する最近の動向」
16	同上	Comparative study on ancient glass beads in Japan and along the Silk Road.	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	12月9日	International Symposium on Ancient Glass along The Silk Road
17	同上	ガラス玉からみた南北交流	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	12月26日	総括国際シンポジウム「物質文化と精神文化の交流と断絶からみた北方世界の実相」
18	同上	ユーラシア東西交易とガラスの道	埋蔵文化財センター研究員 田村朋美	31年2月23日	明治大学日本古代学研究所シンポジウム「社会変化とユーラシア東西交易-考古学と分析科学からのアプローチ-」
19	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その２）防水工事の影響を考慮した２次元熱・水分移動の数値解析	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか５名	6月23日	日本建築学会近畿支部研究発表会
20	同上	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その3）現地調査と２次元数値解析	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか５名	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
21	同上	露出展示遺構の劣化に及ぼす硫酸カルシウムの影響ー新池埴輪製作遺跡18号埴輪窯における温熱環境と硫酸カルシウムの挙動ー	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター客員研究員 肥塚隆保、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　ほか２名	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
22	同上	七本官軍墓地に用いられた下浦砂岩の劣化メカニズムに関する検討	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成　ほか１名	同上	同上
23	同上	元町石仏における塩類風化抑制に関する研究　ー脱塩技術の定量的評価を目的とした材料内水分・塩移動モデルの比較ー	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	同上	同上
24	同上	蒸発法を用いた凝灰岩の水分物性測定	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか２名	9月4日	日本建築学会大会（東北）
25	同上	脱塩技術の定量的評価を目的とした材料内水分・塩移動モデルの開発　既存の熱水分塩同時移動解析モデルによる浸透圧を考慮した脱塩実験の再現性の検討	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	同上	同上
26	同上	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究その３　２次元熱・水分移動の数値解析	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか５名	同上	同上
27	建造物の彩色に関する調査研究	テラヘルツ波イメージングによる彩色文化財の界面調査のための技術的検討	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　　金旻貞	7月6日	日本文化財科学会第35回大会 彩色材料分析WG 第4回研究会
28	同上	智恩寺紙本金地著色天橋立図屏風の非破壊界面調査	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　　金旻貞	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
29	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	遺跡保存のための環境管理　ー史跡ガランドヤ古墳１号墳の保存と活用を目的とした環境設計にテラヘルツイメージングによる高松塚古墳壁画のしっくいの調査	埋蔵文化財センター長 高妻洋成	同上	同上
30	同上	結露抑制を目的とした装飾古墳保護施設の環境設計	埋蔵文化財センター長 高妻洋成	同上	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
31	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	模擬古墳から検討した古墳石室内における金属製遺物の腐食挙動	保存修復科学研究室研究員 柳田明進、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか１名	5月23日	腐食防食学会　材料と環境2018
32	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究　（その5）4年間の測定結果による石室内環境の把握と数値解析による石室内温湿度の再現	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、保存修復科学研究室研究員　柳田明進、埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか３名	7月7日	日本文化財科学会第35回大会
33	同上	蓮ヶ池横穴群の環境調査について	保存修復科学研究室研究員 柳田明進、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成　ほか１名	7月8日	日本文化財科学会第35回大会
34	同上	遺跡保存のための環境管理　－史跡ガランドヤ古墳１号墳の保存と活用を目的とした環境設計に関する研究－	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	9月12日	地盤工学の知見に基づく歴史的地盤遺跡の保全と活用に関する研究委員会講習会
35	同上	結露抑制を目的とした装飾古墳保護施設の環境設計	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	10月13日	日本建築学会　環境工学委員会第48回熱シンポジウム「役に立つ湿気研究」

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	キリスト教の受容（400-1000 AD）の際の北海周辺におけるシルクロードからの影響	セインズベリー日本藝術研究所長　サイモン・ケイナー	10月31日	セインズベリー日本藝術研究所講演会
2	同上	Faith Across the Seas: Changing Landscape of the Silk Road	セインズベリー日本藝術研究所　客員教授　スーザン・ウィットフィールド	同上	同上
3	同上	How Buddhism changed the world at the east extreme end of the silk road	都城発掘調査部主任研究員 庄田慎矢	11月22日	The Great Hospital（英国ノリッチ）での講演会
4	同上	Early temples in Japan	飛鳥資料館学芸室長 石橋茂登	11月23日	セインズベリー日本藝術研究所（英国ノリッチ）でのワークショップ
5	イギリスセインズベリー日本芸術研究所との共同研究	Glass beads trade between the East and West	都城発掘調査部研究員 田村朋美	同上	同上
6	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復	西トップ遺跡中央祠堂の調査と修復	企画調整部専門職　佐藤由似、企画調整部特任研究員杉山洋	6月5日	第30回国際調整委員会技術小委員会

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　4

○文化財情報基盤の整備・充実　4

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	編年時間参照系モデルを活用した編年定義間の不整合箇所抽出法について	企画調整部長　森本晋	10月20日	日本地理情報システム学会第27回研究発表大会
2	同上	全国遺跡報告総覧の機能と今後の可能性	企画調整部研究員　高田祐一	10月23日	平成30年度第1回　報告書データベース作成に関する説明会
3	同上	全国遺跡報告総覧と考古学ビッグデータの可能性	企画調整部研究員　高田祐一	11月10日	奈良文化財研究所　第123回公開講演会
4	同上	全国遺跡報告総覧の機能と今後の可能性	企画調整部研究員　高田祐一	11月22日	平成30年度第2回　報告書データベース作成に関する説明会

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

○アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形文化遺産保護のための研究の促進及び無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究	「IRCIが実施する無形文化遺産と災害リスクマネジメントの調査：大洋州において」	アソシエイトフェロー 野嶋　洋子	12月17日	文化遺産国際協力コンソーシアム第1回大洋州ワーキンググループ
2	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	「30年度活動報告」	副所長 大貫美佐子	2月20日	文化遺産国際協力コンソーシアム第61回企画分科会

【文化財防災ネットワーク推進本部】　16件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	東日本大震災後の文化財レスキュー事業と防災ネットワーク推進事業	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健	4月28日	四川省土木建築学会世界遺産工作委員会「文化遺産リスクマネジメント国際学術論壇」
2	同上	文化財防災ネットワークと平時の備え	前文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 六人部克典	5月24日	千葉県博物館協会総会
3	文化財等の防災・救援等への寄与	文化財防災ネットワーク推進事業説明	前文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 六人部克典	7月20日	新潟県歴史資料保存活用連絡協議会「平成30年度第1回歴史資料保存活用研修会」
4	同上	2011年東日本大震災文化遺産救援活動	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健	9月4日	中日共同文物防災減災高級研修コース
5	同上	動産文化財の被災類型と救出の手順	文化財防災ネットワーク推進室員（奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター長） 高妻洋成	9月9日	同上
6	同上	水損紙資料の保全処置工程	同上	同上	同上
7	同上	京都国立博物館の防災システム	文化財防災ネットワーク推進室員（京都国立博物館　学芸部保存科学室長）　降幡順子	9月5日	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修2018
8	同上	建造物に付属する動産文化財の救出・保全・事前対策	文化財防災ネットワーク推進室員（奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター長） 高妻洋成	9月16日	同上
9	同上	復興における無形文化遺産の遍歴	東京文化財研究所　無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	9月17日	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修2018
10	同上	原子力発電所の爆発事故発生後の博物館の対応―東日本大震災の経験	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健	10月16日	第2回博物館文化財防震技術国際学術シンポジウム
11	同上	日本の文化財防災ネットワーク推進事業の取り組みについて	同上	12月2日	ICOM-ASPAC　日本会議2018国際シンポジウム「文化財が未来へつなぐ―自然災害と博物館」
12	同上	日本における文化財レスキューの現状	文化財防災ネットワーク推進室員（奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター長） 高妻洋成	同上	同上
13	同上	都内の文化財防災体制の構築に向けて―活動概況と今後の展望	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 黄川田翔	31年3月1日	東京都教育委員会「平成30年度区市町村教育委員会埋蔵文化財担当者会議及び研修会」
14	同上	自然災害と博物館の多様な役割―防災・救援・記録・啓発	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健	31年3月8日	（公財）日本博物館協会「平成30年度研究協議会　テーマ２　平成の大規模災害と博物館」
15	同上	美術工芸品をはじめとする動産文化財の調査とレスキュー	文化財防災ネットワーク推進室員（九州国立博物館　学芸部博物館科学課長）木川りか	31年3月9日	（公社）福岡県建築士会ヘリテージマネージャースキルアップ講習会（第1回）
16	同上	文化財防災ネットワーク推進事業がめざすネットワークー地域の文化遺産をまもるためにー	文化財防災ネットワーク推進室長　岡田健	31年3月15日	平成30年度静岡県文化財等救済ネットワーク会議

c-④ シンポジウム開催実績一覧

平成31年3月31日現在

<table>
<tr><th>国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td rowspan="5">17件</td><td>10 件</td><td>1件</td><td>2件</td><td>1件</td><td>6件</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>2 件</td><td colspan="2">2件</td><td colspan="2">0件</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="3">文化財防災ネットワーク推進本部</td></tr>
<tr><td colspan="2">2 件</td><td colspan="3">3 件</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】　1件

○国際シンポジウム　「世界の中の日本美術―オリエンタリズム・オクシデンタリズムを超えた日本理解」

開 催 日　31年1月18日
開催場所　東京国立博物館　平成館大講堂
主　　催　ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会
参加人数　250人
事業内容　欧米のミュージアムの日本美術専門家とともに、博物館においてどのように日本美術を語るべきかを議論した。

【京都国立博物館】　2件

○研究発表と座談会　「仏師とその工房をめぐる諸問題」

開 催 日　9月2日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　公益財団法人仏教美術研究上野記念財団
共　　催　京都国立博物館
参加人数　76人
事業内容　テーマに基づき３名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。

○国際特別講演会・日本人研究者との座談会

開 催 日　31年1月26日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　京都国立博物館
共　　催　文化庁、朝日新聞社、仏教美術研究上野記念財団、奈良国立博物館、科学研究費基盤研究A「高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究」（代表：奈良国立博物館長　松本伸之）、科学研究費補助金基盤研究A「河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」（代表：京都国立博物館長　佐々木丞平）
参加人数　99人
事業内容　一郷韓国美術史研究院長　姜友邦氏による「日本と韓国の仏画の新解釈－国宝「子島曼荼羅」と重要文化財　鏡神社所蔵「高麗水月観音図」を中心に－」というテーマでの講演の後、日本人研究者とのパネルディスカッションを行った。

【奈良国立博物館】　1件

○正倉院学術シンポジウム2018「正倉院宝物と新羅」

開 催 日　11月3日
開催場所　東大寺総合文化センター　金鐘ホール
主　　催　奈良国立博物館
後　　援　読売新聞社
参加人数　227名
事業内容　テーマに基づき4名の研究者による研究報告とパネルディスカッションを行った。
第1部：研究報告「正倉院宝物にみる朝鮮半島の工芸」、「正倉院金工品と新たに出土した新羅の金工品の重要性」、「東大寺・正倉院と新羅からの将来経典」、「正倉院宝物にみる百済文化」
第2部：パネルディスカッション

【九州国立博物館】　6件

○公開シンポジウム　全国高等学校歴史学フォーラム2018

開 催 日　8月4日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
共　　催　公益財団法人九州国立博物館振興財団
参加者数　300人
事業内容　高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッション及びワークショップにて発表。
学悠館高等学校「皆川ハケムラの信仰史」、相馬高等学校「土面と巨人伝説」、桐生高等学校「江戸の信仰のあり方」
関高等学校「よみがえる渡辺三三旧蔵資料、糸島高等学校「石工の基礎的研究」、朝倉高等学校「為朝外伝」他

○事業シンポジウム　魏志倭人伝クニグニネットワーク　クニグニをつなぐ道を辿る

開 催 日　8月26日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　福岡県教育委員会、佐賀県教育委員会、長崎県教育委員会、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加自治体（福岡市・飯塚市・春日市・朝倉市・糸島市・宇美町・唐津市・神埼市・吉野ヶ里町・対馬市・壱岐市）
共　　催　九州国立博物館
参加者数　270人
事業内容　魏志倭人伝のクニグニネットワーク結成10周年記念事業（九州北部三県姉妹遺跡締結20周年記念事業）
講演「魏志倭人伝の世界」、「弥生時代の遺跡を取り巻く風景」
リレートーク「魏志倭人伝のクニグニネットワーク」

○事業シンポジウム　大宰府史跡発掘50年記念・文化交流展「たたいて削って青銅器－東アジアの響銅 - 」関連シンポジウム「響銅でつながる大宰府と東アジア」

開 催 日　11月23日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
参加者数　93人
事業内容　基調講演「響銅でつながる大宰府と東アジア」
講演「大宰府出土の響銅」、「現代の鋳金作家からみた極薄青銅器－響銅製作技術解明の予察として」

○国際シンポジウム　ICOM-ASPAC 日本会議2018「文化財が未来へつなぐ－自然災害と博物館－」
開 催 日　12月1日、2日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　ICOM－ASPAC、ICOM京都大会組織委員会、ICOM日本委員会、公益財団法人日本博物館協会、独立行政法人国立文化財機構、九州国立博物館・福岡県
参加者数　200人
事業内容　基調講演「日本の文化財防災」、「韓国の文化財防災」
「世界津波博物館会議」成果報告
「文化財が未来へつなぐ－自然災害と博物館－」をテーマとしたアジア各国の研究発表、パネルディスカッション

○公開シンポジウム　大宰府史跡発掘50年記念・九州国立博物館「大宰府研究」事業シンポジウム
「展望・大宰府研究　大宰府の官衙 - 大宰府政庁周辺官衙跡の調査から - 」
開 催 日　12月15日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
参加者数　277人
事業内容　講演「大宰府の官衙」、研究報告「前面官衙跡の調査研究成果」、「蔵司地区官衙跡の調査研究成果」、「鉄から見た大宰府官衙」
「大宰府の官衙」をテーマとしたパネルディスカッション

○公開シンポジウム　こども☆ひかりプロジェクト研究会inきゅーはく　近未来予想図　～ミュージアムで夢を語る～
開 催 日　31年2月3日
開催場所　ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館
参加者数　100人
事業内容　自然系博物館・歴史系博物館・美術館の教育普及担当者が、これからのミュージアムのあり方について発表。
兵庫県立人と自然の博物館　八木剛「ファーストタッチのデザインでミュージアムはよみがえる」
横浜美術館　端山聡子「人々の活動が美術館を活かす -アート×ボランティア-」
九州国立博物館　久保田和之「韓国博物館の教育普及事情～ワクワクドキドキのミュージアムへ～」

【東京文化財研究所】　2件

○文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産国際協力のかたち　―世界遺産を未来に伝える日本の貢献―」
開 催 日　30年10月8日
開催場所　日経ホール
主　　催　文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁
参加者数　204人
事業内容　文化遺産国際協力の最新の取り組みを紹介する国際シンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」
開 催 日　31年3月13日,14日
開催場所　東京文化財研究所、大阪歴史博物館
主　　催　東京文化財研究所、全国近代遺産活用連絡協議会
参加者数　179人
事業内容　近代化遺産の多様な活用を展開している台湾の状況を紹介する国際シンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　2件

○アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ
開 催 日　30年12月7日～9日
開催場所　仙台国際センター会議棟3階小会議室8、白橿1、女川町
主　　催　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
共　　催　東京文化財研究所
協　　力　東北大学東北アジア研究センター
参加者数　45人
事業内容　IRCIが2016-2017年度にかけて実施した災害に関する基礎的調査の活動成果を踏まえ、災害が頻発するアジア太平洋諸国の具体的事例をもとに議論を深め、自然災害から無形文化遺産を保護するための方法や、復興過程における無形文化遺産の役割、無形文化遺産を活用した災害リスクマネジメントの可能性について、アジア太平洋各国からの参加者等とともに検討した。

○IRCIの「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究―教育を題材として」事業のための国際シンポジウム
開 催 日　31年1月21日～22日
開催場所　奈良教育大学
主　　催　アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
後　　援　奈良教育大学
参加者数　15人
事業内容　無形文化遺産の、持続可能な開発目標(SDGs)への教育的観点からの貢献を目指して、フィリピン、ベトナムにて作成する教材の内容について議論し、また、参加者とともにSDGsの目標4（ターゲット4.7）に記載されている質の高い教育の推進と今後の課題について検討した。

【文化財防災ネットワーク推進本部】　3件

○国際シンポジウム「地域と共に取り組む文化遺産防災－世界の経験、日本の未来－」
開 催 日　9月20日
開催場所　立命館大学 衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム
主　　催　独立行政法人国立文化財機構
共　　催　立命館大学 歴史都市防災研究所
参加者数　62人
事業内容　海外での文化遺産防災に関する研究や実践的な取り組みを経験した国内外の専門家及び日本におけるこれからの文化遺産防災を担う専門家を招聘し、地域の住民や、行政、専門家が共に取り組む文化遺産防災について考えるシンポジウムを開催した。

○シンポジウム「文化財を守り伝える1　文化財の保存と修理」
開 催 日　10月27日
開催場所　けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）2階 ミュージアムホール
主　　催　京都国立博物館
後　　援　京都府、木津川市、精華町
参加者数　120人
事業内容　文化財等の防災・減災の取り組みに関して広く地域市民に理解してもらうことを目的として、「文化財の保存と修理」をテーマとしたシンポジウムを開催した。

○文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム「地域防災と文化財－自然災害を知り、地域の貴重な文化的資源を守り、伝える」
開 催 日　31年2月10日
開催場所　京都国立博物館 平成知新館 講堂

主　　催	独立行政法人国立文化財機構
後　　援	京都市、朝日新聞社
参加者数	83人
事業内容	「地域の文化財－文化的資源」に焦点を当て、地域防災の考え方、地域の取り組み、地域にとっての文化財の意味と文化財が未来に果たす役割、という講演テーマでシンポジウムを開催した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

平成 31 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
408件	259件	126件	57 件	37 件	39 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	146 件	42 件	104 件	0 件	
	本部文化財活用センター		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	3 件		0 件		

【本部文化財活用センター】3件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　2 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	本部文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人	細田守　ミライをひらく創作のひみつ	単著	美術出版社	7月20日	無
2	同上	本部文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人	細田守作品の魅力ー日本絵画史の先端にあるアニメーション	北陸中日新聞	北陸中日新聞	31年3月9日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	光による資料への影響の抑制と白色 LED 展示照明の現状について	文化財の虫菌害 No.76 平成 30 年 12 月号	文化財虫菌害研究所	12月26日	無

【東京国立博物館】126件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　108件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	学芸企画部長　富田淳	南北朝時代の書　東晋から唐への架け橋	王羲之書法の残影ー唐時代への道程ー	公益財団法人台東区芸術文化財団	31 年 1 月 2 日	無
2	同上	学芸企画部長　富田淳	唐太宗の王羲之崇拝	同上	同上	同上	無
3	同上	学芸企画部長　富田淳	顔真卿与唐代書法	典蔵	典蔵芸術家庭股份有限公司	31 年 1 月	無
4	同上	学芸企画部長　富田淳	唐代書法的閃耀之星　書聖之後書法特展紹介	同上	芸術時装雑誌社	31 年 2 月 1 日	無
5	同上	学芸企画部長　富田淳	東京国立博物館における阿部コレクション受贈の経緯について	平成 30 年度特集展示「生誕 150 周年記念 阿部房次郎と中国書画」開催記念国際シンポジウム報告書 阿部コレクションの諸相ー文化的意義とその未来	大阪市立美術館	31 年 3 月 31 日	無
6	同上	企画課特別展示室主任研究員　井出浩正	縄文造形の背景を考える	特別展「縄文—1 万年の美の鼓動」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	7 月 3 日	無
7	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「墨梅図　伝王冕筆」ほか　作品解説 11 件	明治 150 年記念特別展「オークラコレクション」図録	西日本新聞社、TVQ 九州放送	10 月 2 日	無
8	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「仇英筆「金谷園・桃李園図」と明代蘇州の庭園雅集文化」	『東アジアの庭園表象とコスモロジー—都市・建築・美術の視点から』	昭和堂	31 年 3 月 30 日	無
9	同上	企画課国際交流室専門職 ミウォシュ・ヴォズニ	曾我蕭白筆「群仙図屏風」および「林和靖図屏風」の図像を巡る考察	『MUSEUM』674 号	東京国立博物館	6 月 15 日	有
10	同上	博物館教育課長　伊藤信二　ほか外部研究者	年記銘を有する銅製金工品の蛍光エックス線分析調査	学叢　第 40 号	京都国立博物館	5 月 25 日	無
11	同上	博物館教育課長　伊藤信二	平安時代、鎌倉時代の繍仏	特別展「糸のみほとけ」図録	奈良国立博物館	7 月 1 日	無
12	同上	博物館教育課長　伊藤信二	金工の日本美術史	『教養の日本美術史』	ミネルヴァ書房	31 年 3 月 31 日	無
13	同上	博物館教育課教育講座室長丸山猶計	坂本コレクション　書跡	『目の眼』9 月号	株式会社 目の眼	8 月 16 日	無
14	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	円珍と書「充内供奉治部省牒」	『ビオ・シティ』75 号	ブックエンド	7 月 3 日	無
15	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	藤原行成の書 3　藤原行成の書の伝称と安宅切	『正筆』1029 号	正筆会	9 月 1 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
16	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	円珍と書「福州都督府公験」	『ビオ・シティ』76 号	ブックエンド	10 月 1 日	無
17	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	円珍と書「讃岐国司解」（藤原有年申文）	『ビオ・シティ』77 号	ブックエンド	31 年 1 月 7 日	無
18	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	中国の書と日本の書	『別冊太陽』270 号	平凡社	31 年 2 月 22 日	無
19	同上	学芸研究部長　田沢裕賀	江戸という時代の絵画	「江戸絵画名品展」図録	ロシア・プーシキン美術館	8 月 13 日	無
20	同上	列品管理課長　救仁郷秀明	深く知る雪舟と等伯―「水墨の風」展の魅力―	『出光美術館館報』184 号	出光美術館	8 月 31 日	無
21	同上	列品管理課長　救仁郷秀明	隠遁の造形―中国と日本	『美術フォーラム 21』38 号	美術フォーラム 21	11 月 30 日	有
22	同上	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長） 小山弓弦葉	日本におけるタイ向け輸出用更紗に関する一試論	アジア仏教美術論集　東南アジア編	中央公論美術出版	31 年 2 月 28 日	無
23	同上	列品管理課登録室研究員 六人部克典	南朝皇帝の二王書跡への眼差し	『王羲之書法の残影―唐時代への道程―』	公益財団法人台東区芸術文化財団	31 年 1 月 2 日	無
24	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 田邊留美子	三条西家本狭衣物語 注釈	共著	勉誠出版	31 年 2 月 28 日	無
25	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	歌川国芳画「猫のすゞみ」ほか　作品解説 45 件	展覧会図録『江戸の戯画―鳥羽絵から北斎・国芳・暁斎まで』	大阪市立美術館、毎日新聞社、MBS	4 月 16 日	無
26	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	「《紋画帖》に貼り込まれた版本について」	『河鍋暁斎研究誌　暁斎』 第 126 号	河鍋暁斎記念美術館	5 月 26 日	無
27	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	「新出の浅山芦国筆『芝翫帖』について　―絵師、書肆、歌右衛門贔屓としての芦国に着目して―」	『国際浮世絵学会会誌 浮世絵芸術』第 176 号	国際浮世絵学会	7 月 20 日	有
28	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曽田めぐみ	コラム「あつめてまなぶ　―暁斎旧蔵の古画について」 河鍋暁斎「花鳥図」ほか、作品解説 5 件	展覧会図録『河鍋暁斎 その手に描けぬものなし』	サントリー美術館	31 年 2 月 6 日	無
29	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	「浅草寺の僧形像と中国・唐代の関連作品」ほか、作品解説 42 件	『浅草寺什宝目録』1 巻	金龍山浅草寺	7 月 18 日	無
30	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	滋賀・櫟野寺の沿革と本尊十一面観音菩薩坐像	『MUSEUM』675 号	東京国立博物館	8 月 15 日	有
31	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	「薬師如来とその仲間たち」	『大法輪』86-3 号	大法輪閣	31 年 3 月 1 日	無
32	同上	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造	作品解説	特別展「縄文―1 万年の美の鼓動」図録	NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社	7 月 3 日	無
33	同上	調査研究課長　今井敦	伊賀耳付花生	『茶道の研究』5 月号	三徳庵	5 月 25 日	無
34	同上	調査研究課長　今井敦	備前反鉢	『茶道の研究』9 月号	同上	9 月 25 日	無
35	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	Japanese Art in the Age of Discoveries at the Kyushu National Museum'	The Oriental Ceramic Society Newsletter No.26	The Oriental Ceramic Society	5 月	無
36	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	大洪水図屏風	『国華』1475 号	国華社	9 月 20 日	無
37	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	日本経済新聞：美の十選「大航海時代の絵画」	日本経済新聞社 朝刊	日本経済新聞社	11 月 9 日～27 日（全 10 回）	無
38	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	「平成の大嘗会屏風」	特別展御即位 30 年記念「両陛下と文化交流―日本美を伝える―」図録	読売新聞社、東京国立博物館、宮内庁、文化庁	31 年 3 月 5 日	無
39	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	「『屏風土代』と唐絵屏風」	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―」図録	読売新聞社、東京国立博物館、宮内庁、文化庁	31 年 3 月 5 日	無
40	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	「沈南蘋筆《海棠白頭翁・萱草百合図》小考―その表現と図様の伝播について―」	『東風西声』14 号	九州国立博物館	31 年 3 月 29 日	無
41	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	平安時代前期の「所（ところ）」と造像	平成 30 年度『仏教美術研究上野記念財団　研究発表と座談会』報告書	京都国立博物館	31 年 3 月 31 日	無
42	同上	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	《調査報告》東京国立博物館所蔵の金銅菩薩半跏像―成分分析と技法を中心に―	『MUSEUM』673 号	東京国立博物館	4 月 15 日	有
43	同上	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	天寿国繡帳の世界	特別展「糸のみほとけ」図録	奈良国立博物館	7 月 14 日	無
44	同上	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	特別座談会　美術工芸としての人形（前編）	にんぎょう日本	にんぎょう日本	11 月 1 日	無
45	同上	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	特別座談会　美術工芸としての人形（後編）	同上	同上	12 月 1 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
46	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	長谷寺　千仏多宝仏塔考	『東アジアⅡ（隋・唐）』	中央公論美術出版	31年3月28日	無
47	同上	調査研究課考古室長 品川欣也	東京国立博物館特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	陶説	公益社団法人日本陶磁協会	7月1日	無
48	同上	調査研究課考古室長 品川欣也	「縄文―1万年の美の鼓動」	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	7月3日	無
49	同上	調査研究課考古室長 品川欣也	ミュージアムへ行こう　東京国立博物館　特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	理大　科学フォーラム	東京理科大学	8月	無
50	同上	調査研究課考古室長 品川欣也	La beauté plastique des poteries de Jômon	Jômon - Naissance de l'art dans le Japon préhistorique Catalogue	Maison de la Culture du Japon à Paris	10月17日	無
51	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓	「山陽西部」「農工漁具」	前期古墳編年を再考する	六一書房	6月4日	無
52	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓	集安の遺跡と東アジアの積石塚	明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本	八木書店	31年3月25日	無
53	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	飛鳥・藤原地域の古式土師器	古墳出現期土器研究第5号	古墳出現期土器研究会	10月25日	有
54	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮　ほか外部研究者	山田道の調査	奈良文化財研究所紀要（2018）	奈良文化財研究所	8月25日	無
55	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	前期古墳の土器と埴輪の系譜	季刊考古学別冊26	雄山閣	6月30日	無
56	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	大型壺からみた遠賀川式の近畿地方への定着過程とその特質	初期農耕活動と近畿の弥生社会	雄山閣	5月27日	無
57	同上	調査研究課考古室研究員 山本亮	長岡京跡右京第1176次（7ANBSM-10地区）五塚原古墳第10次（4PFBSM-10地区）～右京一条二坊八町、後円部墳頂～発掘調査概要	向日市埋蔵文化財調査報告書第112集	向日市教育委員会、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター	31年3月30日	無
58	同上	調査研究課考古室アソシエイトフェロー　飯田茂雄	作品解説	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」図録	NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	7月3日	無
59	同上	調査研究課東洋室長 勝木言一郎	インドの細密画	東京国立博物館図版目録インド細密画篇	東京国立博物館	5月31日	無
60	同上	調査研究課東洋室長 勝木言一郎	ハッダ遺跡出土如来頭部レプリカ	ハッダ遺跡出土如来頭部レプリカ	一般財団法人東京国立博物館協力会	31年3月15日	無
61	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁　ほか外部研究者	日本における中国考古学関係文献目録（2017年）	中国考古学　第18号	日本中国考古学会	12月21日	無
62	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁、学芸研究部特任研究員　谷豊信　ほか外部研究者	図版目録　東洋古鏡篇	図版目録　東洋古鏡篇	東京国立博物館	31年3月29日	無
63	同上	調査分析室長　荒木臣紀、同研究員　宮田将寛、保存修復室長　土屋裕子、同研究員　野中昭美、同研究補佐員　本茉梨絵　土屋良子、　ほか外部研究者	津波で被災した文化財の安定化処理の現状と課題―東京国立博物館が取り組む安定化処理仕様の模索―	文化財保存修復学会第40回大会学会誌	文化財保存修復学会	6月16日	無
64	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー 黄川田翔	文化財防災ネットワーク推進事業の現況　―関東甲信越地方での活動状況について―	地方史研究	地方史研究協議会	31年2月1日	無
65	同上	保存修復課保存修復室長 土屋裕子	高潮に遭った坂田画伯のカンバス画	オマージュ　坂田一男 SAKATA　第7号	坂田一男研究会	4月20日	無
66	同上	保存修復課保存修復室長土屋裕子、同研究員　野中昭美、同研究補佐員　本茉梨絵　土屋良子、調査分析室研究員　宮田将寛　ほか外部研究者	津波で被災した漆工芸品の脱塩処置方法の考察	文化財保存修復学会第40回大会学会誌	文化財保存修復学会	6月16日	無
67	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	コラム解説「祈る普賢」他1件、作品解説「聖徳太子絵伝」他12件	特別展「名作誕生―つながる日本美術」図録	朝日新聞社	4月13日	無
68	a.特別調査「法隆寺献納宝物」（第40次）	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	解説文	『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXIX 文王呂尚・商山四皓図屏1』	東京国立博物館	31年3月29日	無
69	仏教美術等の光学的手法による共同研究	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	平安仏画の地層学	『国宝　平安仏画　光学調査報告書』	同上	31年3月28日	無
70	「上杉家伝来の能面・能装束」ほか特集に関連する調査研究	企画課長　浅見龍介、博物館教育課教育普及室研究員　川岸瀬里、列品管理課登録室長（兼特別観覧室長）　小山弓弦葉	上杉家伝来の能面・能装束	上杉家伝来の能面・能装束	同上	31年1月29日	無
71	特集「京都御所 飛香舎（藤壺）の調度」に関連する調査研究	企画課特別展示室主任研究員　猪熊兼樹	特集「京都御所 飛香舎（藤壺）の調度」	特集陳列リーフレット	東京国立博物館	10月2日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
72	特集「白磁の誕生と展開」に関連する調査研究	列品管理課平常展調整室主任研究員　三笠景子	白磁水注、白磁円硯、白磁杯作品解説	『常盤山文庫中国陶磁研究会会報７　初期白磁』	常盤山文庫	12 月 14 日	無
73	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	国宝　大報恩寺本堂の仏後壁画－霊鷲山説法の立体曼荼羅－	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」図録	読売新聞社	10 月 2 日	無
74	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	北野経王堂の変遷－大報恩寺六観音像の移座をめぐって－	同上	同上	同上	無
75	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員　西木政統	コラム「十大弟子の役割―釈迦の実在性を求めて」「<仏師紹介>快慶―工房制作の観点から」「六観音とその願意―六道からの救済」ほか、作品解説１件	同上	同上	同上	無
76	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	行快　その作例と作風の変遷	同上	同上	同上	無
77	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　皿井舞	大報恩寺の創建と慶派仏師の競演	同上	同上	同上	無
78	特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」に関連する調査研究	広報室長　鬼頭智美	フィラデルフィア美術館と東京国立博物館	展覧会図録　「東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展マルセル・デュシャンと日本美術　デュシャンの向こうに日本がみえる。」	東京国立博物館	10 月 1 日	無
79	特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」に関連する調査研究	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	「草虫図の伝統と斉白石」「斉白石の目がとらえた水中の生き物たち」	『中国近代絵画の巨匠　斉白石』	広西美術出版社	10 月	無
80	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」に関連する調査研究	学芸企画部長　富田淳	顔真卿と祭姪文稿、李宗瀚の四宝、唐太宗の王羲之愛好、祭姪文稿とは	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」展図録	毎日新聞社	31 年 1 月 16 日	無
81	同上	企画課出版企画室研究員　植松瑞希	「九成宮図巻　仇英款」ほか作品解説４件	同上	同上	同上	無
82	特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」に関連する調査研究	列品管理課登録室研究員　六人部克典	帖学派から碑学派へ、作品解説「行書三帖巻」ほか計 18 件	同上	同上	同上	無
83	同上	列品管理課登録室研究員　六人部克典	神話となった王羲之、唐―豊穣な書の美が花開く、唐の書の特徴―楷書の完成と新しい表現へ、拓本	『別冊太陽』270 号	平凡社	31 年 2 月 22 日	無
84	特別展「国宝 東寺-空海と仏像曼荼羅」に関連する調査研究	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	十二天画像の変遷―国宝「十二天屏風」と詫磨勝賀―	特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」展図録	東京国立博物館	31 年 3 月 26 日	無
85	同上	博物館教育課長　伊藤信二	東寺の閼伽器について	特別展「国宝 東寺-空海と仏像曼荼羅」展図録コラム	東京国立博物館	31 年 3 月 26 日	無
86	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	作品解説	特別展「国宝　東寺―空海と仏像曼荼羅」展図録	東京国立博物館	31 年 3 月 26 日	無
87	特別展「三国志」に関連する調査研究	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	曹魏の鮮卑頭と郭落帯	古代文化　第 70 巻第 4 号	古代学協会	31 年 3 月 29 日	有
88	博物館環境デザインに関する調査研究	列品管理課平常展調整室長　木下史青　ほか外部研究者	「美術品を照らす次世代の光」（照明デザインのさらなる地平をめざして～研究者と照明デザイナーが語る光のスペクトル）	照明学会誌 2018 Vol.102 NO.5	一般社団法人照明学会	6 月 1 日	無
89	同上	列品管理課平常展調整室長　木下史青	「展示照明・効果」（6 章　展示のテクニック）	展示学事典	丸善出版	31 年 1 月 1 日	無
90	日本染織コレクションの形成とその美術的価値の確立に関する研究（科学研究費助成事業）	列品管理課登録室長（兼特別観覧室長） 小山弓弦葉	染織コレクションの歴史	『目の眼』10 月号（No.505）	株式会社　目の眼	9 月 15 日	無
91	中世律宗絵画の基礎的研究（科学研究費助成事業）	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	雪舟筆「天橋立図」の事情	『美術フォーラム 21』第 38 号	醍醐書房	11 月 30 日	無
92	同上	保存修復課保存修復室主任研究員　瀬谷愛	作品解説「四一九 聖徳太子像 東京国立博物館」	『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代造像銘記篇十五』	中央公論美術出版	31 年 2 月 25 日	無
93	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究（科学研究費助成事業）	調査研究課考古室研究員　河野正訓	船来山 24 号墳の農工具について	本巣市船来山 24 号墳 東京国立博物館所蔵資料の調査	本巣市教育委員会	31 年 3 月 18 日	無
94	同上	調査研究課考古室研究員　河野正訓	金井東裏遺跡の農工具	金井東裏遺跡―古墳時代編―	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	31 年 3 月 31 日	無
95	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	藤原伊房筆　藍紙本万葉集	『ビオ・シティ』74 号	ブックエンド	4 月 7 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
96	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究（科学研究費助成事業）	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と解題	『美術研究』425 号	東京文化財研究所	7 月 2 日	無
97	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	自画賛　藤村庸軒筆	『茶道の研究』755 号	三徳庵	10 月 25 日	無
98	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	書状　千利休筆	『茶道の研究』757 号	同上	12 月 25 日	無
99	インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究（科学研究費助成事業）	学芸研究部上席研究員 河野一隆	2017 年の考古学会の動向　古墳時代（九州）	『考古学ジャーナル』 第 713 号	ニューサイエンス社	5 月 31 日	無
100	同上	学芸研究部上席研究員 河野一隆	展示批評　世界の眼で見る古墳文化	『歴博』第 209 号	国立歴史民俗博物館	7 月 20 日	有
101	同上	学芸研究部上席研究員 河野一隆	沖ノ島の歴史	『季刊考古学・別冊』 世界のなかの沖ノ島	雄山閣	11 月 25 日	無
102	同上	学芸研究部上席研究員 河野一隆	装飾古墳の起源	『季刊　邪馬台国』 装飾古墳の世界	梓書院	12 月 1 日	無
103	同上	学芸研究部上席研究員 河野一隆	弥生・古墳時代の経済史と九州－百済の交流	日本の中の百済 九州地域	忠南歴史文化研究院	12 月 15 日	有
104	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究（科学研究費助成事業）	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	家凞の彩った「予楽院表具」	『なごみ』466 号	淡交社	10 月 1 日	無
105	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	「古筆手鑑（第三類）」の内容紹介と考察 －近衛家凞との関係から－	三の丸尚蔵館年報・紀要 24 号	宮内庁三の丸尚蔵館	31 年 3 月 29 日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　18件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	博物館における文化財の展示環境と保存技術	空気調和・衛生工学, 92(5)	空気調和・衛生工学会	5月5日	有
2	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	東京国立博物館における虫菌害予防と光の演出効果、展示室内の環境保全について	第 40 回文化財の虫菌害・保存対策研修会テキスト	文化財虫菌害研究所	7月5日	無
3	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩　ほか外部研究者	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究－生物劣化のリスク評価を用いた数値解析による環境調整方法の検討－	日本文化財科学会第 35 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月7日	無
4	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	東京国立博物館における展示ケースの製作事例からみた展示環境保全の取組み	文化財の虫菌害 76 号	文化財虫菌害研究所	12月1日	無
5	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	5-1-4 文化財	新包装技術便覧(第 8 編 5 輸送包装設計技法)	日本包装技術協会	31年2月28日	無
6	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	保存修復課環境保存室長 和田浩	美術品輸送専用車両の荷台上で発生する振動レベルの分布	文化財保存修復学会第 40 回大会 研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月17日	無
7	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	RO-RO 船による文化財輸送における乗下船時の振動環境	日本文化財科学会第 35 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月7日	無
8	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	美術品輸送専用車両を用いた文化財の低速走行輸送時の環境について	日本包装学会第 27 回年次大会研究発表会予稿集	日本包装学会	7月12日	無
9	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	RO/RO 船の乗下船時に美術品輸送専用車両の荷台上で発生する振動について	日本包装学会誌 27(4)	同上	8月1日	有
10	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	美術品輸送専用車両荷台上での振動に対する高速道路橋梁部伸縮継手の影響に関する研究	日本包装学会誌 27(4)	同上	8月1日	有
11	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩　ほか外部研究者	文化財梱包の緩衝材に用いられるポリエチレンフォーム材の振動特性評価に関する研究	日本包装学会誌 27(5)	同上	10月1日	有
12	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	実輸送データをフィードバックした文化財包装への取り組み	実務者のための力学的輸送包装設計ハンドブック（第 5 章第 3 節）	テクノシステム	10月23日	無
13	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課長　田良島哲	博物館における画像情報の蓄積と活用－東京国立博物館の事例から－	コンピュータ＆エデュケーション No.44	コンピュータ利用教育学会	6月1日	有
14	同上	博物館情報課情報管理室長　村田良二	博物館の目録記述を再考する時期に来ている	人文情報学月報　第 84 号 2018	人文情報学研究所	7月30日	無
15	同上	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	INFORMATION TECHNOLOGY WORKSHOP FOR SMALL CULTURAL INSTITUTIONS IN JAPAN	Integrated Studies of Cultural and Research Resources	National Museum of Japanese History	31年3月21日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
16	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報資料室員　住廣昭子	ミュージアム・ライブラリーにおける館蔵文化財情報と文献情報の関連付けについて―東京国立博物館資料館の試み	アート・ドキュメンテーション学会 2018 年度秋季研究会予稿集	アート・ドキュメンテーション研究会	10月13日	無
17	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員 遠藤楽子	東京国立博物館総合文化展における「東京国立博物館所蔵湿板写真ガラス原板に関する基礎的研究」（拠点一般共同研究）の成果紹介	東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信 84 号	東京大学史料編纂所	31年1月1日	無
18	博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築（科学研究費助成事業）	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	Cultural Value Chain Analysis —— 視野の拡大と共有	Artefact 02	慶應義塾大学アート・センター 都市のカルチュラル・ナラティヴプロジェクト	31年3月20日	無

【京都国立博物館】57件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　55件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	特任研究員 山本英男	「巌樹遊猿図屏風　式部輝忠筆」（名品に咲く華）	華道	日本華道社	5月	無
2	同上	上席研究員 宮川禎一	「近年収蔵された考古遺物」	学叢 39	京都国立博物館	5月	無
3	同上	工芸室長　山川曉	「第２章　染織」	『愛知県史　別編　文化財５　工芸』169-199、204-219 頁	愛知県	9月	無
4	同上	工芸室長　山川曉	作品解説	『大徳寺龍光院　国宝窯変天目と破草鞋』（展覧会図録）75、97、	MIHO MUSEUM	31年3月	無
5	同上	保存修理指導室長 大原義豊	「シーギリヤ壁画模写　杉本哲郎筆」（名品に咲く華）	『華道』	日本華道社	6月	無
6	同上	美術室長　羽田聡	「博物館・美術館コレクションクローズアップ　京都国立博物館」	『大東書道』583	大東文化大学書道研究所	6月20日	無
7	同上	美術室長　羽田聡	「天皇の書　宸翰 10 選」	『芸術新潮 2018 年 7 月号天皇と美術』	新潮社	6月25日	無
8	同上	美術室長　羽田聡	「「筑後切」のゆくえ」	『清風会々報』191	一般社団法人清風会	7月25日	無
9	同上	連携協力室長　淺湫毅	英彦山中興法蓮上人の肖像について	『仏教文学』４３	仏教文学会・法蔵館	4月	無
10	同上	連携協力室長　淺湫毅	阿弥陀如来立像　知恩寺蔵	『なにわ』９月号	大阪府警察	8月	無
11	同上	連携協力室長　淺湫毅	似てるかどうか、それが問題だ。	『総人・人環広報』６１	京都大学総合人間学部／人間・環境学研究科	10月	無
12	同上	連携協力室長　淺湫毅 （池田素子氏と共著）	新町地蔵保存会・地蔵菩薩坐像の複製製作　―科学機器と伝統技術の融合による文化財保護の試み―	『学叢』４０	京都国立博物館	5月	無
13	同上	保存科学室長 降幡順子	「古代寺院関連遺跡出土銅製品の非破壊調査」	『奈良文化財研究所紀要 2018』	奈良文化財研究所	6月30日	無
14	同上	保存科学室長　降幡順子 （伊藤信二氏共著）	「年記銘を有する銅製工芸品の蛍光エックス線分析調査」	『学叢』第 40 号	京都国立博物館	5月25日	無
15	同上	教育室長　永島明子	「名品に咲く華　月次の行事とともに描かれた植物」	『華道』80―12	日本華道社	11月20日	無
16	同上	考古室主任研究員 古谷 毅	『埴輪集成図鑑』の研究（一）	『学叢』第 40 号	京都国立博物館	5月27日	無
17	同上	考古室主任研究員 古谷 毅	高松塚古墳壁画と古代国家の誕生 ―古墳時代から律令国家へ―	『平成 30 年度京都国立博物館第 85 回夏期講座 -名品を旅するⅢ-』要旨集	同上	7月28日	無
18	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	考古室主任研究員 古谷 毅	三次元計測・Ｘ線ＣＴ調査と古墳時代甲冑研究の課題	『Ｘ線ＣＴ調査による古墳時代甲冑の研究』（科学研究費 基盤研究Ｂ 平成二六～二九年度　Ｘ線ＣＴ調査による古墳時代甲冑のデジタルアーカイブおよび型式学的新研究：研究代表者 橋本達也）	鹿児島大総合研究博物館	12月25日	無
19	同上	考古室主任研究員 古谷 毅	古墳時代社会の空間構成（覚書）－いわゆる居宅の歴史的位置－」	磨斧作針-橋本博文先生退職記念論集-』橋本博文先生退職記念事業実行委員会編	六一書房	31年3月20日	無
20	同上	考古室主任研究員 古谷 毅	考古資料から見た弥生～古墳時代出雲地方の特質－形成と領域－	黄泉国訪問神話と古墳時代出雲の葬制-考古学・地質学・歴史学のコラボレーション-』（山陰研究ブックレット 8）	島根大学法文学部山陰研究センター	31年3月29日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
21	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「陳老蓮画蘇長公像」について：長尾雨山関係資料のなかから	『山本竟山の書と学問：湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク』展図録	関西大学博物館	4月	無
22	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「（動向）美術」	『中国年鑑２０１８』	中国研究所	5月	無
23	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「名宝を受け継ぐ」	『百萬遍知恩寺の名宝』リーフレット	京都国立博物館	8月	無
24	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「長尾雨山与海上文人的交往」	『使節･海商･僧侶：近世東亜文化意象伝衍過程中的中介人物』国際学術研討会予稿集	中央研究院中国文哲研究所	8月	無
25	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「向上看的鷹：以斉白石画鷹談起」（中国語）	『中国近代絵画の巨匠：斉白石』	広西美術出版社	10月	無
26	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「上見る鷹：斉白石の鷹図をめぐって」	同上	同上	同上	無
27	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	「須磨収蔵与森岡収蔵：京都国立博物館蔵斉白石作品」（中国語：王怡文訳）	『典蔵：古美術』第 314 期	典蔵芸術家庭股份有限公司	11月	無
28	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	京都国立博物館須磨コレクション図版目録　中国近代絵画１　斉白石	京都国立博物館須磨コレクション図版目録　中国近代絵画１　斉白石	中央公論美術出版	31年3月	無
29	同上	列品管理室主任研究員 呉孟晋	東洋のセザンヌ：須磨弥吉郎がみた斉白石	同上	同上	31年3月	無
30	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「特集　池大雅」	『聚美』27 号	聚美社	4月	無
31	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「池大雅筆　洞庭赤壁図巻」	『なにわ』4 月号	大阪府警察	4月	無
32	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「池大雅筆　楓林停車図」	『小原流挿花』4 月号	いけばな小原流	4月1日	無
33	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「池大雅―友と旅と風景の画家」	『特別展　池大雅―天衣無縫の旅の画家』	京都国立博物館	4月7日	無
34	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	作品解説	同上	同上	同上	無
35	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「池大雅筆　瀟湘勝概図屏風」	『読売新聞』4 月 24 日	読売新聞社	4月24日	無
36	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「池大雅筆　三岳紀行図屏風」	『読売新聞』4 月 25 日	同上	4月25日	無
37	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「池大雅・与謝蕪村筆　十便十宜図」	『読売新聞』4 月 27 日	同上	4月27日	無
38	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「池大雅筆　瀟湘勝概図屏風」	『なにわ』5 月号	大阪府警察	5月	無
39	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「長澤蘆雪筆　人物鳥獣画巻」	『國華』1473 号	國華社	7月20日	有
40	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「俵屋宗達筆　蓮池水禽図」	『池坊　華道』10 月号	青龍社	8月20日	無
41	同上	保存修理指導室研究員 福士雄也	「渡辺始興筆　四季花木図屏風」	『池坊　華道』1 月号	同上	12月15日	無
42	同上	企画室研究員 井並林太郎	「伊勢物語絵巻」	『なにわ』756 号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	5月	無
43	同上	企画室研究員 井並林太郎	「伊勢物語絵巻」	『華道』80-8	日本華道社	7月	無
44	同上	企画室研究員 井並林太郎	「画中詞の「成立」」	『説話文学研究』53 号	説話文学会	8月30日	無
45	特別展 「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」に関する調査研究	連携協力室長　淺湫毅、企画室研究員　井並林太郎、工芸室主任研究員　末兼俊彦、美術室長　羽田聡、保存修理指導室研究員　福士雄也、工芸室長　山川曉	作品解説	『京のかたな　匠のわざと雅のこころ』（展覧会図録）	読売新聞社 NHK 京都放送局 NHK プラネット近畿	9月	無
46	幕末維新史に関する調査研究	上席研究員　宮川禎一	『再考　寺田屋事件と薩長同盟―龍馬の手紙に見る幕末史―』	教育評論社	教育評論社	10月	無
47	同上	上席研究員　宮川禎一	「講演録　坂本龍馬の情報戦―薩長会談の蔭で―」	『軍事史学』53－3	錦正社	12月	無
48	陶磁に関する調査研究	工芸室研究員　降矢哲男	「名品に咲く華　黒釉刻花牡丹文瓶」	『華道』第 80 巻第 5 号	日本華道社	4月20日	無
49	同上	工芸室研究員　降矢哲男	「座敷飾りにみえる陶磁器の使用状況とその在り方について」	『家具道具室内史』第 10 号	家具道具室内史学会	5月26日	無
50	同上	工芸室研究員　降矢哲男	『中国朝鮮の陶磁器』		淡交社	9月5日	無
51	同上	工芸室研究員　降矢哲男	「粉彩松鹿図瓶　京都国立博物館」	『なにわ』１２月号	大阪府警察	11月	無
52	特集展示「美麗を極める中国陶磁」に関する調査研究	工芸室研究員　降矢哲男	「美麗を極める中国陶磁」	『陶説』第 789 号	日本陶磁協会	12月1日	無
53	同上	工芸室研究員　降矢哲男	「松井コレクションにおける中国陶磁の特徴」	『美麗を極める中国陶磁』図録	京都国立博物館	12月18日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
54	特集展示「美麗を極める中国陶磁」に関する調査研究	上席研究員　宮川貞一 連携協力室長　淺湫毅 工芸室研究員　降矢哲男	作品解説	『美麗を極める中国陶磁』図録	京都国立博物館	12月18日	無
55	博物館教育に関する調査研究	教育室研究員　水谷亜希	博物館における文化財複製活用の諸相―教育普及を中心として―	『学叢』第 40 号	京都国立博物館	5月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　2件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の保存修復に関する調査研究	学芸部長　朝賀浩	文化財修理の理念と「絹本著色十王図」の解体修理	『神奈川県立歴史博物館研究報告』45	神奈川県立歴史博物館	31 年 3 月	無
2	同上	同上	文化財の公開が可能な「環境」とは？	「京都国立博物館だより」202	京都国立博物館	31 年 3 月	無

【奈良国立博物館】37件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　35件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	学芸部長　内藤栄	日本の繡仏と織成像	『修理完成記念特別展 糸のみほとけ―国宝　綴織當麻曼荼羅と繡仏―』特別展図録	奈良国立博物館・読売テレビ・日本経済新聞社	7 月 14 日	無
2	同上	学芸部長　内藤栄	【概報】刺繡釈迦如来説法図（奈良国立博物館所蔵）の修理について	同上	同上	同上	無
3	同上	上席研究員　岩田茂樹	圓教寺奥之院　開山堂と護法堂（共著）	『圓教寺奥之院　開山堂と護法堂』	集広舎	5 月 5 日	無
4	同上	上席研究員　岩田茂樹	木造釈迦如来坐像（愛媛・出石寺）	『國華』1472	國華社	6 月 20 日	有
5	同上	上席研究員　岩田茂樹	浄土寺の彫像－重源・快慶の事績を中心に－	『播磨の国宝』	神戸新聞総合出版センター	9 月 19 日	無
6	同上	上席研究員　岩田茂樹	資料紹介　愛媛・如法寺　木心乾漆造毘沙門天立像	『MUSEUN』676	東京国立博物館	10 月	有
7	同上	工芸考古室長　清水健	春日大社――悠久の歴史と信仰の美	『創建 1250 年記念特別展 国宝 春日大社のすべて』特別展図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・ＮＨＫプラネット近畿	4 月 14 日	無
8	同上	工芸考古室長　清水健	奈良の寺院と春日信仰	同上	同上	同上	無
9	同上	工芸考古室長　清水健	能楽の広がりと春日信仰	同上	同上	同上	無
10	同上	工芸考古室長　清水健	創建 1250 年記念特別展『国宝 春日大社のすべて』（奈良国立博物館）開催の記	『春日』100	春日大社社務所	8 月	無
11	同上	教育室長　谷口耕生	春日曼荼羅の成立に関する覚書（各論）	『創建 1250 年記念特別展 国宝 春日大社のすべて』特別展図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・ＮＨＫプラネット近畿	4 月 14 日	無
12	同上	教育室長　谷口耕生	五天竺図（甲本）（グラビア解説）	『聖徳』237	聖徳宗教学部	7 月 26 日	無
13	同上	企画室長　野尻忠	鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興～覚盛の事跡を中心に	『覚盛上人 770 年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興』特別陳列図録	奈良国立博物館	30 年 2 月 8 日	無
14	同上	列品室長　吉澤悟	春日大社創建前史	『創建 1250 年記念特別展 国宝 春日大社のすべて』特別展図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・ＮＨＫプラネット近畿	4 月 14 日	無
15	同上	列品室長　吉澤悟	證玄と忍性の骨蔵器―律僧の選んだ「舎利瓶」のかたち―	『覚盛上人 770 年御忌 鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興』特別陳列図録	奈良国立博物館	30 年 2 月 8 日	無
16	同上	資料室長　宮崎幹子、列品室主任研究員　山口隆介	明治時代の興福寺における仏像の移動と現所在地について―興福寺所蔵の古写真をもちいた史料学的研究―	『MUSEUM』676	東京国立博物館	10 月	有
17	同上	資料室長　宮崎幹子、列品室主任研究員　山口隆介	なら仏像館（旧帝国奈良国立博物館本館）と日本近代建築の誕生	『なら仏像館　名品図録』	奈良国立博物館	11 月 1 日	無
18	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	綴織當麻曼荼羅の歴史―その修理と転写	『修理完成記念特別展 糸のみほとけ―国宝　綴織當麻曼荼羅と繡仏―』特別展図録	奈良国立博物館・読売テレビ・日本経済新聞社	7 月 14 日	無
19	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	仏画と繡仏の関係について（雑感）	『修理完成記念特別展 糸のみほとけ―国宝　綴織當麻曼荼羅と繡仏―』特別展図録	奈良国立博物館・読売テレビ・日本経済新聞社	7 月 14 日	無
20	同上	美術室主任研究員 斎木涼子	展示概説　おん祭と春日信仰の美術	『特別陳列　おん祭と春日信仰の美術―特集　大宿所―』特別展図録	仏教美術協会	12 月 11 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
21	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室主任研究員 中川あや	古代寺院址出土銅製品の非破壊調査	『奈良文化財研究所紀要2018』	奈良文化財研究所	6月	無
22	同上	教育室主任研究員 中川あや	出土瓦からみた春日東西塔	『創建 1250 年記念特別展国宝 春日大社のすべて』特別展図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・ＮＨＫプラネット近畿	4月14日	無
23	同上	列品室主任研究員 山口隆介	東京国立博物館所蔵の金銅菩薩半跏像―成分分析と技法を中心に―（分担執筆）	『MUSEUM』673	東京国立博物館	4月	有
24	同上	列品室主任研究員 山口隆介	古写真から読み解く興福寺旧蔵の仏たち	『興福寺仏教文化講座要旨』410	興福寺教学部	6月	無
25	同上	列品室主任研究員 山口隆介	當麻寺蔵　中将姫坐像	『國華』1476	國華社	10月	有
26	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	刺繍聖徳太子摂政像（グラビア解説）	『聖徳』236	聖徳宗教学部	5月	無
27	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	刺繍三昧耶幡（奈良国立博物館所蔵）の技法に関する試論（各論）	『修理完成記念特別展 糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繍仏―』特別展図録	奈良国立博物館	7月14日	無
28	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	杢糸で表す繍仏の表現	同上	同上	同上	無
29	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	繍仏の金具にみる工芸美	同上	同上	同上	無
30	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	概説　宝物の献納について―光明皇后による宝物献納を中心に―	『第七十一回　正倉院展』特別展図録	奈良国立博物館	10月26日	無
31	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	聖武天皇の持戒と正倉院宝物の献納	『南都佛教』100	南都佛教研究会・東大寺	12月25日	無
32	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	展覧会プレビュー　第 70 回正倉院展　70 回を迎えた正倉院展	『美術の窓』442	生活の友社	10月	無
33	同上	工芸考古室アソシエイトフェロー　田澤梓	正倉院ガラス器の故地	『史境』76	歴史人類学会	9月25日	有
34	同上	資料室長　宮崎幹子	正倉院宝物と壬申検査―写真と模写をめぐって―	『第七十一回　正倉院展』特別展図録	奈良国立博物館	10月26日	無
35	収蔵品写真・資料等の活用についての研究成果を公表する。	資料室長　宮崎幹子	美術史研究における全文情報の公開―奈良国立博物館リポジトリの公開によせて―	『アート・ドキュメンテーション通信』199	アート・ドキュメンテーション学会	10月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　2件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財保存の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	保存修理指導室長 鳥越俊行	Asssesment of Initial Colony Founding by Swarming Reproductives of the Western Drywood Termite, *Incisitermes minor*	『IOP Conference Series Earth and Environmental Science』	IOP Publishing	6月	有
2	同上	保存修理指導室長 鳥越俊行	Ｘ線ＣＴを用いた文化財の科学調査	『Milsil』66	国立科学博物館	11月	無

【九州国立博物館】　39件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	学芸部企画課主任研究員 川村佳男	響銅でつながる大宰府と東アジア	大宰府史跡発掘 50 年記念・文化交流展「たたいて削って青銅器－東アジアの響銅」関連シンポジウム「響銅でつながる大宰府と東アジア」（シンポジウムリーフレット）	大宰府史跡発掘 50 年記念・文化交流展「たたいて削って青銅器－東アジアの響銅」関連シンポジウム「響銅でつながる大宰府と東アジア」（シンポジウムリーフレット）	11月23日	無
2	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	甘木歴史資料館（前福岡県）　國生知子、筑紫野市教育委員会　小鹿野亮、学芸部博物館科学課主任研究員　志賀智史、学芸部博物館科学課　アソシエイトフェロー　大橋有佳	古文書保存基礎講座　実施成果報告　―主催者それぞれの立場から考える 12 年間の実績と課題―	東風西声　14 号	九州国立博物館	31 年 3 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
3	特別展「オークラコレクション」に関する調査研究	学芸部文化財課主任研究員 山下善也	大倉集古館の近世日本絵画	『オークラコレクション』（展覧会図録）	西日本新聞社・ＴＶＱ九州放送	10 月 2 日	無
4	同上	学芸部企画課主任研究員 川村佳男	まぼろしの清朝故宮旧蔵青銅器	同上	同上	同上	無
5	同上	学芸部長　小泉惠英	大倉集古館の東洋美術と明治という時代	同上	同上	同上	無
6	同上	学芸部文化財課登録室長川畑憲子、企画課特別展室主任研究員　川村佳男、学芸部展示課長　楠井隆志、学芸部長　小泉惠英、学芸部企画課文化交流展室研究員　酒井田千明、学芸部文化財課長　原田あゆみ、学芸部企画課特別展室研究員望月規史、学芸部企画課文化交流展室研究員　森實久美子、学芸部文化財課主任研究員　山下善也	作品解説	同上	同上	同上	無
7	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部博物館科学課 アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	沈没船から読み解く造船技術と航海	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺跡群特別研究事業第１回国際検討会　要旨集	福岡県　文化振興課 世界遺産室 宗像・沖ノ島遺産係	31 年 2 月	無

〇その他有形文化財に関連する調査研究　32件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	曾我蕭白筆　許由巣父図屏風	『國華』1470 号	國華社	4 月 20 日	無
2	同上	学芸部企画課　大澤信	高麗時代における「被帽地蔵」の図像受容に関する考察	『アジア仏教美術論集　東アジアⅣ　朝鮮半島』	中央公論美術出版	5 月	無
3	同上	学芸部文化財課資料登録室長　川畑憲子	後赤壁賦堆朱盤	『国華』第 1471 号	国華社	5 月 21 日	無
4	同上	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	曾我蕭白筆　富士三保松原図屏風	『國華』1472 号	同上	6 月 20 日	無
5	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	木材穿孔性甲虫類の食害および生態の非破壊評価	木材工業 73(7)	日本木材加工技術協会	7 月 1 日	有
6	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	竹材におけるチビタケナガシンクイ幼虫の発育および食害行動の非破壊評価	しろあり No. 170	日本しろあり対策協会	7 月 16 日	無
7	同上	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	永々の手本、国用の宝物」―孫億の花鳥図巻の伝来―	『琉球　美の宝庫』展覧会カタログ	サントリー美術館	7 月 18 日	無
8	同上	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	雪村の波―名画に挑む個性―	『特別展西湖憧憬―西湖梅をめぐる禅僧の交流と 15 世紀の東国文化―』展覧会カタログ	神奈川県立金沢文庫	9 月 21 日	無
9	同上	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	ＤＮＡから博物館資料を考える	milsil	独立行政法人国立科学博物館	11 月	無
10	同上	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	禅を見せる―室町殿会所の演出	『美術フォーラム２１』第 38 号	美術フォーラム２１	11 月 3 日	有
11	同上	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	狩野山楽筆　桃花雉子図	『國華』1477 号	國華社	11 月 20 日	無
12	同上	学芸部文化財課主任研究員　山下善也	狩野山雪筆「猿図」、その魅力と伝来	『MUSEUM』677 号	東京国立博物館	12 月 15 日	有
13	同上	学芸部企画課　松浦晃佑	口絵　太田一吉宛徳川家康書状	『日本歴史』849 号	吉川弘文館	31 年 2 月	無
14	同上	学芸部文化財課長 原田あゆみ	ドヴァーラヴァティーにおける法輪信仰と図像の展開	『アジア仏教美術論集　東南アジア』	中央公論美術出版	31 年 2 月	無
15	同上	学芸部文化財課長 原田あゆみ	琉球風俗図巻	『琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究』	思文閣出版	31 年 2 月	無
16	同上	学芸部特任研究員 臺信祐爾	シルクロード美術	読む辞典　シルクロードの世界	NHK 出版	31 年 2 月 7 日	無
17	同上	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	狩野内膳の南蛮屏風―旧川西家本の再出現をうけて―	『国華』第 1480 号	国華社	31 年 2 月 20 日	有
18	同上	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	鑑貞筆　春夏山水図屏風	同上	同上	同上	有
19	同上	学芸部文化財課主任研究員　畑靖紀	孫億と山口宗季（呉師虔）の花鳥図―館蔵品・寄託品の素材と伝来を中心に―」	『東風西声』第 14 号	九州国立博物館	31 年 3 月 31 日	無
20	同上	学芸部企画課アソシエイトフェロー　桑原有寿子	調査報告：契丹・駙馬贈衛国王墓出土染織品の調査報告	『美学論究』	関西学院大学文学部美学芸術学専修	31 年 3 月	無
21	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部企画課アソシエイトフェロー　桑原有寿子	平等院浄土院所蔵阿弥陀三尊像（伝釈迦三尊像）	『鳳翔学叢』	平等院ミュージアム鳳翔館	31 年 3 月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
22	その他有形文化財に関連する調査研究	東京文化財研究所　小峰幸夫、佐藤嘉則、（公財）日航社寺文化財保存会　原田正彦、北原博幸、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、京都大学　藤井義久	湿度制御した温風処理における殺虫効果の検証	保存科学　58 号	東京文化財研究所	31 年 3 月	有
23	同上	学芸部特任研究員 臺信祐爾	ビュールレコレクション形成の背景など	紀要『東風西声』14 号	九州国立博物館	31 年 3 月	無
24	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課 保存修復室長 志賀智史	竹松遺跡から出土した赤色顔料について	『竹松遺跡Ⅲ』	長崎県教育委員会	8 月 31 日	無
25	同上	学芸部博物館科学課 保存修復室長 志賀智史	熊本県阿蘇地域の墳墓から出土した赤色顔料について	『古墳時代阿蘇の研究』基盤研究Ｂ「阿蘇地域を中心とした古墳時代の九州島における情報伝達・文物交流の実証的研究」研究成果報告書	熊本大学杉井健准教授	31 年 3 月	無
26	同上	学芸部博物館科学課 保存修復室長 志賀智史	竹松遺跡から出土した赤色顔料について（２）	『竹松遺跡Ⅳ』	長崎県教育委員会	31 年 3 月	無
27	同上	学芸部博物館科学課 保存修復室長 志賀智史	女狭穂塚古墳から出土した赤色顔料について	『特別史跡　西都原古墳群発掘調査・保存整備概要報告書』21	宮崎県立西都原考古博物館	31 年 3 月 31 日	無
28	同上	学芸部博物館科学課　アソシエイトフェロー　大橋有佳、北九州市自然史・歴史博物館　富岡優子、学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、北九州市自然史・歴史博物館　松井和幸、北九州市市民文化スポーツ局文化企画課　立野康志郎	藕糸織仏画の科学調査	北九州市立自然史・歴史博物館研究報告　Ｂ類　歴史第 16 号	北九州市自然史・歴史博物館	31 年 3 月	無
29	同上	学芸部企画課研究員　望月規史、国立アイヌ博物館赤田昌倫、学芸部博物館科学課　アソシエイトフェロー　大橋有佳、学芸部企画課研究員　酒井田千明、野村美術館　桐山秀穂	野村美術館所蔵・南蛮毛織抱桶水指の科学分析	（野村美術館研究紀要 28 号）	野村美術館	31 年 3 月	無
30	博物館における文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子	コラム「収蔵庫の見学」	展示学事典	日本展示学会	31 年 1 月 31 日	無
31	同上	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか、国立アイヌ民族博物館設立準備室　赤田昌倫、姫路市立城郭研究室　三角菜緒、九州国立博物館名誉館員　本田光子	空調のない被災文化財の一時保管場所における様々な保管容器内の環境調査	東風西声　14 号	九州国立博物館	31 年 3 月	無
32	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討（科学研究費助成事業）	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員　秋山純子、香川県立ミュージアム高木敬子	「赤外線画像を利用した彩色材料の検討」	2017 上海国際文化遺産シンポジウム論文集	東アジア文化遺産保存学会	31 年 3 月	無

【東京文化財研究所】42件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　14件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　9件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部主任研究員　小野真由美　他	『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と外題	『美術研究』425 号	東京文化財研究所	7 月	有
2	同上	同上	『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻	同上	同上	同上	有
3	同上	文化財情報資料部研究補佐員　増田政史	中宮寺文殊菩薩立像について―戒律と春日信仰	『美術研究』426 号	同上	12 月	有
4	同上	光云大学副教授　稲葉（藤村）真以	韓国画壇の変遷	同上	同上	同上	有
5	同上	文化財情報資料部客員研究員　津田徹英	滋賀・浄厳院像　木造釈迦如来立像	同上	同上	同上	有
6	同上	中之島香雪美術館学芸部長　勝盛典子	伏彩色螺鈿再考	『美術研究』427 号	同上	31 年 3 月	有

7	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部客員研究員　田所泰	武村耕靄と明治期の女性日本画家に関する研究	『美術研究』427 号	東京文化財研究所	31 年 3 月	有
8	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	サイアム大学タイ日文化研究センター長　高田知仁	螺鈿と王権―近世近代タイ装飾美術の含意	『美術研究』究 426 号	同上	12 月	有
9	同上	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	中国における漆地螺鈿の成立と発展―螺鈿史上の古代・中世とその画期	『中国古代漆器国際学術研討会 論文稿』	上海博物館	11 月 15 日	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	江島弁財天信仰と常磐津節演奏家―浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図〉を起点に―	『桐朋学園大学研究紀要』第 44 集	桐朋学園大学	10 月 20 日	有
2	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美、無形文化遺産部客員研究員　橋本かおる	楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 2	『無形文化遺産研究報告』第 13 号	東京文化財研究所	31 年 3 月 31 日	無
3	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	箕づくり技術の継承と変容を考える―「箕サミット―編み組み細工を語る」の試み	『月刊文化財』第 4 号	文化庁	4 月 1 日	無
4	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	新湊の獅子舞～獅子絵田を中心に～	『民俗芸能』97	民俗芸能刊行委員会	11 月 25 日	有
5	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 13 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	『無形文化遺産研究報告』第 13 号	東京文化財研究所	31 年 3 月 31 日	有

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　16件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　4件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十九・巻二十）＜巻十九＞	『春日権現験記絵巻十九・巻二十　光学調査報告書』	東京文化財研究所	12 月 14 日	無
2	同上	同上	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十九・巻二十）＜巻二十＞	同上	同上	同上	無
3	同上	同上	無原罪の聖母図の光学調査結果	無原罪の聖母像ー光学調査報告書	同上	31 年 1 月 15 日	無
4	同上	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	写真からわかること	国宝平安仏画	東京国立博物館、東京文化財研究所	31 年 3 月 31 日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　12件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター生物科学研究室長 佐藤嘉則	文化財の保存技術の概説とその事例～生物劣化とその対策～	『空気調和・衛生工学』	空気調和・衛生工学会	5 月 5 日	無
2	同上	保存科学研究センター生物科学研究室アソシエイトフェロー　小峰幸夫、保存科学研究センター生物科学研究室長　佐藤嘉則　他	湿度制御した温風処理における殺虫効果判定の検証	『保存科学』	東京文化財研究所	31 年 3 月 31 日	有
3	同上	保存科学研究センター生物科学研究室アソシエイトフェロー　小峰幸夫	歴史的木造建造物におけるチビケカツオブシムシの発生	『都市有害生物管理』	都市有害生物管理学会	12 月 20 日	有
4	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター保存環境研究室　吉田直人他	History of Environmental Inspection of Museums When Borrowing Objects Designated as Important Cultural Properties of Japan	『Preprints of IIC Turin Congress　2018』	International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works	9 月	有
5	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘、文化財情報資料部専門職員　城野誠治	国宝日月式山水図の蛍光 X 線分析	『保存科学』第 58 号	東京文化財研究所	31 年 3 月	有
6	同上	保存科学研究センター客員研究員　古田嶋智子、保存科学研究センター分析科学研究室長　犬塚将英	桐箱、キリ材から放散する化学物質とその影響	同上	同上	同上	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター修復計画研究室長 朽津信明	日本における石碑保存の歴史的事例とその考え方	『保存科学』第 58 号	東京文化財研究所	31 年 3 月	有
8	同上	保存科学研究センター修復計画研究室長　朽津信明　他	Simple Evaluation of the Degradation State of Cultural Heritage Based on Multi-view Stereo.Simple Evaluation of the Degradation State of Cultural Heritage Based on Multi-view Stereo.	『Progress in Earth and Planetary Science』2019 6:12 号	Springer Natue	31 年 2 月	有
9	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター修復材料研究室研究員　倉島玲央　他	ミャンマー漆と日本漆の塗膜硬さに関する定量的評価	『保存科学』第 58 号	東京文化財研究所	31 年 3 月	有
10	同上	保存科学研究センター修復材料研究室アソシエイトフェロー　藤井佑果　他	文化財への適用を目的とした有機溶媒を含むゲルクリーニングの方法の検討	同上	同上	同上	有
11	同上	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子　他	画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蛹方法の影響　―大和文華館所蔵作品調査データを含めて―	同上	同上	同上	有
12	同上	保存科学研究センター修復材料研究室客員研究員宇高健太郎、保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子	膠の性状と湿熱劣化処理の影響に関する研究	同上	同上	同上	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　11件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　11件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	保存修復技術の国際的応用に関する研究	Department of Basic Sciences and Fundamentals, University of Urbino, Urbino・Maria Letizia Amadori 2 Department of Chemistry, University of Milan, Milan・Paola Fermo、文化遺産国際協力センター研究員　前川佳文　他	Integrated scientific investigations on the constitutive materials from Me-taw-ya Temple, Pagán Valley, Burma (Myanmar)	『Journal of the International Measurement Confederation, Volume 131』	ELSEVIER	31 年 1 月 1 日	有
2	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　間舎裕生	カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院の歴史的変遷	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会	9 月 4 日	有
3	同上	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教森朋子、神戸芸術工科大学教授　西村幸夫	コカナにおける伝統的建造物の復興の実態(被災後　2　年半)―2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 8―	同上	同上	同上	有
4	同上	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程　濵田愛、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程　永門航、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教　森朋子、神戸芸術工科大学教授　西村幸夫	カトマンズ盆地内ネワール集落における伝統的町並みの残存状況―2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける震災状況調査報告 その 9―	同上	同上	同上	有
5	同上	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程　永門航、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程　濵田愛、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教　森朋子、神戸芸術工科大学教授　西村幸夫	カトマンズ盆地内ネワール集落における伝統的空間構造の特徴分析― 2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その 10 ―	同上	同上	同上	有
6	文化遺産保護国際貢献事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭、金沢工業大学建築学部建築学科講師　佐藤弘美、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　マルティネス・アレハンドロ	2016 年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害及び構造的特徴　(その 1) バガン遺跡群の文化遺産建造物における地震被害の概要	同上	同上	同上	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
7	文化遺産保護国際貢献事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士前期課程　川島康生、八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭、金沢工業大学建築学部建築学科講師　佐藤弘美、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェローマルティネス・アレハンドロ、首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子	2016 年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴　（その 2）常時微動計測に基づく振動特性の把握	『日本建築学会大会学術講演梗概集』	日本建築学会	9 月 4 日	有
8	同上	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士後期課程　陳昕岩、香川大学工学部安全システム建設工学科准教授　宮本慎宏、首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子、東京大学生産技術研究所教授　腰原幹雄	2016 年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴　（その 3）煉瓦プリズムと目地モルタルの材料試験	同上	同上	同上	有
9	同上	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子、首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士後期課程　陳昕岩、八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭	2016 年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴　（その 4）煉瓦ユニットの圧縮試験	同上	同上	同上	有
10	同上	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子、八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭、金沢工業大学建築学部建築学科講師　佐藤弘美、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　マルティネス・アレハンドロ	Seismic Damage and Vibration Properties of Cultural Heritage Buildings in Bagan Archaeological Zone, Myanmar	『Proceeding of 6th International Conference on Heritage and Sustainable Development』	Green Lines Institute for Sustainable Development	6 月	有
11	同上	首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域准教授　多幾山法子、首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士後期課程　陳昕岩、元首都大学東京大学院都市環境科学研究科建築学域博士前期課程　山口あかり、ミャンマー技術者協会 Wai Yar Aung、八戸工業高等専門学校環境都市建築デザインコース准教授　金善旭、香川大学工学部安全システム建設工学科准教授　宮本慎宏、ミャンマー技術者協会 Saw Htwe Zaw、東京大学生産技術研究所教授　腰原幹雄	Material Characteristics of Masonry Wall of Cultural Heritage Buildings in Bagan Archaeological Zone, Myanmar	同上	同上	同上	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　1件

○調査研究成果の発信　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部研究員　小山田智寛　他	持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について	公開シンポジウム「人文科学とデータベース」2019 発表論文集	人文系データベース協議会	31 年 3 月 2 日	無

【奈良文化財研究所】104件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　56件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	都城発掘調査部研究員 福嶋啓人、都城発掘調査部研究員　前川歩	近世宿場町における地割の継承と変化	奈良文化財研究所紀要 2018	奈良文化財研究所	6 月	無
2	同上	文化遺産部長 島田敏男	津山市城西伝統的建造物調査	同上	同上	同上	無
3	同上	文化遺産部長 島田敏男	集落と周辺環境、集落の基本構成、敷地内の構成、建物の構成、建造物の特徴、各個解説、カインソン村の保存環境整備の方向性	昭和女子大学紀要 VOL.25 ベトナム社会主義共和国ゲアン省　カインソン集落調査報告書	昭和女子大学	11 月	無
4	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部室長　吉川聡	興福寺承仕関係文書から	奈良文化財研究所紀要 2018	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
5	同上	文化遺産部客員研究員 綾村宏	興福寺蔵『明本抄』奥書の検討	同上	同上	同上	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　51 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡整備）	文化遺産部室長 内田和伸	日本の史跡内発掘遺構の整備と活用状況	百済文化	韓国公州大学	8 月	無
2	同上	文化遺産部室長 内田和伸	史跡等を活かした地域づくり・観光振興	平成 29 年度遺跡整備・活用研究集会報告書　史跡等を活かした地域づくり・観光振興	奈良文化財研究所	12 月	無
3	同上	文化遺産部室長 内田和伸	奈良文化財研究所による特別名勝平城宮東院庭園の活用について	同上	同上	同上	無
4	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部室長 内田和伸	藤原宮朝堂院朝庭における幢幡遺構の配置と設計思想	ランドスケープ研究 80-5	日本造園学会	5 月	有
5	同上	文化遺産部アソシエイトフェロー　マレス・エマニュエル	「モネの庭」一日仏文化交流の橋渡し一	奈良文化財研究所紀要 2018	奈良文化財研究所紀要 2018	6 月	無
6	同上	文化遺産部研究員 高橋知奈津	造園古書にみる「露地・茶庭」	平成 30 年度庭園の歴史に関する研究会報告書　茶の文化と庭園	同上	31 年 3 月	無
7	平城宮東院地区の発掘調査（平城第 595 次調査）	考古第 2 研究室研究員・ 山藤正敏	東院地区の調査－第 595 次	奈良文化財研究所紀要 2019	同上	31 年 6 月予定	無
8	平城宮東区朝堂院東門の発掘調査	遺構研究室研究員・ 福島啓人	東区朝堂院東門の調査－第 602 次	同上	同上	同上	無
9	東大寺東塔院の発掘調査	考古第 1 研究室研究員・ 芝康次郎	東大寺東塔院の調査—第 600 次	同上	同上	同上	無
10	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部主任研究員　大林潤・廣瀬覚	藤原宮大極殿院北面回廊・北門の調査（飛鳥藤原第 198 次調査）	奈文研ニュース No.70	同上	9 月	無
11	同上	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	藤原宮大極殿院北面回廊・北門の調査（飛鳥藤原第 198 次調査）	奈文研ニュース No.71	同上	12 月	無
12	同上	都城発掘調査部研究員 前川歩他	大極殿院回廊の調査—第 195・198 次	奈良文化財研究所紀要 2019	同上	31 年 6 月予定	無
13	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部研究員 清野陽一・和田一之輔他	大官大寺南方の調査—飛鳥藤原第 196・199 次	同上	同上	31 年 6 月予定	無
14	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　森川実	遺跡紹介　弥生時代・前方後円形の周溝墓	『季刊考古学』144 号	雄山閣	8 月	無
15	同上	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	平城宮幢旗遺構の発見—平城京遷都と儀式遺構の変化—	奈文研第 10 回東京講演会藤原から平城へ　平城遷都の謎を解く　発表要旨集	奈良文化財研究所	10 月	無
16	同上	都城発掘調査部長 玉田芳英	古代都市　藤原京の実態	同上	同上	同上	無
17	同上	考古第三研究室長 清野孝之	日韓古代瓦の使用方法に関する比較研究	日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究　中間成果発表会資料集	奈良文化財研究所 大韓民国国立文化財研究所	10 月	無
18	同上	都城発掘調査部副部長・ 渡辺晃宏	荷札木簡をひもとく	地下の正倉院展	奈良文化財研究所	10 月	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	二〇一七年出土の木簡　奈良・山田道	『木簡研究』第 40 号	木簡学会	11 月	無
20	同上	都城発掘調査部研究員 石田由紀子	藤原宮外周帯の調査（飛鳥藤原第 197-4 次）	奈文研ニュース№72	奈良文化財研究所	31 年 3 月	無
21	同上	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	宮殿における幢幡（旗）遺構の展開	『条里制・古代都市研究』第 34 号	条里制・古代都市研究会	31 年 3 月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
22	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	考古第三研究室長 清野孝之他	藤原宮式軒瓦からみた阿波・讃岐東部の交流の一様相	『真朱』第 12 号	徳島県埋蔵文化財センター	31 年 3 月	無
23	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇	歴史史料としての日本霊異記	『古代文学と隣接諸科学第 10 巻　『記紀』の可能性』	竹林舎	31 年 4 月予定	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員　山本崇・星野安治	『藤原宮木簡四』補考（仮題）	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	31 年 6 月予定	無
25	同上	都城発掘調査部長 玉田芳英	藤原京と遷都	同上	同上	同上	無
26	同上	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	平城宮第一次大極殿院の幢旗遺構	同上	同上	同上	無
27	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部副部長・ 渡辺晃宏	Ⅲ平城宮跡等の調査概要	奈良文化財研究所紀要 2018	同上	6 月	無
28	同上	都城発掘調査部副部長・ 渡辺晃宏	荷札木簡をひもとく	地下の正倉院展	同上	10 月	無
29	同上	都城発掘調査部副部長・ 渡辺晃宏	Ⅲ平城宮跡等の調査概要	奈良文化財研究所紀要 2019	同上	31 年 6 月予定	無
30	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館　学芸室長 石橋茂登　他	古代寺院址出土銅製品の非破壊調査	奈良文化財研究所紀要 2018	同上	6 月 30 日	無
31	同上	飛鳥資料館　学芸室長 石橋茂登　他	飛鳥寺塔心礎出土金・銀製品	同上	同上	同上	無
32	同上	飛鳥資料館　学芸室長 石橋茂登　他	飛鳥寺塔心礎出土蛇行状鉄器の復元的研究	同上	同上	同上	無
33	韓国との共同研究	中島義晴	日韓の庭園および景勝地における建築内部からの風景の眺望	同上	同上	同上	無
34	同上	尹亨準	韓日発掘交流を終えて	『奈文研ニュース』No.71	同上	12 月	無
35	同上	前川歩	日韓発掘交流に参加して	『奈文研ニュース』No.72	同上	31 年 3 月	無
36	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部室長 中島義晴	日本の庭園及び景勝地における眺望の主な事例と今後の研究課題	奈良文化財研究所紀要 2018	同上	6 月 30 日	無
37	同上	文化遺産部室長 中島義晴	日本の庭園及び景勝地における眺望の主な事例と今後の研究課題	同上	同上	同上	無
38	同上	文化遺産部研究員 惠谷浩子	自然が織りこまれた南禅寺別邸群の庭―疏水のネットワークとアカマツの広がり	琵琶湖疏水の学習 4	琵琶湖疏水アカデミー	8 月	無
39	同上	文化遺産部研究員 惠谷浩子	文化的景観の概念構築に関する実践的研究と一連の出版物（平成 29 年度日本造園学会田村剛賞受賞者業績要旨）	ランドスケープ研究 82（3）	ランドスケープ研究	10 月	無
40	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	（公財）滋賀県文化財保護協会・北村圭弘	近江地域の一本づくり・一枚づくり	第 19 回シンポジウム　8 世紀の瓦づくりⅧ　一本づくり・一枚づくりの展開２	奈良文化財研究所	31 年 2 月	無
41	同上	京丹後市教育委員会・ 藤田智子	山城地域の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
42	同上	龍谷大学文学部・ 谷崎仁美	摂津・河内・紀伊地域の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
43	同上	（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター・ 村田和弘 （公財）兵庫県まちづくり技術センター・垣内拓郎	近畿北・西部の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
44	同上	岡山県古代吉備文化財センター・松尾佳子	山陽地方の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
45	同上	浜田市教育委員会・ 榊原博英	山陰地方の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
46	同上	徳島県立博物館・ 岡本治代	四国地方の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
47	同上	佐賀市教育委員会・ 山口　亨	九州地方北部の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
48	同上	熊本市経済観光局　熊本城総合事務所・金田一精	九州地方南部の一本づくり・一枚づくり	同上	同上	同上	無
49	水中文化に関する調査研究	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長 金田明大	大阪城石垣石丁場跡における水中残石の調査	奈良文化財研究所紀要紀要 2018	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
50	同上	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	出土木製遺物の水中保管時における劣化を抑制する方策の検討－酸素供給の抑制による還元環境の維持－	『文化財科学』77 号	日本文化財科学会	10 月 31 日	有
51	同上	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長 金田明大	廉価型水中ソナーと SfM-MVS による大坂城石垣石材の海中残石分布調査	文化財の壺６	文化財方法論研究会	11 月 1 日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　38 件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　22 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	遺跡・調査技術研究室研究員　山口欧志	文化遺産のデジタルドキュメンテーションの現状と 課題	日本考古学協会第 84 回大会総会研究発表 要旨 88-89 2018 年 5 月	日本考古学協会	5 月	有
2	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　山口欧志	Application of Stochastic Point-Based Rendering to Laser-Scanned Point Clouds of Various Cultural Heritage Objects	International Journal of Automation Technology 12(3) 395-404	富士技術出版株式会社	5 月	有
3	同上	遺跡・調査技術研究室長　金田明大	SLAM 技術を用いた森林内遺構の迅速な計測	日本文化財科学会第 35 回大会発表要旨集 380-381	日本文化財科学会	7 月	有
4	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　山口欧志	微細痕跡の資料化：SfM-MVS と深度合成を用いた 可視化	日本文化財科学会第 35 回大会発表要旨集 376-377	同上	同上	有
5	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　中村亜希子	「同笵瓦」と「異笵瓦」の比較-瓦当三次元計測 データの検討-	日本文化財科学会第 35 回大会発表要旨集 368-369	同上	同上	有
6	同上	遺跡・調査技術研究室長　金田明大・遺跡・調査技術研究室研究員　山口欧志	廉価型水中ソナーと SfM - MVS による大坂城石垣石材 の海中残石分布調査	文化財の壷 (6) 28-31	奈良文化財研究所	11 月	無
7	同上	遺跡・調査技術研究室長　金田明大	土器口縁径の計測の効率化に向けた試行	文化財の壷 (6) 32-37	同上	同上	無
8	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　山口欧志	文化財情報の収集と可視化	文化財の壷 (6) 16-19	同上	同上	無
9	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　中村亜希子	瓦当紋様の三次元計測データを用いた研究法	文化財の壷 (6) 38-41	同上	同上	無
10	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治，都城発掘調査部主任研究員　桑田訓也，都城発掘調査部研究員　山本祥隆，都城発掘調査部　アソシエイトフェロー　浦蓉子	年輪年代学的手法による平城京跡出土木簡の検討２－平城第 524 次調査出土削屑の続報－	奈良文化財研究所紀要 2018	同上	6 月	無
11	同上	都城発掘調査部　アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治	同一材で作られた木製人形	同上	同上	同上	無
12	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治　ほか	日本各地に生育するブナの肥大成長に影響する気候要素	木材学会誌 64(5)	日本木材学会	10 月	有
13	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治　ほか	河内平野における初期方形周溝墓群とその構造	民俗文化 30	近畿大学民俗学研究所	10 月	無
14	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治，都城発掘調査部　アソシエイトフェロー　浦蓉子，都城発掘調査部研究員　山本祥隆	年輪年代学的手法による木簡研究の可能性	木簡研究 40	日本木簡学会	11 月	無
15	同上	都城発掘調査部　アソシエイトフェロー　浦蓉子，埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治	年輪年代学的手法を用いた古代木製祭祀具の研究	考古学雑誌 101(2)	日本考古学会	12 月	有
16	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　星野安治　ほか	Eruption age of the Haruna Futatsudake Pumice (Hr-FP), central Japan, by radiocarbon wiggle matching with special reference to a 14C dataset developed from a Japanese tree	Quaternary International	Elsevier	同上	有
17	動植物遺体の調査研究	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー　松崎哲也、埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	1～3 区出土の動物遺存体	堂の前貝塚発掘調査報告書Ⅲ　平成 24 年度復興交付金対象事業関連遺跡発掘調査	岩手県陸前高田市教育委員会	9 月 14 日	無
18	同上	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 松崎哲也	雲南遺跡から出土した動物遺存体	雲南遺跡発掘調査報告書	同上	同上	無
19	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	古代における馬の大きさ	『人とともに生きた馬』平成 30 年度はにわ館特別展図録	松阪市文化財センター	10 月 27 日	無
20	同上	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 松崎哲也	椎骨の形態比較によるマグロ属同定への試み	『動物考古学』36	日本動物考古学会	31 年 3 月 31 日	有
21	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	骨角製品（武器・武具・工具）の素材同定	『金井東裏遺跡―古墳時代編』	群馬県埋蔵文化財調査事業団	31 年 3 月 31 日	無
22	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　山崎健	古墳時代の鹿角利用	『古墳人、現る―金井東裏遺跡の奇跡―』	同上	31 年 3 月 31 日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　16 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター研究員　松田和貴、都城発掘調査部アソシエイトフェロー　藤間温子、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成、 都城発掘調査部副部長　渡邉晃宏	木簡削屑の保管を目的とした中性紙製容器の新規開発	奈良文化財研究所紀要 2018	奈良文化財研究所	6 月 30 日	無
2	同上	埋蔵文化財センター研究員　柳田明進、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、 埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	保管・展示時における出土鉄製文化財の腐食に及ぼす湿度の影響	日本建築学会　環境工学委員会　第48回熱シンポジウム「役に立つ湿気研究」	日本建築学会	10 月 1 日	無
3	同上	埋蔵文化財センター研究員　松田和貴、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	出土木製遺物の水中保管時における劣化を抑制する方策の検討 ー酸素供給の抑制による還元環境の維持ー	『文化財科学』77 号	日本文化財科学会	10 月 31 日	有
4	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか５名	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その２）防水工事の影響を考慮した２次元熱・水分移動の数値解析	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概 2018	日本建築学会近畿支部	6 月 23 日	無
5	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか２名	蒸発法を用いた凝灰岩の水分物性測定	日本建築学会大会（東北）梗概	日本建築学会	9 月 4 日	無
6	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか３名	脱塩技術の定量的評価を目的とした材料内水分・塩移動モデルの開発　既存の熱水分塩同時移動解析モデルによる浸透圧を考慮した脱塩実験の再現性の検討	同上	同上	同上	無
7	同上	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、 埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎　ほか５名	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究　その３　２次元熱・水分移動の数値解析	同上	同上	9 月 4 日	無
8	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センターアソシエイトフェロー 金旻貞	テラヘルツ波を用いた彩色文化財の非破壊界面調査	構築と交流の文化史	雄山閣	12 月	無
9	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その 5）4 年間の測定結果による石室内環境の把握と数値解析による石室内温湿度の再現	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概 2018	日本建築学会近畿支部	6 月 23 日	無
10	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その 5）4 年間の測定結果による石室内環境の把握と数値解析による石室内温湿度の再現	日本建築学会大会（東北）梗概	日本建築学会	7 月 20 日	無
11	同上	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	遺跡保存のための環境管理　ー史跡ガランドヤ古墳１号墳の保存と活用を目的とした環境設計に関する研究ー	地盤工学の知見に基づく歴史的地盤遺跡の保全と活用に関する研究委員会報告書	土木学会関西支部	9 月 12 日	無
12	同上	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長　高妻洋成	結露抑制を目的とした装飾古墳保護施設の環境設計	日本建築学会　環境工学委員会　第49回熱シンポジウム「役に立つ湿気研究」	日本建築学会	10 月 1 日	無
13	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター研究員　柳田明進　ほか３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その 5）4 年間の測定結果による石室内環境の把握と数値解析による石室内温湿度の再現	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概 2018	日本建築学会近畿支部	6 月 23 日	無
14	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎 埋蔵文化財センター研究員　柳田明進　ほか３名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その 5）4 年間の測定結果による石室内環境の把握と数値解析による石室内温湿度の再現	日本建築学会大会（東北）梗概	日本建築学会	7 月 20 日	無
15	同上	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	遺跡保存のための環境管理　ー史跡ガランドヤ古墳１号墳の保存と活用を目的とした環境設計に関する研究ー	地盤工学の知見に基づく歴史的地盤遺跡の保全と活用に関する研究委員会報告書	土木学会関西支部	9 月 12 日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
16	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター主任研究員　脇谷草一郎、埋蔵文化財センター客員研究員　小椋大輔、埋蔵文化財センター室長　高妻洋成	結露抑制を目的とした装飾古墳保護施設の環境設計	日本建築学会　環境工学委員会　第49回熱シンポジウム「役に立つ湿気研究」	日本建築学会	10月1日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　1件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　1件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	カンボジア・西トップ遺跡の調査と修復	企画調整部専門職　佐藤由似，　企画調整部　特任研究員　杉山洋	西トップ遺跡北祠堂偽扉の調査―釈迦如来立像に関する検討―	奈良文化財研究所紀要2018	奈良文化財研究所	6月30日	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部研究員 高田祐一	全国遺跡報告総覧説明会の開催	奈文研ニュース　(69)	奈良文化財研究所	6月1日	無
2	同上	都城発掘調査部主任研究員　国武貞克，飛鳥資料館　アソシエイトフェロー　小沼美結，企画調整部研究員　高田祐一	文化財情報の多国間連携による研究基盤の高次化	奈良文化財研究所紀要2018	同上	6月30日	無
3	同上	企画調整部研究員 高田祐一	全国遺跡報告総覧における学術情報流通と活用の取り組み	カレントアウェアネス	国立国会図書館	9月1日	無
4	同上	企画調整部研究員 高田祐一，飛鳥資料館アソシエイトフェロー 小沼美結	EU考古学情報基盤ARIADNEと全国遺跡報告総覧の連携に向けて	奈文研ニュース　(70)	奈良文化財研究所	9月1日	無
5	同上	企画調整部研究員 高田祐一　ほか1名	考古学ビッグデータの可視化技術とアクセス性向上の実践例-機械学習による画像認識と統計的自然言語処理技術を用いて-	文化財の壺　(6)	文化財方法論研究会	11月1日	無

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　4件

○文化財に関する協力・助言等　4件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	都城発掘調査部研究員 石田由紀子	発掘調査の概要　藤原宮外周帯の調査（飛鳥藤原第197-4次）	奈文研ニュースNo.72	奈良文化財研究所	31年3月	無
2	同上	考古第二研究室長　尾野善裕他	飛鳥寺北方の調査―第197-1・2・6次	奈良文化財研究所紀要2019	同上	31年6月予定	無
3	同上	都城発掘調査部研究員 石田由紀子他	藤原宮外周帯の調査―第197-4次	同上	同上	同上	無
4	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実他	藤原宮の調査―第197-5次	同上	同上	同上	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

平成31年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」673号～678号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件(各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」54号	700	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XIX	700	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XXXIX　文王呂尚・商山四皓図屏風 1	1,000	美術館・博物館・大学・研究所等　95件
5	『東京国立博物館図版目録　東洋古鏡篇』	800	美術館・博物館・大学・研究所等　163件

○展覧会図録等　　19件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展図録	『名作誕生―つながる日本美術』	―	―
2		『縄文―1万年の美の鼓動』	―	―
3		『京都 大報恩寺　快慶・常慶のみほとけ』	―	―
4		『マルセル・デュシャンと日本美術　デュシャン　人と作品』	―	―
5		『マルセル・デュシャンと日本美術　デュシャンの向こうに日本が見える。』	―	―
6		『中国近代絵画の巨匠　斉白石』	―	―
7		『顔真卿―王羲之を超えた名筆』	―	―
8		『御即位30年記念　両陛下と文化交流―日本美を伝える―』	―	―
9		『国宝 東寺　空海と仏像曼陀羅』	―	―
10	特集図録 特集印刷物	「親と子のギャラリー　サルのひろば」リーフレット	5,000	
11		『明治150年記念　書と絵が語る明治』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
12		『日本インドネシア国交樹立60年　海の道　ジャランジャラン』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
13		「京都御所　飛香舎（藤壺）の調度」リーフレット	5,000	
14		「「初期白磁」　白磁の誕生と展開」リーフレット	4,000	
15		「ラファエル・コランと黒田清輝」リーフレット	4,000	
16		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	8,000	
17		『上杉家伝来の能面と能装束』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
18	そのほか	『東京国立博物館セレクション　高野切と仮名の美』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
19		『東京国立博物館ハンドブック』　日本語、中国語、韓国語（改訂版）	日本語版2,000 中国語版2,000 韓国語版2,000	

※東京国立博物館ニュースの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要「学叢」第40号	800	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書16	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	社寺調査報告29　金剛寺（彫刻編）	500	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録等　　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	特別展『池大雅』	―	美術館・博物館・大学等
2	特別展『京のかたな』	―	同上
3	松井コレクション受贈記念　特集展示『美麗を極める　中国陶磁』	1,700	同上
4	日中平和友好条約締結40周年記念　特別企画『中国近代絵画の巨匠　斉白石』	―	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

.○名品図録　　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	なら仏像館名品図録　第五版	8,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録　　6件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	創建1250年記念特別展『国宝 春日大社のすべて』	8,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		修理完成記念特別展『糸のみほとけ―国宝 綴織當麻曼荼羅と繡仏―』	6,140	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		『第70回正倉院展』	3,750	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		『The 70th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列	特別陳列『おん祭と春日信仰の美術―特集　大宿所―』	1,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		特別陳列『覚盛上人770年御忌　鎌倉時代の唐招提寺と戒律復興』	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

調査研究刊行物　　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	九州国立博物館紀要『東風西声』　第14号	900	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	九州国立博物館　文化財修復報告　第１号（平成14年度～平成17年度）	750	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等
3	『端物切本帳画像一覧　九州国立博物館所蔵本』　5巻	10	国立国会図書館・研究機関

○展覧会図録等　　8件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	至上の印象派展　ビュールレ・コレクション	1,502	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		明治150年記念　特別展オークラ　コレクション	3,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－	3,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
4	特集展示等	国宝　銅鐸絵画	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
5		全国高等学校　考古名品展	1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		坂本コレクション受贈記念　北斎と鍋島、そして	2,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		平戸松浦家伝来の伊能図	1,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
8	文化交流展示	響銅でつながる大宰府と東アジア	500	*大宰府*史跡発掘50*年*記念・文化交流展「たたいて削って青銅器－東アジアの響銅」関連シンポジウム「響銅でつながる大宰府と東アジア」会場等で配布（非売品）

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　9件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『黒田清輝　黒田記念館所蔵品より』	600	大学・研究機関、図書館等
2	『東京国立博物館所蔵　国宝平安仏画　光学調査報告書』	250	大学・研究機関、図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　7件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	パンフレット「日本の芸能を支える技Ⅰ　琵琶　石田克佳」	800	研究機関・実演家・楽器製作者・公開学術講座参加者等
2	パンフレット「日本の芸能を支える技Ⅱ三味線象牙駒　大河内正信」	800	研究機関・実演家・楽器製作者・公開学術講座参加者等
3	パンフレット、「日本の芸能を支える技Ⅲ　雅楽管楽器　山田全一」	300	研究機関・実演家・楽器製作者等
4	パンフレット「日本の芸能を支える技Ⅳ　太棹三味線　井坂重男」	300	研究機関・実演家・楽器製作者等
5	「伝統の音を支える技」報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	『祭ネットワーク報告シシマイ×シシマイvol.1』	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『青花紙製作技術に関する共同調査報告書―染織技術を支える草津のわざ―』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　5 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『春日権現験記絵巻十九・巻二十　光学調査報告書』	500	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『国宝 信貴山縁起絵巻 蛍光エックス線分析結果』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『カトリック長崎大司教区所蔵　無原罪の聖母図（聖母マリアの御絵）光学調査報告書』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
3	『鉄構造物の保存と修復』	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『Conservation and Restoration of Brick Buildings and Structures』	100	大学・研究機関・図書館等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　24 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　24件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『各国の文化財保護法例シリーズ［23］ポーランド』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『世界遺産研究協議会　戦略的 OUV 選択論』	200	大学・研究機関・教育委員会等
3	『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成30年度成果報告書』	50	大学・研究機関・図書館等
4	『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainabe Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Repor of 2017 and 2018-』	250	カンボジア政府関係当局・研究機関等
5	『東南アジア古代都市・建築研究会　Ancient Cities and Architecture in Southeast Asia』	120	大学・研究機関・図書館等
6	『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究』	50	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『在外日本古美術品保存修復協力事業』	300	大学・研究機関・図書館・博物館等
8	『在外日本古美術品保存修復協力事業　遊女と禿図　No.2015-1　修復報告』	300	大学・研究機関・図書館・博物館等
9	『在外日本古美術品保存修復協力事業　月下秋景図　No.2015-2　修復報告』	300	大学・研究機関・図書館・博物館等
10	『在外日本古美術品保存修復協力事業　瀑布渓流図　No.2015-3　修復報告』	300	大学・研究機関・図書館・博物館等
11	『文化遺産国際協力コンソーシアム』	2,000	大学・研究機関・図書館等
12	『諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る』	300	大学・研究機関・図書館等
13	『文化遺産とSDGs』	300	大学・研究機関・図書館等
14	『文化遺産国際協力のかたち―世界遺産を未来に伝える日本の貢献―』	300	大学・研究機関・図書館等
15	『文化遺産国際協力コンソーシアム平成30年度協力相手国調査　モンゴル国調査報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
16	『文化遺産の国際協力』	1,000	大学・研究機関・図書館等
17	『世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業報告書』	200	大学・研究機関・教育委員会等
18	『Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu』	100	ネパール政府関係当局・研究機関等
19	『ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物調査中間報告書』	150	大学・研究機関等
20	『Mayors' Forum on Conservatiion of Histric Settlements in Kathmandu Valley and Kavre Valley, 26 Dec. 2017 at Panauti Municipality - Proceedings -』	500	ネパール関係自治体・研究機関等
21	『平成30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業　ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業―建築分野―』	50	大学・研究機関等
22	『Report of the Survey on Historic Brick Buildings at Bagan Archaeological Zone』	100	ミャンマー政府当局・研究機関等
23	『トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書』	50	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
24	『The Silk Road Friendship Project: The Training Workshop for the Preservation of Paper Cultural Heritage, 2018』	2	研究機関

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　12 件

・調査研究成果の発信　12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2017年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2018年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』67号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』68号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』69号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『平成29年版　日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
7	『美術研究』425号	400	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』426号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『美術研究』427号	400	大学・研究機関、図書館等
10	『無形文化遺産研究報告』第13号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『第13回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『保存科学』58号	650	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　　13件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『薬師寺文書目録』第１巻　奈良文化財研究所史料第93冊・東京大学史料編纂所研究成果報告二〇一八	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	平成 29 年度遺跡整備・活用研究集会報告書　史跡等を活かした地域づくり・観光振興	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	平成 30 年度庭園の歴史に関する研究会報告書　茶の文化と庭園	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『藤原宮木簡四』奈良文化財研究所史料第 91 冊	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『木器集成図録　飛鳥・藤原編』奈良文化財研究所史料第 92 冊	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『日韓古代文化の形成と発掘過程に関する共同研究・中間成果発表会資料集』	100	奈良文化財研究所 ほか

6	『地域らしさを支える土木―文化的景観における公共事業の整え方―』文化的景観研究集会（第９回）報告書	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	第 21 回古代官衙・集落研究会報告書『地方官衙政庁域の変遷と特質』報告編	250	研究集会出席者・教育委員会・埋蔵文化財センター等
8	第 21 回古代官衙・集落研究会報告書『地方官衙政庁域の変遷と特質』資料編	250	研究集会出席者・教育委員会・埋蔵文化財センター等
9	第22回古代官衙・集落研究会『官衙・集落と大甕　研究報告資料』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	第22回古代官衙・集落研究会『甕据付建物　遺構集成』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
11	「第 19 回シンポジウム　8 世紀の瓦づくりⅧ　一本づくり・一枚づくりの展開２」	350	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
12	「第 19 回シンポジウム　8 世紀の瓦づくりⅧ　一本づくり・一枚づくりの展開２　資料集（西日本編）」	350	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　　１件

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	分析化学実技シリーズ応用分析編・７　文化財分析	1000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　　２件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進調査研究　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『西トップ遺跡調査修復中間報告７中央祠堂屋外部解体編』	500	大学・研究機関・教育委員会等
2	『Survey and Restration of Western Prasat Top Interim Report 7 Dismantling the Roof Part of Central Sanctuary』	500	教育委員会など関係機関

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　　16件

・調査研究成果の発信　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所概要2018	3000	大学・研究機関・図書館等
2	奈良文化財研究所紀要2018	3000	大学・研究機関・図書館等
3～6	奈文研ニュースNo.69～72	各3000	大学・研究機関
7～10	埋蔵文化財ニュースNo174～177	各2500	大学・研究機関・博物館等

・展示公開施設の充実　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	夏期企画展リーフレット『たいけん！　なぶんけんノート』	5000	平城宮跡資料館参観者
2	秋期特別展リーフレット『地下の正倉院展―荷札木簡をひもとく―』	8000	平城宮跡資料館参観者
3	冬期企画展『発掘された平城　2017・2018』	4000	平城宮跡資料館参観者
4	飛鳥資料館図録第６９冊 『あすかの原風景』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	飛鳥資料館図録第７０冊 『よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	飛鳥資料館カタログ第３５冊 『飛鳥の考古学2018』	1800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　　6件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『IRCI概要2018(日本語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2018(英語版)』	700 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	IRCIリーフレット(日本語版)	2000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	IRCIリーフレット(英語版)	2000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
5	『Proceedings of the Asia-Pacific Regional Workshop on Intangible Cultural Heritage and Natural Disasters』	500 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
6	『Report on the IRCI Literature Survey on Intangible Cultural Heritage Safeguarding Research (2016-2018)』	データ版で公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

【文化財防災ネットワーク推進本部】

○調査研究刊行物　　9件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	文化財防災ネットワーク推進事業　地域の文化財防災に関する研究集会報告書Ⅰ『第4回全国史料ネット研究交流集会』	500 データ版でも公開	美術館・博物館、大学・研究機関、図書館等
2	『平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業―九州国立博物館の取り組み―』	1,000	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館等
3	文化財防災ネットワーク推進事業『文化財防災のための市民と協働する文化財調査モデル事業報告書』	1,000	連携協力機関、九州・山口の美術館・博物館、関係者・協力者等

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
4	『現場でみつかる地震災害痕跡（携帯版）』	2,500	連携協力機関、関係者・協力者等
5	平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業『文化財保護のための動態記録作成に関する調査研究事業―民俗技術の記録制作事業報告書―』	30	連携協力機関、関係者・協力者等
6	平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業『平成29年度「無形文化遺産の防災」連絡会議報告書』	150	連携協力機関、関係者・協力者等
7	『文化財防災マニュアルハンドブック　民俗資料のクリーニング処置例〈地震災害〉・〈水害〉編』	1,000	連携協力機関、大学・研究機関、地方公共団体、関係者・協力者等
8	平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業『シンポジウム　文化財を守り伝える1 文化財の保存と修理』報告書	500	連携協力機関、関係者・協力者等
9	平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業『国際シンポジウム　地域と共に取り組む文化遺産防災－世界の経験、日本の未来－』	600	連携協力機関、美術館・博物館、大学・研究機関、図書館、関係者・協力者等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

平成31年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	129	39	18	8	6	7	89	25	64	1
科学研究費補助金のみ	38	13	8	1	1	3	25	7	18	0
学術研究助成基金助成金のみ	87	25	9	7	5	4	61	16	45	1
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	8	1	1	0	0	0	3	2	1	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　8件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部列品管理課登録室長（兼貸与特別観覧室長）	基盤研究(A)	8,190
2	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究	土屋　貴裕	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究(A)	3,250
3	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	3,770
4	大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究	岩崎　均史	客員研究員	基盤研究(B)	2,080
5	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	学芸研究部長	基盤研究(A)	7,150
6	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	村田　良二	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(B)	8,450
7	アイヌ民族の衣文化交流―博物館資料から北東アジア史を見直す	佐々木　史郎	東京国立博物館付部長	基盤研究(B)	4,810
8	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室主任研究員	基盤研究(B)	3,250

2）学術研究助成基金助成金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究	恵美　千鶴子	学芸企画部百五十年史編纂室長	基盤研究(C)	1,170	4,160〈平成29～31年度〉
2	東アジア礼制に基づく物質文化研究―日・中・韓・越・琉の宮廷工芸を対象として―	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	基盤研究(C)	2,080	4,550〈平成29～31年度〉
3	インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究	河野　一隆	学芸研究部上席研究員	基盤研究(C)	1,040	4,290〈平成29～31年度〉
4	中世律宗絵画の基礎的研究	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室主任研究員	基盤研究(C)	1,560	4,420〈平成30～32年度〉
5	１６・１７世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸企画部企画課出版企画室研究員	若手研究(B)	429	3,250〈平成29～32年度〉
6	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井　元樹	学芸企画部博物館教育課教育普及室主任研究員	若手研究(B)	650	4,160〈平成29～32年度〉
7	フェニキア人の「出現」－考古資料から見た初期の交易活動と対外進出	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	若手研究(B)	1,300	3,640〈平成29～31年度〉
8	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋　美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	1,690	4,030〈平成30～32年度〉
9	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野　正訓	学芸研究部調査研究課考古室研究員	若手研究	650	2,080〈平成30～32年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	ディルムン文明の起源－バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究－	後藤　健	客員研究員	基盤研究（Ｂ）海外学術調査	1,560	650	6,500〈平成26～30年度〉

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木　丞平	館長	基盤研究（Ａ）	4,810

2）学術研究助成基金助成金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室研究員	若手研究（Ｂ）	650	3,900〈平成28～31年度〉
2	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部美術室研究員	若手研究（Ｂ）	650	3,770〈平成28～31年度〉
3	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（Ｃ）	910	3,770〈平成28～31年度〉
4	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遺例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部企画室・アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	650	3,900（平成28～31年度）
5	古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究	古谷　毅	学芸部考古室主任研究員	基盤研究（Ｃ）	－	4,680〈平成27～30年度〉
6	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究；新来館者の定着に向けた実証的調査分析（国際共同研究強化）	関谷　泰弘	総務課専門職員	国際共同研究加速器金（国際共同研究強化）	－	14,820〈平成28～30年度〉
7	西日本を中心とした来舶清人の書画交流に関する基礎的調査研究	呉　孟晋	学芸部列品管理室主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,290〈平成30～32年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本　伸之	館長	基盤研究（Ａ）	10,400

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	染織技法による仏像の研究	内藤　栄	学芸部長	基盤研究（Ｃ）	780	4,420〈平成29～31年度〉
2	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部列品室長	基盤研究（Ｃ）	1,040	2,990〈平成29～31年度〉
3	真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用	斎木　涼子	学芸部美術室主任研究員	若手研究（Ｂ）	―	1,560〈平成27～30年度〉
4	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部美術室主任研究員	若手研究（Ｂ）	390	1,560〈平成29～32年度〉
5	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口　隆介	学芸部列品室主任研究員	若手研究	1,690	4,030（平成30～32年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	島谷　弘幸	館長	基盤研究（Ｂ）	3,510

2	極薄青銅器と響銅を対象にした製作技術の比較　ー東アジア金属工芸史の再構築ー	川村　佳男	学芸部企画課特別展室主任研究員	基盤研究（Ｂ）	6,370
3	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	伊藤　嘉章	副館長	基盤研究（Ａ）	17,550

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究	川畑　憲子	学芸部文化財課資料登録室長	基盤研究（Ｃ）	0	4,810〈平成27～30年度〉（補助事業期間延長）
2	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討	秋山　純子	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,170	4,680〈平成27～30年度〉
3	X線CTを用いた文化財有機質材料の同定方法の確立	赤田　昌倫	客員研究員	基盤研究（Ｃ）	910	4,160〈平成28～30年度〉
4	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討	木川　りか	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,420（平成30～32年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部 室長	基盤研究(B)	2,730
2	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)海外	4,810
3	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井　伸雄	所長	基盤研究(B)海外	3,770
4	染織技術の伝承に関する研究-材料・道具に焦点をあてて-	菊池　理予	無形文化遺産部 主任研究員	若手研究(A)	3,770
5	SAT大正新脩大藏經 圖像データベース	津田　撤英	文化財情報資料部 客員研究員	研究成果公開促進費	4,500
6	木造建築遺産保存論　―日本とヨーロッパの比較から―	マルティネスアレハンドロ	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	研究成果公開促進費	1,500
7	伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	マルティネスアレハンドロ	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	442

2）学術研究助成基金助成金のみ　16件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額　（千円）〈研究期間〉
1	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター分析科学研究室長	基盤研究(C)	1,040	4,290（平成28年～30年）
2	黒髪白肌の系譜ー上村松園の技法と表現ー	大河原　典子	文化遺産国際協力センター客員研究員	基盤研究(C)	650	4,680（平成28年～30年）
3	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野　真由美	文化財情報資料部主任研究員	基盤研究(C)	1,950	4,420（平成28年～30年）
4	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍　雅史	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(C)	1,560	4,550（平成29年～31年）
5	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部無形文化財研究室長	基盤研究(C)	1,690	4,290（平成30年～32年）
6	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永　拓世	文化財情報資料部研究員	基盤研究(C)	1,820	4,420（平成30年～32年）
7	ポスト１９６８年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川　英規	文化財情報資料部研究員	基盤研究(C)	2,080	4,420（平成30年～32年）
8	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤　嘉則	保存科学研究センター生物科学研究室長	基盤研究(C)	1,560	4,030（平成30年～32年）
9	博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間渕　創	保存科学研究センター併任職員	基盤研究(C)	1,950	3,770（平成30年～32年）
10	白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田　直人	保存科学研究センター保存環境研究室付	基盤研究(C)	1,560	2,860（平成30年～32年）
11	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田　啓子	保存科学研究センター客員研究員	若手研究(B)	910	3,900（平成28年～30年）
12	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究―明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に	今石　みぎわ	無形文化遺産部主任研究員	若手研究(B)	1,040	4,030（平成28年～30年）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
13	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田　大樹	文化遺産国際協力センター客員研究員	若手研究(B)	1,040	4,160（平成28年～30年）
14	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田　まきは	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,160（平成30年～33年）
15	伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究	マルティネス アレハンドロ	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー	若手研究	910	3,900（平成30年～33年）
16	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村　知子	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長	挑戦的研究（萌芽）	2,080	4,992（平成29年～31年）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 -旧修理材料や微生物痕の除去-	早川　典子	保存科学研究センター修復材料研究室長	基盤研究(B)	1,040	1,170	13,000（平成26年～30年）
2	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 -伝統的製法の再現-	宇高　健太郎	保存科学研究センター客員研究員	若手研究(A)	860	1,406	18,500（平成26年～平0年）

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　18件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場　基	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（S）	19,760
2	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（A）	8,190
3	平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化	渡邉　晃宏	副所長	基盤研究（A）	9,490
4	東アジア旧石器・新石器移行期の基礎的研究－河南霊井遺跡出土品の徹底分析－	加藤　真二	企画調整部企画調整室長	基盤研究（B）	2,470
5	木簡の年輪年代学：同一材推定による再釈読と荷札木簡を用いた地域標準年輪曲線の構築	星野　安治	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（B）	4,290
6	東大寺を中心とする南都の未整理文書聖教の復原的調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	3,380
7	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波　洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	4,290
8	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（B）	4,680
9	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	基盤研究（B）	3,380
10	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	挑戦的研究（開拓）	9,750
11	歴史災害の実像解明への考古・歴史･地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員	挑戦的研究（開拓）	4,940
12	日本考古学国際化のための考古学関係用語シソーラス構築と自動英語化の研究	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	若手研究（A）	2,470
13	対照実験を主軸とした東アジア鋳造技術史解明のための実験考古学的研究	丹羽　崇史	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（A）	2,860
14	中近世日本と東アジアにおける木造建築の変革に関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（A）	2,080
15	土器残存脂質分析を用いた縄文－弥生移行期における土器利用と食性変化の追跡	庄田　慎矢	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（A）	12,870
16	カザフスタンにおける後期旧石器文化形成プロセスの研究	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）	2,470
17	セット論・生産流通論からみた古代国家成立期の馬装体系の変化に関する研究	片山　健太郎	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,300
18	東アジアにおける隅一柱式建物の比較研究：日中韓三国木造建築技術の源流と特質	唐　聡	都城発掘調査部特別研究員（PD）	特別研究員奨励費	1,040

2）学術研究助成基金助成金のみ　45件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	重要文化的景観の評価方法と保護手法における現状と課題	惠谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究（B）	－	3,770〈平成25～30年度〉
2	近世庭園の様式と地域性に関する基礎的研究－重森編年への検証として	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究（B）	－	3,120〈平成25～30年度〉
3	荘厳化を目的とした建築装飾に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（B）	520	2,600〈平成26～30年度〉
4	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,040	4,420〈平成27～31年度〉
5	奈良時代鉛釉陶器および鉛釉瓦磚の基礎的研究	今井　晃樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	－	4,810〈平成27～30年度〉
6	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	910	4,810〈平成27～31年度〉
7	埋蔵環境下における金属製遺物の現地保存法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（C）	1,040	3,770〈平成28～30年度〉
8	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部考古第三研究室長	基盤研究（C）	1,430	4,680〈平成28～30年度〉
9	６世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究－奈良盆地を中心に－	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	650	4,680〈平成28～31年度〉
10	明治～戦前期の木造建築に使われた良材の産地とその年輪データに関する基礎的研究	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,040	4,160〈平成28～30年度〉
11	日本と中国における古建築用語の相互訳および英訳を通した比較研究手法の創生	鈴木　智大	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的萌芽研究	1,040	3,640〈平成28～30年度〉
12	財政関係木簡による古代地方社会の実態解明	山本　祥隆	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究（B）	650	1,950〈平成28～30年度〉
13	古代都城における木器生産に関する基礎的研究	浦　蓉子	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,170	4,030〈平成28～30年度〉
14	二階建ての御殿にみる近世武家住宅の実体と空間の構成	大橋　正浩	都城発掘調査部客員研究員	若手研究（B）	1,170	4,160〈平成28～30年度〉
15	北陸地方の温泉地における共同浴場の建築史的研究	福嶋　啓人	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究（B）	－	3,380〈平成28～30年度〉
16	大工道具にみる東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	780	4,160〈平成28～31年度〉
17	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野　陽一	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究（B）	910	3,770〈平成28～31年度〉
18	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（C）	910	4,420〈平成29～33年度〉
19	Sr 同位体比分析による日本出土「ナトロンガラス」の産地に関する考古科学的研究	田村　朋美	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	基盤研究（C）	1,690	4,550〈平成29～31年度〉
20	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	飛鳥資料館学芸室研究員	基盤研究（C）	650	4,550〈平成29～33年度〉
21	中央アジア西部ポスト・クシャーン朝期（４～７世紀）壁画の基礎的研究	影山　悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	1,300	3900〈平成29～31年度〉
22	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,040	4,550〈平成29～32年度〉
23	春秋戦国時代の馬匹生産体制形成過程に関する実証的研究	菊地　大樹	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,430	4,550〈平成29～31年度〉
24	3Ｄ石器形態研究の確立による日本列島後期旧石器時代の生活・技術・文化の解明	野口　淳	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	2,340	4,430〈平成29～31年度〉
25	木造三重塔における組上げ構法の再構築	西山　和宏	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	910	3,770〈平成29～32年度〉
26	日本古代の乳製品加工に関する考古化学的証拠の探求	庄田　慎矢	都城発掘調査部主任研究員	挑戦的研究（萌芽）	3,640	6,370〈平成29～30年度〉
27	出土木製遺物の水中保管時における劣化を効果的に抑制する手法の開発	松田　和貴	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究（B）	910	3,900〈平成29～31年度〉
28	彩色文化財の THz Imaging 及びμFocusX 線 CT を用いた非破壊界面調査	金　旻貞	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	1,040	2,860〈平成29～31年度〉
29	地震痕跡を残す災害遺構の保存と公開活用に関する研究	小沼　美結	飛鳥資料館学芸室アソシエイトフェロー	若手研究（B）	650	1,950〈平成29～31年度〉
30	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究―奈良市佐紀古墳群を中心に	大澤　正吾	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	1,170	4,160〈平成29～32年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
31	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究－三次元計測データの活用－	中村　亜希子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（Ｂ）	1,430	4,030〈平成29～31年度〉
32	奈良時代に用いられた色材・素材のナノ構造解明	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,430	4,160〈平成29～31年度〉
33	森蘊の業績と日本庭園史の作成―歴史的庭園のデータベース作成	MARES Emmanuel	文化遺産部遺跡整備研究室アソシエイトフェロー	若手研究（Ｂ）	1,170	3,120〈平成29～31年度〉
34	初期官衙における空間構造の成立と展開に関する実証的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,420〈平成30～33年度〉
35	黒曜石資源の獲得と消費からみた先史時代九州の社会変化に関する基礎的研究	芝　康次郎	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	基盤研究（Ｃ）	1,040	4,290〈平成30～33年度〉
36	飛鳥時代・奈良時代の土器様式からみた日本古代の食具様式および食事法の復元的研究	森川　実	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,690	4,420〈平成30～32年度〉
37	藤原宮造営に伴う造瓦の新技術とその導入経路に関する総合的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	基盤研究（Ｃ）	1,820	4,550〈平成30～33年度〉
38	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,950	4,420〈平成30～32年度〉
39	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承―出雲地方を中心に	中島　義晴	文化遺産部景観研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,040	3,250〈平成30～33年度〉
40	建築メンテナンスの歴史学の構築に関する基礎的研究	海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,210	6,240〈平成30～32年度〉
41	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤　正敏	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究	1,040	4,160〈平成30～33年度〉
42	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤　由似	企画調整部国際遺跡研究室専門職	若手研究	1,430	3,770〈平成30～32年度〉
43	発掘後の劣化特性の予測技術に基づく出土鉄製文化財の新たな保存管理システムの構築	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	1,820	4,030〈平成30～32年度〉
44	昭和初期における歴史的建造物保存修理の構造補強体系の構築	前川　歩	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究	1,430	4,030〈平成30～33年度〉
45	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	3,640	18,200〈平成30～34年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	科学研究費補助金	学術研究助成基金助成金	
					交付決定額（千円）	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
1	中国漢代の木槨・木棺材を用いた年輪年代学の確立と用材選択の意義	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｂ）	－	－	6,500〈平成25～30年度〉

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
1	無形文化遺産の継承・変容と自然災害による影響の動態的把握：バヌアツ北部事例研究	野嶋　洋子	アソシエイトフェロー	基盤研究(C)	1,430	4,160〈平成30～34年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

平成31年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
143人	41 人	30人	3人	6人	2人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	102 人	51人		51人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　30人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館理事・学芸部長）	絵画に関する研究
2	岩崎　均史（静岡市東海道広重美術館長）	大小絵暦に関する研究
3	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
4	東野　治之（元奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物の資料の研究
5	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	切手に関する調査研究
6	水上　嘉代子（元公益財団法人遠山記念館学芸員）	小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
7	小笠原　小枝（日本女子大学家政学部名誉教授）	インド更紗に関する研究
9	金子　浩昌（日本考古学協会員）	原始・古代骨角製品に関する研究
10	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	絵画に関する研究
11	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
12	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	東洋漆工に関する研究
14	田中　淑江（共立女子大学家政学部教授）	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
15	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
16	望月　幹夫（松戸市立博物館長）	考古資料（原史・有史）に関する調査研究
17	歌田　眞介（東京藝術大学名誉教授）	油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
19	澤田　むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
20	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）	文化財の保存環境に関する調査研究
22	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任学芸員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
23	高濱　秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
24	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
26	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	工芸品、歴史資料に関する調査研究
27	後藤　健（元東京国立博物館上席研究員）	古代文化研究
28	長谷　高志 （愛知県立藝術大学名誉教授／長谷高史デザイン事務所代表）	情報デザイン、インフォメーションデザインの将来像の研究
29	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
31	日高　慎(東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
26	石松 日奈子 (清泉女子大学非常勤講師、文化庁文化審議会専門委員)	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
27	田澤　恵子 (公益財団法人古代オリエント博物館研究部主任研究員)	エジプト・コレクションの整理と基礎的研究
28	赤沼　多佳（三井記念美術館参事）	茶陶の調査
29	西脇　康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員）	埋蔵文化財としての金銀貨鑑別・完全非破壊品位測定
30	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究

【京都国立博物館】　3人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	澤田むつ代（元東京国立博物館上席研究員）	染織品の調査および研究

【九州国立博物館】　2人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	今津節生（奈良大学文学部教授）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
2	赤田昌倫（公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構/国立アイヌ民族博物館設立準備室研究員）	文化財の3次元計測と3次元データの展示への応用に関する調査研究

【東京文化財研究所】　51人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
3	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
4	田中　淳（公益財団法人大川美術館長）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび（東京藝術大学美術学部藝術学科教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、および当研究所のアーカイブ構築
7	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
8	津田徹英（青山学院大学文学部比較芸術学科　教授）	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
9	田所　泰	研究プロジェクト「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」、とくに近代の女性画家に関する調査研究
10	星野厚子（東京大学文学館技術支援職員）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
11	永井美和子（早稲田大学非常勤嘱託（演劇博物館））	無形文化財の記録作成
12	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
13	原田一敏（ふくやま美術館長）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
14	荒川正明（学習院大学文学部哲学科（美術史専攻）教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	山崎　剛（金沢美術工芸大学長）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
16	俵木　悟（成城大学文芸学部准教授）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
17	大西秀紀（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師）	音声映像記録に関する調査研究
18	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
19	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
20	鎌田紗弓（東京大学総合文化研究科博士研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
21	齊藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
22	宮澤京子（有限会社海工房取締役）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
23	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する調査研究
24	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任講師）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究および情報収集
25	神野知恵（東京藝術大学音楽科専門研究員）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
26	赤井紀美（武蔵野美術大学講師）	近代演劇関連資料の整理
27	谷垣内和子（日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長）	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究および情報収集
28	伊藤　純（川村学園女子大学講師）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
29	橋本かおる（東京藝術大学音楽学部楽理科教育研究助手）	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
30	吉澤　望（東京理科大学理工学部建築学科教授）	新世代光源の展示照明への適用条件検討
31	山内泰樹（山形大学大学院理工学研究科教授）	有期EL光源の展示照明への導入条件の検討
32	酒井清文	文化財の伝統的修復に関する調査研究
33	大場詩野子	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
34	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
35	小堀信幸（公益財団法人日本海事科学振興財団船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
36	本多貴之（明治大学理工学部准教授）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
37	堤　一郎（茨城大学教育学部技術教育教室特任教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
38	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	空調設備に関する検討、保存環境に関する測定システムの構築
39	石﨑武志（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授）	光と熱による物性への影響計測
40	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟代表理事）	日本画修復に使用される材料および技法の研究
41	貴田啓子	日本における絵画の劣化要因に関する研究
42	岡田　健（独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進本部推進室長）	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
43	片山葉子	高松塚・キトラ古墳壁画および他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
44	苅田重賀（日本航空協会専任課長）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
45	古田嶋智子	文化財を取り巻く空気の成分分析
46	宇高健太郎	文化財構成材料としての墨，煤，膠ならびに修理材料としての膠の研究と，修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
47	簡　佑丞（中原大学文化資産研究センター研究員）	台湾の近代文化遺産の保存活用に関する調査・研究
48	石井美恵（佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業、国際研修等に関わる文化財修復技術の研究
49	大河原典子（鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究および技術移転の手法研究
50	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
51	山田大樹(株式会社都市環境研究所計画グループ研究員)	南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究

【奈良文化財研究所】　51人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	山田　徹（同志社大学文学部助教）	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析
2	林　良彦	受託調査等の調査・研究業務
3	小浦　久子（神戸芸術工科大学芸術工学部教授）	文化的景観の計画策定に関する研究
4	清水　重敦（京都工芸繊維大学教授）	文化的景観の価値の継承に関する研究
5	山口　敬太（京都大学大学院工学研究科准教授）	文化的景観の価値と地域デザインに関する研究
6	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	研究所刊行物等、国内外への研究論文の発信に関する指導
7	巽　淳一郎（京都橘大学文学部教授）	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
8	難波　洋三	考古遺物の調査研究
9	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
10	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
11	水野　裕史（筑波大学芸術系助教）	研究成果の情報整理を行い、コンテンツ作成、データ登録
12	渡辺　伸行（神戸市立大日丘児童館館長）	大規模災害の復興調査支援等への指導助言
13	羽生　淳子	研究所国際事業への指導助言
14	小林　謙一	遺跡及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
15	綾村　宏（京都女子大学文学部教授）	興福寺典籍文書の調査研究
16	李　　暉	建造物研究室が実施する調査研究への参画・助言
17	小野　健吉（和歌山大学観光学部教授）	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
18	青木　敬（國學院大學文学部准教授）	薬師寺東塔の発掘調査業務に関わる指導・助言
19	中川　二美（宗教法人東大寺境内史跡整備計画室研究員）	第一大極殿院の瓦に関する調査・研究
20	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
21	黒田　洋子(奈良女子大学古代学学術研究センター協力研究員）	正倉院文書の文字画像データベース構築における研究協力及び助言
22	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
23	窪寺　茂（建築装飾技術史研究所長）	第一次大極殿院の彩色・塗装に関する調査・研究
24	深澤　芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点からの助言
25	黒羽　亮太（日本学術振興会特別研究員）	学報及び木簡関連刊行物の編集作業に携わり、日本古代史の観点からの助言
26	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
27	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
28	佐藤　昌憲（京都工芸繊維大学名誉教授）	繊維文化財の調査研究
29	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
30	澤田　正昭(東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
31	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存展示環境の研究
32	大賀　克彦（奈良女子大学古代学学術センター特任講師）	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
33	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
34	福永　香(国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室上席研究員）	文化財の非破壊診断調査
35	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
36	丸山　真史（東海大学海洋学部講師）	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
37	菊地　大樹（日本学術振興会特別研究員PD）	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
38	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
39	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言、調査研究
40	上中　央子	微化石の調査研究、花粉分析
41	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
42	光谷　拓実	年輪年代学及び木材解剖学に関する研究
43	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木材組織学に関する研究
44	藤井　裕之	年輪年代学に関する研究
45	児島　大輔（大阪市立美術館学芸員）	美術史（仏教美術・東洋美術）及び年輪年代学に関する研究
46	山中　敏史	遺跡データベースの内容の検討に関する研究
47	西村　康（財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査の計測技術と成果の活用に関する研究
48	西口　和彦（有限会社桜小路電気代表取締役社長）	遺跡探査の計測技術と成果の活用に関する研究
49	狭川　真一（財団法人元興寺文化財研究所副所長）	元興寺文化財研究所との連携を通じ、遺跡情報及び研究手法に関する研究
50	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡の計測技術と成果の活用に関する研究
51	野口　淳（NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長）	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

平成31年3月31日現在

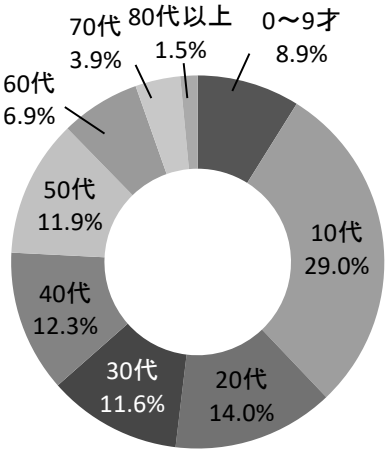
	H26	H27	H28	H29	H30
国立博物館計	10,236,963 （※1）	13,226,289 （※1）	13,053,220	15,795,489	15,131,386
東京国立博物館	4,248,437 （※1）4,929,191	6,724,460 （※1）7,427,419	6,433,867	7,014,006	7,679,851
京都国立博物館	2,964,705	3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078
奈良国立博物館	1,196,669	1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654
九州国立博物館	1,827,152	2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803
文化財研究所計	2,128,972 （※1）2,412,619	2,546,715 （※1）3,707,015	7,558,441	14,224,921	18,425,847
東京文化財研究所	1,603,086	1,941,504	2,567,780	3,337,734	4,494,214
奈良文化財研究所	525,886 （※1）809,533	605,211 （※1）1,765,511	4,990,661	10,887,187	13,931,633
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	6,200	7,504	7,856	9,469	10,779
機構本部	325,132	292,721	220,638	272,228	336,016
e国宝	1,515,442	1,788,265	2,854,622	3,605,534	3,471,727
国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）	－	－	6,452	26,914	54,338
文化財活用センター					29,320
文化財防災ネットワーク	－	102,574	62,004	75,375	93,817

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・文化財防災ネットワークは平成27年3月にサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。
・文化財活用センターは平成30年7月にサイトを開設し、アクセス件数のカウントを開始した。
・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。
27年度以前の下段※1の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。
（他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。）

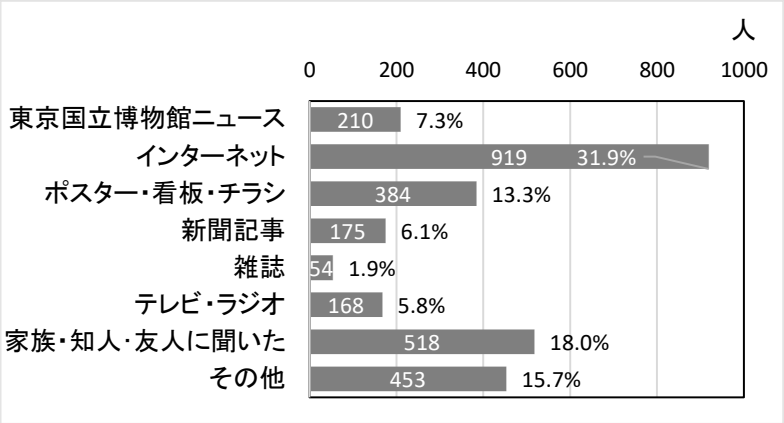
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間: 平成30年4月1日（日）～平成31年3月31日（日） 開館日数:311日間
回答者数: 2,510人
来館者数: 989,508人
アンケート回収率: 0.25%

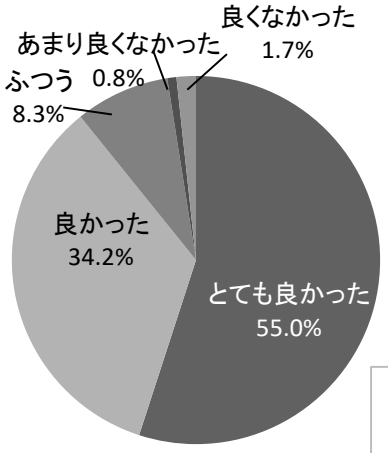
①アンケート回答年齢層



②認知経路 （複数回答）

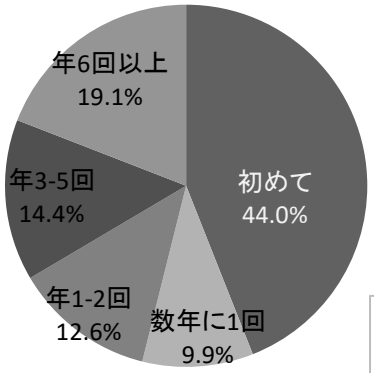


③展示に関する満足度



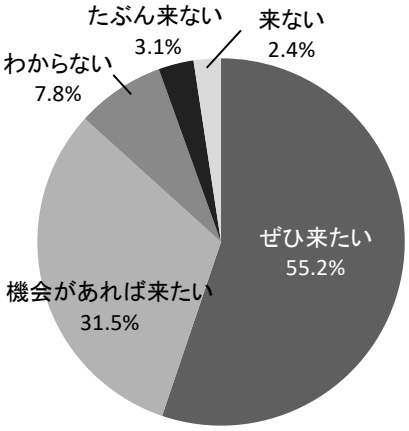
上位合計
89.2%

④来館頻度



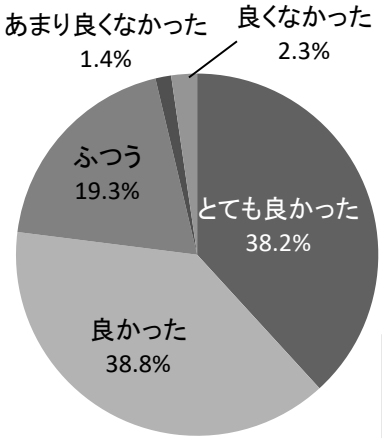
上位合計
53.9%

⑤再来館希望率



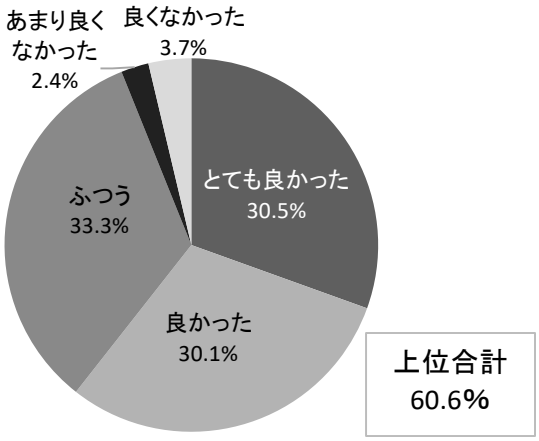
上位合計
86.7%

⑥ミュージアムショップに対する満足度

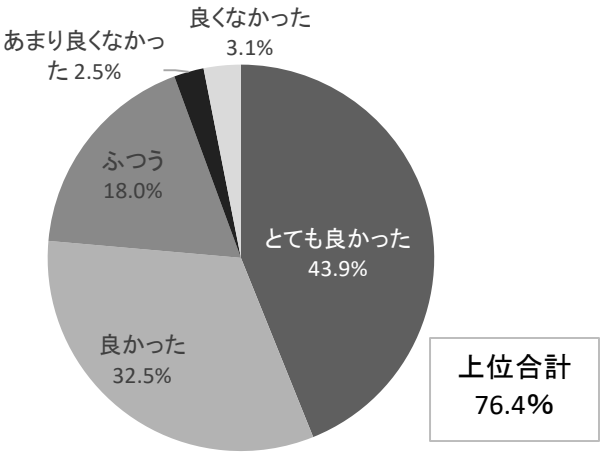


上位合計
77.0%

⑦レストランに対する満足度



⑧館内スタッフの対応について

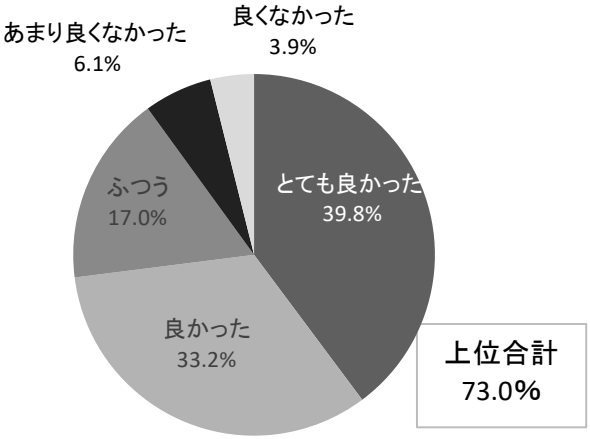


主な意見・感想

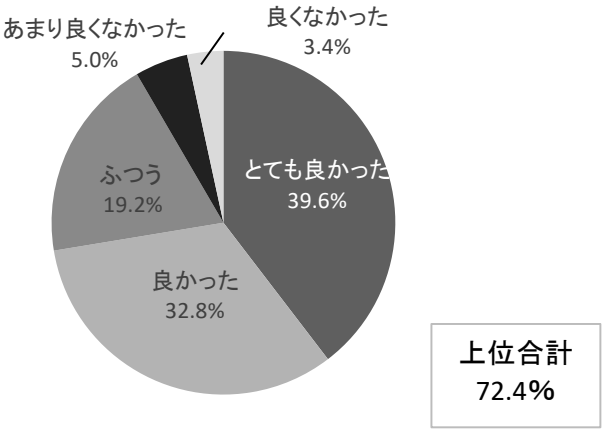
・四季折々の展示構成に工夫があり、展示作品を鑑賞するのが楽しみ。
・刀剣の紋や地金が以前より見やすくなっている。
・「キッズデー」や「親と子のギャラリー」など、子ども向けの企画が増えており来館が楽しい。
・年間を通じて、沢山のイベントがあり、展示と併せて楽しめるのが嬉しい。
・国宝など有名な作品の重量が知りたい。
・展示施設が多く敷地が広い反面、案内が少ないため、現在地がわからなくなってしまった。
・Wi-Fiの導入は当然だが、全体的につながり難い場所が多い。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：529人

1．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板



2．（外国人アンケート）展示のパネル、キャプション



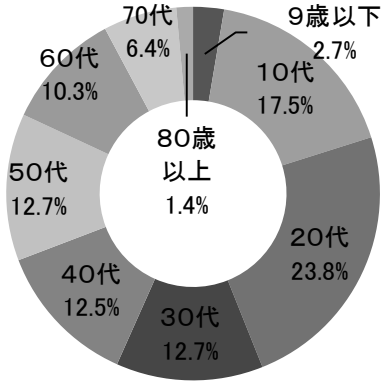
主な意見・感想

・子供も楽しめる屏風（レプリカ）の展示がよかった。
・多言語の解説や案内があり、観覧しやすかった。
・外国人にでも理解できるよう掘り下げた説明や見ただけで理解できる解説が欲しい。
・日本の歴史がわかりやすい展示をして欲しい。

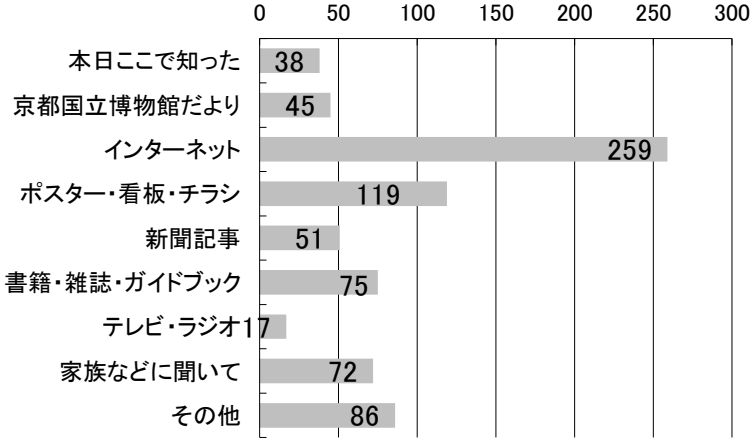
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：平成30年6月12日（火）～平成31年3月17日（日）　開館日数：149日間
回答者数：580人
来館者数：146,314人（平常展開催期間のみ）
アンケート回収率：0.4%

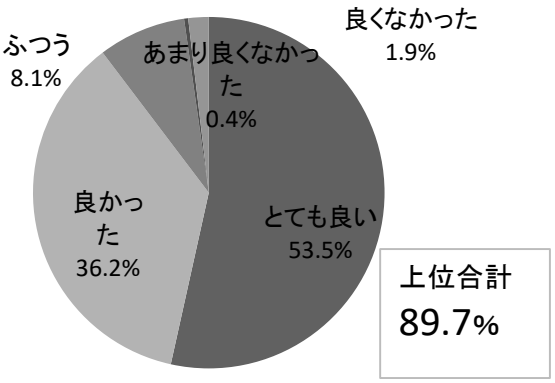
①アンケート回答年齢層



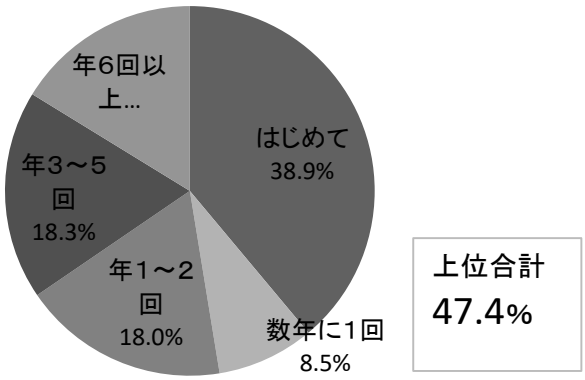
②認知経路（複数回答）



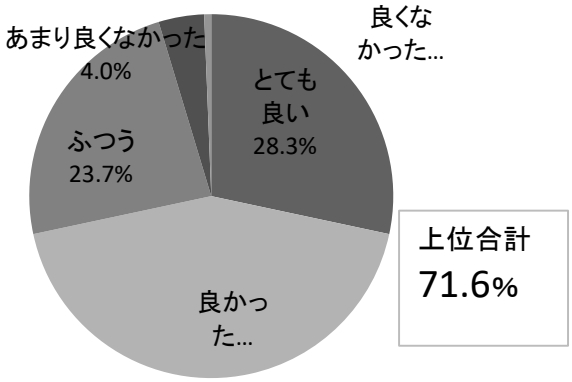
③展示に関する満足度



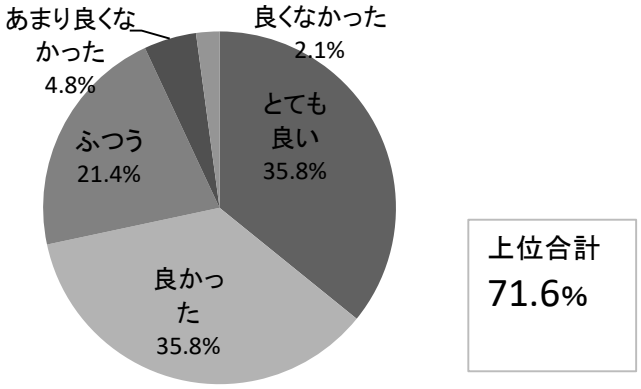
④来館頻度



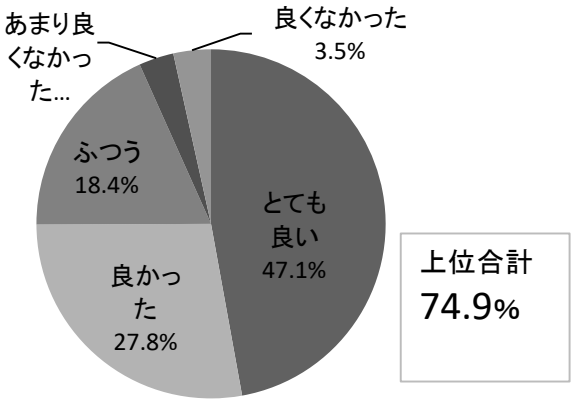
⑤ミュージアムショップに対する満足度（29年度）



⑥レストランに対する満足度（29年度）



⑦館内スタッフの対応について（29年度）



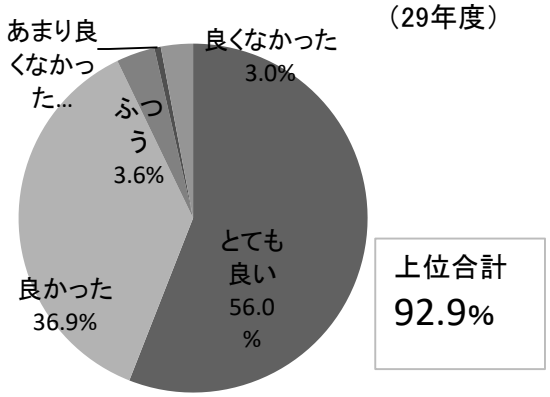
主な意見・感想

・展示が素晴らしい
・夜間開館がよい
・また来館したい
・トラりんが素晴らしい
・展示作品の撮影を許可してほしい

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：184人

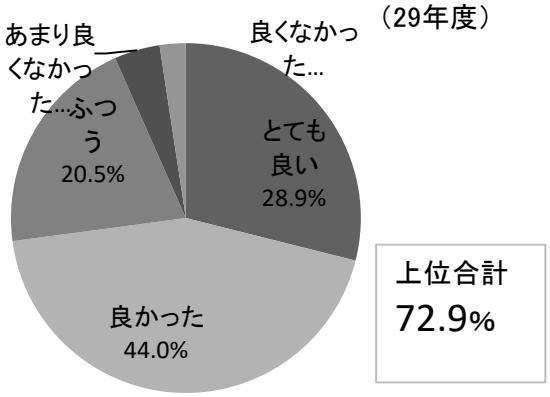
1．平常展示の全体的な印象について

（29年度）



2．解説について

（29年度）



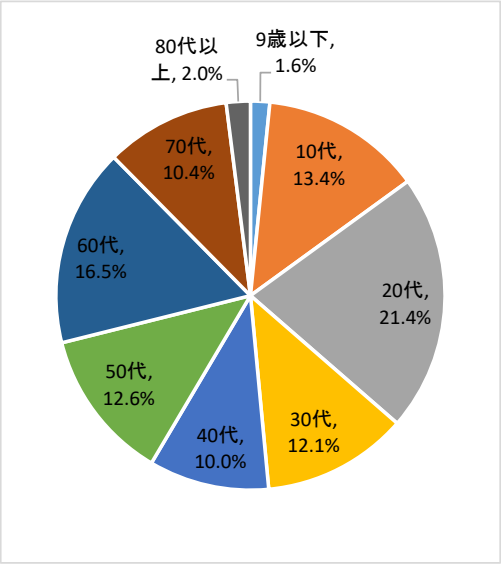
主な意見・感想

・英訳があるため楽しめた
・英訳の解説を増やしてほしい

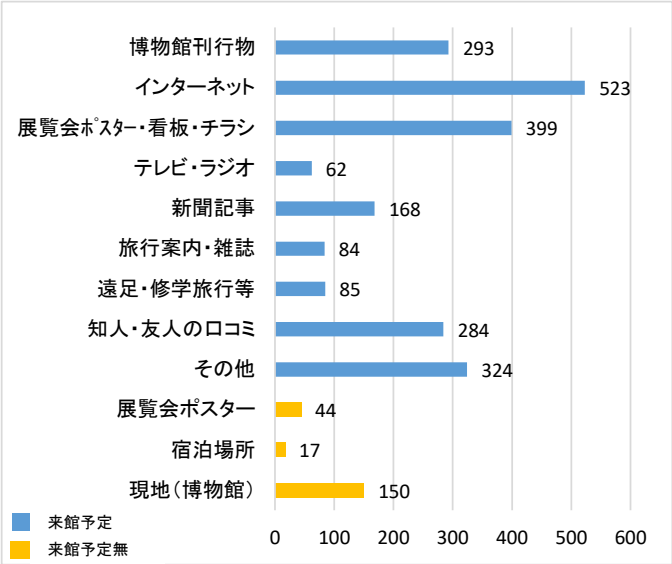
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：平成30年4月1日（日）～平成31年3月31日（日）　開館日数：323日間
回答者数：1,648人（来館者数：527,786人　アンケート回収率：0.3%）

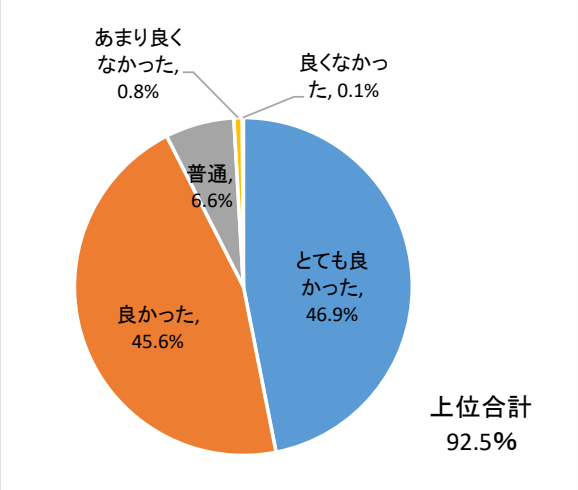
①年齢層



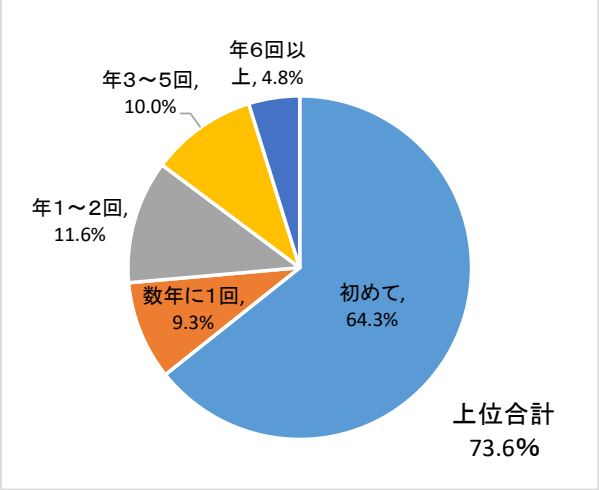
②認知経路（複数回答）



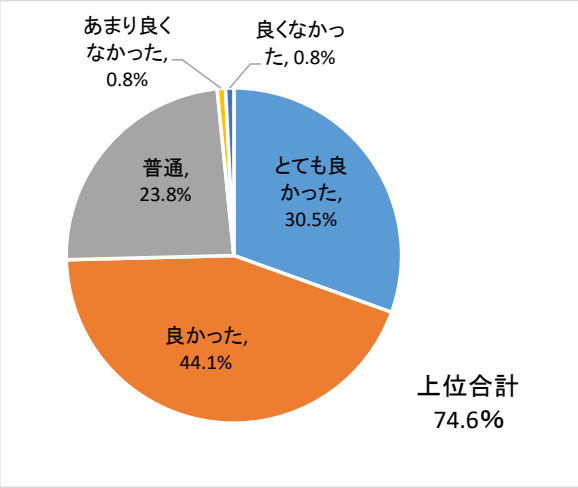
③展示に関する満足度



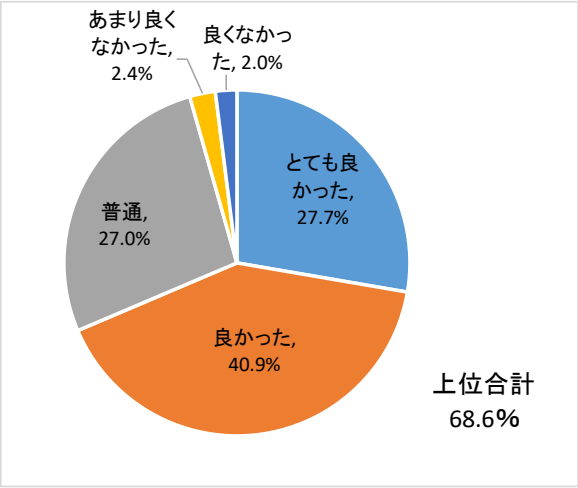
④来館頻度



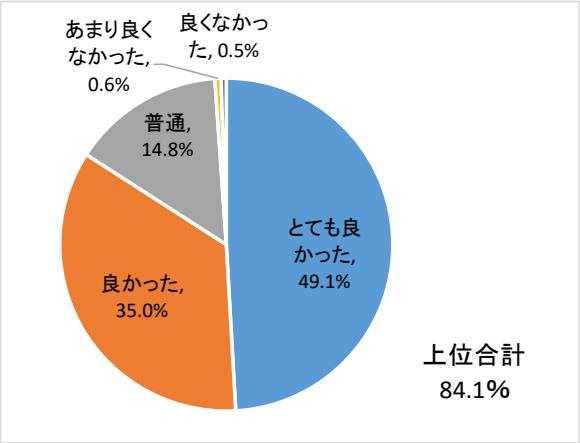
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



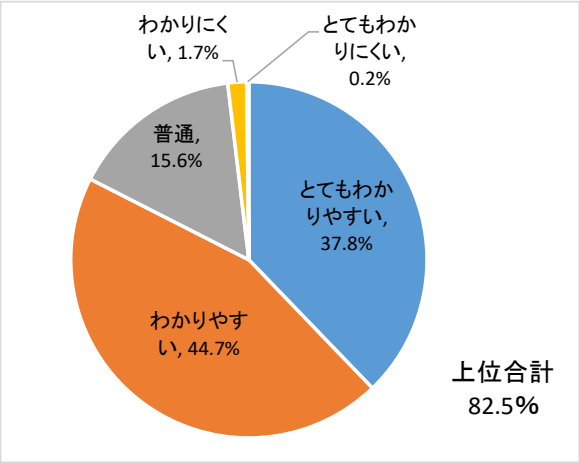
⑦スタッフ対応に関する満足度



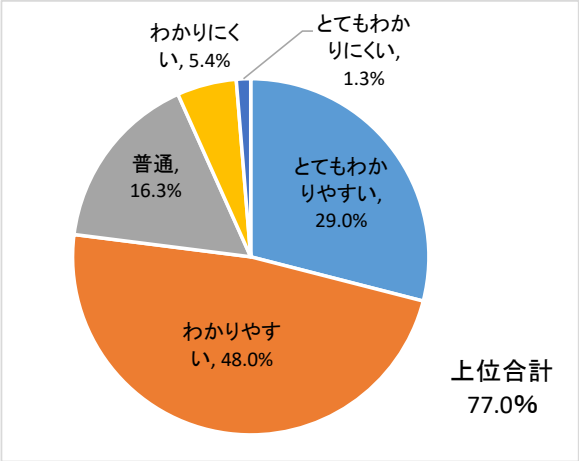
⑧主な意見・感想
・いくつも興味深い名品が見られた。
・量的・質的にも圧巻でした。
・夜間を利用しました。ゆっくり見られてとても良かった。継続してほしい。
・スタッフの親切な対応が嬉しかった。
・展示内容は勿論、明治の近代建築の美しさも味わえて大満足。
・説明文が細かくて見づらい。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：179人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

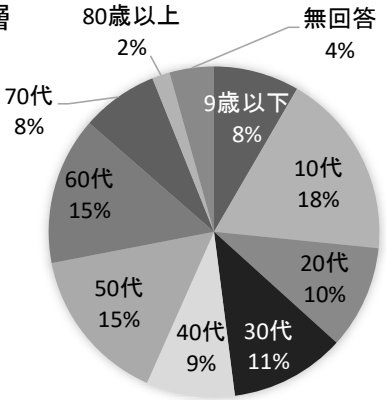


主な意見・感想
・素晴らしく、またきわめて学ぶところの多い精細な品々の展示でした。貴館の学術的技術に賛辞を送ります。
・日本の文化を知ることができ、とても楽しく過ごせました。ありがとうございます。
・スタッフが本当に協力的で、笑顔を絶やさず、すがすがしい！トイレも非常に清潔でした。
・レストランのメニューをもう少し充実させてもらいたいです。特にベジタリアン向けのメニューをお願いします。
・日本語の説明はたくさんあったのに、英語が少なかったのが残念だった。
・スケッチが許可されているのは非常によかった。

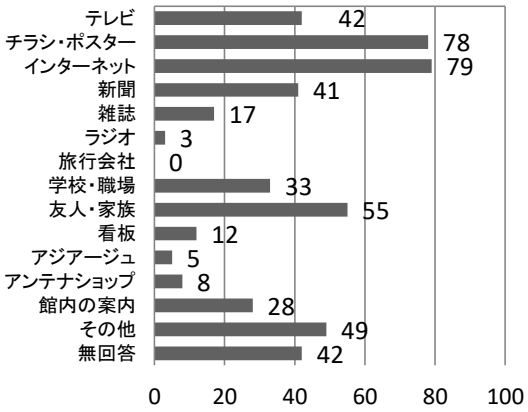
文化交流展　アンケート集計結果

開催期間：平成30年4月1日（土）～31年3月31日（土）　開館日数：309日間（＊7/7は大雨、10/6は台風のため休
回答者数：458人　来館者数：349,114人　アンケート回収率：0.13%

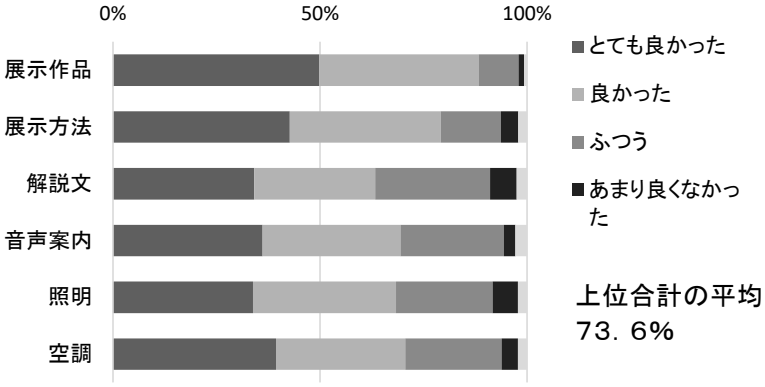
①年齢層



②認知経路（複数回答）

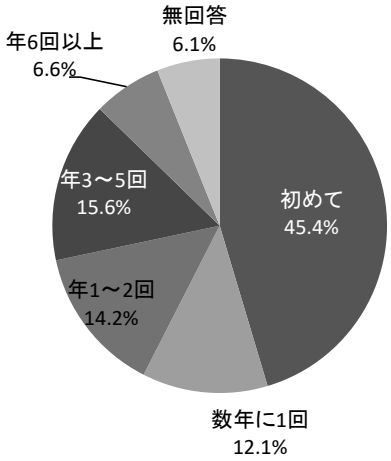


③展示に関する満足度

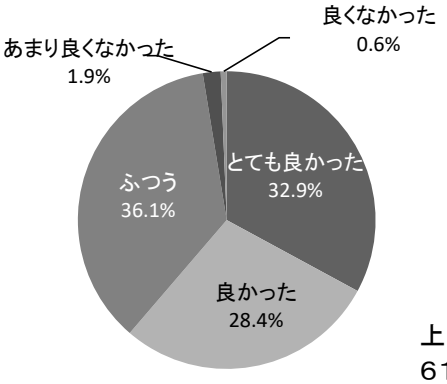


上位合計の平均
73．6%

④来館頻度

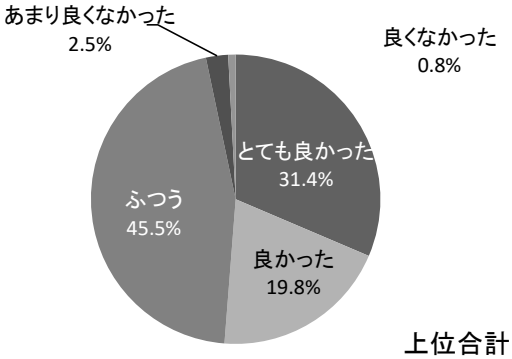


⑤ミュージアムショップに対する満足度



上位合計
61．3%

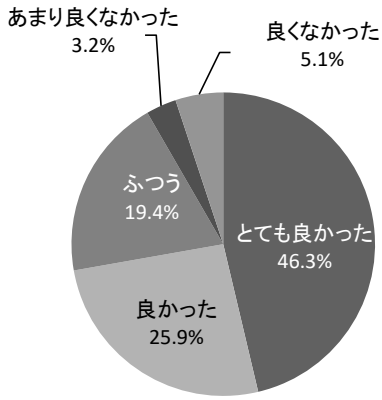
⑥レストランに対する満足度



上位合計
51．2%

九州国立博物館

⑦館内スタッフの対応について

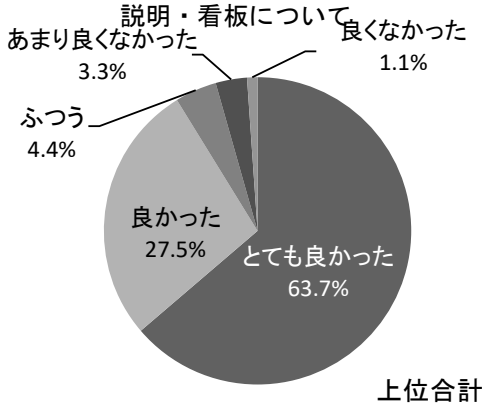


上位合計
72．2%

主な意見・感想
・古い時代から現代までが分かりやすくまとまっていたため楽しめた。
・文化交流展の中身が前回（昨年）と替わっており、大変楽しめた。
・仁和寺に行っても拝観出来ない経音堂を見せて頂き感謝。
・仁和寺のずらりと並ぶ仏像には圧倒された。この様な展示方法は素晴らしいと思う。
・銅鐸展や高等学校考古名品展など貴重な作品をいくつも見る事が出来た。
・武具、刀剣、甲冑に展示が少ない。
・順路がわかりづらい。また、展示ガラスに触れたりするとすぐに係員に注意された。

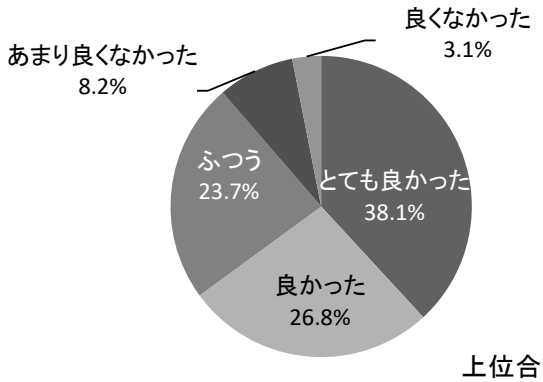
《外国人アンケート集計結果》
回答者数：112人

１．（外国人アンケート）施設の案内・説明・看板について



上位合計
91．2%

２．（外国人アンケート）展示のパネル・キャプションについて



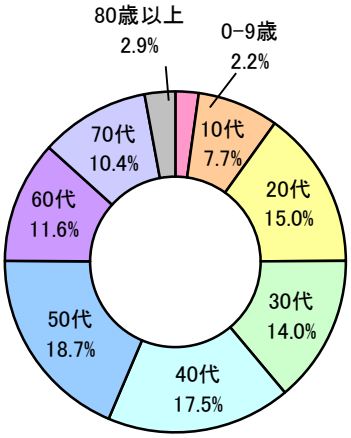
上位合計
64．9%

主な意見・感想
・日本とアジアの関係がわかる素晴らしい展示だった。
・施設や案内がよくできている。日本を理解する上で非常に役立った。
・スタッフは非常に親切で、礼儀正しかった。
・写真が撮れるようにしてほしい。
・素晴らしい展示だったが、（英語での）解説がない作品があり残念だった。
・英語での説明文は日本度ほど十分でないように感じた。
・縄文や弥生時代の人々の生活についての写真や画像がなくて残念だった。
・シルクロードの最終地点は中国だと思っていたので、もっと日本が関わっていたという情報があれば面白いと思う。
・バックヤードツアーが面白かった。よい企画だと思いました。

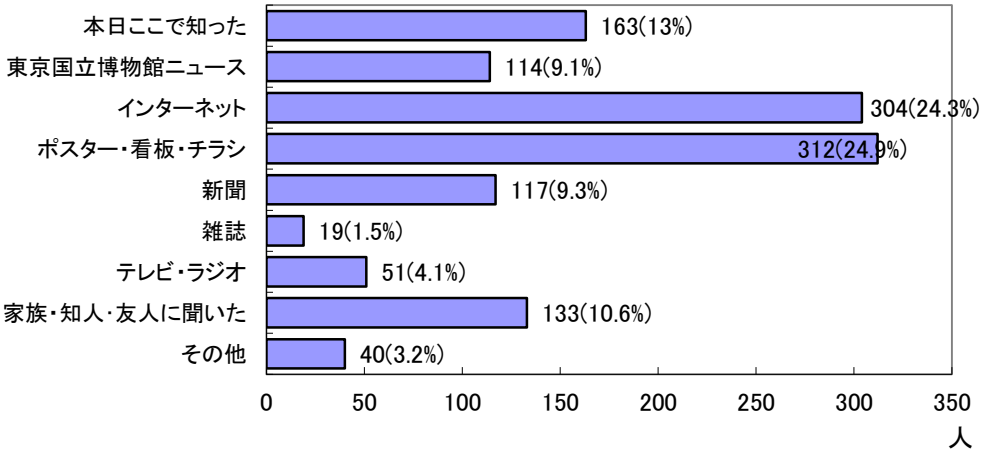
アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝
アンケート集計結果

開催期間：平成３０年１月１６日（火）～５月１３日（日）（９９日間）
回答者数：９９８人（総入館者数：２５０，１００人　アンケート回収率：０．４％）

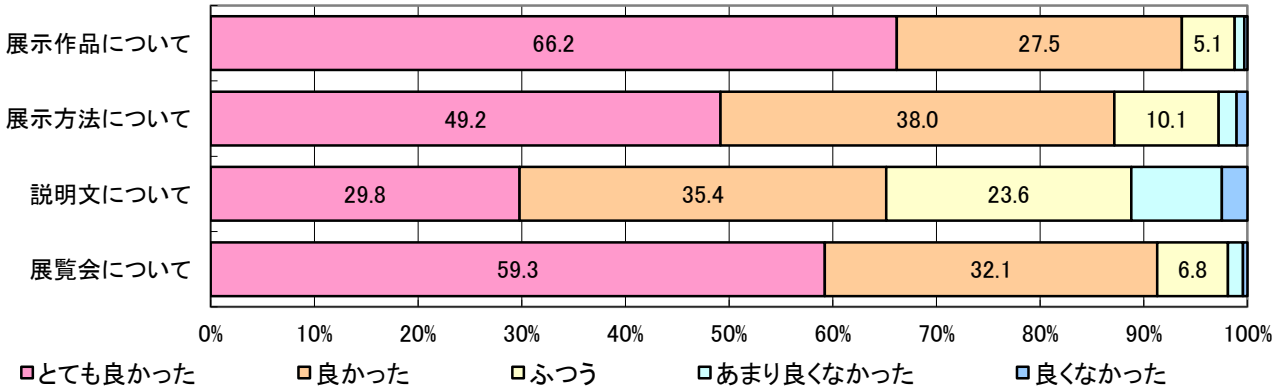
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展覧会	1.4	0.4
説明文	8.7	2.5
展示方法	1.7	1.0
展示作品	0.9	0.3

（%）

④主な意見・感想

・なじみの薄いアラビア世界の一端を知ることができた。
・発掘調査を維持していることに感謝したいと思った。
・文化が入り混じる様を実感でき感銘を受けた。
・会場前のアラビアテントで生活風景を体験できてよかった。
・観光で訪れることが難しい国のことを知れる良い機会だった。

古代より交易路が張り巡らされ、人々と諸文明が行き交ったアラビア半島。本展では、その躍動的な歴史と文化を示すサウジアラビア王国の至宝を日本で初めて公開しました。100万年以上前にさかのぼるアジア最初の石器、5000年前に砂漠に立てられた人形石柱、ヘレニズム時代やローマ時代に賑わった古代都市からの出土品、イスラームの聖地マッカ（メッカ）のカァバ神殿で17世紀に使われた扉、サウジアラビア初代国王の遺品（20世紀）など、400件以上の貴重な文化財をとおして、アラビア半島の知られざる歴史を紹介した本展には25万人を超える方々にご覧いただきました。

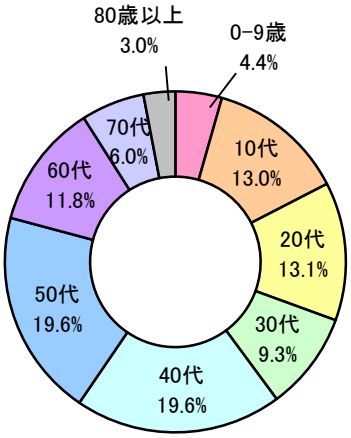
アンケートの結果、展覧会に対して91.3%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。その一方で「アラビア文字の書かれた作品に何と書かれていたか訳をつけて欲しかった」、「会場動線がやや複雑でどう進むのか分からなかった」などのご意見も寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

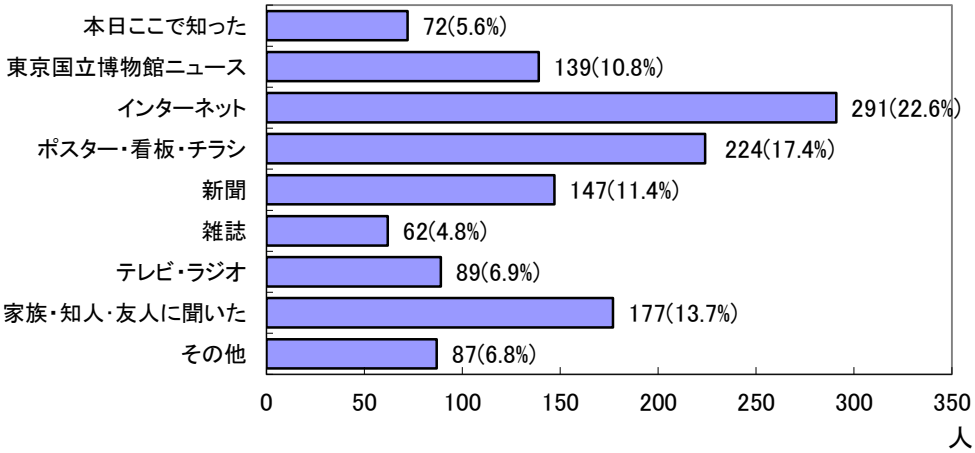
特別展「名作誕生－つながる日本美術」
アンケート集計結果

開催期間：平成３０年４月１３日（金）～平成３０年５月２７日（日）（４０日間）
回答者数：８１５人（総入館者数：１７３，９９５人　アンケート回収率：０．４７％）

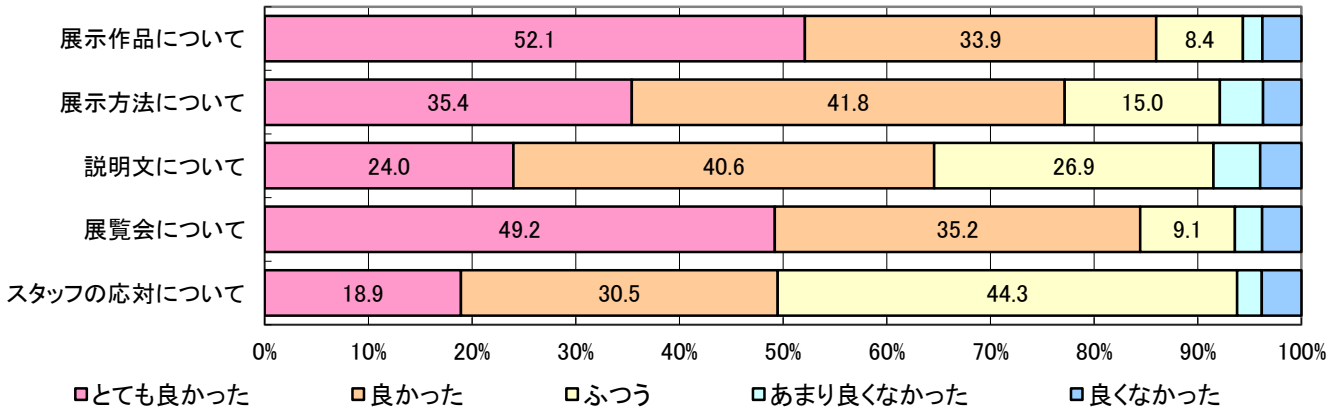
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- タイトル通りの「名作」揃いで見ごたえがあった。
- 作品を見比べることで、作品単体を見るだけで分からなかったことに気づくことができて良かった。
- 日本美術の流れがよく理解できる展覧会だった。
- 音声ガイドのナレーションが聞きやすく、内容も理解がしやすかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	1.9	3.8
展示方法	4.2	3.7
説明文	4.5	4.0
展覧会	2.6	3.8
スタッフの応対	2.4	3.8

（%）

日本美術史上には「名作」と呼ばれる作品が数多く存在します。時代を代表する作家によって作られた名作、海を越えて日本へもたらされた名作、古典に学び新時代の美意識で生まれ変わった名作など、「名作」はさまざまなドラマをもって誕生し、語り継がれ、作り継がれてきました。

こうした作品同士の影響関係や共通する背景に着目して、鑑真ゆかりの木彫や美麗な普賢菩薩など仏教美術の白眉から、雪舟・若冲らの代表作、伊勢物語や源氏物語などの古典文学から生まれた工芸、さらには近代絵画まで、地域・時代を超えた名作の数々を12のテーマでご紹介した本展には17万人を超える方々にご覧いただきました。

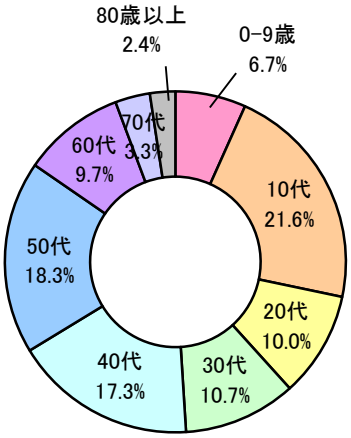
アンケートの結果、展覧会に対して84.4%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。その一方で「導線の関係で絵巻を逆方向に見るのは如何なものか」、『同じ部屋の中でテーマが唐突に変わるなど「つながり」がわかりにくい』などのご意見も寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

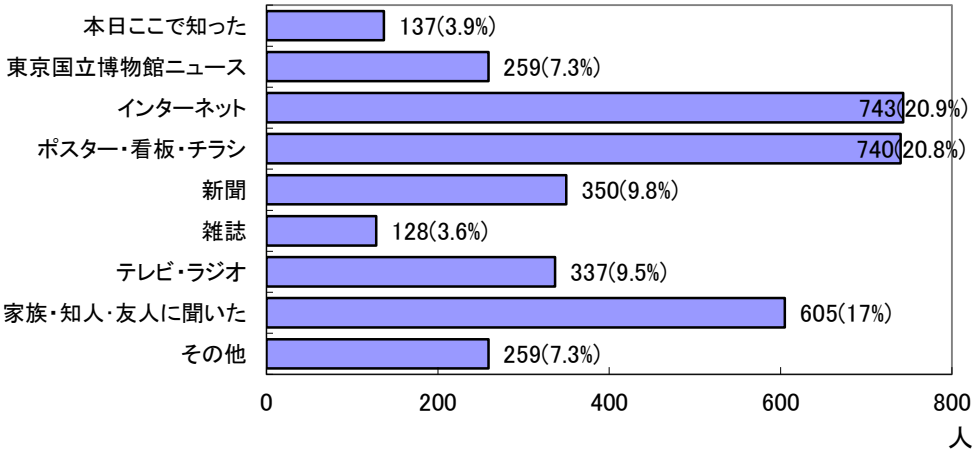
特別展「縄文―1万年の美の鼓動」
アンケート集計結果

開催期間：平成３０年７月３日（火）～平成３０年９月２日（日）（５５日間）
回答者数：２，２３９人（総入館者数：３５４，２５９人　アンケート回収率：０．６３％）

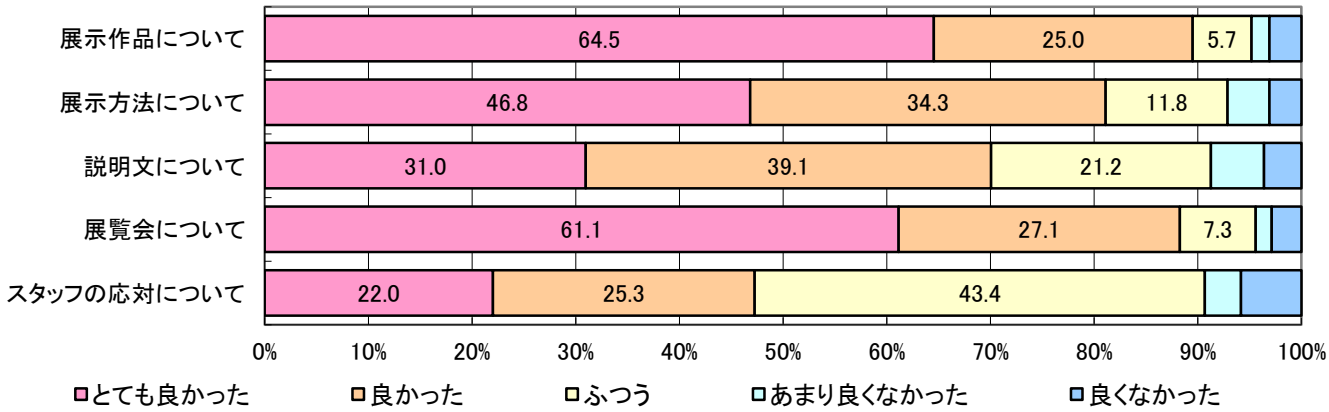
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 作品を前後左右から見られて非常に満足だった。
- 一般的な土器だけでなく、大きさ・形状・文様など様々なパターンのある土器がこれだけ見られてよかった。
- 縄文に関する作品が全国から集まっていて見応えがあった。
- 豊かで平和な暮らしが土器の美しさに反映されていることがよくわかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	1.8	3.1
展示方法	4.0	3.1
説明文	5.1	3.6
展覧会	1.5	2.9
スタッフの応対	3.5	5.8

（%）

縄文時代が始まったとされる約1万3千年前。狩猟や漁撈（ぎょろう）、採集を行っていた縄文時代の人びとが、日々の暮らしのなかで工夫を重ねて作り出したさまざまな道具は、力強さと神秘的な魅力にあふれています。「縄文の美」をテーマに、縄文時代草創期から晩期まで、日本列島の多様な地域で育まれた優品を一堂に集め、その形に込められた人びとの技や思いに迫った本展には35万人を超える方々にご覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して88%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。その一方で「土器の内側をもっと見たかった」、「国宝が全て揃っていない期間が長い」、「作品の重量が知りたかった」などのご意見も寄せられました。

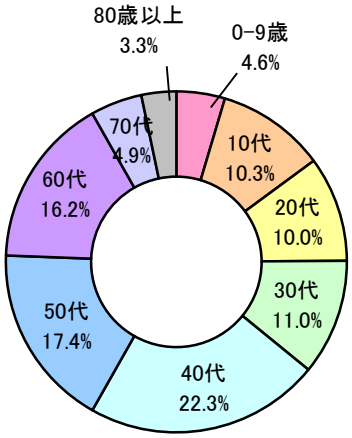
今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」

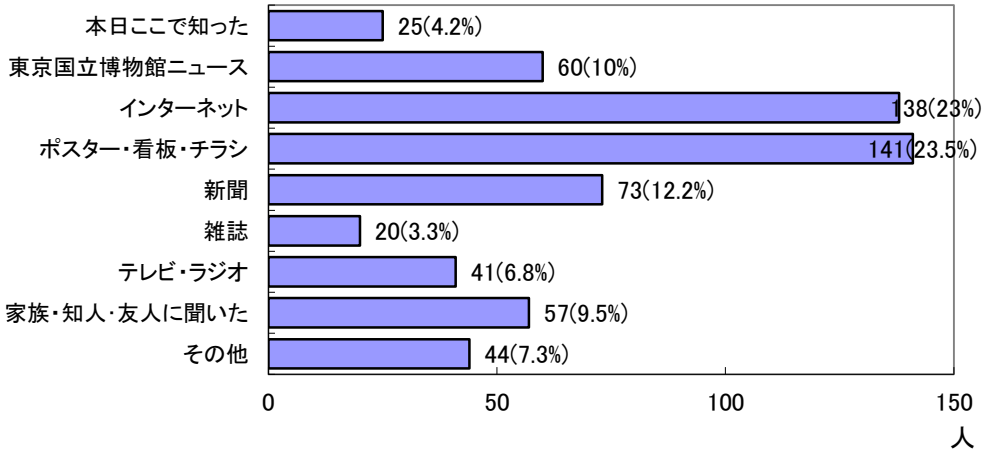
アンケート集計結果

開催期間：平成３０年９月２日（火）～平成３０年１２月９日（日）（６０日間）
回答者数：３９７人（総入館者数：８０，１９１人　アンケート回収率：０．５％）

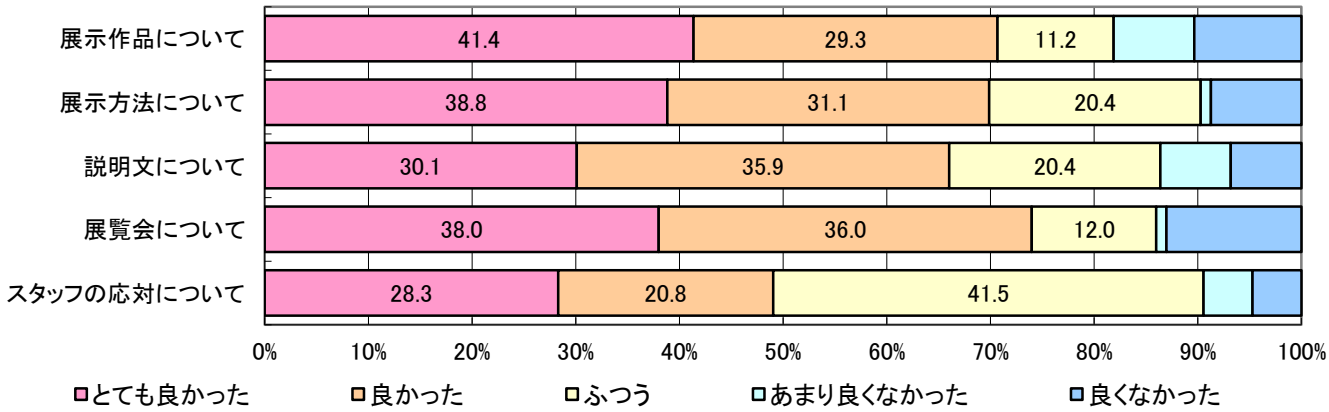
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 「デュシャン」と「日本美術」に共通項があるという視点が斬新的で新たな発見ができてよかった。
- 作品を追いながら、デュシャンの人生と芸術を知ることができた。
- デュシャンのポートレートなどを取り入れた展示デザインがとてもよかった。
- 日本では中々見ることのできない作品を見ることができた。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	7.8	10.3
展示方法	1.0	8.7
説明文	6.8	6.8
展覧会	1.0	13.0
スタッフの応対	4.7	4.7

（%）

マルセル・デュシャン（1887 - 1968）は、伝統的な西洋芸術の価値観を大きく揺るがし、20世紀の美術に衝撃的な影響を与えた作家です。2部構成で、第1部「デュシャン　人と作品」（原題The Essential Duchamp）展は、フィラデルフィア美術館が有する世界に冠たるデュシャン・コレクションより、油彩画、レディメイド、関連資料および写真を含む計150余点によって、彼の創作活動の足跡をご覧いただきました。第2部「デュシャンの向こうに日本がみえる。」展は、もともと西洋とは異なった社会環境のなかで作られた日本の美術の意味や、価値観を浮かび上がらせることによって、日本の美の楽しみ方を新たに提案させていただいた本展は8万人を超える方々にご覧いただきました。

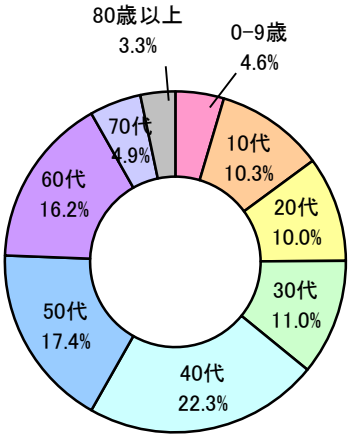
アンケートの結果、展覧会に対して74%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。その一方で「デュシャンと日本美術の対比が難しい」、「セット券に気付かなかった」などのご意見も寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

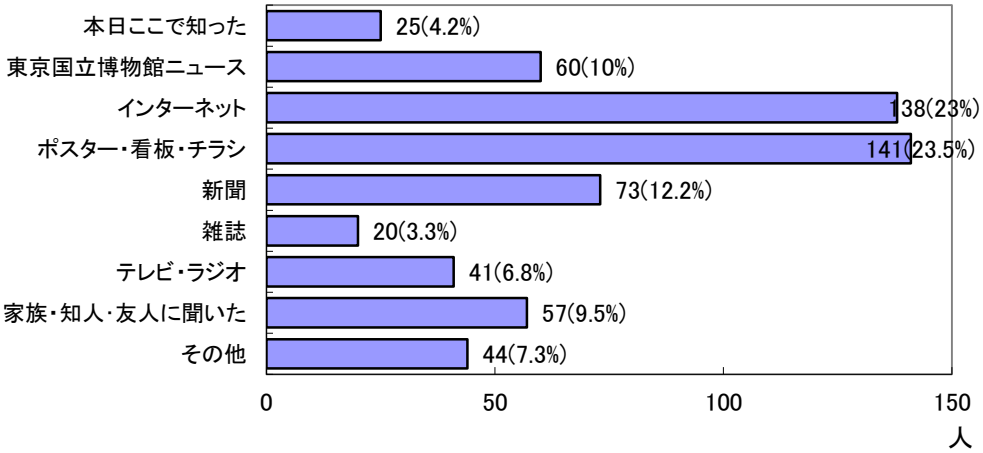
特別展「京都 大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」
アンケート集計結果

開催期間：平成３０年９月２日（火）～平成３０年１２月９日（日）（６０日間）
回答者数：３９７人（総入館者数：１９７，００４人　アンケート回収率：０．２%）

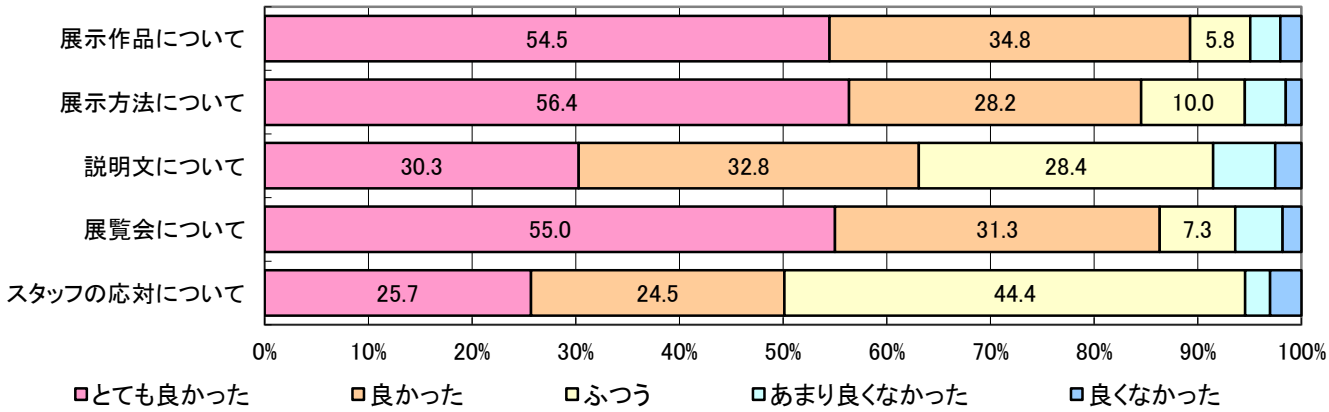
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 十大弟子像を３６０度何処からも見られる展示は非常に満足だった。
- 展示スペースに余裕があり、ゆったり見ることができた。
- 光背をじっくり見られる機会がよかった。
- 大報恩寺の説明からメインの仏像の展示まで、流れがわかりやすかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.9	2.0
展示方法	3.9	1.5
説明文	6.0	2.5
展覧会	4.6	1.8
スタッフの応対	2.4	3.0

（%）

京都市上京区に所在する大報恩寺は、鎌倉時代初期に開創された古刹です。釈迦如来坐像をご本尊とし、千本釈迦堂の通称で親しまれています。大報恩寺の秘仏本尊で、快慶の弟子、行快作の釈迦如来坐像、快慶作の十大弟子立像、運慶の弟子で、行快とほぼ同じ世代である肥後定慶作の六観音菩薩像など、大報恩寺に伝わる鎌倉彫刻の名品の数々を展示した本展には19万人を超える方々にご覧いただきました。

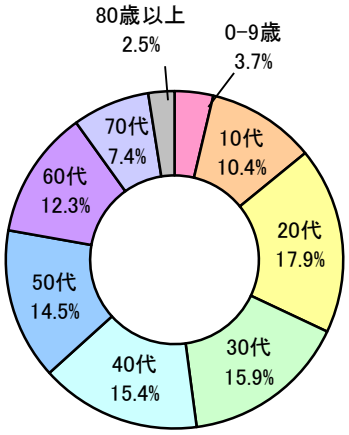
アンケートの結果、展覧会に対して86%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことが出来ました。その一方で「撮影可能な範囲がわかりにくい」、「展示作品とキャプションが離れすぎている」などのご意見も寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

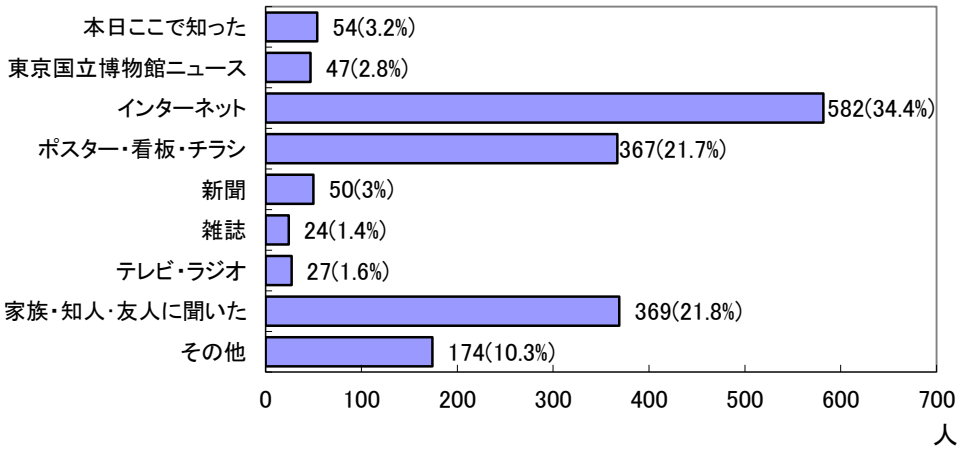
特別展「顔真卿　王羲之を超えた名筆」
アンケート集計結果

開催期間：平成３１年１月１６日（火）～平成３１年２月２４日（日）（３５日間）
回答者数：１，２２３人（総入館者数：１９８，９２０人　アンケート回収率：０．６１％）

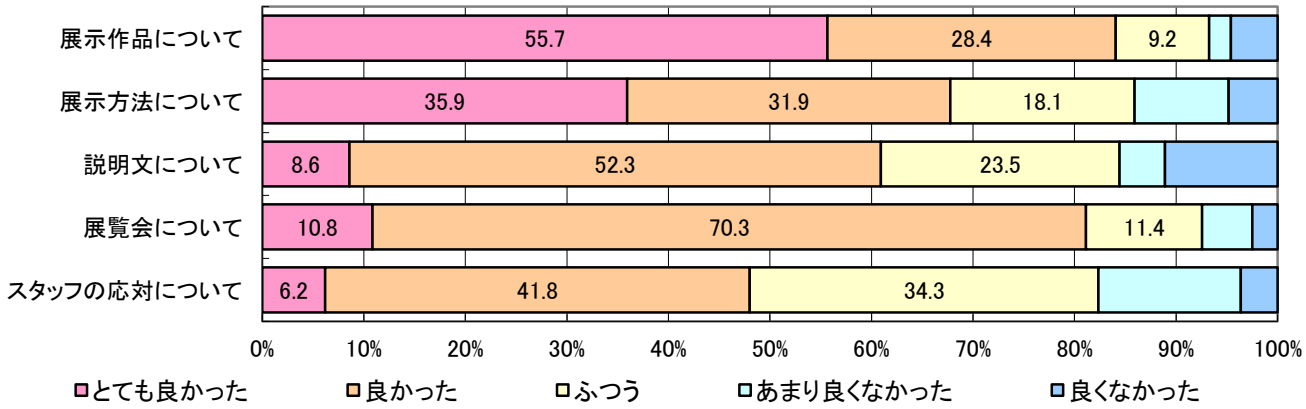
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- 書の歴史を感じられ大変感動した。
- 顔真卿の作品が一堂に会する機会に出会えてよかった。
- 作品の貸与を通じた文化交流を目にして嬉しかった。
- 祭姪文稿が見られた反面、混雑で充分に見られなかった。
- 中国からの来館者が多い割に中国語のアナウンスが少ない。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.1	4.6
展示方法	9.3	4.8
説明文	4.5	11.1
展覧会	5.0	2.5
スタッフの応対	14.0	3.6

（%）

中国の歴史上、東晋時代(317–420)と唐時代(618–907)は書法が最高潮に到達しました。書聖・王羲之(おうぎし、303–361)が活躍した東晋時代に続いて、唐時代には虞世南、欧陽詢、褚遂良(ぐせいなん、おうようじゅん、ちょすいりょう)ら初唐の三大家が楷書の典型を完成させました。そして顔真卿(がんしんけい、709–785)は三大家の伝統を継承しながら、顔法と称される特異な筆法を創出します。

書の普遍的な美しさを法則化した唐時代に焦点をあて、顔真卿の人物や書の本質に迫るとともに、後世や日本に与えた影響にも目を向け、唐時代の書の果たした役割を検証本展には19万人を超える方々にご覧いただきました。

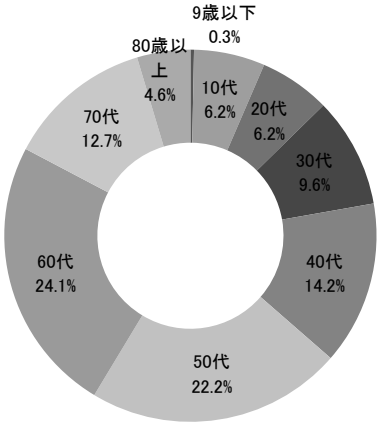
アンケートの結果、展覧会に対して81%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。その一方で「会場内のスタッフの声掛けが不快」、「作品の前でゆっくり観賞することができなかった」、「休憩用できるスペースが少ない」等のご意見も寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

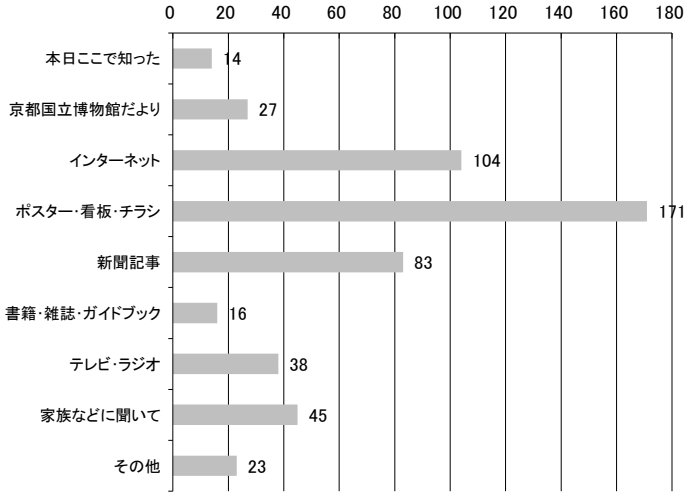
特別展覧会「池大雅」
アンケート集計結果

開催期間：平成30年4月7日（土）～ 5月20日（日）（38日間）
回答者数：　377人（総来館者数　67,399人　アンケート回収　0.6%）

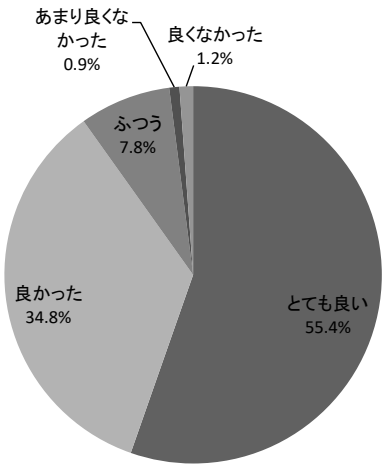
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
90.2%

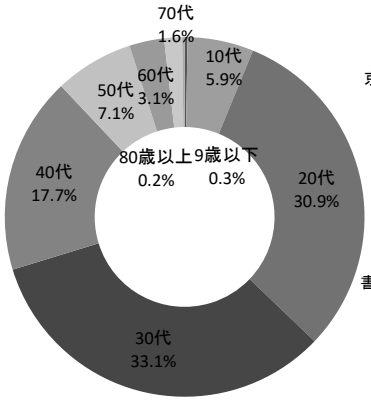
④主な意見・感想

・素晴らしかった。
・展示数が多くよかった。
・また来館したい。
・解説がガラスに貼られているため作品を横から鑑賞できなかった。
・展示室内が寒かった。

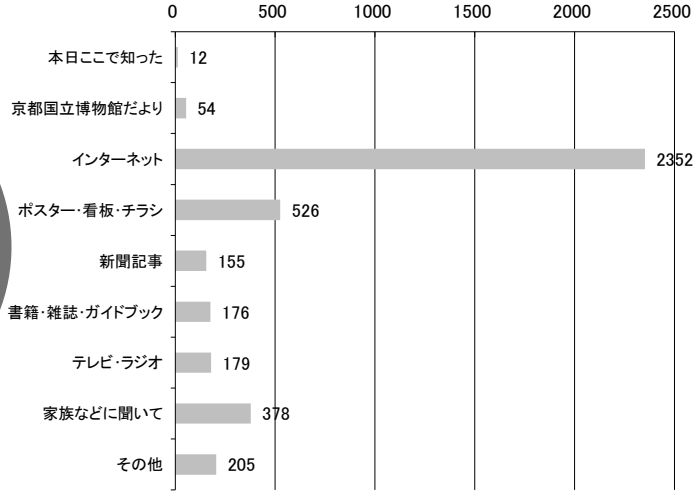
特別展覧会「京のかたな」
アンケート集計結果

開催期間：平成30年9月29日（土）～ 11月25日（日）（50日間）
回答者数：2,870人（総来館者数 253,003人　アンケート回収率 1.1%）

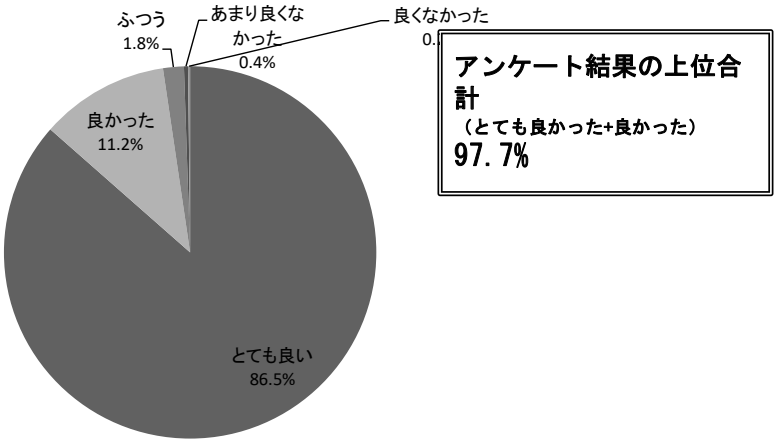
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

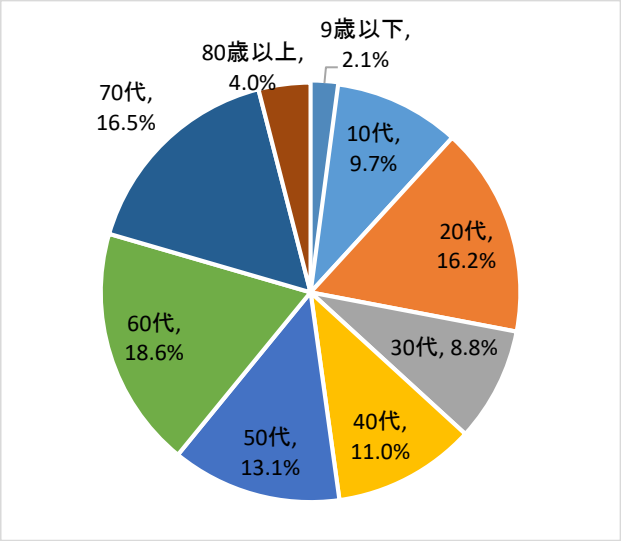
・展示内容が素晴らしい。
・三日月宗近を見ることができた。
・へし切長谷部を見ることができた。
・吉光の作品を見ることができた。
・ニコ生放送が楽しかった。
・刀剣乱舞onlineとのコラボに感謝している。
・開催に感謝している。
・刃紋の見づらい作品がある。

創建250年記念特別展「国宝　春日大社のすべて　」

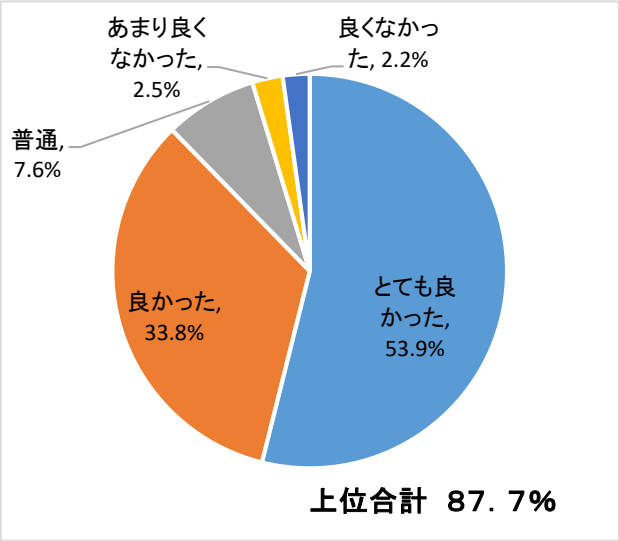
アンケート集計結果

開催期間：平成30年4月14日～6月10日(51日間)
回答者数：369人　入場者数：95,950人　回収率：0.38%

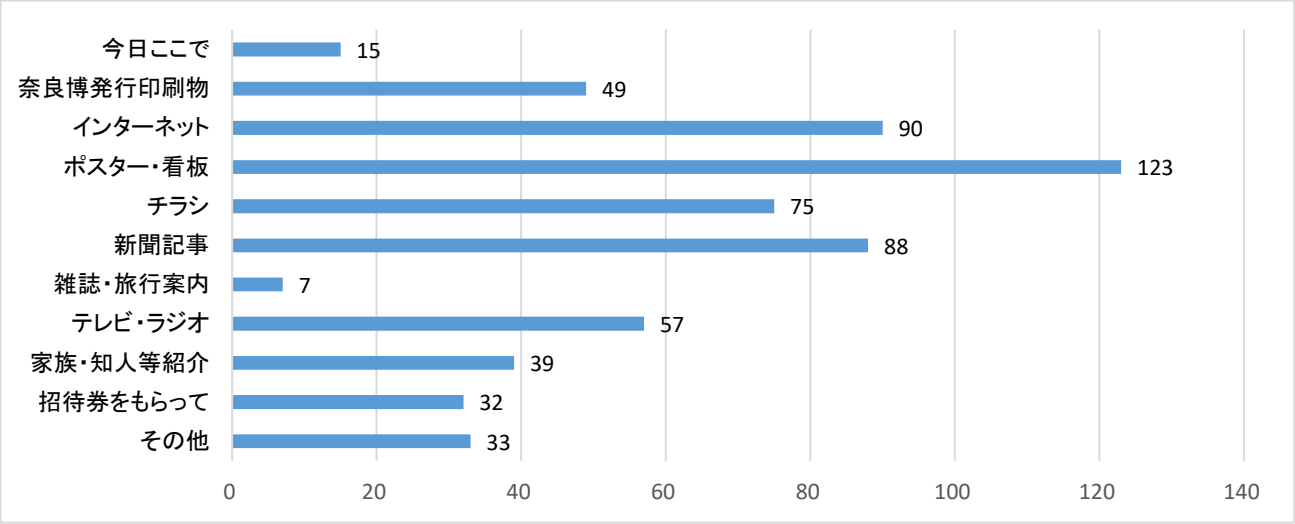
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

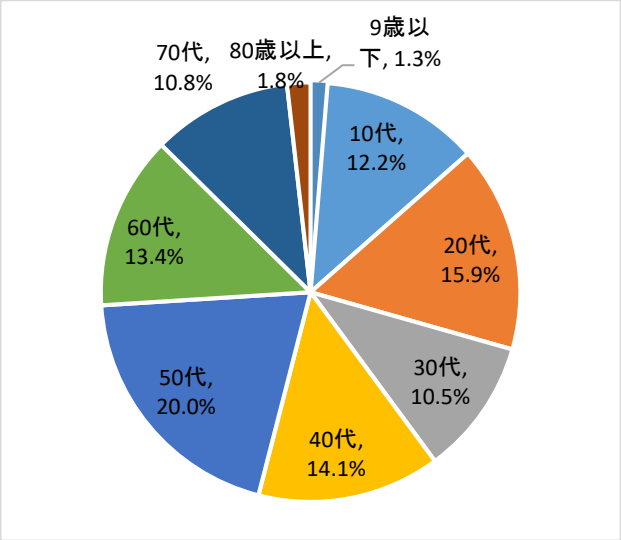
・貴重な歴史的資料を見て、春日大社について理解を深めることができた。
・神道と仏教の習合の流れが良く分かった。
・復元模造と並べて展示されていたため、当時のきらびやかな作品をしっかりイメージできた。
・照明の当て方の工夫がされていたのか、とても見やすかった。
・展示品が高い位置にあるため、見えづらかった。
・観覧マナーの悪い人には注意してほしい。

修理完成記念特別展　糸のみほとけ　−国宝　綴織當麻曼荼羅と繍仏−

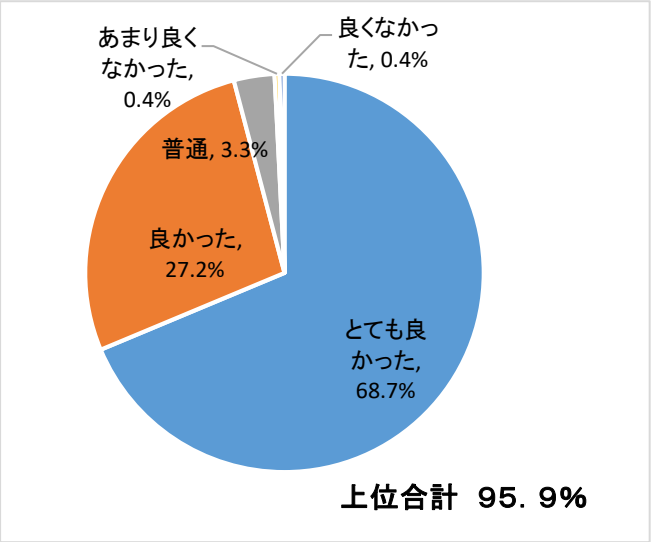
アンケート集計結果

開催期間：平成30年7月14日～8月26日(40日間)
回答者数：770人　入場者数：45,175人　回収率：1.70%

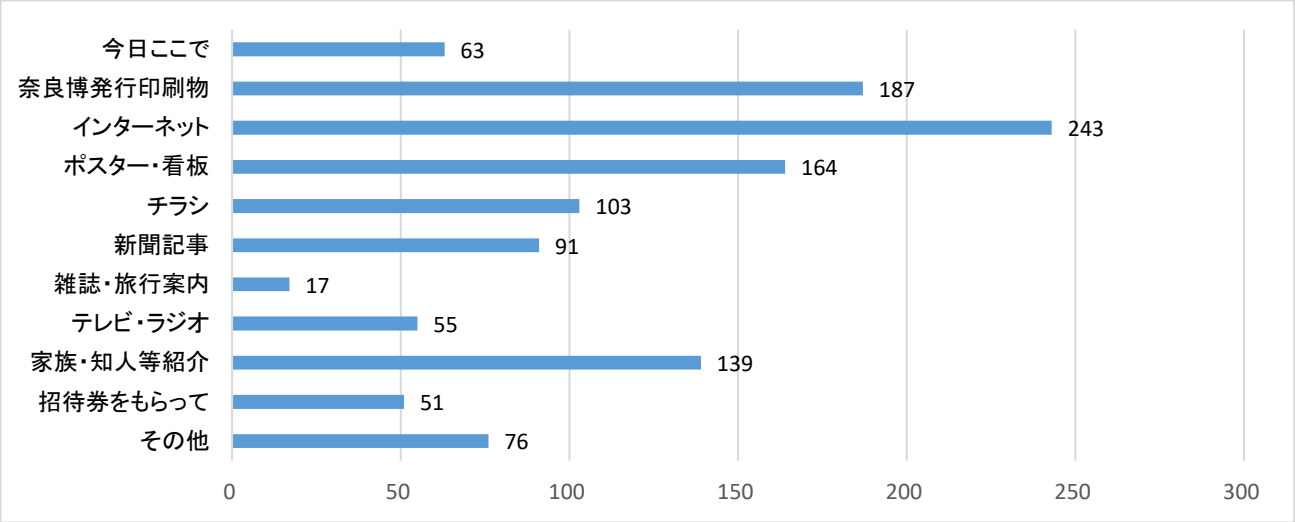
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



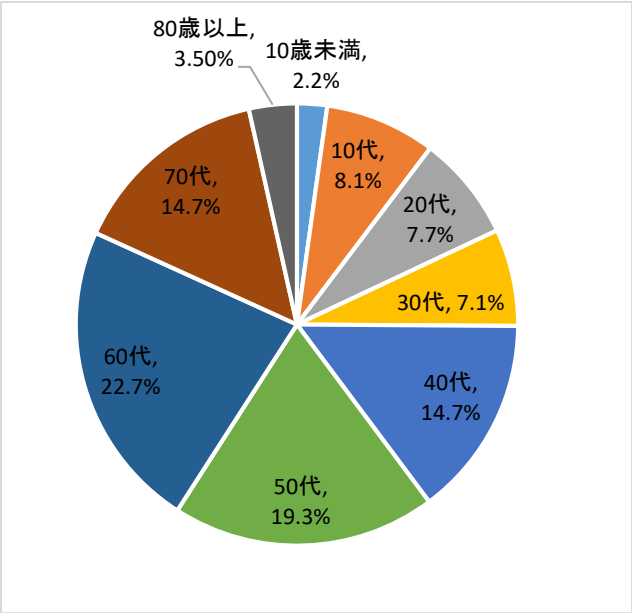
④主な意見・感想

・繍仏を扱った展示そのものが珍しく、非常に興味深かった。
・暗くて細部が見えなかった。
・作品とガラスの距離が近く、とても近くで見られてよかった。
・刺繍の技法を動画で見られるコーナーがわかりやすかった。
・作品だけではなく、映像コーナーやはたおり機もあり、作者や職人目線でも見られて良かった。
・夜間開館はありがたかった。ゆっくり観ることができた。

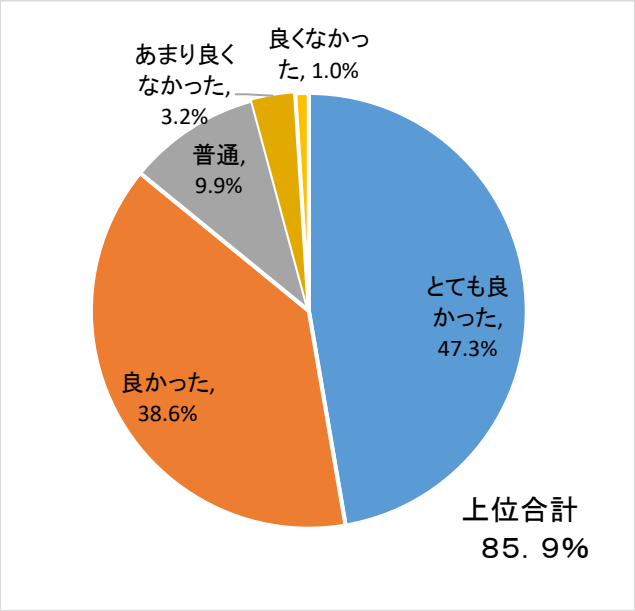
第70回正倉院展
アンケート集計結果

開催期間：平成30年10月27日～11月12日(17日間)
回答者数：1,041人　入場者数：245,832人　回収率：　0.42%

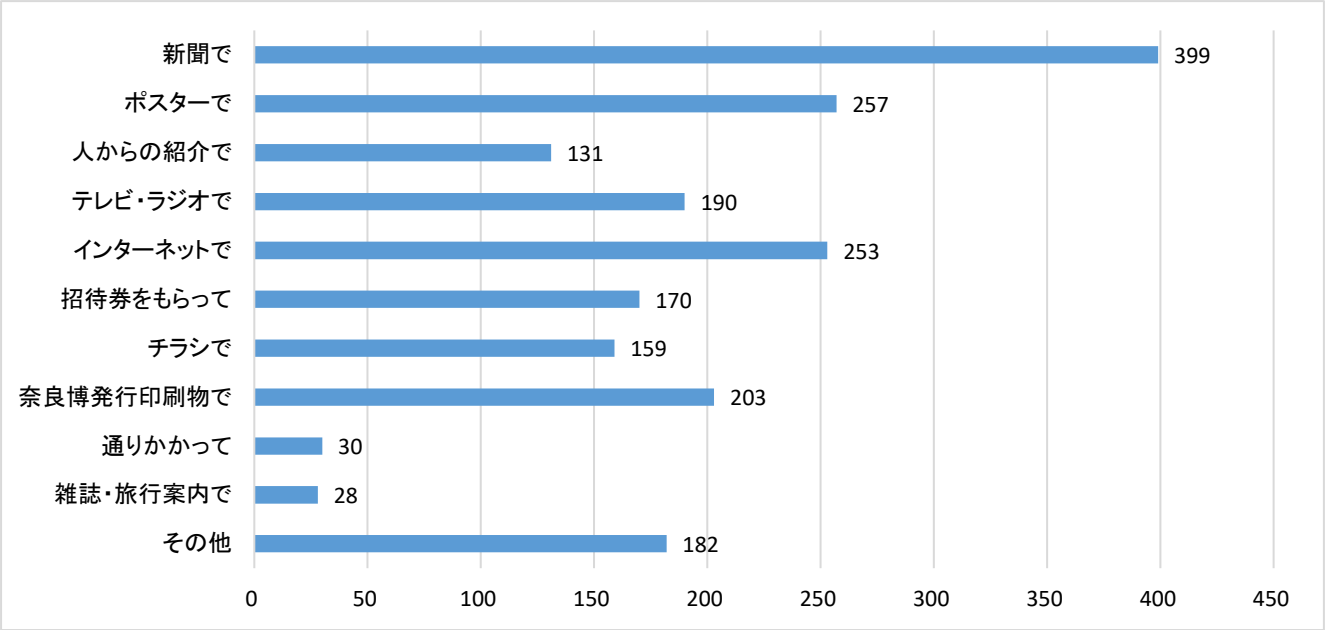
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



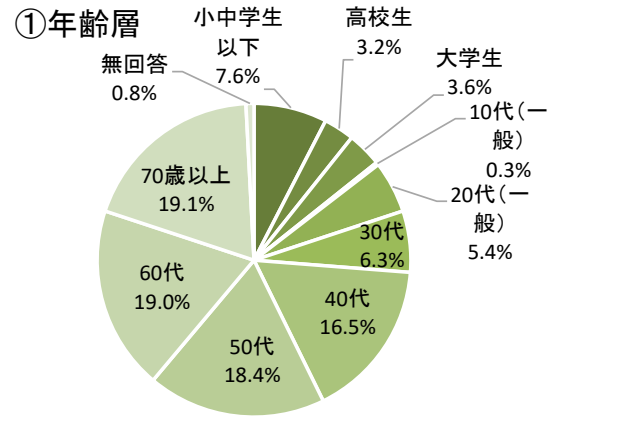
④主な意見・感想

・説明文が簡潔でわかりやすかった。
・華のある展示が多くて見応えがあった。
・復元図、想像図等の併せての展示をより多くお願いします。
・列を作って並んでいても、途中から割り込む人が多かった。
・日本の文化が好きなら一度は見ておかないと、と思える素晴らしい展示。今後も守り伝えてください。

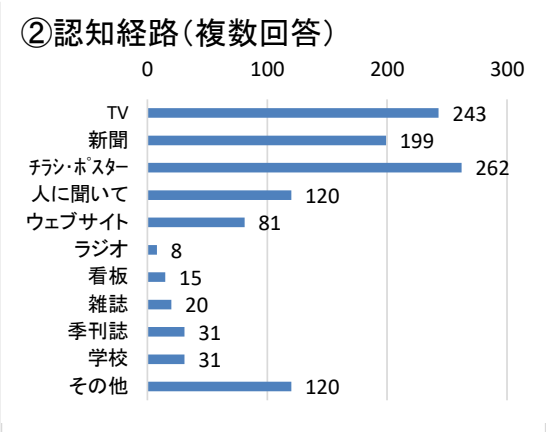
特別展「王羲之と日本の書」
アンケート集計結果

開催期間：平成30年2月10日（土）～4月8日（日）（50日間）
総回答者数：728人（総来館者数：70,110人　アンケート回収率：1.04%）

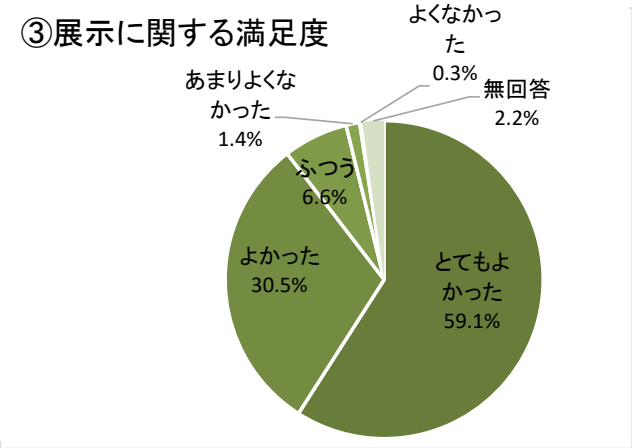
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
８９．６％

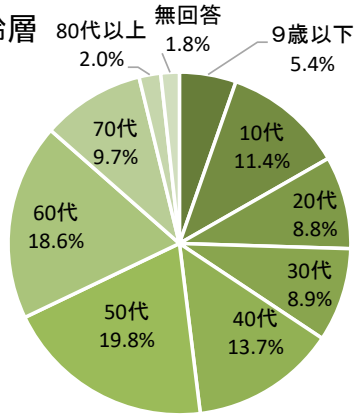
④主な意見・感想

・九州で三筆、三跡の直筆を見られる機会はそう無いので貴重な展覧会だと感じた。空海の書の精緻さが特に印象に残った。
・書というものの考え方が変わった。
・非常によかった！内容の充実、パネルのわかりやすさ、解説のていねいさ、図録も美しい！
・手で書けるコーナー、筆圧のさわれるコーナーはとてもよかった。よくこれだけの作品が集められているなと。見にきてよかった。
・書は「意味を読めなくてもいいのです」という入り口の説明のおかげで、肩に力を入れずに見ることができた。
・楽しみま書！をリーフレットなどで持ち帰れるとうれしいです。パネルだけは撮影OKとかもありがたい。
・途中に休めるスペースがもう少し欲しい。展示物が多く、長時間の鑑賞はとても疲れる為。

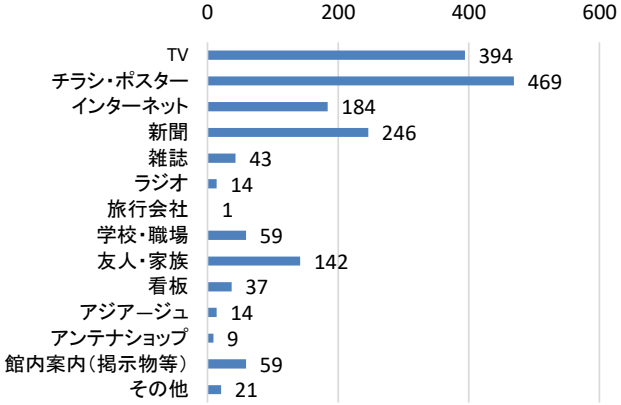
特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」
アンケート集計結果

開催期間：5月19日（土）～7月16日（月・祝）（54日間）　＊7/7は豪雨のため休館
総回答者数：1,038人（総来館者数：198,489人　アンケート回収率：0.52%＊外国語版回答数を含む）

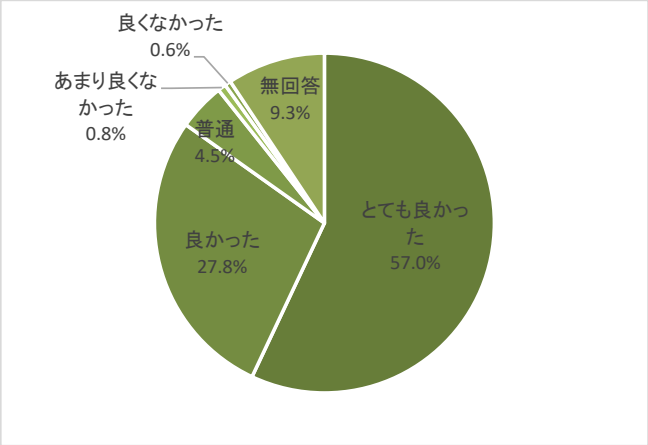
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
８４．８％

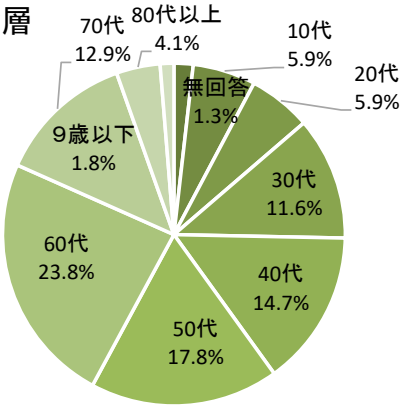
④主な意見・感想

・絵画は今まで何度か見てきましたが、今回が一番おもしろかった。あまりくわしくはないが、作者の生い立ちが付けてあったので、どんな人がどこでかいたのか、背景まで分かり、初心者でも楽しめた。
・素晴らしい作品の数々に感動した。こういう作品が外国に行かず日本（特に九州）で見れることが嬉しい。
・今回は休めるイスも結構あり、楽しく観ることが出来た。
・海外から来場された方用の、中国語や韓国語での表示がとても好印象だった。グッズが充実していてよかった。
・ジュニア用音声ガイドは、子供が興味をもつきっかけになって、とてもよかった。親もゆっくり鑑賞できた。
・解説文をもう少し大きく書いてほしい。
・写真撮影出来るのはうれしいが、じっくり見られないのが残念。

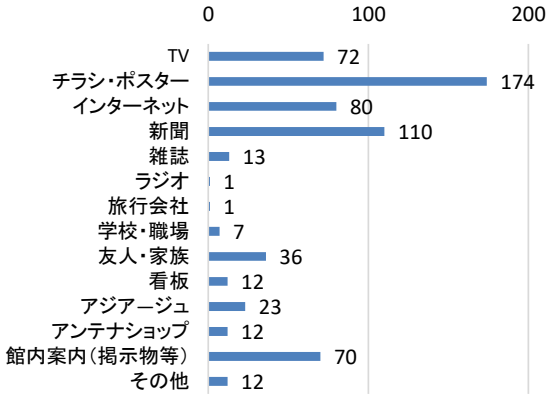
明治150年記念 特別展 オークラ コレクション
アンケート集計結果

開催期間：10月2日(土)～12月9日(日(58日間) ＊10/6は台風のため休館
総回答者数：393人(総来館者数：63,069人 アンケート回収率：0.62% ＊外国語版回答数を含む)

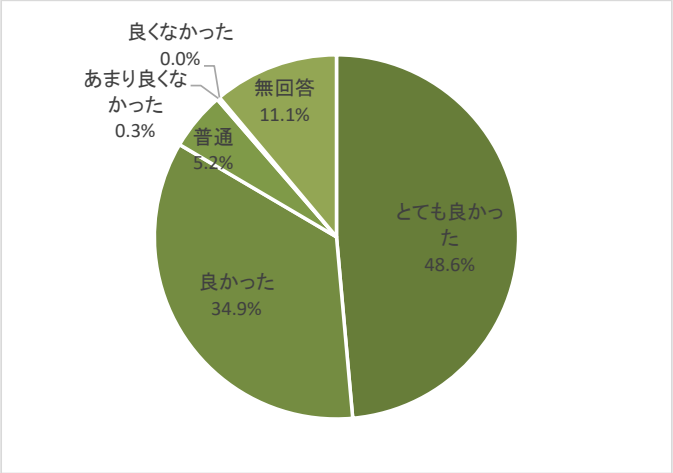
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



上位合計
８３．５％

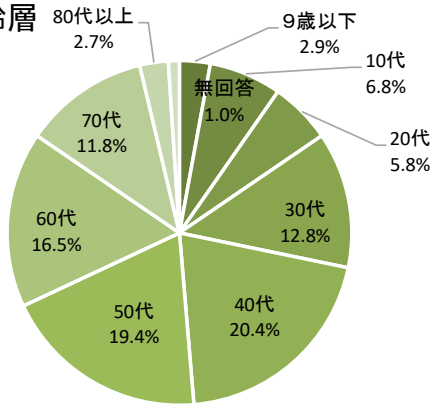
④主な意見・感想

・10/13の講演会が本当に素晴らしかった。作品を拝見する前に時代や社会を知る必要をずっと感じて、わかりやすく中身が濃くて感動しました。
・(模倣品の)かまきりを触れるのがおもしろかった。
・どの作品もクオリティが高く又、保存・修繕具合も良好で、良いものを見せていただいたと思う。
・「洞窟の頼朝」は教科書で見たことがあり、実際に見れてよかった。
・横山大観の夜桜が迫力があり、印象に残った。
・仏教美術が豊富で見ごたえがあり、保存状態の良いものが多く、色彩や装飾が細やかなのが分かりやすかった。
・展示レイアウトがよかった。
・展示の入れ替えをもっとインターネットサイトで告知してほしい。
・解説文の文字が小さすぎ、特に作者名などガラスに近づかないと見えづらい。

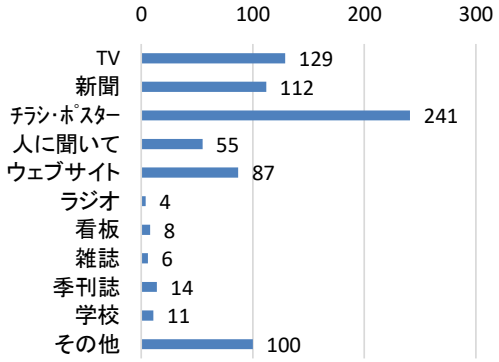
特別展「京都・醍醐寺－真言密教の宇宙－」
アンケート集計結果

開催期間：平成31年1月29日（火）～3月24日（日）（48日間）

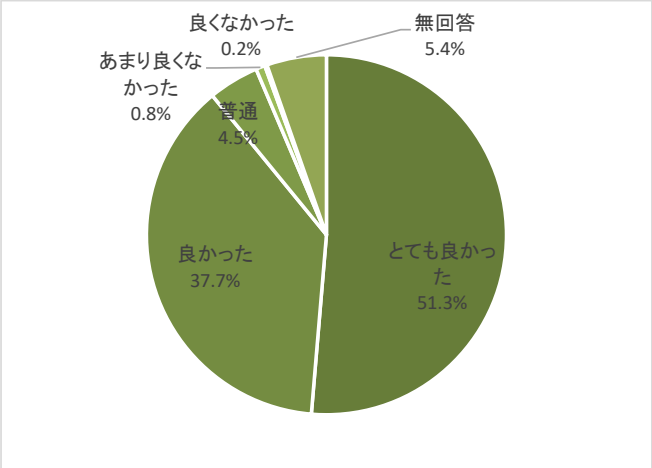
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



上位合計
８９．０％

④主な意見・感想

・醍醐の花見を味合えるような会場のレイアウトなど、楽しく見れた。
・解説パネル「教えて不動明王さん」が、より一層理解と興味を深める一助けとなったと思う。解説が分かりやすかった。
・薬師如来さまの展示スペースにイスがあり、ゆっくりみられてとてもよかった。
・京都まで行かずに醍醐寺を勉強できて良かった。
・夜間開館は観覧者が通常時より少なく、自分のペースでゆっくり見られるので良い。また利用したい。
・仏教の世界を分かりやすく解説されていたので、身近に感じる事ができた。
・普段はあまり考えない仏教（密教）について考えることができた。それまでの仏教との違い等が分かり大変有意義だった。
・音声ガイドの解説が細かく良かった。仏像大使の２人のトークも良かった。
・解説文は専門用語の説明がなく、理解しにくい。
・子供用の音声ガイドがあったらよかったなと思う。